

2019年度 経営学部 講義概要（シラバス）



法政大学

科目一覧

最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

専門入門科目 100 番台	[A4001]	組織論入門 [小川 憲彦]	春学期授業/Spring	1
専門入門科目 100 番台	[A4002]	組織論入門 [佐野 嘉秀]	秋学期授業/Fall	2
専門入門科目 100 番台	[A4003]	組織論入門 [橋本 諭]	春学期授業/Spring	3
専門入門科目 100 番台	[A4005]	戦略論入門 [近能 善範]	春学期授業/Spring	4
専門入門科目 100 番台	[A4007]	戦略論入門 [李 瑞雪]	春学期授業/Spring	5
専門入門科目 100 番台	[A4009]	マーケティング入門 [宮井 弘之]	春学期授業/Spring	6
専門入門科目 100 番台	[A4011]	マーケティング入門 [長谷川 翔平]	春学期授業/Spring	7
専門入門科目 100 番台	[A4013]	ファイナンス入門 [山崎 輝]	春学期授業/Spring	8
専門入門科目 100 番台	[A4015]	ファイナンス入門 [金 塔晋]	秋学期授業/Fall	9
専門入門科目 100 番台	[A4016]	経済学入門 [高橋 理香, 大木 良子]	春学期授業/Spring	10
専門入門科目 100 番台	[A4017]	経済学入門 [大木 良子, 高橋 理香]	春学期授業/Spring	12
専門入門科目 100 番台	[A4018]	経済学入門 [宮澤 信二郎, 藤澤 利治]	秋学期授業/Fall	14
専門入門科目 100 番台	[A4019]	経済学入門 [藤澤 利治, 宮澤 信二郎]	秋学期授業/Fall	16
専門入門科目 100 番台	[A4020]	統計学入門 [猪狩 良介]	春学期授業/Spring	18
専門入門科目 100 番台	[A4022]	統計学入門 [高橋 慎]	春学期授業/Spring	19
専門入門科目 100 番台	[A4024]	簿記入門Ⅰ (2019 年度以降入学者) [大下 勇二]	春学期授業/Spring	20
専門入門科目 100 番台	[A4026]	簿記入門Ⅰ [川島 健司]	春学期授業/Spring	22
専門入門科目 100 番台	[A4028]	簿記入門Ⅰ [高橋 美穂子]	春学期授業/Spring	24
専門入門科目 100 番台	[A4030]	簿記入門Ⅰ [北田 皓嗣]	春学期授業/Spring	25
	[A4032]	経営学総論Ⅰ (2016~2018 年度入学者) [木村 純子]	春学期授業/Spring	26
	[A4038]	ミクロ経済学入門Ⅰ (2016~2018 年度入学者) [林 直嗣]	春学期授業/Spring	28
専門入門科目 100 番台		情報学入門Ⅰ/Ⅱ (2019 年度以降入学者)・情報科学実習Ⅰ/Ⅱ (2018 年度以前入学者) []		29
専門入門科目 100 番台	[A4041]	情報学入門Ⅰ (表計算) (2019 年度以降入学者) [根岸 良征]	春学期授業/Spring	30
専門入門科目 100 番台	[A4065]	情報学入門Ⅰ (データ演習) (2019 年度以降入学者) [児玉 靖司]	春学期授業/Spring	32
専門入門科目 100 番台	[A4105]	情報学入門Ⅰ (データベース) (2019 年度以降入学者) [渡辺 英人]	春学期授業/Spring	34
専門入門科目 100 番台	[A4109]	情報学入門Ⅰ (空間情報処理) (2019 年度以降入学者) [小寺 浩二]	春学期授業/Spring	36
専門入門科目 100 番台	[A4113]	情報学入門Ⅰ (空間情報処理) (2019 年度以降入学者) [永保 敏伸]	春学期授業/Spring	38
専門入門科目 100 番台	[A4115]	情報学入門Ⅰ (メディア情報処理) (2019 年度以降入学者) [築城 厚三]	春学期授業/Spring	40
専門入門科目 100 番台	[A4117]	情報学入門Ⅰ (言語データ処理) (2019 年度以降入学者) [石川 潔]	春学期授業/Spring	42
	[A4351]	会計学入門Ⅰ [筒井 知彦]	春学期授業/Spring	43
	[A4353]	会計学入門Ⅰ [坂上 学]	春学期授業/Spring	45
	[A4355]	会計学入門Ⅰ [川島 健司]	春学期授業/Spring	46
	[A4357]	経営管理論Ⅰ [稲垣 保弘]	春学期授業/Spring	48
	[A4361]	経営戦略論Ⅰ [吉田 健二]	春学期授業/Spring	49
	[A4363]	経営戦略論Ⅰ [李 瑞雪]	春学期授業/Spring	50
	[A4365]	基礎統計学Ⅰ [高橋 慎]	春学期授業/Spring	51
	[A4367]	基礎統計学Ⅰ [猪狩 良介]	春学期授業/Spring	53
	[A4373]	マーケティング論Ⅰ [長谷川 翔平]	春学期授業/Spring	54
	[A4375]	マーケティング論Ⅰ [宮井 弘之]	春学期授業/Spring	55
	[A4377]	金融論Ⅰ [林 直嗣]	春学期授業/Spring	56
	[A4401]	経営組織論Ⅰ [長岡 健]	春学期授業/Spring	58
	[A4403]	組織マネジメント論Ⅰ [永山 晋]	春学期授業/Spring	60
	[A4405]	経営情報論Ⅰ [岸 真理子]	春学期授業/Spring	61
	[A4407]	経営社会学Ⅰ [佐野 哲]	春学期授業/Spring	62
	[A4409]	組織経済学Ⅰ [奥西 好夫]	秋学期授業/Fall	64
	[A4411]	組織行動論Ⅰ [西川 真規子]	春学期授業/Spring	65
	[A4413]	人的資源管理Ⅰ [佐野 嘉秀]	春学期授業/Spring	66
	[A4415]	情報と倫理 [寺本 卓史]	春学期授業/Spring	67
	[A4416]	情報と職業 [寺本 卓史]	秋学期授業/Fall	68
	[A4417]	財務会計論Ⅰ [川島 健司]	春学期授業/Spring	69
	[A4419]	監査論Ⅰ [坂上 学]	春学期授業/Spring	71
	[A4421]	税務会計論Ⅰ [大下 勇二]	春学期授業/Spring	72

【A4423】	管理会計論Ⅰ	〔北田 皓嗣〕	春学期授業/Spring	74
【A4425】	原価計算論Ⅰ	〔平井 裕久〕	春学期授業/Spring	75
【A4426】	原価計算論Ⅱ	〔福田 淳児〕	秋学期授業/Fall	76
【A4427】	国際会計論Ⅰ	〔筒井 知彦〕	春学期授業/Spring	77
【A4451】	国際経営戦略論Ⅰ	〔笠原 民子〕	春学期授業/Spring	78
【A4453】	国際経営論Ⅰ	〔洞口 治夫〕	春学期授業/Spring	79
【A4455】	戦略的意思決定論Ⅰ	〔福島 英史〕	春学期授業/Spring	81
【A4457】	日本経営史Ⅰ	〔二階堂 行宣〕	春学期授業/Spring	82
【A4459】	中小企業論Ⅰ	〔鹿住 倫世〕	春学期授業/Spring	84
【A4461】	日本経済論Ⅰ	〔平田 英明〕	春学期授業/Spring	86
【A4463】	国際経済論Ⅰ	〔檜野 智子〕	春学期授業/Spring	88
【A4465】	国際金融論Ⅰ	〔郡司 大志〕	春学期授業/Spring	89
【A4467】	産業史Ⅰ	〔藤澤 利治〕	春学期授業/Spring	90
【A4469】	経営分析Ⅰ	〔高橋 美穂子〕	春学期授業/Spring	92
【A4471】	経営分析Ⅲ	〔福多 裕志〕	春学期授業/Spring	93
【A4473】	統計学Ⅰ	〔猪狩 良介〕	春学期授業/Spring	95
【A4475】	システム管理論Ⅰ	〔児玉 靖司〕	春学期授業/Spring	96
【A4501】	日本経営論Ⅰ	〔金 容度〕	春学期授業/Spring	97
【A4503】	流通論Ⅰ	〔横山 斉理〕	春学期授業/Spring	99
【A4505】	消費者行動論Ⅰ	〔新倉 貴士〕	春学期授業/Spring	100
【A4507】	マーケティング・リサーチⅠ	〔西川 英彦〕	春学期授業/Spring	102
【A4509】	サービス・マネジメント論Ⅰ	〔木村 純子〕	春学期授業/Spring	104
【A4511】	製品開発論Ⅰ	〔山崎 泰明〕	春学期授業/Spring	105
【A4513】	技術管理論Ⅰ	〔溝部 陽司〕	春学期授業/Spring	106
【A4515】	産業組織論Ⅰ	〔大木 良子〕	春学期授業/Spring	107
【A4517】	非営利組織経営論Ⅰ	〔湧口 清隆〕	春学期授業/Spring	108
【A4519】	応用経済学Ⅰ	〔宮澤 信二郎〕	春学期授業/Spring	110
【A4521】	ファイナンス論Ⅰ	〔山崎 輝〕	春学期授業/Spring	112
【A4523】	企業財務論Ⅰ	〔金 瑠晋〕	春学期授業/Spring	114
【A4525】	証券経済論Ⅰ	〔清水 正人〕	春学期授業/Spring	116
【A4526】	証券経済論Ⅱ	〔岸本 直樹〕	秋学期授業/Fall	117
【A4527】	財政論Ⅰ	〔徐 一睿〕	春学期授業/Spring	118
【A4529】	情報技術論Ⅰ	〔入戸野 健〕	春学期授業/Spring	119
【A4581】	ビジネス英語Ⅰ（初級）	〔ジョナサン・エーブル〕	春学期授業/Spring	120
【A4583】	ビジネス英語Ⅰ（中級）	〔ジョナサン・エーブル〕	春学期授業/Spring	121
【A4601】	キャリア・マネジメントⅠ	〔小川 憲彦〕	春学期授業/Spring	122
【A4603】	検定会計Ⅰ	〔石山 宏〕	春学期授業/Spring	123
【A4605】	インターンシップⅠ	〔小林 健一〕	秋学期授業/Fall	124
演習 【A4623】	入門演習（2019年度以降入学者）	〔稲垣 保弘〕	春学期授業/Spring	125
演習 【A4622】	入門演習（2019年度以降入学者）	〔大下 勇二〕	春学期授業/Spring	126
演習 【A4621】	入門演習（2019年度以降入学者）	〔小林 健一〕	秋学期授業/Fall	127
演習 【A4626】	入門演習（2019年度以降入学者）	〔筒井 知彦〕	春学期授業/Spring	128
演習 【A4627】	入門演習（2019年度以降入学者）	〔二階堂 行宣〕	春学期授業/Spring	129
演習 【A4628】	入門演習（2019年度以降入学者）	〔藤澤 利治〕	春学期授業/Spring	130
演習 【A4625】	入門演習（2019年度以降入学者）	〔宮澤 信二郎〕	春学期授業/Spring	131
演習 【A4624】	入門演習（2019年度以降入学者）	〔山崎 輝〕	秋学期授業/Fall	132
【A4701】	演習Ⅰ〔安藤 直紀（代講：笠原 民子）〕		春学期授業/Spring	133
【A4707】	演習Ⅰ〔猪狩 良介〕		春学期授業/Spring	135
【A4713】	演習Ⅰ〔池田 宏一郎〕		春学期授業/Spring	137
【A4719】	演習Ⅰ〔稲垣 京輔（代講：落合 康裕）〕		春学期授業/Spring	139
【A4725】	演習Ⅰ〔稲垣 保弘〕		春学期授業/Spring	141
【A4731】	演習Ⅰ〔大木 良子〕		春学期授業/Spring	143
【A4737】	演習Ⅰ〔大下 勇二〕		春学期授業/Spring	145
【A4743】	演習Ⅰ〔小川 孔輔〕		春学期授業/Spring	147
【A4749】	演習Ⅰ〔小川 憲彦〕		春学期授業/Spring	149
【A4755】	演習Ⅰ〔奥西 好夫〕		春学期授業/Spring	151
【A4761】	演習Ⅰ〔神谷 健司〕		春学期授業/Spring	153

【A4767】	演習 1	【川島 健司】	春学期授業/Spring	155
【A4773】	演習 1	【河内谷 幸子】	春学期授業/Spring	157
【A4779】	演習 1	【岸 眞理子】	春学期授業/Spring	159
【A4785】	演習 1	【岸本 直樹 (春学期代講：明田 雅昭)】	春学期授業/Spring	161
【A4791】	演習 1	【北田 皓嗣】	春学期授業/Spring	163
【A4797】	演習 1	【木原 章】	春学期授業/Spring	164
【A4803】	演習 1	【金 瑤晋】	春学期授業/Spring	166
【A4809】	演習 1	【金 容度】	春学期授業/Spring	168
【A4815】	演習 1	【木村 純子】	春学期授業/Spring	170
【A4821】	演習 1	【倉田 俊彦】	春学期授業/Spring	172
【A4827】	演習 1	【児玉 靖司】	春学期授業/Spring	174
【A4833】	演習 1	【近能 善範】	春学期授業/Spring	176
【A4839】	演習 1	【坂上 学】	春学期授業/Spring	178
【A4845】	演習 1	【佐野 哲】	春学期授業/Spring	180
【A4851】	演習 1	【佐野 嘉秀】	春学期授業/Spring	182
【A4857】	演習 1	【高橋 慎】	春学期授業/Spring	184
【A4863】	演習 1	【高橋 美穂子】	春学期授業/Spring	186
【A4869】	演習 1	【高橋 理香】	春学期授業/Spring	188
【A4875】	演習 1	【竹内 淑恵 (代講：石田 実)】	春学期授業/Spring	190
【A4881】	演習 1	【筒井 知彦】	春学期授業/Spring	192
【A4887】	演習 1	【長岡 健】	春学期授業/Spring	194
【A4893】	演習 1	【永山 晋】	春学期授業/Spring	196
【A4899】	演習 1	【新倉 貴士】	春学期授業/Spring	198
【A4905】	演習 1	【二階堂 行宣】	春学期授業/Spring	200
【A4911】	演習 1	【西川 英彦】	春学期授業/Spring	202
【A4917】	演習 1	【西川 真規子】	春学期授業/Spring	204
【A4923】	演習 1	【入戸野 健】	春学期授業/Spring	206
【A4929】	演習 1	【長谷川 翔平】	春学期授業/Spring	208
【A4935】	演習 1	【林 直嗣】	春学期授業/Spring	210
【A4941】	演習 1	【平田 英明】	春学期授業/Spring	212
【A4947】	演習 1	【福島 英史】	春学期授業/Spring	214
【A4953】	演習 1	【福田 淳児 (春学期代講：長谷川 恵一)】	春学期授業/Spring	216
【A4959】	演習 1	【福多 裕志】	春学期授業/Spring	218
【A4965】	演習 1	【藤澤 利治】	春学期授業/Spring	220
【A4971】	演習 1	【藤村 博之】	春学期授業/Spring	222
【A4977】	演習 1	【洞口 治夫】	春学期授業/Spring	224
【A4983】	演習 1	【宮澤 信二郎】	春学期授業/Spring	226
【A4989】	演習 1	【山崎 輝】	春学期授業/Spring	228
【A4995】	演習 1	【横内 正雄 (代講：二階堂 有子)】	春学期授業/Spring	230
【A5001】	演習 1	【横山 斉理】	春学期授業/Spring	232
【A5007】	演習 1	【吉田 健二】	春学期授業/Spring	234
【A5013】	演習 1	【吉田 康伸】	春学期授業/Spring	236
【A5019】	演習 1	【李 瑞雪】	春学期授業/Spring	238
【A5201】	プログラミング言語 I (C 言語) (2019 年度以降入学者)	【寺脇 由紀】	春学期授業/Spring	240
【A5205】	プログラミング言語 I (JAVA) (2019 年度以降入学者)	【飯塚 康至】	春学期授業/Spring	242
【A5207】	プログラミング言語 I (JAVA) (2019 年度以降入学者)	【神林 靖】	春学期授業/Spring	244
【A5209】	プログラミング言語 I (VBA) (2019 年度以降入学者)	【高田 美樹】	春学期授業/Spring	246
【A5211】	プログラミング言語 I (スクリプト言語) (2019 年度以降入学者)	【入戸野 健】	春学期授業/Spring	247
【A5246】	応用プログラミング I (2016～2017 年度入学者)	【長原 徹】	春学期授業/Spring	248
【A5248】	応用プログラミング I (2016～2017 年度入学者)	【中平 千彦】	春学期授業/Spring	249
【A5252】	データ処理論 I (データベース) (2018 年度入学者)	【木村 昌史】	春学期授業/Spring	251
【A5256】	データ処理論 I (データベース) (2018 年度入学者)	【三宅 修平】	春学期授業/Spring	253
【A5260】	データ処理論 I (CG) (2018 年度入学者)	【飯塚 康至】	春学期授業/Spring	255
【A5262】	データ処理論 I (プレゼンテーション) (2018 年度入学者)	【江島 夏実】	春学期授業/Spring	257
【A5264】	データ処理論 I (プレゼンテーション) (2018 年度入学者)	【上野 京子】	春学期授業/Spring	259
【A5266】	データ処理論 I (空間情報システム) (2018 年度入学者)	【沼尻 治樹】	春学期授業/Spring	261
【A5292】	ネットワーク論 I (通信ネットワーク) (2018 年度入学者)	【飯塚 康至】	春学期授業/Spring	262

【A5294】 ネットワーク論Ⅰ（通信ネットワーク）（2018年度入学者）[入戸野 健] 春学期授業/Spring	263
【A5298】 ネットワーク論Ⅰ（ホームページ）（2018年度入学者）[上野 京子] 春学期授業/Spring	265
【A5300】 ネットワーク論Ⅰ（ホームページ）（2018年度入学者）[高田 美樹] 春学期授業/Spring	266
【A5351】 民法 [松田 佳久] 年間授業/Yearly	267
【A5352】 会社法 [金澤 大祐] 年間授業/Yearly	268
【A5401】 広告論 [小林 健一] オータムセッション/Autumn Session	269
【A5402】 問題解決技法入門 [三澤 一文] 春学期授業/Spring	270
【A5403】 戦略的マーケティング [岡本 慶子] 春学期授業/Spring	271
【A5404】 グローバル・ファッションビジネス [岡本 慶子] 秋学期授業/Fall	272
【A5405】 ものづくり経営論 [三澤 一文] 秋学期授業/Fall	273
【A5407】 Skills for SA [Allyson MacKenzie] 春学期授業/Spring	274
【A5408】 Social Responsibility in the Digital Economy 春学期授業/Spring	275
【A5409】 Social Responsibility for Environmental Sustainability 春学期授業/Spring	276
【A5410】 Case Studies in International Marketing 春学期授業/Spring	277
【A5411】 International Trade Regimes 春学期授業/Spring	278
【A5412】 寄附講座・資本主義の役割と証券投資 [山口 しのぶ] 秋学期授業/Fall	279
【A5413】 国際経済協力論Ⅰ [武貞 稔彦] 春学期授業/Spring	280
【A5414】 国際経済協力論Ⅱ [武貞 稔彦] 春学期授業/Spring	281
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A5573】 入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[大木 良子] 春学期授業/Spring	282
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A5576】 入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[岡本 慶子] 秋学期授業/Fall	283
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A5579】 入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[岡本 利光] 春学期授業/Spring	284
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A5569】 入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[佐々木 博之] 春学期授業/Spring	285
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A5575】 入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[高橋 理香] 春学期授業/Spring	287
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A5567】 入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[永山 晋] 春学期授業/Spring	288
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A5565】 入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[檜野 智子] 春学期授業/Spring	289
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A5568】 入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[平田 英明] 秋学期授業/Fall	290
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A5578】 入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[福島 英史] 春学期授業/Spring	292
グローバル・ビジネス/GBP 科目 【A5561】 入門外国語経営学（2019年度以降入学者）[福多 裕志] 春学期授業/Spring	293

MAN100FA-A4001

組織論入門

専門入門科目 100 番台

1 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

小川 憲彦

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の企業経営は組織によって成り立っています。ヒト・モノ・カネ・情報といった経営資源を経営目標の達成に向けて上手く活用するためには組織の力が不可欠です。組織、ここでは特にヒトの労働力を統合し、方向づけ、活用する仕組みとその過程について、基本的な知識を学びます。

【到達目標】

大まかに言えば、組織論がどのような学問であるのかを学びます。そのためには経営学という学問体系の中で、それがどのような位置づけにあるのか知る必要があります。つまり他の専門領域との関係の中で組織論はどのような領域なのかを知ってほしいと思います。また、その歴史的な発展の流れについて学びながら、組織論の基本的な用語についても知ってほしいと思います。これらは経営学のイロハでもあります。

具体的には以下を目標とします。

- ①経営学の中で組織論がどのような位置づけにある領域か説明できること
- ②組織論の歴史的発展の流れが説明できること
- ③組織論における二つのアプローチについて説明できること
- ④組織論の基本的な概念の意味が説明できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義が基本になりますが、理解を促すため、具体的な事例などについてお互いに意見交換等ができる場を設けたいと思います。また質問などをくみ取りながら進めるためリアクション・ペーパーを求めたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期および秋学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義概要や参加要件について
第 2 回	経営学と組織論	経営学はどんな学問か、その中の組織論はどんな領域か
第 3 回	組織とは何か	組織の定義について
第 4 回	組織構造	官僚制、有機的組織、マトリクス型組織など
第 5 回	組織と外部環境、戦略	オープンシステムとしての組織と環境との関係
第 6 回	組織のライフサイクル	組織の発展過程
第 7 回	組織過程（個人①）	モチベーションの内容理論
第 8 回	組織過程（個人②）	モチベーションの過程理論
第 9 回	組織過程（集団①）	リーダーシップの古典理論
第 10 回	組織過程（集団②）	近年のリーダーシップ論
第 11 回	組織文化①	企業文化論
第 12 回	組織文化②	組織文化と適合
第 13 回	意思決定論	合理的意思決定
第 14 回	近年の組織論	ポストモダン組織論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を課すことがあります。入門科目ですから、あまり難しい事は求めません。アルバイトやニュースなどをきっかけにして、興味のある業界・会社について調べたりしながら参加すると理解が深まるでしょう。現実社会をよりよく知るための道具が理論です。現実の事例と学んだ内容がどう関連するのか、考えながら参加して下さい。

【テキスト（教科書）】

坂下昭宣 (2014) 『経営学への招待 新装版』白桃書房。

【参考書】

金井壽宏 (1999) 『経営組織—経営学入門シリーズ』日経文庫。

【成績評価の方法と基準】

提出物やディスカッション、発言等を含む平常点 50%、期末試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目のため該当せず

【その他の重要事項】

ノートを取る癖をつけて下さい。

【関連科目】

none

【Outline and objectives】

This class aims to provide students with basic knowledge and an overview of organization theory. The students who complete the course will be expected to:① have an overview of major themes, core concepts, and discussions in organization theory; ② understand where the theory could be placed in the academic system of business administration; ③ understand two major approaches in organization theory.

組織論入門

佐野 嘉秀

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織論の基礎について学習します。経営学の主な対象である企業組織が、公正かつ効果的なマネジメントを行ううえで、いかに組織を作り、人を動かすか。組織論の基礎的な概念と理論について学び、企業組織のマネジメントについて考える基礎的な視点を身につけます。

【到達目標】

- ①組織論の扱う様々な論点を理解し、これから経営学を学んでいくうえでの関心を広げる。
- ②組織論の基礎的な概念と理論を理解し、それらを用いて具体的な経営現象について議論できるようになる。
- ③2年次以降に専門演習・専門科目として学習する組織分野の科目選択を自覚的に行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

パワーポイント・板書・配布資料を用いての講義形式です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】**春学期および秋学期**

回	テーマ	内容
1	経営学の全体像と組織論の位置づけ	経営学とは何か、経営学と経済学、経営学の諸分野
2	経営学と企業組織	経営学と企業組織、システムとしての企業
3	経営学と組織研究	組織の定義、組織研究の体系
4	モチベーションの理論①	モチベーションとは何か、組織論における人間モデル
5	モチベーションの理論②	動機づけの理論、欲求段階論、内発的動機づけ
6	モチベーションの理論③	期待理論、公平理論、目標設定理論、モチベーション理論のまとめ
7	集団活動の理論①	集とは何か、集団の凝集性、所属と帰属
8	集団活動の理論②	集団の意思決定、集団浅慮、集団内コミュニケーション、集団理論のまとめ
9	リーダーシップの理論①	リーダーシップとは何か、リーダーとフォロワー、特性理論
10	リーダーシップの理論②	行動理論、コンティンジェンシー理論
11	リーダーシップの理論③	カリスマ、リーダーシップの代替物、リーダーシップ理論のまとめ
12	組織デザインの理論①	組織デザインとは何か、組織理論、組織構造
13	組織デザインの理論②	分業と効率、分業と調整、分業と権限
14	組織デザインの理論③	フラット組織、職務設計、組織デザインの理論のまとめ、授業全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から経営について関心を持ち、授業で学習した概念や理論を踏まえて新聞記事を読むなど、経営学の視点の応用に努めてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

①榎原清則『経営学入門 [上]』日本経済新聞社 (2013 年)、②田尾雅夫 (編著)『よくわかる組織論』ミネルヴァ書房 (2010 年)、③塩次喜代明・高橋伸夫・小林敏男『経営管理』有斐閣アルマ (2009 年)、④加護野忠男・吉村典久 (編著)『1 からの経営学』(2012 年)、⑤北野利信 (編)『経営学説入門』有斐閣 (1977 年) など。詳しくは授業内で適宜説明します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：100 %

期末試験を行い成績評価とします。授業で学習した内容を理解しているかを問う内容の試験問題とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当します。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布に法政大学授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

経営学部生としての 4 年間の専門科目の学習の基礎になる授業です。学習意欲をもって授業にのぞんでください。

【Outline and objectives】

Our objective is to Learn and understand basic theories of organization. Enterprise as a organization, motivation theories, theories on grope, readership theories, theories of organizational design are main areas of organizational study. Lecture is main style of this subject.

MAN100FA-A4003

組織論入門

MAN100FA-A4004

組織論入門**橋本 諭**

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織論入門は、3つの特徴があります。

1) 経営学における組織論に関する基礎的な内容を広く学習する
経営学が対象とする分野は多岐にわたります。中でも組織や人が関係する内容について初学者に向けて基礎的な内容から全体像を把握できるように体系的に学びます

2) 経営学のモノの見方を学ぶ
現実の諸現象（たとえば企業を取り巻く諸現象）を経営学ではどのように捉えるのかについて、事例を元に学びます

3) 今後の学習へのガイド
多様な分野がある経営学の中で専門とすべき内容を選択するためのガイドとなるよう、学習内容に沿って今後のキャリアを意識した情報提供を行います

また、これらを通じて主体的に考えるというマインドを身に付ける

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の3点です。

1) 組織論の基礎的な内容について、主要なキーワード、概念について説明することができる

2) 経営学としてのモノの見方を意識し、日常生活の現象を経営学の観点から説明することができる

3) その後の発展的な内容の学習につながる学習プランを作成することができる

また、これらを通じて主体的に考えるというマインドを身に付ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的には講義を中心として実施します。ただし、授業内でのインタラクションや、主体的に学習する姿勢を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期および秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	経営学とは何か（1）	企業経営とは何か： 企業を取り巻くステークホルダー
第3回	経営学とは何か（2）	株式会社： 株式会社とは何か 株主、機関
第4回	経営学とは何か（3）	現代の働き方： 採用、キャリア、転職に関する課題
第5回	組織マネジメント（1）	組織マネジメントとは： 組織をマネジメントするとはどういうことか
第6回	組織マネジメント（2）	組織マネジメントの現代的課題： 現代の企業を取り巻く課題
第7回	組織マネジメント（3）	組織文化： 組織文化は変革できるのか
第8回	組織マネジメント（4）	組織開発： 組織開発の光と闇
第9回	事例講義	現在の組織課題に関連する事例学習 （ゲスト講義の予定）
第10回	人材マネジメント（1）	人材マネジメント概要： 人材マネジメントの範囲と内容
第11回	人材マネジメント（2）	人材マネジメントの現代的課題： 人材マネジメント上の問題点とは何か
第12回	人材マネジメント（3）	リクルーティング： 就職活動と採用活動
第13回	人材マネジメント（4）	人材育成： 人材育成の現代的課題と論点
第14回	ラップアップ	前期授業の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業項目、授業内容を確認して授業に参加してください。また、授業後に該当分野に関連する事例を生活の中で探すこと、そしてそれをきっかけとした学びを深めることを期待しています。

【テキスト（教科書）】

各講義に関連した資料を配布します。資料は「授業支援システム」上に PDF ファイルにて配布します。

専門入門科目 100 番台 1 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

専門入門科目 100 番台 1 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

【参考書】

- 1) 金井壽宏（1999）『経営組織』日本経済新聞出版社。
- 2) 桑田耕太郎 田尾雅夫（2010）『組織論 補訂版』有斐閣。
- 3) 稲葉祐之 井上達彦 鈴木竜太 山下勝（2010）『キャリアで語る経営組織』有斐閣。

その他、授業と合わせて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、以下の通りとします。

定期試験：70% 小レポート：30 %

小レポート（授業内でのリアクションペーパー）については、授業項目を前提として、6 回出題します。

【学生の意見等からの気づき】

身近なテーマをもとにした内容について好評を得た。このクラスについても、時事ネタを取り入れながら進めていく

【学生が準備すべき機器他】

授業において、PC、スマートフォン、タブレットなどインターネットに接続可能なデバイスをインタラクションを行うツールとして使用します。自身のデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】

特になし

【関連科目】

なし

【Outline and objectives】

This is an introductory course designed to help you develop an understanding and awareness of organizations. This course includes three topics; Basics of business management, organizational management, human resource management. It aims to become a course leading to future advanced learning.

MAN100FA-A4005

戦略論入門

MAN100FA-A4006

戦略論入門

近能 善範

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営戦略とは、「企業が実現したいと考える目標、およびそれを実現させるために何をどのようにするのかという道筋を示す、基本的な構想や指針」のことを意味しています。この授業では、こうした経営戦略に関する基礎的な内容を、さまざまな業界の実際の事例を交えながら、なるべく分かりやすく説明していきます。

【到達目標】

経営戦略論に関わる基礎的事項の習得が、この授業の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義を中心に進めます。また、理解を助けるために、ビデオ教材を適宜取り入れます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期および秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンス、自己紹介、戦略に関するショートストーリー
第 2 回	経営学とは何か、何を学ぶのか	経営学とは何か、何を学ぶのか、経営学の中での経営戦略論の位置づけ
第 3 回	経営戦略論とは何か、何を学ぶのか	経営戦略の定義、戦略の三段階
第 4 回	競争戦略論 (1)	3C 分析および SWOT 分析と、その考え方
第 5 回	競争戦略論 (2)	競争優位とは何か、コスト優位と差別化優位、イノベーション、市場範囲（フォーカス）
第 6 回	成長戦略	アンゾフの成長ベクトルと事例
第 7 回	全社戦略	ドメインおよびプロダクト・ポートフォリオ・マネジメントと事例
第 8 回	ICT と戦略 (1)	コスト優位、差別化優位、ビジネスモデルと ICT
第 9 回	ICT と戦略 (2)	知識マネジメント、ビッグデータ、プラットフォーム戦略と ICT
第 10 回	国際展開と戦略	グローバル戦略の二軸：グローバル統合とローカル適応
第 11 回	M&A、提携と戦略	M&A とは何か、提携とは何か、それらの戦略との関わり
第 12 回	スタートアップ企業と戦略	スタートアップ企業の戦略、リーン・スタートアップ
第 13 回	戦略の実行	戦略の実行、創発的戦略、Strategy as Practice
第 14 回	まとめ	これまでの学習のまとめ、戦略論のフロンティア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特に求めませんが、毎回の授業の後、次の授業までの間に、配布資料やノート、テキストの該当箇所等を読み直し、復習を行うことが求められます。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

- ・沼上幹 (2008). 『わかりやすいマーケティング戦略（新版）』、有斐閣。
- ・青島矢一・加藤俊彦 (2003). 『競争戦略論』、東洋経済新報社。

【成績評価の方法と基準】

- (1) ビデオ感想 (10 点満点) + 期末試験 (90 点満点) の総合計に基づいて評価します。
- (2) なお、期末試験を受けなかった場合は成績を「E」とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度からの新科目につき、未だ授業改善アンケートを実施したことはありません。

【学生が準備すべき機器他】

事前配布資料は、原則として法政大学授業支援システムを通じて行う予定です。受講者は、予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

専門入門科目 100 番台 1 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

専門入門科目 100 番台 1 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

【その他の重要事項】

- (1) 授業中の私語や携帯電話の使用、黒板等の写真撮影は、他の学生に迷惑がかかるので厳禁です。2 回以上注意しても直らない場合、教室から退出していただきます。
- (2) 授業中の迷惑行為が目に見える場合には、本授業の単位を付与しません。

【関連科目】

関連科目は、経営戦略論 I / II、経営管理論 I / II、マーケティング論 I / II、戦略的意思決定論 I / II、技術管理論 I / II、製品開発論 I / II、国際経営戦略論 I / II、中小企業論 I / II、日本経営論 I / II、経営情報論 I / II などです。

【Outline and objectives】

Management strategy means basic schemes and guidelines indicating targets that a company aims at and a roadmap for the achievement thereof. In this class, basic knowledge on management strategy is explained as easily as possible with concrete examples from various industries.

The goal is to understand the basics on management strategy theory.

MAN100FA-A4007

戦略論入門

MAN100FA-A4008

戦略論入門

李 瑞雪

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、経営学における中核的科目の一つである経営戦略論の入門的講義です。2年生以降の専門科目の勉強に備え、企業の経営戦略にかかわる基礎的な概念や理論を学ぶことが主たる目的です。

【到達目標】

企業の経営戦略を検討する際に必要不可欠な用語・概念の意味を把握し、戦略論の基盤たる理論やフレームワークに依拠して企業の戦略的意思決定と戦略的行動を理解する能力を持ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ある程度大人数となることが予想されるため、基本的には講義方式で行いますが、講義中で具体的なケースを用いた作業（小レポート、ディスカッションなど）を適宜行う予定です。事前に講義資料を授業支援システムにアップロードし予習を求めます。質問や発言等は講義中にも随時受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経営戦略の概念と体系、構成要素など。
2	多角化	製品・市場マトリックス、多角化戦略、シナジー効果、範囲の経済性
3	経営戦略と経営資源	経営資源、コア・コンピタンス、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント、プロダクト・ライフ・サイクル
4	競争戦略と競争優位	一般戦略、ファイ・フォース・モデル、ポジショニング、バリエーション、戦略フィット
5	資源ベースの戦略	リソース・ベースと・ビュー、VRIO、知識マネジメント
6	経営戦略と経営組織	「組織は組織に従う」の命題、構造・プロセス・機能・人材、スタッフとライン、機能別組織と事業別組織、マトリックス型組織、学習型組織
7	経営戦略とネットワーク	ネットワーク型組織、産業クラスター、事業ネットワーク、プラットフォーム企業
8	吸収合併	M&A、PMI、経営支配権、異文化経営、デューデリジェンス、M&Ato法制度
9	経営戦略と IT	経営情報システム、オペレーションズ・マネジメント、ビジネスプロセス、ビジネス・インテリジェンス、ECビジネス
10	国際経営戦略	グローバルゼーション、多国籍企業、グローバル競争、海外進出形態
11	経営戦略と企業の社会的責任	サステイナビリティ、環境マネジメント、循環型社会を実現するための経営戦略
12	経営戦略と起業家精神	起業家精神、ベンチャー・ビジネス、ユニコン企業、デカコン企業、ボーングローバル企業
13	経営戦略とイノベーション	イノベーションの概念と類型、イノベーションと企業の競争優位、MOT、ビジネスモデル
14	復習とまとめ	1 回目から 13 回目の授業内容のまとめ・総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃に日本経済新聞、日経ビジネス、Bloomberg Businessweek などの経済紙、ビジネス誌を読む習慣を身に付け、とりわけ企業の戦略的取り組みをめぐる記事や論説を読んで考えることをお勧めします。

【テキスト（教科書）】

『よくわかる 経営戦略論』井上善海・佐久間信夫編著、ミネルヴァ書房。

【参考書】

- 1) 青島矢一・加藤俊彦『競争戦略論』有斐閣
- 2) 沼上幹『経営戦略の思考法』日本経済新聞出版社

専門入門科目 100 番台 1 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

専門入門科目 100 番台 1 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

3) M.E. ボーター『競争の戦略』ダイヤモンド社

4) ジェイ・B・バーニー『企業戦略論』（上、中、下）ダイヤモンド社

5) G. サローナーほか『経営戦略論』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

ディスカッション参加（+a）、小レポートなど平常点（40%）、期末テスト（60%）、授業中の私語や携帯使用（-a）。

【学生の意見等からの気づき】

初回開講の授業になるため、学生の意見はまだ受けていません。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【その他の重要事項】

毎回授業に先立ち、必ず授業支援システムにアクセスし、資料を印刷してください。

【関連科目】

経営戦略論、マーケティング入門、マーケティング・マネジメント論、戦略意思決定論、グローバル経営戦略論、国際経営論、経営組織論、技術管理論、オペレーションズ・マネジメント論など

【Outline and objectives】

In this class, we will study introductory knowledge on strategics management, which is one of the core subjects in business administration. The main purpose is to learn basic concepts and theories related to corporate strategy and business strategy as preparation for studying after the second grade.

MAN100FA-A4009

マーケティング入門

MAN100FA-A4010

マーケティング入門

宮井 弘之

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マーケティングに関する基礎的な知識を学ぶ。マーケティングと言ってもその分野は多岐に渡るため、学生が翌年以降興味を持ってそうなテーマや領域と出会うきっかけとなるようなるべく幅広い話題を取り上げる。また、始めてマーケティングについて学ぶものでも理解できるよう現実社会の実例を示しながら講義を進めることとする。

【到達目標】

- ・マーケティングの理論と実務について理解する。
- ・レポート課題に取り組むことにより、文章作成力、情報収集と分析力を身につける。
- ・実例を通じて企業経営に対して関心を持つ。
- ・生活者トレンドや新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回授業の前半は講師より知識伝達型の講義を行う。
内容は1年生でも理解できるレベルのものに留める。
授業の後半では事例紹介と事例に対するリアクションペーパーの作成を行う。
定期試験は行わない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業のすすめ方・評価方法・マーケティング発想とは
2	マーケティングミックスとは？	マーケティングミックスによる顧客創造とは
3	製品による顧客創造	マーケティングにおける製品開発について
4	価格戦略	価格による顧客創造について
5	流通戦略	流通戦略の実例と顧客創造について
6	コミュニケーション	プロモーションやコミュニケーションについて
7	顧客理解	顧客理解のための消費者調査について
8	関係構築	顧客との深い関係づくりについて
9	デジタルマーケティング	オンラインでのマーケティングについて
10	在庫管理	マーケティングにおける在庫管理について
11	ブランド構築	ブランド戦略について
12	営業戦略	企業における営業戦略について
13	戦略論	マーケティング戦略とは？ その進化について、マーケティング 3.0 について
14	演習	講義中にレポート課題を行い、提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で利用するレジュメは予めダウンロード可能にしておくため、目を通しておけば予習となる。適宜参考文献を提示するので興味のあるものは図書館で借りるなどして確認すれば良い。

【テキスト（教科書）】

1 からのマーケティング・デザイン（石井 淳蔵編集）（碩学社）2016年

【参考書】

参考文献は多岐にわたるため適宜提示する

【成績評価の方法と基準】

- ・春学期、秋学期ともレポート課題 60%、リアクションペーパー提出 40%とし、評価を決める。
- ・課題レポート、リアクションペーパーを提出しないと単位を取ることは難しいので、必ず提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

今期から開講のためありません。

【学生が準備すべき機器他】

資料は授業支援システムを用いて PDF にてダウンロード形式で配布する。従ってタブレットや PC などペーパーレスで閲覧できる機器があると望ましい。スマートフォンでは画面が小さく見にくいと思われる。

専門入門科目 100 番台 1 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

専門入門科目 100 番台 1 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

【その他の重要事項】

・マーケティング入門は、今後履修することになるマーケティング関連の専門科目（消費者行動論、マーケティング・リサーチ論、サービス・マネジメント論、流通論など）の基礎科目として重要である。マーケティングに興味のある学生、マーケティング系のゼミに所属する、あるいは所属したいと考えている学生は受講することをお勧めする。
講師の経営している会社、<https://seedata.co.jp/blog> から様々な情報発信があるので興味のある人間は確認されたい。

【関連科目】

消費者行動論、マーケティング・リサーチ論、サービス・マネジメント論

【Outline and objectives】

Learn the basic knowledge of marketing. This lecture will cover a broad marketing topic as much as possible so that students will be able to discover the themes and areas that they might be interested in the following year. Also, we will advance lectures while showing real examples of real society so that we can understand even those learning about marketing for the first time.

MAN100FA-A4011

マーケティング入門

MAN100FA-A4012

マーケティング入門

長谷川 翔平

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マーケティングを取り巻く環境は時代と共に変化してきている。近年では、インターネットやスマートフォン、人工知能の普及により、消費者と企業を取り巻く環境が大きく変わった。インターネットやスマートフォンによって、消費者は製品・サービスの比較や購入が時間と場所を問わず容易に行えるようになり、企業は SNS 等を利用して消費者と双方向のコミュニケーションが行えるようになった。消費者の行動データが大量に収集・利用できるようになったこともあり、人工知能のマーケティングへの応用も広がっている。一方で、環境が変わったとしてもマーケティングの本質的な目的である「ニーズを満たす価値を消費者に届ける仕組みを作ること」は変わらない。

本授業はマーケティングの初学者を対象として、STP マーケティングやマーケティング・ミックスなどのマーケティングの基礎概念を学ぶことを目的とし、学んだ知識を現実のマーケティングに応用できる能力を身につけることを目指す。

【到達目標】

- ・マーケティングの基礎概念を説明できる
- ・身近な製品・サービスのマーケティング戦略を説明できる
- ・マーケティング課題に対して適切な戦略の提案ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は PowerPoint のスライドを用いた講義形式で行う。スライドは講義資料として配付する。授業内で、現実の企業のマーケティング上の課題を提示し、その課題に対するマーケティング戦略の提案をリアクションペーパーとして提出してもらうことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】**春学期および秋学期**

回	テーマ	内容
1	マーケティング発想法	マーケティングの定義や目的、発想法を学ぶ
2	マーケティング・ミックス	STP マーケティングとマーケティング・ミックス（製品、価格、チャネル、コミュニケーション）の基礎を学ぶ
3	製品戦略	新製品開発による顧客創造を学ぶ
4	価格戦略	価格戦略による顧客創造を学ぶ
5	チャネル戦略	流通チャネルの構築による顧客創造を学ぶ
6	コミュニケーション戦略	消費者とのコミュニケーションによる顧客創造を学ぶ
7	顧客理解	顧客理解のためのマーケティング・リサーチ（市場調査）を学ぶ
8	関係構築	企業と顧客間の継続的な関係構築の方法を学ぶ
9	デジタル・マーケティング	マーケティング活動におけるデジタルの活用方法を学ぶ
10	ダイヤモンド・チェーン	在庫の管理方法とサプライチェーン・マネジメントを学ぶ
11	ブランド構築	ブランドを構築・維持・強化する方法を学ぶ
12	マーケティングの戦略展開	市場分析とマーケティング戦略の立案方法を学ぶ
13	社会共生	マーケティングと社会との関わりを学ぶ
14	授業のまとめ	本授業の復習とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私たち消費者にとってマーケティングは非常に身近なものである。自分が普段使っている製品・サービスはどのようなマーケティングが展開されているか、よく観察して欲しい。

【テキスト（教科書）】

・石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文『1 からのマーケティング・デザイン』碩学舎（2016）

【参考書】

- ・石井淳蔵・廣田章光『1 からのマーケティング 第 3 版』碩学舎（2009）
- ・久保田進彦・澁谷覚・須永努『はじめてのマーケティング』有斐閣（2013）
- ・小川孔輔『マーケティング入門』日本経済新聞出版社（2009）

専門入門科目 100 番台 1 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

専門入門科目 100 番台 1 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【関連科目】

- ・マーケティング・マネジメント論 I/II
- ・マーケティング・リサーチ論 I/II
- ・消費者行動論 I/II
- ・流通論 I/II
- ・サービス・マネジメント論 I/II

【Outline and objectives】

This is an introductory marketing course. Students will learn important marketing theories such as STP marketing and marketing mix (product, price, promotion, place). The goal of this course is to obtain basic marketing knowledge and skills to develop marketing strategies for business issues.

ECN100FA-A4013
ファイナンス入門
ECN100FA-A4014
ファイナンス入門
山崎 輝

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ファイナンスの入門的な内容を講義します。ほとんどの学生がこの授業で初めてファイナンスを学ぶことになると思いますが、現代のすべての社会人にとって、ファイナンスの対象領域である金融取引や証券投資の基礎知識は必須です。経営学部多くの卒業生が金融機関や企業の財務部門で活躍していますが、ファイナンスの理論がそれらのビジネスの基礎になっています。また個人でも、株式投資や年金運用のためにはファイナンスの知識や思考が欠かせません。本講義では、金融取引や証券市場の仕組み、将来価値と現在価値の概念、債券と株式の初歩的な分析手法について学びます。さらには、デリバティブ取引についても簡単に紹介します。これらの内容は2年次以降で学習するファイナンス関連科目の基礎になります。

【到達目標】

次の5つを到達目標に掲げます。

- ①金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- ②利子率や将来価値、現在価値の概念を理解し、それらに関する基本的な計算ができる。
- ③債券の仕組みを理解し、利回り計算や債券投資に関する初歩的な分析ができる。
- ④株式の仕組みを理解し、配当割引モデルや株式評価の指標による初歩的な分析ができる。
- ⑤代表的なデリバティブ取引の仕組みを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義資料を用いた講義形式になります。黒板にも板書するので、必要に応じてノートをとってください。また、授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してよい）を持参してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期および秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第2回	金融・証券市場の概観（1）	債券市場、株式市場、短期金融市場などの概説
第3回	金融・証券市場の概観（2）	市場参加者および政府、中央銀行の役割
第4回	利子率、将来価値、現在価値（1）	将来価値および複利と単利の概念
第5回	利子率、将来価値、現在価値（2）	現在価値の概念と複数のキャッシュフローがある場合の価値評価
第6回	利子率、将来価値、現在価値（3）	様々な複利期間と利子率の計算
第7回	債券入門（1）	債券の基本的な仕組みと用語
第8回	債券入門（2）	最終利回りと債券投資のリスク
第9回	債券分析の基礎（1）	金利の変動要因
第10回	債券分析の基礎（2）	債券投資の方法
第11回	株式入門（1）	株式の基本的な仕組みと用語
第12回	株式入門（2）	配当割引モデルと株式評価のための指標
第13回	株式入門（3）	株式投資のリスクとリターン
第14回	デリバティブの紹介	先物やオプションなどのデリバティブ取引の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の予習・復習をしっかりと行ってください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。講義資料を適宜配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験期間中に行う筆記試験（100％）で評価します。筆記試験では「計算機能のみの一般的な電卓」の持ち込みを可とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

専門入門科目 100 番台 1 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

専門入門科目 100 番台 1 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してよい）を持参してください。

【その他の重要事項】

教室内での私語は厳禁です。

【関連科目】

投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融市場調査などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとファイナンスの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline and objectives】

This course offers an introduction to finance to students who start learning finance. It has four objectives: (1) To provide students with fundamental knowledge of financial transactions, securities, and financial markets. (2) To teach the concepts of the future value and the present value of a cash flow. (3) To give students basic tools for analyzing bonds and stocks. (4) To introduce financial derivative transactions including forwards, futures, and options.

ECN100FA-A4015

ファイナンス入門

専門入門科目 100 番台

1 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

金 路 晋

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ファイナンスの入門的な内容を講義します。ほとんどの学生がこの授業で初めてファイナンスを学ぶことになると思いますが、現代のすべての社会人にとって、ファイナンスの対象領域である金融取引や証券投資の基礎知識は必須です。経営学部多くの卒業生が金融機関や企業の財務部門で活躍していますが、ファイナンスの理論がそれらのビジネスの基礎になっています。また個人でも、株式投資や年金運用のためにはファイナンスの知識や思考が欠かせません。本講義では、金融取引や証券市場の仕組み、将来価値と現在価値の概念、債券と株式の初歩的な分析手法について学びます。さらには、デリバティブ取引についても簡単に紹介します。これらの内容は 2 年次以降で学習するファイナンス関連科目の基礎になります。

【到達目標】

次の 5 つを到達目標に掲げます。

- ①金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- ②利子率や将来価値、現在価値の概念を理解し、それらに関する基本的な計算ができる。
- ③債券の仕組みを理解し、利回り計算や債券投資に関する初歩的な分析ができる。
- ④株式の仕組みを理解し、配当割引モデルや株式評価の指標による初歩的な分析ができる。
- ⑤代表的なデリバティブ取引の仕組みを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義資料を用いた講義形式になります。黒板にも板書するので、必要に応じてノートをとってください。また、授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してよい）を持参してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期および秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第 2 回	金融・証券市場の概観（1）	債券市場、株式市場、短期金融市場などの概説
第 3 回	金融・証券市場の概観（2）	市場参加者および政府、中央銀行の役割
第 4 回	利子率、将来価値、現在価値（1）	将来価値および複利と単利の概念
第 5 回	利子率、将来価値、現在価値（2）	現在価値の概念と複数のキャッシュフローがある場合の価値評価
第 6 回	利子率、将来価値、現在価値（3）	様々な複利期間と利子率の計算
第 7 回	債券入門（1）	債券の基本的な仕組みと用語
第 8 回	債券入門（2）	最終利回りと債券投資のリスク
第 9 回	債券分析の基礎（1）	金利の変動要因
第 10 回	債券分析の基礎（2）	債券投資の方法
第 11 回	株式入門（1）	株式の基本的な仕組みと用語
第 12 回	株式入門（2）	配当割引モデルと株式評価のための指標
第 13 回	株式入門（3）	株式投資のリスクとリターン
第 14 回	デリバティブの紹介	先物やオプションなどのデリバティブ取引の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の予習・復習をしっかりと行ってください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。講義資料を適宜配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

定期試験 90%、複数回のクイズ 10%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してよい）を持参してください。

【その他の重要事項】

教室内での私語は厳禁です。

【関連科目】

投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間シンクタンクの金融部門で財務意思決定や金融市場調査などの金融実務に携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとファイナンスの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline and objectives】

This course offers an introduction to finance to students without prior knowledge about finance. It aims to help students understand (1) the fundamental aspects of financial transactions, securities, and financial markets, (2) the concepts of the future and present values of cash flows, (3) the basic tools for analyzing bonds and stocks, and (4) the structure of derivative transactions including forwards, futures, and options.

経済学入門

高橋 理香, 大木 良子

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学を学ぼうとするみなさんは、個々人や個々の企業の選択、そしてその土台となる経済の仕組みやその動きなどについて強い関心を持っていると思います。経済学を学ぶことで、それらの読み解き方を身につけることができます。この講義によって、その経済学の学びの最初の一步を踏み出すことができます。

14 回の講義は、実証編 7 回と理論編 7 回で構成されています。

理論編では、消費者行動や企業行動を論理的に考えるために必要なミクロ経済学の基礎を学びます。実証編では、日本経済と国際経済の実態やトレンド、そして経済のしくみについて、具体的な数字や事象の解説を通じて理解を深めます。

【到達目標】

市場、インセンティブ、競争、バブル、金融、為替など、身近な経済学の基本用語の定義を正しく理解した上で、経済の仕組みの基本を身につける。また、履修を通じて学んだ経済学の基本的な理論や経済の仕組みを現実のビジネスや消費者行動の分析に応用する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業では、教員の専門性を活かし、実証編 7 回を担当する教員 1 名（高橋）と理論編 7 回を担当する教員 1 名（大木）とで協力して授業を進めます。また、オンライン教材などを活用して宿題を出題し、簡単な問題を自分の力で考えて解くトレーニングを積み重ねていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期および秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	実証編：日本のマクロ経済動向	日本経済をマクロ的な視点から捉えることの意味を理解した上で、時系列的・横断的にデータを使って経済動向を考察してみます。 ①マクロ経済のプレイヤー ②マクロ経済を把握する方法 1（時系列的考察） ③マクロ経済を把握する方法 2（横断面的考察）
第 2 回	戦後日本経済のあゆみ（1）	④戦後日本経済の長期的概観 第二次世界大戦後の日本経済は、占領期の制度変化を経て、「高度成長」と呼ばれる歴史的な経済成長を経験します。高度成長が終焉し、安定成長へ移行する 1970 年代までの日本経済の動向について、経済政策や企業側の対応にも目配りしながら概観します。 ①戦後復興 ②高度成長 ③高度成長の終焉
第 3 回	戦後日本経済のあゆみ（2）	1980 年代の日本経済ではバブルが発生、それが崩壊した後は「失われた 20 年」と呼ばれる長期の低迷、さらに世界金融危機を経験します。この間 2000 年代までの日本経済の動向について、様々な経済データを用いながら概観し、現状への理解を深めます。 ①安定成長からバブル経済へ ②バブル崩壊と平成不況 ③世界金融危機の発生
第 4 回	日本の労働	皆さんは数年後に社会に出ます。すると、皆さんは消費者であると同時に、社会人（労働者）ともなります。皆さんの飛び込む労働市場はどのような特徴を持った市場なのか概観し、近年のトピックを紹介していきます。 ①失業率と有効求人倍率 ②労働時間と賃金 ③就業形態と労働力率

第 5 回 日本の世界経済とのかかわり（1）

日本はモノ・サービス・カネ・ヒトの国際移動を通じて、多くの国とさまざまな関わりを持っています。この回では日本と他国とのモノやサービスの移動に焦点をあて、日本の貿易の特徴についてデータを用いながら概観します。

第 6 回 日本の世界経済とのかかわり（2）

①日本の貿易の現状
②日本の貿易政策の転換
モノやサービスの国際取引が行われると、その裏で必ずカネの国際間移動が起きます。この回では日本と他国と国際取引で用いられるカネに焦点をあて、為替の仕組みや制度を理解し、国際金融にまつわる大きな出来事の及ぼす影響を概観します。

第 7 回 地域経済統合とグローバル経済の変遷

①為替レートとは
②円ドル為替レートの軌跡
③国際通貨体制の変遷
④金融危機（アジア通貨危機、世界金融危機）による日本経済への影響
近年、他国と協力して経済のルールやシステムを構築しようとする経済統合の動きと各国が自己の利益を追求する動きの両方がせめぎあっています。過去の経緯や近年のトピックを紹介しながら主要な地域経済統合の構造や動向を考察します。また、実証編のまとめ、理論編とのつながり、2 年次以降の専門科目との関連性についても説明します。

第 8 回 理論編：経済学とは？

①多様な国際通商システム（GATT-WTO, RTA）
②地域経済統合の形態
③ EU とユーロ
④グローバル経済への批判と保護主義への回帰
⑤実証編のまとめ

第 9 回 市場と需要・供給（1）

授業の概要を確認するとともに、経済学とはどのような学問か？経済学ではどのような考え方をするのか？経営学部生が経済学を学ぶ意義は何か？という疑問について、一緒に考えていきます。
①授業概要の紹介
②経済とは？経済学とは？
③経済学の考え方
④経済学を学ぶ意義

第 10 回 市場と需要・供給（2）

市場経済を機能させている最も重要な要素である需要と供給について学びます。「猛暑がアイスクリームの需要を増加させる」「台風が農作物の供給を減少させる」など現実に観察される現象について、グラフを描いて考察します。
①市場と競争
②需要（需要の決まり方、需要曲線のシフト）
③供給（供給の決まり方、供給曲線のシフト）

第 11 回 市場と需要・供給（3）

需要と供給は 1 つ 1 つの財の生産量と販売価格を決定します。市場において、売り手と買い手がどのように行動し、影響し合うのかを考察します。
①市場均衡（需要と供給を一緒に考える）
②需要と供給の弾力性（価格などの変化に対して、需要や供給はどのように変化するか？）
いくつかの例題を通して第 2、3 回で学んだ内容を組み合わせて、より詳細に市場とその均衡の変化を分析します。
①税金が上がると市場均衡はどう変わる？
②猛暑でアイスが売れ、台風でさとうきびが取れなくなって砂糖の価格が上がったら、アイス市場の均衡はどう変わる？

第 12 回 市場の効率性

売り手と買い手が市場に参加することによって得られる便益（ベネフィット）について考え、どうすればそれらの便益をできるだけ大きくできるかについて考えます。そして市場が望ましい結果をもたらしてくれる理由を探ります。

①消費者余剰とは？（買い手はどれくらい満足しているの？）
 ②生産者余剰とは？（売り手はどれくらい満足しているの？）
 ③市場の効率性（売り手と買い手による交換の利益が一番大きいのはどこ？）
 ④課税の死荷重（課税によって失われるものがある？）（時間があれば）

第 13 回 市場の失敗（1）

市場に任せておくと問題が生じる場合として、取引当事者以外の満足に影響を及ぼすような場合と公共財と呼ばれる特殊な財を取引しようとする場合について考えます。

- ①外部性（取引当事者以外の満足に影響を及ぼす場合）
 ②公共財（特殊な性格を持つ財を取引しようとする場合）

第 14 回 市場の失敗（2）

市場に任せておくと問題が生じる場合として、売り手が一人または少数しかいない状況について考えます。また、理論編のまとめを行います。さらに、より現実的な経済の現象を説明するために使われるミクロ経済学の分析道具を紹介します。

- ①独占と寡占（売り手が一人または少数の場合）
 ②理論編のまとめ
 ③ゲーム理論と情報の経済学の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提とはしません。代わりに復習に重点を置いてください。各回の授業は相互に関連していますので、宿題などの復習を通じてそれまで学んだ内容を定着させることが予習につながります。

【テキスト（教科書）】

実証編では、テキストを指定しません。毎回、授業で使用するプリントを配布する予定です。

理論編では、以下のテキストを使用します。

マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学 ミクロ編（第三版）』東洋経済新報社 2013 年

【参考書】

実証編では、適宜参考になる文献を授業で紹介します。

理論編の学習には以下の参考書が役に立ちます。

伊藤元重 『ミクロ経済学（第 2 版）』日本評論社 2003 年

伊藤元重・下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社 2007 年

安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣 2013 年

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（60 %）、授業中の小テストや課題、宿題（40 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインシステム（授業支援システム）を活用し、授業資料の配布や重要なお知らせなどを行います。詳細は第 1 回の授業で説明します。

【関連科目】

『マクロ経済学』（ILAC 科目）、『ミクロ経済学入門』、『経営のための経済学』、『産業組織論』、『日本経済論』、『金融論』、『組織経済学』、『国際金融論』、『国際経済論』、『日本経営史』、『産業史』

【実務経験のある教員による授業】

該当なし

【Outline and objectives】

Everyone who wants to study business may have a strong interest in decision-making of individuals and firms and the fundamental structure of economy in a whole society. By learning economics, you can understand them. This class is the first step for you to study economics. This class consists of two parts: theoretical and empirical studies. In the theoretical study, we will learn principles of microeconomics necessary to grasp consumer and corporate behavior logically. In the empirical study, we will deepen our understanding of mechanisms and trends of the Japanese and the world economies through data, history, and current topics.

大木 良子, 高橋 理香

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学を学ぼうとするみなさんは、個々人や個々の企業の選択、そしてその土台となる経済の仕組みやその動きなどについて強い関心を持っていると思います。経済学を学ぶことで、それらの読み解き方を身につけることができます。この講義によって、その経済学の学びの最初の一步を踏み出すことができます。

14 回の講義は、理論編 7 回と実証編 7 回で構成されています。

理論編では、消費者行動や企業行動を論理的に考えるために必要なミクロ経済学の基礎を学びます。実証編では、日本経済と国際経済の実態やトレンド、そして経済のしくみについて、具体的な数字や事象の解説を通じて理解を深めます。

【到達目標】

市場、インセンティブ、競争、バブル、金融、為替など、身近な経済学の基本用語の定義を正しく理解した上で、経済の仕組みの基本を身につける。また、履修を通じて学んだ経済学の基本的な理論や経済の仕組みを現実のビジネスや消費者行動の分析に応用する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業では、教員の専門性を活かし、理論編 7 回を担当する教員 1 名（大木）と実証編 7 回を担当する教員 1 名（高橋）とで協力して授業を進めます。また、オンライン教材などを活用して宿題を出し、簡単な問題を自分の力で考えて解くトレーニングを積み重ねていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期および秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	理論編：経済学とは？	授業の概要を確認するとともに、経済学とはどのような学問か？ 経済学ではどのような考え方をするのか？ 経営学部生が経済学を学ぶ意義は何か？ という疑問について、一緒に考えていきます。 ①授業概要の紹介 ②経済とは？ 経済学とは？ ③経済学の考え方 ④経済学を学ぶ意義
第 2 回	市場と需要・供給（1）	市場経済を機能させている最も重要な要素である需要と供給について学びます。「猛暑がアイスクリームの需要を増加させる」「台風が農作物の供給を減少させる」など現実を観察される現象について、グラフを描いて考察します。 ①市場と競争 ②需要（需要の決まり方、需要曲線のシフト） ③供給（供給の決まり方、供給曲線のシフト）
第 3 回	市場と需要・供給（2）	需要と供給は 1 つ 1 つの財の生産量と販売価格を決定します。市場において、売り手と買い手がどのように行動し、影響し合うのかを考察します。 ①市場均衡（需要と供給を一緒に考える） ②需要と供給の弾力性（価格などの変化に対して、需要や供給はどのように変化するか？）
第 4 回	市場と需要・供給（3）	いくつかの例題を通して第 2、3 回で学んだ内容を組み合わせて、より詳細に市場とその均衡の変化を分析します。 ①税金が上がると市場均衡はどう変わる？ ②猛暑でアイスが売れ、台風でさとうきびが取れなくなると砂糖の価格が上がったら、アイス市場の均衡はどう変わる？

第 5 回 市場の効率性

売り手と買い手が市場に参加することによって得られる便益（ベネフィット）について考え、どうすればそれらの便益をできるだけ大きくできるかについて考えます。そして市場が望ましい結果をもたらしてくれる理由を探ります。

- ①消費者余剰とは？（買い手はどれくらい満足しているの？）
- ②生産者余剰とは？（売り手はどれくらい満足しているの？）
- ③市場の効率性（売り手と買い手による交換の利益が一番大きいのはどこ？）
- ④課税の死荷重（課税によって失われるものがある？）（時間があれば）

第 6 回 市場の失敗（1）

市場に任せておく問題が生じる場合として、取引当事者以外の満足に影響を及ぼすような場合と公共財と呼ばれる特殊な財を取引しようとする場合について考えます。

- ①外部性（取引当事者以外の満足に影響を及ぼす場合）
 - ②公共財（特殊な性格を持つ財を取引しようとする場合）
- 市場に任せておく問題が生じる場合として、売り手が一人または少数しかない状況について考えます。また、理論編のまとめを行います。さらに、より現実的な経済の現象を説明するために使われるミクロ経済学の分析道具を紹介します。

第 7 回 市場の失敗（2）

- ①独占と寡占（売り手が一人または少数の場合）
 - ②理論編のまとめ
 - ③ゲーム理論と情報の経済学の紹介
- 日本経済をマクロ的な視点から捉えることの意味を理解した上で、時系列的・横断的にデータを使って経済動向を考察してみます。

第 8 回 実証編：日本のマクロ経済動向

- ①マクロ経済のプレイヤー
 - ②マクロ経済を把握する方法 1（時系列的考察）
 - ③マクロ経済を把握する方法 2（横断面的考察）
 - ④戦後日本経済の長期的概観
- 第二次世界大戦後の日本経済は、占領期の制度変化を経て、「高度成長」と呼ばれる歴史的な経済成長を経験します。高度成長が終焉し、安定成長へ移行する 1970 年代までの日本経済の動向について、経済政策や企業側の対応にも目配りしながら概観します。

第 9 回 戦後日本経済のあゆみ（1）

- ①戦後復興
- ②高度成長
- ③高度成長の終焉

第 10 回 戦後日本経済のあゆみ（2）

1980 年代の日本経済ではバブルが発生、それが崩壊した後は「失われた 20 年」と呼ばれる長期の低迷、さらに世界金融危機を経験します。この間 2000 年代までの日本経済の動向について、様々な経済データを用いながら概観し、現状への理解を深めます。

第 11 回 日本の労働

- ①安定成長からバブル経済へ
 - ②バブル崩壊と平成不況
 - ③世界金融危機の発生
- 皆さんは数年後に社会に出ます。すると、皆さんは消費者であると同時に、社会人（労働者）ともなります。皆さんの飛び込む労働市場はどのような特徴を持った市場なのか概観し、近年のトピックを紹介していきます。
- ①失業率と有効求人倍率
 - ②労働時間と賃金
 - ③就業形態と労働力率

第 12 回	日本の世界経済とのかかわり (1)	日本はモノ・サービス・カネ・ヒトの国際移動を通じて、多くの国とさまざまな関わりを持っています。この回では日本と他国とのモノやサービスの移動に焦点をあて、日本の貿易の特徴についてデータを用いながら概観します。 ①日本の貿易の現状 ②日本の貿易政策の転換
第 13 回	日本の世界経済とのかかわり (2)	モノやサービスの国際取引が行われると、その裏で必ずカネの国際間移動が起きます。この回では日本と他国と国際取引で用いられるカネに焦点をあて、為替の仕組みや制度を理解し、国際金融にまつわる大きな出来事の及ぼす影響を概観します。 ①為替レートとは ②円ドル為替レートの軌跡 ③国際通貨体制の変遷 ④金融危機（アジア通貨危機、世界金融危機）による日本経済への影響
第 14 回	地域経済統合とグローバル経済の変遷	近年、他国と協力して経済のルールやシステムを構築しようとする経済統合の動きと各国が自己の利益を追求する動きの両方がせめぎあっています。過去の経緯や近年のトピックを紹介しながら主要な地域経済統合の構造や動向を考察します。また、実証編のまとめ、理論編とのつながり、2 年次以降の専門科目との関連性についても説明します。 ①多様な国際通商システム (GATT-WTO, RTA) ②地域経済統合の形態 ③ EU とユーロ ④グローバル経済への批判と保護主義への回帰 ⑤実証編のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提とはしません。代わりに復習に重点を置いてください。各回の授業は相互に関連していますので、宿題などの復習を通じてそれまで学んだ内容を定着させることが予習につながります。

【テキスト（教科書）】

理論編では、以下のテキストを使用します。

マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学 ミクロ編（第三版）』東洋経済新報社 2013 年

実証編では、テキストを指定しません。毎回、授業で使用するプリントを配布する予定です。

【参考書】

理論編の学習には以下の参考書が役に立ちます。

伊藤元重 『ミクロ経済学（第 2 版）』日本評論社 2003 年

伊藤元重・下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社 2007 年

安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣 2013 年

実証編では、適宜参考になる文献を授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（60 %）、授業中の小テストや課題、宿題（40 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインシステム（授業支援システム）を活用し、授業資料の配布や重要なお知らせなどを行います。詳細は第 1 回の授業で説明します。

【関連科目】

『マクロ経済学』（ILAC 科目）、『ミクロ経済学入門』、『経営のための経済学』、『産業組織論』、『日本経済論』、『金融論』、『組織経済学』、『国際金融論』、『国際経済論』、『日本経営史』、『産業史』

【実務経験のある教員による授業】

該当なし

【Outline and objectives】

Everyone who wants to study business may have a strong interest in decision-making of individuals and firms and the fundamental structure of economy in a whole society. By learning economics, you can understand them. This class is the first step for you to study economics. This class consists of two parts: theoretical and empirical studies. In the theoretical study, we will learn principles of microeconomics necessary to grasp consumer and corporate behavior logically. In the empirical study, we will deepen our understanding of mechanisms and trends of the Japanese and the world economies through data, history, and current topics.

経済学入門

宮澤 信二郎, 藤澤 利治

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学を学ぼうとするみなさんは、個々人や個々の企業の選択、そしてその土台となる経済の仕組みやその動きなどについて強い関心を持っていると思います。経済学を学ぶことで、それらの読み解き方を身につけることができます。この講義によって、その経済学の学びの最初の一步を踏み出すことができます。

14 回の講義は、理論編 7 回と実証編 7 回で構成されています。

理論編では、消費者行動や企業行動を論理的に考えるために必要なミクロ経済学の基礎を学びます。実証編では、日本経済と国際経済の実態やトレンド、そして経済のしくみについて、具体的な数字や事象の解説を通じて理解を深めます。

【到達目標】

市場、インセンティブ、競争、バブル、金融、為替など、身近な経済学の基本用語の定義を正しく理解した上で、経済の仕組みの基本を身につける。また、履修を通じて学んだ経済学の基本的な理論や経済の仕組みを現実のビジネスや消費者行動の分析に応用する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業では、教員の専門性を活かし、理論編 7 回を担当する教員 1 名（宮澤）と実証編 7 回を担当する教員 1 名（藤澤）とで協力して授業を進めます。また、オンライン教材などを活用して宿題を出し、簡単な問題を自分の力で考えて解くトレーニングを積み重ねていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期および秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	理論編：経済学とは？	授業の概要を確認するとともに、経済学とはどのような学問か？ 経済学ではどのような考え方をするのか？ 経営学部生が経済学を学ぶ意義は何か？ という疑問について、一緒に考えていきます。 ①授業概要の紹介 ②経済とは？ 経済学とは？ ③経済学の考え方 ④経済学を学ぶ意義
第 2 回	市場と需要・供給（1）	市場経済を機能させている最も重要な要素である需要と供給について学びます。「猛暑がアイスクリームの需要を増加させる」「台風が農作物の供給を減少させる」など現実に観察される現象について、グラフを描いて考察します。 ①市場と競争 ②需要（需要の決まり方、需要曲線のシフト） ③供給（供給の決まり方、供給曲線のシフト）
第 3 回	市場と需要・供給（2）	需要と供給は 1 つ 1 つの財の生産量と販売価格を決定します。市場において、売り手と買い手がどのように行動し、影響し合うのかを考察します。 ①市場均衡（需要と供給を一緒に考える） ②需要と供給の弾力性（価格などの変化に対して、需要や供給はどのように変化するか？）
第 4 回	市場と需要・供給（3）	いくつかの例題を通して第 2、3 回で学んだ内容を組み合わせて、より詳細に市場とその均衡の変化を分析します。 ①税金が上がると市場均衡はどう変わる？ ②猛暑でアイスが売れ、台風でさとうきびが取れなくなると砂糖の価格が上がったら、アイス市場の均衡はどう変わる？

第 5 回 市場の効率性

売り手と買い手が市場に参加することによって得られる便益（ベネフィット）について考え、どうすればそれらの便益をできるだけ大きくできるかについて考えます。そして市場が望ましい結果をもたらしてくれる理由を探ります。

①消費者余剰とは？（買い手はどれくらい満足しているの？）

②生産者余剰とは？（売り手はどれくらい満足しているの？）

③市場の効率性（売り手と買い手による交換の利益が一番大きいのはどこ？）

④課税の死荷重（課税によって失われるものがある？）（時間があれば）

第 6 回 市場の失敗（1）

市場に任せておく問題が生じる場合として、取引当事者以外の満足に影響を及ぼすような場合と公共財と呼ばれる特殊な財を取引しようとする場合について考えます。

①外部性（取引当事者以外の満足に影響を及ぼす場合）

②公共財（特殊な性格を持つ財を取引しようとする場合）

第 7 回 市場の失敗（2）

市場に任せておく問題が生じる場合として、売り手が一人または少数しかいない状況について考えます。また、理論編のまとめを行います。さらに、より現実的な経済の現象を説明するために使われるミクロ経済学の分析道具を紹介します。

①独占と寡占（売り手が一人または少数の場合）

②理論編のまとめ

第 8 回 実証編：日本のマクロ経済動向

③ゲーム理論と情報の経済学の紹介
日本経済をマクロ的な視点から捉えることの意味を理解した上で、時系列的・横断的にデータを使って経済動向を考察してみます。

①マクロ経済のプレイヤー

②マクロ経済を把握する方法 1（時系列的考察）

③マクロ経済を把握する方法 2（横断的考察）

第 9 回 戦後日本経済のあゆみ（1）

④戦後日本経済の長期的概観
第二次世界大戦後の日本経済は、占領期の制度変化を経て、「高度成長」と呼ばれる歴史的な経済成長を経験します。高度成長が終焉し、安定成長へ移行する 1970 年代までの日本経済の動向について、経済政策や企業側の対応にも目配りしながら概観します。

①戦後復興

②高度成長

③高度成長の終焉

第 10 回 戦後日本経済のあゆみ（2）

1980 年代の日本経済ではバブルが発生、それが崩壊した後は「失われた 20 年」と呼ばれる長期の低迷、さらに世界金融危機を経験します。この間 2000 年代までの日本経済の動向について、様々な経済データを用いながら概観し、現状への理解を深めます。

①安定成長からバブル経済へ

②バブル崩壊と平成不況

③世界金融危機の発生

第 11 回 日本の労働

皆さんは数年後に社会に出ます。すると、皆さんは消費者であると同時に、社会人（労働者）ともなります。皆さんの飛び込む労働市場はどのような特徴を持った市場なのか概観し、近年のトピックを紹介していきます。

①失業率と有効求人倍率

②労働時間と賃金

③就業形態と労働力率

第 12 回	日本の世界経済とのかかわり (1)	日本はモノ・サービス・カネ・ヒトの国際移動を通じて、多くの国とさまざまな関わりを持っています。この回では日本と他国とのモノやサービスの移動に焦点をあて、日本の貿易の特徴についてデータを用いながら概観します。 ①日本の貿易の現状 ②日本の貿易政策の転換
第 13 回	日本の世界経済とのかかわり (2)	モノやサービスの国際取引が行われると、その裏で必ずカネの国際間移動が起きます。この回では日本と他国と国際取引で用いられるカネに焦点をあて、為替の仕組みや制度を理解し、国際金融にまつわる大きな出来事の及ぼす影響を概観します。 ①為替レートとは ②円ドル為替レートの軌跡 ③国際通貨体制の変遷 ④金融危機（アジア通貨危機、世界金融危機）による日本経済への影響
第 14 回	地域経済統合とグローバル経済の変遷	近年、他国と協力して経済のルールやシステムを構築しようとする経済統合の動きと各国が自己の利益を追求する動きの両方がせめぎあっています。過去の経緯や近年のトピックを紹介しながら主要な地域経済統合の構造や動向を考察します。また、実証編のまとめ、理論編とのつながり、2 年次以降の専門科目との関連性についても説明します。 ①多様な国際通商システム (GATT-WTO, RTA) ②地域経済統合の形態 ③ EU とユーロ ④グローバル経済への批判と保護主義への回帰 ⑤実証編のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提とはしません。代わりに復習に重点を置いてください。各回の授業は相互に関連していますので、宿題などの復習を通じてそれまで学んだ内容を定着させることが予習につながります。

【テキスト（教科書）】

理論編では、以下のテキストを使用します。

マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学 ミクロ編（第三版）』東洋経済新報社 2013 年

実証編では、テキストを指定しません。毎回、授業で使用するプリントを配布する予定です。

【参考書】

理論編の学習には以下の参考書が役に立ちます。

伊藤元重 『ミクロ経済学（第 2 版）』日本評論社 2003 年

伊藤元重・下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社 2007 年

安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣 2013 年

実証編では、適宜参考になる文献を授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（60 %）、授業中の小テストや課題、宿題（40 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインシステム（授業支援システム）を活用し、授業資料の配布や重要なお知らせなどを行います。詳細は第 1 回の授業で説明します。

【関連科目】

『マクロ経済学』（ILAC 科目）、『ミクロ経済学入門』、『経営のための経済学』、『産業組織論』、『日本経済論』、『金融論』、『組織経済学』、『国際金融論』、『国際経済論』、『日本経営史』、『産業史』

【実務経験のある教員による授業】

該当なし

【Outline and objectives】

Everyone who wants to study business may have a strong interest in decision-making of individuals and firms and the fundamental structure of economy in a whole society. By learning economics, you can understand them. This class is the first step for you to study economics. This class consists of two parts: theoretical and empirical studies. In the theoretical study, we will learn principles of microeconomics necessary to grasp consumer and corporate behavior logically. In the empirical study, we will deepen our understanding of mechanisms and trends of the Japanese and the world economies through data, history, and current topics.

経済学入門

藤澤 利治, 宮澤 信二郎

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学を学ぼうとするみなさんは、個々人や個々の企業の選択、そしてその土台となる経済の仕組みやその動きなどについて強い関心を持っていると思います。経済学を学ぶことで、それらの読み解き方を身につけることができます。この講義によって、その経済学の学びの最初の一步を踏み出すことができます。

14 回の講義は、実証編 7 回と理論編 7 回で構成されています。

理論編では、消費者行動や企業行動を論理的に考えるために必要なミクロ経済学の基礎を学びます。実証編では、日本経済と国際経済の実態やトレンド、そして経済のしくみについて、具体的な数字や事象の解説を通じて理解を深めます。

【到達目標】

市場、インセンティブ、競争、バブル、金融、為替など、身近な経済学の基本用語の定義を正しく理解した上で、経済の仕組みの基本を身につける。また、履修を通じて学んだ経済学の基本的な理論や経済の仕組みを現実のビジネスや消費者行動の分析に応用する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業では、教員の専門性を活かし、実証編 7 回を担当する教員 1 名（藤澤）と理論編 7 回を担当する教員 1 名（宮澤）とで協力して授業を進めます。また、オンライン教材などを活用して宿題を出し、簡単な問題を自分の力で考えて解くトレーニングを積み重ねていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期および秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	実証編：日本のマクロ経済動向	日本経済をマクロ的な視点から捉えることの意味を理解した上で、時系列的・横断的にデータを使って経済動向を考察してみます。 ①マクロ経済のプレイヤー ②マクロ経済を把握する方法 1（時系列的考察） ③マクロ経済を把握する方法 2（横断面的考察）
第 2 回	戦後日本経済のあゆみ（1）	④戦後日本経済の長期的概観 第二次世界大戦後の日本経済は、占領期の制度変化を経て、「高度成長」と呼ばれる歴史的な経済成長を経験します。高度成長が終焉し、安定成長へ移行する 1970 年代までの日本経済の動向について、経済政策や企業側の対応にも目配りしながら概観します。 ①戦後復興 ②高度成長 ③高度成長の終焉
第 3 回	戦後日本経済のあゆみ（2）	1980 年代の日本経済ではバブルが発生、それが崩壊した後は「失われた 20 年」と呼ばれる長期の低迷、さらに世界金融危機を経験します。この間 2000 年代までの日本経済の動向について、様々な経済データを用いながら概観し、現状への理解を深めます。 ①安定成長からバブル経済へ ②バブル崩壊と平成不況 ③世界金融危機の発生
第 4 回	日本の労働	皆さんは数年後に社会に出ます。すると、皆さんは消費者であると同時に、社会人（労働者）ともなります。皆さんの飛び込む労働市場はどのような特徴を持った市場なのか概観し、近年のトピックを紹介していきます。 ①失業率と有効求人倍率 ②労働時間と賃金 ③就業形態と労働力率

第 5 回 日本の世界経済とのかかわり（1）

日本はモノ・サービス・カネ・ヒトの国際移動を通じて、多くの国とさまざまな関わりを持っています。この回では日本と他国とのモノやサービスの移動に焦点をあて、日本の貿易の特徴についてデータを用いながら概観します。

第 6 回 日本の世界経済とのかかわり（2）

①日本の貿易の現状
②日本の貿易政策の転換
モノやサービスの国際取引が行われると、その裏で必ずカネの国際間移動が起きます。この回では日本と他国と国際取引で用いられるカネに焦点をあて、為替の仕組みや制度を理解し、国際金融にまつわる大きな出来事の影響を概観します。

第 7 回 地域経済統合とグローバル経済の変遷

①為替レートとは
②円ドル為替レートの軌跡
③国際通貨体制の変遷
④金融危機（アジア通貨危機、世界金融危機）による日本経済への影響
近年、他国と協力して経済のルールやシステムを構築しようとする経済統合の動きと各国が自己の利益を追求する動きの両方がせめぎあっています。過去の経緯や近年のトピックを紹介しながら主要な地域経済統合の構造や動向を考察します。また、実証編のまとめ、理論編とのつながり、2 年次以降の専門科目との関連性についても説明します。

第 8 回 理論編：経済学とは？

①多様な国際通商システム（GATT-WTO, RTA）
②地域経済統合の形態
③ EU とユーロ
④グローバル経済への批判と保護主義への回帰
⑤実証編のまとめ

第 9 回 市場と需要・供給（1）

授業の概要を確認するとともに、経済学とはどのような学問か？経済学ではどのような考え方をするのか？経営学部生が経済学を学ぶ意義は何か？という疑問について、一緒に考えていきます。

第 10 回 市場と需要・供給（2）

①授業概要の紹介
②経済とは？経済学とは？
③経済学の考え方
④経済学を学ぶ意義
市場経済を機能させている最も重要な要素である需要と供給について学びます。「猛暑がアイスクリームの需要を増加させる」「台風が農作物の供給を減少させる」など現実に観察される現象について、グラフを描いて考察します。

第 11 回 市場と需要・供給（3）

①市場と競争
②需要（需要の決まり方、需要曲線のシフト）
③供給（供給の決まり方、供給曲線のシフト）
需要と供給は 1 つ 1 つの財の生産量と販売価格を決定します。市場において、売り手と買い手がどのように行動し、影響し合うのかを考察します。
①市場均衡（需要と供給を一緒に考える）
②需要と供給の弾力性（価格などの変化に対して、需要や供給はどのように変化するか？）
いくつかの例題を通して第 2、3 回で学んだ内容を組み合わせて、より詳細に市場とその均衡の変化を分析します。
①税金が上がると市場均衡はどう変わる？
②猛暑でアイスが売れ、台風でさとうきびが取れなくなって砂糖の価格が上がったら、アイス市場の均衡はどう変わる？

第 12 回 市場の効率性

売り手と買い手が市場に参加することによって得られる便益（ベネフィット）について考え、どうすればそれらの便益をできるだけ大きくできるかについて考えます。そして市場が望ましい結果をもたらしてくれる理由を探ります。

①消費者余剰とは？（買い手はどれくらい満足しているの？）
 ②生産者余剰とは？（売り手はどれくらい満足しているの？）
 ③市場の効率性（売り手と買い手による交換の利益が一番大きいのはどこ？）
 ④課税の死荷重（課税によって失われるものがある？）（時間があれば）

第 13 回 市場の失敗（1）

市場に任せておくと問題が生じる場合として、取引当事者以外の満足に影響を及ぼすような場合と公共財と呼ばれる特殊な財を取引しようとする場合について考えます。

- ①外部性（取引当事者以外の満足に影響を及ぼす場合）
 ②公共財（特殊性性格を持つ財を取引しようとする場合）

第 14 回 市場の失敗（2）

市場に任せておくと問題が生じる場合として、売り手が一人または少数しかいない状況について考えます。また、理論編のまとめを行います。さらに、より現実的な経済の現象を説明するために使われるミクロ経済学の分析道具を紹介します。

- ①独占と寡占（売り手が一人または少数の場合）
 ②理論編のまとめ
 ③ゲーム理論と情報の経済学の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提とはしません。代わりに復習に重点を置いてください。各回の授業は相互に関連していますので、宿題などの復習を通じてそれまで学んだ内容を定着させることが予習につながります。

【テキスト（教科書）】

実証編では、テキストを指定しません。毎回、授業で使用するプリントを配布する予定です。

理論編では、以下のテキストを使用します。

マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学 ミクロ編（第三版）』東洋経済新報社 2013 年

【参考書】

実証編では、適宜参考になる文献を授業で紹介します。

理論編の学習には以下の参考書が役に立ちます。

伊藤元重 『ミクロ経済学（第 2 版）』日本評論社 2003 年

伊藤元重・下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社 2007 年

安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣 2013 年

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（60 %）、授業中の小テストや課題、宿題（40 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインシステム（授業支援システム）を活用し、授業資料の配布や重要なお知らせなどを行います。詳細は第 1 回の授業で説明します。

【関連科目】

『マクロ経済学』（ILAC 科目）、『ミクロ経済学入門』、『経営のための経済学』、『産業組織論』、『日本経済論』、『金融論』、『組織経済学』、『国際金融論』、『国際経済論』、『日本経営史』、『産業史』

【実務経験のある教員による授業】

該当なし

【Outline and objectives】

Everyone who wants to study business may have a strong interest in decision-making of individuals and firms and the fundamental structure of economy in a whole society. By learning economics, you can understand them. This class is the first step for you to study economics. This class consists of two parts: theoretical and empirical studies. In the theoretical study, we will learn principles of microeconomics necessary to grasp consumer and corporate behavior logically. In the empirical study, we will deepen our understanding of mechanisms and trends of the Japanese and the world economies through data, history, and current topics.

PRI100FA-A4020

統計学入門

PRI100FA-A4021

統計学入門

猪狩 良介

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、学術分野だけでなく、ビジネスの現場においても統計学が着目されています。経営分野において、マーケティング戦略の決定や投資行動などの意思決定を適切に行うには、データに基づいて客観的に決定する必要があります。そこで利用するのが、統計学です。

この授業では、統計学の基本的な理論について学びます。

【到達目標】

- ・統計学の基本的な考え方を理解し、他の人に説明できる。
- ・データの整理・要約ができる。
- ・データの要約やグラフからデータの傾向について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・配布資料に沿って講義形式で進めます。
- ・授業で学習した内容について、練習問題を解いて理解を深めます。
- ・授業後によく復習をする必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス：統計学とは	授業の概要と進め方について説明します。統計学とはどのようなものか、経営分野において統計学がどのように利用されているかについて学びます。
2	度数分布表とヒストグラム（テキスト第 1 講）	データの特徴を浮き彫りにする方法を学びます。
3	平均値の役割と捉え方（テキスト第 2 講）	データの特徴（中心）を見るための、平均値について学びます。
4	データの散らばり具合を捉える（テキスト第 3・4 講）	データの散らばり具合を見積もる統計量である分散と標準偏差について学びます。
5	標準偏差を利用して株式のリスクを捉える（テキスト第 5・6 講）	株の平均収益率のリスク指標と標準偏差の関係性について学びます。
6	正規分布（テキスト第 7 講）	身長、コイン投げなど最もよく見られている分布である正規分布について学習します。
7	統計的推定の基礎（テキスト第 8 講）	正規分布の知識を利用して、予言を行う方法を学びます。
8	母集団を推理する（テキスト第 9 講）	仮説検定の考え方を学びます。
9	信頼区間を計算する（テキスト第 10 講）	温度測定などの例で、95 % 当たる信頼区間を探し出す方法を学びます。
10	母集団と統計的推定（テキスト第 11・12 講）	「部分」によって「全体」を推論する統計的推定について学習します。
11	標本平均と信頼区間（テキスト第 13・14 講）	複数データの平均値は 1 個のデータより母平均に近くなることを学習します。また、観測データが増えるほど、信頼区間が狭くなることを学びます。
12	母分散のわかっている母平均の区間推定（テキスト第 15 講）	標本平均を利用した母平均の区間推定について学習します。
13	母分散のわかっていない母平均の区間推定（テキスト第 20・21 講）	母分散がわからない状況での標本平均を利用した母平均の区間推定について学習します。t 分布と t 分布による区間推定について学びます。
14	まとめ	本授業で学習した内容を復習し、まとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業後にテキストや資料を見直し、基本概念の理解度を確認します。
- ・テキストにある練習問題を宿題として解きます。

【テキスト（教科書）】

- ・小島寛之 (2006)『完全独習 統計学入門』ダイヤモンド社。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

専門入門科目 100 番台 1 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

専門入門科目 100 番台 1 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

【成績評価の方法と基準】

試験 (100%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

- ・授業内で行う演習や練習問題を解くには、統計計算ができる電卓またはエクセルを使える端末（スマートフォン、タブレット、パソコン等）が必要となります。

【その他の重要事項】

- ・本年度担当初年度ため積極的なフィードバックを歓迎します。
- ・実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

基礎統計学 I / II

経営のための統計学 I / II

【Outline and objectives】

Statistics has attracted attention from business as well as academia. Making good decisions in business, such as marketing and investment strategies, require objective evidence based on data, that is, Statistics. In this course, we learn basic theories of Statistics.

PRI100FA-A4022

統計学入門

PRI100FA-A4023

統計学入門

高橋 慎

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、学術分野だけでなく、ビジネスの現場においても統計学が注目を集めています。経営分野において、マーケティング戦略の決定や投資行動などの意思決定を適切に行うには、データに基づいて客観的に決定する必要があります。そこで利用するのが、統計学です。この授業では、統計学の基本的な理論について学びます。

【到達目標】

- ・統計学の基本的な考え方を理解し、他の人に説明できる。
- ・データの整理・要約ができる。
- ・データの要約やグラフからデータの傾向について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・資料に沿って講義形式で進めます。
- ・板書は補助的に使用しますので、適宜ノートを取ることも求められます。
- ・授業で学習した内容について、練習問題を解いて理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス：統計学とは	授業の概要と進め方について説明します。統計学とはどのようなものか、経営分野において統計学がどのように利用されているかについて学びます。
2	度数分布とヒストグラム（テキスト第 1 講）	データの特徴を浮き彫りにする方法を学びます。
3	平均値の役割と捉え方（テキスト第 2 講）	データの特徴（中心）を見るための、平均値について学びます。
4	データの散らばり具合を捉える（テキスト第 3・4 講）	データの散らばり具合を見積もる統計量である分散と標準偏差について学びます。
5	標準偏差を利用して株式のリスクを捉える（テキスト第 5・6 講）	株の平均収益率のリスク指標と標準偏差の関係性について学びます。
6	正規分布（テキスト第 7 講）	身長、コイン投げなど最もよく見られている分布である正規分布について学習します。
7	統計的推定の基礎（テキスト第 8 講）	正規分布の知識を利用して、「予言」を行う方法を学びます。
8	母集団を推理する（テキスト第 9 講）	仮説検定の考え方を学びます。
9	信頼区間を計算する（テキスト第 10 講）	温度測定などの例で、95%当たる信頼区間を探し出す方法を学びます。
10	母集団と統計的推定（テキスト第 11・12 講）	「部分」によって「全体」を推論する統計的推定について学習します。
11	標本平均と信頼区間（テキスト第 13・14 講）	複数データの平均値は 1 個のデータより母平均に近くなることを学習します。また、観測データが増えるほど、信頼区間が狭くなることを学びます。
12	母分散のわかっている母平均の区間推定（テキスト第 15 講）	標本平均を利用した母平均の区間推定について学習します。
13	母分散のわかっていない母平均の区間推定（テキスト第 15 講）	母分散がわからない状況での標本平均を利用した母平均の区間推定について学習します。t 分布と t 分布による区間推定について学習します。
14	まとめ	本授業で学習した内容を復習し、まとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業後にテキストや資料を見直し、基本概念の理解度を確認します。
- ・テキストにある練習問題を宿題として解きます。

【テキスト（教科書）】

小島寛之 (2006) 『完全独習 統計学入門』ダイヤモンド社

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

専門入門科目 100 番台 1 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

専門入門科目 100 番台 1 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

授業内で行う演習や練習問題を解くには統計計算ができる関数電卓またはエクセルを使える端末（スマートフォン、タブレット、パソコンなど）が必要です。

【その他の重要事項】

実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

基礎統計学 I / II

経営のための統計学 I / II

【Outline and objectives】

Recently, Statistics has attracted attention from business as well as academia. Making good decisions in business, such as marketing and investment strategies, require objective evidence based on data, that is, Statistics. In this course, we learn basic theories of Statistics.

MAN100FA-A4024

簿記入門Ⅰ（2019年度以降入学者）

MAN100FA-A4035

簿記入門Ⅰ（2016～2018年度入学者）

MAN100FA-A4025

簿記入門Ⅱ（2019年度以降入学者）

MAN100FA-A4036

簿記入門Ⅱ（2016～2018年度入学者）

MAN100FA-A4037

簿記入門Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）

大下 勇二

※ クラス指定があります。 ※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記・会計は「ビジネスの言語」と呼ばれる。企業の公表する損益計算書や貸借対照表は、その経済活動を一定のルールに従い記録した帳簿に基づき作成される。この帳簿記録の技術を「簿記」という。本講義はこの「簿記」の技術を授業のテーマとする。

【到達目標】

簿記入門Ⅰ/Ⅱでは日商簿記3級程度を共通の目標としているが、このクラスでは、特に2年次以上の学生向けに3級程度の簿記の基礎を習得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業では、複式簿記による帳簿記録のルールを理解し、それに基づいて簡単な貸借対照表および損益計算書を作成できるまでのレベルを目標に、具体的には、複式簿記の原理、帳簿記録の方法、決算の概要、決算書の作成方法を、テキストに従い、板書講義、パワー・ポイントのスライドによる解説および記帳・計算演習をおりまぜながら習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**Ⅰ 春学期**

回	テーマ	内容
第1回	簿記の意義としくみ (1)	簿記の意義と基礎について解説します。
第2回	簿記の意義としくみ (2)	貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産(資本)について解説し、資本等式、財産法による損益計算の方法について学びます。
第3回	簿記の意義としくみ (3)	損益計算書の構成要素である収益・費用について解説し、損益法による損益計算の方法を学びます。
第4回	仕訳と転記 (1)	取引簿記上の取引、取引の種類、取引要素の結合関係、具体的な取引分類を解説し、複式簿記の原理を学習します。
第5回	仕訳と転記 (2)	取引簿記上の取引、取引の種類、取引要素の結合関係、具体的な取引分類を解説し、複式簿記の原理を学習します。
第6回	仕訳と転記 (3)	複式簿記の原理に基づいて、具体的な記録方法である「仕訳」について学習します。
第7回	仕訳帳と元帳 (1)	帳簿組織の種類と役割、複式簿記の原理に基づいて、仕訳帳への記入練習を行います。
第8回	仕訳帳と元帳 (2)	勘定記入仕訳帳から総勘定元帳への転記について学習します。
第9回	仕訳帳と元帳 (3)	取引から仕訳、その勘定口座への転記の作業を習得します。
第10回	決算 (1)	試算表の作成 合計試算表、残高試算表および合計残高試算表の特徴と役割を理解し、その作り方を学習します。
第11回	決算 (2)	決算の意味と手続き、精算表の仕組み、6桁精算表の作り方を中心に決算手続きを学習します。
第12回	決算 (3)	総勘定元帳の締切り、仕訳帳の締切りと繰越試算表の作成、損益計算書および貸借対照表の作成を中心に決算手続きの最後までを学習します。
第13回	決算 (4)	精算表の作成、帳簿の締切り、損益計算書・貸借対照表の作成に関する練習問題に取り組みます。

専門入門科目 100 番台 1 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

2～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

専門入門科目 100 番台 1 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

2～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

2～4 年次 / 4 単位 [年間授業/Yearly]

第14回	現金と預金	現金・預金の記帳 現金、現金出納帳、現金過不足、当座預金、小口現金を学習します。
Ⅱ 秋学期		
回	テーマ	内容
第1回	繰越商品・仕入・売上 (1)	3 分法、分記法、仕入帳と売上帳を中心に商品売上の記帳を練習します。
第2回	繰越商品・仕入・売上 (2)	商品有高帳の記帳を練習し、商品販売損益の計算の仕組みを理解します。
第3回	売掛金と買掛金	掛取引の記帳 売掛金と買掛金、人名勘定、売掛金元帳と買掛金元帳の処理を練習します。
第4回	その他の債権と債務	貸付金・借入金、未収金・未払金、立替金・預り金、仮払金・借受金、商品券の各勘定の役割と記入方法を練習します。
第5回	受取手形と支払手形	手形の種類、約束手形の仕組みと処理、手形の裏書と売却の処理を学びます。
第6回	有価証券	有価証券の処理、有価証券の利息と配当金の処理を学習します。
第7回	固定資産 (1)	固定資産の取得、減価償却について学習します。
第8回	固定資産 (2)	減価償却費の計算と記帳方法、固定資産の売却の処理について学習します。
第9回	貸倒損失と貸倒引当金、 資本金と引出金	貸倒れの処理と資本金の処理を学習します。
第10回	収益と費用 (1)	収益と費用、費用・収益の繰延べと見越しの処理を学習します。
第11回	収益と費用 (2)	費用・収益の繰延べと見越し、消耗品の処理を学習します。
第12回	伝票	伝票を用いた記入方法を学習します。
第13回	財務諸表 (1)	決算手続きと決算整理の処理を学習します。
第14回	財務諸表 (2)	決算整理から 8 桁精算表および財務諸表の作成を学習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ずテキストを事前に読んでおき、例題を解いておくことが求められます。また、毎授業の最後に、「仕訳トレーニング」という問題プリントを配布しますので、次回までに解答しておくことが必要です。

【テキスト（教科書）】

渡部・片山・北村『検定 簿記講義 3 級』(最新版) 中央経済社。

『検定 簿記ワークブック 3 級』(最新版) 中央経済社。

【参考書】

最初の授業で指示する予定です。

【成績評価の方法と基準】

基本的には、春学期・秋学期の定期試験 (100%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

仕訳トレーニングの問題を毎回学生に解答してもらい、授業内容の理解度を確認しながら、授業を進めていきます。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

この講義は、2 年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱ、3・4 年次の財務会計論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、監査論Ⅰ/Ⅱ、原価計算論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅲ/Ⅳ、経営分析論Ⅰ/Ⅱ、企業経営論Ⅰ/Ⅱなど会計専門科目の基礎となるものです。複式簿記による記帳の方法および会計処理を習得・理解しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進します。

〔その他注意事項〕

簿記を習得するためには、講義に毎回出席し、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。一度欠席するとその後の授業の理解が困難になることがあるので、欠席しないように心がけて下さい。

【Outline and objectives】

The objective of this subject is to understand the book-keeping of an introductory level.

MAN100FA-A4026

簿記入門Ⅰ

MAN100FA-A4027

簿記入門Ⅱ

川島 健司

※ クラス指定があります。 ※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、初めて簿記会計を学習する学生を対象として、簿記の基礎的な事項を理解してもらうことである。簿記の「なぜ」に答えることを重視するため（なぜ日常の家計簿の延長では不十分・不合理なのか、なぜ複式なのか、なぜ借方・貸方なのか、なぜ加法にこだわるのか、なぜ決算整理が必要なのか、等々）、資格試験の授業計画とは異なるが、学習の範囲、扱う内容、演習問題の量はおおむね日商簿記検定 3 級の標準的授業と同じである。

この授業では 2、3 年次で会計関係の専門科目を学習する際の基礎となる事項を学習し、また講義の内容は社会人になった時にビジネスの常識として必要と思われる基本的事項である。

【到達目標】

- 本授業の到達目標は以下のとおりである。
- 基本的な取引の内容を理解し、それを記帳・要約して財務諸表を作成する技術を習得する。
- 作成した財務諸表から、企業の実態を推論する技術を習得する。
- 財務諸表の作成と読解を通じて、会計上の諸論点の存在を理解し、それらを議論するために必要な概念を理解する。
- 日商簿記検定 3 級に合格できる知識、および同 2 級の受験準備としての知識を習得する。
- 簿記に関する一般教養的知識を身につける（文化・歴史・経済との関わり等）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。年間 28 回の授業を以下の 4 つに分割して、それぞれテーマと問題意識を共有しながら授業を進める。

- 第 1 部 複式簿記の目的—なぜ複式簿記が必要かを理解する（1-7 回）
- 第 2 部 複式簿記の方法—簿記一巡の手続きを理解する（8-14 回）
- 第 3 部 決算の方法—合理的な期間損益計算を考察する（15-21 回）
- 第 4 部 会計処理の個別問題—複雑な取引への対処・応用法を理解する（22-28 回）

授業ではあらかじめ範囲を決めてミニテストを数回実施し、理解度を確認することもある。ただし、本授業では単に簿記処理の技術を説明するだけでなく、簿記の歴史・文化的側面、経済発展への貢献などを解説することを通じて、簿記に関する教養的知識の習得を受講生に促す。

本講義では、受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、春学期・秋学期で各 2 回ずつ、質疑応答の回を設定する。受講生は毎回の講義で、理解できなかった点や関心をもった点などを質問票に記述し（任意）、その質問票の内容を教員が整理・体系化し、それに公開回答するかたちをとる。公開された質問者には成績評価の際に加点する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	簿記の役割、簿記会計を学ぶ意義等について説明する
2	収支計算と単式簿記	まずは日常生活の記帳の延長として、一般に認められた方法により現金出納帳と収支計算書を作成する方法を解説する。
3	収支計算の限界 1（信用取引があるケース）	収支計算書の情報の意味と特性を理解する。信用取引があるケースについて現金収支差額の意味を考察する。
4	収支計算の限界 2（商品在庫があるケース）	売れ残り商品があるケースについて現金収支差額の意味を考察する。
5	収支計算の限界 3（設備投資をするケース）	設備投資を行うケースについて現金収支差額の意味を考察する。収支計算の限界を補う方法を検討する。
6	損益計算と複式簿記	収益・費用の概念を収入・支出と対比させて解説する。損益計算、損益計算書等について学習する。
7	損益計算書と貸借対照表	損益計算書を作成すると、必然的・誘導的に貸借対照表が必要になる理屈を解説する。
8	勘定	簿記上の勘定の意味と役割について解説する。
9	帳簿（主要簿と補助簿）	帳簿の種類・組織（相互関係）・役割について解説する。

専門入門科目 100 番台

1 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

専門入門科目 100 番台

1 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

10 取引と仕訳

勘定記入の意味、勘定記入の仕方について学習する。

11 勘定口座と転記

仕訳による記帳情報を勘定口座に転記・要約する方法について解説する。各種試算表の意義と作成方法について解説する。

12 合計試算表と残高試算表

13 帳簿の締切と財務諸表の作成

帳簿の締め切り、収支計算書・損益計算書・貸借対照表の作成方法について解説する。

14 総合的演習問題

総勘定元帳の締切り、仕訳帳の締切り、財務諸表の作成等について総合的に学習する。

Ⅱ 秋学期

15 テーマ
イントロダクション内容
秋学期全体の学習内容と論点について俯瞰する。

16 売上原価の計算

商品売買取引の記帳、商品有高帳の記入、期末の売上原価の計算について解説する。

17 減価償却

有形固定資産の取得、減価償却の計算、固定資産の売却時の処理について解説する。

18 引当金

引当金の意義、記帳方法、財務的な効果について解説する。

19 経過勘定項目 1（前払費用、未払費用）

前払費用と未払費用の考え方と記帳方法について解説する。

20 経過勘定項目 2（未収収益、前受収益）

未収収益と前受収益の考え方と記帳方法について解説する。

21 精算表の活用

精算表の概要、8 桁精算表の使用法について解説する。

22 資本金の記帳

資本金、引出金の処理について解説する。

23 現金預金の記帳

小口現金、現金過不足の処理について解説する。

24 手形の記帳

為替手形、手形の裏書売却等の処理について解説する。

25 債権・債務の記帳

未収金・未払金、立替金・預り金他の処理について学習する。

26 有価証券の記帳

有価証券の取得時・売却時の処理、期末の評価等について学習する。

27 本支店会計

本店・支店間の取引の記帳と、それらを合算した財務諸表の作成方法を解説する。

28 精算表と財務諸表に関する総合問題

精算表の問題を 2 問解いてもらい、解説する。仕訳・勘定記入、試算表の作成、精算表の作成などの問題を解いてもらい、解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で学習した例題の復習と関連する部分の演習問題を解いておくこと。

【テキスト（教科書）】

講義用レジュメは毎回の授業で配布する。

【参考書】

- ・黒澤清『新講 商業簿記』千倉書房, 1947 年。
- ・大下勇二・福多裕志・神谷健司・筒井知彦『簿記講義ノート』白桃書房, 1998 年。
- ・中村忠『新稿・現代会計学』九訂版, 白桃書房, 2005 年。
- ・中村忠『簿記の考え方・学び方』六訂版, 税務経理協会, 2006 年。
- ・新田忠誓・佐々木隆他『会計学・簿記入門』第 12 版, 白桃書房, 2014 年。

【成績評価の方法と基準】

以下の 2 点にもとづいて評価する（括弧内はウエイト）。①春学期末・秋学期末の筆記試験（80 %）：参照不可の筆記試験（電卓のみ持ち込み可）。期末試験をレポート課題に替えることはしないため、期末試験は必ず受験すること。②質問票への記述状況（20 %）：各回の授業終了後に受講生は任意で質問や感想を書面で提出することができる。その内容が全受講生にとって有益であると考えられるものは、翌週以降の講義で紹介する。この際、講義への参画と貢献に対する評価として、最大 20 % の範囲内で加点する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に演習問題を多く解きたいため、問題を多く出してほしいという要望が複数寄せられた。これを受けて復習のための課題をより多く課することにした。また、模範解答付きの教材を紹介するので、授業時間以外に各自が好きなだけ問題を解けるよう助言する。併せて、リアクションペーパーを用いて受講者の理解度を段階的に確かめていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

一般的な電卓。

【その他の重要事項】

本授業では、簿記処理の技術のみならず、簿記に関する一般教養的知識（文化・歴史・経済との関わり等）についても解説し、これらについても期末試験において多く出題する。本学の会計専門職講座をはじめ各種資格試験講座を受講している学生も、授業には出席してほしい。

【関連科目】

この科目はすべての会計関係の基礎となる科目であり、経営関係の科目の学習においても重要な科目である。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to get knowledge of fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance. This lecture includes technique, principle, history, and practice of bookkeeping and accounting.

MAN100FA-A4028

簿記入門Ⅰ

MAN100FA-A4029

簿記入門Ⅱ

高橋 美穂子

専門入門科目 100 番台 1 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

専門入門科目 100 番台 1 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

※ クラス指定があります。 ※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記は企業が行う日々の経済活動を記録するためのしくみです。簿記の主たる目的は、企業の経営成績および財政状態を明らかにすることによって、企業の利害関係者の意思決定に役立てることにあります。企業の経営成績を表示する計算書を損益計算書、財政状態を表示する計算書を貸借対照表といい、両者をあわせて財務諸表といいます。この講義では、企業が行う経済活動を記録、整理し、財務諸表を作成する一連の簿記の流れを学習します。

【到達目標】

・企業（商業）が行う主たる取引、経済活動が理解できる
・日商簿記検定3級の出題範囲（簿記の基本原則・諸取引の処理・決算）が理解できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。秋学期は、日商簿記検定試験3級の合格を目指して、過去問題にも取り組みます。
質問や疑問点がある場合は、遠慮なく講義中あるいは講義終了後に確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の進め方、簿記の意義
2	簿記のしくみ	簿記のしくみ
3	仕訳と転記	勘定の意義、取引の種類、仕訳と転記
4	仕訳帳と元帳	帳簿の種類、仕訳帳から元帳への転記
5	決算（1）	決算の意義と手続、試算表の作成
6	決算（2）	帳簿の締切りと財務諸表の作成、決算手続と精算表
7	現金と預金（1）	現金、現金過不足
8	現金と預金（2）	当座預金と当座借越、小口現金
9	繰越商品・仕入・売上（1）	3 分法、諸掛、値引、返品、
10	繰越商品・仕入・売上（2）	仕入帳と売上帳
11	売掛金と買掛金	売掛金と買掛金、元帳、明細表、前払金、前受金
12	その他の債権債務	貸付金・借入金、未収入金・未払金、立替金・預り金、仮払金・仮受金、商品券・他店商品券
13	受取手形と支払手形	手形の振出し・受入れ、手形代金の取立て・支払い、裏書譲渡と割引
14	春学期の総括	春学期の総括

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	有価証券	有価証券の取得と売却、利息と配当金、
16	固定資産	固定資産の取得、売却、減価償却、
17	貸倒損失と貸倒引当金	貸倒れと貸倒損失、見積もりと引当金の設定、
18	資本金と引出金	資本金、引出金、費用とならない税金
19	収益と費用	収益と費用の種類、見積り・繰延べ、消耗品費の処理、
20	伝票	仕訳帳と伝票、3 伝票制、帳簿への記入、集計
21	財務諸表（1）	決算手続、試算表の作成
22	財務諸表（2）	棚卸表の作成と決算整理事項、精算表の作成
23	練習問題（1）	日商簿記検定試験第 145 回（第 1 - 3 問）の練習・解説
24	練習問題（2）	日商簿記検定試験第 145 回（第 4・5 問）の問題に取り組む
25	練習問題（3）	日商簿記検定試験第 146 回（第 1 - 3 問）の問題に取り組む
26	練習問題（4）	日商簿記検定試験第 146 回（第 4・5 問）の問題に取り組む
27	練習問題（5）	日商簿記検定試験第 147 回（第 1 - 3 問）の問題に取り組む

28 練習問題（6） 日商簿記検定試験第 147 回（第 4・5 問）の問題に取り組む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容（特に講義中に行った練習問題）が理解できるよう、復習をしてください。

【テキスト（教科書）】

渡辺裕巨、片山覚、北村敬子編著『検定簿記講義3級』、中央経済社、最新版

【参考書】

渡辺裕巨、片山覚、北村敬子編著『検定簿記ワークブック3級』、中央経済社、最新版

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期ともに定期試験（100 %）で評価します。
講義中に小テスト（課題）を行う可能性もあります。この場合、小テストの点数はボーナスとして定期試験の点数に加点します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

講義中に問題演習を行いますので、授業には電卓を持参してください。

【その他の重要事項】

なし

【関連科目】

会計学入門、財務会計論、経営分析論

【Outline and objectives】

Bookkeeping is the process of recording daily transactions in a company. The main purpose of bookkeeping is to help interested parties making their decisions by reporting the financial position and business performance of a company. Income statement reports the financial performance of a company over a specific accounting period. Balance Sheet reports the financial position of a company at a specific accounting date. In this course students learn a sequence of accounting procedures during an accounting period that includes Journalization, Posting, Adjustments, Income Statement and Balance sheet preparation.

MAN100FA-A4030

簿記入門Ⅰ

専門入門科目 100 番台

1 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

MAN100FA-A4031

簿記入門Ⅱ

専門入門科目 100 番台

1 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

北田 皓嗣

※ クラス指定があります。 ※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計の基礎である複式簿記の基礎的な事項の学習が本講義の目的です。また経営学部での 4 年間の学習の基礎として、学習の導入となる科目です。

【到達目標】

講義や演習を通じて帳簿記帳および基礎となる会計理論の習得を目標とします。またこれらを通じて、経営学や会計学を学ぶことに関心を持ってもらえるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。また必要に応じて記帳・計算演習を交えながら習得していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の内容と目的と説明、簿記の役割と簿記を学習する意義について解説します。
第 2 回	資産・負債・純資産 (1)	資産・負債・純資産の概念、貸借対照表の仕組みについて学習していきます。
第 3 回	資産・負債・純資産 (2)	資産・負債・純資産の概念、貸借対照表の仕組みについて学習していきます。
第 4 回	収益・費用	収益・費用の概念、損益計算書の仕組みについて学習していきます。
第 5 回	取引	簿記上の取引の意味、取引要素について学習していきます。
第 6 回	仕訳 (1)	仕訳の意味を学習し、仕訳帳への記入の練習します。
第 7 回	仕訳 (2)	仕訳の意味を学習し、仕訳帳への記入の練習します。
第 8 回	勘定記入	総勘定元帳の意味、総勘定元帳への転記の仕方について学習します。
第 9 回	帳簿	帳簿の種類と、伝票による処理について学習します。
第 10 回	試算表の作成	試算表の種類と作成の方法について学習します。
第 11 回	決算手続き (1)	決算の意義や精算表の仕組み、6 桁精算表の作成の方法について学習します。
第 12 回	決算手続き (2)	総勘定元帳と仕訳帳の締切りと繰越試算表の作成の方法について学習します。
第 13 回	決算手続き (3)	損益計算書・貸借対照表の作成の方法について学習します。
第 14 回	現金・預金の記帳	現金、現金出納帳、現金過不足、当座預金について学習します。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	商品売買の記帳 (1)	3 分法と分記法と違いについて説明するとともに、仕訳帳と売上帳について学習します。
第 16 回	商品売買の記帳 (2)	商品有高帳の記帳を練習し、商品販売損益の計算の仕組みを学習します。
第 17 回	掛取引の記帳	売掛金・買掛金および貸倒れについて学習します。
第 18 回	手形取引の記帳 (1)	受取手形および支払手形について学習します。
第 19 回	手形取引の記帳 (2)	手形の意味や種類について説明するとともに、手形の処理について学習します。
第 20 回	その他の債権債務の記帳	貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、立替金・預り金、仮払金・仮受金、商品券について学習します。
第 21 回	有価証券の記帳	有価証券の処理および利息と配当金の処理について学習します。
第 22 回	固定資産の記帳 (1)	固定資産の取得および減価償却の処理について学習します。
第 23 回	固定資産の記帳 (2)、営業費の記帳	固定資産の売却時の処理および各種営業費の処理について学習します。

第 24 回 税金の記帳

税金の処理について学習します。

第 25 回 資本金と引出金

個人企業の資本金、引出金の処理について学習します。

第 26 回 決算手続き (1)

決算整理事項について学習します。

第 27 回 決算手続き (2)

8 桁精算表の作成方法について学習します。

第 28 回 まとめと復習問題

総合練習問題を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に復習として演習問題を解いてみてください。

【テキスト（教科書）】

・TAC 株式会社 (簿記検定講座) 編著 TAC 出版『よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記 3 級』

・TAC 株式会社 (簿記検定講座) 編著 TAC 出版『よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記 3 級』

上記の 2 冊のテキストと問題集について、2019 年 4 月 1 日時点での最新版を用います。恐らく ver.10 になる予定です

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト (40%)、期末テスト (40%)、授業参加 (20%)

【学生の意見等からの気づき】

各トピックごとに練習問題を授業や宿題として解けるようにします。

【その他の重要事項】

経営学部で学習するすべての会計系科目の基礎となるだけでなく、簿記の仕組みに対する考え方は、経営学部の専門科目や演習での学習にも関連してきます。

【Outline and objectives】

The objectives of this class are to learn basic knowledge of double-entry bookkeeping and apply it to multi situational calculations. It is one of the core class for students at the Faculty of Business Administration.

MAN100FA-A4032

経営学総論Ⅰ（2016～2018 年度入学者）

1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA-A4033

経営学総論Ⅱ（2016～2018 年度入学者）

1～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN100FA-A4034

経営学総論Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）

1～4 年次／4 単位[年間授業/Yearly]

木村 純子

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において最も重要な位置を占めている組織は、「企業（会社）」とよばれる組織です。商品・サービスを提供し、多くの人びとは生活の糧を企業から得ています。この講義では、この「企業（会社）」組織の運営に焦点を当てます。NTT ドコモ、ソフトバンク、セブン-イレブン、トヨタ自動車、任天堂…といった大企業から、近所にある中堅・中小企業まで、世の中には大小さまざまな企業があります。企業経営にかかわるさまざまな授業（経営学総論、戦略論、組織論など）の入門となる授業です。

授業を通じて学生は経営学の基礎理論を体系的に習得します。

【到達目標】

経営学検定試験の初級レベルの合格を目標とします。

多彩なスタイルで構成される授業を通じて、学生は理論と現実をつなぎ、論理的な議論を展開し、他者に説得的に説明する力を身につけます。

秋学期は人を動かす仕組みに集中して、どうすれば部下のやる気を引き出せるのかを理解していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は 3 つのスタイルで行われます。

1 つ目はレクチャーです。学生は教員の講義によって経営学の理論を学びます。

2 つ目は授業内の課題活動です。学生は単に授業に出席するだけでなく課題に取り組みアウトプットとしてレポートを作成します。

3 つ目は講演です。一流企業のマネジャー・経営者として活躍する人々たちを招き実社会における経営の実際をお話いただきます。学生との活発なインタラクションを期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方
教室①		受講生の活動など
第 2 回	第 1 章：企業経営の全体像：『もしドラ』の「ドラ」とは？	企業経営とは？：企業、企業と各市場、情動的経営資源①
オンデマンド①		
第 3 回	第 1 章：企業経営の全体像	事例：産地偽装
教室②		
第 4 回	第 2 章：経営学の全体像	経営学とは？：広義・狭義の経営学、心理学などとの関係、面白さ・実践性
オンデマンド②		
第 5 回	第 2 章：経営学の全体像	事例：ブロードリーチヘルスケア
教室 3		
第 6 回	第 4 章：企業とインプット（金融資本・労働）市場との関わり	会社とは？：株式会社の基本的な仕組み
オンデマンド③		
第 7 回	第 4 章：企業とインプット（金融資本・労働）市場との関わり	事例：松下電器産業
教室④		
第 8 回	第 5 章：企業とアウトプット（製品・サービス）市場との関わり	経営戦略とは？：製品サービス市場、経営戦略の定義・階層性
オンデマンド④		
第 9 回	第 6 章：競争戦略のマネジメント (Part.1)：基本的な考え方	市場セグメンテーション、価値の創出、競争相手、5 つの競争要因
オンデマンド⑤		
第 10 回	第 6 章：競争戦略のマネジメント (Part.1)：基本的な考え方	SWOT 分析、セグメンテーション
教室⑤		
第 11 回	ゲストスピーカー	調整中
教室⑥		
第 12 回	第 7 章：競争戦略のマネジメント (Part.2)	コスト・リーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略
オンデマンド⑥		
第 13 回	第 7 章：競争戦略のマネジメント (Part.2)	事例：スターバックス
教室⑦		

第 14 回 まとめ
教室⑧

春学期のまとめ

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？：マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「未来工業」①
第 2 回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？：マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「未来工業」②
第 3 回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？：マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「キリンビバレッジ」①
第 4 回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？：マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「キリンビバレッジ」②
第 5 回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？：マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「キリンビバレッジ」③
第 6 回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？：マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：理論枠組み①
第 7 回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？：マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「中学校英語教師」①
第 8 回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？：マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「中学校英語教師」②
第 9 回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？：マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「中学校英語教師」③
第 10 回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？：マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：理論枠組み②
第 11 回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？：マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「青梅慶友病院」①
第 12 回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？：マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「青梅慶友病院」②
第 13 回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？：マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「青梅慶友病院」③
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は復習に重点を置いて勉強することが薦められます。講義を受講した後、教科書の指定範囲を読み復習するようにしてください。授業内では適宜課題を出します。

【テキスト（教科書）】

加護野忠男・吉村典久編著『1 からの経営学（第 2 版）』（2012 年、碩学舎・中央経済社刊）の一部。

【参考書】

適宜、紹介します。『日本経済新聞』や『日経ビジネス』など、企業経営にかかわる情報がある出版物の紹介もします。

【成績評価の方法と基準】

授業内レポート 100 %

【学生の意見等からの気づき】

本講義は一部の授業回をオンデマンド形式（動画配信）で実施する新しいタイプの授業のためこれまでの授業からの意見はありませんが、インタラクティブな授業スタイルを取り入れる予定です。

【その他の重要事項】

本講義は一部の授業回をオンデマンド形式（動画配信）で実施します。

詳細は、春学期・秋学期共に第 1 回授業の際に指示します。

履修者数、受講生の理解度、進行具合によってスケジュールと内容を変更する場合があります。

授業内レポートについては、以下の例外を除き後からの提出を認めません。1) 病気やケガ (病院の診断書をご提出ください)、2) お身内のご不幸、3) 部活の試合 (書類をご提出ください)

関連科目：経営学、社会学、心理学の科目

プロジェクトに投影された資料をスマートフォン等を使って撮影することを禁止します。

ECN100FA-A4038

ミクロ経済学入門Ⅰ（2016～2018年度入学者）

1～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

ECN100FA-A4039

ミクロ経済学入門Ⅱ（2016～2018年度入学者）

1～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

ECN100FA-A4040

ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）

1～4年次／4単位[年間授業/Yearly]

林 直嗣

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学は消費者や企業、政府など個別経済主体の経済行動を、価格や生産量などミクロの経済量をベースに分析する。消費者は何をどう需要するか、企業はどう生産計画を立てるか、市場価格はどうか決まるのか、独占はなぜ問題なのか、賃金や利潤などはどう分配されるのか、投資と資本蓄積はどんな基準で行われるのか、市場機構の限界と政府の役割とは何か、民主的意思決定機構はどう可能となるのか、不確実性は経済活動にどう影響するのか、など私たちの身の回りの経済問題について分かり易く、体系的に講義する。

各個人の身の回りに企業や産業、日本経済や世界経済に至るさまざまな経済問題を、消費者や企業、政府などの個別経済主体の視点から理解することが、この授業の目的である。

【到達目標】

消費者や企業、政府の経済問題を分かり易く解説することを通じて、履修生がミクロ経済への関心や理解を深めるとともに、日常生活や就職に活用できるようにすることを、授業の到達目標とする。単に理論を勉強するだけでなく、章ごとに具体例を用いた問題演習を行い、実際の分析力を養うトレーニングも目標とする。単に講義だけでなく主体的に問題演習を解くことによって、公務員試験、公認会計士試験、国税専門官、ファイナンシャルプランナー試験などの各種資格試験や就職試験に役に立つ実践力を養うことができる。これらの試験には二次方程式や最大・最小などの数学Ⅰや微分などの数学Ⅱは必須であり、大学の入門授業は高校までの学習の上に行うべきものである。しかし高校によってはそれらをやらない場合もある。そこで数学Ⅱ迄の復習を易しく解説した上で、大学の入門授業を分かりやすく行う必要がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業の方法はパワーポイントのスライドを活用した講義を主体とする。この授業ではインターネットによる先進的な Web 授業（マルチメディア教材）を視聴して e ラーニングを行うので、予習や復習に役立てることができる。ミクロ経済学の基礎を易しく解説し、章末では問題演習を行う。また授業内では教員と学生との間で生き活きた双方向のクイズを Q&A 方式で行い、学生参加型のアクティブ・ラーニングの授業を行う。またレポート提出や小テストなどを行い、履修生の理解を着実に深めていく方法を採用。期末には必ず試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、経済とミクロ経済学 (1)	授業の概要説明。ミクロ経済学の基礎的な考え方を易しく解説
第2回	経済とミクロ経済学 (2)	ミクロ経済学の基礎的概念を説明
第3回	市場経済と貨幣 (1)	市場経済と貨幣について基礎的概念を解説
第4回	市場経済と貨幣 (2)	市場経済と貨幣について進んだ考え方を説明
第5回	消費者の行動 (1)	消費者行動の基礎概念を説明
第6回	消費者の行動 (2)	消費者行動の基礎理論を説明
第7回	消費者の行動 (3)	消費者理論の核心を解説
第8回	消費者の行動 (4)	消費者理論の進んだ考え方を説明
第9回	企業の行動 (1)	企業理論の基礎を説明
第10回	企業の行動 (2)	企業理論の核心を解説
第11回	企業の行動 (3)	企業理論の進んだ考え方を説明
第12回	市場均衡 (1)	市場均衡論のエッセンスを解説
第13回	市場均衡 (2)	一般均衡論の核心を解説
第14回	市場均衡 (3)	一般均衡論の進んだ問題を解説

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第15回	独占市場 (1)	完全独占の基礎理論を解説
第16回	独占市場 (2)	独占の進んだ問題を解説
第17回	独占市場 (3)	寡占理論の核心を解説
第18回	独占市場 (4)	寡占理論の進んだ考え方を説明
第19回	所得分配 (1)	所得分配の基礎理論を説明
第20回	所得分配 (2)	所得分配の進んだ問題を解説

第21回	資本と利子 (1)	資本理論の核心を解説
第22回	資本と利子 (2)	資本理論の進んだ問題を説明
第23回	厚生経済学と社会的選択 (1)	厚生経済学のエッセンスを解説

第24回	厚生経済学と社会的選択 (2)	市場の失敗の諸問題を考える
第25回	厚生経済学と社会的選択 (3)	厚生経済学の進んだ問題を考える
第26回	情報と不確実性の経済学 (1)	情報と不確実性の基礎理論を説明
第27回	情報と不確実性の経済学 (2)	情報と不確実性の進んだ問題を分析
第28回	情報と不確実性の経済学 (3)	情報と不確実性の応用問題を考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は最も効果的な勉強法である。まず自分で教科書を読み、Web 授業を e ラーニングし、問題集を解いてみよう。何が理解できて何がわからないか明確になるので、授業に臨む態度やモチベーションが高まり、理解を効果的に高めることができる。大学設置基準では、予習を 30 時間、授業を 30 時間、復習を 30 時間、合計 90 時間を学修して 2 単位と定めているので、予習 2 時間 ⇒ 授業 2 時間 ⇒ 復習 2 時間の基本スタイルで主体的に学修しましょう。授業はもちろん毎回の予習復習の学習教材としても、教科書や問題演習の指定は大学の規則上必要である。

【テキスト（教科書）】

林直嗣著『経済学入門』新世社（入門・初級の教科書）2013 年
林直嗣著『問題演習 ミクロ経済学 再訂版』（スタディ・ガイドと問題集）2010 年

【参考書】

林直嗣著『ミクロ経済学入門』世界書院（初級の教科書）1992 年
福岡正夫著『ゼミナール 経済学入門』第 4 版、2008 年、日本経済新聞社（初級の教科書）

【成績評価の方法と基準】

大学設置基準第 27 条に従って必ず定期試験を行った上で、授業への参加度（出席等）、授業内クイズ、レポート、小テストなどの合計点を基準として成績評価をする。また大学設置基準 25 条の 2 では、「客観的で厳格な（正確な）」成績評価を行うことが法定されている。すなわち客観的な正規分布に正確に一致するように、成績評価をする必要があり、過度に辛かったり甘い絶対評価は、正規分布とならず、主観的で歪んだ評価となるので、設置基準に違反する。

【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の要望にできるだけ応えられるように配慮して、授業を進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

教室では、教科書や問題演習、ノートを持参し、情報検索のためにスマホや PC を活用しましょう。

先進的な Web 授業（マルチメディア教材）を作成し、本学サイトから聴講できるようにしてあるので、学内の PC 端末から、あるいは学外からは VPN 接続をした PC 端末から、予習をしたりテスト前に復習をすると効果的である。病気などで欠席した場合には、それを聴講して代用できる。

【その他の重要事項】

公務員試験や会計士試験、国税専門官、ファイナンシャルプランナーなどの資格試験や就職試験では、微分など数学Ⅱの問題が出題される傾向にあるので、数学Ⅱの復習の上に理論だけでなく問題演習もすることが望ましく、この授業をとることを特に勧める。

【関連科目】

マクロ経済学Ⅰ/Ⅱ（ILAC 科目 2 群）を合わせて履修することが望ましい。この科目は経済学関係の基礎的科目なので、今後経済学関係の専門科目を履修する人は必ず履修登録することが望ましい。

【Outline and objectives】

Microeconomics analyzes economic behaviors of individual economic agents such as consumers, firms, and governments based on microeconomic quantities such as price and production volume. What and how does a consumer demand, how does a firm plan production, how is the market price decided, why is monopoly a problem, how are wages and profits distributed, how are investment and capital accumulation carried, what are the limits of the market mechanism and the role of a government, how can democratic decision-making mechanisms be made, how does uncertainty affect economic activities, etc. We explain these problems easily and systematically.

情報学入門Ⅰ/Ⅱ(2019年度以降入学者)・情報科学実習Ⅰ/Ⅱ(2018年度以前入学者) 1 年次／2 単位 □

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

最近では、様々な場面においてコンピュータが利用され、必須のものとなっている。さらに、スマートフォン、携帯端末に代表されるように、コンピュータネットワークに接続し、コンピュータを用いて情報交換することができるようになって来た。我々の生活のあらゆる場面で広く活用され、道具として使いこなすことは、誰にとっても当然のこととして要求されるようになっていく。

情報学に関する専門基礎科目の目標は、皆さんが PC や情報ネットワークに慣れ親しみ、情報化社会の中で問題を解決するために有効に活用することができる能力を養うことである。

具体的には、第一に、コンピュータである情報通信機器に慣れ親しみ、「読み・書き・算盤」に相当する情報リテラシーを学ぶことであり、不自由なく PC や情報ネットワークを使いこなすことができるようにすることである。第二に、既存のソフトウェアを扱うことができるようになるだけでなく、独自のプログラムを作成し、自分自身で問題解決ができるようになることである。第三は、情報リテラシーを学ぶことによって、情報を使いこなしながら生活していく基礎能力を養うことである。

皆さんが高校までに習得した一般的な基礎に加えて、大学生にふさわしくさらに進んだ情報学基礎を学ぶことができるように、本実習科目では以下の6つのコースを設けている。自分の興味にあったコースを選び、さらに力をつけましょう。

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

〔表計算コース〕

情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、必要な情報を収集し、分析するために表計算ソフトウェアを用いて様々なデータの整理、分析を行い、ワークシート上での様々な計算をする方法やグラフの作成法等を学ぶ。

〔データ演習コース〕

情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、必要な情報を収集し、分析するために初級プログラミング言語として一般的な **Visual Basic for Applications** を用いた初歩的なプログラミングを行う。結果として、様々な問題に対する解決のための思考能力を養う。

〔データベースコース〕

情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、必要な情報を収集し、分析するためにデータベースソフトウェアを用いてデータの収集・整理・計算・管理方法を学び、グラフの作成法等も学ぶ。

〔空間情報処理コース〕

情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、後半には各教員の専門に近い形でのテーマ設定により問題解決能力を養う。例えば、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法、簡易 GIS ソフトを用いた空間情報解析の基礎能力を身につける。

〔メディア情報処理コース〕

情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、後半には各教員の専門に近い形でのテーマ設定により問題解決能力を養う。例えば、画像編集ソフトを利用した基礎的な画像加工ができる。描画ソフトを利用した描画の基礎的な方法を知る。DTP ソフトを利用した紙面デザインの基礎的技術を習得する。

〔言語データ処理コース〕

情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、後半には各教員の専門に近い形でのテーマ設定により問題解決能力を養う。例えば、文字ベースのデータおよび音声データの入手や分析に必要な IT スキルの基本を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
各コース	各コースのページを参照。	各コースのページを参照。
のページ		
を参照。		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各コースのページを参照。

【テキスト（教科書）】

各コースのページを参照。

【参考書】

各コースのページを参照。

【成績評価の方法と基準】

各コースのページを参照。

【学生の意見等からの気づき】

各コースのページを参照。

【学生が準備すべき機器他】

各コースのページを参照。

【その他の重要事項】

各コースのページを参照。

【関連科目】

各コースのページを参照。

【Outline and objectives】

PRI100FA-A4041

情報学入門Ⅰ（表計算）（2019年度以降入学者）

専門入門科目 100 番台

1 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

PRI100FA-A4120

情報科学実習Ⅱ（a コース）（2018年度入学者）

1・2 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

PRI100FA-A4119

情報科学実習Ⅰ（a コース）（2018年度入学者）

1・2 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

PRI100FA-A4204

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

1・2 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

PRI100FA-A4203

情報科学実習Ⅰ（2016～2017年度入学者）

1・2 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

PRI100FA-A4202

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

1・2 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

PRI100FA-A4201

情報科学実習Ⅰ（2016～2017年度入学者）

1・2 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

PRI100FA-A4200

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

1・2 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

PRI100FA-A4199

情報科学実習Ⅰ（2016～2017年度入学者）

1・2 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

PRI100FA-A4198

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）

1・2 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

PRI100FA-A4197

情報科学実習Ⅰ（2016～2017年度入学者）

1・2 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

PRI100FA-A4046

情報学入門Ⅱ（表計算）（2019年度以降入学者）

専門入門科目 100 番台

1 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

PRI100FA-A4045

情報学入門Ⅰ（表計算）（2019年度以降入学者）

専門入門科目 100 番台

1 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

PRI100FA-A4124

情報科学実習Ⅱ（a コース）（2018年度入学者）

1・2 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

PRI100FA-A4123

情報科学実習Ⅰ（a コース）（2018年度入学者）

1・2 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

PRI100FA-A4042

情報学入門Ⅱ（表計算）（2019年度以降入学者）

専門入門科目 100 番台

1 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

PRI100FA-A4048

情報学入門Ⅱ（表計算）（2019年度以降入学者）

専門入門科目 100 番台

1 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

PRI100FA-A4044

情報学入門Ⅱ（表計算）（2019年度以降入学者）

専門入門科目 100 番台

1 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

PRI100FA-A4047

情報学入門Ⅰ（表計算）（2019年度以降入学者）

専門入門科目 100 番台

1 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

PRI100FA-A4043

情報学入門Ⅰ（表計算）（2019年度以降入学者）

専門入門科目 100 番台

1 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

PRI100FA-A4126

情報科学実習Ⅱ（a コース）（2018年度入学者）

1・2 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

PRI100FA-A4122

情報科学実習Ⅱ（a コース）（2018年度入学者）

1・2 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

PRI100FA-A4125

情報科学実習Ⅰ（a コース）（2018年度入学者）

1・2 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

PRI100FA-A4121

情報科学実習Ⅰ（a コース）（2018年度入学者）

1・2 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

根岸 良征

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学ぶ。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れる。

【到達目標】

専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に付けることを目標とする。より具体的には、表計算ソフト、日本語ワードプロセッサ、インターネット、プレゼンテーションソフトなどの情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

情報実習室のコンピュータを用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行く。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基本操作	コンピュータの仕組みを理解し、と Windows の基本操作を学習する。
第 2 回	キーボード入力	英字・日本語の入力を練習する。
第 3 回	電子メール	インターネットの仕組みを理解し、電子メールの送受信の操作を学ぶ。
第 4 回	インターネット検索	各種の Web サイトから情報を効果的に検索・収集する方法を学習する。
第 5 回	文書の入力	日本語ワードプロセッサ（Word）での文字の入力操作、各種文字への効率的な変換操作を学ぶ。
第 6 回	文書編集の基本操作	Word による基本的な文書編集操作を学習する。
第 7 回	効率的な文書編集	各種の編集機能を学び、効果的に文書を構成できるようにする。
第 8 回	ビジュアル文書の作成	図形・画像・表などを挿入した文書の作成方法を学ぶ。
第 9 回	文書の応用的な編集	段組み、文書スタイルなどを利用したレポートや論文、長文などの作成方法を学習する。
第 10 回	表計算の基礎知識	表計算ソフト（Excel）を利用したデータ集計の考え方を理解する。
第 11 回	データの入力と編集	セルへのデータの入力方法と編集方法を学ぶ。
第 12 回	簡単な表の作成	データを入力して簡単な表を構成する方法を学習する。
第 13 回	行・列の編集	行単位や列単位での効率的なデータ編集の方法を学ぶ。
第 14 回	ワープロと表計算の連携	表計算ソフトと連携して文書を作成する方法を学習する。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の基本操作を学ぶ。
第 2 回	プレゼンテーションの各種表現	図形やイラスト等を挿入した効果的なプレゼンテーションの作成法を学習する。
第 3 回	ワークシート編集の基礎	複数のワークシートの利用方法や編集機能を理解する。
第 4 回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ。
第 5 回	セルの参照方法	相対参照、絶対参照の考え方を理解する。
第 6 回	応用的な関数の利用	if 関数や lookup 関数を利用した集計処理を学習する。
第 7 回	データ集計の応用	複数項目を対象としたクロス集計などの応用的な集計方法を学ぶ。
第 8 回	グラフの基礎	基本的なグラフの作成方法を習得する。
第 9 回	グラフの編集	グラフの各部分（軸や凡例等）の編集について学習する。
第 10 回	グラフの応用	応用的なグラフ（複合グラフ、散布図、レーダーチャートなど）の作成について学ぶ。
第 11 回	表計算ソフトのデータベース機能	データの並べ替え、検索、抽出などのデータベース機能を学習する。
第 12 回	統計的なデータ処理の基礎	各種のデータの統計的な集計方法の基礎を学ぶ。
第 13 回	表計算と他のソフトとの連携	ワープロやプレゼンテーションで利用する表の作成方法について学ぶ。
第 14 回	総合演習	ワープロ・表計算の様々な編集方法を活用して課題に対する報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの操作練習や課題作成においては、担当教員の指示に従い予習・復習を行う。

【テキスト（教科書）】

教材については授業内で適宜提示する。授業で使用する資料等を適宜配布する。

【参考書】

参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

原則として期末テストあるいは課題演習（60%）を行い、平常点・授業に対する積極度（20%）、定期的な課題提出（20%）を考慮して評価する（テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合がある）。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方、使用教材、難易度等につて担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行う。

【学生が準備すべき機器他】

実習は情報実習室の PC を使用して行う。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline and objectives】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方から、より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解することを目標とする。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例を紹介する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の扱い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の扱い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の処理の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングを学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline and objectives】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

PRI100FA-A4105	情報学入門Ⅰ（データベース）（2019年度以降入学者）	専門入門科目 100 番台	1 年次／2 単位	[春学期授業/Spring]
PRI100FA-A4264	情報科学実習Ⅱ（2016～2017 年度入学者）		1・2 年次／2 単位	[秋学期授業/Fall]
PRI100FA-A4263	情報科学実習Ⅰ（2016～2017 年度入学者）		1・2 年次／2 単位	[春学期授業/Spring]
PRI100FA-A4183	情報科学実習Ⅰ（d コース）（2018 年度入学者）		1・2 年次／2 単位	[春学期授業/Spring]
PRI100FA-A4108	情報学入門Ⅱ（データベース）（2019 年度以降入学者）	専門入門科目 100 番台	1 年次／2 単位	[秋学期授業/Fall]
PRI100FA-A4107	情報学入門Ⅰ（データベース）（2019 年度以降入学者）	専門入門科目 100 番台	1 年次／2 単位	[春学期授業/Spring]
PRI100FA-A4106	情報学入門Ⅱ（データベース）（2019 年度以降入学者）	専門入門科目 100 番台	1 年次／2 単位	[秋学期授業/Fall]
PRI100FA-A4186	情報科学実習Ⅱ（d コース）（2018 年度入学者）		1・2 年次／2 単位	[秋学期授業/Fall]
PRI100FA-A4184	情報科学実習Ⅱ（d コース）（2018 年度入学者）		1・2 年次／2 単位	[秋学期授業/Fall]
PRI100FA-A4262	情報科学実習Ⅱ（2016～2017 年度入学者）		1・2 年次／2 単位	[秋学期授業/Fall]
PRI100FA-A4308	情報科学実習Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）		1・2 年次／4 単位	[年間授業/Yearly]
PRI100FA-A4307	情報科学実習Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）		1・2 年次／4 単位	[年間授業/Yearly]
PRI100FA-A4185	情報科学実習Ⅰ（d コース）（2018 年度入学者）		1・2 年次／2 単位	[春学期授業/Spring]
PRI100FA-A4261	情報科学実習Ⅰ（2016～2017 年度入学者）		1・2 年次／2 単位	[春学期授業/Spring]

渡辺 英人

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生のための情報処理入門講座です。Microsoft Word、Excel、PowerPoint、そして Access などの代表的なソフトを使って、社会科学、人文科学などを学ぶみなさんが、大学で、さらに社会で活躍するようになってからも役立つ知識と技術をわかりやすく解説し、確実に習得していただきます。文献やインターネット上から有益な情報をどのようにして検索、収集、効率的な整理、効果的な利用と実践的な内容です。大学生としての基礎力、社会人になるための基礎力が身につく！在学中のみならず、将来にわたって、必ず役に立ちます！

【到達目標】

大学で学ぶ「社会科学」「人文科学」における様々な問題に、情報機器、とりわけパーソナルコンピュータとソフトウェアを効率的に利用して、それぞれの研究や学習を深める方法を受講者全員が正確に理解し、応用できるようになることが目標です。大学在学中のみならず、社会に出てからも「役に立つ」スキルを身につけよう！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

在学中のみならず、社会に出てからも必要となる知識と技術を、講義と実習形式で、わかりやすく解説します。使用するコンピュータとソフトウェアは、みなさんが日常的に使用しているものと同程度のものを。また、実社会においても標準的に使用されているものだけを選んで解説します。とくにマイクロソフト社製「Microsoft Office」に含まれる「Word」「Excel」「PowerPoint」「Access」は確実に覚えましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	コンピューターとは何か（ハードウェアとソフトウェア）	情報処理の基礎
2	キーボード入力練習	情報処理の基礎

3	機器の取扱いと Windows の操作法	情報処理の基礎
4	電子メールやソーシャルメディアの利用	電子メールの利用やその他のソーシャルメディアについて。操作、利用、マナーなど解説する。
5	インターネットと大学生の研究・学習	インターネットを利用した効率的な情報検索、収集の基礎。
6	ワープロ操作（Word による文章入力）の練習	ワープロ操作（Word による文章入力）の練習
7	ワープロ操作（Word による文章入力）の練習	ワープロ操作（Word による文章入力）の練習
8	インターネットと Word を使った課題作成	インターネットを利用した情報検索、収集とレポート作成。
9	Excel の操作法（基本操作）	表計算ソフトについて解説する。データの収集、入力、読み込み、保存、印刷。
10	Excel の操作法（計算機能と関数）	表計算ソフトの計算機能について解説。
11	Excel の操作法（表作成）	表計算ソフトの表作成機能について解説。
12	Excel の操作法（グラフの作成）	表計算ソフトのグラフ作成機能について解説。
13	Excel とインターネットを使ってデータ収集、再利用方法（Excel データベース入門）	インターネット上から、統計資料、データをダウンロードして、効率よく処理蓄積し、再利用する方法を解説。
14	Excel とプレゼンテーション（データベースと資料作成）	プレゼンテーションに効果的な Excel 資料の作成方法について解説。
Ⅱ 秋学期		
回	テーマ	内容
15	インターネットと Excel を使った課題作成	インターネットを利用した情報検索、収集と Excel による資料作成。
16	PowerPoint による文章表現・プレゼンテーション	プレゼンテーション用ソフトウェア「PowerPoint」の基礎。
17	PowerPoint による文書表現・プレゼンテーション	効果的なプレゼンテーション資料の作成方法。

18	インターネットと PowerPoint を使った課題作成	インターネットを使って情報検索、収集、および効率的なプレゼンテーション資料を作成する。
19	データベース入門Ⅰ (データベースの基本構築)	Excel を活用したデータベース構築の基礎Ⅰ。データベースとは何か？
20	データベース入門Ⅱ (データベース構築の準備)	Excel を活用したデータベース構築の基礎Ⅱ。日々の学習にデータベースを活用する方法について。
21	Excel を活用したデータベース資料の作成	Excel を活用したデータベース構築の基礎。情報発見・蓄積・効率的利用方法について解説、実践。
22	Access によるデータベース構築の基礎 (リレーショナルデータベースの基礎知識)	Access を使って効率的な情報収集、蓄積、そして利用方法の基本を理解する。
23	Access によるデータベース構築の基礎 (リレーショナルデータベースの設計と構築)	Access を使ってデータベースの構造や応用を理解する。
24	Access によるデータベース構築の基礎 (リレーショナルデータベースを使った情報収集、効率的蓄積、利用方法)	Access を使って学習、研究におけるデータベースの設計と構築を実践する。
25	Access によるデータベース資料の作成	インターネット上のデータを使って、 Access によるデータベース構築を行う。検索サイトの効率的利用につなげる。
26	効率的な情報検索、収集、蓄積方法について考える (インターネットと非インターネット)	情報処理技術を社会科学、人文科学の学習、研究にどう活用するか。情報検索手法の再検討。
27	効率的な情報検索、収集、蓄積方法について (利用者の視点から設計者、提供者の視点へ)	情報処理技術を社会科学、人文科学の学習、研究にどう活用するか。利用者から設計者、情報提供者の視点に立って考えてみる。
28	効率的な情報検索、収集、蓄積方法について (総まとめ)	情報処理技術を社会科学、人文科学の学習、研究にどう活用するか。21世紀のネット社会における「情報とは何か」を考える。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

必要に応じて、あらかじめ授業内容を記した資料を配付するので、復習のみならず予習、授業準備を行って欲しい。

【テキスト (教科書)】

開講時に指定する。USB フラッシュメモリを、用意して欲しい。容量等については、開講時に説明します。

【参考書】

開講時、および授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期に試験 (課題作成：50%) を行います。ひとりひとりの理解度と授業への参加状況 (平常点：50%) を合わせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

情報処理を一人一人の大学生活や日常生活に積極的に応用できるように、わかりやすく解説します。授業の目的、目標は大学での学習や研究、日常生活、そして将来にわたって職業人、家庭人としても「役に立つ」知識や技術を身につけることです。

【学生が準備すべき機器他】

データ保存用に USB フラッシュメモリを用意してください。容量等については開講時に説明します。

【その他の重要事項】

実習を伴う授業ですから参加者全員が同時にスタートし、終了することが必要です。授業に遅刻しないこと。全員が理解できるようにていねいに解説します。大学在学中のみならず、将来にわたり必要不可欠な知識と技術です。初心者大歓迎！大切なことは「意欲がある」ことだけ！「積極的に授業に参加する学生のみ」集まって欲しい！

【関連科目】

大学生としての、すべての学習、研究活動の基礎となる「実学」です。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline and objectives】

It is an introductory information and technology science course for university students. Using leading software such as Microsoft Word, Excel, PowerPoint, and Access to learn social sciences, humanities, etc., everyone at university knows the useful knowledge and technology even after becoming active in society, I will explain it easily and surely master it. How to find useful information from the literature and the Internet, searching, collecting, efficient sorting, effective use and practical content. I will acquire the fundamental power as a college student, the basic ability to become a society person! It will definitely help not only during your studies, but also for the future!

PRI100FA-A4109	情報学入門Ⅰ（空間情報処理）（2019年度以降入学者）	専門入門科目 100 番台	1 年次／2 単位	〔春学期授業/Spring〕
PRI100FA-A4112	情報学入門Ⅱ（空間情報処理）（2019年度以降入学者）	専門入門科目 100 番台	1 年次／2 単位	〔秋学期授業/Fall〕
PRI100FA-A4110	情報学入門Ⅱ（空間情報処理）（2019年度以降入学者）	専門入門科目 100 番台	1 年次／2 単位	〔秋学期授業/Fall〕
PRI100FA-A4111	情報学入門Ⅰ（空間情報処理）（2019年度以降入学者）	専門入門科目 100 番台	1 年次／2 単位	〔春学期授業/Spring〕
PRI100FA-A4190	情報科学実習Ⅱ（f コース）（2018年度入学者）		1・2 年次／2 単位	〔秋学期授業/Fall〕
PRI100FA-A4188	情報科学実習Ⅱ（f コース）（2018年度入学者）		1・2 年次／2 単位	〔秋学期授業/Fall〕
PRI100FA-A4268	情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）		1・2 年次／2 単位	〔秋学期授業/Fall〕
PRI100FA-A4266	情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者）		1・2 年次／2 単位	〔秋学期授業/Fall〕
PRI100FA-A4310	情報科学実習Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）		1・2 年次／4 単位	〔年間授業/Yearly〕
PRI100FA-A4309	情報科学実習Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）		1・2 年次／4 単位	〔年間授業/Yearly〕
PRI100FA-A4189	情報科学実習Ⅰ（f コース）（2018年度入学者）		1・2 年次／2 単位	〔春学期授業/Spring〕
PRI100FA-A4187	情報科学実習Ⅰ（f コース）（2018年度入学者）		1・2 年次／2 単位	〔春学期授業/Spring〕
PRI100FA-A4267	情報科学実習Ⅰ（2016～2017年度入学者）		1・2 年次／2 単位	〔春学期授業/Spring〕
PRI100FA-A4265	情報科学実習Ⅰ（2016～2017年度入学者）		1・2 年次／2 単位	〔春学期授業/Spring〕

小寺 浩二

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で、様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。特に応用面では、現在、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法、簡易GISソフトを用いた空間情報解析の基礎能力を身につける。

【到達目標】

情報リテラシーの基礎と応用能力を修得する。
特に、空間情報解析の基礎能力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は、総合的な情報リテラシーを重視した内容で、ワープロ・電子メール・インターネット・表計算ソフト・プレゼンテーションを利用した表現法などについて学ぶ。各学部学科や、個人的に興味のあるテーマに沿って総合的なリテラシー活用法を身につけた上で、秋学期には、電子地図・衛星画像・統計情報などを利用して様々なマップ（分布図）を作り、様々な地域環境情報の活用法を習得する。利用するのは、高度なGISソフトではなく、無料で手に入り、誰でも使えるフリーソフトなので、今後の様々なレポート作成などにも活用することができる貴重な能力を身につけることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	ハードとソフト
(春期)		
第 2 回	キーボード入力練習	MYKATYPE を使った入力練習
(春期)		
第 3 回	機器の取り扱いと Windows の操作法	起動、終了操作など
(春期)		

第 4 回	ワープロ入門	Word による文章入力
(春期)		
第 5 回	ワープロ応用	Word による文書体裁など
(春期)		
第 6 回	通信入門	電子メールの送受信とブラウザ利用
(春期)		
第 7 回	通信応用	Web ブラウザとデータベースの活用
(春期)		
第 8 回	表計算ソフト入門	Excel の基本操作習熟
(春期)		
第 9 回	表計算ソフト活用	Excel での表・図の作成
(春期)		
第 10 回	表計算ソフト応用	Excel での統計解析
(春期)		
第 11 回	プレゼンテーション入門	PowerPoint の基礎
(春期)		
第 12 回	プレゼンテーション応用	PowerPoint の応用
(春期)		
第 13 回	総合実習 1	Excel での解析と Word でのレポート
(春期)		
第 14 回	総合実習 2	PowerPoint を用いた実際の発表
(春期)		
Ⅱ 秋学期		
回	テーマ	内容
第 1 回	地域環境情報とは？	地域科学・環境科学と様々な情報
(秋期)		
第 2 回	GIS と SIS	地理情報システムと空間情報システム
(秋期)		
第 3 回	様々な地域環境情報とその収集・管理・活用法	公的機関の HP など
(秋期)		
第 4 回	地図を作ろう	階級区分図
(秋期)		
第 5 回	コンビニエンスストアの分布図	具体的事例 1
(秋期)		
第 6 回	東京都の地価分布図	具体的事例 2
(秋期)		
第 7 回	八王子市の土地利用変化	具体的事例 3
(秋期)		

第 8 回	水質調査マップ (秋期)	具体的事例 4
第 9 回	ヒートアイランドと環境 (秋期)	具体的事例 5
第 10 回	パラメータ評価 (秋期)	G I S の活用 1
第 11 回	フリーソフトで作る空間 (秋期)	G I S の活用 2
第 12 回	統計 G I S プラザ・国勢 (秋期)	具体的なデータの活用法
第 13 回	調査データ・白地図活用 (秋期)	G I S ソフトによる分布図作成と解析
第 14 回	総合実習 1 (秋期)	
第 14 回	総合実習 2 (秋期)	総合的な時空間解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期：できる限り本授業で学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する。

秋学期：同様に、様々な講義で扱う地域環境情報について、分布図を作成し、時空間解析を試みる。

【テキスト（教科書）】

春学期：第 1 回授業時に指示。「情報リテラシー」に関する教科書。

秋学期：後藤真太郎ほか（2013）：『MANDARA と EXCEL による市民のための G I S 講座（第 3 版）』，古今書院

【参考書】

・中村和郎ほか（2002）：『地理情報システムを学ぶ』，古今書院

・佐土原 聡ほか（2005）：『図解！ Arc G I S 身近な事例で学ぼう』，古今書院

・川崎昭如ほか（2008）：『図解！ Arc GIS Part2 G I S 実戦に向けてのステップアップ』，古今書院

その他、授業の進度に合わせて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30 %）、課題（30 %）、試験（40 %）をあわせて総合的に評価する。授業進度によっては、配点を変更することもあり得る。

【学生の意見等からの気づき】

学部・学科の専門に関係なく、幅広い情報リテラシーの基礎能力を育成し、秋学期では、各専門分野の興味に従った応用に対応できるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室の P C で実習を行う。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

SIS

GIS

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学・水文学・陸水学

<研究テーマ>

1) 水循環に伴う物質循環

2) 人間活動に伴う水環境変化と保全

3) GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline and objectives】

When advancing learning of the various fields at a university, necessary basis of information literacy and application ability are acquired. It's often used by the various learning fields and business categories at present by the application area in particular, and the basis ability of the spatial information analysis using the electronic map it was, how to handle it statistics information with position information, a creating method of a distribution map using those and simple GIS software is learned.

PRI100FA-A4113

情報学入門Ⅰ（空間情報処理）（2019年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

PRI100FA-A4311

情報科学実習Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者） 1・2 年次／4 単位 [年間授業/Yearly]

PRI100FA-A4270

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者） 1・2 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

PRI100FA-A4269

情報科学実習Ⅰ（2016～2017年度入学者） 1・2 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

PRI100FA-A4192

情報科学実習Ⅱ（f コース）（2018年度入学者） 1・2 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

PRI100FA-A4114

情報学入門Ⅱ（空間情報処理）（2019年度以降入学者） 専門入門科目 100 番台 1 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

PRI100FA-A4191

情報科学実習Ⅰ（f コース）（2018年度入学者） 1・2 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

永保 敏伸

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学入門＜空間情報処理＞コース情報科学実習＜f コース＞

大学において様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。

特に応用面では、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法を習得する。その際、簡易GISソフト（MANDARA）を用いた空間情報解析の基礎能力を身につけることを目的とした作業を行う。

【到達目標】

情報リテラシーの基礎と応用能力を修得する。

特に基礎部分では Excel を用いた処理技術に重点を置く。応用部分において、身に着けた Excel での処理技術を用いて準備する空間情報解析のデータセットを利用した空間情報解析の基礎能力を獲得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義は原則的に実習形式（講義 → 実習 → まとめ）で行う。必要に応じて学生の成果を発表してもらうこともある。

また、提供した情報を基に、各自が問題解決の手段として活用できるよう実習を行う。講義の進度は、当該年度に履修登録した学生の習熟度を考慮し決める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	パソコン（Windows）の仕組み	ハードウェアと、ソフトウェアの解説
第 2 回	ビジネスツールとしての電子メール	相手に意図を伝える為のマナーと作法
第 3 回	クラウドコンピューティング	Onedrive や GoogleDrive などを活用したデータの保管方法
第 4 回	ワープロ基礎（Word）	基本操作の確認
第 5 回	ワープロ応用（Word）	文章構成の練習
第 6 回	プレゼンテーション①（Impress）	実習やゼミなどで行う発表の準備
第 7 回	プレゼンテーション②（PowerPoint）	基本操作の確認
第 8 回	プレゼンテーション③（PowerPoint）	表・図形・写真の投影方法
第 9 回	表計算ソフト①（Excel）	基本操作の確認 データに応じた図表の作成方法確認

第 10 回	表計算ソフト②（Excel）	オートフィルタを用いた数値の処理
第 11 回	表計算ソフト③（Excel）	関数を用いた基礎的な集計処理
第 12 回	表計算ソフト④（Excel）	条件式など複雑な関数を用いた処理
第 13 回	空間情報解析の導入（MANDARA）	GIS ソフトを用いた主題図作成
第 14 回	総合実習	プレゼンテーションソフトを用いた実際の発表

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	地域環境情報とは？GIS と S I S	内容 地域科学・環境科学と様々な情報、そして、地理情報システムと空間情報システムの概要
第 2 回	地域環境情報とその収集・管理・活用法	インターネット上に公開されている各種統計情報を扱う
第 3 回	地図（主題図）作成	階級区分図の作成
第 4 回	地図情報の取得	国土地理院などが提供している各種地図データを扱う
第 5 回	測地系と座標変換	地図を作成する前提条件を確認する
第 6 回	ジオコーディング入門	住所や GPS を用いて位置情報を取得する
第 7 回	位置情報の活用	地図上に任意の地点（緯度経度）を描く
第 8 回	属性データの加工	1 次データに追加作業を行い、必要なデータを整える
第 9 回	主題図作成実習	自由に階級区分図を描くための準備をする
第 10 回	データの種類と表現方法	階級区分を考える上で、重要な度数分布の検討を行う
第 11 回	主題図の重ね合わせ	作成した複数の主題図を重ねて 1 枚の図で表現する
第 12 回	Google Earth 活用	MANDARA で作成した主題図を Google Earth へ出力する
第 13 回	総合実習 1	GIS ソフトによる分布図作成と解析
第 14 回	総合実習 2	GIS ソフトによる分布図作成と解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期：本授業で学んだことを利用して、様々な学習・課題作成などに取り組みよう努力する。

秋学期：様々な講義で扱う地域環境情報について分布図を作成し時空間解析を試みる。

【テキスト（教科書）】

春学期：授業時に指示、「情報リテラシー」に関する教科書。

秋学期：谷 謙二（2018）：『フリー GIS ソフト MANDARA10 入門：かんたん!オリジナル地図を作ろう』, 古今書院。

【参考書】

・岡本 敏雄ほか 2017.『改訂新版 よくわかる情報リテラシー』, 技術評論社
・佐土原 聡ほか 2005.『図解! ArcGIS 身近な事例で学ぼう』, 古今書院

・川崎昭如ほか 2008.『図解! ArcGIS Part2 GIS 実践に向けてのステップアップ』, 古今書院
その他、授業の進捗に合わせて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

1. 毎回該当講義で紹介した実習に関わる小課題を課す。この作業結果をもって平常点（30 %）とする。

2. 主たる講義内容ごとにまとめを主眼とした課題（30 %）を課す。
 3. 最後に、当該学期を総括する学期末試験（40 %）を行う。
- 上記1. ～3. をあわせて総合的に評価する。授業進度によっては、試験や課題の有無や配分を変更することもあり得る。

【学生の意見等からの気づき】

学部・学科の専門に関係なく、幅広い情報リテラシーの基礎能力を育成し、秋学期では、各専門分野の興味に従った応用に対応できるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のPCで実習を行う。

【その他の重要事項】

本講義は情報実習室でパソコンを用いた実習を行う。

【厳守】

- ・初回講義時までに、大学のパソコンにログインするためのIDとパスワードを取得すること。
- ・受講者多数の場合は、抽選を行うので初回講義に必ず出席すること。

秋学期は、春学期に習得する技術を前提とした内容となっている。特にExcelに関して関数の使用方法に自信のある学生以外は、原則的に春学期、秋学期連続して受講すること。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

【オフィス・アワー】

授業前後に質問を受け付ける。

【Outline and objectives】

Introduction to Informatics < Geospatial information processing > course

Learn the fundamentals and applied capabilities of information literacy necessary for promoting learning in various fields at university.

Particularly in application aspect, we learn how to handle electronic maps and statistical information with location information that are frequently used in various disciplines and industries, and how to create distribution maps using them.

For doing this, to acquire the basic ability of spatial information analysis using free GIS software (MANDARA) is the purpose of this lecture.

PRI100FA-A4115	情報学入門Ⅰ（メディア情報処理）（2019年度以降入学者）	専門入門科目 100 番台	1 年次／2 単位	〔春学期授業/Spring〕
PRI100FA-A4194	情報科学実習Ⅱ（f コース）（2018 年度入学者）		1・2 年次／2 単位	〔秋学期授業/Fall〕
PRI100FA-A4116	情報学入門Ⅱ（メディア情報処理）（2019 年度以降入学者）	専門入門科目 100 番台	1 年次／2 単位	〔秋学期授業/Fall〕
PRI100FA-A4312	情報科学実習Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）		1・2 年次／4 単位	〔年間授業/Yearly〕
PRI100FA-A4272	情報科学実習Ⅱ（2016～2017 年度入学者）		1・2 年次／2 単位	〔秋学期授業/Fall〕
PRI100FA-A4193	情報科学実習Ⅰ（f コース）（2018 年度入学者）		1・2 年次／2 単位	〔春学期授業/Spring〕
PRI100FA-A4271	情報科学実習Ⅰ（2016～2017 年度入学者）		1・2 年次／2 単位	〔春学期授業/Spring〕

築城 厚三

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。はじめは、ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの基礎に触れる。その後、画像編集ソフトから描画ソフト、DTP（DeskTop Publishing）ソフトの活用法までを学ぶ。

【到達目標】

大学での学習に必要な情報の収集、整理、発信にかかわる基礎的能力を習得する。画像編集ソフトを利用した基礎的な画像加工ができる。描画ソフトを利用した描画の基礎的な方法を知る。DTP ソフトを利用した紙面デザインの基礎的技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

初めの 10 回は、ワープロ、表計算、プレゼンテーションを学ぶ。その後、春学期は Adobe Photoshop（画像編集ソフト）までを扱い、秋学期には Illustrator（描画ソフト）と InDesign（DTP ソフト）を用いて基本的な操作方法から画像の編集、デザインの方法までを学ぶ。最終的に InDesign で冊子の見開きページを作成する。どのようにすれば簡潔かつ的確に内容を伝えることができるか、いくつかのサンプルを元に考え、実際に形にしてみるという経験を積む。また、実習授業なので、各自のやりたいことがあればそれに沿って柔軟に内容を検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス	PC スキルおよび知りたい内容等に関する簡単なアンケート。
2	ワープロソフトの基本操作 1	基礎的な文書作成、画像の挿入、レポート、論文の書き方、ショートカット等。
3	ワープロソフトの基本操作 2	レポート、論文の書き方について、課題提示。
4	表計算ソフトの基本操作 1	基本操作から簡単な関数。
5	表計算ソフトの基本操作 2	よく使う関数や実用的な関数の使用方法。
6	表計算ソフトの基本操作 3	データベース、グラフ機能、課題提示。
7	表計算ソフトの基本操作 4	実習、課題について回答例提示、解説。
8	プレゼンテーションソフトの基本操作 1	アニメーション、スライドマスタ、リハーサル機能、効果的なプレゼン方法。
9	プレゼン準備	実習、プレゼン準備。
10	プレゼン実習・講評	プレゼン、相互評価。この先の展望。DTP で扱うソフトについて。画像編集ソフトに触れてみる。これから使うソフトでできること。
11	画像編集ソフトの基本操作 1	写真の加工、レイヤーについて。
12	画像編集ソフトの基本操作 2	色域選択、トーンカーブ等、使える技術。
13	画像編集ソフトの基本操作 3	素材加工実習、課題提示。
14	画像編集ソフト実習	

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	画像編集ソフト復習、DTP について	実習、素材加工。
16	描画ソフトの操作方法 1	シェイプの作成、塗りと線、パスの描き方。
17	描画ソフトの操作方法 2	レイヤー、オブジェクトの結合、切り抜き等。
18	描画ソフトの操作方法 3	色について、パスの練習、さまざまな機能。
19	描画ソフトの操作方法 4	パスの練習、さまざまな機能。
20	描画ソフト実習 1	実習、ロゴ等の作成。
21	描画ソフト実習 2	実習、ロゴ等の作成。
22	DTP ソフトの操作方法 1	DTP ソフトで何ができるか概観。級、歯、フォント、縦組みと横組み。
23	DTP ソフトの操作方法 2	レイアウトグリッドとフレームグリッド。各部の名称とマスターページ、ドキュメントページ。
24	DTP ソフトの操作方法 3	テキストの流し込み、文字の編集。
25	DTP ソフトの操作方法 4	画像配置、タイトルの作成、デザイン、編集。
26	DTP ソフト実習 1	課題に沿って、与えたデータを正確に組む。
27	DTP ソフト実習 2	最終課題提示、実習、課題作成。
28	DTP ソフト実習 3	実習、課題作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各ソフトの操作手順解説後に課題を与える。また、授業で使った資料、解説した主な内容、作業途中のファイルなどは、授業終了後に授業支援システムにアップする。必要に応じて復習する、欠席した際には確認するなど、自主的に時間外学習に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業支援システムに資料をアップしておき、授業時に作業の指示をする。

【参考書】

築城厚三『ACA アドビ認定アソシエイト対応 Photoshop CC 試験対策』オデッセイコミュニケーションズ
築城厚三『ACA アドビ認定アソシエイト対応 Illustrator CC 試験対策』オデッセイコミュニケーションズ
『Photoshop 独習ナビ』および『Illustrator 独習ナビ』インプレスジャパン
『よくわかる InDesign の教科書』マイナビ
『デザインの学校 これからはじめる InDesign の本』技術評論社

【成績評価の方法と基準】

出席時の取り組み状況（50 %）、課題提出の状況（50 %）。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問や疑問点、より深く知りたい内容については、出席調査票やメールから随時受け付け、これらの質問に対して授業冒頭に回答ながら授業を進める。教卓から的一方通行でなく、双方向性のある授業をめざす。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室の PC を使用する。

【その他の重要事項】

コンピュータの教に限りがあるため、履修者数が多い場合は抽選を行う（上限数は実施教室による）。
文学部科目「編集実務 A」「編集実務 B」（DTP による誌面構成の方法）を履修したい学生は、事前に本科目を履修しておくことをお勧めする。

【オフィス・アワー】

質問がある場合は E-mail で受け付ける。
メールアドレスは経営学部掲示板でお知らせします。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to learn the basic and applied skill of information literacy necessary to learn in various fields at university. At first, We will study basics of word processing, spreadsheet, presentation software. Afterwards we will learn image editing software to drawing software and how to use DTP (DeskTop Publishing) software.

PRI100FA-A4117

情報学入門Ⅰ（言語データ処理）（2019年度以降入学者）専門入門科目 100 番台 1 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

PRI100FA-A4118

情報学入門Ⅱ（言語データ処理）（2019年度以降入学者）専門入門科目 100 番台 1 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

PRI100FA-A4196

情報科学実習Ⅱ（f コース）（2018年度入学者） 1・2 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

PRI100FA-A4274

情報科学実習Ⅱ（2016～2017年度入学者） 1・2 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

PRI100FA-A4313

情報科学実習Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者） 1・2 年次／4 単位 [年間授業/Yearly]

PRI100FA-A4195

情報科学実習Ⅰ（f コース）（2018年度入学者） 1・2 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

PRI100FA-A4273

情報科学実習Ⅰ（2016～2017年度入学者） 1・2 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

石川 潔

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

特に（外国語）教師になりたい場合や言語学を学びたい場合に必要となる部分に重点を置いて、入門レベルのパソコン・スキルを身に着けます。

【到達目標】

パソコンを使って、レポートや卒論がきちんと書けるようになり、（外国語）教育や言語研究で必要になるパソコン・スキルの初歩を身に着けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

情報実習室のパソコンで実習を行いながら、必要な知識やスキルを身に着けていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	パソコンって何？	大まかな仕組み
第 2 回	パソコンの基本操作	パソコンと Windows の基本操作の学習
第 3 回	文書作成の基本 1	全角・半角の区別、英字・日本語の入力の練習
第 4 回	文書作成の基本 2	テキスト・ファイル、文字サイズ、字体、フォント、など
第 5 回	文書作成の基本 3	漢字コードの使い分け、IPA（発音）記号など
第 6 回	パソコン操作のテクニック	動かなくなった時、やり直しをしたい時などに、どうしたらいい？
第 7 回	パソコンでのメール	メールの読み書き環境、書き方、読み方
第 8 回	作文法	レポートや論文の書き方の基本
第 9 回	Word でのレポート作成術 1	字数と語数、脚注、コメントなど
第 10 回	Word でのレポート作成術 2	（例文）番号と相互参照
第 11 回	Word でのレポート作成術 3	ファイルの埋め込み、など
第 12 回	Word でのレポート作成術 4	（樹形）図の作成、など
第 13 回	Word での卒論作成術	セクション区切り、目次の自動作成、など
第 14 回	プレゼン・ツールの基本	プレゼンテーションソフト (PowerPoint) の基本操作の学習

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	インターネットの基本	大まかな仕組み
第 16 回	インターネット検索	web サイトからの情報検索法
第 17 回	Excel：最初の一步	点数の合計や平均を計算してみる
第 18 回	Excel：セル操作	セル結合、罫線、色分け、折り返し表示、などなど
第 19 回	Excel でのグラフ作成の初歩	様々な種類のグラフを作り、Word 文書にコピペ
第 20 回	Excel での成績計算 1	様々な点数処理テクニック
第 21 回	Excel での成績計算 2	偏差値などの計算

第 22 回	Excel でのデータ分析 1	データ型、文字列操作、数値の簡単な処理
第 23 回	Excel でのデータ分析 2	分析ツールの導入
第 24 回	Excel でのデータ分析 3	3 年 A 組と 3 年 B 組、点数は本当に違う？
第 25 回	コーパスって何？	英単語や日本語単語の頻度調査をやってみる！
第 26 回	音声の扱い 1	パソコンでの音声データの記録方式
第 27 回	音声の扱い 2	録音と編集
第 28 回	プレゼン・ツールの応用	PowerPoint によるリスニング・テストの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

趣味などのために自宅でパソコンを使うのに加えて、特に復習をやりまわってください。パソコンの入門には、一種の「スポーツ」という側面があります。つまり、「習うより慣れよ」です。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

必要に応じて適宜、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、期末試験 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

（厳密には新設科目ですが、関連する前年度科目からの改善点ということで書く）外国語教育や言語学系の人が主な対象ですが、なるべくそれ以外の人にもとにかく「役立つ」ことを目指します。

【学生が準備すべき機器他】

必須ではないけど、自宅にもパソコンがあるのが望ましいです（買う際の機種選び方に役立つ内容も授業でやるつもりですけど）。

【その他の重要事項】

授業計画は「参考」であり、学生の理解度などに応じて柔軟に変更していくつもりです。

【関連科目】

文学部英文学科等の言語系の諸科目

【実務経験のある教員による授業】

N/A.

【Outline and objectives】

An introductory lessons for using personal computers, especially for prospective (foreign language) teachers as well as students of linguistics.

MAN200FA-A4351

会計学入門Ⅰ

MAN200FA-A4352

会計学入門Ⅱ

筒井 知彦

※ クラス指定があります。

2～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

2～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3 年次以降、会計を中心に学ぶ学生にはもちろん、経営学部などの分野を学ぶ学生にとっても会計の入門的な内容を把握することは必須です。本講義は初めて会計学を学ぶ学生を対象に、(1) 企業会計の基本となる考え方と、(2) それがどのようにして実際の企業活動の記録に適用されているのかを理解してもらうことを目標とします。

【到達目標】

- (1) 財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）の基本的内容を理解することができる。
- (2) 財務諸表のデータを利用して基本的な経営分析をすることができる。
- (3) 企業会計の基本となる考え方を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期

財務諸表を利用する立場から、主要な財務諸表の読み方、財務データを利用した経営分析のやり方を学ぶ。任天堂やソニーなどの財務諸表を適宜利用する。基本的には講義形式を取るが、関連するテーマについてビデオを見たり、授業中、学生諸君に問題を解いてもらうことがある。

秋学期

会計学入門Ⅱでは、(1) 損益計算書に計上される収益や費用がどのような考え方に基づいて計算されているか、(2) 貸借対照表に計上される資産、負債、資本がどのような考え方にもとづいて評価されているかについて、基本的な考え方を学ぶ。基本的には講義形式をとるが、適宜、学生諸君には授業中に計算問題を解いてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、会計数値の意味
2	会計とは何だろうか？	貸借対照表、損益計算書のしくみ
3	会計の法規制	金融商品取引法、会社法、法人税法の意義と仕組み
4	貸借対照表の仕組み	任天堂とセガの事例をもとにして内容を把握する。具体的には、両者の貸借対照表の3カ年の数値の時系列変化とそこから読み取れる特徴を受講生の作業により把握する。
5	損益計算書の仕組み	任天堂とセガの事例をもとにして内容を把握する。具体的には両社の3カ年の数値の変化とそこから読み取れる特徴を受講生の作業により把握する。
6	キャッシュフロー計算書の仕組み	任天堂とセガの事例をもとにして内容を把握する。両社の3カ年の数値の時系列変化とそこから読み取れる特徴を受講生の作業により把握する。
7	貸借対照表データを利用した経営分析 (1)	流動比率、固定比率
8	貸借対照表データを利用した経営分析 (2)	固定長期適合率、株主資本比率
9	貸借対照表データを利用した経営分析 (3)	任天堂とセガの事例をもとに、流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率を受講生が3カ年について時系列分析する。
10	損益計算書データを利用した経営分析 (1)	売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率
11	損益計算書データを利用した経営分析 (2)	任天堂とセガの事例をもとに、売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率を受講生が3カ年について時系列分析する。
12	ROE、ROA などの経営分析指標	株主資本利益率、総資本事業利益率
13	経営分析の実践	任天堂とセガについて、講義で行った両社の諸比率データをもとに分析する。春学期の講義について総復習と問題演習を行う。
14	まとめ	

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、会計理論を学習する意味
2	収益の会計 (1)	収益の認識について、3つの基準を理解し、原則となる実現基準の内容を把握する。
3	収益の会計 (2)	収益の認識について例外的な発生基準、現金基準の内容を把握する。
4	収益の会計 (3)	発生基準についてゼネコンの事例をもとに、会計処理方法の変更を分析し、工事完成基準と工事進行基準の問題練習を行う。
5	費用の会計 (1)	棚卸資産①：先入先出法、後入先出法、総平均法の3つの評価基準について学習し、受講生が計算問題を解く。
6	費用の会計 (2)	棚卸資産②：石油元売り企業の事例をもとに、会計方針の変更について学習する。
7	費用の会計 (3)	有形固定資産の減価償却について、意義や処理方法について学習する。
8	費用の会計 (4)	有形固定資産の減損について、費用配分と評価の違い、現在価値計算の方法、会計処理方法について学習する。
9	費用の会計 (5)	繰延資産について前払費用と繰延資産の違い、即時費用化と繰延の違い、繰延資産の5項目の内容について学ぶ。
10	負債の会計	引当金について、繰延資産と引当金の違い、引当処理の方法、ポイント引当金について学習する。
11	資本の会計	純資産の部の内容について学ぶ。
12	金融資産の会計 (1)	資金調達・運用の手段である株式、社債の内容と違いについて学ぶ。合わせて資金調達方法としての借入金について学習する。
13	金融資産の会計 (2)	有価証券の評価について、保有目的により評価基準が異なることから、売買目的有価証券と満期保有目的有価証券について学ぶ。
14	まとめ	秋学期の講義について総復習と問題演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義前にテキストの該当部分を予習するとともに、講義後には配布したプリントを読み直し復習してください。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配布します。

【参考書】

桜井久勝「会計学入門（第4版）」日経文庫 2015 年
桜井久勝「財務会計講義 第18版」中央経済社 2017 年
定評のあるテキストである。
(注) ここに示したテキストはシラバス執筆時点での最新版ですが、開講時までに改訂版が出版されることがあります。その場合には最新版を使用します。参考書の詳細な説明は第1回の授業で説明しますので、それまでは購入を合わせてください。

【成績評価の方法と基準】

定期試験の成績（80 %）と平常点（20 %）を総合して決定します。平常点には小レポートの評価を含みます。

【学生の意見等からの気づき】

- ①私語について厳しく対処します。
- ②リアクションペーパーにコメントや質問を記入してもらい、数回に一回の講義でコメントします。
- ③問題練習を適宜行います。

【学生が準備すべき機器他】

電卓を利用することがあります。その場合、事前にアナウンスします。

【その他の重要事項】

会計学入門ⅠとⅡは通年で履修することを前提としているので、春学期・秋学期を続けて履修してください。

【関連科目】

1 年次の簿記入門を履修済みであればさらに理解は深まると思われる。未履修の場合、並行履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

It will provide an introduction to basic concepts in accounting and their application for decision making by a wide range of potential users. This unit should benefit students who wish to specialise in accounting, and will also be of value to students whose primary interest lies elsewhere in the field of business. On completion, students should have a clear understanding of the accounting process and the language of accounting to enable communication with an accounting professional, understand the relevance of accounting information for informed decision making by a wide range of potential users, and have the ability to analyse and interpret accounting information.

MAN200FA-A4353

会計学入門Ⅰ

MAN200FA-A4354

会計学入門Ⅱ

坂上 学

※ クラス指定があります。

2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3 年次以降に会計学の専門分野を中心に学習しようと思っている学生だけでなく、経営学部のすべての学生が経営学分野を学習する際に会計学の基礎知識は必要です。この講義は企業会計における損益計算の仕組みや収益費用の具体的計算等の財務会計の基本的事項と財務諸表の読み方・分析を中心に企業会計の基礎を学びます。最終的には企業会計の基本的ルールの理解と財務諸表分析の基本的枠組みを理解し、必要に応じて財務諸表が読めるようになることを目標とします。

【到達目標】

企業の財務会計が、どのようにして企業活動の実態を会計情報へと描き出すのか、また人々はその情報をどのように利用して企業の状況を調べればよいかを総合的に解説し、財務諸表の作成プロセスだけでなく、実際に公表される財務諸表を基礎として、利用者が企業の経営分析を行えるための基礎知識を習得することを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的にはテキストに沿って講義を進めるが、理解を深めるための補助教材として、適宜プリントなどを配布する予定である。途中、1～2 回はほどミニテストを実施するかもしれない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の概要と進め方
第 2 回	会計の種類	会計には、どのような種類があるのかについて説明する。
第 3 回	会計の役割	会計の役割について、説明する。
第 4 回	財務会計のシステム（1）	複式簿記システムのもとで、どのように会計情報が生み出されるのかについて解説する。
第 5 回	財務会計のシステム（2）	前回に引き続き、複式簿記システムのもとで、どのように会計情報が生み出されるのかについて解説する。
第 6 回	財務会計の基本原則	財務会計の基本原則にはどのようなものがあるのかを解説する。
第 7 回	企業の設立の会計	企業の設立に関して、会計がどのように関わっているのかについて解説。
第 8 回	企業の資金調達	企業が営業活動をおこなうにあたって必要となる資金調達がどのようにおこなわれているのかについて解説する。
第 9 回	仕入活動の会計	企業の仕入活動について、どのように会計処理がなされるのかについて解説する。
第 10 回	生産活動の会計	企業の生産活動について、どのように原価を把握しているのかについて解説する。
第 11 回	販売活動の会計（1）	企業の販売活動について、どのように会計処理をおこなうのかについて解説する。
第 12 回	販売活動の会計（2）	前回に引き続き、企業の販売活動について、どのように会計処理をおこなうのかについて解説する。
第 13 回	設備投資の会計	設備投資に関わって、減価償却などの会計処理について解説する。
第 14 回	研究開発の会計	研究開発に関わる会計処理について解説する。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	春学期の復習と秋学期授業の進め方	春学期に学習した内容について復習し、秋学期の授業の進め方について説明する。
第 16 回	資金の管理の会計	資金をどのように管理したらよいかについて、解説する。
第 17 回	資金の運用の会計	資金をどのように運用したらよいかについて、解説する。

第 18 回	国際活動の会計（1）	企業の経済活動が国際化するに伴って生じる会計問題について、解説する。
第 19 回	国際活動の会計（2）	企業の経済活動が国際化するに伴って生じる会計問題について、解説する。
第 20 回	税金の会計	税金に関する会計処理について、解説する。
第 21 回	配当の会計	配当に関する会計処理について、解説する。
第 22 回	財務諸表の作成	財務諸表がどのように作成されるのかについて、解説する。
第 23 回	財務諸表の公開	財務諸表がどのように公開されるのか、制度的な枠組みについて解説する。
第 24 回	企業集団の財務報告（1）	連結決算について、解説する。
第 25 回	企業集団の財務報告（2）	前回に引き続き、連結決算について、解説する。
第 26 回	財務諸表による経営分析（1）	財務諸表を利用した経営分析の初歩的な知識について解説する。
第 27 回	財務諸表による経営分析（2）	前回に引き続き、財務諸表を利用した経営分析の初歩的な知識について解説する。
第 28 回	本講義のまとめ	春学期・秋学期の内容についてまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講する前に、必ずテキストを読んで予習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』有斐閣アルマ、第 12 版（もしくは最新版）

【参考書】

桜井久勝『財務会計講義』中央経済社、最新版

【成績評価の方法と基準】

おおむね期末試験 80%、ミニテスト等 20% の割合で、総合的に評価をおこなう。したがってミニテストを一回も受けなくても単位は取得可能であるが、期末テストの点数が平均的だったとしても落第してしまう可能性が高くなることをあらかじめ承知しておいて欲しい。

【学生の意見等からの気づき】

私語をしている人を注意してくれて良かったという感想の学生が多いので、なるべく静かな環境で講義が受けられるように、最大限の配慮をおこないたい。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントでスライドを表示しながら講義を進めるが、特に特別な機器等は必要ない。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

科目の性格上、1 年次に「簿記入門」を受講していることが望ましい。まったく簿記の知識がない者が受講する場合、講義を理解するのは難しいかもしれないので、同時並行で簿記の学習を行うことを強く推奨する。

【Outline and objectives】

This course provides an introduction to financial accounting as the "language of business." It emphasizes the analysis and evaluation of accounting information from the perspective of both investors and managers in the processes of planning, decision-making, and control. The objective of the course is to provide an overview of financial accounting and external reporting, including the basic accounting concepts and principles, as well as the structure of the income statement, balance sheet, and statement of cash flows.

MAN200FA-A4355

会計学入門Ⅰ

MAN200FA-A4356

会計学入門Ⅱ

川島 健司

※ クラス指定があります。

2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務諸表の「作り方」と「読み方」を体系的に講義する。財務諸表の作り方を学ぶには、取引の実態を知り、簿記の技術を学び、会計処理の手続きに関する基本的な原理・原則や思考法を学ぶことが必要である。一方、読み方を学ぶには、伝統的な財務諸表分析の技法を知り、さらには企業価値の評価に必要な基礎的なファイナンスの知識を習得して応用することが必要である。

本講義では、こうした財務諸表の理解に必要な諸要素である「簿記」「会計原理と会計原則」「財務諸表分析」「会計学に必要なファイナンス」について、それぞれのもっとも基礎的な内容と各要素間の相互関係について解説し、会計学について総合的に理解することを目的とする。

【到達目標】

①簿記の技術と会計学における基礎的な語彙（概念）を習得し、その技術と語彙を用いて、経済活動をどのように会計的に表現しうるかを考察し、適切な財務諸表を作成する能力をつける、②財務諸表分析の技法とファイナンスの知識を用いて、企業が公表する財務諸表と各種 IR 情報を利用しながら、企業活動の実態を推論する能力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

1 年間（春学期・秋学期）の全体を以下の 4 つのパートに分割する。

第 1 部「簿記」（春学期・第 1 回～第 7 回）

第 2 部「会計原理と会計原則」（春学期・第 8 回～第 14 回）

第 3 部「財務諸表分析」（秋学期・第 1 回～第 7 回）

第 4 部「会計学に必要なファイナンス」（秋学期・第 8 回～第 14 回）

春学期の第 1 部と第 2 部は財務諸表の作り方、秋学期の第 3 部と第 4 部は財務諸表の読み方に関する内容である。第 4 部の基礎的なファイナンスの内容は、財務諸表の読み方のみならず、近年では財務諸表を作成するためにも必要な知識である（例えば、社債償却、リース会計、減損会計、退職給付会計、ストック・オプション会計等）。なお、春学期（財務諸表の作り方）と秋学期（財務諸表の読み方）はどちらの順番で履修しても差し支えない。

本講義では企業名を隠して、実際の公表財務諸表を分析する。受講生は、勘定科目の内容や財務構成を分析することを通じて、手にした財務諸表がどの業界のどの企業のものかを推論する。その目的は、イメージや先入観にとらわれずに企業実態の性質的特徴について理解することである。

本講義では、受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、春学期・秋学期で各 2 回ずつ、質疑応答の回を設定する。受講生は毎回の講義で、理解できなかった点や関心をもった点などを質問票に記述し（任意）、その質問票の内容を教員が整理・体系化し、それに公開回答するかたちをとる。公開された質問者には成績評価の際に加点する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	本講義の目標と構成	会計学を学ぶ意義や目的を受講生全員で認識、共有する。
2	簿記と財務諸表	収益計算書、損益計算書、貸借対照表の 3 書類について、それぞれの目的と相互関係を解説する。
3	簿記一巡の手続き	複式簿記を前提に、簿記一巡の手続きを数値例を用いて解説する。
4	財務活動に関する処理	資金調達とその還元に関する取引の記帳方法について解説する。
5	営業活動に関する処理 (1)	材料を購入し、製造し、販売する一連の取引を学習する。
6	営業活動に関する処理 (2)	引当処理と代表的な経過勘定項目について解説する。
7	投資活動に関する処理	固定設備を購入し、使用し、処分するまでの流れを記録する方法を解説する。
8	簿記 1～簿記 6 の確認と議論	簿記 1～簿記 6 の各回に寄せられた質問を全受講生で共有し、議論する。
9	会計の目的	会計の目的を理解し、その目的達成のためにどのような財務報告が求められるかを考察する。
10	利益計算の考え方：損益法と財産法	利益の計算方法には損益法と財産法という 2 つの異なる方法があることを理解する。
11	収益・費用の認識と測定：現金主義と発生主義	収益・費用の認識基準と測定方法について会計学の観点から検討する。

12	資産と負債の認識と測定：原価主義と時価主義	資産・負債の認識基準と測定方法について会計学の観点から検討する。
13	費用収益対応の原則	有形固定資産の会計処理を題材に、合理的な期間損益計算を達成するための対応原則について解説する。
14	会計基準を読む：『企業会計原則』と『国際財務報告基準』	会計処理の拠り所となる会計基準の必要性、その歴史と設定方法を解説する。
Ⅱ 秋学期	テーマ	内容
1	財務諸表の入手と概観	財務諸表分析にあたり、必要な情報の収集方法を解説。
2	損益計算書の読み方	損益計算書の様式、段階的に利益を計算・表示する意義、企業の収益性を評価する財務指標を解説。
3	貸借対照表の読み方	貸借対照表の様式、流動・固定の分類基準、企業の弁済能力の評価指標を解説。
4	利益調整の分析 (Earnings Management)	代替的な会計処理の手続きの存在を確認し、その選択と利益計算との関係を理解し、財務諸表の作り手の意図（動機）を推察する。
5	資産評価方法の分析 (Measurement Management)	資産の評価方法が利益計算とどのように関係するかを理解し、そこにどのような財務諸表の作り手の意図が存在しうるかを考察する。
6	表示方法の分析 (Presentation Management)	財務数値の表示選択に関する分析手法を紹介する。とくに、財務数値のグラフ表現について解説。
7	財務諸表分析 1～財務諸表分析 6 の確認と議論	財務諸表分析 1～財務諸表分析 6 の各回に寄せられた質問を全受講生で共有し、議論する。
8	会計情報と企業価値評価	ファイナンスの知見を導入すると企業実態の見え方がいかに変わるかを解説。
9	割引キャッシュ・フロー	割引キャッシュ・フローとその測定方法について解説する。
10	資本コスト	企業のリスク尺度としての資本コストについて解説する。
11	割引配当モデルから残余利益モデルへ	会計情報と企業価値が理論的にどのように関係するかについて考察する。
12	配当政策と資本構成	資金調達と配当に関する基礎的な理論（MM 理論や最適資本構成）を解説。
13	オプション評価モデル	基本的なオプション評価モデルを解説し、これに関する会計処理としてストック・オプション会計を解説。
14	ファイナンス 1～ファイナンス 6 の確認と議論	ファイナンス 1～ファイナンス 6 の各回に寄せられた質問を全受講生で共有し、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では有価証券報告書や IR 資料を副教材として用いる。これらは受講生が各自、企業のホームページからダウンロードして持参することとする。入手方法の詳細は講義内で説明する。

【テキスト（教科書）】

講義内容と演習問題を記述したレジュメを用いる。レジュメは授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。

【参考書】

・伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社、2018 年 4 月現在の最新版。
・伊藤邦雄『新・企業価値評価』日本経済新聞社、2018 年 4 月現在の最新版。
・中村忠『新稿・現代会計学』九訂版、白桃書房、2005 年。
・新田忠誓・佐々木隆他『会計学・簿記入門』第 12 版、白桃書房、2014 年。
・中野誠『戦略的コーポレートファイナンス』日経文庫、2016 年。

【成績評価の方法と基準】

以下の 2 点にもとづいて評価する（括弧内はウエイト）。①春学期末・秋学期末の筆記試験（80 %）：参照不可の筆記試験（電卓のみ持ち込み可）。期末試験をレポート課題に替えることはしないため、期末試験は必ず受験すること。②質問票への記述状況（20 %）：各回の授業終了後に受講生は任意で質問や感想を書面で提出することができる。その内容が全受講生にとって有益であると考えられるものは、翌週以降の講義で紹介する。この際、講義への参画と貢献に対する評価として、最大 20 % の範囲内で加点する。

【学生の意見等からの気づき】

板書の字が小さくて見えないという指摘が複数ありました。スライドを多用するよう改善します。また受講生にはできるだけ前列に座ってもらうよう授業開始時に案内します。

【学生が準備すべき機器他】

講義用レジュメは授業支援システムを利用して配信する。受講生はそれをダウンロード・印刷して授業に持参すること。

【その他の重要事項】

本講義は、事前に「簿記入門Ⅰ／Ⅱ」を履修していることを前提に講義を進める。もし未履修の場合には、日商簿記検定 3 級の内容を学んでおくことよい。その場合、各種専門学校（TAC, 大原簿記学校等）が出版する簿記検定の教科書を購入し自習しておくことを薦める。

【Outline and objectives】

This lecture provides a systematic knowledge "How to make" and "How to read" corporate financial statements. In order to learn how to prepare financial statements, it is necessary to learn the realities of transactions, learn techniques of bookkeeping, and learn basic principles and thought methods concerning accounting procedures. On the other hand, in order to learn how to read, it is necessary to learn the traditional method of financial statement analysis and further to acquire and apply basic knowledge of finance necessary for valuating corporate value.

In this lecture, students study the most fundamental elements for understanding such financial statements, "bookkeeping" "accounting principle and accounting principle" "financial statement analysis" and "corporate finance necessary for accounting practice". It explains mutual relations among those elements and aims to comprehensively understand modern accounting practices.

MAN200FA-A4357

経営管理論Ⅰ

2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4360

経営管理論Ⅱ

2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A4358

経営管理論Ⅱ

2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A4359

経営管理論Ⅰ

2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

稲垣 保弘

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〔春学期〕

経営管理の主要な理論について理解し、それに基づいて組織活動をどのようにマネジメントしていくのかを検討します。

〔秋学期〕

経営管理論Ⅰの延長であり、経営管理についての主要な理論の中で応用的なものを理解し、パワー作用などハウツー的な知識も包括して、組織活動のマネジメントについて検討します。

【到達目標】

授業のテーマ（組織のマネジメントの理論と実践）について、受講者の知識と論理的思考力などの能力向上を図り、組織の実現に対応できるような能力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**【授業の進め方と方法】**

受講者数や教室にもよりますが、講義形式の予定です（質問の時間は授業の終わりにとります）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、テキスト、参考文献などについて説明。
2	経営管理とは何か	経営管理=マネジメントの全体像の説明。
3	管理過程論とバーナード理論による管理の定義	代表的な定義によるマネジメントについての理解。
4	科学的管理法	科学的管理法の内容と現代的な意味。
5	人間関係論	人間関係論の内容と現代的な意味。
6	人間資源論	人間資源論の内容と現代的な意味。
7	モチベーション	組織の中の動機付けについて説明。
8	目標管理	目標管理の内容と企業への導入。
9	成果主義	日本企業における成果主義について。
10	管理過程理論	ファヨールの理論とアメリカの管理過程論について。
11	管理原則と組織	管理原則の内容と意味。
12	バーナード理論	バーナード理論の概要の説明。
13	インフォーマル組織と排除のメカニズム	インフォーマル組織の形成条件と、そこで作用する排除のメカニズムについて。
14	まとめ	春学期の内容を総合的にまとめる。

II 秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	秋学期の内容について説明。
2	サイモンの意思決定理論	意思決定の概要について、サイモンの理論を中心に説明。
3	コンティンジェンシー理論	コンティンジェンシー理論の内容と意味。
4	ローレンス＝ローシュの研究	コンティンジェンシー理論の代表的な研究の説明。
5	組織要素の連結	組織の構成単位の連結の様相について。
6	コンフリクト	組織のコンフリクトの解消方法について。
7	組織選択のごみ箱モデル	サイモンの意思決定理論で排除されていた部分を補う理論について。
8	組織の進化論的モデル	組織現象の流れをとらえようとする理論について。
9	組織の効率性と創造性	組織の効率性を高める方法と、創造性を高める方法。
10	組織の機能について	機能というコンセプトの意味。その組織での意味。

11	企業文化について	企業文化の役割とその形成、変革について。
12	リーダーシップの理論	リーダーシップの概念と主要な理論。
13	変革のリーダーシップ	リーダーシップが重要なのは、どのようなケースか。
14	組織のパワー作用	組織のパワー作用について、フランス現代思想、政治学、コンティンジェンシー理論などにもとづいて説明。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各時間ごとに、予習・復習の内容を指示します。

【テキスト（教科書）】

稲垣保弘『組織の解釈学』白桃書房（2002年）を予定。その他、配布プリントなどについて授業の開講時に説明します。

【参考書】

稲垣保弘『経営の解釈学』白桃書房（2013年）。経営管理の重要なテーマについて解釈学の視点から検討しているので、授業での理論的説明をより深く理解できます。その他は必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績の評価は定期試験が中心ですが、平常点も加味する予定です。詳細については開講時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

開講時に授業の進め方に関連して説明します。

【その他の重要事項】

関連科目：経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】

The course deals with basic management and organization theories. On the basis of understanding these theories, students will interpret management and organizational activities by applying theories to actual cases. Through these processes, students will learn logical and creative way of thinking about management and organization.

MAN200FA-A4361

経営戦略論Ⅰ

2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4362

経営戦略論Ⅱ

2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

吉田 健二

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、経営戦略についての様々な概念や理論を理解するとともに、企業が実際にとっている経営戦略を学ぶ。

【到達目標】

経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義を行います。ときどきビデオを使って、なるべく分かりやすいようにするつもりです。

板書されないことでも、自分が重要だと思ったことは、ノートに書くようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
1	コースの説明	コースの概要と進め方等の説明
2	経営戦略の概念（1）	経営戦略とは何か
3	経営戦略の概念（2）	経営戦略の3つのレベル
4	経営戦略の概念（3）	経営戦略の要素
5	経営戦略の策定プロセス（1）	経営戦略の策定プロセス
6	経営戦略の策定プロセス（2）	SWOT 分析
7	経営理念	経営理念
8	企業ドメイン	企業ドメイン
9	外部環境分析（1）	顧客分析
10	外部環境分析（2）	競争業者分析
11	外部環境分析（3）	業界分析
12	外部環境分析（4）	マクロ環境分析
13	自社能力分析（1）	自社能力分析
14	自社能力分析（2）	コア・コンピタンス、バリューチェーン

II 秋学期

回	テーマ	内容
1	コースの説明	コースの説明と春学期の復習
2	事業戦略（1）	3つの基本戦略
3	事業戦略（2）	差別化戦略
4	事業戦略（3）	コスト・リーダーシップ戦略、集中戦略
5	事業戦略（4）	先制攻撃、ブルー・オーシャン戦略
6	事業戦略（5）	競争地位別の戦略
7	事業戦略（6）	製品のライフサイクル
8	企業戦略（1）	製品・市場マトリックス
9	企業戦略（2）	多角化戦略
10	企業戦略（3）	参入戦略
11	企業戦略（4）	垂直統合戦略
12	企業戦略（5）	P P M
13	経営戦略の実行（1）	経営戦略の実行
14	経営戦略の実行（2）	戦略の実行の分析フレームワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の復習とテキストの指定された部分を事前に読んでくること。

【テキスト（教科書）】

沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略〔新版〕』有斐閣、2008 年。
より良いテキストが見つかった場合には、変更する可能性があります。第 1 回目の授業で、説明します。

【参考書】

- ① 網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011 年。
- ② 清水勝彦『戦略の原点』日経 BP 社、2007 年。
- ③ 三谷宏治『経営戦略全史』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2013 年。
- ④ デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済新報社、2002 年。
- ⑤ M.E. ポーター『競争の戦略（新訂版）』ダイヤモンド社、1995 年。
- ⑥ M.E. ポーター『競争優位の戦略』ダイヤモンド社、1985 年。
- ⑦ ジェイ・バーニー『企業戦略論（上・中・下）』ダイヤモンド社、2003 年。

①②④⑦は経営戦略論のテキストで、③は経営戦略論の 100 年の流れを描いた本で、⑤と⑥は経営戦略論の古典といわれる本です。
他は、授業時にその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

（経営戦略論Ⅰ）試験（100 %）春学期試験によって評価します。
（経営戦略論Ⅱ）試験（100 %）秋学期試験によって評価します。
当たり前のことですが、真面目に授業に出席しないと、単位が取れないようです。

【学生の意見等からの気づき】

経営戦略論の基礎を身につけるために、分かりやすい授業にするつもりです。
また、見やすいように板書することに努めます。

【その他の重要事項】

春学期（経営戦略論Ⅰ）と秋学期（経営戦略論Ⅱ）を続けて受講することをお勧めします。

マーケティング論Ⅰ/Ⅱと関連していますので、それらの科目も合わせて履修することをお勧めします。

専門科目で国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、国際経営論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、中小企業論Ⅰ/Ⅱ、技術管理論Ⅰ/Ⅱを履修したい人は、履修することをお勧めします。

「がっちりマンデー!!」（TBS テレビ、日曜日）、「カンブリア宮殿」（テレビ東京、木曜日）、「ガイアの夜明け」（テレビ東京、火曜日）、「未来世紀ジパング」（テレビ東京、水曜日）、「プロフェッショナル 仕事の流儀」（NHK テレビ、月曜日）のテレビ番組は、企業や経営者などを理解するのに役立ちますので、それらの番組を見ることをお勧めします。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to learn concepts and theories of strategic management and their applications in order to gain insight into the ways in which organizations develop and implement strategies.

MAN200FA-A4363

経営戦略論Ⅰ

2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4364

経営戦略論Ⅱ

2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

李 瑞雪

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、経営学における中核領域の一つである経営戦略論に関する概論的講義です。経営戦略論の基本的な理論や概念を理解するとともに、具体的な企業の取り組みとの関連について検討することを通じて、企業の戦略的行動を分析する能力を養います。

【到達目標】

主要な経営戦略に関する理論と概念を使って、現実の経営戦略を説明し、分析することができるようになることを、本講義の主たる到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ある程度大人数となることが予想されるため、基本的には講義方式で行いますが、講義中で具体的なケースを用いた作業（小レポート、ディスカッションなど）を適宜行う予定です。事前に講義資料を授業支援システムにアップロードし予習を求めます。質問や発言等は講義中にも随時受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期		
回	テーマ	内容
1	第1講 イントロダクション	講義内容の構成、戦略の定義、経営戦略の定義、経営ビジョンと経営戦略などの説明
2	第2講 プランニング・アプローチ（Ⅰ）	製品・市場ポートフォリオ、戦略的意思決定と業務的意思決定、成長ベクトル、シナジー、企業目標のヒエラルキー
3	第3講 プランニング・アプローチ（Ⅱ）	戦略策定の手順、SWOT 分析、PPM、ビジネス・スクリーン、バランスド・スコアカード
4	第4講 ポジショニング・アプローチ（Ⅰ）	S-C-P モデル（産業構造- 企業行動- 経営業績モデル）、ファイブ・フォース・モデル、ハーフィンダール指数、参入障壁
5	第5講 ポジショニング・アプローチ（Ⅱ）	PIMS モデル、戦略グループ、移動障壁
6	第6講 ポジショニング・アプローチ（Ⅲ）	産業構造と戦略的機会（前半）。集約・統合戦略、先行者優位、市場リーダーシップ戦略、ニッチ戦略、収獲戦略、撤退産業、勝者総取り戦略など
7	第7講 ポジショニング・アプローチ（Ⅳ）	産業構造と戦略的機会（後半）。グローバル戦略、マルチショナル戦略、トランスナショナル戦略、デファクト・スタンダード戦略、勝者総取り戦略、先制破壊戦略、埋没コスト、破滅的競争など
8	第8講 リソース・ベース・アプローチ（Ⅰ）	経営資源、経営資源の異質性と固着性、VRIO 分析フレームワーク、一時的競争優位と持続的競争優位
9	第9講 リソース・ベース・アプローチ（Ⅱ）	経営資源模倣困難の要因、経路依存性、社会的複雑性のある経営資源、経営資源保有のパラドックス、経営資源蓄積のメカニズム、戦略的意図、コア・コンピタンスの探究など
10	第10講 ゲーム・アプローチ、コペティション（Ⅰ）	価値相関図（バリエー・ネット）、「付加価値」の概念、競争と協調、顧客への「本質的サービス」の分析視点
11	第11講 ゲーム・アプローチ、コペティション（Ⅱ）	「価値」貢献度、明示的ルールと暗黙の認識、MFC 条項と MCC 条項、戦略的補完関係、意図的抑止 (contrived deterrence)
12	第12講 学習アプローチ、創発戦略（Ⅰ）	分析型・計画型アプローチとの違い、意図された戦略と実現された戦略、プロセス重視・学習重視、間接的戦略、帰納的戦略
13	第13講 学習アプローチ、創発戦略（Ⅱ）	学習の「場」、実験による学習、「反省」の重視、ダイナミック・シナジ

1 4 第14講 競争優位と一般戦略 競争優位とその累計、スタック・イン・ザ・ミドル、三つの一般戦略、見える差別化と見えざる差別化、垂直的差別化と水平的差別化

Ⅱ 秋学期

回 テーマ 内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃に日本経済新聞、日経ビジネス、Bloomberg Businessweek などの経済紙、ビジネス誌を読む習慣を身に着け、とりわけ企業の戦略的取り組みをめぐる記事や論説を読んで考えることをお勧めします。

【テキスト（教科書）】

とくにテキストを指定し購入を求めることはありません。事前に講義資料を授業支援システムにアップロードします。毎回の授業に先だって必ず該当する資料を印刷して予習してください。授業中は必ずしっかりとノートをとってください。

【参考書】

- 1) 青島矢一・加藤俊彦『競争戦略論』有斐閣
- 2) 沼上幹『経営戦略の思考法』日本経済新聞出版社
- 3) M.E. ポーター『競争の戦略』ダイヤモンド社
- 4) ジェイ・B・バーニー『企業戦略論』（上、中、下）ダイヤモンド社
- 5) G. サローナーほか『経営戦略論』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

ディスカッション参加（+a）、小レポートなど平常点（40%）、期末テスト（60%）、授業中の私語や携帯使用（-a）。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を勘案しながら授業スピードを適宜調整するように心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

経営戦略論Ⅰと経営戦略論Ⅱは、一貫した講義構成になっているため、通年で履修することをお勧めします。とくに、秋学期（経営戦略論Ⅱ）のみの履修では、内容の理解において困難を伴う可能性があります。ご注意ください。主な関連科目として、経営学総論Ⅰ/Ⅱ、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ、日本経営論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱなどが挙げられます。

【Outline and objectives】

This course is an basic lecture on strategic management which is one of the core areas in business administration. The main objectives include understanding the basic theories and concepts of strategic management and cultivating the ability to analyze strategic behaviors by reviewing some real cases related to companies.

PRI200FA-A4365

基礎統計学Ⅰ

2～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

PRI200FA-A4370

基礎統計学Ⅱ

2～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

PRI200FA-A4366

基礎統計学Ⅱ

2～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

PRI200FA-A4369

基礎統計学Ⅰ

2～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

高橋 慎

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データを収集・整理し、データの背後にある構造を捉えることは、分野を問わず重要なスキルです。収集されたデータをまとめて、見やすく整理する方法は「記述統計」と呼ばれます。一方、データを生み出した背後の構造を推論することは「推測統計」あるいは「統計的推測」と呼ばれます。この授業では、「記述統計」と、「確率論」に基づく「推測統計」の基礎的事項を学びます。

【到達目標】

- ・統計学の基本的な考え方を理解し、他の人に説明できる。
- ・データの整理・要約ができる。
- ・データの要約やグラフからデータの傾向について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・資料に沿って講義形式で進めます。
- ・板書は補助的に使用しますので、適宜ノートを取ることも求められます。
- ・授業で学習した内容について、練習問題を解いて理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス / 統計学とは	授業の進め方と学習法、受講態度、必要な予備知識について説明します。また、データと母集団などの統計学の基本的概念を学びます。
2	統計学の概要	無作為抽出、確率、仮説検定、回帰分析などの統計学の分析概念を学びます。
3	データの記述 1：図表の作成	データをわかりやすく図表にまとめる方法として、度数分布表とヒストグラムの作り方を学びます。
4	データの記述 2：中心を表す標本特性値	データの中心を表す 3 つの特性値（平均、中央値、最頻値）の定義と特徴および利用方法を学びます。
5	データの記述 3：ばらつきを表す標本特性値 / データの線形変換	データのばらつきの程度を表す標本分散と標本標準偏差を学びます。また、データを線形変換することによって標本特性値がどのように変化するかを学びます。
6	データの記述 4：範囲と割合の関係	データの範囲と分布の割合について、経験的な関係とその応用例を学びます。
7	相関 1：散布図 / 標本共分散	散布図を利用して 2 つの変数の大まかな相互関係を把握する方法を学びます。また、2 つの変数間の相関関係を表す標本共分散を学びます。
8	相関 2：標本相関係数 / 標本相関係数の注意点	2 つの変数間の相関関係を表す標本相関係数を学びます。また、相関と因果関係の違いなど、標本相関係数の見方や解釈について注意すべき点を学びます。
9	確率 1：確率の基礎概念	標本空間や確率の定義など、確率の基礎となる概念を学びます。
10	確率 2：同時確率と条件付き確率	加法定理や乗法定理などの確率についての定理を学びます。
11	確率 3：独立 / ベイズの定理	独立の定義を学びます。また、原因と結果を確率的に考える際に有用なベイズの定理を学びます。
12	確率変数と確率分布 1：単一の確率変数	確率変数と確率分布の定義、単一確率変数の期待値や分散などを学びます。
13	確率変数と確率分布 2：複数の確率変数	複数の確率変数の分布、期待値、共分散、相関係数などを学びます。
14	春学期のまとめ	春学期に扱った内容を復習し、秋学期で扱うトピックを紹介しします。

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	秋学期ガイダンス / 確率論の復習	秋学期の授業の進め方と学習法、受講態度、必要な予備知識について説明します。また、春学期に学んだ確率論の内容を復習します。
16	主要な確率分布 1：離散確率分布	代表的な離散確率分布として、ベルヌーイ分布と二項分布を学びます。
17	主要な確率分布 2：連続確率分布	代表的な連続確率分布として、正規分布を学びます。
18	主要な確率分布 3：確率変数の和と平均の分布	母集団分布の形状が分からない場合でも確率変数の和や平均の分布は正規分布で近似できること（中心極限定理）を学びます。
19	母数の推定 1：基本概念	データから母集団の特性値（母数）を推測すること（推定）の考え方、推定量と推定値などの基本概念を学びます。
20	母数の推定 2：点推定の統計的性質	母集団の平均（母平均）の推定量の統計的性質を学びます。
21	母数の推定 3：区間推定	母平均が存在すると思われる区間の推定（区間推定）を学びます。
22	仮説検定 1：母平均の仮説検定	母数についての仮説とデータが整合的かどうかを検証する方法（仮説検定）の手順と基本概念を学びます。
23	仮説検定 2：差の検定	2 つの母集団の間の「母数の差の有無」を検定する方法を学びます。
24	正規分布の派生分布 1：カイ 2 乗分布	カイ 2 乗分布の定義とそれを用いた母分散の区間推定を学びます。
25	正規分布の派生分布 2：t 分布	t 分布の定義とそれを用いた母平均の推定と検定（t 検定）を学びます。
26	回帰分析の基礎 1：基本概念 / 最小 2 乗法	変数間の関係を数量的に測る方法のひとつである回帰分析の基本概念を学びます。また、代表的な推定法である最小 2 乗法を学びます。
27	回帰分析の基礎 2：最小 2 乗推定量の導出 / 決定係数	最小 2 乗法による推定量の求め方を学びます。また、当てはまりの尺度である決定係数の定義と性質を学びます。
28	秋学期のまとめ	秋学期に扱った内容を復習し、より発展的なトピックを紹介しします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業後にテキストや資料を見直し、基本概念の理解度を確認します。
- ・テキストにある練習問題を宿題として解きます。

【テキスト（教科書）】

藪友良 (2012) 『入門 実践する統計学』 東洋経済新報社

【参考書】

授業中に適宜紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

経営学分野における統計学の話題を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

授業内で行う演習や練習問題を解くには統計計算ができる関数電卓またはエクセルを使える端末（スマートフォン、タブレット、パソコンなど）が必要です。

【その他の重要事項】

実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

統計学入門
計量経営分析Ⅰ/Ⅱ
統計学Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】

Collecting/summarizing data and capturing the structure behind the data are important skills irrespective of fields. A collection of methods for summarizing the data so that we can see its features easily is called “descriptive statistics.” On the other hand, a collection of methods for inferring the data-generating structure is called “inferential statistics” or “statistical inference.” In this course, we learn basic elements of the “descriptive statistics” and “inferential statistics” based on “probability theory.”

PRI200FA-A4367

基礎統計学Ⅰ

2～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

PRI200FA-A4372

基礎統計学Ⅱ

2～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

PRI200FA-A4368

基礎統計学Ⅱ

2～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

PRI200FA-A4371

基礎統計学Ⅰ

2～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

猪狩 良介

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、学術分野だけでなく、ビジネスの現場においても統計学が着目されています。経営分野において、マーケティング戦略の決定や投資行動などの意思決定を適切に行うには、データに基づいて客観的に決定する必要があります。そこで利用するのが、統計学です。この授業では、統計学の基本的な理論について学びます。具体的には、春学期はデータの記述および確率について、秋学期は統計的推論を中心に学習します。

【到達目標】

- ・統計学の基本的な考え方を理解し、他の人に説明できる。
- ・データの整理・要約ができる。
- ・データの要約やグラフからデータの傾向について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・資料に沿って講義形式で進めます。
- ・板書は補助的に使用しますので、適宜ノートを取ることも求められます。
- ・授業で学習した内容について、練習問題を解いて理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス：統計学とは	本授業の概要と進め方について説明します。統計学とはどのようなものか、経営分野において統計学がどのように利用されているかについて学びます。
2	統計学の概要	データとは何か、またデータの種類を学びます。また、母集団と標本や、確率、仮説検定、回帰分析などの統計学の基本概念を学びます。
3	データの記述 (1) 図表の作成	データの特徴を把握するための、度数分布表とヒストグラムを学びます。
4	データの記述 (2) 中心を表す標本特性値	データの特徴 (中心) を見るための、平均・中央値・最頻値を学びます。
5	データの記述 (3) ばらつきを表す標本特性値	データの特徴 (ばらつき) を見るための、分散と標準偏差を学びます。
6	データの記述 (4) データの変換／範囲と割合の関係	データ変換と標準化を学びます。また、データの範囲と割合の関係を学びます。
7	相関 (1) 散布図／共分散	2 変数の関係を散布図を描いて把握します。また、変数間の関係性を数値により把握する共分散を学びます。
8	相関 (2) 相関係数／相関係数の注意点	変数間の関係を表す相関係数を学びます。また、相関と因果関係の違いなどの注意点を学びます。
9	確率 (1) 確率の基礎概念	標本空間と確率の定義や、基本的な確率の計算方法を学びます。
10	確率 (2) 様々な確率	先験的確率・経験的確率・主観的確率について学びます。
11	確率 (3) 和・積事象の確率／ベイズの定理	和事象および積事象の確率を学びます。また、ベイズの定理を学びます。
12	確率変数と確率分布 (1) 単一の確率変数	確率変数と確率分布の定義や、単一の確率変数についての期待値と分散を学びます。
13	確率変数と確率分布 (2) 複数の確率変数	複数の確率変数の期待値や分散について学びます。
14	まとめ	春学期に学習した内容を復習し、まとめを行います。

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	ガイダンス	秋学期に学習する内容を説明します。また、春学期に学習した内容を復習します。
16	主要な確率分布 (1) 離散確率分布	代表的な離散確率分布であるベルヌーイ分布と 2 項分布を学びます。
17	主要な確率分布 (2) 連続確率分布	代表的な連続確率分布である正規分布を学びます。
18	主要な確率分布 (3) 確率変数の和と平均の分布	中心極限定理を用いた確率変数の和や平均の分布を学びます。
19	母数の推定 (1) 基本概念	母集団と標本、また推定と推定量の概念を学びます。
20	母数の推定 (2) 点推定の統計的性質	母割合や母平均の点推定およびその統計的性質を学びます。
21	母数の推定 (3) 区間推定	母割合や母平均の区間推定を学びます。
22	仮説検定 (1) 母平均の仮説検定	統計的仮説検定の手順を学びます。特に、母平均の検定について学びます。
23	仮説検定 (2) 差の検定	2 つの母集団の「母数の差」の検定について学びます。
24	正規分布の派生分布 (1) カイ 2 乗分布	カイ 2 乗分布と母分散の区間推定について学びます。
25	正規分布の派生分布 (2)t 分布	t 分布と母平均の t 検定について学びます。
26	回帰分析の基礎 (1) 基本概念／最小 2 乗法	回帰分析の基礎概念を学びます。また、回帰分析の推定法である最小 2 乗法を学びます。
27	回帰分析の基礎 (2) 最小 2 乗推定量／決定係数	最小 2 乗法の計算と、回帰分析の当てはまりの指標である決定係数を学びます。
28	まとめ	秋学期に扱った内容の全体を復習し、より発展的なトピックを紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業後にテキストや資料を見直し、基本概念の理解度を確認します。
- ・テキストにある練習問題を宿題として解きます。

【テキスト（教科書）】

- ・藪友良 (2012)『入門 実践する統計学』東洋経済新報社。

【参考書】

- ・授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・試験 (100%)

【学生の意見等からの気づき】

- ・経営学分野における統計学の話題を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・授業内で行う演習や練習問題を解くには、統計計算ができる電卓またはエクセルを使える端末 (スマートフォン、タブレット、パソコン等) が必要となります。

【その他の重要事項】

- ・実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

統計学入門
計量経営分析Ⅰ/Ⅱ
統計学Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】

Statistics has attracted attention not only in the academic field but also in the field of business. In the management field, to make decisions such as marketing strategy or investment behavior appropriately, it is necessary to objectively decide based on data. Statistics is used there. In this lesson, we will learn about the basic theory of statistics. Specifically, we will learn about the description and probability of data in the spring semester, and mainly about statistical inference in the fall semester.

MAN200FA-A4373

マーケティング論Ⅰ

2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4374

マーケティング論Ⅱ

2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

長谷川 翔平

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マーケティングの役割や方法は、時代と共に変化してきている。近年では、スマートフォンの普及により、消費者と企業を取り巻く環境が大きく変わった。消費者は製品の比較や購入が時間と場所を問わず容易に行えるようになり、企業は SNS を利用して消費者と双方向のコミュニケーションが行えるようになった。一方で、環境が変わったとしてもマーケティングの本質的な目的である「ニーズを満たす価値を消費者に届ける仕組みを作ること」は変わらない。

本授業では、マーケティングの基礎を学ぶと同時に、環境の変化に対して応用できる知識を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・マーケティングの基礎概念を理解する。
- ・環境の変化に対応したマーケティング戦略を考えることができる。
- ・身近にある商品でどのようなマーケティングが行われているか説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】**【春学期】**

マーケティングの基礎概念を学んだ後に、市場機会の発見とマーケティング・ミックスについて学ぶ。マーケティング・ミックスとは、「4P」とも呼ばれるマーケティングの基本概念であり、Product（製品）、Price（価格）、Promotion（プロモーションまたはコミュニケーション）、Place（流通）の4項目で構成される。春学期では、このマーケティング・ミックスの各項目の戦略を中心に学んでいく。

【秋学期】

春学期に学んだマーケティング・ミックスの考えを応用させた発展的な内容について学ぶ。扱うトピックとしては、マーケティング戦略策定をデータから支援するマーケティング・リサーチ、製品とは異なる形の無い財であるサービスに関わるマーケティング、消費者の意思決定過程に焦点をあてる消費者行動、優良顧客の発見と維持・育成を目的とした顧客管理などが挙げられる。その他にも、インターネットの普及やグローバル化によるマーケティングの変化を、最近の事例を参考に学んでいく。

【授業の方法】

PowerPoint のスライドを用いた授業を行う。スライドは講義資料として配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
1	春学期ガイダンス	授業の概要説明とイントロダクション
2	市場機会の発見 (1)	市場分析と市場機会の発見
3	市場機会の発見 (2)	STP マーケティング
4	製品戦略 (1)	新製品開発
5	製品戦略 (2)	製品ライフサイクル
6	製品戦略 (3)	ブランドの役割と構築
7	価格戦略 (1)	価格の影響と価格決定の方法
8	価格戦略 (2)	実務的な価格戦略
9	コミュニケーション戦略 (1)	コミュニケーションの役割
10	コミュニケーション戦略 (2)	コミュニケーション戦略の立案と効果測定
11	流通戦略 (1)	流通チャネルの種類と機能
12	流通戦略 (2)	垂直的マーケティングシステム
13	流通戦略 (3)	サプライチェーンマネジメント
14	春学期まとめ	春学期の復習とまとめ

II 秋学期

回	テーマ	内容
1	秋学期ガイダンス	授業の概要説明とイントロダクション
2	マーケティング・リサーチ (1)	データの種類と収集方法
3	マーケティング・リサーチ (2)	一次データの分析モデル
4	マーケティング・リサーチ (3)	二次データの分析モデル
5	サービス・マーケティング (1)	製品とサービスの違い
6	サービス・マーケティング (2)	サービス・トライアングル

7	サービス・マーケティング (3)	サービス・ドミナント・ロジック
8	顧客管理 (1)	関係性マーケティングと CRM
9	顧客管理 (2)	RFM 分析と顧客生涯価値
10	消費者行動 (1)	消費者行動の理論とモデル
11	消費者行動 (2)	行動経済学のマーケティングへの応用
12	国際マーケティング	海外進出時のマーケティング戦略
13	インターネット・マーケティング	インターネットによる新しいマーケティング手法
14	秋学期まとめ	秋学期の復習とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私たち消費者にとってマーケティングは非常に身近なものである。自分が普段使っている製品・サービスはどのようなマーケティングが展開されているか、よく観察して欲しい。

【テキスト（教科書）】

なし。授業中に資料を配布する。

【参考書】

- ・和田、恩蔵、三浦『マーケティング戦略 第4版』有斐閣（2012 年）
- ・小川『マーケティング入門』日本経済新聞出版社（2009 年）
- その他必要に応じて紹介

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】

- ・企業が行っているマーケティングの実例を紹介するなどして、わかりやすい授業を行う。
- ・私語への注意を徹底する。

【学生が準備すべき機器他】

授業中に配布する講義資料は授業支援システムへもアップロードする。

【関連科目】

- ・流通論Ⅰ/Ⅱ
- ・消費者行動論Ⅰ/Ⅱ
- ・マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ
- ・サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ
- ・製品開発論Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】

The objective of this course is to learn marketing. Student will learn the basis of marketing such as marketing mix (product, price, promotion, price) in spring semester and advanced marketing strategies in fall semester. The goal of this course is to obtain basic marketing knowledge and skills to develop marketing strategies for business issues.

MAN200FA-A4375

マーケティング論Ⅰ

2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4376

マーケティング論Ⅱ

2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

宮井 弘之

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マーケティングに関する基礎的な知識を学ぶとともに、製品戦略から事業戦略へ、さらに企業戦略へと拡大しているマーケティング活動に関する実践的で役立つマネジメント・ノウハウを習得することを目的とする。伝統的なマーケティング諸概念に加え、SNS マーケティング・脳科学マーケティング・コンテンツマーケティングなど今日のトピックについても適宜取り上げる。

【到達目標】

- ・マーケティングの理論と実務について理解する。
- ・レポート課題に取り組むことにより、文章作成力、情報収集と分析力を身につける。
- ・ケーススタディを通じて企業経営に対して関心を持つ。
- ・生活者トレンドや新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回授業の前半は講師より知識伝達型の講義を行う。
内容は学部生でも理解できるよう基礎的なものに留める。
実企業の事例を豊富に紹介する。
授業ごとにリアクションペーパーの提出を指示する。
定期試験は行わない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業のすすめ方・評価方法・マーケティングの定義などについて
2	マーケティングとは	マーケティングの定義などについて
3	マーケティング発想とは？	マーケティングの基礎概念について
4	戦略的マーケティング	セグメンテーションとターゲッティングという概念について
5	差別化戦略	ケースポジショニングという概念について
6	コンテンツ・マーケティング	コンテンツマーケティングの基礎について
7	ニューロマーケティング	脳科学を活用した研究成果について
8	価格マネジメント（１）	製品やサービスに対する値付けについて
9	価格マネジメント（２）	価格戦略について理解を深める
10	広告マネジメント（１）	SNS を活用した広告キャンペーンを紹介しながら広告マネジメントについて学ぶ
11	広告マネジメント（２）	広告マネジメントの最新事例について紹介する
12	チャネル・マネジメント（１）	商品の流通について ケースを交えて紹介する
13	チャネル・マネジメント（２）	オムニチャネルという考え方について学ぶ
14	在庫のマネジメント	製品の在庫マネジメントについて学ぶ
14	演習	講義中にレポート課題を行い、提出する

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	春学期の振り返り	春学期 1 4 回の授業のハイライトをまとめる
16	営業のマネジメント	製品やサービスを販売する人材である営業について
17	ブランド構築のマネジメント（１）	ブランド構築についての基礎を学ぶ
18	ブランド構築のマネジメント（２）	ブランド構築についてケースを用いて学ぶ
19	顧客理解	顧客理解の様々な手法や概念を学ぶ
20	顧客関係のマネジメント	カスタマー・リレーションシップ・マネジメント（CRM）について
21	国際マーケティング	グローバルマーケティングについて学ぶ
22	製品のマネジメント	製品開発や改善について学ぶ
23	消費者行動（１）	消費者を研究する方法や概念について

24	消費者行動（２）	ケースを用いて消費者行動について理解する
25	企業の社会的責任	企業がマーケティングを通じて果たすべき責任について
26	市場創造（１）	新しい市場を創造する方法論について
27	市場創造（２）	先進的な消費者群（トライブ）を用いたイノベーション支援について
28	演習	講義中にレポート課題を行い、提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で利用するレジュメは予めダウンロード可能にしておくため、目を通しておけば予習となる。適宜参考文献を提示するので興味のあるものは図書館で借りるなどして確認すれば良い。

【テキスト（教科書）】

1 からのマーケティング（石井 淳蔵）（碩学社） 2 0 0 9 年

【参考書】

参考文献は多岐にわたるため適宜提示する

【成績評価の方法と基準】

・春学期、秋学期ともレポート課題 60%、リアクションペーパー提出 40%とし、評価を決める。リアクションペーパーは授業に出席しないと書けない。その意味では出席も重視した授業である。
・課題レポート、リアクションペーパーを提出しないと単位を取ることは難しいので、必ず提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生は実務で実際に理論がどのように活用されているのか、またマーケティングの実務では実際にどのようなデータを活用するのかに興味があるため、適宜取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

資料は授業支援システムを用いて PDF にてダウンロード形式で配布する。従ってタブレットや PC などペーパーレスで閲覧できる機器があると望ましい。スマートフォンでは画面が小さく見にくいと思われる。

【その他の重要事項】

・マーケティング論は、3 年次以降に履修することになるマーケティング関連の専門科目（消費者行動論、マーケティング・リサーチ、サービス・マネジメント論、流通論など）の基礎科目として重要である。マーケティングに興味のある学生、マーケティング系のゼミに所属する、あるいは所属したいと考えている学生は受講することをお勧めする。
講師の経営している会社、<https://seedata.co.jp/blog> から様々な情報発信があるので興味のある人間は確認されたい。

【関連科目】

消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、サービスマ・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】

In addition to learning fundamental knowledge on marketing, it aims to acquire practical and useful management know-how about marketing activities expanding from product strategy to business strategy to corporate strategy. In addition to traditional marketing concepts, topics such as SNS marketing, brain science marketing, content marketing, etc. are also taken up as appropriate.

ECN200FA-A4377

金融論Ⅰ

2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

ECN200FA-A4380

金融論Ⅱ

2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

ECN200FA-A4378

金融論Ⅱ

2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

ECN200FA-A4379

金融論Ⅰ

2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

林 直嗣

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の血液に相当するのが経済の貨幣である。家計や企業は収入と支出をどうやりくりするのか、政府は税収と財政支出をどう均衡させるのか。各主体が貨幣を用いて金融を行い、経済を成り立たせている仕組みと働きを、理論と実際の両面から理解することが、この授業の目的である。

貨幣とは何か、金融とは何か、現代の貨幣経済の仕組み（制度、システム）と働き（作用、機能、役割）など基礎的な問題を易しく説明する。家計の金融や企業金融など金融のミクロ的な分析を行い、貨幣の供給や需要、インフレ・デフレ・失業、金融政策や財政政策の効果など金融のマクロ的な分析を行う。さらに預金市場、債券市場、株式市場など金融市場について個別に学ぶと共に、経済成長や経済安定のために金融政策をどう行うか、実際の金融政策について勉強する。

本講座は証券経済論、企業財務論、ファイナンス論、国際金融論など金融関係の専門科目を学ぶ上での基礎となる専門基礎科目である。

【到達目標】

貨幣や金融の諸問題を易しく解説することを通じて、履修生が金融への関心や理解を深めると共に、日常生活や就職に活用できるようにすることを、授業の到達目標とする。単に講義を行うだけでなく、章ごとに具体例を用いた問題演習を行い、実際の分析力を養うトレーニングも目標とする。主体的に問題演習を解くことにより、公務員試験、公認会計士試験、国税専門官試験、ファイナンシャルプランナー試験などの各種資格試験や就職試験に役に立つ実践力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業の方法はパワーポイントのスライドを活用した講義を主体とする。金融論の基礎を易しく解説し、章末では問題演習を行う。また授業内では教員と学生との間で活き活きとした双方向のクイズを Q&A 方式で行い、学生参加型のアクティブ・ラーニングの授業を行う。またレポート提出や小テストなどを行い、履修生の理解を着実に深めていく方法を探る。期末には必ず試験を行う。受講者の希望によっては証券取引所などを見学する**実習**を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション、イントロダクション	授業の概要説明。 金融とは何か、何を学ぶか
2 回	1 部 貨幣と金融	市場経済の発達と貨幣の出現・発展を歴史的に考察
3 回	市場経済と貨幣・金融 (1)	貨幣や金融の基礎的概念を説明
4 回	金融市場と金融機関 (1)	金融市場の形成と役割、種類などを解説
5 回	金融市場と金融機関 (2)	金融機関の種類や役割などを説明
6 回	金融構造と金融システム (1)	金融・銀行制度、金融規制など制度的な側面を解説
7 回	金融構造と金融システム (2)	金融・銀行制度、金融規制など制度的な側面を解説
8 回	2 部 ミクロ分析	消費者・家計の金融の基礎的概念を説明
9 回	家計の金融 (1)	消費者・家計のミクロの金融行動を分析
10 回	家計の金融 (2)	安全資産と危険資産、平均分散接近、期待効用理論の分析
11 回	家計の金融 (3)	投資機会、有効フロンティア、最適ポートフォリオ、分離定理の分析
12 回	企業金融 (1)	コーポレート・ファイナンスの基礎的概念を説明
13 回	企業金融 (2)	MM 理論など企業金融の基礎的理論を説明
14 回	企業金融 (3)	コーポレート・ガバナンス、所有と経営の分離、株式持合などの分析

II 秋学期

回	テーマ	内容
1 回	3 部 マクロ分析	貨幣の供給と需要のマクロ分析を学習
2 回	貨幣の供給と需要 (1)	貨幣数量説と流動性選好説を解説
3 回	貨幣の供給と需要 (2)	財市場と貨幣市場の同時均衡によるマクロ分析を解説
4 回	IS = LM 分析と金融・財政政策 (1)	完全雇用と不完全雇用での金融政策と財政政策の効果を考察
5 回	IS = LM 分析と金融・財政政策 (2)	不況時での金融政策と財政政策の効果
6 回	IS = LM 分析と金融・財政政策 (3)	インフレやデフレと失業との関係を解説
7 回	インフレとデフレ、失業 (1)	自然失業率仮説やルーカス供給関数を説明
8 回	インフレとデフレ、失業 (2)	ルールか裁量か、最適政策基準は何かを考察
9 回	インフレとデフレ、失業 (3)	身近な金融市場の預金・貸出市場を説明
10 回	4 部 金融市場	金融政策の出発点となる短期金融市場の分析
11 回	預金・貸出市場	資本市場、先物やオプションなど金融派生商品市場を説明
12 回	短期金融市場	郵貯や政府系金融機関の公的金融の解説
13 回	5 部 金融政策	金融の政策主体、政策目標、政策手段を考察
14 回	金融政策の目標と手段、効果	金融政策の方法と種類
	金融政策の方法と種類	段階的アプローチ、ゼロ金利政策、量的金融緩和などを説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は最も効果的な勉強法である。先ず自分で教科書を読み、問題集を解いてみよう。何が理解できて何がわからないか明確になるので、授業に臨む学修態度やモチベーションが高まり、理解を効果的に高めることができる。大学設置基準では、予習を 30 時間、授業を 30 時間、復習を 30 時間、合計 90 時間を学修して 2 単位と定めているので、予習 2 時間 ⇒ 授業 2 時間 ⇒ 復習 2 時間の基本スタイルで主体的に学修しましょう。授業はもちろん毎回の予習復習の学習教材としても、教科書や問題演習の指定は大学の規則上必要である。

【テキスト（教科書）】

岸真清・林直嗣著『現代金融入門』八千代出版（入門の教科書）1997 年
林直嗣著『問題演習 金融論 再訂版』（スタディ・ガイドと問題集）2009 年

【参考書】

晝間文彦著『金融論』新世社（初級の教科書）2011 年

【成績評価の方法と基準】

大学設置基準第 27 条に従って必ず定期試験を行った上で、授業への参加度（出席等）、授業内クイズ、レポート、小テストなどの合計点を基準として成績評価をする。また大学設置基準 25 条の 2 では、「客観的で厳格な（正確な）」成績評価を行うことが法定されている。すなわち客観的な正規分布に正確に一致するように、成績評価をする必要があり、過度に辛かったり甘い絶対評価は、正規分布とならず、主観的で歪んだ評価となるので、設置基準に違反する。

【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の要望にできるだけ応えられるように配慮して、授業を進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

教室では、教科書や問題演習、ノートを持参し、情報検索のためにスマホや PC を活用しましょう。

【その他の重要事項】

金融・経理・財務の関係職を目指したり、公認会計士やファイナンシャル・プランナーなどの資格取得を目指す学生は、本講座を履修することを特に勧める。

【関連科目】

ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ/Ⅱ（基礎科目 2 群）を先に又は同時に履修し、金融論Ⅰと金融論Ⅱを合わせて履修することが望ましい。証券経済論Ⅰ/Ⅱ、企業財務論Ⅰ/Ⅱ、国際金融論Ⅰ/Ⅱ、ファイナンス論Ⅰ/Ⅱなどを履修する上での基礎となる科目である。

【Outline and objectives】

Money in the economy corresponds to blood in the human body. This course explains in plain terms the monetary and financial system, theory and policy in Japan. How do households and businesses manage income and expenditure, how does the government balance tax revenues and fiscal expenditures? The theme of this class is to understand the mechanism and work that each economic agent generates to finance money and to make the economy work from both theoretical and practical points of view.

It will be very easily understood even by students whose major is not economics. We do microeconomic analyses of household finance and corporate finance and macroeconomic analyses of the demand for and supply of money, inflation, deflation, and unemployment, policy effects of monetary policy and fiscal policy. In addition, we study about financial markets such as deposit market, loan market, bond market and stock market individually, and study actual monetary policy for economic growth and economic stability.

MAN300FB-A4401

経営組織論Ⅰ

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN300FB-A4402

経営組織論Ⅱ

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

長岡 健

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活の中で、私たちは様々な「組織」に関わっています。しかし、日常的経験があるが故にかえって深く考えることをせず、その結果として、本質的な理解が妨げられることも多いのではないのでしょうか。

この授業では、経営組織論の概念をもとに個人、集団、組織全体についての考察を進め、現代社会における「組織」の諸側面を深く理解すると同時に、組織における個人・集団の振る舞いや、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていくことをめざします。

【到達目標】

1) 多様な組織観・人間観をもとに、現代社会における「組織」の諸側面について、多面的かつ批判的に考察できる。

2) 経営組織論の概念枠組と用語を用いて、組織における個人と集団の振る舞いや、現代社会における経営組織の活動の背後にある意味を理解し、説明することができる。

3) 組織における個人と集団の活動や、現代社会における経営組織の活動を深く理解するための本質的な「問い」を、主体的に見いだすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期の授業（経営組織論Ⅰ）では、「組織の中の個人・集団の振る舞い」に着目し、関連する概念や理論をもとに、振る舞いの背後にある意味を読み解いていきます。具体的には、「個人の振る舞い」「キャリア開発」「集団の振る舞い」「組織と個人の関係」という 4 つのテーマに関する様々なトピックを取り上げ、多面的かつ批判的な考察を進めます。

秋学期の授業（経営組織論Ⅱ）では、「組織変革とマネジメント」という視点から、関連する概念や理論をもとに、現代社会における経営組織の活動の背後にある意味を読み解いていきます。具体的には、「組織構造」「組織文化」「多様性社会と組織」「組織学習」という 4 つのテーマに関する様々なトピックを取り上げ、多面的かつ批判的な考察を進めます。

授業の進め方については、「参加者が主体的に考える場」の実現をめざして運営します。春学期・秋学期ともテーマ毎に、2 週を 1 モジュールとした授業構成とします。各モジュールでは、テーマに関する講義を行います。受講者が主体的に考え、発言する機会をできる限り設けていく予定です。さらに、各モジュールの前後の授業では、それぞれのテーマに関連した事例や検討課題を取り上げ、講義の中で学んだ理論／概念との関係を意識しながら、現実社会における「組織」の諸側面を読み解いていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第 2 回	事例研究（1-1）	「個人の振る舞い」に関する事例検討を通じた現代的課題の考察
第 3 回	個人の振る舞い（1）	仕事の中での「学習と成長」に関する基礎概念
第 4 回	個人の振る舞い（2）	組織における「モチベーション（動機づけ）」に関する基礎概念
第 5 回	事例研究（1-2）	「組織におけるキャリア」に関する事例検討を通じた現代的課題の考察
第 6 回	キャリア開発（1）	組織における「キャリア・デザイン」の基礎概念
第 7 回	キャリア開発（2）	「組織内専門人材」の意味／意義／位置づけ
第 8 回	事例研究（1-3）	「集団の振る舞い」に関する事例検討を通じた現代的課題の考察
第 9 回	集団の振る舞い（1）	経営学における「集団（グループ）」の意味／意義／位置づけ
第 10 回	集団の振る舞い（2）	組織における「創造的コラボレーション」の可能性と課題

第 11 回	事例研究（1-4）	「組織と個人の関係」に関する事例検討を通じた現代的課題の考察
第 12 回	組織と個人の関係（1）	組織における「対話的コミュニケーション」の可能性と課題
第 13 回	組織と個人の関係（2）	組織における「リーダーシップ」の基礎概念
第 14 回	ラップアップ	春学期の授業で取り上げた諸概念の振り返りと総括講義

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第 2 回	事例研究（2-1）	「組織構造」に関する事例検討を通じた現代的課題の考察
第 3 回	組織構造（1）	組織設計の視点と「ピラミッド型組織」の基本原則
第 4 回	組織構造（2）	企業の組織形態と「フラット化・ネットワーク化」の進展
第 5 回	事例研究（2-2）	「組織文化」に関する事例検討を通じた現代的課題の考察
第 6 回	組織文化（1）	「企業文化論」の特徴と「日本的経営」に対する評価の変遷
第 7 回	組織文化（2）	組織文化に対する「社会的制度」からの圧力とその影響
第 8 回	事例研究（2-3）	「多様性社会と組織」に関する事例検討を通じた現代的課題の考察
第 9 回	多様性社会と組織（1）	「ダイバーシティ・マネジメント」の可能性と課題
第 10 回	多様性社会と組織（2）	「多様性（ダイバーシティ）のある社会」の進展とビジネスへの影響
第 11 回	事例研究（2-4）	「組織学習」に関する事例検討を通じた現代的課題の考察
第 12 回	組織学習（1）	「組織劣化・機能不全」の要因と対応方法に関する基礎概念
第 13 回	組織学習（2）	「学習棄却（アンラーニング）」という概念の可能性と課題
第 14 回	ラップアップ	秋学期の授業で取り上げた諸概念の振り返りと総括講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経営学の基礎的科目を履修していない受講者は、各回の「講義項目」と「学習内容」を確認し、『経営組織』（下記、参考書）の該当箇所を読み、疑問点などを整理した上で、授業に臨んでください。

また、シラバスで指定したテキスト・参考書以外にも、それぞれのテーマに関連する文献を授業中に適宜紹介していきますので、自分の興味・関心に沿ったものを選び、読み進めてください。

【テキスト（教科書）】

春学期・秋学期ともに、各講義に関連した資料を配布します。資料は「授業支援システム」上に PDF ファイルでアップしますので、各自で事前にダウンロードした上で、授業に臨んでください。

【参考書】

以下に挙げたものは、春学期・秋学期に共通した参考書です。この 3 冊以外にも、各回の講義テーマに関連する文献を授業中に紹介していきます。

- 1) 金井壽宏 『経営組織』（日経文庫）日本経済新聞社
- 2) ロビンス, S. P. 『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社
- 3) グロービス経営大学院『グロービス MBA 組織と人材マネジメント』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

春学期・秋学期それぞれ、学期末の試験と小レポート（リフレクション・ペーパー）により評価します。小レポートはそれぞれのテーマ（モジュール）ごとに作成してもらう予定です。なお、評価の割合は以下の通りとします。

[春学期] 試験（1 回）：70 % 小レポート（8 回）：30 %
[秋学期] 試験（1 回）：70 % 小レポート（8 回）：30 %

【学生の意見等からの気づき】

今年度はできる限り具体的事例を取り上げて検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】

受講者が主体的に考え、発言する意見交換の場として、**Twitter** を活用する予定です。受講者は **Twitter** のアカウントを設定し、授業中にアクセスするための機器を各自で用意してください。

また、上記【テキスト】で説明した通り、授業中に使用する資料を、事前に「授業支援システム」からダウンロードすることも必要です。

【その他の重要事項】

『経営学総論 I/II』を事前に履修していることが望ましい。

【Outline and objectives】

In our everyday life, we have consciously or unconsciously many contact points with “organisations” in various ways. However, the casual and frequent contact would sometimes lead us to getting indifferent to “organisations”, and possibly prevent our deep understanding of the nature of “organisations”.

In this course, by using the conceptual tools of Management Organisation Theory, we carry out both theoretical and practical analyses into the three facets of business organisations; 1) individual behaviours, focusing on learning, motivation, leadership, and so on; 2) functions of small groups, focusing on communications, creative collaborations, and so on; 3) structures and cultures of whole organizations, focusing on organisational change, innovation, diversity management, and so on.

The objectives of this course are 1) to deepen our understanding of various aspects of business organisations in the context of the modern society in Japan, and 2) to sharpen our insights into both individual and group behaviours in Japanese business organisations, and the contexts in which the organisational behaviours are situated.

MAN300FB-A4403

組織マネジメント論Ⅰ

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN300FB-A4404

組織マネジメント論Ⅱ

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

永山 晋

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、営利企業を中心とした組織のマネジメントに関わる論点と基本理論を学ぶことを目的とする。組織は上司部下といった縦の分業、それぞれが特定の職務に特化するという横の分業を通じて、大きな目的を達成することができる。一方で、組織では利害の不一致が生じたり、誰も望んでいない意思決定をしてしまうなどの問題も起きる。こうした組織特有の問題に対処し、組織を有効に機能させるためには次の活動が伴う。それは「先導」「組織化」「計画」「変革」「外部環境への対応」である。これらのうち春学期では、どのように組織メンバーの潜在力を引き出していくかという「先導」、組織をどうデザインしていくかという「組織化」の論点について学習していく。一方、秋学期では、組織のあるべき姿をどのように計画していくのかという「計画」、組織をどのように変化させていくかという「変革」、外部環境に組織をどう適応していくかという「外部環境への対応」の論点を学習していく。

【到達目標】

- (1) 組織マネジメントに関わる基本的な理論、枠組みについて、「自分の言葉」で分かりやすく他人に説明できる
- (2) 自分の身近にある組織の問題や実践について、理論的観点から分析的に考察できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- 基本的な授業の流れは、教員によるスライドを使ったトピックの説明 → 簡易演習や事例分析 → 解説という順で行う
- 演習では教員と受講者の双方向的なやりとりを重視するため、発言も成績として評価する
- 適宜オンラインの小レポートを課す

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	マネジメントの基本（1）	組織とマネジメントの定義
2	マネジメントの基本（2）	マネジャーに求められる能力と役割
3	マネジメントの基本（3）	組織マネジメントの歴史の変遷
4	組織を導く（1）：リーダーシップ	リーダーシップの類型とリーダーシップの諸理論
5	組織を導く（2）：心理的状態	モチベーションの内容理論と過程理論
6	組織を導く（3）：チーム	チームビルディング、インプット-プロセス-アウトプットモデル
7	組織を導く（4）：グループダイナミクス	グループシンク、エスカレーションオブコミットメント
8	組織化（1）：分業	垂直分業と水平分業、機能別分業と並行分業
	組織を導く（5）：創造性	デモンストラティブとファウンダーショナルビュー、アイデア創出プロセス
9	組織化（2）：組織構造と組織デザイン	代表的組織構造と組織デザインの基本要素
10	組織化（3）：組織文化	組織文化の階層性
11	組織化（4）：社会ネットワーク	弱い紐帯と強い紐帯、凝集的ネットワークとストラクチャルホール
12	組織化（5）：社会ネットワークの形成	ランダムネットワーク、スモールネットワーク、選好接続
13	ケース・ディスカッション	特定の組織の事例をこれまで学習した内容から分析する。
14	総括	授業内容の総括

II 秋学期

回	テーマ	内容
1	計画する（1）：基本	計画とは何か。
2	計画する（2）：意思決定	合理的意思決定、限定合理的意思決定、直感的意思決定
3	計画する（3）：バイアス	代表的バイアス
4	変革（1）：組織学習	組織学習の基本モデル
5	変革（2）：創造性	創造性とは何か。
6	変革（3）：創造性	集団の創造性
7	変革（4）：知の探索と深化	探索と深化、コンピテンシートラップ、両利きの経営

8	変革（5）：企業行動理論	希求水準、余剰サーチと問題解決サーチ
9	変革（6）：組織変革	組織変革を促す要因、レヴィンの変革プロセス
10	外部環境（1）：外部環境の概要	外部環境の類型とその評価、外部環境と組織の関係
11	外部環境（2）：資源依存	パワーの発生要因としての資源依存とその回避
12	外部環境（3）：制度と正当性	制度的同型化メカニズムと制度起業家
13	ケース・ディスカッション	特定の組織の事例をこれまで学習した内容から分析する。
14	まとめ	授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 該当箇所の事前配布資料が指定された場合、その資料を授業前に読み込んでおくこと
- 普段目にするニュースや経済番組に対し、学習した概念を通じて批判的に考察すること

【テキスト（教科書）】

なし。授業内で資料を配布する

【参考書】

- Hitt, M. A., Black, J. S., & Porter, L. W. (2013). Management, Prentice Hall.
- 稲葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下勝（2010）『キャリアで語る経営組織』有斐閣アルマ。
- 入山章栄「世界標準の経営理論」『DIAMOND ビジネス・レビュー』（2014 年 9 月号～ 2017 年 4 月号）。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 授業内発言点（15%） ※アクティブ・ラーニングを重視するため必ず1度は授業内で発言し、発言カードを入手すること。期末試験が採点されるためには最低 1 枚の発言カード提出が必要となる。
- (2) 小レポート（15%）
- (3) 期末試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

- 学習トピックがスムーズな流れになるよう春と秋の学習トピックを一部入れ替える
- 授業スライドの内容を英語で表記していたが、知識の定着が芳しくなかったため、日本語に修正する。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

経営管理論、経営戦略論、組織行動論を受講していることが望ましい。

【関連科目】

経営学総論Ⅰ／Ⅱ、経営管理論Ⅰ／Ⅱ、経営戦略論Ⅰ／Ⅱ、組織行動論Ⅰ／Ⅱ、中小企業論Ⅰ／Ⅱなど

【Outline and objectives】

This course offers basic theories and practices of organizational management. Forming an organization allows us to pursue higher, more difficult objects, which individuals cannot achieve in their own hands. On the other hand, an organization that is comprised of various types of members might confront problems, such as conflicts among organizational members or decisions that no one wants to implement. These problems sometimes cause severe consequences to the organization. What kinds of management do we need to solve these problems, and activate organizations to be more effective and efficient? We will study important topics on how to lead and design organization in the spring term. Then, we study topics on strategic planning, organizational change, and external environment in the autumn.

MAN300FB-A4405

経営情報論Ⅰ

MAN300FB-A4406

経営情報論Ⅱ

岸 眞理子

3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営情報論は、経営の視点から、企業を中心に様々な組織の情報処理活動について、これまで培われてきた理論やモデルを学び、これを応用し発展させると同時に、実際の組織の情報処理活動から、実践的知見を得ることで、これを一般化しようとする学問領域です。

この授業では、ICT（情報技術）環境を前提とし、組織がどのようにして有効な情報処理を行うべきなのか、また実際に行っているのかについて理解することを目的としています。

【到達目標】

経営情報論は、理論と実践とを相互作用させ、その相乗効果によってレベルアップを図っていく独特の学問領域です。

この授業では、経営情報論の基礎となる理論や概念を学び、これらを実際の企業活動の様々な事例に応用することで、どのようにして企業組織が一つの有効な情報処理システムとして機能し得るのかについて、理論から実践へと向かう領域について検討できるようになるとともに、実際の企業の優れた情報処理活動の事例を考察することによって、実践から得られた知見を理論にフィードバックし、これらを発展させていく領域にも目を向けるができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、「今日のテーマ」と「考察のためのポイント」が提示され、授業の全体構造を理解することができます。授業では、最初にパワーポイントを使った講義を聞き、その後、設定された課題を、個人あるいはグループでのディスカッションを通じて検討する時間が設けられます。これによって、理論や概念の理解をより深めることができます。

一方、テーマに関連して、動画や、社会の第一線で活躍するゲスト・スピーカーによる生きた事例の紹介と、これらをディスカッションすることを通じて、実践についての理解も深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	経営情報論Ⅰのガイダンス 経営情報論の学問領域 経営情報論への接近方法
第 2 回	組織と情報処理	情報処理システムとしての組織
第 3 回	組織と意思決定	問題解決 意思決定プロセス
第 4 回	経営組織と情報処理	グループ・ディスカッション（1）
第 5 回	システムとネットワーク	システム思考 ネットワークという捉え方
第 6 回	ネットワークの法則	ネットワーク分析
第 7 回	競争戦略と情報活用	ポジショニング・ビューと資源ベース ビュー 経営情報システムの役割
第 8 回	IT ケイパビリティ	情報技術とその活用能力
第 9 回	経営戦略と経営情報システム	ケース・スタディ（1）
第 10 回	経営情報システムの変遷（1）	業務の自動化 意思決定支援
第 11 回	経営情報システムの変遷（2）	戦略的活用 リエンジニアリング
第 12 回	ICT の発展が組織・社会に与えるインパクト	ネットワーク革命 デジタル革命 IoT 革命 AI 革命
第 13 回	経営情報システムの現状	ケース・スタディ（2）
第 14 回	総括	経営情報論Ⅰのまとめ 経営情報論Ⅰの展望

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	経営情報論Ⅱのガイダンス 経営情報論Ⅰの復習 経営情報論の学問領域 経営情報論への接近方法
第 2 回	組織のコミュニケーション	コミュニケーション・モデル ICT によるコミュニケーション

第 3 回	デジタル・メディアの活用	アナログ・メディア デジタル・メディア
第 4 回	メディア・リッチネス	メディア能力とその開発
第 5 回	コミュニケーションとメディア	グループ・ディスカッション（2）
第 6 回	ナレッジ・マネジメント	知識の創造と活用 場の創設
第 7 回	情報活用と組織知	組織的暗黙知 場の共有
第 8 回	企業の組織形態の変化	情報技術と組織
第 9 回	ネット・ビジネス環境と組織	組織間関係の変化 オープン化 モジュール化
第 10 回	ネット・ビジネスの展開と情報セキュリティ	ケース・スタディ（3）
第 11 回	「技術」と「組織」	技術とアクション 組織と組織化
第 12 回	ICT と人間系の統合	IoT、AI の社会的インパクト
第 13 回	ICT と社会、情報倫理	ケース・スタディ（4）
第 14 回	総括	経営情報論Ⅱのまとめ 経営情報論Ⅱの展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、テキストの関連箇所を読み、準備すると、学習効果をより高めることができます。また、授業後には、各回の授業で提示された参考文献を参照してみると、理解をより深めることもできます。

【テキスト（教科書）】

遠山暁・村田潔・岸眞理子『経営情報論（新版補訂）』有斐閣、2015 年。

【参考書】

木嶋恭一・岸眞理子編著『経営情報学入門』放送大学教育振興会、2019 年。
その他、各回の授業でテーマごとに別途、指示します。

【成績評価の方法と基準】

評価基準は、期末試験が 50 %、授業内のリアクション・ペーパーの内容が 50 %となっています。
期末試験を受けない場合は E 評価となるので注意して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

ゲスト・スピーカーによるスピーチは好評につき継続します。

【関連科目】

経営組織論Ⅰ/Ⅱ、組織マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、組織行動論Ⅰ/Ⅱ、情報と倫理、情報と職業、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、技術管理論Ⅰ/Ⅱ、情報技術論Ⅰ/Ⅱ、システム管理論Ⅰ/Ⅱなど。

【Outline and objectives】

Organizations and Information Management is designed to learn the theories and models of organizations as information processing systems, apply it to practice and develop it, and at the same time obtain practical knowledge from actual cases of organizational information processing activities to generalize into an academic field.

The purpose of this course is to learn about how an organization works as an effective information processing system on the premise of the ICT environment.

SOC300FB-A4407

経営社会学Ⅰ

SOC300FB-A4408

経営社会学Ⅱ

佐野 哲

※ Ⅰ、Ⅱとも春学期に開講するので注意してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在進行形の「社会及び経済の時事問題」を、企業経営の視点を借りつつ、多角的・多元的に理解すること。これが、経営社会学講義の最終目標です。新聞の一面から政治面、経済面、国際面、社会面に渡る毎日の時事トピックスを、大学生が知っておくべき重要な類出キーワードからバランス良く分野ごとに体系化し、それぞれの問題の背景、経緯、法制度、論点、企業経営との関係などについて、経営学の戦略的思考法と社会学の理論的枠組みを織り交ぜながら解説していきます。時事問題に関する諸知識は、とりわけ就職活動の面接などにおいて求められる、現代の学生にとって不可欠なものです。問題のコア、賛否双方の論点、自らの立場が明確に整理できていないと、面接者からの問いにしっかり答えることができません。

また、本講義は経営学部が提供する他学部公開科目でもあります。取り上げるテーマは、例えば「政党政治」なら法学部、「メディア」なら社会学部、「新卒採用」ならキャリアデザイン学部など他学部講義での主要テーマとなるものですが、これら全てを「収益や市場」など経営的な視点で再分析することで、問題への理解を深めていくことができます。政治も報道も就活もいずれも、それらの成り立ちには必ずビジネスの側面が存在し、応じて「カネ」の問題が絡んでくるからです。

【到達目標】

経営社会学Ⅰでは、労働者が直面する社会的な時事問題を扱います。一般的には「労働社会学」などが取り上げるトピックスですが、これを企業経営者の目線から再分析していくことで、一方的な企業批判に陥りがちな労働問題の「現実的な解決策の落としどころ」を探ります。ここで狙っているのは、対立しがちな議論における「バランス感覚」の修得でもあります。

経営社会学Ⅱでは、経営者が直面する政治経済的な時事問題を扱います。同じくそれらは「政治経済学」などが取り上げるトピックスですが、これも企業経営者の目線から再整理していくことで、営利追求や社会的責任の観点などから「問題を主体的に単純化して捉える分析視覚」を明示します。ここで狙っているのは、拡散しがちな議論における「方向感覚」の修得でもあります。

本講義の最終的な到達目標は、これら多様かつ複雑な時事問題の背景にある大きな経営社会構造を自ら分析し、経済メディア（経済専門紙・専門誌）からの情報を取捨選択していく能力（情報リテラシー）の涵養にあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式を取りますが原則毎回、講義最後の5～10分間を使って「リアクションペーパー」の記入・提出（出席調査票を使用し、そのコメント欄に100字程度の自由記入を基本とします）を求め、その都度、質問や意見を集約します。講義では、その質問への回答等を題材としつつ、教員と参加学生とのディスカッションを可能な限り取り入れるとともに、学生の興味・関心をふまえた可能な範囲で講義内容の変更を加えていきます。また、講義開始時には、各回の講義内容に関する予習の成果として「Web 検索レポート」の提出（事前に提示される検索ワード3つについてインターネットで検索し、それぞれ300字、計1,000字程度にまとめた小レポート）を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
[1]	イントロダクション	経営社会学とはいかなる学問か？
[2]	新卒労働市場の社会学①	学生の「就活」と企業の新規卒一括採用、その構造変化
[3]	新卒労働市場の社会学②	新卒採用のIT化とアウトソーシング
[4]	新卒労働市場の社会学③	グループワークとディスカッション
[5]	ビジネスキャリア開発の社会学①	大企業における大卒マネジャーの昇進構造
[6]	ビジネスキャリア開発の社会学②	転職や出向など「失業なき労働移動」の成功要因
[7]	ビジネスキャリア開発の社会学③	グループワークとディスカッション
[8]	非正規労働化と貧困問題①	社会成層の中の「非正規化と貧困」
[9]	非正規労働化と貧困問題②	「派遣」から考える日本の労働政策
[10]	非正規労働化と貧困問題③	グループワークとディスカッション
[11]	国際労働移動の社会学①	外国人労働者の諸類型
[12]	国際労働移動の社会学②	国際的な資本と労働の移動形態
[13]	国際労働移動の社会学③	グループワークとディスカッション

3～4年次 / 2単位 [春学期授業/Spring]

3～4年次 / 2単位 [春学期授業/Spring]

[14]	授業内試験	授業内試験（論述形式）の実施
Ⅱ 秋学期		
回	テーマ	内容
[1]	再導入グループワーク	「ポリティカル・コンパス」（あなた達の政治思想を類型化する）
[2]	政党政治と官僚支配の政策社会学①	政党政治の諸類型
[3]	政党政治と官僚支配の政策社会学②	政党政治プロセスの社会構造
[4]	政党政治と官僚支配の政策社会学③	グループワークとディスカッション
[5]	赤字財政が変える日本の政策と生活①	日本の財政構造とプライマリーバランス
[6]	赤字財政が変える日本の政策と生活②	増大する医療・社会保障費と増税政策
[7]	赤字財政が変える日本の政策と生活③	グループワークとディスカッション
[8]	温暖化とエネルギー政策の環境社会学①	環境関連経済イベントの連鎖と混乱
[9]	温暖化とエネルギー政策の環境社会学②	環境ポリティクスの多様化と多元化
[10]	温暖化とエネルギー政策の環境社会学③	グループワークとディスカッション
[11]	マスコミ産業と情報インフラのメディア社会学①	メディア資本の拡張と「業界」構造
[12]	マスコミ産業と情報インフラのメディア社会学②	メディア産業の全体像と構造変化
[13]	マスコミ産業と情報インフラのメディア社会学③	グループワークとディスカッション
[14]	授業内試験	授業内試験（論述形式）の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記【授業の進め方と方法】の通り、毎回「Web 検索レポート」の提出を求めます（これが毎回の「宿題」となります）。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。毎回、トピックごとに主な講義内容を取りまとめたプリントを配布します。

【参考書】

社会学的な見地と社会学の諸理論を理解するためには、『社会学・第五版』（アンソニー・ギデンズ著／而立書房）が有用です。また、各回個別のテーマに関する専門的文献（新書など）については、参加学生の興味・関心に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点を重視しつつ毎回のペーパー及びレポート提出を出席点に読み替えます。ただし、指定記述量に満たないものや「単位の嘆願」のような講義内容と無関係な記述などは、減点対象もしくは無効とします。なお最終評定は以下の配点で素点を積み上げ、100点満点の合計点で評価します。

[1] Web 検索レポート（各回事前提示される宿題：A4一枚）40 %

[2] リアクションペーパー（各回終了後に提出：A5一枚）30 %

[3] 定期テスト（論述問題一題：B4一枚）30 %

【学生の意見等からの気づき】

毎回のリアクションペーパーから得られる受講者ニーズに合わせ、必要に応じて、講義内容の難易度及び進行スピードを調整します。

【学生が準備すべき機器他】

各自パソコンを持ち込み、講義を受けながら（わからない概念等について）その都度ワード検索をかけると便利です。

【その他の重要事項】

1. 講義実施日の確認について

経営社会学Ⅰ（春学期土曜2限）及びⅡ（同3限）は、土曜午前から午後にかけて「一つのテーマを一日の連続講義で完結」させる形式で行われます（そのためⅠもしくはⅡのいずれかのみ履修することはできません。必ずⅠ及びⅡをセットで履修して下さい）。また、各テーマ講義後にグループワーク（アクティブラーニング）の時間が設けられており、実質的に土曜2～4限の集中講義（一日で講義3回消化）となります。したがって「3週分を2週で行う」かたちとなるため、3週に一度「講義のない週」があります。初回のイントロダクションで開講スケジュールを明示しますので、各自しっかり登校日を確認しておいて下さい。

2. 担当教員の実務経験について

担当教員（佐野哲）は本学着任前、政府機関のシンクタンク（独立行政法人）で 10 年間、産業・労働分野の政策研究を行ってきました。政治家や学者、中央省庁の担当官僚やマスコミ関係者と連携しながら、政策課題を共有しつつ膨大な実態調査を幅広く行い、政策の策定や見直しに係る実務を経験してきました。授業計画にあるテーマの多くは、こうした経験に関連するものです。講義では可能な限り、様々な経験に基づくエピソード等を盛り込んで行きたいと考えています。

【Outline and objectives】

This course provides an applied sociological analysis of work and work experience in its social, organizational and political context in Japan. In this course, we examine the major trends shaping current and future work; work's organization into projects, firms and government.

This course consists of two parts, 1)“Work, Organization and Society” and 2)“Work, Environment and Government”. The first part, “Work, Organization and Society” presents a broad overview of central topics in Occupational system, the transformation of management, Job insecurity and ethnic diversity in Japan. The second part of the course covers topics in political and social change, the reform of the welfare state, risk and the environment and the global media and democracy.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980 年代以降、組織や人事制度を経済学的手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。

・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】

・組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題など。

・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。

・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・担当教員による講義が主だが、授業中に適宜アンケートや小テスト、それらの解説や議論等を行う（授業中または自宅での予習・復習として、授業支援システムの利用を予定）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

II 秋学期	テーマ	内容
1.	講義概要、人間の行動原理 (1)	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
2.	人間の行動原理 (2)	・経済合理性
3.	人間の行動原理 (3)	・経済非合理性
4.	人間の行動原理 (4)	・不完全情報下の経済合理的行動
5.	取引・組織の評価基準 (1)	・効率性 ・公正性に関するアンケート
6.	取引・組織の評価基準 (2)	・さまざまな公正性概念
7.	コースの定理 (1)	・効率性概念の応用
8.	コースの定理 (2)	・市場と組織の選択 ・ルール化の是非
9.	組織デザイン (1)	・組織構造
10.	組織デザイン (2)	・コーポレート・ガバナンス
11.	組織デザイン (3)	・職務設計 ・多様性管理
12.	インセンティブ問題 (1)	・インセンティブの強度 ・ナッジ
13.	インセンティブ問題 (2)	・人事制度への応用
14.	まとめ、復習	・講義全体の総括 ・講義の進捗や受講者数によっては授業内試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・講義レジュメや資料を事前に学内授業支援システムにアップするので、授業前に目を通しておくこと。

・事前にアンケートや小テストの回答を求めることもあるので誠実にこなすこと。

・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業の間か、次回授業の冒頭までに行ってほしい。

【テキスト（教科書）】

・単一のテキストは特に用いない。

・担当教員が作成する授業レジュメ、参考資料等を事前に学内授業支援システムを通じて配付する。

・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】

・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT 出版、1997 年。組織経済学の包括的かつ基本的教科書。

・エドワード・P・ラジャー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017 年。人事制度や組織デザインを扱っている。

・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT 出版、2005 年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題のエッセンスを扱っている。

・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013 年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。

・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016 年。経済非合理性に立脚した経済学のバイオニアによる自伝的入門書。

・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011 年。経済学者が重用する「効率性」（功利主義）以外のさまざまな正義観を知ることができる。

・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992 年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したもの。

【成績評価の方法と基準】

・学期末に行う筆記試験（参照不可。マークシートと記述式を併用）の結果を 80%、授業期間中の平常点（アンケートや小テストの回答状況）を 20% のウェイトで足し合わせた総合点（100 点が満点）の点数によって評価する。

・試験問題は、上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】

・2015 年度、2016 年度の結果を総合すると（2017 年度は休講）、内容の難易度は「適切」が過半だが、「やや難しい」もかなりある。内容の理解度は「およそ理解できた」が約半分で、残りは「どちらとも言えない」と「あまり理解できなかった」。自由記述のコメントを見ても、内容が興味深い、考える力がついたなどのコメントがある一方、内容が難しい、説明が分かりにくいといったコメントがあった。受講者の理解度を高めるために一層の工夫、努力が必要だと受け止めている。

・板書が読みにくいとのコメントも相変わらず散見されるが、是非、教員が黒板に書くことよりも、話すことをメモする訓練をしてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

・授業中に「授業支援システム」を利用する予定なので、スマホないしパソコンを用意してほしい。ただし、授業中に利用不可の場合は、授業外での利用もハンディとならないように配慮する。

【その他の重要事項】

・本科目は I、II の通年開講授業だったが、2018 年度以降、新カリキュラムに合わせて I のみの開講となる。このため II の主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされる。ただし、それに該当する内容は、より詳細に GBP 用の HRM I/II (I は秋学期、II は春学期) でカバーする。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非どちらも受講してほしい。

・担当教員は、1980 ～ 89 年、(旧) 労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・ミクロ経済学入門 I / II、組織行動論 I / II、人的資源管理 I / II 等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline and objectives】

・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.

・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.

MAN300FB-A4411

組織行動論Ⅰ

AMAN300FB-4412

組織行動論Ⅱ

西川 真規子

3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織における個人や人間関係に関わる課題・問題に対して、心理学や社会学、社会学などの学際的知見を応用し解決をはかるのが組織行動論です。組織行動論Ⅰでは、個人一般に焦点を当て、個人が集団と関係する際の個人の内面の働きや変化、更には個人から集団への働きかけを中心に理解を深めていきます。組織行動論Ⅱでは、組織の中の個人に焦点をあて、個人の集団内での関係性を促進したり阻害したりする要因やその結果について知識を深め、更にはこれら知識の組織現場への応用についても検討していきます。

【到達目標】

①個人が組織と関わる際の態度や行動に関する基礎概念や基本理論を理解する。②これら概念や理論を各自の集団活動経験（アルバイト、部活等）に応用することができる。③集団の一員としてひとと効果的にかかわる方法や、その際に生じる問題の改善・解決策を自ら考え実践に生かす力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各回において、①講義の前に自らの体験を振り返る **Exercise** を実施します。②その後、各回のテーマに沿った講義を行います。講義では、アルバイトやサークル、ゼミ活動等受講生の実体験にも十分活用できるレベルでの理論や概念の説明を行います。また授業中に **Reflection** を行い、各自の実体験を振り返り、概念・理論の応用をはかります。③最後に、講義内容を踏まえ組織行動論の視点から **Exercise** の内容を再度振り返ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	個人と集団、組織の関係性 組織行動論とは
2	学習	ヒトの学習 個人の学習 集団での学習
3	認知	認知プロセス 認知のゆがみ 認知主体としての自己
4	帰属	帰属の事例 内的帰属と外的帰属 帰属バイアス
5	情動と自己	身体、情動、認知、行動 感情と知性 感情と文化
6	モチベーション 1	モチベーションと自己 動因と誘因 自己実現と個性の発揮
7	モチベーション 2	モチベーションと目標 ゴールの重要性 効果的なゴール
8	モチベーション 3	モチベーションと期待 二つの期待値 結果の予測値
9	モチベーション 4	モチベーションと公平・不公平 認知不協和 組織における公正性
10	個人の意思決定	合理的意思決定 合理性の限界
11	集団での意思決定	社会的プロセスとしての意思決定 状況に応じた意思決定
12	ジェンダーと組織行動	ジェンダーと労働 ワークライフバランス
13	事例研究	共通のケースについて皆でその捉え方を検討し、改善（解決）策を探ります これまでの学習内容のまとめ
14	まとめ	これまでの学習内容のまとめ

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	個人と集団、組織の関係性 組織行動論とは
2	個人と集団	集団の発達 集団の要素 集団の類型

3	チームとパフォーマンス	集団とチーム チームの類型 高業績チームの特徴
4	コミュニケーション基礎	コミュニケーションとは 相互作用としてのコミュニケーション コミュニケーション上の障害
5	コミュニケーション応用	効果的なコミュニケーション アサーティブネス アクティブリスニング
6	コンフリクト	コンフリクトの捉え方 コンフリクトのプロセス コンフリクトのマネジメント
7	ストレス	ストレス発生のプロセス ストレスとパフォーマンス コーピング
8	リーダーシップ 1	リーダーシップとは リーダーシップ理論の変遷
9	リーダーシップ 2	コンティンジェンシー理論 1
10	リーダーシップ 3	コンティンジェンシー理論 2 交換型リーダーと変革型リーダー
11	パワーと影響力	パワーと依存関係 パワーの源泉 パワーの行使
12	信頼	信頼と協力関係
13	事例研究	共通のケースについて皆でその捉え方を検討し、改善（解決）策を探ります これまでの学習内容のまとめ
14	まとめ	これまでの学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義の途中か最後に、各自で **Exercise** の内容を再度振り返り改善する **Reflection** を実施します。授業時間中にこの作業が完了しなかった場合は、次の回の講義までに **Reflection** を完了させてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。
授業に使用する資料を事前に授業支援システムを通じて毎週配布します。この資料は、講義中にノートがとれるよう余白が設定されていますので、各自授業前に印刷し持参してください。尚、配布資料に記載されているのは要点のみなので、毎回授業中に講義ノートをできるだけ詳しく取ってください。

【参考書】

各回引用する文献が異なるため参考書は特に指定しません。
参考文献が知りたい場合は講義後教員に尋ねてください。

【成績評価の方法と基準】

組織行動論Ⅰ/Ⅱそれぞれについて学期末に試験を実施します。試験の成績が 100 % 評価に反映されます。試験内容は授業で学習した内容とします。授業では特定のテキストを使用しませんので、試験の内容を理解するには出席が欠かせません。

【学生の意見等からの気づき】

応用力が身につくという本授業のメリットを、**Exercise** や **Reflection** の実施を通じてさらに高めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する資料を事前に授業支援システム上で公開しています。受講生はこの資料を授業前に印刷し授業に持参してください。授業に関するお知らせ等についても授業支援システムを通じて行っていますので、各自授業開始後速やかに授業支援システムで自己登録を行ってください。講義はパワーポイントを使用しています。教員の話をよく聴き、自らの気づき等積極的にノートテキングを行うことで資料を補完してください。

【その他の重要事項】

授業中に支援システム上の資料をスマートフォンで確認する受講生を散見しますが、資料は必ず印刷して持参してください。
組織行動論の理解を深めるため、組織行動論Ⅰ/Ⅱの連続受講を勧めます。

【関連科目】

人的資源管理Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】

Organizational behavior seeks to understand human behavior in organizational contexts. Students will learn the basic concepts and theories of organizational behavior, mainly developed in the field of psychology, social psychology, and sociology. The first half of this course will focus on the attitudes and behavior of people in general, such as individual perception, learning, motivation, and decision making. The second half will examine the behavior of people and groups in organizations, such as teamwork, communication, and leadership.

MAN300FB-A4413

人的資源管理Ⅰ

MAN300FB-A4414

人的資源管理Ⅱ

佐野 嘉秀

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「人的資源管理（HRM = Human Resource Management）」の基礎を体系的に学習します。人的資源管理の考え方では、企業経営の視点から、働く人々を自社の貴重な「人的資源（Human Resource）」とみなします。そして、そうした人的資源の効果的な活用をはかります。「管理（Management）」の対象は人です。一筋縄にはいきません。それぞれが自立した考え方を持ちながら、家族や地域社会など、企業以外の社会とかかわりをもって生活しています。向き不向きもあります。そうした個人々に、企業目標に向けて活躍してもらわなくてはなりません。この授業では、人的資源管理をめぐる基本的な考え方を学ぶとともに、日本の人的資源管理の現状と課題について、具体的なトピックスにも触れながら、体系的に学び理解します。

【到達目標】

1) 人的資源管理の基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。
2) 人材確保に関わる人事管理の領域として、①採用、②人材育成、③配置転換、④昇進・昇格、⑤人事評価、⑥賃金管理などの領域について学ぶ。このうち、人的資源管理Ⅰでは①と②、人的資源管理Ⅱでは③～⑥を中心に学習することで、各領域に関する基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。レジュメ・資料をプリントとして配布し、それに沿って講義をすすめます。人的資源管理Ⅰで予定しているテーマは、授業計画を参照して下さい。ただし、講義するテーマの順序等は下記と変わる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション：春学期の授業内容	人的資源管理（HRM）の授業での学習範囲、HRMの基本的な目的や担い手について、等
2	人的資源管理（HRM）の考え方①	職場の人事管理機能、本社人事部門の役割（人事部不要論の検討）、等
3	人的資源管理（HRM）の考え方②	HRMが前提とする労働者像、伝統的な人事管理とHRMのちがひ、等
4	人的資源管理（HRM）の考え方③	HRMの基本思想の循環、HRMの仮定（ベスト・プラクティスとベスト・フィット）、等
5	人的資源管理（HRM）の考え方④	労働者意識の多様化と動機づけの理論、HRMの諸施策と動機づけとの関係、等
6	採用管理①	HRMにおける採用、採用計画の考え方（経営戦略、人員構成との関係）、等多様な採用ルート（新卒採用の役割）、RJP（リアリスティック・ジョブ・プレビュー）の考え方、等
7	採用管理②	RJPの限界、OJR（オン・ザ・ジョブ・リクルーティング）の多様な展開、等
8	採用管理③	HRMにおける人材育成（HRD）、教育訓練の機能（育成 make か採用 buy か）、等
9	人材育成①	労働者タイプの変化と教育訓練、分業と人材育成、等
10	人材育成②	幅広い仕事経験と教育訓練、OJTシステムの転換と教える側の变化、等
11	人材育成③	教育訓練の現状、OJTと off-JT、自己啓発支援、教育訓練施策の補完関係、等
12	人材育成④	「投資」としての教育訓練、教育訓練の費用（直接費用と機会費用）、等
13	人材育成⑤	人材育成とキャリア管理、春学期に学習した各分野についてのまとめ
14	人材育成⑥、春学期の学習のまとめ	

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション：春学期の復習と秋学期の授業内容	人的資源管理（HRM）の考え方、人的資源管理Ⅱで扱う分野の概要、等

2	配置転換①	HRMにおける配置転換、配置転換の人材育成機能、初任配属先の選択、等
3	配置転換②	配置転換のコスト、ホワイトカラーの配置転換とその範囲、等
4	配置転換③	配置転換における組織と個人、企業主導型の配置転換の限界と「新しい」配置転換、等
5	昇進①	HRMにおける昇進、昇進における「選抜」「育成」「動機づけ」の関係、等
6	昇進②	昇進の実態とキャリア・ツリー、「トーナメント移動」と日本の昇進、日本の「ファスト・トラック」、等
7	社員格付け制度①	HRMにおける社員格付け制度、社員等級制度と昇格基準、「年功」制の合理性、等
8	社員格付け制度②	社員等級制度の変化、「能力主義」と職能資格制度、ジョブグレード、等
9	社員格付け制度③	日本の昇進・昇格管理と専門職制度、専門職制度の変化と課題、等
10	人事評価①	HRMにおける人事評価、評価の主観性と「公平」な評価、評価要素の選択、等
11	人事評価②	「成果主義」の人事評価、MBOの仕組みと課題、納得性向上のための工夫、等
12	賃金①	HRMにおける賃金管理、賃金と動機づけ、賃金の総額管理と個別賃金管理、等
13	賃金②	賃金制度の基礎、職務給と職能給、年齢・賃金プロフィール、賃金とHRMシステム、等
14	福利厚生、秋学期の学習のまとめ	法定福利と法定外福利、福利厚生の機能、春学期に学習した各分野についてのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①講義で学習したテーマや論点に関して、日頃から、参考書や新聞記事等を読んで理解を深める。②インターンシップやアルバイト、部活動・サークル活動など、人的資源管理に関わる活動を行うなかで、講義で学習した議論や理論をもとに人的資源管理の実態や課題について考え、授業での学習内容について理解を深める。

【テキスト（教科書）】

とくに教科書は指定しません。授業内で配布する資料・プリントをもとに講義をすすめます。

【参考書】

各自が自習するための参考書として、①佐野陽子『はじめての人的資源マネジメント』有斐閣、②佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理（第3版）』有斐閣アルマ、③今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門（第2版）』日本経済新聞社をあげておきます。このうち①と②は、人的資源管理に関する基礎的な理解、③は発展的な理解に役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：100 %

春学期と秋学期ともに、成績評価は期末定期試験の結果をもとに行います。授業内で学習した人的資源管理に関わる概念や理論、考え方や議論について、十分に理解できているかを問う試験問題とします。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、専門的な内容について「理解しやすい」授業になるよう心がけるつもりです。板書を基本としますが、プリントの図表の説明等では、投影設備の利用も適宜行います。

【その他の重要事項】

春学期に開講する人的資源管理Ⅰと秋学期に開講の人的資源管理Ⅱの授業をすべて受講すると、人的資源管理の全体像が体系的にあきらかになってきます。ですから、春学期と秋学期、続けての受講を勧めます。とはいえ、春学期と秋学期でそれぞれ扱うテーマ（人的資源管理の分野）が異なるため、関心にしたがって春学期のみ秋学期のみの受講でも、授業内容についての理解は可能です。本授業と関連がある科目としては、組織論入門が挙げられます。

【Outline and objectives】

Our objective is to Learn and understand basic human resource management theories and practices. We focus on HRM practices in Japan from comparative perspectives. HRM practices can be understood as a system. We are to focus on each area of HRM system respectively. Theories of HRM, wage system, appraisal, recruiting and selection, training and development, internal promotion and welfare are main areas of HRM.

MAN300FB-A4415

情報と倫理

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

寺本 卓史

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

いわゆる情報化の進展にともない、「情報漏えい」や「知的財産権の侵害」から「炎上」「バカッター」などに至るまで、さまざまなトラブルが近年目につくようになってきている。こうした問題は、個人であれ企業などの組織であれ、避けて通ることではない状況にあり、それぞれの立場・場面で対応が求められている。

こうした状況の背景には、ネット空間を中心として、日進月歩で新たな技術やサービスによりメディアのあり方に変化が迫られ続ける環境があげられよう。例えば、LINE を用いたコミュニケーションは数年前までは存在しなかったものであり、こうした新しい環境における問題（たとえば「既読無視」）の解決には明快な答えが用意されていない。このようにメディアの形が変化し続ける中では、個人や組織は定められたルールを順守するだけでなく、基盤となる「原則」と「戦略」の確立が重要となる。個人や組織は問題に対して自ら考えて対処することが必要な状況におかれているのである。

このような「原則」と「戦略」を考える基礎となるのが、個人や組織、そして社会における「倫理」である。本授業では、こうした解のない問題に対する個人、そして組織における対処の仕方について、「倫理」を広義の「コミュニケーション能力」と指定し、コミュニケーションの本質について触れながら、ネット空間における主体の在り方について受講者とともに考察する。

【到達目標】

本授業では、情報化に対して考え行動できるようになるために、以下の3点の理解・構築を授業目標として設定する。

1. 現状存在する情報技術・サービス自体を知り、情報・情報化の本質に関して理解すること。
 2. 情報化に対応する社会制度について理解すること。
 3. 情報・情報化に対する自分なりの「原則」「戦略」を構築すること。
- そして、本授業においては、こうした「原則」「戦略」を倫理と定義する。この目的の実現のため、単に受け身の授業ではなく、受講者一人一人に「考える」ことを要請する。そのための仕掛けとして、授業内においてグループワークやゲストスピーカーとのディスカッションなどを予定している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は6つのセクションに分けて行う。

・ガイダンス (1 回)

本授業の内容を概観し、受講の意義と到達目標を明確にする。

・情報化によって発生したトラブルの現状 (2 回)

情報化の現状を、発生しているトラブルから探ることによって、情報化時代における個人と社会、企業と社会の関係を考察する。

・情報の特性 (3 回)

情報の特性を考察し、それによって今日進展している情報化社会の本質を明らかにする。

・情報化の進展と社会制度 (4 回)

法律と情報セキュリティマネジメントという2つの制度から、情報・情報化に適合的な制度がどのように設定されているか、またそれらの制度の意義と限界について考察する。

・情報倫理の構築に向けて (3 回)

情報・情報化に適合的な制度の限界を超える「原則」と「戦略」を確立するために必要な事柄について考察する。

・まとめ (1 回)

これまでの授業を総括し、成果と課題について考察する。

単なる一方通行の講義ではなく、獲得した知識を活用する能力を養うことを企図している。参加人数によって異なるが、具体的には、ディスカッションやグループによる作業、メールもしくは授業支援システムやレポートを利用した意見や考察の表明などを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	「情報と倫理」を受講するにあたって
2	情報化によって発生したトラブルの現状 (1)	ネットをめぐるトラブル—個人と社会の関係性
3	情報化によって発生したトラブルの現状 (2)	企業と情報戦略—企業と社会の関係性
4	情報の特性 (1)	情報の特性とその認識
5	情報の特性 (2)	情報化の進展
6	情報の特性 (3)	情報化の進展と経済のサービス化
7	情報化の進展と社会制度 (1)	技術的対策
8	情報化の進展と社会制度 (2)	法的制度—刑法・知財法における情報

9	情報化の進展と社会制度 (3)	対策としての社会的合意形成
10	情報化の進展と社会制度 (4)	企業組織における制度—情報セキュリティマネジメント
11	情報倫理の構築に向けて (1)	情報資産の保護と活用—情報保護と利用
12	情報倫理の構築に向けて (2)	情報資産の保護と活用—模倣と社会進化
13	情報倫理の構築に向けて (3)	情報倫理を作り出す能力
14	まとめ	重層的な情報倫理の構築に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムを用いたレポート課題を毎週課す（選択回答式。全授業を通じて3回以上提出すること）。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（参考書を参照）。

【参考書】

村田潔編『情報倫理 インターネット時代の人と組織』有斐閣選書 ISBN：4-641-28096-7

梅本吉彦編著『情報社会と情報倫理』丸善 ISBN：4-621-07017-7

斉藤了文『テクノロジーテラシーとは何か』講談社学術メチエ ISBN：4-062-58323-7

ローレンス・レッシング『コモンズ』翔泳社 ISBN：4-798-10204-0

Tim O'Reilly "What is Web 2.0"

<http://www.oreillynet.com/pub/a/oreilly/tim/news/2005/09/30/what-is-web-20.html>

その他の参考書は授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業参加状況（平常点）（10%）、課題レポート（20%）、問題演習等における実習レポート提出（20%）、期末試験（50%）による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、授業支援システムによる課題レポートの提出、毎回の授業冒頭での紹介を行う。また、課題レポートは当該授業参加者についてのみ受け付けることとする。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを用いた課題レポート提出を授業期間中に定期的に課す。（授業期間内に選択して3問以上解答すること）

【その他の重要事項】

情報系に関する知識の少ない人にも分かりやすい内容とする。

受講者は受け身ではなく、考えてもらう授業とするため、極力欠席しないことを要請する。

関連科目：

情報と職業（秋学期）と連続して履修が望ましい（順序は問わない）

経営組織論Ⅰ/Ⅱ、経営社会学Ⅰ/Ⅱと合わせての履修が望ましい（順序は問わない）

【オフィス・アワー】

質問がある場合は E-mail で受け付ける。

メールアドレスは初回授業、Web 掲示板でお知らせします。

【Outline and objectives】

This lecture is aimed to think about the principles and strategies for media usage for organizations and individuals.

Nowadays many troubles are occurred on internet services. These are new phenomenon on quite new conditions which we had never confronted until a few years ago. Therefore, resolutions for such problems have not been set yet in many cases. Thus we, who are using ICT: Information Communication Technology have to decide by ourselves not to rely on any formula.

In this lecture, we presume "Information Ethics" as our abilities toward solving problems on ICT, and we can also call "communication abilities" in wider definition.

Taking it as "communication abilities", this is not a new problem at all, and human have confronted it every time when new media is evolved. Thus, this lecture series start from looking about troubles on internet, then search into history when new media was born. Finally, we discuss about what conditions are required when we have to confront new media situations.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、非正規雇用者の割合が上昇するなど、正規雇用に辿り着けない若者の増加が社会問題化している。さらに、正規雇用の職を獲得しても、いわゆる「七五三問題」と呼ばれる新卒就業におけるミスマッチも問題として指摘されるようになってきている。こうした雇用とその後のキャリアにおける問題について考察し、職業に関するキャリアに対する考え方を受講者とともに考察するのが本授業のテーマである。

上記のような職業に関する問題は一方で、情報通信技術（ICT）の進化に起因する考え方もある。近年見られる情報化による産業構造の変化とは、単なる新技術の導入による既存プロセスの効率化にとどまらず、プロセス自体や組織構造の変革、新しい産業の隆盛や起業の活性化、求められる人材像の変化などまで、きわめて広範囲に及ぶものである。こうした変化が雇用形態の変化に及ぼす影響の大きさは、今日の雇用状況に関する指標などからも確認可能である。

その一方で留意しなければならないのは、情報化によってこれまでの労働及び労働観が完全に変化する訳ではないことである。情報化社会においても、成員同士のコミュニケーションが労働を含めた社会的活動の基本であり、これまでの労働や職業のあり方が根本から変化してしまうわけではない。

こうした雇用の変化と産業構造の変化がどのように関連しているかを明らかにし、またこうした状況が労働自体の何を変化させ、何が変化しないのかについての考察を試みる。

【到達目標】

本授業では、情報化に対して考え行動できるようになるために、以下の3点の理解・構築を授業目標として設定する。

1. 雇用形態と産業構造の関連から成立する「働く形」の変化について知ること
 2. 「職業観」に関して、情報化による影響を受ける部分と受けない部分について理解すること
 3. 「情報」の本質に関しての考察を通して、「知識労働」について学ぶこと
- これらの理解を通して、就職活動期を迎えつつある受講者各人が、情報化社会における「働く意味」を戦略的に確立してもらうことを到達目標とする。この目的の実現のため、単に受け身の授業ではなく、受講者一人一人に「考える」ことを要請する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は7つのセクションに分けて行う。

・ガイダンス (1 回)

本授業の内容を概観し、受講の意義と到達目標を明確にする。

・現代における職業 (3 回)

雇用形態と産業構造の現状を、「非正規雇用」と「情報化」の二つをキーワードにその変化と現状を分析する。

・情報の特性 (2 回)

情報の特性を考察し、それによって今日進展している情報化社会の本質を明らかにする。

・職業観の歴史と変遷 (2 回)

職業観がどのように変遷を遂げたかを、主に西洋社会をテーマに取り上げ、古代、ローマ教会下、プロテスタンティズム、そして今日のリナックスイズムをそれぞれの代表的な論考を参考にしながら、辿っていく。

・情報化によるプロセスの変化 (2 回)

情報化によって、産業構造における労働プロセスにどのような変化が生じているのか、経営情報論を引用しながら明らかにする。

・求められる能力とリテラシー (3 回)

これまで取り上げてきた、情報の特性、職業観、産業構造のプロセス変化より、どのような能力及びリテラシーが今日の職業に求められているか分析する。

・まとめ (1 回)

これまでの授業を総括し、成果と課題について考察する。

単なる一方通行の講義ではなく、獲得した知識を活用する能力を養うことを企図している。参加人数によって異なるが、具体的には、ディスカッションやグループによる作業、メールもしくは授業支援システムやレポートを利用した意見や考察の表明などを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	「情報と職業」を受講するにあたって
2	現代における職業 (1)	非正規雇用と情報化の関係
3	現代における職業 (2)	情報化と雇用・産業構造の現状
4	現代における職業 (3)	情報化の職業に与えたインパクトとは何か?

5	情報の特性 (1)	情報の意味とは何かー「基礎情報学」から考える
6	情報の特性 (2)	情報と知識の関係性ー知識創造理論から考える
7	職業観の歴史と変遷 (1)	前近代・近代の職業観ー M. ウェーバー、H. アレントから考える
8	職業観の歴史と変遷 (2)	現代の職業観ーリーナス・トーバルズ、レイモンド・エリックから考える
9	情報化によるプロセスの変化 (1)	産業の情報化ー効率化と戦略性
10	情報化によるプロセスの変化 (2)	情報の産業化ー情報産業の出現
11	求められる能力とリテラシー (1)	情報化による職業における役割変化
12	求められる能力とリテラシー (2)	職業人のキャリア形成
13	求められる能力とリテラシー (3)	知識創造と職業
14	おわりに	戦略的な職業観の確立に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムを用いたレポート課題を毎週課す（選択回答式。全授業を通じて3回以上提出すること）。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（参考書を参照）。

【参考書】

近藤勲編著『情報と職業』丸善 ISBN：4-621-07091-6
山崎信雄『情報と職業ー情報産業で働くための必要知識ー』ISBN：4-944-02492-4
ハンナ・アレント『人間の条件』ちくま学芸文庫 ISBN：4-480-08156-9
ベッカ・ヒマネン、リーナス・トーバルズ、マニュエル・カステル『リナックスの革命』ISBN：4-309-24245-3
レイモンド・エリック『伽藍とバザール』青空文庫
<http://www.aozora.gr.jp/cards/000029/card227.html>
城繁幸『若者はなぜ3年で辞めるのか?』光文社 ISBN：4-334-03370-9
その他の参考書は授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業参加状況（平常点）(10%)、課題レポート（30%）、期末試験（60%）による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムによる課題レポートの提出、毎回の授業冒頭での紹介を行う。ただし、提出されたレポートを、これまで通りレジュメ上で紹介するか、他の方法を用いるかに関しては再検討する。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを用いた課題レポート提出を課す。課題レポートは当該授業参加者についてのみ受け付けることとする。

【その他の重要事項】

受講者に考えてもらう授業とするため、極力欠席しないことを要請する。

関連科目：

情報と倫理（春学期）と連続して履修が望ましい（順序は問わない）
経営情報論Ⅰ/Ⅱ、経営社会学Ⅰ/Ⅱと合わせての履修が望ましい（順序は問わない）

【オフィス・アワー】

質問がある場合は E-mail で受け付ける。

メールアドレスは初回授業、Web 掲示板でお知らせします。

【Outline and objectives】

This Lecture is for thinking about what the essence of career planning based upon ICT is. Rapid changes in working situation are mainly caused by ICT. Also, it is said that workers have to change and adapt with new situation such as development of AI. It seems our working condition is changing in deep level.

Of course, we cannot ignore the impact of ICT or AI on changing of business processes. We should know well about the characteristics of computer, that means advantages and disadvantages of it.

At the same time, our recognition on career has diversity and we don't have to abandon all of them. "Human Communication" is still the basic ability for business process and ICT does not completely change these ways.

Thus, this lecture series will try to make apparent that what will change and not change on working process to develop career planning on today's ICT condition.

MAN300FB-A4417

財務会計論Ⅰ

3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FB-A4418

財務会計論Ⅱ

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

川島 健司

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な簿記・会計（簿記入門Ⅰ／Ⅱ、会計学入門Ⅰ／Ⅱ）を習得した学生を対象に、財務会計の制度・理論とその活用方法を体系的に講義する。財務会計の学習においては、財務諸表の「作り方」と「読み方」を同時に学ぶことが効率的であり、本講義では財務諸表の作り手と読み手の双方の視点を通して会計実務を理解することを目指す。

財務諸表の作り方については、基本的な会計原則と会計基準を解説する。これには、財務会計の目的と機能、複式簿記の原理、利益計算の考え方、会計規制の考え方、資産評価の考え方、会計情報の質的特性、資産・負債・収益・費用の各概念に関する議論などが含まれる。

財務諸表の読み方については、代替的な会計処理の手続きの種類とその選択に関する財務諸表作成者の動機のパターンを解説し、公表された会計数値の意味をいかに解釈するかについて議論する。また、代表的な財務指標を解説し、実際の公表財務諸表から企業実態を推論する技法について講義する。

【到達目標】

- ①各取引をどのように会計処理すべきかについて会計に関する語彙（概念）を用いて考察する力、さらにはそれを他者に対して説明する力を習得する。
- ②日本の会計基準、および IFRS（国際財務報告基準）を読解することに必要基礎概念について理解する。
- ③会計数値の背後にある財務諸表作成者の意図を読み解く力を習得する。
- ④財務諸表（英文財務諸表を含む）から企業実態を推論する力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【各回の授業構成】

各回とも授業は前半と後半に分割する。前半では財務会計の制度・理論・歴史について解説する。簿記や会計という技術的・制度的な印象を強くもたれがらだが、本講義ではこれらの側面を踏まえながらも、さらに各取引内容の理解とその会計処理の背後にある理論的根拠と歴史的経緯に触れながら講義を進める。

後半では実際の公表財務諸表を用いて会計処理や企業実態の様子を観察・分析する。財務会計の制度と理論にもとづいて、それらを企業が実際にどのように適用して財務諸表を作成しているかを観察する。また、主要な財務指標を解説したうえで、財務諸表から企業実態を推論・分析する。とくに、公表された財務数値が企業によってどのように作られ、そこにそこからどのような企業の意図が読み取れるかを分析することに主眼を置く。

-本講義で学習する主な財務指標

売上高利益率、流動比率、自己資本比率、固定長期適合率、インタレスト・カバレッジ・レシオ、総資本回転率、棚卸資産回転率、総資産利益率、自己資本利益率（ROE）、1 株当たり当期純利益（EPS）、時価簿価比率（PBR）、経済的付加価値（EVA）

-本講義で観察・分析する財務諸表

本年度はアメリカ企業を取り上げる。その際、同業種の日本企業とも適宜比較する。取り上げる予定の企業は次のとおりである：Apple（電子機器）、Starbucks Corporation（コーヒー）、Chipotle Mexican Grill（レストラン）、Whole Foods Market（グロサリー）、Nike（アパレル）、Target Corporation（ディスカウントストア）、Royal Caribbean Cruises（海運）、Virgin America（空運）、GoPro（映像機器）、The Walt Disney Company（エンターテインメント）、Tesla（電気自動車）。

なお、これらの企業の財務諸表は英文であり、英語の勘定科目について適宜解説する。受講生は英文財務諸表も読み慣れるようになる。

【問題意識の共有と質疑応答】

受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、適宜、質疑応答の機会を設定する。受講生は毎回の講義で、理解できなかった点や関心をもった点などを質問票に記述し（任意）、その質問票の内容を教員が整理・体系化し、それに公開回答するかたちをとる。公開された質問票には成績評価の際に加算する（後述の「成績評価の方法と基準」を参照）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	本講義の概観	講義全体の学習内容と講義計画を説明。
2	会計システム	会計システムの構造を解説し、財務会計の主な論点を認識する。
3	会計システムの目的と役割	財務会計の目的と役割を明確化。利害調整と情報提供という目的観を解説。
4	会計システムのインプット	会計システムのインプットたる「取引」について理解する。

5	会計システムのアウトプット	損益計算書と貸借対照表について解説。収支計算書との関係を理解する。
6	複式簿記	簿記一巡の手続きの説明・実践を行う。
7	会計基準と会計法規	財務会計に関わる会計基準と法規制について、その存在理由と期待される役割を解説。
8	日本の会計基準	日本の会計基準の歴史を概観し、『企業会計原則』と『企業会計基準』について解説。
9	世界の会計基準	米国会計基準、英国会計基準、および国際財務報告基準（IFRS）の歴史と「概念フレームワーク」を解説。
10	利益計算のアプローチ	損益法と財産法の特徴を考察する。
11	発生主義会計	収益・費用の認識基準について、現金主義と発生主義を対比させながら解説。
12	費用収益対応の原則	費用収益対応の原則について、具体例を用いながら解説。
13	原価主義会計	代替的な資産評価基準を検討、取得原価の合理性について解説。
14	会計システムの評価：理論と実証	現行の会計システムの理論的根拠と実証研究の発見事項を解説。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	個別論点の概観	会計処理の個別論点を概観し、秋学期の学習内容の全体を見通す。
2	資金調達会計	資金調達の主要な方法とその会計処理について解説。
3	金融商品会計	有価証券に関する会計処理の確認とその理論的裏付けについて解説。
4	棚卸資産会計	棚卸資産の評価方法について、単価と数量の決定方法を中心に解説・考察。
5	固定資産会計	有形固定資産の取得と減価償却について解説・考察する。
6	リース会計	リース会計について解説・考察する。
7	減損会計	減損会計について解説・考察する。減価償却と減損会計、および原価主義と減損会計との関係について明確化。
8	退職給付会計	負債の概念、負債の分類について解説する。引当金について解説。
9	資産除去債務会計	資産除去債務の会計について解説。同会計の適用事例を観察。
10	ストック・オプション会計	新株予約権、ストックオプションの会計処理について解説・考察。
11	企業結合会計	企業結合会計の手続き、のれんの償却の根拠と合理性について検討。
12	外貨建取引会計	外国通貨で表示された取引の換算処理方法を解説。
13	連結会計 1	連結会計報告の考え方と手法について解説。
14	連結会計 2	連結貸借対照表と連結損益計算書の作成について解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

企業の IR 資料を教材として活用する。受講生は各自、企業のホームページから教材として指定された書類を入手・持参すること。

【テキスト（教科書）】

講義内容と演習問題を記述したレジュメを用いる。レジュメは授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。

【参考書】

- 1 伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社、2018 年 4 月現在の最新版。
- 2 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社、2018 年 4 月現在の最新版。
- 3 飯野利夫『財務会計論』三訂版、同文館、1993 年。
- 4 佐藤信彦他『スタンダードテキスト財務会計論Ⅰ・基本論点編』第 9 版、中央経済社、2015 年。同『スタンダードテキスト財務会計論Ⅱ・応用論点編』第 9 版、中央経済社、2015 年。
- 5 W・H・ビーヴァー著・伊藤邦雄訳『財務報告革命』第 3 版、白桃書房、2010 年。
- 6 W・R・スコット著・太田康広他訳『財務会計の理論と実証』中央経済社、2008 年。
- 7 Craig, D. Financial Accounting Theory, 3rd, McGraw-Hill, 2009.
- 8 Kieso, D.E. et al. Intermediate Accounting, 15th, Wiley, 2013.

【成績評価の方法と基準】

以下の 2 点にもとづいて評価する。括弧内はウエイト。①春学期末・秋学期末の筆記試験（80 %）：参照不可の筆記試験（電卓のみ持ち込み可）。期末試験をレポート課題に替えることはしないため、期末試験は必ず受験すること。②質問票への記述状況（20 %）：各回の授業終了後に受講生は任意で質問や感想を書面で提出することができる。その内容が全受講生にとって有益であると考えられるものは、翌週以降の講義で紹介する。この際、講義への参画と貢献に対する評価として、最大 20 % の範囲内で加点する。

【学生の意見等からの気づき】

板書の字が小さくて見えないという指摘が複数ありました。スライドを多用するよう改善します。また受講生にはできるだけ前列に座ってもらうよう授業開始時に案内します。

【学生が準備すべき機器他】

講義用レジュメは授業支援システムを利用して配信する。受講生はそれをダウンロード・印刷して授業に持参すること。

【その他の重要事項】

「簿記入門Ⅰ／Ⅱ」および「会計学入門Ⅰ／Ⅱ」を履修していることを前提に講義を進める。

【Outline and objectives】

This lecture gives the system and theory of financial accounting and its application method. In learning of financial accounting, it is efficient to learn "how to make" and "how to read" financial statements at the same time, and this lecture aims to understand accounting practices through both viewpoints of the financial statement creator and reader.

Regarding how to prepare financial statements, I will explain basic accounting principles and accounting standards. This includes discussions on the concepts of financial accounting purposes, functions of double entry bookkeeping, concept of profit calculation, concept of accounting regulation, concept of asset valuation, and qualitative characteristics of accounting information, assets, liabilities, income and expenses.

With regard to how to read financial statements, I will discuss the types of alternative accounting procedures and the motivation patterns of financial statement preparers on their choices, and discuss how to interpret the meaning of the published accounting figures. In addition, I will explain representative financial indicators and techniques to infer the realities of companies from the actual published financial statements.

MAN300FB-A4419

監査論Ⅰ

3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FB-A4420

監査論Ⅱ

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

坂上 学

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、保証業務を含む監査の基本的な知識を提供する。とりわけ財務諸表監査の概念的、理論的、実務的な側面について扱う。保証業務を含む監査業務に対し、どのように監査基準や監査手続を適用すべきかということが理解できるようになることを目的としている。

【到達目標】

監査の基本知識として、理論的な基礎と制度の概要を理解し、監査報告書を読んだ時に、それが何を意味するのかを十分に理解できることを到達目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこなう。各章の内容に即したケーススタディを行い、必要に応じてプリントを配布する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期講義の概要と進め方、そして評価方法について説明します。
第 2 回	監査のフレームワーク（1）	テキスト第 1 章「監査のフレームワーク」の前半部分について学習します。
第 3 回	監査のフレームワーク（2）	テキスト第 1 章「監査のフレームワーク」の後半部分について学習します。
第 4 回	ケーススタディ（1）	テキスト第 1 章に関連する事例研究をおこないます。
第 5 回	監査制度のフレームワーク（1）	テキスト第 2 章「監査制度のフレームワーク」の前半部分について学習します。
第 6 回	監査制度のフレームワーク（2）	テキスト第 2 章「監査制度のフレームワーク」後半部分について学習します。
第 7 回	ケーススタディ（2）	テキスト第 2 章に関連する事例研究をおこないます。
第 8 回	監査規範の意義とわが国の監査基準（1）	テキスト第 3 章「監査規範の意義とわが国の監査基準」前半部分について学習します。
第 9 回	監査規範の意義とわが国の監査基準（2）	テキスト第 3 章「監査規範の意義とわが国の監査基準」後半部分について学習します。
第 10 回	ケーススタディ（3）	テキスト第 3 章に関連する事例研究をおこないます。
第 11 回	監査意見形成のプロセス（1）	テキスト第 4 章「監査意見形成のプロセス」の前半部分について学習します。
第 12 回	監査意見形成のプロセス（2）	テキスト第 4 章「監査意見形成のプロセス」の後半部分について学習します。
第 13 回	ケーススタディ（4）	テキスト第 4 章に関連する事例研究をおこないます。
第 14 回	まとめ	春学期講義のまとめをおこないます。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	イントロダクション	秋学期講義の概要と進め方、そして評価方法について説明します。
第 16 回	リスク・アプローチと監査戦略（1）	テキスト第 5 章「リスク・アプローチと監査戦略」の前半部分について学習します。
第 17 回	リスク・アプローチと監査戦略（2）	テキスト第 5 章「リスク・アプローチと監査戦略」の後半部分について学習します。
第 18 回	ケーススタディ（1）	テキスト第 5 章に関連する事例研究をおこないます。
第 19 回	リスク評価、リスク対応および監査の完了（1）	テキスト第 6 章「リスク評価、リスク対応および監査の完了」の前半部分について学習します。
第 20 回	リスク評価、リスク対応および監査の完了（2）	テキスト第 6 章「リスク評価、リスク対応および監査の完了」の後半部分について学習します。
第 21 回	ケーススタディ（2）	テキスト第 6 章に関連する事例研究をおこないます。

第 22 回	監査報告書と情報提供機能（1）	テキスト第 7 章「監査報告書と情報提供機能」の前半部分について学習します。
第 23 回	監査報告書と情報提供機能（2）	テキスト第 7 章「監査報告書と情報提供機能」の後半部分について学習します。
第 24 回	ケーススタディ（3）	テキスト第 7 章に関連する事例研究をおこないます。
第 25 回	開示情報の多様化と保障機能（1）	テキスト第 8 章「開示情報の多様化と保障機能」の前半部分について学習します。
第 26 回	開示情報の多様化と保障機能（2）	テキスト第 8 章「開示情報の多様化と保障機能」の後半部分について学習します。
第 27 回	ケーススタディ（4）	テキスト第 8 章に関連する事例研究をおこないます。
第 28 回	まとめ	秋学期講義のまとめをおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当箇所を熟読しておくこと。

【テキスト（教科書）】

伊豫田隆俊, 林隆敏, 松本祥尚『ベーシック監査論（七訂版）』同文館出版
※最新版が出版されていれば、そちらを購入してください。

【参考書】

鳥羽至英『財務諸表監査 理論と制度 基礎篇』（国元書房, 2009）

【成績評価の方法と基準】

期末テストの点数を 80 %、ケーススタディ等で実施するミニテストの点数を 20 % の比率で按分し、平常点を加味して成績評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

真面目に出席している学生をちゃんと評価して欲しいという要望が多く寄せられている。これまで以上に、真面目に出席している学生の把握に勤め、成績へのプラス評価につなげる努力をしたいと思っている。私語を注意してくれて良かったという感想も多く寄せられるので、授業に集中できるように静かな環境で授業を受けられるよう、最大限の配慮を行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

会計学の基本的な知識があることを前提として講義を進めるので、「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」と「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」を履修していることが望ましい。また財務諸表に関する知識も必要になるので、「財務会計論Ⅰ/Ⅱ」を平行して履修するなどして知識の獲得に努めてほしい。

【Outline and objectives】

This course provides a foundation in assurance, attestation, and auditing fundamentals. The emphasis of this course is on conceptual, theoretical and practical aspects of auditing financial statements. Upon completion of this course, students will be able to apply professional auditing standards and appropriate audit and other procedures to auditing, assurance and attestation engagements.

MAN300FB-A4421

税務会計論Ⅰ

MAN300FB-A4422

税務会計論Ⅱ

大下 勇二

3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期「税務会計論Ⅰ」

わが国の税金全体の体系と所得税、消費税および法人税の基本的な仕組みとその基礎

秋学期「税務会計論Ⅱ」

わが国の法人税法の課税所得計算の基礎と財務会計との比較

【到達目標】

春学期

経営学部学生として必要と思われる税金の基礎的知識の涵養を目標とします。

秋学期

会社の中心的な税金である法人税の基本的な計算プロセスとその基礎的考え方を理解することにより、会計分野の重要な領域としての税務会計の基礎を修得し、財務会計との相違を理解することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期

わが国の所得税、法人税および消費税を中心として、税金全体の概要とその仕組みを理解することを目的としています。所得税と消費税については配布資料に基づき、法人税はテキストを用いて、重要な点をパワーポイントにより解説する形で授業を進めていきます。また、個別事例の紹介、実際の所得税の確定申告の練習等も取り入れる予定です。

秋学期

わが国において、法律で規制された会計、いわゆる制度会計には金融商品取引法により規制された「金商法会計」（旧証取法会計）、商法・会社法により規制された「会社法会計」および法人税法により規制された「税務会計」が挙げられます。これら三つの制度会計の領域は、相互に密接に結びついてわが国の企業会計制度を形成しております。前二者の制度会計の領域は、主として「財務会計論」で学習します。本講義は三番目の税務会計を取り上げます。

法人税法の取扱いは実務的で詳細にわたっていますが、授業は、基礎的な内容に限定し、可能な限り財務会計の考え方と法人税法特有の考え方を対比させながら、税法固有の計算の考え方・見方の修得を目指します。授業はテキストを事前に学習していることを前提に、企業の事例を紹介しながら重要な点をパワーポイントを用いて解説する形で授業を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	わが国の税金の体系 (1)	わが国の租税体系を概説します。
第 2 回	わが国の税金の体系 (2)	租税構造および税負担に関する国際比較を行います。
第 3 回	所得税 (1)	所得税の概要、所得の種類と計算方法について学習します。
第 4 回	所得税 (2)	給与所得を中心にその計算の仕組みを学習します。
第 5 回	所得税 (3)	所得税の累進税率の意味と税額の計算方法について学習します。
第 6 回	所得税 (4)	所得税申告書の仕組みを概説し、所得税の計算練習を行います。
第 7 回	所得税 (5)	所得税課税の考え方を総括します。
第 8 回	消費税の仕組み (1)	消費税を中心にその特徴と計算方法を学習します。
第 9 回	消費税の仕組み (2)	逆進性といった消費税の問題点を検討します。
第 10 回	消費税の仕組み (3)	消費税の益税の問題を検討します。
第 11 回	法人税 (1)	わが国の法人税の概要、法人所得課税の考え方、株主集合体説などを中心に法人税の基礎を学習します。
第 12 回	法人税 (2)	わが国の法人税の対象法人を取り上げ、わが国法人の特徴を学習します。
第 13 回	法人税 (3)	法人税法の体系、帳簿組織、同族会社、事業年度と繰越欠損金の問題を学習します。

第 14 回 法人税 (4)

課税所得計算の一般原則、益金の額、損金の額、現行法の所得概念、課税所得の計算構造、資本等取引の概念、実質課税原則、権利確定主義・債務確定主義、確定決算主義、税務調整など、課税所得研鑽の基礎を学習します。

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	法人税の基礎	法人税の計算を概説します。
第 2 回	売買損益の計算	売買損益、請負損益、売上げ割戻しの取扱いを学習し、税法の考え方を学びます。
第 3 回	その他の益金の計算	受贈益、受取配当金、固定資産の譲渡益の取扱いを概説し、税法の考え方を学習します。また、在外子会社からの配当金の問題も取り上げます。
第 4 回	売上原価の計算と棚卸資産の期末評価	売上原価の計算の仕組み、棚卸資産の取得原価、期末棚卸資産の評価方法などを学習し、売上原価算定における税法の考え方を学びます。
第 5 回	有価証券の譲渡原価と期末評価	有価証券の譲渡原価の算定の仕組み、有価証券の取得原価、譲渡原価、期末評価、評価減について学習し、有価証券の譲渡原価の算定における税法の考え方を学びます。
第 6 回	固定資産の減価償却	減価償却費算定の仕組み、取得原価の算定、耐用年数、償却方法、残存価額、償却限度額の計算について学習し、減価償却計算における税法の考え方を学びます。
第 7 回	事業形態の多様化と課税問題	ペイ・スルー課税やパス・スルー課税（構成員課税）といった新しい事業体の課税問題を取り上げます。
第 8 回	企業の社会的責任と寄附金・交際費課税	交際費および寄附金について損金算入制限する理由と税法特有の考え方を学習します。
第 9 回	給与の支給形態の多様化と課税問題	役員の給与を中心に、損金算入制限することの理由と税法特有の考え方を学習します。また、業績連動報酬と課税の問題も取り上げます。
第 10 回	不良債権の償却の課税問題	不良債権の問題を中心に、貸倒損失および貸倒引当金の計算における税法の考え方を学習します。また、これに関連して、税効果会計も取り上げます。
第 11 回	企業活動の集団化と課税問題 (1)	合併、分割、株式交換・株式移転といった企業組織再編に係る包括的税制を学習し、企業組織再編税制の考え方を学習します。
第 12 回	企業活動の集団化と課税問題 (2)	グループ法人単体課税制度および連結納税制度の仕組みと特徴を学習し、企業集団の課税制度における税法の考え方を学習します。
第 13 回	企業活動の国際化と課税問題 (1)	国際課税の原則を学習します。
第 14 回	企業活動の国際化と課税問題 (2)	租税回避対策税制を学習し、米国有名企業などの租税回避行為の仕組みを取り上げます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキスト、または講義スライド・配布資料を読んでおくことが求められます。また、レポートを複数回提出してもらいます。

【テキスト（教科書）】

・所得税・消費税に関しては、講義スライドと配布資料
・法人税に関しては、大下勇二著『税務会計Ⅰ・Ⅱ』法政大学通信教育部（2019 年）と講義スライド。
講義スライドは授業支援システムに事前にアップロードします。

【参考書】

春学期

開講時に指示します。

秋学期

渡辺・山本著『法人税の考え方・読み方』税務経理協会
成松洋一著『法人税法 理論と計算』税務経理協会

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 (25%)、平常点 (15%) および定期試験の結果 (60%) から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の最後に簡単な○ × 問題を解答してもらい、授業内容の理解をその都度深める取り組みをしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントのスライドを中心に板書を交えて進めていきます。スライドは授業支援システムにアップロードしますので、各自、事前に用意して下さい。

【その他の重要事項】

本科目は会計関連の専門科目と密接に関連しています。1年次の簿記入門Ⅰ/Ⅱ、2年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱを履修しておくことが望ましく、また、平行して、財務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱを履修し、会計学の基礎を理解しておくこと、本講義の理解がより一層促進されます。所得税、消費税、法人税等の税金関連の新聞記事をほぼ理解できるように頑張しましょう。

【Outline and objectives】

The objective of Tax Accounting is to understand the basic concepts and structures of income tax,value added tax and corporate income tax in Japan.

MAN300FB-A4423

管理会計論Ⅰ

3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FB-A4424

管理会計論Ⅱ

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

北田 皓嗣

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理会計とは、組織管理に不可欠な経済的情報を提供する理論と技術である。したがって、管理会計の学習にあたっては、単に計算テクニックを使うというだけでなく、組織実践との関係で、経営管理とは何であるかについて理解する必要がある。そのため講義では、具体的な意思決定の場面をイメージしながらすすめていきたいと考えています。

【到達目標】

経営管理の問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。経営管理における問題ごとに異なる会計情報が利用されること、またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使うようにすることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進めるとともに、随時、計算問題や復習のための問題演習を取り入れていきます。また各回、2～3 程度の授業内課題に回答してもらいながら理解を深めてもらいます。特に、個人で考えるだけでなく、少人数のグループで話し合ったあと、クラス全体で共有することで相互に意見を交換し、多角的な理解ができるようにしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要と進め方について説明して いきます。
第 2 回	管理会計の基礎概念 1	原価の概念
第 3 回	管理会計の基礎概念 2	財務分析の方法
第 4 回	管理会計の基礎概念 3	組織構造、コントロールの階層
第 5 回	中期経営計画	計画の種類、ROI と利益とキャッシュ フロー
第 6 回	短期利益計画 1	CVP 分析、変動費と固定費
第 7 回	短期利益計画 2	安全余裕率
第 8 回	短期利益計画 3	プロダクトミックス
第 9 回	予算管理 1	予算管理の前提
第 10 回	予算管理 2	総合予算の編成
第 11 回	予算管理 3	予算差異分析
第 12 回	事業部の管理会計 1	ROEC, RI
第 13 回	事業部の管理会計 2	予定一括配賦、内部振替価格
第 14 回	BSC	4 つの視点、ストラテジーマップ

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	原価計算について	実際原価計算、総合原価計算、個別原 価計算、標準原価計算
第 16 回	モノづくりと管理会計 1	生産管理会計、CVP 分析
第 17 回	モノづくりと管理会計 2	原価企画
第 18 回	モノづくりと管理会計 3	テアダウンを通じた製品と原価への理 解
第 19 回	モノづくりと管理会計 4	品質管理会計
第 20 回	間接費の管理 1	ABC, ABM
第 21 回	間接費の管理 2	マーケティングコスト、ロジスティッ クコスト、ファシリティコスト
第 22 回	営業活動と原価	価格決定、目標原価
第 23 回	設備投資意思決定 1	経済性計算の方法
第 24 回	設備投資意思決定 2	DCF 法、資本コスト
第 25 回	環境マネジメントと管理 会計 1	環境管理会計
第 26 回	環境マネジメントと管理 会計 2	MFCA
第 27 回	環境マネジメントと管理 会計 3	統合報告書
第 28 回	まとめ	今学期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に復習を通じて知識の習得を行ってください。

【テキスト（教科書）】

パワーポイントを利用した授業をしますが、基礎的な概念について下記の参考書を利用すると学習が進むことが期待されます。

【参考書】

谷武幸 (2013) 『エッセンシャル管理会計（第 3 版）』中央経済社

浅田孝幸監訳 (2008) 『管理会計のエッセンス』同文館

【成績評価の方法と基準】

中間テスト（20 % × 2 回）、期末テスト（40 %）、授業参加（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

計算やケーススタディなど参加できる要素も取り入れようと考えています。

【その他の重要事項】

簿記入門や会計学入門など会計系の基礎科目を履修していることが望ましいです。また原価計算論Ⅰ/Ⅱや経営分析Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ/Ⅳと相互に関連しています。

ただし管理会計が **Management Accounting** の訳語であることから理解できるように、組織のマネジメントを会計情報システムの視点から理解する科目であるため、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ、人的資源管理Ⅰ/Ⅱ、技術管理論Ⅰ/Ⅱなどのマネジメントに関連する科目の理解を深めるための科目にもなります。

【Outline and objectives】

Management Accounting is an essential tool that enhances a manager's ability to make effective economic decisions. This course teaches students how to extract and modify costs in order to make informed managerial decisions.

MAN300FB-A4425

原価計算論Ⅰ

MAN300FB-A4429

原価計算論Ⅰ

平井 裕久

3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、さまざまな目的に役立つ原価情報を提供するために、製品単一位当たりの製造原価を計算するための方法です。原価計算論Ⅰでは、原価計算論を学習する上で必要な基本的な用語や諸概念を理解するとともに、原価計算の一連の計算手続を理解することを目的とします。

【到達目標】

原価計算論Ⅰでは、原価計算に関連した基本的な用語および概念を簡潔に説明できること、さらに製品原価の計算のための一連の手続きである費目別原価計算、部門別原価計算、製品別原価計算を理解し、基本的な計算問題を解けるようにすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

原価計算論Ⅰでは基本的には講義形式で授業を行います。毎回、テキストならびに授業支援システムを通じて事前に配布した資料を利用して、重要な概念および計算プロセスの説明および理論的な解説を行います。各回の講義で1回は例題を実際に自分の手で解いてもらいます。また、実際の企業の製造プロセスに関するビデオなども見てもらいます。原価計算論Ⅰでは、費目別原価計算、部門別原価計算、製品別原価計算という原価計算の一連の計算手続きに沿ったかたちで学習を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	講義の概要紹介	原価計算の目的について説明する。また、工業企業と商業企業の違いについて説明を行う。
2	原価計算の目的	原価計算の意義および目的について、原価計算基準にもとづいて説明を行う。
3	原価計算の諸概念	原価の一般概念および原価計算を学習する上で特に必要となる重要な原価分類のいくつかについて詳しく説明する。それぞれの概念を理解してほしい。
4	材料費の計算	材料費の意味、その内訳および材料費の計算プロセスについて説明した上で、例題演習を行なう。
5	労務費の計算	直接労務費および間接労務費の区別および直接労務費の計算方法を中心に説明する。
6	製造間接費の計算	製造間接費の意義および配賦の問題を説明する。特に、製造間接費の配賦基準の選択、またその背後にある論理を詳しく説明する。
7	部門別原価計算の意義	部門別原価計算を行う意義を正確な製品原価の計算と原価管理の効果的な遂行という観点から説明する。
8	部門別原価計算の計算手続	部門別原価計算の一連の計算手続きを説明するとともに、その具体的な方法を例題を交え説明する。
9	個別原価計算の特徴およびその計算プロセス	製品別原価計算の一つである個別原価計算が適する生産形態および個別原価計算の一連の計算手続きについて例題を交えながら説明する。
10	総合原価計算の特徴	製品別原価計算のもう一つの方法である総合原価計算の特徴を個別原価計算との対比で説明する。
11	総合原価計算における仕掛品の評価方法	総合原価計算における仕掛品の評価方法（平均法と先入先出法）について練習問題を交えながら説明する。
12	工程別総合原価計算の意義と累加法及び非累加法	部門別原価計算と伴う総合原価計算である工程別総合原価計算の意義また累加法による計算手続を説明する。また、非累加法についても紹介する。
13	そのほかの総合原価計算	等級別総合原価計算また組別総合原価計算について簡単な例題を交えて、説明を行う。
14	講義のまとめ	原価計算論Ⅰの内容のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義を受ける前に、各回の指定されたテーマについて該当箇所のテキストを読むとともに、事前に授業支援システムを通じて配布された資料には必ず目を通しておいください。さらに、テキストの例題を自分なりに解いてみて、わからない箇所を明確にして講義に望んでください。必要に応じて、講義の終了後に復習また発展的な学習のための課題を配布するので次の講義までに解いて持ってきてください。次回の講義では前回の復習をかねてこの課題を解説することから講義を始めます。

【テキスト（教科書）】

山北晴雄・福田淳児『ファーストステップ原価計算を学ぶ』中央経済社 2016年 (2400 円税別)

【参考書】

参考文献また推薦図書については、講義の中で必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原価計算論Ⅰについて期末に行われる定期試験の結果に課題の提出状況を加味して評価を行います。成績評価の配分基準は定期試験の結果 80 % 程度、課題の提出状況を 20 % 程度とします。

【学生の意見等からの気づき】

当該授業を担当するのは今年度からである。

【学生が準備すべき機器他】

事前配布資料は配布する予定です。

【その他の重要事項】

関連科目とし管理会計論Ⅰ/Ⅱおよび財務会計論Ⅰ/Ⅱなどがありますので同時に履修することを勧めます。

MAN300FB-A4426

原価計算論Ⅱ

MAN300FB-A4430

原価計算論Ⅱ

福田 淳児

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算論Ⅱでは、原価計算システムを通じて提供される原価情報が、企業における原価管理および短期利益計画において果たす役割を理解することを目的とします。また、1980 年代に実務の観察に基づいて提唱された activity-based costing の計算メカニズムまたそれが経営意思決定にもたらす影響を伝統的な製造間接費の配賦方法との対比で理解することを目的とします。

【到達目標】

原価計算論Ⅱでは、原価計算システムが経営管理目的に有用な情報を提供できることを理解することを目標とします。具体的には、経営管理目的での原価計算としての標準原価計算や直接原価計算が提供する情報の役立ちを説明できること、さらに 1980 年代に登場した Activity-Based Costing の基本的なメカニズムを説明できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

原価計算論Ⅱは講義形式で授業を行います。毎回、テキストと事前に配布した資料を利用して、重要な概念および理論的な解説を行います。そのうえで、例題を解いたり、実際の企業の実例を紹介することで理解を深めてもらいます。本講義では、原価管理目的に有用な原価計算である標準原価計算、短期的な利益管理目的に有用な直接原価計算ならびに CVP 分析、さらに Activity-Based Costing と伝統的な製造間接費の配賦方法との比較について学習を行います。理解を深めるための問題また発展問題を授業中または宿題として出すので必ず解いてくること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	講義の概要紹介	原価計算論Ⅱで取り扱うテーマの概要についての紹介を行う。
2	標準原価計算の意義及びその諸目的	標準原価計算の意義とその目的について、原価管理目的への役立ちを中心に説明する。また、歴史的な経緯も説明する。
3	標準原価計算における原価標準の設定	標準直接材料費、標準直接労務費および製造間接費標準の設定方法を説明する。
4	標準原価計算における原価差異分析（四分法を中心に）	製造直接費および製造間接費の差異分析について説明する。なお、製造間接費の差異分析については四分法を中心に詳しく説明する。
5	標準原価計算の現代的な意義	現在の製造環境のもとでの標準原価計算による原価管理目的への有用性について、いくつかの文献を手掛かりに議論を行う。
6	CVP 分析の意義	C・V・P 分析の意義、ならびに貢献利益（限界利益）の意味を中心に説明する。
7	CVP 分析の例題	C・V・P 分析にかかわる様々な問題（一定の利益を達成するために必要な売上高など）を解く。
8	直接原価計算の意義とその目的	全部原価計算との対比で直接原価計算の意義および短期利益計画目的での有用性について説明する。
9	直接原価計算および全部原価計算による損益計算書の作成	直接原価計算に基づく損益計算書の作成について、全部原価計算に基づく損益計算書の作成との対比で、例題を交えながら説明する。
10	直接原価計算と全部原価計算における営業利益の比較	直接原価計算と全部原価計算に基づく損益計算書において営業利益に差異が生じる状況とその原因およびそれが経営者の意思決定に及ぼす可能性のある影響を中心に議論する。
11	ABC の基礎的な概念	ABC が生成した歴史的背景および基本的な用語や概念について説明する。
12	ABC と伝統的な製造間接費の配賦との比較	ABC と伝統的な製造間接費の配賦方法との違いをその相違点に焦点を当てて説明する。また、その相違が経営意思決定に及ぼす影響も説明する。いくつかの実例も紹介する。

13 ABM

ABC で得られた情報を原価管理目的で利用する手順やそれによるメリットを考察する。
原価計算論Ⅱで学習した内容を総括する。

14 講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義を受ける前に、各回の指定されたテーマについて該当箇所のテキストを読むとともに、授業支援システムを通じて事前に配布された資料に必ず目を通しておくこと。さらに、テキストの例題を自分なりに解いてみて、わからない箇所を明確にして講義に望むこと。必要に応じて、講義の終了時点で各回に学習した内容の復習また発展的な問題を配布します。次回の講義ではこの問題を解くことで前回の講義の振り返りを行いますので必ず問題を解いて出席すること。

【テキスト（教科書）】

山北晴雄・福田淳児『ファーストステップ原価計算を学ぶ』中央経済社 2016 年 (2400 円税別)

【参考書】

参考文献また推薦図書については、講義の中で必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の結果（80％）に課題の提出状況（20％）を加味して評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容が難しいというコメントがある一方で、簡単であるというコメントも見られます。両者を満足させることは難しいのですが、講義ではできるだけ基本的なところから説明を行い、発展的な問題については課題などで補足したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

事前配布資料は授業支援システムを通じて配布します。

【Outline and objectives】

This class aims to develop students' understandings on what roles cost information provided thorough a cost accounting system play in implementing cost management and short-term profit planning in organization. It is also explains the way activity-based costing, proposed based on observation of practices, allocates indirect cost to products and the effects ABC information on management decision making with reference to traditional cost allocation mechanisms.

MAN300FB-A4427

国際会計論Ⅰ

MAN300FB-A4428

国際会計論Ⅱ

筒井 知彦

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際会計論Ⅰでは、会計基準の国際的な多様化と調和化について講義します。企業が直面する環境は国によって異なり、それが各国の会計基準の相違を生み出す原因となっています。春学期は、このような会計基準の多様化について取り上げます。具体的には会計と環境（経済的・法的・社会的・文化的環境）、会計基準の国際的多様性（アメリカ、ヨーロッパ、発展途上国等）、多様化に伴う弊害について講義します。

国際会計論Ⅱでは、企業の事業活動の国際化、資本市場の国際化等が進むなかで、国際的に共通の物差しを作り、企業の収益や財政状態の国際的な比較を容易にするよう求める声が強まっていることから、会計基準の国際的調和化を取り上げます。具体的には、国際会計基準の設定の経緯、国際会計基準の基本的考え方、日本の経営と会計、日本基準と国際会計基準の相違、アメリカの会計・監査の変遷と会計不正について講義します。

【到達目標】

- (1) 国際会計基準の基本的な考え方が理解できる。
- (2) 日本の経営と会計の関係が理解できる。
- (3) 日本が会計を巡って現在置かれている状況と対応が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期・秋学期

随時プリントを配布し、講義を中心に進める。具体的な事例も取り上げる。計算問題により理解度を確認する。秋学期にはビデオも視聴する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、会計および経営と環境の関係
2	環境変化が企業経営に及ぼす影響①	規制強化が企業経営に及ぼす影響：牛井業界の事例
3	環境変化が企業経営に及ぼす影響②	規制緩和が企業経営に及ぼす影響：家電量販業界
4	会計と環境：経済的環境①	経済の発展レベル、政治および経済の安定性
5	会計と環境：経済的環境②	外国為替、円高と円安、外貨建て取引の会計、為替リスクへの対処、インフレーション
6	経営指標①	ROE、ROA、ROEとROAの比較
7	会計と環境：法的環境	成文法と慣習法
8	会計と環境：政治的環境	政治体制、共産主義、政府による資産の収用
9	会計と環境：資本市場	証券取引所、資本市場、負債市場
10	経営指標②	ROEの3分解、ドットとスターバックスを事例とした計算問題
11	近年改訂された会計基準①	減損会計基準、減価償却と減損、費用配分と評価、公正価値
12	近年改訂された会計基準②	企業結合会計基準、パーチェス法、プーリング法、のれんの償却と減損
13	近年改訂された会計基準③	退職給付会計基準、棚卸資産会計基準
14	まとめ	春学期の講義の総復習

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、多様化、調和化、コンバージェンス、アドプション、エンドースメント
2	会計ルールの変遷	会計ビッグバン前後の会計基準の変遷
3	会計ビッグバン①	会計ビッグバンまでの日本：日本の経営、株式の持ち合い、含み益、外国人投資家、資本効率
4	会計ビッグバン②	フリー、フェア、グローバル、会計ビッグバンに伴う会計基準の改訂、ビデオ①
5	国際会計基準の設定①	IASCの設立、4つの転換点、IOSCO、コアスタンダード
6	国際会計基準の設定②	IASB、ノーウオーク合意、東京合意

7	国際会計基準への対応	国際会計基準への我が国の対応
8	国際会計基準の基礎①	概念フレームワーク、資産負債アプローチと収益費用アプローチ
9	国際会計基準の基礎②	公正価値と取得原価、原則主義と細則主義、ビデオ②
10	国際会計基準の基礎③	ビデオ③、退職給付会計の計算問題
11	国際会計基準の基礎④	退職給付会計、確定給付型年金と確定拠出型年金
12	アメリカの会計制度の変遷	大恐慌以前、証券法、証券取引法、SEC、FASB
13	アメリカの監査制度の変遷	会計不正、規制強化
14	まとめ	秋学期の講義の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義前にプリントを予習し、講義後にはプリントを読み直すこと。プリントにある計算問題について実際に解いてみる。講義やプリントで関心を持った部分について自ら調べてみるとよい。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。毎回、プリントを配布する。

【参考書】

定評のあるテキストとして、桜井久勝『テキスト国際会計基準第6版』白桃書房、秋葉賢一『エッセンシャルIFRS第3版』中央経済社、広瀬義州『新版IFRS財務会計入門』中央経済社などがある。国際会計基準が網羅されている辞書的な文献として『国際財務報告基準2014』中央経済社がある。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80%）、平常点（小レポートなど20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- ①リアクションペーパーに質問やコメントを書いてもらい、それについて授業内でフィードバックします。
- ②私語について厳しく対処します（退出してもらったこともあります）。
- ③適宜、問題演習を行います。

【学生が準備すべき機器他】

電卓を利用することがあります。その場合、事前にアナウンスします。

【その他の重要事項】

関連科目：会計学入門Ⅰ/Ⅱを履修していることが望ましい。財務会計論Ⅰ/Ⅱを並行履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

This unit provides an overview of the accounting issues uniquely confronted by companies involved in international business. This includes how accounting is practiced in countries around the world with comparison to the US. In addition, focus will also be on Global rules and regulations issued by international organizations such as IFRS-International Financial Reporting Standards and IASB - International Accounting Standards Board which are evolving due to international entities requiring global standardization.

MAN300FC-A4451

国際経営戦略論Ⅰ

3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FC-A4452

国際経営戦略論Ⅱ

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

笠原 民子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済活動のグローバル化の進展している今日、企業にとって海外進出及び海外市場でのビジネス活動（国際経営）は必須となっています。異なる環境下において、どのように競争優位を構築するかは多国籍企業にとって重要な経営課題です。本講義では、なぜ企業は海外展開を図るのか、海外進出している多国籍企業と国内市場を対象とする企業のマネジメント（戦略、組織）はどのように異なるのか等について、企業活動の国際化・グローバル化という視点から、企業が直面している国際経営の理論及び現実について体系的に学ぶことを目指します。

【到達目標】

学生は、多国籍企業が直面するビジネス環境を理解します。海外市場への参入戦略、現地での経営戦略、国際人材戦略等国際経営戦略を公正する各要素を理解します。国際経営戦略を理解するために必要な経営学の理論を学びます。最終的に企業の国際経営戦略を分析できることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。まず日本とは異なる海外のビジネス環境について講義します。その後、海外直接投資や多国籍企業に関する基本的な事項を講義します。さらに、エントリー戦略、国際経営戦略（戦略、生産、マーケティング、組織、研究開発、人的資源管理等）を講義していきます。講義の中では、多国籍企業にとって重要性が増している新興国市場に関する議論も取り入れます。理論に関する講義だけではなく、事例研究も行います、インタラクティブな講義を目指しているため、講義中に受講生に意見を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
1	講義概要	講義に関するオリエンテーション
2	国際経営とは何か	国際経営の目的、意義、対象
3	グローバルイゼーションとは	グローバルイゼーションの促進要因等
4	海外直接投資（FDI）	FDI の動機と類型
5	企業の国際化理論（1）	なぜ企業は海外に進出するのか
6	企業の国際化理論（2）	企業の国際化を説明する理論
7	企業の国際化理論（3）	企業の国際化の拡大を説明する理論
8	エントリー戦略（1）	エントリー・モードの類型
9	エントリー戦略（2）	どのように海外市場に参入するのか
10	国際経営戦略（1）	多国籍企業が直面する 2 つのプレッシャー
11	国際経営戦略（2）	グローバル競争と企業戦略、グローバル経営の持続的競争優位
12	国際経営戦略（3）	国際経営戦略の変容：新興国市場を踏まえたグローバルビジネス、伝統的な多国籍企業との違い
13	国際経営戦略（4）	多国籍企業の生産
14	国際経営戦略（5）	多国籍企業の生産（新興国）

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	講義概要	これまでの講義の復習と今後の学習内容の概要
16	国際経営戦略（6）	多国籍企業の経営戦略の類型
17	国際経営戦略（7）	多国籍企業のマーケティング
18	国際経営戦略（8）	多国籍企業の組織と戦略
19	国際経営戦略（9）	多国籍企業の研究開発
20	海外子会社（1）	海外子会社のコントロール
21	海外子会社（2）	海外子会社の役割と類型
22	国際人的資源管理（1）	多国籍企業で働く人材の類型と特徴
23	国際人的資源管理（2）	海外派遣者のマネジメント
24	国際人的資源管理（3）	海外子会社の人事政策
25	国際人的資源管理（4）	海外子会社の現地化問題
26	国際人的資源管理（5）	異文化・ダイバーシティマネジメント
27	ケーススタディ（1）	アジア諸国における日本企業のビジネスの現状
28	ケーススタディ（2）	欧州諸国における日本企業のビジネスの現状

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期

1-3 回：グローバルイゼーションが企業に与える影響を考える

4-7 回：企業国際化の論理について学ぶ

8-9 回：エントリー・モードに関する理論を学ぶ

10-12 回：国際経営の基本的な視点について学ぶ

13-14 回：国際経営の生産について学ぶ

秋学期

1 回：春学期の講義内容の復習

2-5 回：国際経営戦略について学ぶ

6-7 回：海外子会社の特徴について学ぶ

8-12 回：国際人的資源管理の基本的視座について学ぶ

13-14 回：アジア、欧州諸国における日本企業のビジネスの現状について学ぶ

【テキスト（教科書）】

適宜指示する。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

出席点 50 %、定期試験 50 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

初年度のため該当なし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【関連科目】

特になし

【実務経験のある教員による授業】

特になし

【Outline and objectives】

With advanced in the globalization of the business activities, multinational corporations (MNCs) are required to learn and implement global management to

build competitive advantages in different host countries. This class aims to learn international business theory and reality that MNCs face. In particular, this class focuses on the topics that why companies expand their business into foreign countries, differences between domestic management (strategy and organization) for domestic companies and international and/or global management for MNCs .

MAN300FC-A4453

国際経営論Ⅰ

MAN300FC-A4454

国際経営論Ⅱ

洞口 治夫

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経営論とは、企業経営の国際化に伴う諸問題を解決に導く方途を研究する学問の総称です。トヨタ、全日空（ANA）、東京ディズニーランド、吉野家とマクドナルドなど、豊富な事例を学びながら、企業経営の課題を学びます。国際経営論の目的は、グローバル化を進める企業経営の実態を知り、経営の失敗を避ける方途を社会科学的に示すことにあります。どのような企業が製品開発を海外で行ったり、国際的なマーケティングを行っているのでしょうか。国家間の通貨安競争や国境を越えた人的資源管理などの課題を持つ日本の多国籍企業はいかに行動すべきでしょうか。こうした問題を考えるための基礎的な概念を学んでいきます。

【到達目標】

この授業では経営学の基礎を復習し、学生諸君が、将来、国際的なビジネスパーソンとして活躍するときに必要となる国際経営の基礎知識を学習し、経営理論と関係づけて理解できるようになることを目標とします。そのために、多国籍企業が現代社会に対してどのような影響を与えているのかを知り、また、多国籍企業に関する理論を学習して、その動向への見通しを立てること、および、理論的な考え方の面白さを知ることを目標とします。国際経営に関する日本語および英語の新聞記事を読み、「ものの見方」としての理論内容を検討し、国際ビジネスの理論と見識を現実に応用できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期には輸出・直接投資・ライセンスに代表される多国籍企業の経営活動について説明します。秋学期にはM&A、グローバル経営、外国為替レートの決定要因、キャッチアップ型工業化に関する考え方をやさしく説明します。パワーポイントやビデオなどの補助教材も利用しつつ、ノート・テイキングを確実に行うことを確認しながら授業を進めます。ビジネスの世界では、営業先での会話や交渉のやりとり、会社内で受ける上司からの指示や会議内容の議事メモ作成などは、自らノートにとって整理する必要があります。参加学生によるグループワークや音読も行い、専門用語の理解を確認します。春学期、秋学期には、それぞれ1ページ程度の英文を読み、ビジネス用語を学ぶとともに英語力の確認をしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第1回	国際経営論の概要説明	講義目的と概要、理論と実務との関連。経営学の復習。教科書第1章。
第2回	第Ⅰ部、戦略論	輸出・輸入、海外直接投資、ライセンス。資産、負債、純資産。第2章。
第3回	多国籍企業の参入形態 海外直接投資の理論	経営資源、取引費用。暗黙知、形式知、集合知。コア技術とコピー技術。ベンロズとハイマー。第3章。
第4回	多国籍企業とリスク	財務リスクと政治リスク。第4章。
第5回	第Ⅱ部、管理論 人的資源管理	現地適応とグローバル統合。EPRG理論。親会社と現地子会社。パルミューターとホフステッド。第5章。
第6回	OM入門	JIT生産、小集団活動、TOC理論。テイラー、ファード、トヨタ生産システム。第6章。
第7回	経済地理の重要性	クラスターの重要性。ポーターの学説。第7章。
第8回	国際人的資源管理	海外派遣の社内規定。海外赴任とモチベーション。採用、昇進、査定。中間試験ないしレポート。
第9回	情報システム、知識管理 とAI産業の創造性	暗黙知・形式知・集合知。経営進化理論の展開。製品開発論の基礎。第6章。
第10回	クリエイティブ・インダストリーの国際化	創造性のマネジメント。芸術と契約。コアとコピー。プロデューサーとディレクター。第7章。
第11回	第Ⅲ部、組織論 多国籍企業の組織とコーポレート・ガバナンス	組織ルーティンの進化、ITとAIの利用。職能別組織、事業部制組織、マトリックス組織。
第12回	多国籍企業の組織文化	不確実性の回避、権力格差、個人主義と集団主義、男性性と女性性。リーダーシップと信頼。第5章。

第13回 新興国市場と多国籍企業

BRICs、東南アジアの経済と企業。文化摩擦。グローバルとマルチナショナル。リスク・マネジメント。地域貢献と働き方。戦略的CSR。第1章から第7章。

第14回 企業倫理とCSR

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	第Ⅰ部、グローバル戦略、M&Aとコーポレート・ガバナンス	株主と株主総会。取締役会と委員会。デュー・ディリジェンス。第8章。
第2回	のれんと減損	買収金額の評価。資生堂の事例。第8章。
第3回	国際マーケティングと通貨	国際マーケティングと外国為替レート。4P、STPの復習。第9章。
第4回	多国籍企業と外国為替	主要な為替制度。固定相場、ベッグ、変動相場制。第13章。
第5回	第Ⅱ部、理論からみた企業経営。為替レートの決定理論	購買力平価説、金利平価説、オーバーシュート、ランダムウォーク、ニュースの役割。第13章。
第6回	金利平価と新聞による為替解説記事	利率の意味。数学的予備知識の復習、累乗と階乗。第13章。
第7回	ランダムウォークとオーバーシュート	二項分布とランダムウォーク。非弾力的な供給とドリフト。分布の重み。技術移転と知識創造。第10章。中間試験ないしレポート。
第8回	第Ⅲ部、キャッチアップ型工業化	アジア諸国の経済発展の特徴。第11章。
第9回	競争業者分析	イノベーションのジレンマ
第10回	イノベーションのジレンマ	イノベーション、研究開発、スピード競争。第12章。
第11回	経済発展と通貨危機	先物市場とニュースの役割。第13章。
第12回	第Ⅳ部、人的資源管理とグローバル経営の課題	仕事選びの価値基準。グループワークでは何が見られているか。第14章。
第13回	ダイバーシティ・マネジメント	LGBT, CSR, 男女雇用機会均等法。第15章。
第14回	コンプライアンスの重要性	インサイダー取引と企業倫理。第8章から第15章。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に参加する前にテキスト（教科書）の該当箇所を読み、わからない用語を調べる必要があります。日本語、英語で新聞記事が配布された回には、内容を理解する必要があります。

【テキスト（教科書）】

(1) 原田順子・洞口治夫編著(2019)『改定新版 国際経営』(放送大学教材)放送大学教育振興会。<まったく同名の旧著、原田順子・洞口治夫編著(2013)『新訂 国際経営』(放送大学教材)放送大学教育振興会が、まだ販売されていますので、間違えないようにして下さい。古い版とは内容が異なります。授業では、理解を確認するために授業内で音読をします。>
(2) そのほかに適宜、講義資料を配布します。配布資料には英語も含まれます。

【参考書】

(1) 洞口治夫・行本勢基(2012)『入門 経営学(第2版)』同友館。
<試験問題は、この本からも出題されます。>
(2) 洞口治夫(2018)『MBAのナレッジ・マネジメントー集合知創造の現場としての社会人大学院ー』文眞堂。<大学院進学してMBA取得を考える大学生のためのスタディ・ガイドです。>
(3) Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2015) International Business: Environments and Operations, Pearson, 15th edition.(Global Edition). <海外留学を目指す大学生のための参考書です。本書第15章は春学期、第9章は秋学期の授業内容に関連しています。>

【成績評価の方法と基準】

成績評価は下記の項目を総合的に判断して行います。
(1) 中間試験（課題レポートないしは授業内試験）(30%)
(2) 期末試験（筆記試験）(70%)
良い成績を取るためには毎回の授業に出席することが望ましいでしょう。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは「大学らしい授業で学んだ気がした」、「大学での学問と、ビジネス実務とのつながりが理解できた」といった感謝の言葉が並んでいます。授業内容が就職活動に役立つことは、この授業からの「気づき」といえます。20年近くわたって一時限に授業時間が設定されてきましたが、今年度から木曜日の二時限になります。「国際経営論を一時限以外の時間に開講して欲しい」という声も、長年、学生諸君から寄せられる意見のひとつでした。

【学生が準備すべき機器他】

ノートテイキングのためのノートと筆記用具。英和辞書機能つき電子辞書、グーグル検索のためのスマホ。授業支援システムが閲覧でき、課題のワードファイルなどをダウンロードできるパソコン。

【その他の重要事項】

くじ引きをしてグループを分け、グループワークを行うので「心の準備」をして参加して下さい。英語での自己紹介や教科書、英文の輪読を行います。毎年、やる気のある学生諸君が授業に参加しています。今年の学生諸君も、授業開始5分前には教室に来て授業の準備をして「もうすぐ社会人」となることを意識して常識と礼節を欠かさぬよう心掛けてほしいと思います。

【Outline and objectives】

Toyota, All Nippon Airways (ANA), Tokyo Disney Land (TDL), Yoshinoya, and McDonald's have something in common. What is it? It is their best international business practices, which create excellent products and services. This course is designed to understand the basic ideas of international business. Focusing on the corporate strategy and the organizational capability of the firm, it aims to help students develop the skills required to join these types of companies. The core skills involve understanding the ways in which internationalization strategies enable multinational corporations to enhance their competitiveness and performance in the global economy. The course focuses on multinational corporations confronting an array of choices regarding global markets, locations for production, foreign exchange rates, competition for devaluing the currencies, and processes for decision making across borders.

MAN300FC-A4455

戦略的意思決定論Ⅰ

3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FC-A4456

戦略的意思決定論Ⅱ

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

福島 英史

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、経営戦略の意思決定について考えるための概念、論理、視角を学習することにあります。経営現象は、組織内及び組織外での様々な意思決定の連鎖と合成から理解することができます。この授業では、日々の業務に直接関わる業務的意思決定や、開発・生産・販売といった機能分野ごとの管理的意思決定ではなく、特に戦略性をもった思考が必要とされる企業のあり方・事業のあり方に関わる問題をテーマとして考えます。現実の事例についても織り交ぜながら学んでいきます。

【到達目標】

経営現象を織りなす様々な戦略の意思決定とその合成過程について、論理的に理解し、説明できるようになることが到達目標です。戦略の意思決定の背後にどのような経営上の基本的な考え方があるのか、また、自社のみならず、他社の意思決定を考えた場合に、結果としてどのような状況が産業に生じるのか、現実の会社がなぜ M&A 等で規模を拡大しようとするのか、産業で市場地位の交代が起きるのはなぜか、一見直接の関係がなさそうな会社に出資したり支援したりするのはなぜか、こういった問題について基本的な説明経路の理解を進めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

事業モデルの選択と競争上の位置取り、環境変化への対応の背後にある戦略上の論理を理解するための枠組みを学びます。ある産業、あるいは企業が収益力において勝るのはなぜか、といった問題にアプローチします。講義中に扱われるトピックスに関連したエクササイズやミニ・ケースを解くなどの課題が課されます。その際、指名された履修者は、意見を求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義概要と問題意識の共有
2	事業の組立と市場戦略 1	製品事業の基本的観点
3	事業の組立と市場戦略 2	市場戦略の枠組み
4	競争の構造と収益性 1	競争構造の基本的観点
5	競争の構造と収益性 2	プレイヤー間の代替関係
6	競争の構造と収益性 3	プレイヤー間の補完関係
7	産業のライフサイクルと費用構造 1	市場変動と費用構造
8	産業のライフサイクルと費用構造 2	キャパシティ
9	事業背景と参入・撤退の決定 1	参入企業の事業背景と競争
10	事業背景と参入・撤退の決定 2	事業投資の意思決定と収益性
11	事業システムの視点 1	事業システムの基本枠組み
12	事業システムの視点 2	システム内外の競争と協調
13	利益配分とパワー構造の変革 1	パワー分布と利益配分
14	利益配分とパワー構造の変革 2	構造の変革

II 秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義概要と問題意識の共有
2	企業の成果尺度	企業戦略の成果を見る基本指標
3	ゲーム理論的発想 1	基本枠組みの理解
4	ゲーム理論的発想 2	競争戦略の新たな視点
5	基本戦略と大規模化 1	規模を追う戦略の論理
6	基本戦略と大規模化 2	規模を追わない戦略の論理
7	技術革新と基本戦略 1	技術革新のライフサイクル
8	技術革新と基本戦略 2	複数戦略の同時追求とコモディティ化の論理
9	技術革新と基本戦略 3	技術・市場の発展と日米の戦略観
10	技術革新と市場地位	市場地位の交代が生じる論理
11	経営資源アプローチ 1	狭義のリソース・ベースド・ビュー
12	経営資源アプローチ 2	学習を重視する戦略観と日本企業の現状
13	全社的な意思決定 1	企業の垂直的範囲と合理化の意思決定
14	全社的な意思決定 2	事業の多様化と集約化の意思決定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回講義について復習するとともに、身近な事例についてその意味を考えてみる。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

講義中に適宜案内します。

【成績評価の方法と基準】

I 春学期：定期試験（100 %）で評価します。II 秋学期：定期試験（100 %）で評価します。講義中に行われるエクササイズの点数は、「ボーナス」として上記に加算いたします。

【学生の意見等からの気づき】

過年度のフィードバックから話す速度を調整します。エクササイズに十分な時間をとります。

【その他の重要事項】

講義中の私語はご遠慮ください。関連科目は、経営学総論、経営組織論、経営戦略論、マーケティング論、経営管理論、日本経営論、流通論、技術管理論、製品開発論、国際経営戦略論、中小企業論、組織経済学等です。戦略的意思決定論Ⅱ（秋学期）は理解の促進のため、I（春学期）と併せて履修することが望ましいです。

【Outline and objectives】

The outline and objective of this class are as follows. We study concepts, logic, and views to understand strategic management and decision making of firms, their interaction, mechanism, and dynamism. We mainly focus on strategic decisions which construct business strategy, models, corporate growth, and sustainability, though organizations have daily based operational decisions and administrative decisions to conduct each functions like R&D, production, and marketing. We use business episodes and news of real life to illustrate those logic and concepts.

MAN300FC-A4457

日本経営史Ⅰ

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN300FC-A4478

日本経営史Ⅱ

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN300FC-A4458

日本経営史Ⅱ

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN300FC-A4477

日本経営史Ⅰ

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

二階堂 行宣

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・19 世紀後半～20 世紀の日本における近代企業の発展と、それを担った企業家の活動について、事例を取り上げながら説明します。
・授業を通じて、さまざまな社会現象を長期的な視点から分析する意義を学ぶとともに、現状の日本経済や企業経営についての理解を深めることを目指します。

【到達目標】

・近代日本の経済・経営発展の歴史について、基礎的な知識を習得し、それらを体系的に整理することができる。
・「各時代における経済・経営環境の変化 → ビジネス・チャンスの発生 → 企業家たちの具体的活動」という一連の流れを、明確にイメージすることができる。
・講義で学んだことを、客観的・論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・配布する資料に基づき、講義形式で進めます。
・「幕末維新期 → 明治前期 → 産業革命期 → 第一次大戦期 → 両大戦間期」という時代区分を採用し、時代を追って解説します。余裕があれば、戦時期～戦後高度成長期についても扱います。
・各時代の解説にあたっては、まず当該期の経済状況について概観する回を設け、その後ケース・スタディーの検討に移ります。その上で、各時代の最後に論述課題または小テスト（各学期 1～2 回程度）を実施し、学習の到達度をチェックします。
・秋学期の終盤（産業テーマ別授業）では、特定の産業を取り上げ、その発展過程を概観します。今までの授業で解説してきた時代を、ある産業の切り口からもう一度振り返り、理解を深めることが目的です。その際には、ゲストによる特別授業を行う場合があります。
・関連する映像資料（ビデオ）の視聴も、可能な限り行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経営分析への歴史的視点
2	幕末維新期の経営	概説：幕末維新期の日本経済
3	幕末維新期の経営	幕末維新期の新興商人：丁吟と吉村屋の発展
4	幕末維新期の経営	大店の明治維新：三井家と三野村利左衛門
5	幕末維新期の経営	海運業の発展：内海船と北前船
6	明治前期の経営	概説：明治前期の日本経済
7	明治前期の経営	政商の登場：三菱の創始者・岩崎弥太郎
8	明治前期の経営	政商の登場：住友の事業再編と広瀬幸平
9	明治前期の経営	企業家活動の組織化：「会社」の誕生と渋沢栄一
10	産業革命期の経営	概説：日本の産業革命
11	産業革命期の経営	専門経営者の台頭：三菱合資会社と荏田平五郎
12	産業革命期の経営	専門経営者の台頭：三井の財閥化と中上川彦次郎
13	産業革命期の経営	地方からの産業革命：安川敬一郎とその時代
14	まとめ	幕末～産業革命期のビジネス・チャンスと企業家活動

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	復習：幕末～明治期における日本経営の概観
2	第一次大戦期の経営	概説：第一次大戦期の日本経済①
3	第一次大戦期の経営	概説：第一次大戦期の日本経済②

4	第一次大戦期の経営	大戦ブームと企業者活動：鈴木商店と金子直吉
5	第一次大戦期の経営	大戦ブームと企業者活動：久原房之助と鮎川義介
6	両大戦間期の経営	概説：1920～30 年代の日本経済①
7	両大戦間期の経営	概説：1920～30 年代の日本経済②
8	両大戦間期の経営	都市型産業の発展：小林一三と阪急
9	両大戦間期の経営	新興コンツェルンの発展：日本産業と日本窒素肥料
10	戦後復興期～高度経済成長期の経営	概説：復興から高度経済成長へ
11	産業・テーマ別授業	特定の産業を設定し、その歴史的発展について学ぶ。
12	産業・テーマ別授業	特定の産業を設定し、そこにおける代表的な企業の経営発展について学ぶ。
13	産業・テーマ別授業	特定の産業を設定し、そこにおける代表的な企業の現況について、歴史的な経緯をふまえて学ぶ。
14	まとめ	近現代日本のビジネス・チャンスと企業家活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・高等学校で日本史・世界史を選択していない受講者は、高校教科書等で、事前に 18 世紀以降の歴史の大まかな流れを予習してください。
・授業の後には、参考書の該当箇所や、配布資料・ノートを使用し、充分復習してください。
・本講義の履修や単位取得には、大学生としてふさわしいレベルの日本語記述能力が求められます。論理的な長文を書くことが苦手な方は、自主的な鍛錬を繰り返してください。

【テキスト（教科書）】

・使用しない。

【参考書】

- ①経営史学会編『日本経営史の基礎知識』（有斐閣、2004 年）。
- ②宮本又郎・阿部武司ほか『日本経営史 [新版]』（有斐閣、2007 年）。
- ③三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧 補訂版』（東京大学出版会、2010 年）。
- ④宇田川勝・生島淳編『企業家に学ぶ日本経営史』（有斐閣、2011 年）。
- ⑤三和良一『概説日本経済史 近現代（第 3 版）』（東京大学出版会、2012 年）。
- ⑥粕谷誠『ものづくり日本経営史』（名古屋大学出版会、2012 年）。
- ⑦宮本又郎『企業家たちの挑戦』（中央公論新社、2013 年）。
- ⑧沢井実・谷本雅之『日本経済史』（有斐閣、2016 年）。

【成績評価の方法と基準】

・定期試験（60 %）＋論述課題もしくは小テスト（40 %）。
・以上の配点を基本としますが、優れた答案の場合はさらに加点することがあります。
・成績評価の際は、知識の暗記よりも、歴史的な事実を論理的に体系化し、説明する能力が身に付いたかどうかを重視します。
・科目の性格上、試験問題はすべて論述式とします。マーク式、記号選択式の問題を出題する予定はありません。

【学生の意見等からの気づき】

・高校時代に日本史を選択していない学生から「基礎的な事項について解説してほしい」との意見が寄せられました。ただし、授業中にそこまで解説する時間的余裕はないため、高校教科書・参考文献による自習か、個別の質問で対応してください。
・「授業資料の図表が見にくい」という声に対しては、資料作成時や説明時にできるだけ拡大するなどの改善を心がけます。
・「授業のポイントがつかみにくい」という声に対しては、授業中に復習の時間を設けたり、板書の機会を増やすことで対応します。

【学生が準備すべき機器他】

・資料の配布や諸連絡を行う際には、授業支援システムを利用します。

【関連科目】

- ・産業史Ⅰ／Ⅱ
- ・日本経営論Ⅰ／Ⅱ
- ・日本経済論Ⅰ／Ⅱ

【Outline and objectives】

・ Business History of Modern Japan.

- ・ In this lesson, we will explain the development of modern enterprises in the latter half of the 19th century to 20th century and the activities of entrepreneurs who took charge of it.
- ・ We will learn the significance of analyzing various social phenomena from a long-term perspective through classes and aim to deepen their understanding of the current Japanese economy and corporate management.

MAN300FC-A4459

中小企業論Ⅰ

MAN300FC-A4460

中小企業論Ⅱ

鹿住 倫世

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日本の経済・産業における中小企業やベンチャー企業的位置づけおよび経営の特徴、起業の実態やベンチャー企業創出環境について学ぶ。日本の法人および個人事業の 99.7 % は中小企業である。しかし、中小企業の実態については、あまり理解されていない。また、ベンチャー企業はイノベーションを実用化し、雇用を創出するため、日本の経済・産業の発展には不可欠の存在である。中小企業やベンチャー企業を理解することにより、中小企業への支援や地域経済の活性化の方策、起業する際の全社的なマネジメントの方法などを学修し、将来、さまざまな仕事において活用できる知識を獲得できる。

【到達目標】

主に日本の中小企業について、経済や産業における役割・位置づけ、企業経営の特徴や課題について理解し、中小企業が果たしている役割や優れた経営の事例について具体的に記述することができる。

地域経済や特定の業種における中小企業の課題や積極的な役割を理解し、中小企業政策や地域活性化策、業界の発展方策について説明することができる。

ベンチャー企業の経営上の特徴と、創出・発展に不可欠の経済・社会環境について理解し、起業のプロセスやベンチャー企業創出・育成策について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は毎回 1 テーマを取り上げ、レジュメに基づき講義形式で行う。必要に応じて、参考資料の配布、写真や映像の紹介などを行う。

また、学生の理解を深めるため、次の授業のテーマに沿った簡単な質問を提示し、その回答を授業の冒頭に発言してもらう時間を設ける。発言した者には、1 回 2 点を付与する（春学期、秋学期各 20 点まで、成績評価に含める）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	中小企業について学ぶ意義	中小企業とは何か、中小企業論の意義について学ぶ
第 2 回	経済・産業における中小企業	日本の経済・産業における中小企業が占める割合、役割について理解する
第 3 回	中小製造業の特徴	中小製造業の経営上の特徴と課題、工場産業など地域の産業集積について学ぶ
第 4 回	中小卸売業の特徴	中小卸売業の経営上の特徴と課題について学ぶ
第 5 回	中小小売業の特徴	中小小売業の経営上の特徴と課題、商店街の概要について学ぶ
第 6 回	中小サービス業の特徴	中小サービス業の経営上の特徴と課題について学ぶ
第 7 回	中小企業の経営戦略	中小企業の組織や経営資源の状況を踏まえた経営戦略の特徴について学ぶ
第 8 回	中小企業の技術と研究開発	中小企業の技術および研究開発の特徴と課題について学ぶ
第 9 回	中小企業の財務	中小企業の財務上の特徴と課題、資金調達の状況について理解する
第 10 回	ファミリービジネスと事業承継	ファミリービジネスの特徴と課題、強みおよび、中小企業の事業承継の特徴と課題について学ぶ
第 11 回	中小企業の労務管理	中小企業の労務管理と人材育成における特徴と課題について学ぶ
第 12 回	中小企業とベンチャー企業	ベンチャー企業の経営上の特徴と中小企業との違いについて学ぶ
第 13 回	小規模企業の現状	中小企業の中でもさらに規模の小さい小規模企業について、従来の実態と最近の傾向について学ぶ
第 14 回	まとめと振り返り	中小企業の特徴、課題および先進事例について振り返る

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	中小企業政策の意義	中小企業の役割、特徴を踏まえた政策の必要性、中小企業政策の変遷
第 2 回	中小企業基本法	日本の中小企業政策の根幹である中小企業基本法の制定目的、内容、改正の経緯について学ぶ

第 3 回	中小企業政策 1（創業、経営革新に関する政策）	中小企業政策の柱の一つである、「創業、経営革新支援」に関する主要な政策を学ぶ。
第 4 回	中小企業政策 2（事業環境整備に関する政策）	中小企業政策の柱の一つである、「事業環境整備」に関する主要な政策を学ぶ
第 5 回	地域活性化と中小企業	地域活性化や商店街活性化における地域の取組み、中小企業の役割について学ぶ
第 6 回	起業の実態	日本における最近の起業の実態と課題について学ぶ
第 7 回	起業プロセス	起業に関係する諸要素と、事業化までのプロセスについて学ぶ
第 8 回	ベンチャー企業の特徴と意義	ベンチャー企業が創出するイノベーションと、イノベーションが経済、産業に与える影響について学ぶ
第 9 回	事例で学ぶベンチャー企業	実際のベンチャー企業の事例を紹介した動画を見て、ベンチャー企業や起業家についての理解を深める
第 10 回	ベンチャーファイナンス	ベンチャー企業の持つ経営上の特徴に即した資金供給のあり方、機関投資家の役割について学ぶ
第 11 回	大学発ベンチャー	ベンチャー創出における大学等研究機関の役割と、産学連携の実態、課題について学ぶ
第 12 回	起業家教育	起業する人材、起業家的な考え方をを持った人材を輩出するための、起業家教育のあり方と実態について学ぶ
第 13 回	ビジネス・エコシステム	ベンチャー企業が次々に創出される環境であるエコシステムについて学ぶ
第 14 回	まとめと振り返り	中小企業政策、起業・創業、ベンチャー企業について、振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次の授業のテーマに即した設問を提示するので、各自で回答や自分の考えをまとめてくること。当該授業の最初に、回答を発言する時間を設けるので、挙手の上発言する。発言した者には、1 回 2 点を付与する（春学期、秋学期 各 20 点を上限として成績に加算する）。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しない。

【参考書】

後藤康雄（2014）『中小企業のマクロ・パフォーマンス』日本経済新聞出版社
 植田浩史他著（2014）『中小企業・ベンチャー企業論（新版）』有斐閣
 清成忠男（2009）『日本中小企業政策史』有斐閣
 忽那憲治ほか著（2013）『アントレプレナーシップ入門』有斐閣
 中小企業庁編『中小企業白書』各年版

【成績評価の方法と基準】

（評価方法）
 期末試験 80 %
 授業中の発言点 20 %
 合計得点が満点の 60 % 未満の場合、D 評価になる。
 試験は持ち込み不可。試験問題は選択式と論述式がある。
 （評価基準）

到達目標に即して、講義で得た知識をもとに、中小企業およびベンチャー企業に関して与えられたテーマについて具体的に論ずる力を見る。

【学生の意見等からの気づき】

2018 年度は、教室設備の事情により、毎回、企業の事例を提示することが困難でした。2019 年度は、もう少し動画やパワーポイントのスライドにより、企業の事例を紹介したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

毎回の質問事項に対する答えは、事前に十分調べてくること。その場で簡単に検索した結果を、意味を理解せずにただ発言している人が多くみられます。検索結果にわからない言葉が含まれていたり、具体的なイメージがわからない場合は、さらに掘り下げて調べてみましょう。

【関連科目】

経営組織論Ⅰ／Ⅱ、経営管理論Ⅰ／Ⅱ、経営戦略論Ⅰ／Ⅱ、日本経営論Ⅰ／Ⅱ、日本経済論Ⅰ／Ⅱ

【Outline and objectives】

99.7% of companies and self-employments are Small and medium size enterprises (SMEs) in Japan. They are playing important role in Japanese economy and industries. Also innovative ventures (high growth SMEs or High-tech start-ups) are essential element in order to economy growth for developed countries as Japan.

Student will be able to understand SMEs' feature and management, further more Japanese policies promoting SMEs' and start-ups' activities.

ECN300FC-A4461

日本経済論Ⅰ

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

ECN300FC-A4462

日本経済論Ⅱ

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

平田 英明

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に有名な投資家のジム・ロジャースはインタビューで「長期的には（日本経済について）かなり悲観的だ。」「もし私がいま 10 歳の日本人ならば……この国を去ることを選ぶ」「いま 10 歳の日本人は、これからの人生で大惨事に見舞われるだろう」という衝撃的な発言をしています。その一方で、毎年初に注目されるユーラシア・グループによる「世界 10 大リスク」の最新版では、日本経済に関する「リスク」は全く指摘されていません。日本経済は「(良い意味で) ヤバイ」のでしょうか、それとも「(悪い意味で) ヤバイ」のでしょうか。

また、米国との関係が強い日本にとって、トランプ政権下の諸政策はどういった影響があるのでしょうか。その影響をどう分析すればいいのでしょうか。

皆さんは経営学部にも所属していますから、将来、企業人として活躍されることを展望されていると思います。それならば、企業を取り巻く環境、つまり日本と世界の経済のポイントを押さえておく必要があることは自明だとご存じのはずです。あのアップルやユニクロであっても、経済情勢に経営は大きく影響されます。そして、上述のように、あいにく経済の見通しに関する見立てには「the answers」があるわけではありません。ですから、自社の置かれた立場を踏まえて、自ら分析する能力が必要です。

この授業はなぜ様々な主張があり得るのか、その背後にある考え方を理解し、自らの力で日本の経済、世界の経済を俯瞰できる素養を身につけることを目的とします。

【到達目標】

究極的には「企業経営者や企画戦略を練るような企業の中核の人々が、経営的な視点から経済の何をみる（べきな）のか、どう見る（べきな）のか」について多角的に学生が理解できるようになることが目標です。大企業のトップのインタビュー等を見ると、皆さんも彼らの日本経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかると思います。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。

ただ、皆さんがそのような立場になるまでにはかなりの時間を要するでしょう。その意味では、目先の目標として「学生が経営学の各分野と日本経済の関わり方を理解できるようになる」ことも意識します。そもそも経営学は経済学から発展した学問分野であり、経営学の各分野は、全て何らかの形で日本経済と関わっています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て授業支援システムを使って発信します。

例年、政策当局の方と国会議員の方などに授業内で 2 回講演してもらっています（過去の登壇者の例：国会議員、政府・日銀の要人、エコノミストなど）。皆さんの意見も踏まえ今年度も実務家の講演を織り込む予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	日本経済をなぜ学ぶのか	授業計画の紹介と日本経済の基本的特徴の説明をします
2	日本経済を丸ごとつかむ 1	マクロ経済学的な視点から日本経済を概観します
3	日本経済を丸ごとつかむ 2	マクロ経済学的な視点から日本経済を概観します
4	マーケットをつかむ	需要と供給の基本的な仕組み、マーケットの役割を学びます
5	働くこと、会社の機能をつかむ 1	学ぶことと働くことの関係、企業の基本的な仕組みを把握します
6	働くこと、会社の機能をつかむ 2	学ぶことと働くことの関係、企業の基本的な仕組みを把握します
7	カネは天下をめぐるーお金とは何かをつかむ	お金がどのように経済の中で循環しているのかを理解する必要がありそうです
8	利子（金利）の役割をつかむ 1	そもそも利子がなぜ企業経営に大事なのでしょうか。マイナスイ金利の意味も含めて学びます
9	利子（金利）の役割をつかむ 2	そもそも利子がなぜ企業経営に大事なのでしょうか。マイナスイ金利の意味も含めて学びます
10	日本経済の底力をつかむ	国際比較も通じながら日本の潜在的な経済力の現況を理解します

11	政府の役割をつかむ 1	政府の日本経済の中での位置づけを理解します
12	政府の役割をつかむ 2	政府の日本経済の中での位置づけを理解します
13	貿易と日本経済の関係をつかむ 1	日本の貿易構造、T P P の特徴を理解します
14	貿易と日本経済の関係をつかむ 2	日本の貿易構造、T P P の特徴を理解します

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	日本経済のボトルネック 1：デフレ問題 1	バブル経済とその後についての歴史を学びます
2	日本経済のボトルネック 1：デフレ問題 2	バブル経済とその後についての歴史を学びます
3	同 2：少子高齢化問題 1	少子高齢化問題が、なぜ大事なのでしょう。事実を確認します
4	同 2：少子高齢化問題 2	少子高齢化問題の背景を確認します
5	同 2：少子高齢化問題 3	少子高齢化問題の改善策とその効果を検証します
6	同 3：労働市場の構造問題 1	日本的な雇用システムの合理性と非合理性を理解します
7	同 3：労働市場の構造問題 2	日本的な雇用システムの変化について学びます
8	同 4：わが国の家計貯蓄率の低下 1	日本経済における貯蓄の特徴とその歴史的な経緯を理解します
9	同 4：わが国の家計貯蓄率の低下 2	日本経済における貯蓄の特徴とその歴史的な経緯を理解します
10	ビッグデータと日本経済	ビッグデータの役割を理解しましょう
11	経済ショック 1：金融危機と日本経済	アジア通貨危機とリーマンショックを中心に議論します
12	経済ショック 1：金融危機と日本経済	アジア通貨危機とリーマンショックを中心に議論します
13	同 2：東日本大震災と企業行動	東日本大震災が企業行動に与えた影響について紹介します
14	同 3：エネルギー価格と日本経済	燃料価格と日本経済の関係について考えていきます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で配布するスライドや資料は、全て授業支援システム上に掲載予定です。予習を前提とはしません。代わりに学生の皆さんは復習に重点を置いてください。

【テキスト（教科書）】

詳細は授業で説明します。

宮川他『日本経済論』（中央経済社、2017）

浅子他『入門・日本経済』（有斐閣、2015）

平口他『マクロ経済学』（有斐閣、2015）

マクロ経済学の教科書（例：福田・照山『マクロ経済学入門』）、日本経済論の教科書（ ）があると便利でしょう。マクロの教科書は参考文献として頻出します。

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、 $+a$ として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。詳細は以下の 1 の通りです。

1. 単位の評価は 2 つの方法で行います（期末試験時に学生が選択）。詳細は授業にて説明します。

【1】期末試験 100% + X%（授業への参加（発言、質問等））の 2 要素で成績評価を行います。

【2】問題数を絞った期末試験のみで成績評価を行います。

2. 例年、サボっていた学生から救済措置等を求める連絡が来ますが、本科目だけの特別な措置はしません。なお、例年、単位を取れる学生は 9 割以上です（昨年度の D 評価は 5% でした）。

なお、単位取得率は例年 95% 程度（つまり D は 5% 程度）であり、落第者の大半は殆ど授業に出席しておらず、とてつもなく低い点数をとる学生です。

【学生の意見等からの気づき】

成績評価の方式を複数用意し、多くの学生のニーズに応えられるようにしました。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済現象の説明を心がけたいです。

【関連科目】

I、IIを連続履修することを薦めます。マクロ経済学 I/II、ミクロ経済学入門 I/II 等が関連科目ではありますが、事前履修は必須ではありません。

【Outline and objectives】

This course provides an introduction to current economic issues of Japan and to basic macroeconomic principles and methods with a bunch of examples. I try to help you understand why they can be so very powerful. By January, you should be able to use the analysis taught in the course to form your own opinions about Japan's macroeconomic problems.

ECN300FC-A4463

国際経済論Ⅰ

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

ECN300FC-A4464

国際経済論Ⅱ

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

檜野 智子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界のグローバル化の進展に伴い、国際貿易及び資本の国際的な移動（国際金融）は拡大し続けています。本講義では、国際経済学の一分野である「国際貿易」について網羅的に学びます。

【到達目標】

- ・国際貿易の理論を理解する。
- ・どのような貿易政策があるのか、またその政策にはどのような効果があるのか理解する。
- ・貿易政策の諸問題を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	国際経済学とは	国際経済問題と国内経済問題
2	世界貿易の概観	貿易される財や金額の変遷
3	労働生産性と比較優位	比較優位と貿易の利益
4	労働生産性と比較優位	比較優位をめぐる誤解
5	特殊要素と所得分配	短期の貿易における利益と損失
6	特殊要素と所得分配	自由貿易が支持される理由
7	資源と貿易	資源と貿易パターンとの関係
8	資源と貿易	貿易と賃金格差の関係
9	資源と貿易	先進国と発展途上国の貿易の違い
10	標準貿易モデル	貿易パターンの決定
11	標準貿易モデル	関税と輸出補助金
12	標準貿易モデル	国際的な借り入れと融資
13	規模の外部経済と生産の国際立地	規模の経済と国際貿易
14	規模の外部経済と生産の国際立地	外部経済と国際貿易

II 秋学期

回	テーマ	内容
1	グローバル経済の企業	不完全競争の理論
2	グローバル経済の企業	独占競争と貿易
3	グローバル経済の企業	貿易への企業の対応
4	グローバル経済の企業	多国籍企業とアウトソーシング
5	貿易政策のツール	関税のコストと利益
6	貿易政策のツール	輸出補助金と農業補助金
7	貿易政策のツール	自発的輸出制限の影響
8	貿易政策の政治経済	自由貿易賛成論と反対論
9	貿易政策の政治経済	所得分配と貿易政策
10	貿易政策の政治経済	国際交渉と貿易政策
11	貿易政策の政治経済	自由貿易圏と関税同盟
12	発展途上国の貿易政策	経済発展と貿易の関係
13	貿易政策をめぐる論争	グローバル化と低賃金労働
14	貿易政策をめぐる論争	グローバル化と環境

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の復習を行った上で次回の講義に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

『クルーグマン国際経済学 理論と政策 [原書第 10 版] 上:貿易編』クルーグマン、オブストフェルド、メリッツ著、丸善出版、2017 年

【参考書】

『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編 [第3版]』N・グレゴリー・マンキュー著、東洋経済新報社、2013 年

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

講義前に授業支援システムで講義資料をダウンロードし、印刷したものを持参してください。

【関連科目】

ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】

Today, the progress of globalization in the world brings the continuous expansion of international trade and international finance. In this lecture, you can learn comprehensively about international trade, one of the fields in international economics.

ECN300FC-A4465

国際金融論Ⅰ

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

ECN300FC-A4466

国際金融論Ⅱ

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

郡司 大志

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々にとって為替レートというのは意外に身近なものである。テレビや新聞、インターネットのポータルサイトでも、日々の為替レートが掲載されている。また、海外旅行に行けば現地通貨を使わなければならないし、インターネットで海外の商品を購入するときにも為替レートの変動で値段が短期間のうちに変わってしまう。それでは為替レートはどのような要因によって変動するのだろうか。通貨はどこで誰が取引しているのだろうか。世界にはどのような為替相場制度があり、どのような国がそれらを採用しているのだろうか。それらを採用した理由は何なのだろうか。本講義では、このような疑問に答えることにしたい。

【到達目標】

国際金融に関連する統計、為替レートの意味と決定要因、為替レートがマクロ経済に及ぼす影響、様々な為替相場制度とそのもとの経済政策の効果、通貨危機のメカニズム等を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教科書をもとに講義する。講義中に頻繁に口頭でクイズを出して、理解を確認する。随時質問を受け付ける。前回までの復習も丁寧に行う。期末に試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期		
回	テーマ	内容
第 1 回	国際金融論とは	全体の導入として、国際金融論のテーマを紹介する。
第 2 回	金融取引の意味と効果	金融取引が異時点間取引であることを学ぶ。
第 3 回	国境を超えた経済取引	前回の議論を国際的視点で考察する。
第 4 回	貨幣とその役割	貨幣と中央銀行の役割について学ぶ。
第 5 回	貨幣市場の均衡	貨幣の需要・供給から均衡を求める。
第 6 回	貨幣と物価	硬直的価格・伸縮的価格のもとで貨幣と物価との関係を考える。
第 7 回	貨幣と名目為替レート	貨幣と名目為替レートとの関係を学ぶ。
第 8 回	国際金融市場	外国為替市場とデリバティブ市場を紹介する。
第 9 回	金利裁定とカバー付利子平価	各国の利子率の違いが国際金融にどのように関係するのかを学ぶ。
第 10 回	カバーなし利子平価と均衡為替レート	貨幣量、利子率、名目為替レートとの関係を理解する。
第 11 回	利子率と名目為替レート	貨幣市場と外国為替市場との関係を理解する。
第 12 回	購買力平価	物価と為替レートとの関係を考える。
第 13 回	購買力平価に基づく名目為替レートのモデル	購買力平価を用いて名目為替レートを考察する。
第 14 回	為替レートの理論と現実	為替レートの実証分析を紹介する。
Ⅱ 秋学期		
回	テーマ	内容
第 15 回	国民経済計算	国民経済計算について理解する。
第 16 回	国際収支会計	国際収支会計について理解する。
第 17 回	総需要と総供給	マクロ的視点から総需要・総供給について理解する。
第 18 回	生産物市場の短期均衡 生産物市場の短期均衡	閉鎖経済における均衡生産量を求める。
第 19 回	マンデル・フレミング・モデル	開放経済における均衡生産量について考える。
第 20 回	変動相場制における金融・財政政策	変動相場制では金融・財政政策の効果がどうなるのか考察する。
第 21 回	予想の変化と政策効果	予想が果たす役割について学ぶ。
第 22 回	為替相場制度	様々な為替相場制度を紹介する。
第 23 回	固定相場制度	固定為替相場における金融・財政政策を考察する。
第 24 回	債務危機	過去の起きた債務危機を振り返る。
第 25 回	通貨危機のメカニズム 1 ：ファンダメンタルズ	通貨危機理論のうち、ファンダメンタルズに基づくモデルを学ぶ。
第 26 回	通貨危機のメカニズム 2 ：自己実現、伝染	通貨危機理論のうち、自己実現の予想に基づくモデル、および伝染効果について学ぶ。

第 27 回 国際金融をめぐる論争 市場の失敗、政府の失敗についての論争を学ぶ。

第 28 回 世界金融危機 世界金融危機の背景について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の各章末にある復習問題を毎回解いておくこと。

【テキスト（教科書）】

藤井英次（2013）『コア・テキスト 国際金融論 第2版』新世社

【参考書】

小川英治・川崎健太郎（2007）『MBA のための国際金融』有斐閣

河合正弘（1994）『国際金融論』東京大学出版会

P. R. クルグマン・M. オブズフェルド（2014）『クルグマンの国際経済学 下 金融編』丸善出版

リチャード E. ケイプズ・ジェフリー A. フランケル・ロナルド W. ジョーンズ（2003）『国際経済学入門 II 国際マクロ経済学編』日本経済新聞社

高木信二（2011）『入門 国際金融 第4版』日本評論社

浜田宏一（1996）『国際金融』岩波書店

Mark, Nelson C. (2001), International Macroeconomics and Finance, Blackwell Publishers.

Obstfeld, Maurice, and Kenneth Rogoff (1996), Foundations of International Macroeconomics, MIT Press.

Sarno, Lucio, and Mark P. Taylor (2002), The Economics of Exchange Rates, Cambridge University Press.

【成績評価の方法と基準】

講義中のクイズ・質問：30%

期末試験：70%

【学生の意見等からの気づき】

早口になりがちなので、ゆっくり講義を進めたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

なし。

【関連科目】

金融論Ⅰ/Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

特になし。

【Outline and objectives】

This course provides students with international finance issues and open economy macroeconomics.

ECN300FC-A4467

産業史 I

ECN300FC-A4480

産業史 II

ECN300FC-A4468

産業史 II

ECN300FC-A4479

産業史 I

藤澤 利治

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

資本主義世界における基軸産業の歴史的発展過程を学ぶ。

今日、我々はわずか数十年前に比べてさえも、非常に豊かかつ便利な社会で生活している。しかし、この物のあふれるほど豊かな社会は、突然そして自然発生的に我々の前に出現したわけではない。先人達が様々な困難に直面し、それらを新発見や発明の積み重ねによって克服しながら築き上げてきた。その延長線上に、我々の豊かな生活が実現できているが、しかし今日、地球環境問題等の大問題にも直面している。これらの点を講義形式で、歴史的に学んでいく。その際、経済の発展を各時代の中軸で支えてきた各産業の発達史を、資本主義経済の発展過程に沿ってたどる。そして、各時代の主要産業の特徴を、技術、企業組織、国際分業や貿易のパターン等に焦点をあててみていく。

【到達目標】

- ①資本主義経済の世界史的発展過程を理解できる。
- ②各時代の産業の発展過程、企業組織、国際分業や貿易の構造を理解できる。
- ③現代の産業が直面する地球環境問題や資源・エネルギー問題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

進め方：毎回講義形式で進める。

方法：講義で配布するレジュメにもとづいて、基礎概念と歴史プロセスを論じていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	I イン트로ダクション	授業の方法と進め方を説明する。
第 2 回	II 資本主義の発展過程と基軸産業の展開	15 世紀末からの大航海時代以降、世界貿易が活発化し、大陸間で商業が発展していく過程を見る。
第 3 回	1 重商主義期－イギリス毛織物工業を中心に 1-1 新大陸貿易の発展 1-2 新大陸貿易と毛織物工業の発展	新大陸貿易において、西ヨーロッパからの輸出品の中心となった毛織物工業の発展が、それまでの封建社会を崩壊させて行く過程を見る。 毛織物工業の発展が、他国に先駆けてイギリスで資本主義の形成を推し進めたことを論じる。
第 4 回	1-3 資本の原始的蓄積過程の展開	
第 5 回	2 自由主義期－イギリス綿織物工業を中心に 2-1 イギリスの産業革命	18 世紀半ば以降、イギリスで始まった産業革命、それとともに発展したイギリス綿織物工業の発展を見る。
第 6 回	2-2 イギリスにおける産業資本の発展と資本主義の確立	産業革命によって発展したイギリス綿織物工業が、イギリスに資本主義を確立させる過程を見る。
第 7 回	2-3 自由貿易と資本主義の拡大	イギリス資本主義の発展が周辺諸国にも波及し、世界的に資本主義が拡張していく過程を概観する。
第 8 回	3 帝国主義期－ドイツ鉄鋼業を中心に 3-1 後発国ドイツの経済的特徴	19 世紀末葉以降、イギリスに代わってドイツが鉄鋼業を中心に世界経済の発展をリードするようになるが、その過程を見る。
第 9 回	3-2 ドイツにおける鉄鋼業の発展と株式会社	英仏に遅れて資本主義化したドイツでは鉄鋼業が発展し、株式会社の導入や、銀行と企業との関係も特徴的であったことを見る。
第 10 回	3-3 保護貿易主義と帝国主義的対立	ドイツの対外経済政策は保護主義的で、イギリスの自由主義に対抗的であった。このような英独間の対抗関係が世界史に及ぼした影響を概観する。
第 11 回	III 第 1 次世界大戦後の世界経済と新産業の展開 1 第 1 次大戦後の世界とアメリカの地位	第 1 次世界大戦後の世界経済におけるアメリカの台頭と西欧の弱体化を概観する。

第 12 回 2 相対的安定期と耐久消費財産業の芽生え

第 13 回 3 世界恐慌の勃発

第 14 回 4 世界経済のブロック化・アウトルキー化まとめ

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	I イン트로ダクション	授業の方法と進め方を説明する。
第 2 回	II 第 2 次大戦後の世界経済と重化学工業の発展	第 2 次世界大戦後の世界経済の再編は、圧倒的な経済力を誇ったアメリカ中心に行われたことを概観する。
第 3 回	1-1 アメリカ産業の圧倒的地位 1-2 アメリカ経済の強大化	アメリカ産業の世界市場における地位が強大であったことを、主要産業を取り上げて分析する。
第 4 回	1-3 アメリカ産業の盛衰	1950 年代半ば以降ヨーロッパと日本の経済再建・発展に伴い、アメリカ産業が弱体化していく過程を理解する。
第 5 回	2 欧州産業の失地回復の試み－経済統合への歩み 2-1 欧州の凋落	第 2 次大戦で弱体化した西欧諸国が、米ソ冷戦の狭間で政治的安定と経済復興を模索する過程を見る。
第 6 回	2-2 欧州経済統合の推進	欧州の経済的繁栄を求めて市場と経済の統合を進める過程を理解する。
第 7 回	2-3 EC/EU による経済統合	EC による統合が拡大・深化し、今日の EU に発展する過程を概観する。
第 8 回	3 日本産業の挑戦－重化学工業化・経済大国化	敗戦国日本は、戦後の荒廃から復興を果たすが、連合国軍の占領下で戦後改革も行われた。このプロセスを見る。
第 9 回	3-1 戦後の改革と復興 3-2 高度経済成長の内実	昭和 30 年代から高度経済成長を遂げ、日本経済が変貌を遂げる過程を見る。
第 10 回	3-3 産業の高度化と経済大国化	高度成長期には重化学工業化を実現し、経済大国と呼ばれるようになるが、この過程を理解する。
第 11 回	III ハイテク産業をめぐる日米欧の角逐 1 アメリカ経済の相対的弱体化と欧日の躍進	1970 年代以降の世界経済は激動の時代を迎える。その主因となったアメリカ経済の不調・日欧の経済的躍進を概観する。
第 12 回	2 ニクソンショックと二度の石油危機	第 2 次大戦後の世界経済を支えてきた国際通貨制度の崩壊と、産業発展の基盤となってきた石油をめぐる危機の世界経済に及ぼした影響を見る。
第 13 回	3 日本産業の構造調整とバブル経済	主要国ではこれらのショックに対応するために産業の構造調整を迫られるが、日本のその内実を見る。
第 14 回	4 ハイテク産業の発展と日米欧の角逐－グローバル経済の進展と問題 講義のまとめ	石油危機後、主要国が競ってハイテクの産業化と産業のハイテク化を推進する過程を見る。 そして 1990 年代以降のグローバル経済下での産業の発展と、現在直面している環境問題や資源・エネルギー問題での制約を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期：産業史 I

第 1 回 産業発展の歴史を、下記の参考書を利用して概観しておくこと。

第 2～4 回 15 世紀以降の大航海時代の世界史を予習しておくこと。

第 5～7 回 イギリスにおける資本主義発達史を予習しておくこと。

第 8～10 回 19 世紀半ば以降のドイツ史を予習しておくこと。

第 11～12 回 第 1 次世界大戦後の世界経済について予習しておくこと。

第 13～14 回 1930 年代の世界史の展開を予習しておくこと。

秋学期：産業史 II

第 1 回 第 2 次世界大戦後の経済史を参考書を利用して概観しておくこと。

第 2～4 回 第 2 次世界大戦後のアメリカ経済史を概観しておくこと。

第 5～7 回 ヨーロッパ経済統合のプロセスを概観しておくこと。

第 8～10 回 日本経済の第 2 次世界大戦後の歩みを予習しておくこと。

第 11～14 回 ハイテク産業、特に IT 産業について予習し、グローバル経済における地球環境問題と資源・エネルギー問題について理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義レジュメと資料を授業時に配布する。

【参考書】

- ①宇野弘蔵『経済政策論（改訂版）』弘文堂、1971 年
- ②石見徹『世界経済史－覇権国と経済体制』東洋経済新報社、1999 年
- ③杉山伸也『グローバル経済史入門』岩波新書、2014 年
- ④ F. アマートリ/A. コリー『ビジネス・ヒストリー』ミネルヴァ書房、2014 年
- ⑤金井・中西・福澤編『世界経済の歴史』名古屋大学出版会、2010 年
- ⑥ロンド・キャメロン/ラリー・ニール『概説世界経済史Ⅰ・Ⅱ』東洋経済新報社、2013 年

【成績評価の方法と基準】

Ⅰ、Ⅱともに学期末の試験で評価する。論述式の試験により、授業で取り上げたテーマを正確に理解しているか、正しく説明できるか、そして上記の到達目標にどこまで達しているか、を評価の基準にする。

【学生の意見等からの気づき】

教室の後部で、私語がうるさいとの指摘があったため、対応策として教室後部の状況を注意して授業を進めるようにする。また、授業で扱うテーマについて関心を高めるために、資料や教材を回覧するようにする。

【その他の重要事項】

経済学入門を履修し、さらに日本経済論Ⅰ/Ⅱ、日本経営史Ⅰ/Ⅱ、国際経済論Ⅰ/Ⅱ、国際金融論Ⅰ/Ⅱを、並行してでも良いから履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

This course is intended to introduce students the field of industrial history. Students learn history of some industries in the world and Japan. By the end of this course students should be able to understand the development of key industries in the world history and today's problem in the industrial development.

MAN300FC-A4469

経営分析Ⅰ

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN300FC-A4470

経営分析Ⅱ

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

高橋 美穂子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の主たる目的は、企業を分析、評価するための手法を学ぶことにあります。講義では、企業の公表する財務会計情報や定性情報を用いて、企業を分析、評価するためのフレームワークを解説します。

【到達目標】

本講義の到達目標は、受講生が企業を評価するために必要な知識とスキルを習得することにあります。

経営分析Ⅰ（春学期）の目標は、受講生が講義で学んだ分析手法を用いて、企業の「過去・現在」についてそれぞれの分析に基づいた見解に到達することです。

経営分析Ⅱ（秋学期）の目標は、受講生が企業の「過去・現在」（経営分析Ⅰ）の結果に基づいて「将来」を予測し、その予測値と企業価値の理論的つながりを理解できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。質問や疑問点がある場合は、遠慮なく講義中あるいは講義終了後に発言してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**Ⅰ 春学期**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の進め方、経営分析、企業評価の意義
2	企業評価のフレームワーク	企業評価の全体像
3	情報収集	重要な情報とその入手方法
4	事業の理解（1）	マクロ経済分析・産業分析
5	事業の理解（2）	企業戦略分析
6	会計分析（1）	財務諸表の構成要素と体系
7	会計分析（2）	財務会計情報（システム）の限界
8	財務比率分析（1）	財務比率分析の視点
9	財務比率分析（2）	成長性の分析・収益性の分析
10	財務比率分析（3）	ベーシック ROE 分解
11	財務比率分析（4）	利益率の分析
12	財務比率分析（5）	企業戦略と利益率の関係
13	財務比率分析（6）	回転率の分析
14	まとめ	春学期の総括

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の進め方、経営分析、企業評価の意義
2	春学期の復習（1）	財務諸表の構成要素と体系
3	春学期の復習（2）	ベーシック ROE 分解
4	収益性の分析（1）	アドバンスト ROE 分解（1）
5	収益性の分析（2）	アドバンスト ROE 分解（2）
6	成長性の分析	売上高成長率の仮定とサステナブル成長率
7	レバレッジの分析	信用分析とデフォルトの関係
8	貸借対照表項目の予測	過去の比率に基づいて貸借対照表項目を予測する
9	損益計算書項目の予測	過去の比率に基づいて損益計算書項目を予測する
10	貨幣の時間的価値と割引計算	貨幣の時間的価値、年金および年金型投資商品の現在価値
11	資本コスト	資本コストの推定方法
12	企業評価理論（1）	配当割引モデルと残余利益モデル
13	企業評価理論（2）	残余利益モデルの特徴
14	まとめ	秋学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容（特に講義中に行った練習問題や課題）が理解できるよう、復習をしてください。

【テキスト（教科書）】

ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マグローヒル・エデュケーション、2015 年

【参考書】

乙政正太著『財務諸表分析（第 2 版）』、同文館出版、2015.

桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版.

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期ともに定期試験（100 %）で評価します。また、小テスト（課題）を行う可能性もあります。この場合、小テストの点数はボーナスとして定期試験の点数に加点します。

【学生の意見等からの気づき】

公表されている財務諸表を用いて分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き実際の財務諸表を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

講義中に問題演習を行う場合がありますので、授業には電卓を持参してください。

また、企業の有価証券報告書をダウンロードし、財務比率の計算などを行う場合があります。携帯電話で確認するのが難しい場合はパソコンを持参してください。

【その他の重要事項】

簿記 3 級程度（簿記入門Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ）の内容は理解していることを前提に授業を進めますが、受講生からの要望があれば必要に応じて補足説明をします。分かりにくい点があれば、遠慮なく質問してください。

講義環境の維持のため、私語には厳しい態度で対応します。

【関連科目】

財務会計論Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】

The primary objective of this course is to prepare students understand how to analyze and value business firms. Students learn an effective framework for analyzing and evaluating firms by using financial information and other related information.

MAN300FC-A4471

経営分析Ⅲ

MAN300FC-A4472

経営分析Ⅳ

福多 裕志

3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目のテーマは、私企業、公企業を問わずいかなる組織にあっても必要となる経営分析（財務諸表分析）の基礎知識とその応用技術を習得することである。経営分析Ⅰでは、組織の財務体質を理解するためにさまざまな具体的財務指標（比率）を議論し、経営分析Ⅱでは、計算した様々な結果を基にした経済合理的な意思決定プロセスを考察する。

【到達目標】

本講義では、経営分析の主たる領域の一つである財務諸表分析に限定し講義する。経営分析Ⅰでは、企業の実際の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、各財務比率の算出と計算結果の基本的解釈の仕方を学習する。経営分析Ⅱでは、株価関連指標、総合評価の方法、不確実性下の意思決定において使用される意思決定モデル、創出される情報の価値について検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

1982 年にピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下す。当授業では、そうした直観的判断と共に重要な会計理論に基づいた財務諸表分析の方法を学ぶ。インターネット上で公開されている財務諸表を利用し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用に触れながら企業分析の理解に役立つ授業を展開したい。授業支援システムを利用し、さまざまな授業情報を提供するので、受講者は頻繁に同システムを確認すること。おおよそ下記の順序に従い講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	年間講義計画	財務諸表分析の概要および年間講義計画を説明する。
第 2 回	経営分析の目的と財務データ	経営分析の目的を説明し、インターネット上より各種の入手可能な財務データを検索する。
第 3 回	財務諸表の枠組み：その 1	貸借対照表、損益計算書の構造、ストック項目、フロー項目等の概念を確認する。
第 4 回	財務諸表の枠組み：その 2	キャッシュ・フロー計算書および百分率財務諸表の構造を確認する。
第 5 回	短期の財務安全性	短期的財務安全性の意味およびそれに関連する具体的指標－流動比率、当座比率等を説明する。第 5 回以降の比率分析では、基本統計量をはじめとする基礎的統計学を積極的に応用する。
第 6 回	長期の財務安全性	長期の財務安全性に関連する指標－自己資本比率、固定比率、固定長期適合率等を説明する。
第 7 回	効率性：その 1	効率性の意味およびそれに関連する具体的指標－総資本回転率、棚卸資産回転率等について考察する。
第 8 回	効率性：その 2	売上債権回転率、固定資産回転率、有形固定資産減価償却率、設備投資効率、粗付加価値等について考察する。
第 9 回	収益性：その 1	収益性の意味および主として売上高と関連する指標－ROS－について考察する。
第 10 回	収益性：その 2	ROE、ROA およびそれらの分解式について考察する。
第 11 回	損益分岐点分析：その 1	変動費、固定費、総費用等の諸概念を確認し、損益分岐点を計算する。
第 12 回	損益分岐点分析：その 2	損益分岐点と経営レバレッジの関係を検討することにより短期利益計画について考察する。
第 13 回	成長性	代表的なストック項目、フロー項目の増減率等を考察する。
第 14 回	春学期の総括	春学期における学習事項の要点を総括する。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	秋学期講義内容の概略および株価関連指標：その 1	一株当たり利益（EPS）、株価収益率（PER）を検討する。
第 16 回	株価関連指標：その 2	株価純資産倍率（PBR）を検討する。
第 17 回	米国企業の財務諸表分析	EDGAR より米国企業の財務情報入手し、日米企業の財務体質比較を行う。
第 18 回	総合評価：その 1	学習した指標を活用し、企業の財務体質を総合的に評価する方法を考察する。
第 19 回	総合評価：その 2	企業の財務体質を、多変量解析の手法を用いて総合的に評価する方法を考察する。
第 20 回	経営分析の応用：その 1	確実性、リスク下における意思決定原理－期待値原理、期待値・変動係数原理等－について考察する。
第 21 回	経営分析の応用：その 2	リスク下における意思決定原理－要求水準原理、最尤未来原理等－について考察する。
第 22 回	経営分析の応用：その 3	不確実性下における意思決定原理－ラプラス原理、マクシミン原理、ミンマックス原理等について考察する。
第 23 回	経営分析の応用：その 4	不確実性下におけるハーヴィッツ原理、サヴェッジ原理について考察する。
第 24 回	経営分析の応用：その 5	確実性、リスク下、不確実性下における学習済みの意思決定原理を確認・復習する。
第 25 回	会計情報の価値Ⅰ	事前確率、条件付き確率、同時確率、事後確率、ベイズの定理等の概念を理解する。
第 26 回	会計情報の価値Ⅱ	創出されたさまざまな情報の価値を算出する。
第 27 回	会計情報の価値Ⅲ	情報の入手決定および事後情報に基づく意思決定を理解する。
第 28 回	会計情報の価値Ⅳおよび秋学期の総括	秋学期における学習事項の要点を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。【授業支援システム】へ頻繁に接続し、必要なデータやスライドを入手すること。

【テキスト（教科書）】

参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて授業支援システムに掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】

- 1) 青木茂男『要説 経営分析 五訂版』森山書店、2016 年。
 - 2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会、1995 年。
 - 3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書 その作成と分析・評価』中央経済社、1999 年。
 - 4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社、2002 年。
 - 5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房、1994 年。
 - 6) 國貞克則『財務 3 表実践活用法』（朝日新書）朝日新聞出版、2012 年。
 - 7) 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社、1996 年。
 - 8) 西山茂『企業分析シナリオ 第 2 版』東洋経済新報社、2006 年。
 - 9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析 全訂版』税務経理協会、2003 年。
 - 10) 宮川公男『意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社、2010 年。
 - 11) 森田松太郎『ビジネスセミナー 経営分析入門 4 版』日本経済新聞社、2009 年。
- 授業では主として、1)、10)、11) の文献を利用し議論する。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験 70%、平常点 30%の割合で評価する。授業で取り扱う話題に関する授業内発表をもって平常点とする。発表可能な時間を確保できる複数回の授業は、授業内および授業支援システムにて案内するので注意されたい。評価方法と基準について初回の授業や複数回の授業および授業支援システムにて説明する。オフィスアワーは別途通知される。

【学生の意見等からの気づき】

実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、PC を持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く努力をしなければ単位修得は極めて困難となる。継続的学習が必須である。関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】

Stakeholders need to be able to analyze and interpret financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In class we focus our attention on some basic and important ratios and other analytical tools.

PRI300FC-A4473

統計学Ⅰ

3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

PRI300FC-A4474

統計学Ⅱ

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

猪狩 良介

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、「ビッグデータ」と呼ばれるデータ環境が整備され、「データサイエンス」という言葉が生まれるなど、ビジネスの現場でも統計学とデータ分析を行うニーズは非常に高まっています。また、ビジネスの場面で意思決定を適切に行うには、統計理論とデータに基づいて客観的に判断する必要があります。そのためには統計学の知識が必要です。本講義は、統計学の基礎理論と代表的な分析手法を学ぶとともに、それを経営分野、特にマーケティングやビジネスに応用することを目的としています。また、フリーの統計ソフト R を利用して実際のデータ分析を行うことで、実践力を身につけます。

【到達目標】

- ・統計分析の理論を習得する。
- ・統計ソフト R の使い方を習得し、実際のデータ分析を行うことができる。
- ・分析結果を解釈し、他の人に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・講義と統計ソフトを利用したデータ分析演習の双方を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義概要について説明します。また、ビジネスにおけるデータ分析の重要性について学びます。
2	R の基本操作	統計ソフト R のインストールと基本操作について学びます
3	記述統計	度数分布とヒストグラム、平均値などの代表値、分散や標準偏差などのばらつき指標について学びます。また、R での記述方法を学びます。
4	2 つの変数間の関係	散布図と相関係数・共分散について学習します。また、2 つの質的変数間の関係についても学びます。
5	確率変数	確率変数について学習します。また、確率変数の期待値と分散について学びます。
6	確率分布	2 項分布や正規分布などの代表的な確率分布を紹介しします。
7	大数の法則と中心極限定理	大数の法則と中心極限定理について学びます。また、R を利用したシミュレーションを通してこれらの理論について確認します。
8	標本分布 (1)	母集団と標本について学習します。また、正規母集団に関する標本分布について学びます。
9	標本分布 (2)	2 つの正規母集団に関する標本分布と、中心極限定理を利用した標本分布について学習します。
10	推定 (1)	点推定と区間推定について学習します。
11	推定 (2)	正規母集団と中心極限定理を利用した区間推定について学習します。
12	仮説検定 (1)	統計的仮説検定について学習します。また、正規母集団と中心極限定理を利用した仮説検定について学びます。
13	仮説検定 (2)	2 つの正規母集団の平均の差の検定と分散の比の検定について学びます。また、特別陳列の有無による売上の差を検証します。
14	まとめ	春学期に扱った内容を復習します。

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	ガイダンス	秋学期の講義概要について紹介しします。また、春学期に扱った内容を復習します。
16	分散分析 (1)	一元配置分散分析について学習します。また、チラシの種類による売上の差を検証します。
17	分散分析 (2)	二元配置分散分析について学習します。

18	回帰分析 (1)	相関と回帰の違いについて学習します。また、単回帰分析とその推定法である最小 2 乗法について学びます。
19	回帰分析 (2)	単回帰分析の推定と決定係数について学びます。
20	回帰分析 (3)	重回帰分析について学びます。また、価格や特別陳列が売上に与える影響を予測します。
21	一般化線形モデルと最尤法	質的データを用いた一般化線形モデルについて紹介しします。また、一般化線形モデルの構造と代表的な母数の推定法である最尤法について学習します。
22	ロジスティック回帰モデル (1)	2 値データを目的変数としたロジスティック回帰分析について学習します。
23	ロジスティック回帰モデル (2)	ロジスティック回帰分析を利用して、DM 等の効果を測定する方法を紹介しします。
24	ポアソン回帰モデル	計数データの解析について学習します。また、ポアソン回帰を利用してクリック数の予測を行う方法を紹介しします。
25	AIC によるモデル選択	複数の説明変数の中から最も予測精度の高い変数の選択方法について学びます。
26	多項ロジットモデル (1)	名義データを目的変数とした多項ロジットモデルについて学習します。
27	多項ロジットモデル (2)	多項ロジットモデルを利用したブランド選択行動の分析を学習します。
28	まとめ	秋学期に扱った内容を復習します。また、発展トピックについて紹介しします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内に提出した演習課題をレポートとして提出します。

【テキスト（教科書）】

- ・本橋永至 (2015) 「R で学ぶ統計データ分析」 オーム社

【参考書】

- ・金明哲 (2017) 「R によるデータサイエンス-データ解析の基礎から最新手法まで 第 2 版」 森北出版。

【成績評価の方法と基準】

- ・宿題および演習レポート (50 %)
- ・期末課題 (50 %)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

基礎統計学Ⅰ/Ⅱ
計量経営分析Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】

Recently, the data environment called "big data" has been improved, the word "data scientist" has been penetrated. Here, the need to deal with statistical and data analysis is growing very much in business. Also, in order to properly make decisions in business situations, it is necessary to judge objectively based on statistical theory and data, and for that purpose knowledge of statistics is necessary. This lecture aims to learn the basic theory of statistics and empirical analysis methods and to apply it to management fields, especially marketing and business. Also, practical skill is acquired by performing actual data analysis using free statistical software R.

INF300FC-A4475

システム管理論Ⅰ

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

INF300FC-A4476

システム管理論Ⅱ

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

児玉 靖司

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期（Ⅰ）は、ICT(情報通信技術)の基本的な知識の修得を目的とする。具体的にはシステムとは何かを学び、システム設計法を中心に学ぶ。特に、近年注目されている要求定義手法について学ぶ。

秋学期（Ⅱ）は、ICTに関わる問題分析手法について学ぶ。具体的には、情報セキュリティ、新聞売り子問題、作業工程分析、ゲーム理論、線形計画法等である。

【到達目標】

職業人として ICT(情報通信技術)の基本的な知識を活用し、上位者の指導の下で、業務の分析と解決およびシステム化の支援を行うための手法を学ぶ。経営に必要な数理的な分析に関する素養や、離散数学的素養をつけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】経営情報学として必要な様々な概念について学習する。
【授業の方法】授業は基本的に資料に沿って行う。専門性の高い分野に関する講義の場合は、別途、参考文献を指定する場合がある。原則として毎回簡単な小テスト（確認テスト）を行い、理解度を調査しながら進める。さらに、本年度は米国滞在中の2年間の話題に触れ、最新情報を講義するように努力する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータのはじまり等	システム開発をする上で基本的なコンピュータに関する知識を学ぶ。
第2回	システム開発	システム開発の全体的な流れについて学ぶ。
第3回	システム開発プロセス	システム開発プロセス全体について、種々の開発方法を学ぶ。
第4回	要求分析（1）	要求分析について概説し、要求獲得について学ぶ。
第5回	要求分析（2）	要求分析について概説し、要求表現、要求検証について学ぶ。
第6回	外部設計（1）	システムへの入出力について主に設計する外部設計について学ぶ。
第7回	外部設計（2）	外部設計の具体的事例について学ぶ。
第8回	内部設計	内部設計について学ぶ。
第9回	テスト手法について（1）	システム開発におけるテスト手法について学ぶ。
第10回	テスト手法について（2）	システム開発におけるテスト手法の具体例について学ぶ。
第11回	オブジェクト指向設計	オブジェクトとは何か、さらに、オブジェクトを用いた設計方法について学ぶ。
第12回	2進数について（1）	システム開発における基本的な知識として2進数について学ぶ。
第13回	2進数について（2）	浮動小数点の2進数表現、補数の表現について学ぶ。
第14回	まとめ	本講義のまとめを行う。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、情報とは	データ、情報、知識の違いについて概説し、情報学の意義について学ぶ。
第2回	情報セキュリティ	コンピュータウィルスを中心にセキュリティについて学ぶ。共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式を中心に学ぶ。
第3回	新聞売り子の問題（1）	新聞売り子の問題について学ぶ。
第4回	新聞売り子の問題（2）	新聞売り子の問題について応用事例について学ぶ。
第5回	プロジェクト管理（1）	プロジェクト管理に重要な作業工程分析について学ぶ。
第6回	プロジェクト管理（2）	作業工程分析について応用事例を学ぶ。
第7回	ゲーム理論（1）戦略をたてる	ゲーム理論全体について学ぶ。
第8回	ゲーム理論（2）ミニマックス戦略	ミニマックス戦略について学ぶ。

第9回	ゲーム理論（3）確率を用いたモデル	確率モデルを用いた戦略について学ぶ。
第10回	ゲーム理論（4）基本定理	ゲーム理論の基本定理について学ぶ。
第11回	ゲーム理論（5）囚人のジレンマ	囚人のジレンマについて学ぶ。
第12回	線形計画法（1）	線形計画法について概略を学ぶ。
第13回	線形計画法（2）	線形計画法について応用を学ぶ。
第14回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として毎回簡単な確認テストを行い、次の時間に解説を行うので、予習、復習を行うこと。授業中に紹介する参考図書等も読むことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

開講後、指定する。原則としてパワーポイント(PDF)による資料を Classroom より配布する。

【参考書】

開講後、指定する。

【成績評価の方法と基準】

（課題）確認テストおよび取り組み姿勢（14%）、定期試験（86%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。板書が出来るように、授業の進め方を工夫（進度をやや遅く）する。

【学生が準備すべき機器他】

PC 上でのパワーポイントによるプレゼンテーションを多用する。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、外資系コンピュータメーカー研究開発本部にてシステム設計および基本ソフトウェア開発を行った経験を活かし、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline and objectives】

As a professional person, you can learn the basic knowledge of ICT (Information and Communication Technology), and learn techniques to analyze works, to solve problems under the guidance of superiors. We aim to establish a knowledge on mathematical problems necessary for business management.

MAN300FD-A4501

日本経営論Ⅰ

MAN300FD-A4502

日本経営論Ⅱ

金 容 度

3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の企業経営の現状と歴史を国際比較の視点から講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。それによって、日本の企業システムについての理解を深めると共に、日本企業の諸現象を論理的考える能力を高める。

【到達目標】

この授業の到達目標は、第 1 に、国際比較を通じて日本の企業システムの特殊性と普遍性を理解すること、第 2 に、日本の企業システムにおける組織性と市場性の両面を理解すること、第 3 に、日本の企業経営の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎週の授業は、講義とディスカッションを織り交ぜて行われる。ディスカッション時の発言者には加算点が与えられる。また、学期ごとに 1 回、授業と関連する文章を読んで感想文を書く時間を設け、その内容によって加算点も与える。

春学期の日本経営論Ⅰでは、日本の企業システムの特徴を考察した上で、企業システムの国際比較を行う。また、それを踏まえて、日本の経営についての国内外の議論を検討、考察する。

秋学期の日本経営論Ⅱでは、市場性と組織性の絡み合い、国際比較という視点から日本の企業間関係を考察する。具体的に、メインバンクシステム、企業間のものの取引（半導体、液晶部材、鉄鋼、自動車部品）が取り上げられる。国際比較の対象は、日本、アメリカ、ドイツである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について案内し、日本の企業経営に関する論点についてディスカッションする。
2	日本の企業システムの特徴	戦後日本の企業システムの特徴を考察する。
3	企業システムの日米比較 1(労使関係)	日本的経営の「3 種の神器」といわれるのがすべて労使関係と絡んでいる点に着目して、工業化初期における日米の労使関係の共通点を検討する。
4	企業システムの日米比較 2(労使関係②)	日米の共通点に着目して、アメリカにおける労使関係の展開過程を検討する。
5	企業システムの日米比較 3(米企業システムの歴史)	日米の共通点に着目して、米企業システムの歴史的特徴を考察する。
6	企業システムの日米比較 4(1980 年代以降の米企業システム①)	1980 年代以降の米企業システムの変化と日本への示唆点を検討する。
7	企業システムの日米比較 5(1980 年代以降の米企業システム②)	1980 年代以降、米企業システムの変化要因を検討する。
8	企業システムの日米比較 6(1980 年代以降の米企業システム③)	1980 年代以降、米企業システムの変化要因を検討する。
9	海外での日本研究の流れの概観	日本についての海外での研究の全体的な流れを概観する。
10	日本の経営についての海外での議論 1(特殊論)	日本の企業経営についての海外研究者の研究の中で、日本特殊性を強調する議論を考察する。
11	日本の経営についての海外での議論 2(特殊論②)	日本の企業経営についての海外研究者の研究の中で、日本特殊性を強調する議論を考察する。
12	日本の経営についての海外での議論 3(普遍論)	日本の企業経営についての海外研究者の研究の中で、普遍性を強調する議論を検討する。
13	日本の経営についての海外での議論 4(普遍論②)	日本の企業経営についての海外研究者の研究の中で、普遍性を強調する議論を検討する。
14	日本の経営についての国内議論	日本の企業経営の普遍性を強調する議論を検討する。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	企業間関係をみる理由と視点、日本の企業間関係の特徴の概観	なぜ、どのように企業間関係をみるかについて講義するとともに、日本の企業間関係の特徴を概観する。
2	企業間関係の国際比較について	国際比較の視点から、企業間関係の日米共通点を考察する。
3	メインバンクシステム 1	組織性と市場性に焦点を合わせて、日本のメインバンクシステムの特徴を検討する。
4	メインバンクシステム 2	日本のメインバンクシステムの機能を考察する。
5	メインバンクシステム 3(日独比較)	ドイツと日本のメインバンクシステム間の共通点と相違点を考察する。
6	メインバンクシステム 4(新たな展開)	メインバンクシステムにおける新たな動きについて検討する。
7	半導体の企業間関係	「産業の米」である半導体の共同開発をめぐる企業間関係を考察する。
8	液晶部材の企業間関係	日本企業の競争力が高い液晶部材産業を取上げ、企業間取引を検討する。
9	鉄鋼の企業間関係	もう一つの「産業の米」といわれる鉄鋼の企業間取引について検討する。
10	鉄鋼の企業間関係 2(日米比較)	自動車向け鉄鋼の企業間取引を事例に、日米間にどのような共通点と相違点が現れるかを考察する。
11	自動車部品の企業間取引 1(日本の特徴)	日本のサプライヤーシステムの代表的な産業である自動車産業を取り上げ、企業間取引の特徴を考察する。
12	自動車部品の企業間取引 2(日米比較)	日米の共通点に着目して、1900 年代～10 年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
13	自動車部品の企業間取引 3(日米比較②)	日米の共通点に着目して、1920 年代～40 年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
14	自動車部品の企業間取引 4(日独比較)	ドイツと日本の自動車部品取引を比較する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献は、適宜、「授業支援システム」にアップロードするので、毎週、提示される次週の参考文献を読んでから授業に参加すること。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。毎週レジメを授業中に配布する。なお、参考文献は、毎週の講義中で提示する。

【参考書】

<日本経営論Ⅰの参考文献>

①橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・斉藤直『現代日本経済第 4 版』有斐閣、2018 年

②小池和男『仕事の経済学』東洋経済新報社、1991 年（第 1 版）及び、2005 年（第 3 版）

③ジェイムス・アベグレン『日本の経営』日本経済新聞社、2004 年

④ウィリアム・オオウチ『セオリー Z』CBS ソニー出版、1981 年

⑤ William Lazonick, Sustainable Prosperity in the New Economy, Upjohn Institute, 2009

⑥鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004 年

<日本経営論Ⅱの参考文献>

① Yongdo Kim, The Dynamics of Inter-firm Relationships: Markets and Organization in Japan, Cheltenham: Edward Elgar Publishing Ltd., 2015

②金容度『日本 I C 産業の発展史-共同開発のダイナミズム』東京大学出版会、2006 年

③浅沼万里『日本の企業組織革新的適応のメカニズム: 長期取引関係の構造と機能』東洋経済新報社、1997 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価基準は、期末試験（70 %）、授業内小試験（30 %）である。授業内小試験は学期ごとに 3 回行われる。また、ディスカッション時の発言者には加算点を与える上、リアクション・シート、授業中に作成する感想文（学期に 1 回）についても内容によって加算点を与える。

【学生の意見等からの気づき】

リアクション・シートなどで提出される受講者からの質問に答える時間を増やす。

【その他の重要事項】

授業中の私語は絶対禁ずる。

日本経営史Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、技術管理論Ⅰ/Ⅱ、中小企業論Ⅰ/Ⅱ

発行日：2019/5/1

【Outline and objectives】

The objective of this course, Japanese Management is to understand business management in Japan more deeply on the perspective of international comparisons. You will learn logical thinking and basic knowledge on Japanese management by lectures, discussion and Q&A.

MAN300FD-A4503

流通論Ⅰ

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN300FD-A4504

流通論Ⅱ

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

横山 斉理

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済の基本は生産と消費ですが、高度に分業化されている現代社会では、生産と消費を結びつける流通が不可欠です。ところが、多くの人は流通を「商品の流れ?」「お店?」「トラックでの配送?」といったように、曖昧に認識しているのが現状です。この授業では、日用用語レベルで何となく知っている「流通」について、体系的に深く理解することを目指します。

【到達目標】

到達目標は、流通というものの全体像を把握し、現実には起きている流通に関する出来事（たとえば、都市型のミニスーパーの誕生や、コンビニとメーカーの共同開発など）を流通論の視点から分析できるようになることです。この目標のために、この授業では、流通の理論や分析アプローチなどを体系的に学びます。適宜、事例を学び、それを活用しながら理論や分析アプローチを体系的に理解していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は、流通論の理論や分析アプローチ、そして主要概念を体系的に学んでいきます。出来る限り、現実の問題と関連させて学習を進めていきます。秋学期は、春学期で学んだことを現実のビジネスと対応させて深く理解ために、われわれ消費者にもっとも身近な流通ビジネスである小売業に焦点を当て、そのビジネスの特徴を現実のケースを通じて多面的に学んでいきます。秋学期の小売ビジネスのケースを通じた学習により、抽象的になりがちな内容の理解が容易になるものと思います。

春学期・秋学期を通じて、双方向的な授業を目指します。教員が壇上からレクチャーを続けるだけではありません。受講生に発言を求めることは頻繁にありますし、簡単なグループワークを実施し、その内容を発表してもらうこともあります。（それほど難しいことを質問したり課したりはしませんのでご心配なく。）

なお、秋学期の内容を深く理解するためには、春学期の内容を押さえておくほうがよいので、通年での履修をお勧めします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	商学の学び方	商学の学び方
2	商学の対象	流通とは何かを学ぶ
3	流通とマーケティング	流通とマーケティングの関係を学ぶ
4	流通の機能と機関	流通の機能とそれを担当する機関を学ぶ
5	流通・商業の生成と発展	流通・商業の生成と発展を学ぶ
6	経済の成長と流通・商業	経済の成長と流通・商業の関わりを学ぶ
7	生産の高度化と流通	生産の高度化が流通におよぼす影響を学ぶ
8	商業と小売業	商業と小売業の関係を学ぶ
9	小売機構と小売業	小売機構について学ぶ
10	小売業の形態	小売業の形態について学ぶ
11	小売市場と競争構造	小売業における競争を学ぶ
12	小売業業態	小売業の業態について学ぶ
13	小売業の営業形態	小売業の営業形態について学ぶ
14	卸売機構と卸売業	卸売機構について学ぶ

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	流通論：オーバービュー	学ぶ内容の全体像を概観する
16	日本型流通	日本型流通の特質を理解する
17	小売業態論の展開	小売業態とその発展を理解する理論や枠組みを理解する
18	小売業態：百貨店	百貨店業態のビジネスモデルを理解し、その現代的課題を考える
19	小売業態：コンビニ	コンビニエンスストア業態のビジネスモデルを理解し、その現代的課題を考える
20	小売業態：SPA	SPA 業態のビジネスモデルを理解し、その現代的課題を考える
21	商業集積	商業集積（商店街やショッピングセンター）のビジネスモデルを理解し、その現代的課題を考える
22	小売国際化	小売業の国際化を理解し、その現代的課題を考える

23	小売構造のダイナミクス	小売市場の多様性を小売競争から考える
24	事例紹介：アマゾン	アマゾンの事例を通じてインターネット小売業を理解する
25	事例紹介：メルカリ	メルカリの事例を通じて商業と似て異なるプラットフォームビジネスを理解する
26	事例紹介：ユニクロ	ユニクロの事例を通じてデジタル時代の流通の基本を考える
27	事例紹介：ウーバー	ウーバーの事例に基づいてデジタル時代の流通の拡張を考える
28	全体総括	流通論で学んだ内容の全体を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では、予習より復習が重要です。復習として、授業計画の「内容」に示されたテキストや参考書の該当章を読み直すことが求められます。加えて、日々の生活において、流通に関する現象を意識して観察しておく、授業の理解がよりスムーズになると思います。

【テキスト（教科書）】

（春学期：全体）久保村隆祐ほか編著（2016）『商学通論〔9訂版〕』同文館
（秋学期：前半）石原武政・竹村正明・細井謙一編著（2018）『1からの流通論〔第2版〕』碩学舎
（秋学期：後半）西川英彦・澁谷覚編著（2019）『1からのデジタル・マーケティング』碩学舎

【参考書】

高嶋克義（2012）『現代商業学〔新版〕』有斐閣アルマ
横山斉理（2019）『小売構造ダイナミクス』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

春学期末試験90%、平常点10%
秋学期末試験90%、平常点10%

【学生の意見等からの気づき】

静穏な授業環境を実現するために状況をみながら様々な対応をとります。

【その他の重要事項】

マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱなど、マーケティング関連科目を積極的に履修してください。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to explore the world of marketing and distribution. Lecture and discussion is conducted for this aim.

MAN300FD-A4505

消費者行動論Ⅰ

MAN300FD-A4506

消費者行動論Ⅱ

新倉 貴士

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

消費者の行動は、非常に微妙なものに左右されてしまいます。昨日まで飛ぶように売っていたブランドが、突然売れなくなってしまいます。一体何が消費者の行動を規定しているのでしょうか。当授業では、このような消費者行動について、さまざまな角度から講義します。履修者は、消費者行動に関する体系的な知識を獲得できるようにし、マーケティング戦略の構築との関連性を意識して、より効果的な消費者戦略を想定しながら受講することが必要になります。

【到達目標】

当科目の履修者は、消費者行動に関する基礎的な知識獲得のために、2017 年までに展開されてきた消費者行動研究の枠組みとその流れを把握できるようになることを目的とし、また消費者認知・消費者態度・消費者行動という3つの視点を置きながら、消費者とマーケティング戦略に関する応用的な知識の獲得を目指します。とりわけ、ブランドマーケティングの実践を想定した消費者に関する知識の獲得ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

授業の形態は、講義を中心にして進めます。講義中に、ディスカッションや課題を投げかけることがありますので、瞬時に対応できるように授業に取り組んでください。

「消費者行動論Ⅰ」では、消費者行動に関する体系的な基礎知識を学習します。特に消費者の行動を規定する消費者の心理プロセスに着目し、消費者行動モデルを基にして、その行動を規定する様々な要因を考察していきます。「消費者行動論Ⅱ」では、メーカーと消費者との橋渡し役をするブランドに着目して、両者のコミュニケーションのあり方を様々な角度から理解していきます。

【授業の方法】

講義形式により授業を進めます。毎回パワーポイントによるスライドを使用します。また、授業内でのディスカッションや課題も予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	消費者行動とマーケティング	消費者行動とマーケティングとの関係を中心にして、当科目の概要を説明します。
第 2 回	消費者行動の分析フレーム	消費者行動の分析レベル、購買行動分析の視点と枠組み、消費者行動の分析モデルを詳解します。
第 3 回	消費者行動研究の系譜	消費者行動研究の源流とその系譜について詳解します。
第 4 回	消費行動と消費パターンの分析	生活資源配分と消費行動、消費様式の選択メカニズムについて詳解します。
第 5 回	消費者行動の変化とその諸相	消費者行動の変化、家事の外部化と消費の多様化、インターネットが変える消費者行動について詳解します。
第 6 回	情報処理メカニズム	情報処理システム、処理能力と処理資源、情報処理モデルについて詳解します。
第 7 回	情報処理の動機づけ	動機、動機づけ、動機づけられるメカニズム、関与について詳解します。
第 8 回	情報処理の能力	処理能力と知識、長期記憶の仕組み、認知構造の水準、専門知識力について詳解します。
第 9 回	購買意思決定の分析	購買意思決定プロセスを中心に情報処理の多様性を詳解します。
第 10 回	購買前の情報処理	情報の探索と解釈について詳解します。
第 11 回	購買時の情報処理	低関与情報処理、情報処理のモード、相互適応的な情報処理について詳解します。
第 12 回	購買後の情報処理	購買後の再評価、再評価と満足、消費者間の社会的相互作用について詳解します。
第 13 回	購買意思決定プロセスとマーケティング	情報処理プロセスをベースにして、購買意思決定とマーケティングとのかわりを詳解します。

第 14 回 購買意思決定の特性とマーケティング

購買意思決定を中心にして、提案価値、伝達価値、インターネットについて詳解します。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	当科目についての概要を説明します。
第 2 回	消費者行動とブランドマーケティング	ブランドをベースにした消費者行動とマーケティングとの関係を説明します。
第 3 回	ブランドのアイデンティティとイメージ	マーケターの理想的なブランドアイデンティティが、消費者のブランドイメージにどのように変換されるかを説明します。
第 4 回	消費者志向のブランド理念①	消費者を中心とするブランドマーケティングのあり方を考察します。
第 5 回	消費者志向のブランド理念②	消費者を中心とするブランドマーケティングのあり方と信頼の重要性を考察します。
第 6 回	ブランド認知	ブランド認知について、その分類や役割を説明します。
第 7 回	ブランド連想	知識構造をベースにした連想のあり方を説明します。
第 8 回	ブランド態度①	ブランド態度の機能や構造について説明します。
第 9 回	ブランド態度②	ブランド態度の変容プロセスについて説明します。
第 10 回	消費者とブランドの信頼①	ブランドへの信頼とは何かを構造的な側面から説明します。
第 11 回	消費者とブランドの信頼②	ブランドへの信頼とはどのようにあるべきかを説明します。
第 12 回	ブランドロイヤルティ	ブランドロイヤルティ概念について、様々な角度から説明します。
第 13 回	ブランドスイッチング	パラエティシーキングなどにみられる消費者の多様性行動を説明します。
第 14 回	授業のまとめ	これまでの授業内容の総括を行い、体系的な知識の確認をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に関する消費者の認知・態度・行動について、自分もしくは身近な隣人の様子を観察して、ノートに整理してください。授業で詳解する様々な理論やモデルを適用して、その様子を自分なりに分析してください。そして、それに対応する有効なブランドマーケティング戦略を考案してください。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

青木幸弘他、『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』、有斐閣アルマ、2012 年
青木幸弘『消費者行動の知識』、日経文庫、2010 年
田中洋・清水聰、『消費者・コミュニケーション戦略』、有斐閣アルマ、2006 年
新倉貴士、『消費者の認知世界』、千倉書房、2005 年

【成績評価の方法と基準】

消費者行動論Ⅰ：最終試験（100 %）にて評価します。
消費者行動論Ⅱ：最終試験（100 %）にて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業のスピードを適切な速度で進める予定です。
板書の方法にも配慮して進める予定です。
教室の施設を考慮して、マイク音量に配慮する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントによるスライドやビデオを利用します。
毎回、配布資料を用意する予定です。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕
マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ
〔受講上の注意〕
マーケティング論Ⅰ/Ⅱを履修した上で受講することが望ましい。

【Outline and objectives】

This course is a series of lectures and discussions, structured to give students some of the basic, fundamental understandings on consumer behavior and brand marketing strategy. To understand consumer, students will learn consumer's cognition, attitude, and behavior. Major course objectives are;
-To introduce students to knowledge about consumer behavior and marketing strategy.
-To learn consumer information processing.

- To understand brand marketing strategy.
- To get creative skills of marketing plans.

MAN300FD-A4507

マーケティング・リサーチⅠ

MAN300FD-A4508

マーケティング・リサーチⅡ

西川 英彦

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

たくさんの商品企画の実例を通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を身につけよう。

はじめてマーケティング・リサーチを学ぶ学生が理解しやすいように、本授業では、リサーチがよく活用される「商品企画」をテーマにした実際の企業ケースや、リサーチの具体例をもとに、講義を行う。

【到達目標】

春学期は、①ケースをもとに、インタビューや観察法、リード・ユーザー法などの定性調査のスキルを身につける、②簡単な定性調査を行い、商品企画の仮説となるレポート（企画書）を作成することができる、という2点である。

秋学期は、①具体例をもとに、アンケート作成やデータ分析などの定量調査のスキルを身につける、②簡単な定量調査を行い、商品企画の仮説を検証するレポートを作成できる、という2点である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業では、実際にリサーチを商品企画に活用しているゲストスピーカーの講演をはじめ、企業のケースや具体例を通して、リサーチの活用イメージをつかんだ上で、リサーチの基礎と方法を学ぶことで、その理解を深める。各授業で、コミュニケーションシートにより疑問点やコメントをアップし、次の授業でフィードバックをうけ、不明な箇所が解決できる。

なお、春学期は、大学生協の電子教科書（アプリの利用）を用いて、生協より同書へのマーカーやコメントなどの個人ログデータの提供をうけることで、双方向の講義を実施する。秋学期の定量調査は、無料統計ソフト **R** を用いて、配布するマニュアル通りに入力すれば分析できるので、数学が苦手な学生でも大丈夫である。難しい数式は、使いませんので安心ください。アシスタントによる支援もあり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	商品企画プロセスにおけるリサーチの重要性	ライオン ・電子教科書を使った講義の進め方、テキスト第 1 章
第 2 回	リサーチの最前線（ゲスト講演）	日清食品株式会社 取締役マーケティング部長 深澤勝義さん講演
第 3 回	インタビュー法	資生堂 ・テキスト第 2 章
第 4 回	観察法（消費者の行動観察）	デザイン企業 IDEO ・デザイン、テキスト第 3 章
第 5 回	リード・ユーザー法（先端的ユーザーの活用）	3M ・テキスト第 4 章、最終レポートの説明
第 6 回	クラウド・ソーシング法（消費者参加型製品開発）	フェリシモ ・無印良品、レゴ
第 7 回	アイデア発想	TOTO ・たまごっち、テキスト第 5 章
第 8 回	コンセプト開発	エースコック ・ユニチャーム、テキスト第 6 章
第 9 回	プロトタイピング（試作品）	IDEO ・テキスト第 7 章
第 10 回	コンテスト・テスト（定量調査）、市場規模推定	ハウス、ロッテ ・テキスト第 8、10 章
第 11 回	企画書作成	フジッコ ・販促企画、テキスト第 14 章
第 12 回	プレゼンテーション	スティーブ・ジョブスなど ・リデザイン、テキスト第 15 章
第 13 回	早期優秀レポートの報告	レポートの報告とフィードバック ・成果の共有
第 14 回	優秀レポートの報告	レポートの報告とフィードバック ・成果の共有

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	定量調査の楽しさ	定量調査の概要 ・勘と経験だけでダメな理由 ・データ分析が必要な理由
第 2 回	リサーチデザイン	リサーチプロセスを知ろう！ ・課題の定義と仮説、探索的調査と検証的調査、R の使い方

第 3 回 データの特徴

第 4 回 データの関係①

第 5 回 データの関係②

第 6 回 データの差

第 7 回 因果関係

第 8 回 データの集約

第 9 回 報告書

第 10 回 アンケート

第 11 回 サンプリング

第 12 回 リサーチの最前線（ゲスト講演）

第 13 回 早期優秀レポートの報告

第 14 回 優秀レポートの報告

店舗の売上の「平均」と「標準偏差」を知ろう！

顧客の購入金額と来店頻度の関係を、「相関分析」でみよう！

デザインリニューアルの男女別選好の関係を、「独立性の検定」で調べよう！

・適合度の検定

POP 効果を「*t* 検定」で分析しよう！

ざるそばの売上を「帰帰分析」で予測しよう！

歯磨き粉の利用要因を「因子分析」でまとめよう！

SNS での実名と匿名ユーザーの行動の報告書

・レポートの説明

アンケートのつくり方

・尺度、グーグルアンケート

大学生対象時のサンプルの選び方

クロレッツなどを展開するモンデリーズ・ジャパン マネージャー 東浦和宏さん（元ユニリーバ、P&G 等）講演

早期優秀レポートの報告とフィードバック

・成果の共有

優秀レポートの報告とフィードバック

・成果の共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期、秋学期ともに、それぞれ1つのレポート作成が、授業時間外にある。春学期は、双方向の講義のため、事前に案内する課題をもとに、テキストを読んでくること（発言の加点あり）。

【テキスト（教科書）】

春学期：大学生協の電子教科書（西川英彦・廣田章光『1 からの商品企画』碩学舎、2012 年）。双方向の授業を実施するため、富士見坂食堂教科書特設販売所（4 月中）にて、スマホやタブレット、パソコン上のアプリで利用できる、電子版（税別定価 1,800 円）を購入のこと。なお、紙版（同 2,400 円）、バンドル（電子＋紙）版（同 2,700 円）もあるが、講義は電子版をもとに進める。

秋学期：テキストとして、レジュメを授業支援システムにアップする。

【参考書】

春学期：ベルク・フィッシャー・コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年

秋学期：恩蔵直人・富田健司『1 からのマーケティング分析』碩学舎、2011 年、山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年

【成績評価の方法と基準】

・春学期：レポート（いずれかの定性調査と、それを利用した商品企画アイデア）70 点、平常点（ネットアンケートでのコミュニケーションシート）30 点
・秋学期：レポート（いずれかの定量調査と分析結果）70 点、平常点（ネットアンケートでのコミュニケーションシート）30 点

・早期レポートの提出・報告者には、全員加点あり（早期レポート制度）。
・なお、春学期・秋学期ともに、授業内での発言・報告には加点あり。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が難しかったプロセスを考慮して、3 点を改善した。

①レポートをイメージしやすいように、レポート例を紹介する。

②全体レポートの質向上をはかるために、参加学生の優秀レポート報告が提出前に確認できる、早期レポート制度を採用する。

③秋学期は、基本編と解説編を分けて説明する。

【学生が準備すべき機器他】

春学期は、電子書籍を利用するため、スマホ、あるいはタブレット、パソコンをご持参ください。

秋学期は、レジュメの確認のため、スマホ、あるいはタブレット、パソコンをご持参ください。また、第 2 回以降は、統計ソフト **R** を利用するため、パソコンを持参あるいはレンタルでご用意ください。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ、統計学Ⅰ/Ⅱである。

授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした講義を実施する。

【Outline and objectives】

Let's learn the basics and methods of marketing research through examples of many product planning. To make it easier for students to learn about marketing and research for the first time, this class gives lectures based on actual corporate cases with the theme of "product planning" where research is often used, and concrete examples of research .

MAN300FD-A4509

サービス・マネジメント論Ⅰ

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN300FD-A4510

サービス・マネジメント論Ⅱ

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

木村 純子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はサービス・マネジメント論の理論を机上の空論にするのではなく、各受講生がサービス・イノベーションにかかわるリサーチ・クエスチョンを設定し、理論枠組みを説明し、仮説を導出し、データを集め、仮説を検証します。複数のアクティビティを通じて受講生は現実と理論を架橋する力を身につけます。スポーツに例えるならルールを知り技術を上げることになります。サービス・マネジメントの理論を用いて、研究とは何か（「ルール」）を理解し、授業内課題に複数回取り組むことで練習を重ね自身の研究の「技術」を高めます。

【到達目標】

サービス・マネジメント論の理論を理解し、研究の方法も学びます。各章でサービス・イノベーションに成功した事例を取り上げます。現象を説明するための理論枠組みを理解し、分析概念を定義した上で、取り上げた事例の具体的なデータを用いて自身の仮説を検証していきます。活動を通じて、4 つの力を習得することを本講義の達成目標とします。

- 1) 自分で問題意識（リサーチ・クエスチョン）を設定する力
- 2) 具体的な事例からデータを収集する力
- 3) データを用いて自身の仮説を検証する力
- 4) 自分の主張を他の人たちに説得的に説明し理解させる力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講義は講義形式で、学生は教員のレクチャーによってサービス・マネジメントの理論を理解します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	マーケティングの基本的概念
第 2 回	事例 1	タビオ社のサービス・イノベーション①理論枠組み
第 3 回	事例 1	タビオ社のサービス・イノベーション②事例分析
第 4 回	事例 2	日本マクドナルドのサービス・イノベーション①理論枠組み
第 5 回	事例 2	日本マクドナルドのサービス・イノベーション②事例分析
第 6 回	事例 3	IKEA 社のサービス・イノベーション①理論枠組み
第 7 回	事例 3	IKEA 社のサービス・イノベーション②事例分析
第 8 回	ゲストスピーカー	調整中
第 9 回	事例 4	リテール・ソリューション①理論枠組み
第 10 回	事例 4	リテール・ソリューション②事例分析
第 11 回	ゲストスピーカー	調整中
第 12 回	事例 5	京都・五花街①理論枠組み
第 13 回	事例 5	京都・五花街②事例分析
第 14 回	まとめ	春学期のまとめ

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	マーケティングの基本的概念
第 2 回	事例 1	FNAC のサービス・イノベーション①
第 3 回	事例 1	FNAC のサービス・イノベーション②
第 4 回	事例 2	CRAI のサービス・イノベーション①
第 5 回	事例 2	CRAI のサービス・イノベーション②
第 6 回	事例 3	サントリーのサービス・イノベーション①
第 7 回	事例 3	サントリーのサービス・イノベーション②
第 8 回	ゲストスピーカー	調整中
第 9 回	事例 4	食品産業クラスターのサービス・イノベーション①
第 10 回	事例 4	食品産業クラスターのサービス・イノベーション②
第 11 回	ゲストスピーカー	調整中
第 12 回	事例 5	農産加工品のサービス・イノベーション①
第 13 回	事例 5	農産加工品のサービス・イノベーション②

第 14 回 まとめ

秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、課題に沿ったフィールドワークやインタビューなどの調査を行います。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムを通じて適宜配布します。

【参考書】

適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

授業内レポート（毎回） 100%
出席が必須の授業です。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式ではなく学生同士のインタラクションを望む声がありましたので、講義形式のみならず教員と学生、学生同士のインタラクティブな演習形式も適宜取り入れることを試みます。

【その他の重要事項】

履修すべき関連科目「マーケティング論Ⅰ/Ⅱ」「マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ」「消費者行動論Ⅰ/Ⅱ」「製品開発論Ⅰ/Ⅱ」「流通論Ⅰ/Ⅱ」「国際マーケティング論Ⅰ/Ⅱ」

履修者数、受講生の理解度、進具合によってスケジュールと内容を変更する場合があります。

授業内レポートに取組む日の就職活動による「サービス・マネジメント論Ⅰ」「サービス・マネジメント論Ⅱ」の欠席は欠席扱いといたします。理由は以下の通りです。

(1) 4 年生春学期は就職活動で忙しくなる

4 年生の春学期は就職活動で授業を欠席する日が多くなるということは、1 年生、2 年生、3 年生のころから先輩を見て知っていたはずですが。当該学期は単位が取りにくくなることは織り込み済みだったわけですからどのように対処すべきかも考えておくべきです。

(2) 本シラバスに記載されている

本講義の成績評価は授業内レポートに取組むことが明記されています。

(3) 欠席理由の確認が取れない

本当に就職活動で欠席したのかどうかを確認する手立てを講師は持っていません。欠席者の中には企業からのメールを提出できるかもしれませんが、メールがあることが実際に面接に行ったことの証拠にはなりません。場合によってはメールではなく電話で企業から連絡が来る場合もあり、その学生との公平性を欠くことになります。

(4) 公平性

就活生を特別扱いするということは、毎週真面目に授業に出席し課題に取り組んでいる学生に対する逆差別となります。

プロジェクトに投影された資料をスマートフォン等を使って撮影することを禁止します。

MAN300FD-A4511

製品開発論Ⅰ

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN300FD-A4512

製品開発論Ⅱ

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

山崎 泰明

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業経営は製品戦略を軸として行われる。これは、製品が絶えず流動化する外部環境と絶えず固定化する企業内の条件との接点となるからである。このようなことから製品開発が企業経営の中で重要な位置づけを占めていることは誰もが認めることであろう。

製品開発論に限らず、実学である経営学の学習においては、①「ケーススタディによる疑似体験学習」、②「フレームワーク活用による理論の修得」、そして③「経営者の生の声を聴く」を三種の神器と考え、それらを活用したアプローチから講義を進める。

講義Ⅰでは、製品開発の全体像を把握するため、戦略的・組織的な本質を体系的に学習する。トラディショナルな理論、そこから発展してきた考え方、そして適宜、具体的な実践事例であるケーススタディを基にした体験的学びを行なう。

講義Ⅱでは、いろいろな成功例に裏打ちされた各種のイノベーション戦略を学び、継続的な観点から製品開発に強い企業の原動力を照らし合わせてみることにする。

【到達目標】

講義Ⅰでは、企業競争力の源泉となる製品開発の進め方や基本となる手法についての基礎を身につけるとともに、ケーススタディによる体験的な理解を深めることを目標とする。

講義Ⅱでは、Ⅰで得た製品開発の基礎的なものをベースに、各種のイノベーション理論を学び、深く理解することを目標とする。このことにより単発的なヒット商品の成功ではなく、製品開発に強い企業のベースとなる戦略の理解をより深めることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、授業の終わりに、その日の講義内容に関するペーパーの提出を行なう。次回の授業の初めに、前回のペーパーに対するコメントの時間を設ける。このことにより、授業の内容の理解を深めることとする。

ケーススタディの学習以上に実践学習となる生の経営者の声およびDVDによる学習を取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】**Ⅰ 春学期**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業の概要 ・製品開発の流れ
第2回	製品開発の本質	・製品開発の役割 ・製品開発と競争力
第3回	日本企業の現状	・低迷の本質 ・ものづくりと付加価値
第4回	研究開発の基礎	・製品開発における研究開発リスク ・研究開発のプロセス
第5回	製品開発とイノベーション	・イノベーションのタイプ ・2つの革新性
第6回	製品戦略	・製品戦略の基礎 ・3つの製品戦略
第7回	製品開発のプロセス	・プロセスの特徴 ・製品開発の各種業務
第8回	製品開発と組織	・製品の特性と組織 ・2つの組織づくり
第9回	製品開発とマネジメント	・コンカレント・エンジニアリング ・2つの企業間関係
第10回	関係する企業とのマネジメント	・外部企業との関係性 ・企業間ネットワーク
第11回	持続的製品開発能力	・製品開発能力の構築 ・自動車業界
第12回	事例分析	・ケーススタディの解説
第13回	確認ペーパーの作成	・ケーススタディの解説
第14回	総括	・フレームワークの学習

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業の概要 ・イノベーションとは ・製品開発とコモンズ社会の到来
第2回	新しい市場	・新しい文化の開発 ・技術神話の話

第3回	イノベーション理論と製品開発①	・ジョセフ・シュンペンター ・トーマス・クーン ・ピーター・ドラッカー
第4回	イノベーション理論と製品開発②	・ジェームス・アッターバック ・クレイトン・クリステンセン
第5回	イノベーション理論と製品開発③	・ジョー・ティッド ・ヘンリー・チェスブロウ
第6回	イノベーション理論と製品開発④	・エヴェリット・ロジャース ・チャン・キム&レネ・モボルニュ
第7回	イノベーション理論と製品開発⑤	・デビッド・ティース ・ロバート・ベルガンティ
第8回	イノベーション理論と製品開発⑥	・ビジャイ・ゴビンダラジャン ・エリック・ヒッペル
第9回	イノベーション理論と製品開発⑦	・デービッド・アーカー
第10回	製品開発とマーケティング①	・消費者志向の製品開発
第11回	製品開発とマーケティング②	・ブランドと製品開発
第12回	近年のビジネスの潮流	・ITの進展と製品開発
第13回	確認ペーパーの作成	・ビジネスプランの作成
第14回	総括	・ビジネスプランの解説 ・イノベーションの整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・講義前に提示される講義概要の資料を事前に読み、講義の流れを予め理解しておく。
・具体的実践事例として提示されたケーススタディに対するペーパー等の提出の準備を行なう。

【テキスト（教科書）】

講義Ⅰ、Ⅱ
・必要な資料を作成して配布するので、テキストは指定しない。

【参考書】

講義Ⅰ、Ⅱ
・『ファミリービジネスのイノベーション』塩場公規編著、白桃書房、2018 年
・『マーケティング戦略論—実践パラダイムの再構築』上原征彦、有斐閣、1999 年
・『ハイテク・スタートアップの経営戦略—オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子、東洋経済新報社、2010 年

【成績評価の方法と基準】

講義Ⅰ
到達目標
・企業競争力の源泉となる製品開発の進め方や基本となる手法についての基礎を身につける。
→ 期末試験での評価：40 %
・ケーススタディ等による体験的な理解を深める。
→ 毎回の授業時における確認ペーパー：30 %
・授業関与度
→ 授業への積極的参加：30 %

講義Ⅱ

到達目標
・製品開発の基礎的なものをベースに、各種のイノベーション理論を学び、深く理解することを目標とする。
→ 期末試験での評価：40 %
・ケーススタディ等による体験的な理解を深める。
→ 毎回の授業時における確認ペーパー：30 %
・授業関与度
→ 授業への積極的参加：30 %

【学生の意見等からの気づき】

「実績なし」

【学生が準備すべき機器他】

特にないが、必要な場合、授業中におけるPC、スマートフォンの使用は構わない。

【その他の重要事項】

特になし

【関連科目】

・経営戦略論Ⅰ/Ⅱ
・戦略的マーケティング

【実務経験のある教員による授業】

・企業経営の実務とアカデミックな面を融合して考えていくことが実学である経営学に有効である。

MAN300FD-A4513

技術管理論Ⅰ

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN300FD-A4514

技術管理論Ⅱ

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

溝部 陽司

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

技術管理論とは、「技術を中核に据えた経営戦略論」、あるいは「技術を根にした経営戦略論」で「技術経営論」や「イノベーション・マネジメント」とも呼ばれます。一般に、研究・技術開発の成果を製品化し、市場に投入し、それが幅広い顧客に受け入れられるまで育て上げ、なおかつ、続々と参入してくる競合他社との激しい競争に勝ち残っていくためには、戦略的なマネジメントが必要不可欠となります。本講義では、研究・技術開発や生産のマネジメントはもちろん、いかにして技術力を新たな顧客価値に結びつけビジネスとして成立・成長させていくのか、といった点がより重要となります。授業では、こうした技術管理論に関わる基礎的な内容を、さまざまな業界の事例を交えながら、なるべく分かりやすく説明していきます。

春学期「技術管理論Ⅰ」では主にイノベーションと競争力について説明します。

【到達目標】

この授業では、技術管理論に関わる基本的な考え方や概念などを身につけてもらうことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・基本的にテキスト各章に沿った講義形式。
- ・適宜、企業等の実例を提示します。
- ・パワーポイントによるビジュアルな資料により理解の促進を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション (1)	技術管理論とはどのような学問か
第 2 回	イントロダクション (2)	イノベーションとは何か、どうして重要なのか
第 3 回	イノベーションのプロセス	イノベーション・プロセスのモデルと三つの関門
第 4 回	イノベーションのパターン (1)	「製品ライフサイクル」
第 5 回	イノベーションのパターン (2)	「普及曲線」
第 6 回	イノベーションのパターン (3)	「技術進歩の S 字曲線」
第 7 回	イノベーションのパターン (4)	「A-U モデル」の説明
第 8 回	イノベーションのパターン (5)	「A-U モデル」の応用：「機会の窓」と「シェイクアウト」
第 9 回	イノベーションのパターン (6)	「ラディカル・イノベーション」と「インクリメンタル・イノベーション」
第 10 回	イノベーションと企業の競争力 (1)	ラディカル・イノベーションと企業の競争力 (1): 「大企業病」
第 11 回	イノベーションと企業の競争力 (2)	ラディカル・イノベーションと企業の競争力 (2): 「過去の資産の負債化」
第 12 回	イノベーションと企業の競争力 (3)	「能力増強型イノベーション」／「能力破壊型イノベーション」と企業の競争力
第 13 回	イノベーションと企業の競争力 (4)	「持続的イノベーション」／「分断的イノベーション」と企業の競争力
第 14 回	春学期 講義内期末試験	筆記試験による学習成果の確認

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	業界標準のマネジメント (1)	「業界標準」とは何か、なぜ重要か、三つの「業界標準」
第 2 回	業界標準のマネジメント (2)	「デファクト・スタンダード」を確立するための戦略 (1): 「ネットワーク外部性」
第 3 回	業界標準のマネジメント (3)	「デファクト・スタンダード」を確立するための戦略 (2): 「クローズド・ポリシー」と「オープン・ポリシー」
第 4 回	業界標準のマネジメント (4)	「デファクト・スタンダード」の世代交代に伴う戦略
第 5 回	新製品開発のマネジメント (1)	新製品開発のプロセス
第 6 回	新製品開発のマネジメント (2)	「製品コンセプト」の開発

第 7 回	新製品開発のマネジメント (3)	「プロジェクト・スクリーニング」から「機能設計」
第 8 回	新製品開発のマネジメント (4)	ケース：「日産自動車」
第 9 回	企業間関係のマネジメント (1)	分業構造のマネジメント
第 10 回	企業間関係のマネジメント (2)	アウトソーシングのマネジメント：「make or buy decision」
第 11 回	企業間関係のマネジメント (3)	アライアンスのマネジメント：「距離を保った関係」と「協調的な関係」
第 12 回	ビジネスシステムのマネジメント (1)	「ビジネスシステム」のマネジメント
第 13 回	ビジネスシステムのマネジメント (2)	「収益モデル」のマネジメント
第 14 回	学習成果の確認	まとめと期末レポートのプレゼン・講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に際し、テキストの該当箇所や配布資料を事前に読み込んでおくことを求めます。

【テキスト（教科書）】

近能善範・高井文子 著『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』, 新世社, 2010 年。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

小レポート (20 点 ×2 回) + 期末試験 (60 点) の総合計に基づいて評価します。
期末試験を受けなかった場合は成績を「E」とします。

【学生の意見等からの気づき】

企業における実際のマネジメントをイメージしやすいように、実例資料を適宜使用しながら説明を行います。

【学生が準備すべき機器他】

事前配布資料は、原則として法政大学授業支援システムを通じて行う予定です。受講者は、予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

【その他の重要事項】

※秋学期の「技術管理論Ⅱ」も併せて履修する事が望ましい。
関連科目は、経営学総論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱなどです。

【実務経験のある教員による授業】

上場企業で約 17 年、本社・国際部門・現場での実務経験有

【Outline and objectives】

The objectives of this course is understanding knowledge on Technology Management.
Not only R&D activities, but also Products Development, Business Strategy.
Significance of Competitive Advantage and susustainable growth should be also concernened.

ECN300FD-A4515

産業組織論Ⅰ

ECN300FD-A4516

産業組織論Ⅱ

大木 良子

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学のモノの見方を通して、企業の意思決定や産業の構造について考察する方法を学ぶ。普段目にする価格付けや、製品の差別化、企業間の合併や契約などについて、経済学の分析手法を用いてそのメカニズムを整理し、市場競争に与える影響を明らかにする力をつけることを目指す。

具体的には、寡占競争、製品差別化、価格差別、垂直的な取引契約、合併など産業組織論の各トピックを理論的に学び、それに対応する現実の事例について、理論の分析結果と現実との一致や相違点について考察する。

I では、より現実的な市場競争の構造である寡占市場を理論的に分析する方法を学ぶ。カルテルや合併など、寡占市場で実際に見られる競争政策上の問題についても理論的に分析する。

II では、製品差別化や価格差別など現実的によく観察される企業の行動を経済学的に考察するツールを学ぶ。その中で競争政策上問題とされる行動について事例を通じて理解する。

【到達目標】

産業組織論の基本的な考え方を自分のものにし、それを応用して具体的な企業や市場について自分の考えを論述することができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

全て講義形式で行う。講義はスライドを用いて解説し、必要に応じて参加者に発言を求める。

学習内容の確認のために、数回の宿題と中間試験、期末試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ミクロ経済学で「企業」「市場（産業）」「政府」はどのように扱われているか 企業の数と競争の度合いとの関係（市場集中度） 独占市場、完全競争市場、寡占市場とは？
2	市場と競争	企業は何を決めることができるのか？ 企業の利潤はどのように決まるのか？ 独占企業の行動と完全競争市場における企業の行動との違い なぜ独占になるのか？（規模の経済・自然独占）
3	完全競争市場	独占企業の意思決定、価格、数量の決まり方と経済厚生
4	独占 1	これまでの学習内容について計算問題・論述問題を出题。試験終了後解説を行う。
5	独占 2	数量を決定して競争する場合（クールノー競争） 企業の数が増え変化していくと競争はどのように変わっていくか？
6	中間試験	価格を決定して競争する場合（ベルトラン競争） クールノー競争との違い
7	寡占 1	ゲーム理論とはなにか？ ゲーム理論を使うとどのような分析が可能になるのか？
8	寡占 2	いろいろなゲームの均衡を求める ゲーム理論を用いて数量競争・価格競争を再考しよう
9	ゲーム理論 1	技術開発・特許制度と市場競争との関係
10	ゲーム理論 2	合併とは？ 直近の合併事例と競争政策
11	ゲーム理論 3	合併の経済モデル、合併が市場競争に与える影響
12	研究開発と特許	
13	合併 1	
14	合併 2	

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	事例紹介	近年競争政策上問題となった事例の紹介
16	企業行動と法制度	法律や制度がどのように経済主体の意思決定に影響を与えるのか（法と経済学）

17	競争政策	競争政策と産業組織論の関係
18	製品差別化と競争 1	差別化の源泉は何か？（立地、ブランド）
19	製品差別化と競争 2	主要な製品差別化の経済モデルの紹介
20	価格差別 1	価格差別の定義と経済モデル
21	価格差別 2	価格差別が市場競争に与える影響と競争政策
22	中間試験	これまで学習した経済理論について計算問題・論述問題を出题。試験終了後解説を行う。
23	参入阻止	参入阻止と市場競争
24	垂直的取引制限 1	垂直的取引制限とは？ 具体事例の紹介
25	ネットワーク外部性 1	ネットワーク外部性の定義とそれが見られる市場の事例
26	ネットワーク外部性 2	情報化社会とプラットフォーム間競争
27	ネットワーク外部性 3	多面的市場の定義とそれが見られる市場の事例
28	総括	これまで学んだ分析ツールを応用した実際の独占禁止法違反事例を分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中間試験・期末試験を念頭に、授業後の復習が必要です。各トピックに応じて紹介する参考文献での自主学習も期待しています。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

講義中に以下の参考書の該当箇所を適宜紹介します。自主的に読むことで一層の学習効果が期待できます。

『産業組織とビジネスの経済学』花崗誠著 有斐閣 2018 年

『ミクロ経済学』伊藤元重著、日本評論社、2003 年

『入門 ゲーム理論と情報の経済学』神戸伸輔著、日本評論社、2004 年

『ブラクティカル 産業組織論』泉田・柳川著、有斐閣アルマ、2013 年

『産業組織の経済学 第 2 版』長岡・平尾著、日本評論社、2013 年

『イノベーション時代の競争政策』小田切宏之著、有斐閣、2016 年

『競争政策論 第 2 版』小田切宏之著、日本評論社、2017 年

『経営の経済学 第 3 版』丸山雅祥著、有斐閣、2017 年

【成績評価の方法と基準】

宿題 15 %

中間試験 25 %

期末試験 60 %

授業中に周囲の迷惑になるような行動をした場合は、期末試験の点数から減点します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルや関心に合わせ、授業内容の難易度や、扱うトピックを調整していきます。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学について基本的な知識を習得していることを受講の前提とします。産業組織論ⅠとⅡは密接に関係しているので、連続した履修を強く薦めます。（Ⅰの内容を前提としてⅡが進められます）

この授業は、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、応用経済学Ⅰ/Ⅱと関連しています。

【実務経験のある教員による授業】

経営コンサルティング会社において勤務した経験があります。実際に見聞きした企業の事例なども適宜紹介します。

【Outline and objectives】

This course provides the introduction to Industrial Organization. The course introduces a broad-range of topics in the theoretical Industrial Organization. Students will learn the firm behavior and its consequences in oligopolistic markets where the assumptions of perfect competition do not hold. Topics include the pricing and marketing strategies of individual firms in monopoly and oligopoly; price discrimination, product differentiation, vertical constraints, merger, and platform strategies.

Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.

MAN300FD-A4517

非営利組織経営論Ⅰ

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN300FD-A4518

非営利組織経営論Ⅱ

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

湧口 清隆

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**【非営利組織経営論Ⅰ】**

公共財・公共サービスは、理論上、「市場の失敗」の産物と位置づけられ、長らく政府によって供給されるものと考えられてきた。しかし、1980 年代から本格化した規制緩和の結果、排除性のある準公共財や価値財を中心に民間によって供給される事例が増えている。その中には営利を目的とする私企業のみならず、非営利・協同セクターに属する団体（NPO、NGO、協同組合など）によって供給される準公共財や公共財も含まれている。なぜ近年、政府や私企業に代わって非営利・共同セクターの重要性が増しているのか、このような供給形態にはどのような特徴や課題があるのかを、経済学や非営利組織研究の観点から理解する。

【非営利組織経営論Ⅱ】

非営利組織は非営利である点で営利企業とは異なり、組織である点で個人のボランティアとは異なる。どのように資金を調達し、どのような目的、どのような組織体制の下で活動しているのか、また、制度的にどのように位置づけられているのかをマネジメントの観点から NPO を中心とする非営利組織を理解する。

【授業の目的】

学生が、非営利組織の社会・経済上の位置づけとマネジメントの範囲・方法を理解することにより、どのような事業を非営利組織がどのように担うべきかを具体的に論じられるようになることを目的とする。

【到達目標】

学生が、非営利組織が現代社会で果たす役割の大きさを理解する一方で、営利企業や行政と比較しながら非営利組織の特徴を把握し、非営利組織は個別事業の担い手としては代替的な組織形態の一つに過ぎないことを認識する。そのうえで、学生が、非営利組織がどのような事業を担い、どのように運営していくべきなのかを考え、しくみづくりができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

図表・写真などの資料、テキストなどをもとに講義する。大人数の講義ではあるが、自ら考える力を養うために、学生に挙手回答を求めたり、学生を指名して質疑応答しながら授業を進めていく。また、3 回に 1 回程度は出席カードを使って学生の質問や要望を開き、授業に反映させるようにしているので、授業内で疑問に感じたことは積極的に質問するようにして欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
1	イントロダクションー NPO の神話ー	非営利組織とは何かを喚起する
2	NPO の鳥瞰図	制度上、非営利組織に位置づけられる組織を知る
3	NPO 改革の方向	近年進められる公益法人改革、NPO 改革の動向を紹介する
4	収入源から見た日本の NPO	非営利組織の収入の大きさや構成を知る
5	NPO の占める位置	経済の中で非営利組織の占めるウェイトを知る
6	NPO の国際比較	非営利組織の経済に占める状況を国際比較する
7	非営利革命の背景	非営利組織が登場し、発展した要因を考える
8	さまざまな NPO（教育・文化分野）	教育・文化分野で活動する非営利組織の実態を知る
9	さまざまな NPO（法政大学）	定義上「NPO」と位置づけられる法政大学を分析する
10	さまざまな NPO（医療・福祉分野）	医療・福祉分野で活動する非営利組織の実態を知る
11	さまざまな NPO（国際分野、その他）	国際的に活動する非営利組織（NGO）などの実態を知る
12	フィランソロピー	個人や企業がなぜ寄付やボランティア活動をするのかを知る
13	NPO をめぐる制度設計	NPO にかかわる制度を紹介、検討する
14	授業のまとめ	春学期の授業を総括する

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	春学期試験の正解確認と秋学期授業の概要紹介を行う
2	NPO のマネジメントの必要性和特徴	自発的に活動する組織になぜマネジメントが必要かを考える
3	ボランティア・マネジメント	ボランティアを採用し、活用する術を学ぶ
4	理事会のマネジメント	理事会にもマネジメントが必要な理由と内容を学ぶ
5	ファンド・レイジング	寄附や補助金・助成金を必要とする理由を知り、獲得のための方法を学ぶ
6	NPO の予算	非営利組織の予算の立て方を学ぶ
7	プログラム・プランニング	非営利組織における事業計画の意味を理解する
8	戦略計画	戦略計画の意味や策定方法を知る
9	リスク・マネジメント	リスク管理のあり方や方法を学ぶ
10	NPO の制度と政策	非営利組織の運営や税に関する制度を学ぶ
11	ケース・スタディ	過去の試験問題で出題したケースや実際の事例をもとに非営利組織の運営方法を考える
12	事例研究（広義の非営利組織）	いくつかの非営利組織（広義）の活動内容や組織を紹介する、ケース・スタディを行う
13	事例研究（狭義の非営利組織）	いくつかの非営利組織（狭義）の活動内容や組織を紹介する
14	授業のまとめ	秋学期の授業を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

非営利組織や行政のウェブ・サイトを適宜紹介するので、学生が各自で閲覧してその組織の活動を調べたり、資料をダウンロードし分析することを求める。春学期、秋学期ともに、広義の非営利組織に含まれる（学校法人）法政大学をしばしば例として挙げるので、学生が大学のサイト上にある建学の精神、沿革、事業計画書、事業報告書などの情報をはじめ、学内にあるパネル、学報なども確認してもらいたい。

【テキスト（教科書）】

【非営利組織経営論Ⅰ】 授業の都度、図表などを中心に資料を配布する。

【非営利組織経営論Ⅱ】 参考書に挙げる 柏木宏著『NPO マネジメントハンドブックー組織と事業の戦略的発想と手法』（明石書店、2004 年。ISBN：978-4750319513）に沿って授業を進めるが、図表や具体的事例を追加した資料とレジュメを配布する。

【参考書】

柏木宏、『NPO マネジメントハンドブックー組織と事業の戦略的発想と手法』、明石書店、2004 年。

山内直人、『NPO 入門』第 2 版、日経文庫、日本経済新聞社、2004 年。

山内直人、『ノンプロフィットエコノミーー NPO とフィランソロピーの経済学』、日本評論社、1997 年。

内閣府 NPO ホームページ： <https://www.npo-homepage.go.jp/>

【成績評価の方法と基準】

【非営利組織経営論Ⅰ】 期末試験の成績による（100%）。

【非営利組織経営論Ⅱ】 期末試験の成績による（100%）。授業内に集める任意提出（希望者のみ提出）のレポートを課す場合がある。このレポートの成績は期末試験の成績の枠外でオマケとして加算する。春学期・秋学期双方で学生の考える力を問うために資料分析やケース・スタディを出題する。

【学生の意見等からの気づき】

賛否両論あるが、双方向授業を心がけている。受講生全体に対し挙手回答や学生を指名して発言を求めることも多い。授業の理解を深める意味でも、当たっても構わない方はぜひ前方に座ってもらいたい。

学生から板書や配布物をウェブ上にアップして欲しいという要望も強いが、アップしない。この授業は暗記を目的とするのではなく、考えることをテーマとしている。一度も授業に参加せず、ウェブ上の情報のみを鵜呑みにして試験を受ける学生には受講して欲しい。したがって、期末試験も暗記だけで解ける問題は 50%以下に抑え、応用力を問う論述式問題（ケース・スタディや資料分析など）を多く（50%以上）採用している。

【学生が準備すべき機器他】

何回かの講義で、パソコン現示による図表・写真の投影や DVD などを利用する予定である。

【その他の重要事項】

制度上、法政大学も非営利組織に分類される。学生にとって最も身近な法政大学についても十分に理解されたい（例えば建学の精神の意味）。

本科目は、「ミクロ経済学入門Ⅰ／Ⅱ」、「マーケティング論Ⅰ／Ⅱ」、「経営学総論Ⅰ／Ⅱ」などで学習したことの応用（理論に対して実務的な部分）であり、行政が提供すべき財・サービスを代替的に供給する主体の一つが非営利組織であることを考慮すると、「財政論Ⅰ／Ⅱ」、「交通経済論Ⅰ／Ⅱ」との関連も深い。また、サービスの供給という点に着目すると、「サービス・マネジメント論Ⅰ／Ⅱ」との関連もあろう。

大学教員になる前に4年間、総務省の外郭団体（財団法人－非営利組織）で研究員として勤務していたので、授業の中で非営利組織の運営について行政や民間シンクタンクとの共通点・相違点なども紹介したい。

【オフィス・アワー】

授業前後に質問を受け付ける。

【Outline and objectives】

【Management of Non Profit Organizations I】

The public goods and services have long been recognized as outcome of the 'market failure,' and provided by the governments. However, after the deregulation beginning from the 1980s, these products are also provided by private firms and non-profit organizations. Students learn this background from statistical data and historical facts, and recognize possibility of substitution among these alternative actors as a producer of public goods and services. Final objective of this lecture is that students can propose an appropriate producer of every public good or service, based on the nature of the good or service.

【Management of Non Profit Organizations II】

Management of non-profit organizations is characterized by use of volunteers and donation. Compared with the governmental organizations and private firms, the price mechanism including the wage can not work as a factor of effort and service quality. The non-profit organizations should induce volunteers and donors to realize their social objectives and cooperate with these organizations by making them strong motivation. Students learn this difference of mechanisms between private/public sectors and the 'third sector,' and know appropriate management tools for the non-profit organizations.

ECN300FD-A4519

応用経済学Ⅰ

ECN300FD-A4520

応用経済学Ⅱ

宮澤 信二郎

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業の経営者あるいは部門の責任者は、どのようなことに注意して、どのように行動したら良いのでしょうか。自社の製品をどのぐらい、どのように生産したら良いのでしょうか。そのとき製品の価格はどうなるのでしょうか。どのような人を雇って、どのように処遇したら良いのでしょうか。必要となるお金はどのように調達したら良いのでしょうか。この授業では、ミクロ経済学の考え方を企業の生産・販売、人事・組織、財務に関するさまざまな問題に当てはめる（応用する）、いわゆる、「企業の経済学」、「経営の経済学」について、その初歩を学びます。

I の授業では、生産技術と企業の費用構造の決定、消費者の意思決定と需要の決定について確認したうえで、企業の生産・販売に関する意思決定とその相互作用について学びます。その際、完全競争の場合、独占の場合、及び寡占の場合の結果をそれぞれ検討します。

II の授業では、まず、労働市場の働きについて確認したうえで、能力や努力に関する情報の非対称性が採用や働き方へ及ぼす影響とその緩和策について学びます。さらに、労働者の能力開発に関する問題とその緩和策、企業の多角化や取引先との関係のあり方、個人の意思決定と組織のあり方について学びます。続いて、企業が活動するうえで必要となる資金に関して、市場の働き、調達方法の種類などについて確認したうえで、情報の問題がどのような影響を及ぼすのかについて学びます。

【到達目標】

以下の 3 点をこの授業の到達目標とします。

- 1) 企業の生産・販売、人事・組織、財務に関して、どのようなことに注意して、どのような決定をすればよいのかについて自分の頭で考えられるようになる。
- 2) 関連する経済学の考え方、つまり、最適化、ゲーム、契約の理論に関して、その基本を押さえ、具体的な状況に当てはめて考えられるようになる。
- 3) 複雑な状況の本質を押さえて、より論理的に考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業では、各テーマについて、具体的な状況の例を挙げながら、基本的な考え方を説明します。説明にあたっては、概念図や簡単なグラフなどを用い、なるべく直観的に理解できるようにします。質疑・応答の時間を十分に取り、必要に応じて、簡単な例題を出題するなどして、受講者の理解度を確認しながら進めます。受講者は、毎回、授業内容の復習をすることが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション／経済と企業活動	講義の目的・内容・進め方などについて説明する。続いて、経済と企業活動の概要について解説する。
第 2 回	経済学の方法論基礎	経済学（特にミクロ経済学）の基本的な考え方について解説する。
第 3 回	生産技術と生産関数	投入物から生産物を生み出す技術とそれを表す関数について解説する。
第 4 回	生産の費用	生産物を生み出す際に発生する費用の測り方について解説する。
第 5 回	費用最小化	複数の投入物を用いて生産する場合における費用の決まり方について解説する。
第 6 回	消費者行動と需要	企業が生産物を販売する際に直面することになる消費者の意思決定と需要に関して解説する。
第 7 回	完全競争市場における企業行動（1）：生産・販売	完全競争市場にいる企業の生産・販売に関する意思決定について解説する。
第 8 回	中間試験とその解説	中間試験を実施し、簡単な解説を行う。
第 9 回	完全競争市場における企業行動（2）：参入と退出	企業の参入・退出に関する意思決定とその結果として実現する長期均衡に関して解説する。
第 10 回	独占市場における企業行動（1）：独占と独占解	ライバルが全くいない場合にどのような価格でどれだけ販売することになるのかについて解説する。
第 11 回	独占市場における企業行動（2）価格差別	独占企業が販売量や販売相手によって異なった価格をつけるような戦略について解説する。

第 12 回 寡占市場における企業行動（1）：ゲーム理論入門

第 13 回 寡占市場における企業行動（2）価格競争と数量競争

第 14 回 その他のトピックス／まとめ

戦略的な相互作用がある場合の意思決定に関する基本的な考え方について解説する。

ごく少数のライバルがいる場合にどのような価格でどれだけ販売することになるのかについて解説する。

取引における交渉の理論や、企業行動に関する最近のトピックスについて紹介する。最後に、全体のまとめを行う。

II 秋学期

回 テーマ
第 15 回 イントロダクション

第 16 回 企業活動と雇用

第 17 回 採用の経済学（1）

第 18 回 採用の経済学（2）

第 19 回 働き方の経済学（1）

第 20 回 働き方の経済学（2）

第 21 回 企業組織の経済学

第 22 回 中間試験とその解説

第 23 回 企業活動と金融

第 24 回 企業財務の基礎（1）

第 25 回 企業財務の基礎（2）

第 26 回 資金調達の経済学（1）

第 27 回 資金調達の経済学（2）

第 28 回 財務危機の経済学／まとめ

内容
人事・組織と財務に関する企業行動について経済学の観点から概観する。
労働の需要・供給と労働市場について解説する。

隠された情報の問題とシグナリング理論について解説する。

スクリーニングの理論について解説する。

隠された行動の問題とインセンティブ契約について解説する。

人的資本投資と雇用関係に関する理論について解説する。

企業の境界の決定や組織行動に関して解説する。

中間試験を実施し、簡単な解説を行う。

資金の需要・供給と金融市場に関して解説する。

資金調達の種類と企業価値について解説する。

資本構成・配当政策とモジリアーニ＝ミラーの定理について解説する。

資金調達の際の隠された情報の問題とその結果生じる調達コストについて解説する。

資金調達の際の隠された行動の問題とその結果生じる調達コストについて解説する。

財務危機の発生と倒産に関して解説する。最後に、全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業内容の復習をしてください。それ以外では、他の授業の復習や新聞を読んだりニュースを聞いたりする中で、この授業で扱っている内容と関連がある話を探し、当てはめて考える訓練をしてみてください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

I について
マンキュー（足立はか訳）『マンキュー経済学 ミクロ編（第三版）』東洋経済新報社（2013 年）

ヴァリアン（佐藤隆三監訳）『入門ミクロ経済学（原著 9 版）』勁草書房（2015 年）

II について
神戸伸輔『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社（2004 年）

柳川範之『契約と組織の経済学』東洋経済新報社（2000 年）

【成績評価の方法と基準】

各学期とも、中間試験（40 %）と期末試験（60 %）で評価します。ただし、積極的な参加により授業に貢献した場合には、加点評価をする場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容が難しく、もっと丁寧に説明して欲しいとの意見がありましたので、内容を少し絞り込み、より丁寧に説明するようにするとともに、関連するような新聞記事を紹介することなどを通じて、参加者の関心を高められるようにしたいと思います。また、説明に数式を用いると嫌だという学生がいる一方で、数式を使った方がわかりやすいという意見の学生もいることから、実際の参加者の声を聞きながら、調整していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

1) 科目名に「応用」がついていますが、ミクロ経済学の基本的な考え方を企業経営のさまざまな問題に当てはめる（応用する）と何がわかるのかについて扱うだけであり、他の科目と比べて難易度が高いということはないと思います。

2) 専門基礎科目A群の『ミクロ経済学入門』を履修していることが望ましいですが、履修していなくても理解できるように配慮します。この授業のⅠの内容は『ミクロ経済学入門』の復習と位置付けることもできます。『ミクロ経済学入門』の内容がいまいち理解できなかったという方方も、是非履修してみてください。他の専門基礎科目の内容も参考になると思います。

3) 関連する専門科目として、『産業組織論』、『組織経済学』、『企業財務論』、『日本経済論』、『国際経済論』などがあります。

4) 担当者は銀行において貸出業務に従事した実務経験を有しています。これに関連して、企業の資金調達（銀行借入を含む）に関する授業を行います。

【Outline and objectives】

In this class, you will learn various applications of basic ideas of microeconomics on corporate management regarding (i) production and sales, (ii) personnel and organization, and (iii) corporate finance.

In Part I of this class, you will confirm the basic idea of microeconomics and then learn the topic (i). You will learn firms' production and sales decisions and those interactions in cases of perfect competition, monopoly, and oligopoly. In this part of this class, you will also learn the basics of optimization theory and game theory.

In Part II, you will learn the topics (ii) and (iii). First, regarding the topic (ii), you will learn the mechanism of labor market, and microeconomics theory on recruitment, labor relationship, and corporate organization. Next, regarding the topic (iii), you will learn the mechanism of capital market, the basics of corporate finance, and microeconomics theory on corporate finance. In this part of this class, you will also learn the basics of informational economics and contracting theory.

ECN300FD-A4521

ファイナンス論Ⅰ

ECN300FD-A4522

ファイナンス論Ⅱ

山 崎 輝

3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてファイナンスを学ぶ学生を対象に入門的なファイナンス理論の講義を行う。ファイナンス理論は金融実務に深く浸透しており、これなしに現代の金融ビジネスは成り立たない。金融機関や企業の財務・経理部門への就職を希望する学生だけでなく、多くの学生にとって将来必要となるであろうファイナンスの基礎知識を体系的に学べる授業を提供する。ファイナンス論Ⅰでは、金融・証券市場の基礎知識や債券・株式・金利の分析がテーマとなる。ファイナンス論Ⅱでは、デリバティブ取引のしくみや役割、デリバティブのプライシング手法が主なテーマであり、ポートフォリオ理論の基本的な考え方についても学ぶ。

【到達目標】

次の 3 つを到達目標に掲げる。

- ①金融・証券市場やデリバティブ市場の基礎知識や用語を習得する。
- ②株式・債券・デリバティブの取引のしくみを理解し、基本的な計量分析や価格評価ができる。
- ③初等的な確率論を用いて、証券のリスク・リターンや金融市場の不確実性を分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ファイナンス論Ⅰでは、金融・証券市場の概観や基礎用語を説明した後に、キャッシュフローの現在価値の考え方や債券・株式・金利の基礎的な分析手法を解説する。ファイナンス論Ⅱでは、デリバティブ市場の概観と基礎用語を解説した後に、個別のデリバティブ取引のしくみと無裁定価格理論に基づく価格評価の考え方について解説する。また、ファイナンス論Ⅱの後半には、ポートフォリオ理論の初歩的な解説を行う。授業はスライドを用いた講義形式であるが、黒板にも板書するので必要に応じてメモをとること。講義中には証券・デリバティブ分析に必要な数学の解説も適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、到達目標、成績評価、スライド資料のダウンロード方法などの説明。
第 2 回	金融・証券市場の概観	金融・証券市場の分類、機能、店頭取引と取引所取引、部門別資金過不足など。
第 3 回	本邦の債券市場と株式市場	債券・株式の種類、発行形態、売買のしくみ、発行市場と流通市場など。
第 4 回	キャッシュフローと現在価値 1	キャッシュフローを矢印図によって把握する方法、将来価値、現在価値、複利の概念など。
第 5 回	キャッシュフローと現在価値 2	付利期間、連続複利、ネイピア数、割引率など。
第 6 回	債券分析入門 1	利付債と割引債の価格計算、債券投資の収益率、パーセントなど
第 7 回	債券分析入門 2	スポットレートとフォワードレートの概念、ブートストラップ法など。
第 8 回	債券分析入門 3	金利の期間構造、イールドカーブの決定仮説、イールドカーブ間の関係など。
第 9 回	債券分析入門 4	債券投資のリスク、債券のリスク分析、デュレーションによる債券価格の近似方法など。
第 10 回	債券分析入門 5	社債の信用リスク、信用格付け、確率論の基礎（事象、確率、確率変数、期待値など）。
第 11 回	債券分析入門 6	社債価格の評価方法、企業の経験的デフォルト率、インプライド・デフォルト率など。
第 12 回	株式分析入門 1	配当割引モデル（ゼロ成長モデル、定率成長モデル）による理論株価の算出。
第 13 回	株式分析入門 2	株価評価のための企業財務分析、サステイナブル成長率、成長機会の現在価値など。
第 14 回	株式分析入門 3	フリーキャッシュフロー割引モデル、残余利益モデル、倍率法による株式投資尺度など。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、到達目標、成績評価、スライド資料のダウンロード方法などの説明。
第 2 回	短期資金・為替・貸出・預金市場の概要	短期資金市場、外国為替市場、貸出市場、預金市場など。
第 3 回	デリバティブ市場の概要	デリバティブ市場の概観、先物市場、先渡市場、スワップ市場、オプション市場など。
第 4 回	先渡・先物分析入門 1	先渡取引のしくみ、代表的な先渡取引、先物取引のしくみ、代表的な先物取引、金融実務での活用例など。
第 5 回	先渡・先物分析入門 2	無裁定条件、為替予約の理論価格、FRA（金利先渡取引）の理論金利、株価指数先物の理論価格など。
第 6 回	スワップ分析入門 1	金利スワップ、通貨スワップ、金融実務での活用例など。
第 7 回	スワップ分析入門 2	金利スワップのプライシング、損益計算方法、ブートストラップ法など。
第 8 回	オプション分析入門 1	オプション取引の種類としくみ、オプションのペイオフと損益、max 関数など。
第 9 回	オプション分析入門 2	ブットコール・バリティ、オプション取引の活用例、オプションを用いた投資戦略など。
第 10 回	オプション分析入門 3	1 期間 2 項モデルによるオプションの価格評価方法、複製ポートフォリオ、リスク中立確率など。
第 11 回	オプション分析入門 4	2 期間 2 項モデルによるオプションの価格評価方法、動的複製ポートフォリオ、オプションのデルタなど。
第 12 回	クレジットデリバティブ分析入門	クレジットデフォルトスワップのしくみ、プライシングなど。
第 13 回	ポートフォリオ理論入門 1	効用関数の概念、確率論の基礎（分散、標準偏差、共分散、相関係数など）。
第 14 回	ポートフォリオ理論入門 2	平均・分散アプローチ、証券のリスクとリターン、効用無差別曲線、効率的フロンティアなど。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スライド資料の予習・復習を十分に行うこと。

【テキスト（教科書）】

教員ホームページ（<http://akira2yamazaki.com/>）にスライド資料（テキスト）をアップロードするので、各自でダウンロードして持参すること。スライド資料のダウンロード方法は初回授業で説明する。

【参考書】

- ①佐野三郎、『証券アナリスト第 1 次レベル合格最短テキスト 証券分析とポートフォリオ・マネジメント』、2016 年、ビジネス教育出版社
- ②伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務編』、2009 年、日本経済新聞出版社
- ③ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001 年、ピアソン・エデュケーション

【成績評価の方法と基準】

春学期末・秋学期末に行う筆記試験（100 %）の結果で評価する。筆記試験では、ファイナンスの知識および理解を問う問題と計量分析や価格評価などの計算問題を出題する予定である。筆記試験では「計算機能のみの一般的な電卓」の持ち込みを可とする。

【学生の意見等からの気づき】

私語などには厳しい対応をとり、授業に集中できる環境を確保する。複雑な理論の解説では、ゆっくりと時間をかけて解説することを心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】

計算例題では、電卓（関数電卓やエクセルなどの表計算ソフトでも可）を使うので各自持参すること。ただし、試験では「計算機能のみの一般的な電卓」のみ持ち込み可とする。

【関連科目】

証券経済論Ⅰ/Ⅱ、企業財務論Ⅰ/Ⅱ

【前提知識】

ファイナンス論Ⅰは特段の前提知識を必要としない。ファイナンス論Ⅱでは、ファイナンス論Ⅰの知識を前提とするため、両方の講義を履修することをお勧めする。講義では、中学・高校の数学の基礎知識（連立方程式、1 次関数や 2 次関数のグラフ、べき乗・平方根・文字式の計算など）を使うが、極度の数学アレルギーでない限り心配は無用である。

【Outline and objectives】

This course offers the basics of finance theory to students who start learning finance. The first semester of the course provides fundamental knowledge of financial system, financial markets, and securities. It also teaches basic skills in analysis of securities, including bonds, interest rates, and stocks. The second semester provides students with the principles of financial derivatives, including forwards, futures, swaps, and options. In addition, it gives an introduction to modern portfolio theory such as the mean-variance approach and the CAPM.

ECN300FD-A4523

企業財務論Ⅰ

ECN300FD-A4524

企業財務論Ⅱ

金 瑠晋

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業の経営者、とりわけ、CFO と呼ばれる最高財務責任者は、直面する様々な財務意思決定問題に対し、その解決策を見出さなければなりません。ここで、財務意思決定とは、投資案の評価、資金調達手段の選択及び執行、ペイアウト政策、買収・合併の決定、新規株式公開の決定、財務リスク管理など等があり、実に多岐に渡ります。なお、最高財務責任者が合理的な財務意思決定を行うためには、資金提供者である投資家達の行動原理を理解する必要があります。例えば、企業価値の値評は、企業の経営者と投資家の両方の意思決定において極めて重要なプロセスとなります。この授業は、企業価値向上に関わる様々な財務意思決定問題を取り上げ、企業の最高財務責任者が、どのような基準に基づき、どのようなアプローチを取ることによって、問題を解決すべきかについて考える機会を提供します。

【到達目標】

- ・キャッシュフローの時間価値の重要性が分かるようになります。
- ・株式会社の経営者と投資家の関係に対する見方が確立します。
- ・株主と債権者の立場の違いが分かるようになります。
- ・経営者の立場からプロジェクトの評価を行うことができます。
- ・企業価値の計算が出来るようになります。
- ・資金調達手段の選択について理解が深まります。
- ・デリバティブ評価の応用について理解が深まります。
- ・経済・金融関連のニュースをより身近に感じるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式に基づきます。また、受講者との相互コミュニケーションを重視しますので、積極的な授業参加を高く評価します。電卓（関数電卓を含む）を持参し、授業中に使用して構いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	企業と資本市場	企業組織の形態、株式会社の仕組みの理解、投資家とステークホルダー、資本市場の役割
2	財務諸表と情報	財務諸表からの情報と財務意思決定、市価と簿価、キャッシュフローの重要性
3	マネーの時間価値 1	マネーの時間価値、キャッシュフローの割引現在価値・将来価値、資産評価と無裁定均衡の理解
4	マネーの時間価値 2	将来特殊なキャッシュフローを持つ場合の割引現在価値の計算、表計算ソフトを用いた計算例
5	債券と株式の評価	マネーの時間価値の応用、債券の理論価格、債券の利回り、株式の理論価格、配当割引モデル、企業成長と株価
6	投資の意思決定 1	プロジェクト評価の諸手法、正味現在価値、内部収益率、回収期間法、収益性指標
7	投資の意思決定 2	内部収益率法の落とし穴、資金制約がある場合のプロジェクト評価、日米企業における投資案評価の実例
8	証券のリターンとリスク 1	株式の投資収益率、ポートフォリオ理論の基礎、分散可能なリスクと体系的リスクの理解、体系的リスクの尺度
9	証券のリターンとリスク 2	市場均衡、均衡におけるリターンとリスクとの関係、ベータ値の推定、資本資産評価モデルの理解、マルチファクターモデルの紹介
10	資本コスト	株主資本コスト、株式のベータ、負債の資本コスト、加重平均資本コストの推定、負債利用の節税効果の含意
11	資本構成理論Ⅰ	完全資本市場、資本構成理論の基礎、無裁定均衡の理解、MM の命題Ⅰと命題Ⅱ、レバレッジと株主資本コストの関係

12 資本構成理論Ⅱ

13 ペイアウト政策

14 補足と総括

Ⅱ 秋学期

回 テーマ

15 企業価値の評価 1

16 企業価値の評価 2

17 企業価値の評価 3

18 合併・買収

19 コーポレート・ガバナンス

20 オプションの理解 1

21 オプションの理解 2

22 オプションの財務意思決定への応用

23 財務リスク管理 1

24 財務リスク管理 2

25 エクイティファイナンス

26 デットファイナンス

27 国際財務管理

28 補足と総括

節税効果、修正 MM の命題ⅠとⅡ、倒産コストの考慮、資金調達意思決定とエージェンシー費用、トレードオフ理論、ベッキングオーダー理論、実務における資本構成、資本構成理論のまとめ
ペイアウト政策の手段、
配当政策に関する MM 理論、自社株買いと企業価値の関係
これまでにカバーできなかった内容の補足、企業の財務意思決定の纏め

内容

フリーキャッシュフローの推計、加重資本コストの推計、継続価値、割引キャッシュフロー法による企業評価
節税効果の確認、修正現在価値法による評価、割引キャッシュフロー法との比較
経済的利益による企業評価、経済的利益と残余利益
M&A の経済的メリット、買収案件の評価、敵対的買収と買収防衛策、LBO と MBO
エージェンシー問題とコーポレート・ガバナンス、ガバナンス改善のための諸施策、国際比較
オプションの仕組み、オプションの価値と諸要因、プット・コール・パリテイ
オプションの価格評価、二項モデルによる評価、リスク中立化法
オプション価値を考慮した投資の評価（リアル・オプション分析）
リスク・マネジメントと企業価値、リスク・マネジメントの手法、VaR
デリバティブを用いたリスクのヘッジ、フォワード型のヘッジ、オプション型のヘッジ
スタートアップの資金調達、ベンチャーキャピタルの役割、新規株式公開のコスト、新規株式公開の際のバブル、増資の意思決定
ハイブリッド証券、転換社債、ワラン
債の仕組みと評価
海外投資プロジェクトの評価、為替リスクのヘッジ、国際金融市場からの資金調達
これまでにカバーできなかった内容の補足、企業の財務意思決定の纏め

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当授業の理解を深めるためにも実際の企業活動に興味を持つことが重要です。日頃日経新聞、TV の経済ニュースなどに目を配るよう心がけましょう。

【テキスト（教科書）】

新井富雄・高橋文朗・芹田敏夫著『コーポレート・ファイナンス』、中央経済社、2016

【参考書】

コーポレート・ファイナンス、企業財務論、経営財務論というタイトルがついている図書の中で、受講者が理解できるレベルの本を参照して下さい。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、クイズ及び授業参加度 30 %

【学生の意見等からの気づき】

更に分かり易い解説を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

内容によっては、エクセルで計算過程を示しながら説明を行います、その結果は、授業支援システムにアップロードして置きます。

【その他の重要事項】

授業では、初歩的な計算を行います、特に前提知識は要りません。奮ってご参加下さい。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間シンクタンクの金融部門で財務意思決定や金融市場調査などの金融実務に携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとファイナンスの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline and objectives】

This course provides the basics of corporate finance. It covers investment projects analysis, capital structure, payout policy, firm valuation, introductory level of derivatives valuation and revisit to projects analysis , and international financial management.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融資産は、学生の皆さんにとってまだ縁の薄いものかもしれません。しかし、卒業後数年もすれば、預金、債券、株式、投資信託、年金、さらに貯蓄性保険等、様々な金融資産に投資することがあるでしょう。また、自動車購入、住宅購入のためにローンを組む必要が生じるかもしれません。さらに、職場の業務で金融資産あるいは負債に関わる人も多いでしょう（経営学部卒業生の 20%は金融業界に就職します）。さて、金融資産や負債について意思決定するときも重要な問題は、価値の評価とその見通しです。したがって、「証券経済論Ⅰ」及び「証券経済論Ⅱ」の履修者は、金融資産及び負債の価格形成に関して学術上かつ実務上もっとも重要な分析ツールを学習し、将来、金融資産や負債に関して意思決定する際、それらの分析ツールに基づいて合理的な判断ができるのに備えることができます。

より具体的に言えば、「証券経済論Ⅰ」では、代表的な金融資産である債券と株式について学習します。また、それに続いて「証券経済論Ⅱ」では金融資産の管理手法と、金融資産のリスクとリターンに関する理論モデルを学習します。したがって、Ⅰは個人として金融資産や負債に関わる人と、業務で金融資産あるいは負債に携わる人の両方にとって有用な知識を提供します。他方、Ⅱは、理解が比較的難しく、かつ、通常、業務で金融資産あるいは負債に関わる人が特に必要な知識を提供します。したがって、金融機関等に就職する希望ないし可能性を持つ学生にはⅠとⅡの両方を履修することを強く勧めます。他方、そうでない学生には、少なくともⅠを履修することを強く勧めます。

【到達目標】

- ①簡単な金利計算ができる。
- ②債券投資の収益に影響する主要な要因とその影響を列挙できる。
- ③株式評価で最もよく使われる配当割引モデルを使って株式の適正な価値を計算できる。
- ④先物、オプション等のデリバティブの仕組みや損益について説明できる。
- ⑤情報が資産価格に及ぼす影響を効率的市場仮説に沿って説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式です。ただし、授業時間中に学生各自が練習問題を解く時間を設け、ランダムに学生に質問します。さらに、出席者数が極端に多くない場合は、必要に応じて授業内小テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	授業の概要、金利、現在価値、将来価値	この科目の概要を説明する。また、将来 1 回しかキャッシュフローが発生しない場合について金利、現在価値、将来価値の計算方法を説明する。
2	金利、現在価値、将来価値	キャッシュフローが複数回発生する場合について金利、現在価値、将来価値の計算方法を説明する。さらに、複利期間が 1 年、半年、1 ヶ月の場合について金利、現在価値、将来価値の計算方法を説明する。
3	債券入門	債券の仕組み、債券に関する基本的な用語、債券市場を説明する。
4	債券の最終利回り	最終利回りの計算方法を説明する。
5	債券の最終利回りと債券価格	債券の最終利回りと債券価格の関係を説明する。
6	債券の最終利回りと債券投資のリスク	債券投資におけるリスクについて解説する。
7	株式入門	株式の仕組み、株式に関する基本的な用語、株式市場について説明する。
8	株式評価モデル	配当割引モデルとして一定成長モデルのほかゼロ成長モデルも説明する。さらに、株式投資で多用される財務指標も紹介する。
9	先物入門	先物取引の仕組み、先物取引に関する基本的な用語、先物市場について説明する。
10	先物価格に関する理論モデル	先物価格に関する理論モデルを紹介し、その実証妥当性を論じる。
11	オプション入門	オプションの仕組み、オプションに関する基本的な用語、オプション市場について説明する。
12	オプション取引	オプションを使った投資戦略等を解説する。

- | | | |
|----|---------------|---------------------------------|
| 13 | 効率的市場仮説入門 | 情報が資産価格に及ぼす影響を効率的市場仮説の観点から概観する。 |
| 14 | 効率的市場仮説の実証妥当性 | 効率的市場仮説の実証妥当性を論じる。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の予習及び復習。

【テキスト（教科書）】

岸本直樹著、『証券投資の基礎 講義資料』（授業中に配布する）

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業態度及び（履修者数が多くない場合に実施する）授業内小テストに 30%、定期試験に 70%。

【学生の意見等からの気づき】

より分かりやすい講義を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

【関連科目】

ファイナンス論Ⅰ/Ⅱ、企業財務論Ⅰ/Ⅱ、金融論Ⅰ/Ⅱ、簿記入門Ⅰ/Ⅱ、財務会計論Ⅰ/Ⅱ、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【予備知識】

授業で期待値、標準偏差、共分散を使いますが、これらは授業中に説明するので、それらの予備知識は必ずしも必要ではありません。

【注意事項】

Ⅰの理解はⅡの理解を助けるので、Ⅱの履修を予定する学生はⅠを履修することを推奨します。また、担当教員は、できるだけ平易な説明を心がけていますが、その結果、講義が「積み上げ式」になっています。つまり、授業に毎回出席していなければ授業内容を十分に理解することが難しいです。したがって、本科目の履修者には授業に毎回出席することを強く求めます。

なお、授業中の私語やその他の授業の迷惑になる行為は厳に慎んでください。悪質な場合は、厳しく注意し、教室から退室させたり、授業評価に反映させたりします。

【Outline and objectives】

Introduction to the financial markets. Explanations of basic financial instruments and theoretical concepts in the markets are provided in this lecture. You face various financial instruments, such as bank deposits, stocks, bonds, mutual funds, pensions, loans, and so on after graduated, and you often have decision makings about them. You learn analytical tools and preparations for reasonable decisions. We mainly learn about stocks and bonds in this lecture. If you learn Lecture II, you are recommended to learn this lecture.

ECN300FD-A4526

証券経済論Ⅱ

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

岸本 直樹

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融資産は、学生にとっては縁の薄いものですが、卒業後、多様な金融資産や負債についての意思決定に直面するでしょう。そのとき重要なポイントは、資産や負債の価値とその見通しです。「証券経済論Ⅱ」の履修者は、金融資産及び負債の価値評価に関して学術上かつ実務上もっとも重要な分析ツールを学習し、将来、金融資産や負債に関して意思決定する際、それらの分析ツールに基づいて公正かつ合理的な判断ができるのに備えることができます。

【到達目標】

「証券経済論Ⅱ」では金融資産の管理手法と、金融資産のリスクとリターンに関する理論モデルを学習します。具体的には、下記を目標とします。
①収益率の期待値、標準偏差、共分散と相関係数を理解し簡単な計算ができる。
②ポートフォリオ理論の概要を説明できる。
③資産のリスクとリターンの関係を資本資産評価モデル (CAPM) に沿って説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式です。ただし、授業時間中に学生各自が練習問題を解く時間を設け、ランダムに学生に質問します。また、必要に応じて授業内小テストあるいは演習を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	収益率の期待値	収益率の定義、確率変数、期待値の説明を行います。
2	収益率の分散と標準偏差	分散、標準偏差の説明を行います。
3	共分散	異なる資産の収益率の同方向あるいは逆方向の変動の特徴を捉える共分散について概観します。
4	共分散と相関係数	共分散のほか、相関係数について説明します。
5	ポートフォリオ理論	投資家が投資資金を各資産にどう投資するのがよいかという問題について、マーコウィッツが提唱した方法（ポートフォリオ理論と呼ばれる）を概観します。また、ポートフォリオ理論の仮定を説明します。
6	ポートフォリオ理論	ポートフォリオの収益率の期待値と標準偏差を説明します。
7	ポートフォリオ理論	安全資産が存在しない場合について投資機会集合を説明します。
8	ポートフォリオ理論	安全資産が存在する場合について投資機会集合を説明します。
9	ポートフォリオ理論	ポートフォリオの最適化について概観します。
10	ポートフォリオ理論	ポートフォリオ理論の応用とメッセージを概観します。
11	資本資産評価モデル	投資家は資産のリスクが高ければより高い期待収益率を要求するだろうとの直観を、一定の仮定の下で妥当とする資本資産評価モデルを概観します。またその仮定も説明します。
12	資本資産評価モデル	市場ポートフォリオとベータについて説明します。
13	資本資産評価モデル	資本資産評価モデルの導出について説明します。
14	資本資産評価モデル	モデルの実務的な応用について概観します。また全体のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の予習及び復習。

【テキスト（教科書）】

岸本直樹著、『証券経済論 講義資料』。証券経済論Ⅰにおいて配布したものを引き続き使用する。同科目を履修しなかった場合は授業中に配布する。

【参考書】

必要に応じて授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

授業態度及び（必要に応じて実施する）授業内小テスト等に 30%、定期試験に 70%。

【学生の意見等からの気づき】

より分かりやすい講義を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

【予備知識】

授業で期待値、標準偏差、共分散を使いますが、これらは授業中に説明するので、それらの予備知識は必ずしも必要ではありません。

【注意事項】

「証券経済論Ⅰ」の理解は本講義「証券経済論Ⅱ」の理解を助けるので、Ⅱの履修を予定する学生はⅠを履修することを推奨します。また、担当教員は、できるだけ平易な説明を心がけていますが、その結果、講義が「積み上げ式」になっています。つまり、授業に毎回出席していなければ授業内容を十分に理解することが難しくなります。したがって、本科目の履修者には授業に毎回出席することを強く求めます。

なお、授業中の私語やその他の授業の迷惑になる行為は厳に慎んでください。悪質な場合は、厳しく注意し、教室から退室させたり、授業評価に反映させたりします。

【関連科目】

ファイナンス論Ⅰ/Ⅱ、企業財務論Ⅰ/Ⅱ、金融論Ⅰ/Ⅱ、簿記入門Ⅰ/Ⅱ、財務会計論Ⅰ/Ⅱ、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】

Students are not familiar with financial assets, yet will face decisions involved with financial assets and debt after graduation. What matters most on these decisions is the current and future values of assets and debt. The students who will take this course will learn the analytical tool for evaluating assets and debt which is the most important tool both in academia and practice. Therefore, students who have taken this course will be prepared to make fair and rational decisions on financial assets and debt based on the analytical tool.

ECN300FD-A4527

財政論Ⅰ

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

ECN300FD-A4528

財政論Ⅱ

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

徐 一 睿

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財政とは、国や地方自治体などの政府が租税や公債によって財源を調達し、それを用いて国民や住民にサービスを提供する活動のことである。財政は、私たちの生活と密接に結びついている。テレビを付けると、新聞を開いて読むと、財政に関するニュースに接しない日はないと言える。税制改革や予算編成、国債発行など、なんか難しくて分からないと言う人もいるでしょう。しかし、普段の我々の生活を見渡せば、道路や水道といった日々の生活に欠かせないものの多くは財政を通じて提供されている。

財政学は、政府による歳出や歳入の管理（財政活動）が我々の経済生活にどのような影響を及ぼすのかを考える学問である。すなわち、政府による社会保障や公共投資といった歳出活動は人々の生活の改善にどのようにつながるのか、課税や公債の発行等による政府の資金調達活動は民間の経済活動にどのような影響を及ぼすのか、国と地方の財政はお互いにどのように影響しあうのかといった問題を究明する学問である。

本講義では、財政のメカニズムを理解するために必要な財政学の基礎知識について解説する。租税制度、公共支出、政府間財政関係を学ぶことを通じて、今日の日本における財政運営で残された課題を明らかにし、これからの財政のあり方を考えてもらう。こうした日本の財政の諸課題を学習することは、先進諸国のみならず現在目覚ましい勢いで経済成長を遂げつつあるアジア諸国の財政などを考えるうえでも多くのヒントが得られることができる。

【到達目標】

財政理論の基本を学び、日本を中心に、世界各国の財政に関する諸問題を理解・考察することを目標とする。特に、各国の経済の発展において公共支出、租税制度、政府間財政関係などが果たしてきた役割に関する専門知識を得るとともに、今日の日本における財政運営で残された課題を明らかにし、これからの財政のあり方を考える能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義方式

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
(1)	講義・履修ガイダンス	履修に関するガイダンスを行う。
(2)	財政とは何か？ 財政学とは何か？	財政とは何か、財政学とは何かについて、学ぶ。
(3)	予算（1）予算とは何か？	予算とは何かについて学ぶ。
(4)	予算（2）予算原則	予算原則について学ぶ。
(5)	予算（3）予算の内容	予算の内容について学ぶ。
(6)	予算の編成と決算	予算の編成と決算について学ぶ。
(7)	租税原則と租税理論	租税原則と租税の基礎理論について学ぶ。
(8)	所得税Ⅰ	所得税の歴史と現状について学ぶ。
(9)	所得税Ⅱ	所得税の理論について学ぶ。
(10)	法人税	法人税について学ぶ。
(11)	消費税Ⅰ	消費税の歴史と現状について学ぶ。
(12)	消費税Ⅱ	消費税の理論について学ぶ。
(13)	資産課税	資産課税の現状について学ぶ。
(14)	授業内テスト、まとめ	全体のまとめ及び授業内テスト

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
(1)	講義・履修ガイダンス	講義・履修ガイダンス
(2)	財政支出の理論	財政支出の理論
(3)	財政支出の構造	財政支出の構造を日本を中心に学ぶ。
(4)	社会保障Ⅰ：社会保障の原理と日本の社会保障	社会保障の原理と日本の社会保障について学ぶ。
(5)	社会保障Ⅱ：公的年金と医療保険	公的年金と医療保険の財政支出の構造について学ぶ。
(6)	公共事業	公共事業の歴史と現状について学ぶ。
(7)	公共事業と民営化	現在に進む公共事業の民営化問題について学ぶ。
(8)	公債とは何か？	公債とは何かについて学ぶ。
(9)	公債の負担と経済効果	公債の負担と経済効果について学ぶ。
(10)	公債と財政再建の国際比較	公債と財政再建の問題を考え、国際比較を行う。
(11)	財政投融资計画	財政投融资計画について学ぶ。

(12)	財政投融资改革	財政投融资の改革と現状について確認する。
(13)	「現代財政」の3機能	「現代財政」の3機能について考える。
(14)	授業内テスト、まとめ	授業内テスト、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の予習と復習をしっかりと行う必要がある。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

片桐正俊編著『財政学—転換期の日本財政 第3版』東洋経済新報社（2014年）
池上岳彦編『現代財政を学ぶ』有斐閣ブックス（2015年）
神野直彦著『財政学 改訂版』有斐閣（2007年）
神野直彦著『財政のしくみがわかる本』岩波ジュニア新書（2007年）

【成績評価の方法と基準】

試験は、財政学に関連する知識・理解・思考を図る問題を出題します。試験に関する詳細は初回のガイダンス時に詳しく説明します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見を尊重し、できる限りの改善を試みたい。

【関連科目】

マクロ経済学

【オフィスアワー】

授業内

【Outline and objectives】

Finance is an activity in which governments such as national and local governments procure financial resources through taxes and public bonds and provide services to citizens and residents using it. Finance is closely tied to our lives. If you put on a TV, you can say that there is no day when you read the newspaper and read it, it will not touch news on fiscal finance. Some people say that it is somewhat difficult to understand, such as tax reform, budget formulation, issue of government bonds, etc. However, if you look at usual lives of the usual, many things indispensable for daily life such as roads and water supply are provided through fiscal policy. In this lecture, we will explain the fundamental knowledge of fiscal science necessary to understand financial mechanism. Through learning the tax system, public expenditure, intergovernmental fiscal relationship, we clarify the problems left in the financial management of today in Japan and ask them to think about the way of finance in the future. Learning these Japanese financial problems can provide a lot of hints not only for the industrialized countries but also for thinking about the finances etc. of Asian countries that are currently achieving economic growth with impressive momentum.

COT300FD-A4529

情報技術論Ⅰ

COT300FD-A4530

情報技術論Ⅱ

入戸野 健

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータを中心とした様々な情報技術や通信ネットワークについて仕組みや役割を体系的に理解する。

【到達目標】

情報技術、通信技術の現状を理解し、発展的な活用方法を見出すための基礎知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

コンピュータの構成や仕組みなどについての基礎知識から、われわれの生活のあらゆる場面に浸透したパソコン、スマートフォン、インターネットに関する利用技術まで、最近の話題を織り交ぜながら体系的に解説する。また、それらのビジネスへの展開や活用事例についても取り上げて行く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	コンピュータの発展	計算の道具としてのコンピュータの変遷について解説する。
2	デジタル表現とコンピュータ	コンピュータの内部処理について概観する。
3	情報の量	ビット、バイトといった情報の量の表わし方について説明する。
4	アナログとデジタル	アナログとデジタルの違いについて考察する。
5	情報のデジタル化	情報のデジタル化の考え方について解説する。
6	コンピュータの動作と仕組み	コンピュータの動作原理について概観する。
7	論理演算とコンピュータ	コンピュータ内で行われる論理演算について説明する。
8	基数の変換	数の表現方法として 10 進数・2 進数などの性質や変換の方法について解説する。
9	コンピュータ内部の数と文字の表現	数や文字の内部表現や符号化について解説する。
10	コンピュータの構成装置 (1)	演算装置、制御装置、主記憶装置の機能と役割について解説する。
11	コンピュータの構成装置 (2)	補助記憶装置、入出力装置の機能と役割について解説する。
12	周辺機器の接続とインターフェース	各種機器を PC へ接続するためのインターフェースについて説明する。
13	IC とデジタル回路	論理演算を基にしたデジタル回路とその集積回路 (IC) の基礎について解説する。
14	デジタル機器とデジタル家電	PC やスマートフォンと連携する各種の身の回りのデジタル家電を考察する。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	ソフトウェアとプログラム	ソフトウェアの特性について解説する。
2	基本ソフトとカーネル	基本ソフト（オペレーティングシステム）とカーネルの役割について説明する。
3	プログラミング言語の概要	主要なプログラミング言語の種類と用途について解説する。
4	情報インフラストラクチャーと通信ネットワーク	情報インフラとしての通信ネットワークの変遷について概観する。
5	LAN と OA	LAN や小規模なネットワークとその OA への展開について解説する。
6	インターネットの構成と利用技術	インターネットの仕組みとその利用技術について解説する。
7	Web 技術と e コマース	Web によるサービスの展開方法を解説し e コマースの事例を考察する。
8	マルチメディアとその応用	マルチメディアに必要な各種の技術について解説する。

9	コンピュータグラフィックスとその応用	コンピュータグラフィックスの技法を概観し各種分野への応用事例を紹介する。
10	移動体通信と携帯電話	スマートフォンや携帯電話等の移動体通信の仕組みを解説する。
11	モバイルコンピューティング	モバイルコンピューティングに必要な機器やネットワーク環境について解説する。
12	情報技術とインターネットビジネス	インターネットを利用したビジネスモデルを考察する。
13	経営組織と情報化	経営組織・活動の情報化について概観する。
14	情報とセキュリティ	高度情報化に伴う問題・課題と必要となるセキュリティについて考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定がある場合はその範囲について文献やインターネットの情報等を参考にして予習をしておく。講義後は各自ノートを見直して要点を整理する。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示する。

【参考書】

授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（15 %）：授業には毎回積極的に参加、きちんとノートを取りながら知識を蓄積することが大切である。
課題レポート（15 %）：授業内容の理解を深めるために講義内容に沿った課題を授業内で 2 回程度出題する。
定期試験（70 %）：期末には定期試験を実施する。

【学生の意見等からの気づき】

スライドの視認性や図表等の提示方法について工夫を試みたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業内で授業支援システムを利用して簡単なアンケートや課題を出題するので、最低限 Web へアクセス可能な端末（スマートフォンでも良い）を持参することが望ましい。

【関連科目】

情報学基礎 I/II
プログラミング言語 I/II
ネットワーク論 I/II
情報学発展 I/II

【Outline and objectives】

This course focuses on a variety of information technologies and communication networks. The course aims at systematic understanding on the mechanisms and roles of the technologies mainly based on computer.

LAN200FA-A4581

ビジネス英語Ⅰ（初級）

2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

LAN200FA-A4582

ビジネス英語Ⅱ（初級）

2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

ジョナサン・エーブル

※ 初級、中級の同時履修はできません。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビジネス英語（初級）

This is a beginners' introduction to Oral communication in English for a Business environment. Students will have writing and reading ability. This course focuses on practical spoken English.

【到達目標】

The purpose of this class is to give students confidence through practise.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

With the text book as a model we will progress through the essentials of business communication building confidence through constant use of spoken English.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	Introduction	Class selection
2	Meeting People	Introductions at work and elsewhere.
3	Your Company	What is a company? Companies in Japan and around the world.
4	Your Company 2	Company histories and how they operate.
5	Routines	Planning your days. What do you do and when?
6	Business in Progress	The workplace; the office, shopfloor and saleroom.
7	Business in Progress 2	The workplace; describing a working environment.
8	Presentation Preparation	Presentations on business themes. Topics, plans and tips on practical presentations
9	Presentations	Practical presenting in small groups to the rest of the class.
10	Businesses.	How different types of business operate in Japan.
11	Businesses 2.	international Business. How is it different and how much the same?
12	On the Telephone	Practical class on using the telephone in English. Manners and language.
13	On the Telephone 2	Situations and practice for speaking in international situations.
14	Interviews	The final self-assessment and small group interview as part of the grading process

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	Intro/Review	Looking at the ground that we have covered and what we aim to do next.
2	Location	The best places for business geographically and demographically.
3	Transport	How we get around by land air and even sea.
4	Travel	The reasons, destinations and practicalities of International travel.
5	Working Overseas.	A look at the different environments and customs we encounter working overseas.
6	Your Culture.	Talking about Japanese life and culture. Explaining Japan to visitors and colleagues.

7	Socializing	How to make visitors to Japan welcome and comfortable.
8	Socializing 2	How to cope with social situations abroad.
9	Meetings	Agenda, Minutes, Structure. How to prepare for meetings in English.
10	Meetings 2	Practical demonstrations and situations of meetings in the classroom.
11	Business Plans	The future of a company on paper. Taking a current model and planning the future.
12	Products	Product description. How to put a product in front of the consumer.
13	Advertising	How to make people want the product we are selling.
14	Review and Test	Self-assessment and Interview test.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Occasional preparation for presentations. No fixed homework schedule.

【テキスト（教科書）】

Text book to be announced.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Assessment is continuous.Attendance is mandatory.Testing by interview.

Classwork 40%

Presentation and Written Work 40%

Final Test/Interview 20%

【学生の意見等からの気づき】

まだアンケート結果が出ていないため、コメントできなかった。結果が分かり次第、アンケートの回答に基づいた改善を試みたい。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

ビジネス英語Ⅰ/Ⅱ（中級）

英語オーラル・コミュニケーションⅠ/Ⅱ

【オフィス・アワー】

質問がある場合は E-mail で受け付ける。

メールアドレスは Web 掲示板でお知らせします。

【Outline and objectives】

This is a beginners' introduction to Oral communication in English for a Business environment. Students will have writing and reading ability. This course focuses on practical spoken English.

LAN200FA-A4583

ビジネス英語Ⅰ（中級）

2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

LAN200FA-A4584

ビジネス英語Ⅱ（中級）

2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

ジョナサン・エーブル

※ 初級、中級の同時履修はできません。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビジネス英語（中級）

This is a course for students who already have some speaking ability. It is a practical course in which the sole classroom language is English.

【到達目標】

Confident communication

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Using the textbook as a basis we will build confidence through practical exercises, using English as it is used in a Business environment.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	Introduction.	Class selection and an introduction to the course.
2	Work.	Describing what you do now and what you may do in the future.
3	Leisure.	How we spend free time together and alone.
4	Problems.	Explaining what has gone wrong in the workplace.
5	Problems 2.	Finding solutions and assisting others.
6	Travel 1.	Getting away, getting back. Transport practicalities.
7	Travel 2.	What we need to know about foreign travel and how to make the most of the experience.
8	Presentation Preparation.	Planning a small group presentation for the classroom.
9	Presentations.	Giving presentations to your peers in the classroom.
10	Food and Entertaining.	What to eat and how from the point of view of the visitor to Japan and the Japanese traveler abroad.
11	Sales 1.	Products. How we decide on a product and describe it.
12	Sales 2.	Strategies for marketing the products we have identified.
13	Sales 3.	Advertising and Sales plans for the products we have identified.
14	Interviews	Grading process. Self-assessment and small group interviews.

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	Review/Introduction.	Looking back at last semester and forward to the new ideas ahead.
2	Jobs	What we do now and how we do it. The practicalities of work.
3	People 1.	Customers. How to deal with the public in a working environment.
4	People 2.	Staff. How to talk to your colleagues both Junior and Senior.
5	Advertising.	Images and slogans. The most communicative ideas.
6	Advertising 2.	Campaigns. How to persuade others with effective English.
7	Markets.	Who buys what from whom and why?
8	Presentations preparation	Preparing for presentations. Choosing topics and making detailed plans
9	Presentations.	Group presentations to class. Practical persuasive English.

10	Companies 1.	Describing companies and explaining their structure and history.
11	Companies 2.	What company would you start? A group exercise in imaginative English.
12	The Web.	Business on the net. The beauties and dangers of online commercial activity.
13	Cultural Difference.	Diversity is good. Why we should not be afraid of different business cultures.
14	Review and test.	Self=assessment and interview

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Some preparation, no schedule of homework.

【テキスト（教科書）】

Text book to be announced

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be assessed continually. Attendance is mandatory.

Classwork 40%

Presentation and Written Work 40%

Final Test/Interview 20%

【学生の意見等からの気づき】

まだアンケート結果が出ていないため、コメントできなかった。結果が分か
り次第、アンケートの回答に基づいた改善を試みたい。

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

ビジネス英語Ⅰ/Ⅱ（初級）

英語オーラル・コミュニケーションⅠ/Ⅱ

【オフィス・アワー】

質問がある場合は E-mail で受け付ける。

メールアドレスは Web 掲示板でお知らせします。

【Outline and objectives】

This is a course for students who already have some speaking ability. It is a practical course in which the sole classroom language is English.

MAN200FA-A4601

キャリア・マネジメントⅠ

2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4602

キャリア・マネジメントⅡ

2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

小川 憲彦

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリア論の基礎について学習します。その中で、キャリアを歩んでいく上での考え方、就職活動のことに加えて、会社のこと、会社組織を取り巻く社会環境についてもお話したいと考えています。自分の考えを持ったうえで参加できるよう、適宜ディスカッション等を行います。

【到達目標】

- ①キャリアの基本理論の概要を知っていること
- ②就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について暫定的でも自分なりの考え方を持って臨めること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

キャリア論の基礎に関する講義、企業の採用活動の事例紹介などを行います。理論や事例を材料にディスカッション等を行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明
第 2 回	キャリアとは	経営学におけるキャリア論の位置づけやキャリアという概念の理解
第 3 回	キャリアを取り巻く環境の変化	これからの世の中で、どのような変化が生じうるのか、その上でどのようなキャリアが求められるのか
第 4 回	企業の新卒採用活動（1）	採用側の理論について
第 5 回	企業の新卒採用活動（2）	採用研究について紹介します
第 6 回	企業の新卒採用活動（3）	面接研究について紹介します
第 7 回	企業の採用活動事例の紹介（1）	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました（業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります）
第 8 回	企業の採用活動事例の紹介（2）	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました（業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります）
第 9 回	職場適応の理論（1）	入社した後の会社への適応について（概要）
第 10 回	職場適応の理論（2）	入社した後の会社への適応について（人間関係）
第 11 回	キャリア発達の理論（1）	長期にわたるキャリアの見通しについて
第 12 回	キャリア発達の理論（2）	長期にわたるキャリアの見通しについて
第 13 回	キャリア・トランジション論	転職など、キャリアの移行期について
第 14 回	近年のキャリア論	偶発性アプローチの紹介など

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	テスト	必須です
第 1 回	イントロ	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明
第 2 回	仕事とキャリア	仕事や働くことの意味について考えます
第 3 回	就職活動	大学生の就職活動について考えます
第 4 回	採用活動（1）	企業の採用活動について考えます（人材要件）
第 5 回	採用活動（2）	企業の作用活動について考えます（面接等）
第 6 回	エントリー・マネジメントのまとめ	求職側と求人側の双方の視点から就職活動について考えます。今後の学生生活についても考えましょう。
第 7 回	給与とやりがい	就活でよくある疑問について考えます
第 8 回	働く人の思い（1）	可能であればゲストを呼んで自身の仕事についてお話いただきます

第 9 回	働く人の思い（2）	可能であればゲストを呼んで自身の仕事についてお話いただきます
第 10 回	キャリア初期について	働き出してから数年について考えます
第 11 回	キャリア中期について	中年の時期について考えます
第 12 回	上司やリーダーシップの話（1）	職場の人間関係、とくに上司との関係について考えます
第 13 回	上司やリーダーシップの話（2）	職場の人間関係、とくに上司との関係について考えます（フォロワー・シップ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

任意での宿題（レポートや読書）を適宜出します。

【テキスト（教科書）】

金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP 研究所。

【参考書】

大久保幸夫（2006）『キャリアデザイン入門（1）基礎力編』『キャリアデザイン入門（2）専門力編』日経文庫。
 エドガー・H・シャイン（著）・金井壽宏（訳）（2003）『キャリア・アンカー——自分のほんとうの価値を発見しよう』『キャリア・サバイバル——職務と役割の戦略的プランニング』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】

- ・期末試験（50 %）、平常点（50 %：小レポート等含む）
- ・出席は取りませんが、時々講義中に適宜課題を出します。
- ・レポートも課題は任意ですが、内容が不十分であれば加点はしません。コピペ、内容のないもの、不十分と思われるもの、読めないものなどは減点もあります。
- ・参加する際の注意事項（その他参照）が守られない場合、私の判断で大幅な減点や単位不認定があります。

【学生の意見等からの気づき】

実際の採用過程に関する私の調査結果に基づいた話を取り入れます。

【その他の重要事項】

- ①各回の内容はあくまで予定です。内容の前後や変更がありえます。
 - ②不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定もあります。
 - ③初回講義で具体的な注意など指示し、以降は無条件で②のような対応をします。
- 携帯電話の電源を切って鞆にしまう、写真をとらない、関係のないおしゃべりをしない等は基本です。
 関連科目は特にありません。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to learn basic career theories including the basic mind for career development, process of job-hunting and recruiting, the ways that companies work, and social environment surrounding companies.

MAN200FA-A4603

検定会計Ⅰ

2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4604

検定会計Ⅱ

2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

石山 宏

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は日本商工会議所（日商）簿記検定試験 2 級商業簿記の出題範囲を主たる学習対象とし、株式会社の商業簿記を習得します。

【到達目標】

簿記の学習内容は、企業規模により、個人企業、非上場株式会社、上場株式会社に大別されます。このうち本授業では、非上場株式会社を前提とした商企業における簿記、いわゆる中級商業簿記を習得します。本授業の履修は、上記検定試験の受験準備に有用であるとともに、財務会計論の深い理解を得る上でもおおいに役立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式により進行しますが、授業内において可能な限り問題演習の時間も確保します。なお、毎回の授業冒頭に、前回の学習範囲を対象とする復習テスト（10 分程度）を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】**Ⅰ 春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、簿記一巡の手続と財務諸表	会計処理の習得
第 2 回	現金預金と売掛金	会計処理の習得
第 3 回	手形①	会計処理の習得
第 4 回	手形②、有価証券①	会計処理の習得
第 5 回	有価証券②	会計処理の習得
第 6 回	その他の債権・債務、商品売買①	会計処理の習得
第 7 回	商品売買②	会計処理の習得
第 8 回	商品売買③	会計処理の習得
第 9 回	固定資産①	会計処理の習得
第 10 回	固定資産②	会計処理の習得
第 11 回	固定資産③、引当金①	会計処理の習得
第 12 回	引当金②	会計処理の習得
第 13 回	引当金③、収益と費用①	会計処理の習得
第 14 回	収益と費用②	会計処理の習得

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	株式会社の純資産（資本）①	会計処理の習得
第 2 回	株式会社の純資産（資本）②	会計処理の習得
第 3 回	株式会社の純資産（資本）③	会計処理の習得
第 4 回	税金	会計処理の習得
第 5 回	リース会計	会計処理の習得
第 6 回	外貨建取引①	会計処理の習得
第 7 回	外貨建取引②、税効果会計①	会計処理の習得
第 8 回	税効果会計②	会計処理の習得
第 9 回	決算①	会計処理の習得
第 10 回	決算②	会計処理の習得
第 11 回	決算③	会計処理の習得
第 12 回	決算④	会計処理の習得
第 13 回	本支店会計①	会計処理の習得
第 14 回	本支店会計②	会計処理の習得

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まず、授業で学習した内容を、テキスト（『検定簿記講義/2 級商業簿記』）にしたがって確認します。その際、授業内未着手の問題を解きます。次いで、授業内で宿題として指定されたテキストに連動した問題集（『ワークブック/2 級商業簿記』）の問題を解きます。これらにより、次回授業で実施する復習テストに備えます。

【テキスト（教科書）】

テキスト：渡部裕亘＝片山 覚＝北村敬子編著『検定簿記講義/2 級商業簿記（2019 年度版）』中央経済社
問題集：渡部裕亘＝片山 覚＝北村敬子編著『ワークブック/2 級商業簿記（検定版第 5 版）』中央経済社

【参考書】

使用する講義資料は Web 配信されます。授業に先立って下記サイトにアクセスの上、講義資料をダウンロード、プリントアウトの上、教室に持参してください。

<http://www2.yamanashi-ken.ac.jp/~ishiyama/hosei.html>

【成績評価の方法と基準】

授業において毎回実施する復習テスト（30 %）
試験週間中に実施される期末テスト（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

受講学生間の簿記の基礎学力が様々であるためか、授業レベルにつき「易しすぎる」と感じる学生がいる一方、「難しすぎる」と感じる学生もおり、いかなるレベルに焦点を合わせるかにつき苦慮しました。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（できる限り 12 桁のものを用意してください。）

【その他の重要事項】

「検定会計Ⅰ」と「検定会計Ⅱ」は連続したカリキュラムで進行しますので、可能な限り両科目を連続して履修してください。

なお、日商簿記検定試験は 2016 年度からの 3 年間で、出題範囲を段階的に大幅変更しています。これにより、従来に比べ、相当程度の質的上昇と量的増大がなされ、所定の講義回数で全範囲を取り扱うことは極めて困難な状況にあります。そのため、連結会計は本授業の学習範囲から除外されています。連結会計の学習のためには、「連結会計」を履修することを強く推奨します。

【関連科目】

連結会計

【Outline and objectives】

In this class, we will learn the scope of commercial bookkeeping of The Japan Chamber of Commerce and Industry's bookkeeping examination level 2, and acquire the commercial bookkeeping of the corporation.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「企業活動と仕事の実際を学ぶ」

■企業の経営やマーケティングを、さまざまな企業の企業活動/マーケティング活動に触れる事により実践的に理解します。

➡「経営学を学ぶ自分」としての理解/学習

■仕事とは何か、また仕事の楽しさとは何かを、魅力ある職業人の方々の生の声を通して理解します。

➡「将来社会に出ていく自分」としての理解/学習

【到達目標】

①実際の企業の企業活動/マーケティング活動のケースについて聞きながら、そのポイントを理解できる。

②また、そこから、自分の将来の働き方についてのヒントを得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

●ゲストをお招きする授業の性格上、受講学生数を最大 80 名に絞ることにより、集中して授業に取り組める環境を重視しています。

●毎回企業からゲスト・スピーカーを招き、約 80 分間のスピーチの後、質疑応答の時間を設けます。

●第 1 回目の授業で、各企業のプレゼンテーションを聞くための視点、及び事例として学ぶ各企業を紹介、その後各回授業で、実際に 12 社の企業事例を聞く事により、理解を深めます。

●以下の授業計画は 2018 年度の実績に基づくものです。2019 年度のゲストは今後の交渉によって決定します。そのため、授業計画とスケジュールは変更になる可能性が大きく、詳細は第 1 回目の授業時に説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	教員自己紹介 インターンシップⅠ の受講の仕方について ゲスト企業の紹介
第 2 回	<営業><マーケティング（リサーチ）><人事>のお仕事チョコッと体験	ゲスト・スピーカー： (株) 資生堂 人事部 戦略グループ 掛田 茉莉 氏
第 3 回	古河電池での仕事	ゲスト・スピーカー： 古河電池株式会社 海外戦略本部 海外営業部 藤吉 泰一朗 氏
第 4 回	ドラッグストアにおけるインスタマーチャンダイジングについて	ゲスト・スピーカー： ウエルシア薬局（株） 総合職採用部 採用マネジャー 大川 満 氏
第 5 回	プロモーション、イベント、VR 等について	ゲスト・スピーカー： 株式会社レイ 執行役員 天野 純 氏
第 6 回	プラットフォームサービスとは？	ゲスト・スピーカー： プラットフォームサービス（株） 取締役会長 田辺 恵一郎 氏
第 7 回	様々な業界を支援するマーケティングリサーチ	ゲスト・スピーカー： 株式会社インテージ 経営推進本部 Corporate & PeopleManagement 部 人事マネジメントグループ 日南 亜依子 氏
第 8 回	商社の仕事	ゲスト・スピーカー： (株) バイテックホールディングス 事業戦略グループ 事業開発室 室長 小森 和希 氏
第 9 回	キャリア形成論	ゲスト・スピーカー： 株式会社エー・ピーカンパニー 人材開発本部 本部長 渡邊 宏輔 氏
第 10 回	介護事業における人材採用の需給バランス及びその環境下での獲得戦略について	ゲスト・スピーカー： (株) らいふ 施設事業部 人事課 主任 榎本 佳乃 氏

第 11 回	弥生と今とこれから	ゲスト・スピーカー： 弥生（株） 代表取締役社長 岡本 浩一郎 氏
第 12 回	明日の流通を創造するネット流通プラットフォームとは	ゲスト・スピーカー： 株式会社 オークネット 取締役 常務執行役員 藤崎 慎一郎 氏
第 13 回	これまでの広告会社 からの広告会社	ゲスト・スピーカー： 株式会社 電通 執行役員 松尾 秀実 氏
第 14 回	総括	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

80 分のレクチャーで、その企業の経営/マーケティングを理解する事は容易ではありません。事前にネット等でその企業についての情報を収集する事により、あらかじめ十分な予備知識をもって授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

特に使用ませんが、授業に必要な資料は適宜配布します。

【参考書】

特に使用しません。

【成績評価の方法と基準】

出席はとりません。

授業終了時に提出するレポート 8 回以上を必須として、8 回を超えるレポート提出回数 24 %、レポート評価 76 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各業界の現状もさることながら、ゲストご本人のこれまでのキャリアや仕事についての考え方を聞きたいという学生の声があるため、今年度はできる限りゲストの方ご自身のことについてお話いただくようにお願いします。

【学生が準備すべき機器他】

ゲスト企業の諒解が得られた場合は、授業で使用したスライドを授業支援システムで共有します。

【その他の重要事項】

●この授業は、受講生を 80 名に絞ります。

受講を希望する学生は、経営学部 Web 掲示板から、エントリーシートをダウンロード、必要事項を記入の上、4 月 10 日（水）までに、経営学部事務のレポート提出 BOX に提出、選抜結果は、4 月 15 日（月）に経営学部 Web 掲示板で発表します。

●教員は、(株) 電通 IMC プランニングセンター長、(株) 電通マーケティングインサイト代表取締役社長等を勤めた実務家出身です。皆さんが将来社会に出た時に役に立つよう、実践的な授業を進めたいと思います。

●企業活動やマーケティング活動は常にさまざまな選択肢からの意思決定の連続です。この授業を通じて養っていただきたいのは、さまざまな仕事に対する想像力や洞察力です。常に「自分なら」という視点から、実際の経営や仕事を想像、洞察する習慣を身につける努力をしてください。

【関連科目】

なし

【Outline and objectives】

Learn about corporate activities and actual work in business

● We will understand practical management and marketing of companies by touching corporate activities and marketing activities of various companies.

● We will understand what something is done at work and what sort of fun of work is through the real voices and experiences of fascinating professionals.

MAN100FA-A4623

入門演習（2019 年度以降入学者）

演習

1 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

MAN100FA-A4649

入門演習 I（2016～2018 年度入学者）

1 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN100FA-A4643

入門演習 I（2016～2018 年度入学者）

1 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

MAN100FA-A4629

入門演習（2019 年度以降入学者）

演習

1 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

稲垣 保弘

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会社、組織、マネジメント、戦略といった経営学の中心的なテーマについて基礎的な考え方や知識に慣れてもらいます。そのプロセスを通じて、経営学に関する文献の読み方、理解の仕方、そして論理的な文章の書き方といった経営学部の学生に求められるスキルも身につけます。

【到達目標】

経営学（特に会社制度、事業、組織、マネジメントといった領域）の基本的な知識と考え方を身につけて、2 年生からの専門科目の学習に活かせるようになること。また、経営関係の文献の読み方、内容を要約してレジュメにまとめるノウハウ、発表の仕方などを理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

受講者数にもよりますが、最初の数回は講義形式で、まず理解してほしいこと（経営学の基本的な知識、経営学の基本的な専門書や論文の読み方、理解の仕方、レジュメの書き方など）について説明します。

そのあと、履修者にテキストの章、論文などについてレジュメを作成し、内容を発表してもらうという形式を予定しています。

詳細な内容や分担は履修者が確定してから決めることになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】**春学期および秋学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、春（あるいは秋）学期全体の授業の流れなどについて説明します。
第 2 回	テキストについて	授業で使用するテキスト、論文、英文記事などの概要説明。
第 3 回	レポート、レジュメなどの作成について	レジュメ、レポートの作成についての基本的な知識、方法などを説明します。
第 4 回	経営学とはどういうものか I	経営学的重要分野について基本的な内容を説明します。
第 5 回	経営学とはどういうものか II	経営学的重要分野について基本的な内容を説明します。
第 6 回	テキストの輪読 I	テキストを一章ずつ分担して、レジュメの作成、発表をしてもらいます。そのあと、補足的な説明を行ったり、ディスカッションに適するテーマがあった場合には、全体ないしグループでのディスカッションも行います。
第 7 回	テキストの輪読 II	レジュメの作成と発表。
第 8 回	テキストの輪読 III	補足的な説明。ディスカッション。レジュメの作成と発表。
第 9 回	テキストの輪読 IV	補足的な説明。ディスカッション。レジュメの作成と発表。
第 10 回	比較的やさしい論文の検討 I	補足的な説明。特に論文の読み方、理解の仕方、背景にある理論の説明など。論文のテーマによってはディスカッションも。
第 11 回	比較的やさしい論文の検討 II	レジュメの作成と発表。補足的説明。場合によってはディスカッションも。
第 12 回	英語文献の検討 I	経営学関係の英文を読んで、基本的な専門用語（英語）をマスターしてもらいます。こちらからの解説が中心です。
第 13 回	英語文献の検討 II	履修者の英語力によっては、内容を説明してもらうことも。
第 14 回	まとめ	半期の授業のまとめです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、論文、英語文献の予習、復習。詳細は授業で指示します。

【テキスト（教科書）】

経営学の基本的な本。有名な論文。アメリカやイギリスの雑誌、新聞記事など。詳細はオリエンテーションのときに。なるべくコピーを配布する予定です。

【参考書】

『組織の解釈学』白桃書房、2002。

『経営の解釈学』白桃書房、2013。

この科目に限らず、担当教員の著書を図書館でざっと目次だけでも見ておくのはいいことです。

その他、授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験はやりません。平常点で評価します。詳細はオリエンテーションで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

新規担当のためありません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

履修する意思が少しでもあるのでしたら、初回の授業には出てください。

【関連科目】

おそらく経営学部のほとんどの科目の基礎になると思います。

【Outline and objectives】

This course provides an introduction to business administration. The key concepts of the course include Company, Organization, and Management. Students will learn the basis of these areas through reading books and articles which describe basic theories and actual company cases. Through this process, students will also learn logical and creative way of thinking.

MAN100FA-A4622

入門演習（2019 年度以降入学者）

演習

1 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

MAN100FA-A4650

入門演習 I（2016～2018 年度入学者）

1 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN100FA-A4642

入門演習 I（2016～2018 年度入学者）

1 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

MAN100FA-A4630

入門演習（2019 年度以降入学者）

演習

1 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

大下 勇二

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習は高校までの学習と大きく異なります。本授業は、このような違いを理解し、大学での主体な学習能力の養成を目的とします。

【到達目標】

会計に興味を抱き、それに関連したテーマの設定、文献・資料の蒐集、分析、総合、報告・プレゼンテーション、最終的なレポート等の作成といった一連のアカデミック・スキルを修得できるのを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

会計の歴史に関する読み物を輪読し、担当者が担当部分の要約を報告しこれについて議論する形で進めて行きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期および秋学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介の後、授業の進め方について説明し、大学・学部での学習について学びます。
第 2 回	図書館の使い方	図書館の使い方について学習します。
第 3 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションスキルについて学習します。
第 4 回	レポートの書き方・資料の探し方	テーマ設定、文献・資料の蒐集方法、企業の財務・会計情報の特徴と蒐集方法について学習します。
第 5 回	会計の歴史に関する文献の輪読・報告・議論①	テキスト第 1 章を輪読し、まとめを報告してもらい、議論する。
第 6 回	会計の歴史に関する文献の輪読・報告・議論②	テキスト第 2 章を輪読し、まとめを報告してもらい、議論する。
第 7 回	会計の歴史に関する文献の輪読・報告・議論③	テキスト第 3 章を輪読し、まとめを報告してもらい、議論する。
第 8 回	会計の歴史に関する文献の輪読・報告・議論④	テキスト第 4 章を輪読し、まとめを報告してもらい、議論する。
第 9 回	会計の歴史に関する文献の輪読・報告・議論⑤	テキスト第 5 章を輪読し、まとめを報告してもらい、議論する。
第 10 回	会計の歴史に関する文献の輪読・報告・議論⑥	テキスト第 6 章を輪読し、まとめを報告してもらい、議論する。
第 11 回	会計の歴史に関する文献の輪読・報告・議論⑦	テキスト第 7 章を輪読し、まとめを報告してもらい、議論する。
第 12 回	会計の歴史に関する文献の輪読・報告・議論⑧	テキスト第 8 章を輪読し、まとめを報告してもらい、議論する。
第 13 回	会計の歴史に関する文献の輪読・報告・議論⑨	テキスト第 9 章を輪読し、まとめを報告してもらい、議論する。
第 14 回	総括	授業の振り返り・総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、予定の章を事前に読んでおき、報告担当者はもちろん報告担当者になっていない者も要点をまとめて、レポートの形で提出してもらいます。

【テキスト（教科書）】

法政大学教育開発機構 FD 開発センター『法政大学学習支援ハンドブック 2019』の他、会計の歴史に関する基礎的文献としては、田中靖浩『会計の世界史 イタリア、イギリス、アメリカ-500 年の物語』日本経済新聞出版社 2018 年、を使用する予定です。

【参考書】

個々の興味に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・報告 (40%)+平常点 (30%)+質問議論への参加 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

当該授業は初めての担当ですので、授業を進めて行く中で必要に応じて学生からの意見を聞き、授業に反映させたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

この授業では、パワーポイントを使用します。授業開始までに、パワーポイントを使えるようにしておいて下さい。最初の自己紹介はこれを用いて行います。

【その他の重要事項】

テキストは会計の歴史に関するものですが、簿記・会計の知識がなくても理解できる内容です。
なお、受講者多数の場合は、web 抽選（エントリー期間:4/4～4/6）を行います。

【関連科目】

特に会計科目全般

【Outline and objectives】

The objective is to learn the study method of accounting area.

MAN100FA-A4621

入門演習（2019 年度以降入学者）

演習

1 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN100FA-A4641

入門演習 I（2016～2018 年度入学者）

1 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

小林 健一

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「課題解決力を身につける」

- 高校と違って、大学での学び方は多様です。ただ教室に座って講義を聞くだけでなく、自ら調べ、考え、それを筋道立てて人に伝える努力と技術（＝「考える力 スタディスキル」＋「伝える力 ソーシャルスキル」）が求められます。そして、それはそのまま、皆さんが将来社会に出て「生きる力」にもつながります。
- 大学生生活も、また大学卒業後の人生も、問題意識を持ってある課題に立ち向かい、その課題を解決することの連続です。この授業では、「課題に気づく力」「課題を解決する力」「解決策を説明する力」を養うことを目的とします。
- 講師は実務家出身ですので、将来研究者を志す学生の皆さんよりは、実業を目指す学生の皆さんを対象として、課題解決の技術を身につけていただきたいと思います。

【到達目標】

- 課題について個人で考え、情報を集め、その結果と自分の考えをレポートにまとめることができる。
- 課題をグループで解決し、解決策を他の人に説得力をもって伝えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- 身近なテーマ（例えば「〇〇という商品の売上を上げる」「〇〇という街のプレゼンスをあげる」等）をひとつ設定し、その課題について調べ、考え、筋道立ててまとめ、人に伝える事を、「講義」「個人演習」「グループ演習」を組み合わせながら進めます。
- 昨年度は、個人では「超高齢社会におけるビジネスチャンス」について考え、各自レポートを完成させました。グループでは、「法政大学の課題を解決する」ことに挑戦し、最後に教員、職員の方々にプレゼンテーションしました。
- 課題を解決することは楽しい！ということを体感してもらえるような授業にしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期および秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	教員自己紹介 授業の進め方、授業スケジュールの説明
第 2 回	自己紹介	学生自己紹介
第 3 回	グループ分けとグループディスカッション	グループ分けを行ってグループに名前をつける グループメンバーがお互いを知る 個人レポート課題提示
第 4 回	情報入手の仕方を学ぶ	図書館の利用方法を学ぶ 図書館を使ってみる
第 5 回	グループの課題を考える	グループで 1 年間考える課題について討議する
第 6 回	課題の確認	各グループの課題の確認 課題解決のための作業リストを作り、資料を集める
第 7 回	先輩と語る	社会に出た OBOG の話を聞く
第 8 回	課題解決のための作業	集めた資料を分析する 課題解決のための仮説を作る
第 9 回	プレゼンテーションの準備をする	グループで発表のための資料を作る 発表の練習をする
第 10 回	プレゼンテーション	各グループからのプレゼンテーションと講評
第 11 回	最終プレゼンテーションの準備をする①	グループで発表のための資料を作る
第 12 回	最終プレゼンテーションの準備をする②	グループで発表のための資料を作る 発表の練習をする
第 13 回	最終プレゼンテーション	各グループからのプレゼンテーションと講評
第 14 回	授業の振り返り	授業の振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は、グループワークや個人の発表に対しての質疑を中心に全員参加で行う。したがって、学生は、各自次の授業までに、グループワークで使う資料・データ収集や個人発表のための準備を行う。

【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、授業に必要な資料は適宜配布します。

【参考書】

「論点思考」内田和成、東洋経済新報社、2011。
「大学生のためのデザイン・キャリア」渡辺三枝子/五十嵐浩也/田中勝男/高野澤勝美、2011。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、個人レポートの評価 30 %、
グループの成果 20 %、グループワークへの積極的参加態度 30 %、
の比率で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、学内教員、職員の方へのプレゼンテーションや若手社会人とのディスカッションがよい経験になったという声があるため、できるだけ外部の方々にも参加してもらえ開かれた授業にしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

個人レポートの提出は授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- この授業は、演習形式の授業であるため、Web 抽選（エントリー期間： 4/4～4/6 15:00）によって受講者数を絞ります。詳細は、経営学部 Web 掲示板に掲載されている案内を確認し、エントリーしてください。
- 講師は、(株)電通 IMC プランニングセンター長、(株)電通マーケティングサイト代表取締役社長等を勤めた実務家出身です。皆さんが将来社会に出た時に役に立つよう、実践的な授業を進めたいと思います。

【関連科目】

レポートの書き方、プレゼンテーションのやり方等基本的なスタディスキルを学ぶ授業であるため、すべての科目の基礎になる科目です。

【Outline and objectives】

Acquire problem solving skills
Both college life and life after college graduation are a continuation of confronting challenges with problem consciousness and then solving the problem. In this lesson, we aim to cultivate "ability to notice task" "ability to solve problem" "power to explain solution".

MAN100FA-A4626

入門演習（2019 年度以降入学者）

演習

1 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

MAN100FA-A4646

入門演習 I（2016～2018 年度入学者）

1 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

筒井 知彦

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

入門演習は大学生活のスタートアップのための科目です。大学に必要なスキル、たとえば、テキストの読み方、ノートの取り方、レポートの書き方、批判的思考、ディスカッション、プレゼンテーションなどの基本について学びます。そのうえで、ディスカッションやプレゼンテーションについてグループワークを通じて実践します。

【到達目標】

- ①大学に必要なスキルの基本を把握する。
- ②特定のテーマについて、情報を集め、読み、考えてレポートを作成する。
- ③グループディスカッションに参加して意見をまとめる。
- ④プレゼンテーションにより他者に意見を伝える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

個人の作業やグループワーク、授業内での発表を中心に進めます。教員は適宜アドバイスをを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	学習目的、授業の進め方、履修の方法と計画
2	自己理解と目標の確認	自分の強みと弱みを分析、大学生活における目標の設定
3	コミュニケーション	グループを作り、グループ内で自己紹介
4	情報の収集	図書館の利用方法、図書館ツアー
5	ノートの取り方、レポートの書き方	講義ノートの作成ポイント、レポート作成の要点
6	大意の理解と要約①	新聞記事を読んで要約
7	大意の理解と要約②	ビデオを視聴して要約
8	プレゼンテーションの準備①	グループワーク：テーマの設定と資料の収集
9	プレゼンテーションの準備②	グループワーク：資料の作成
10	プレゼンテーションの準備③	グループワーク：資料の作成と発表の練習
11	プレゼンテーションの準備④	グループワーク：資料の作成と発表の練習
12	プレゼンテーション①	各グループごとにプレゼンテーション
13	プレゼンテーション②	各グループごとにプレゼンテーション
14	プレゼンテーション③	各グループごとにプレゼンテーション、講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループワークをもとにプレゼンテーションを行います。その準備として、資料の収集、分析、グループディスカッション、レポート作成など、講義外でのワークが必須となります。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表 30 %、レポート 50 %、平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

グループワークの作業時間を十分に確保するよう努めます。また、参加者の人数によって、内容を調整します。

【学生が準備すべき機器他】

グループに 1 台タブレットまたはパソコンがあると便利です。

【その他の重要事項】

他に履修しておくべき関連科目はありません。

Web 抽選（エントリー期間：4/4～4/6 15:00）を行う。詳細は、経営学部 Web 掲示板に掲載されている案内を確認し、エントリーすること。

【関連科目】

None.

【実務経験のある教員による授業】

None.

【Outline and objectives】

The course aims to provide a foundation on which you develop the essential skills of academic life: conducting research, thinking critically, reading and writing academic texts, making presentations, participating in discussions. These will be pursued through close interaction with class members and your supervisor.

MAN100FA-A4627

入門演習（2019 年度以降入学者）

演習

1 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

MAN100FA-A4647

入門演習 I（2016～2018 年度入学者）

1 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

二階堂 行宣**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

・大学生として身に付けておくべき基礎的なアカデミック・スキル、特に論理的な文章を「書く」力を涵養します。

・経営学・経済学などに関する文献の読解、ディスカッション、レポート執筆活動を通じて、学問に向き合うための基本的態度を養います。

・今後の大学生活や諸活動を有意義に展開するために、論理的思考力と文章表現力を向上させます。

【到達目標】

・経済学・経営学に関する基礎的な文献を読み、理解することができる。

・アカデミックな調査・研究活動の基礎的なルールを理解する。

・文献を要約し、人前でわかりやすく発表する習慣を身につける。

・身近な経営・経済現象について考え、そこで抱いた疑問点について主体的な調査を行い、建設的な議論ができるようになる。

・自らの思考過程を学問的・論理的な文章として表現し、レポートを完成させることができる。

・以上を通じて、基礎的なアカデミック・スキルを習得し、今後の専門的な学習に備える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】**【アカデミック・スキルを学ぶ】**

・まず、基礎的なアカデミック・スキルを獲得するため、テキストの輪読とディスカッションを実施します。

・事前にテキストを配布し、それぞれの部分について報告者（班）を決めます。

・毎回の担当報告者（班）は、レジュメまたはパワーポイントを使って、内容の報告を行います。

・報告の際、担当部分に関連する追加的な調査を求めることがあります。

・担当報告者（班）によるプレゼンテーションのあと、参加者全員によるディスカッションを行い、疑問点を解消し、内容についての理解を深めます。

【レポートの執筆】

・各参加者（班）が興味・関心を持つテーマについて、レポートを執筆・完成させることを目指します。

・各参加者（班）は、経済・経営について関心のあるテーマを設定し、主体的に調査を行っていきます。

・各参加者（班）は、事前に決めたスケジュールに従い、①選定したテーマの内容とその理由、②調査の中間報告、③調査の最終報告、について、計 3 回程度のプレゼンテーションを行います。

・担当報告者（班）によるプレゼンテーションのあと、参加者全員によるディスカッションを行います。

・授業の終了にあたって、学習成果をレポートにまとめ、提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】**春学期および秋学期**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	春学期の授業の説明とスケジュールの決定を行う。
2	導入①	参加者の自己紹介を行う。
3	導入②	文献・資料調査の方法について解説する。
4	導入③	アカデミックな調査活動のルールについて解説する。
5	導入④	発表資料の作成とディスカッションの方法について解説する。
6	実践①	作成するレポートのテーマを決定する。
7	実践②	レポート執筆に向けた基礎的な調査を行う。
8	実践③	レポートの目次を作成し、発表する。
9	実践④	レポート執筆に向けた調査を行う。
10	実践⑤	レポート執筆状況の中間報告を行う。
11	実践⑥	レポート執筆に向けた追加的な調査を行う。
12	実践⑦	レポート執筆に向けた最終調査を行う。
13	実践⑧	レポートを完成させ、提出する。
14	授業のまとめ	授業で学んだことを発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・大学 1 年生のうちに、論理的な文章を「読み、理解し、批判し、書く」作業を体験しておけば、今後の学習や諸活動を行う上での大きな知的基盤となります。

・そのためこの入門演習では、論理的なレポートを書き上げることを最終目標としています。

・参加者自らが主体的に学習を行う場となるため、担当教員は参加者個々の関心に応じて主体的な学習・研究をサポートする役割に徹し、それぞれのペースに介入することはできる限り慎みます。

・したがって、参加者は必要に応じ、授業時間以外の調査活動（他大学・自治体図書館への訪問／企業への調査／インタビュー実施など）を行うことも重要になります。

・参加者の学習をサポートするためであれば、担当教員はあらゆる支援を惜しみません。教員と密にコミュニケーションをとり、積極的に指導・助言を仰いでください。

【テキスト（教科書）】

・必要に応じ、授業中にコピーを配布する。

【参考書】

・個々の興味に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・報告（40 %）＋平常点（30 %）＋質問・議論への参加（30 %）。

・出席する際には、積極的に議論に参加してください。ただ出席するのみの場合、欠席とみなすことがあります。

・欠席する場合は、理由の如何を問わず必ず事前に連絡してください。3 回以上欠席する場合は、評価に大きく関わります。

・レポートを提出しない場合、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

・主体的な学習を行い、短い期間内でレポートにまとめ上げることは、大学 1 年生にとってはハードルが高いと感じるかもしれません。

・特に、長い文章を書くことに慣れていない方の場合、負荷が大きくなることになります。

・ただし、これまでの参加者の大半は、最後には優れたレポートを完成させました。「はじめは何をして良いかわからず大変な思いをするが、次第に主体的な学習が楽しくなってきた」「論理的に考え、その思考過程を文章としてアウトプットすることの重要性を学んだ」という声が寄せられています。

・この時期に一度、レポートを書く経験をしてみることは大きな意義があると思います。積極的な学生の参加を歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】

・発表資料の作成の際は、パソコンを使用してください。

・その環境が整わない人は、事前に相談してください。

【関連科目】

・全ての科目に関連する入門科目です。

【Outline and objectives】

・ In this course, we will cultivate the fundamental academic skills that you should acquire as university students, especially the ability to write logical sentences.

・ Through reading comprehension on literature on business science and economics, discussion and writing writing activities, we will learn the basic attitude to face academics.

・ In order to develop meaningfully the university life and various activities in the future, we will improve logical thinking ability.

MAN100FA-A4628

入門演習（2019 年度以降入学者）

MAN100FA-A4651

入門演習 I（2016～2018 年度入学者）

MAN100FA-A4648

入門演習 I（2016～2018 年度入学者）

MAN100FA-A4631

入門演習（2019 年度以降入学者）

藤澤 利治

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

概要：資本主義経済の諸問題をテーマにした文献を精読しながら、現代の経済の問題点を考えます。

目的：現代の世界や日本における経済の諸問題を正確に理解し、同時に大学での勉学に不可欠のアカデミック・スキルを身につけます。大学では、自ら進んで学ぶことが不可欠になります。そのためには、大学で学ぶためのアカデミック・スキルを身につけることが欠かせません。それゆえ、大学での勉強の仕方（ノウハウ）を身につけ、自分の考えを持てるようになる技術をマスターする、これがこの授業の目的です。

【到達目標】

現代の資本主義の諸問題を経済学と経営学の視点から理解する。同時に、以下のスキルを身につける。

- ①図書館を利用した文献や資料の見つけ方、ゼミでのレポートのまとめ方と報告の仕方、さらに文献の読み方、データの見方をマスターする。
- ②2 年次生以降の専門ゼミナール（演習）での学習の仕方を身につける。
- ③英文を含めて専門的な文献を読む力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

進め方：毎回演習形式で進めます。履修者全員でテキストを輪読し、それをもとにして担当者に順番に報告してもらい、議論を深めます。

方法：様々な文章を読み、そこで展開されている思想や論理を読み取り、その検討を行います。取り上げる題材は、最初は文学作品、続いて基礎的な経済学の文献、そして経済・経営関連の英文を取り上げ、読みこなしていきます。最後には、履修者全員がテキストに関連してレポートをまとめ、それを提出してもらいます。そこでの狙いは、大学生として、ただ覚えるだけではなく自分で実際に考えてみることで、検討してみることで、そのために必要な勉強の仕方を学んでもらうことです。この授業は少人数クラスの演習（ゼミ）ですから、そのメリットを生かして、毎回取り上げる文献の内容についてみんなで議論しながら進めていく方法をとります。具体的には、報告する順番を決め、担当者にはレジュメを作成して報告してもらい、その報告にそって全員で議論していきます。担当者以外の皆さんにも、もちろん毎回予習をしてもらいます。"

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】**春学期および秋学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の方法とすすめ方に関する説明を行う。
第 2 回	テキスト①の序章の輪読	現代の資本主義経済の諸問題について議論する。
第 3 回	テキスト①の第 1 章の輪読	資本主義各国における貧困問題について議論する。
第 4 回	テキスト①の第 2 章の輪読	資本主義各国における所得格差の問題を議論する。
第 5 回	テキスト①の第 3 章の輪読	資本主義社会における労働そして労働者の問題を議論する。
第 6 回	テキスト①の第 4 章の輪読	機械化と失業の問題を議論する。
第 7 回	テキスト①の第 5 章と第 6 章の輪読	市場の失敗と、そして特に環境破壊の問題について議論する。
第 8 回	テキスト①の第 7 章の輪読	市場経済における景気の変動について考える。
第 9 回	テキスト①の第 8 章の輪読	市場経済における個人の利己心について議論する。
第 10 回	テキスト①の第 9 章の輪読	金融の仕組みについて議論する。
第 11 回	テキスト①の第 10 章と第 11 章の輪読	政治的規制の問題と、短期的な利益追求の弊害について学ぶ。
第 12 回	テキスト①の第 12 章と第 13 章の輪読	マーケティングの功罪と、経済成長の意味について議論する。
第 13 回	テキスト①の第 14 章の輪読	物的豊かさと幸福度について考える。

演習

1 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

演習

1 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

第 14 回 テキスト②の精読
授業のまとめ

現代の経済問題に関する英文のエッセーを精読し、レポートを作成する。
授業のまとめとして、専門ゼミへのガイダンスを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回 現代の資本主義経済の仕組みについて予習しておくこと。

第 2 回～第 13 回 テキスト①の序章から順に予習しておくこと。

第 14 回 英文のテキストを全訳しておくこと。"

【テキスト（教科書）】

- ①フィリップ・コトラー『資本主義に希望はある』ダイヤモンド社、2015 年
- ②英文雑誌・新聞からのエッセーか時事問題論文

【参考書】

- ①伊藤元重『どうなる世界経済－入門国際経済学』光文社新書、2016 年
 - ②藤井彰夫『日本経済入門』日経文庫、2018 年
- これら以外に、多数の文献を紹介し、積極的に読んでもらうつもりでいます。そのリストは授業で配布します。
また、日々の新聞やテレビのニュースで、経済問題に関する記事について、フォローしておくこと。

【成績評価の方法と基準】

授業で取り上げるテーマについて、自分で調べる態度ができているか、上手くまとめることができているかを成績評価の基準にします。
具体的な評価の方法と基準としては、平常点 (25 %)、報告 (25 %)、提出レポート (50 %) とし、平常の学習態度、すなわちディスカッションへの参加状況と報告内容を重視します。さらに、学期末に提出してもらうレポートによって最終的な成績の評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

履修者全員が、授業でできるだけ多く発言できるように工夫し、授業の課題に積極的に取り組めるように配慮します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

この入門演習では、大学でのこれからの勉強の基本になる方法を学びます。少人数で学べるので、意欲的に履修して、学ぶ楽しさを存分に体験してもらおうと思っています。
また、入門演習では Web 抽選（エントリー期間：4/4～4/6 15:00）を行います。詳細は、経営学部 Web 掲示板に掲載されている案内を確認し、エントリーしてください。

【関連科目】

全ての科目に関連する入門科目です。

【Outline and objectives】

This is an introductory course for students who want to study key aspects of today's capitalism. Students are expected to read related materials intensively. By the end of the course students should be able to understand the mechanism and trends of Japanese and world economies, and acquire skills for logical thinking, presentation and discussion.

MAN100FA-A4625

入門演習（2019 年度以降入学者）

MAN100FA-A4652

入門演習 I（2016～2018 年度入学者）

MAN100FA-A4645

入門演習 I（2016～2018 年度入学者）

MAN100FA-A4632

入門演習（2019 年度以降入学者）

宮澤 信二郎

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生として、経営学部生として、どのような姿勢で、何を学ばよいかでしょうか。この授業では、悔いのない大学生活を送れるようにするために、この問題について一緒に考えます。また、新聞記事の内容やほかの授業で習ったことなど、身近なトピックスについて、内容を紹介し、自分の考えを発表したり、他人の考えに対して質問・コメントしたりする方法について、実践的に学びます。

【到達目標】

この授業の目標は以下のような点です。

- 1) 大学生としてどのような姿勢で何を学ぶべきかを自覚し、実践する。
- 2) 関心があるテーマについて、どのような議論があるか整理した上で、自分なりの意見を持ち、それを発表できる。
- 3) 他人の発表に対して、適切な質問をしたり、建設的な意見を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

いくつかのテーマについて、議論をしてグループ内の意見をまとめる、グループによる発表を行ったうえで全体で議論するという流れで進めていきます。一部のテーマについて担当教員が講義をすることもあります。その際にも、積極的な発言が求められます。

また、身近なトピックスについて、参加者が単独で発表し、参加者全員で質疑応答・ディスカッションをします。発表にあたっては、スライドを作成することが求められます。発表の時間・回数は参加者数に依存しますが、1回の発表時間は15分から20分程度で、全員が1回以上担当することが想定されています。

*前年度は春学期月曜3時限目に開講し、参加者数が16名でした。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】**春学期および秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	「大学生」を始めるために	授業の内容、全体の流れについて説明します。
第2回	大学生とは？（グループディスカッション）	グループに分かれて、「大学生とは高校生・社会人と比べてどのような点で違うのか」、「大学生生活はどのような心構えで過ごさなくてはいいのか」、「大学では何をどのように学ぶべきなのか」などについて議論します。
第3回	大学生とは？（発表・検討）	前回の議論の成果を、グループごとにまとめて、発表します。また、他のグループの発表に対して質問します。最後にクラス全体の考えをまとめます。
第4回	図書館の使い方を学ぶ！	法政大学図書館の図書館ツアーを利用して、図書館の活用法について学びます。
第5回	新聞を読もう！（グループディスカッション）	グループごとに分かれて、「新聞はどのような構成になっているのか」、「経営学部生として新聞をどのように活用していけばいいのか」などについて議論します。
第6回	新聞を読もう！（発表・検討）	前回の議論の成果を発表した後、全員で議論します。
第7回	良いレポートとは何か？	参加者のレポートを素材として、良いレポートの書き方について検討します。
第8回	時事問題について考えよう！（1）	どのような時事問題があるのかについて、グループごとに話し合い、発表してもらいます。
第9回	時事問題について考えよう！（2）	テーマごとのグループに分かれて、情報収集・議論を行います。
第10回	時事問題について考えよう！（3）	担当する時事問題に関する調査状況について報告し、議論をします。

演習

1 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

1 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

1 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

演習

1 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

- 第11回 時事問題について考えよう！（4） 担当する時事問題に関して報告し、議論します。
- 第12回 時事問題について考えよう！（5） 引き続き、担当する時事問題に関して報告し、議論します。
- 第13回 学修プランを作成しよう！（グループディスカッション） グループごとに分かれて、学修プランについて議論します。
- 第14回 学修プランを立てよう！（発表・検討） 前回の議論の成果を発表した後、全員で議論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) グループディスカッションのテーマについては、事前に、自ら考えたり調べたりして、論点をピックアップしておきます。
- 2) 個人あるいはグループによる発表の前には発表の準備（レジュメ・スライドの作成など）をします。
- 3) 春学期中に、グループで議論した内容に関して、個人でレポートを作成し、提出します（詳しくは開講後に説明します）。

【テキスト（教科書）】

法政大学教育開発支援機構 FD 開発センター『法政大学学習支援ハンドブック 2019』、法政大学教育開発支援機構 FD 開発センター（近刊）、大学から配布予定

【参考書】

佐藤編著『アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技法入門（第2版）』慶応義塾大学出版会（2012年）
日経 HR 編集部（編著）『日経キーワード 2019-2020』日経 HR（2018年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（60％）とレポート（2回、各20％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間には消極的になってしまうという意見がありましたので、グループ・ディスカッションの機会を増やすとともに、それ以外の時間でも、双方向型の授業を行います。

また、遅刻者などに対する対応が甘いという意見がありましたので、授業の進行を妨げない範囲で、厳しく対応するようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォン、タブレット、ノートPCなどの情報機器を何かに用意してください。

【その他の重要事項】

1) 毎回出席することを前提として進めます。やむを得ない事情で欠席する場合には、必ず事前に連絡するようにしてください。無断の場合は2回以上、事情がある場合でも3回以上欠席した場合には単位を出しませんので十分に注意してください。

いくつかのグループに分かれて活動することを予定していますが、参加者の人数によっては、変更する場合があります。

2) 議論を深めるため、専門入門科目100番目の各科目などを同時に履修することをお勧めします。

3) 日本経済新聞の朝刊を利用する回があります。当日は各自で新聞を用意してください。また、それ以外の日も新聞を読むようにしてください。

【関連科目】

全ての科目に関連する入門科目です。

【Outline and objectives】

What kind of contents and with what kind of attitude should you learn in the school of business administration, Hosei University. In this class, you will think about these issues with the all participants in order to live a fruitful university life. You will practically learn about how to introduce the contents, to present own ideas, and to question/comment on others' thoughts, concerning some familiar topics such as your university life, subject of study, and current affairs.

MAN100FA-A4624

入門演習（2019 年度以降入学者）

演習

1 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN100FA-A4644

入門演習 I（2016～2018 年度入学者）

1 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

山 崎 輝

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、「大学での学び」に必要な基本スキルを身に付けることがテーマです。大学では「自分で筋道を立てて論理的に考える」ことや「自分の考えを自分の言葉や文章で正確に相手に伝える」ことが重要になります。少人数の双方向型授業によって、こうしたスキルを習得する機会を提供します。また、グループ演習を実施することでコミュニケーション・スキルや協調性を鍛え、チームとしての知識集約やプレゼンテーションの方法を学びます。

【到達目標】

次の3つを到達目標に掲げます。

- ①物事に対して自分で道筋を立てて、論理的に考えることができる。
- ②自分の考えを自分の言葉（口頭発表など）や文章（レポートなど）で正確に相手に伝えることができる。
- ③グループ演習の中で自分の役割を自覚し、個人として責任をもってチームの知識集約作業や発表に貢献する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本演習は3つの内容に取り組みます。1つ目は「大学生の学びの基本スキル」を知ることです。大学の教科書やテキストの読み方、レポートの書き方、発表資料の作り方、口頭発表のやり方などについての一般スキルを学びます。2つ目はテキストの輪読です。一般スキルで学んだやり方に基づいて、テキストを読み、個人で発表資料を作成し、口頭発表を行う実践形式となります。3つ目はグループ演習です。チームで課題に取り組むことで、個々人が協力しあいながらチームとして知識や知恵を集約し、プレゼンテーションするプロセスを学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期および秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の進め方、到達目標、成績評価などを説明します。
第2回	自己紹介	自己紹介によって自分自身のプレゼンテーションをします。
第3回	テキストの読み方	大学の教科書やテキストをどのようにして読むのかを学びます。
第4回	レポートの書き方	レポート作成の作法（引用と剽窃の違い、参考文献リストの作成方法など）を学びます。
第5回	発表資料の作り方	効果的なプレゼンテーション資料の作成方法を学びます。
第6回	口頭発表のやり方	聞き手にわかりやすいプレゼンテーションの方法を学びます。
第7回	テキストの輪読（1）	個人による輪読内容の発表および質疑応答の第1回目となります。
第8回	テキストの輪読（2）	個人による輪読内容の発表および質疑応答の第2回目となります。
第9回	テキストの輪読（3）	個人による輪読内容の発表および質疑応答の第3回目となります。
第10回	グループ演習（1）	チームで課題解決に向けた調査を行います。
第11回	グループ演習（2）	チームで課題解決の検討を行います。
第12回	グループ演習（3）	チームでプレゼンテーション資料を作成します。
第13回	グループ発表（1）	チームによるプレゼンテーションおよび質疑応答の前半となります。
第14回	グループ発表（2）	チームによるプレゼンテーションおよび質疑応答の後半となります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のための資料（レジュメやプレゼン資料）の準備が必須です。さらにグループ演習でも授業時間外での準備や作業が必要になることがあります。

【テキスト（教科書）】

授業前半は法政大学が配布している冊子「法政大学学習支援ハンドブック」を使用します。輪読のテキストは授業内で紹介します。

【参考書】

①世界思想社編、『大学生 学びのハンドブック [改訂版]』、2011 年、世界思想社

②佐藤智明他、『大学 学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』、2014 年、ナカニシヤ出版

③石井一成、『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』、2011 年、ナツメ社

【成績評価の方法と基準】

発表（40 %）、課題（30 %）、平常点（30 %）

発表と課題の提出は必須で単位修得の必要条件となります。発表の内容はもちろんのこと、発表資料の書式、プレゼンテーション技術、積極的な質問なども評価の対象になります。

【学生の意見等からの気づき】

グループ演習では、チームの作業時間を授業内で十分に確保するように努めます。

【学生が準備すべき機器他】

発表用のレジュメやプレゼン資料は PC（Word、PowerPoint など）を利用して作成して下さい。

【その他の重要事項】

本授業の定員は教室定員である 42 名となります。Web 抽選（エントリー期間：4/4～4/6 15:00）を行いますので、履修希望者は経営学部 Web 掲示板に掲載されている案内を確認し、エントリーしてください。

【関連科目】

全ての科目に関連する授業となります。

【Outline and objectives】

This course introduces students to the basic academic skills required for studying at Hosei University. All students have to know the academic manners of taking a course, reading textbooks, writing reports and papers, presentation, group discussion, and so on. The objective of the course is to provide an opportunity to acquire such skills in the interactive learning environment. Whoever wants to learn actively is welcome.

MAN200FA-A4701

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A4706

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5133

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4705

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4704

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A5079

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A4703

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4702

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A5025

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

安藤 直紀 (代講：笠原 民子)

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習は国際経営をテーマとします。特に新興国市場を対象とし、そこでの戦略やマネジメントが中心となるテーマとなります。学生は企業がどのように外国市場に参入し、他国の多国籍企業及び現地のライバル企業と競争し、競争優位を構築するのか、について海外調査や議論等を通じて学びます。

【到達目標】

学生は、国際経営に関する理論を習得します。海外で企業が採る戦略、ビジネス環境、特に新興国市場に関する理解を深めます。併せて社会科学の調査方法を習得するとともに、理論に基づいてディスカッションを行う能力、調査を行う能力、調査結果を踏まえた上で論理的に考察する能力、プレゼンテーションを行う能力を身に着けます。演習を通じて、自ら問題を発見し、設定し、調査、分析を行うことができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

グループによる海外調査とディスカッションを中心に演習を進めます。国際経営に関するテーマの下で、各グループが具体的なテーマを設定します。それについて理論的、実践的に考察し、議論し、その成果報告を行います。グループによる研究のほか、4 年生は個人研究も行います。個人研究については、中間発表及び最終発表を行ってもらいます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	講義概要	講義概要に関するオリエンテーション
2	グループ研究① (1)	グループ研究のテーマ設定
3	方法論①	社会科学の研究手法
4	方法論②	社会科学の研究手法
5	方法論③	社会科学の研究手法
6	グループ研究① (2)	研究テーマに関する文献調査
7	グループ研究① (3)	研究テーマに関する文献調査
8	グループ研究① (4)	研究テーマに関する文献調査
9	グループ研究① (5)	研究テーマに関する文献調査
10	グループ研究① (6)	文献調査をふまえた考察
11	グループ研究① (7)	文献調査をふまえた考察
12	グループ研究① (8)	文献調査をふまえた考察
13	グループ研究① (9)	研究発表 (中間報告) ※海外調査に向けた報告

14 個人研究

研究発表 (中間報告)

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	グループ研究② (1)	海外調査のまとめ
16	グループ研究② (2)	海外調査のまとめ
17	グループ研究② (3)	海外調査の成果を踏まえた研究テーマに関する文献調査

18	グループ研究② (4)	海外調査の成果を踏まえた研究テーマに関する文献調査
19	グループ研究② (5)	海外調査の成果を踏まえた研究テーマに関する文献調査
20	グループ研究② (6)	海外調査の成果を踏まえた研究テーマに関する文献調査
21	グループ研究② (7)	海外調査の成果を踏まえた研究テーマに関する文献調査
22	グループ研究② (8)	海外調査、文献調査をふまえた考察
23	グループ研究② (9)	海外調査、文献調査をふまえた考察
24	グループ研究② (10)	海外調査、文献調査をふまえた考察
25	グループ研究② (11)	研究発表
26	グループ研究② (12)	研究発表・個人研究の最終発表
	研究発表 (個人)	
27	研究発表 (個人)	個人研究の最終発表
28	総括	これまでの学習の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

春学期

- 1-2 回：グループの研究テーマを考える
- 3-5 回：方法論に関する書籍の輪読
- 6-9 回：研究テーマに関する文献を調べ、輪読する
- 10-12 回：文献調査の結果をまとめる
- 13 回：海外調査に向けたグループ研究のテーマ、課題等の中間報告
- 14 回：次年度に取り組む個人研究のテーマの報告

【テキスト (教科書)】

適宜指示する

【参考書】

適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献を 70 %、グループまたは個人によるレポートを 30 % として評価する。ゼミへの貢献とは、ゼミでの調査、ディスカッション、プレゼンテーションへの積極的な関わりを指す。出席しているだけでは、ゼミへの貢献にはならないことを理解して臨んでください。レポートについては、設定したテーマについてどれだけ深い思考ができていないか、すなわち自らの考えを持っているのかを重視して評価します。文献に書かれていることを整理しただけでは高い評価とはなりません。

【学生の意見等からの気づき】

初年度のため該当なし

【学生が準備すべき機器他】

PC 等

【その他の重要事項】

特になし

【関連科目】

国際経営戦略論 I / II

【実務経験のある教員による授業】

特になし

【Outline and objectives】

This seminar focuses on international business research. In particular, the seminar focuses on MNC's strategy and management in the emerging countries. Students can learn how MNCs enter into foreign countries, how they manage their resources in the local markets, and how MNCs build their competitive advantages in host countries and/or global markets through discussion and overseas research

MAN200FA-A4707

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A5134

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A5080

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4712

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A4711

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4710

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A4709

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4708

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A5026

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

猪狩 良介

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、「ビッグデータ」と呼ばれるマーケティング／ビジネスデータ環境が整備され、「データサイエンティスト」という言葉が生まれるなど、ビジネスの現場でもマーケティング・データ分析のニーズは高まっています。消費者の店頭での購買履歴は POS データや ID-POS データとして蓄積され、また PC やスマートフォンなどによるインターネット閲覧履歴等もアクセスログデータとして記録されており、各企業は、このようなデータを利用して、価格や広告投入量、店頭での販促有無などを決定するといったマーケティング意思決定を行っています。

この授業では、実際のマーケティング・データを解析することで、マーケティング理論およびデータ分析のスキルを習得し、実践力を身につけることを目標としています。また、マーケティング・データ分析を通して、自ら課題を設定してテーマに取り組む力や、結果を発表・共有するプレゼンテーション能力などを身につけることも目的としています。

【到達目標】

- ・マーケティング・サイエンスの理論およびマーケティング・データ分析の基本知識を身につける。
- ・統計ソフトを用いてマーケティング・データを実際に分析できる。
- ・分析結果を用いてプレゼンテーションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・前期は、マーケティング・サイエンスおよびマーケティング・データ分析関連の書籍を輪読して理論を学習します。また、フリーの統計ソフト R を用いたデータ分析の演習を行い、実際の分析を習得します。

・後期は、グループ研究と個人研究の 2 つについて、実際のテーマを設定して取り組みます。具体的には、設定したテーマについてのデータ取得、解析、分析結果のプレゼンテーションを行い、メンバー間で共有をはかります。また、マーケティング・データ分析関連のコンペにグループで参加する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概要および進め方について説明します。
2	1 章：マーケティングの目標 (1)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
3	1 章：マーケティングの目標 (2)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
4	2 章：セグメンテーションとターゲティング (1)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
4	2 章：セグメンテーションとターゲティング (2)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。

5	3 章：ポジショニングと価値提案 (1)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
6	3 章：ポジショニングと価値提案 (2)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
7	4 章：新製品開発 (1)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
7	4 章：新製品開発 (2)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
8	5 章：新製品の普及 (1)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
9	5 章：新製品の普及 (2)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
10	6 章：価格設定 (1)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
10	6 章：価格設定 (2)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
11	7 章：広告ーマスからネットまでー (1)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
12	7 章：広告ーマスからネットまでー (2)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
13	8 章：クチコミとソーシャルメディア (1)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
13	8 章：クチコミとソーシャルメディア (2)	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。
14	9 章：チャンネルとプロモーション	文献を輪読してディスカッションを行います。また、関連するデータを利用して R 演習を行います。また、春学期のまとめを行います。

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	ガイダンス	秋学期の進め方について説明します。また、グループワークのメンバーおよび取り組む研究テーマを決めます。
16	グループワーク：テーマ報告 (1)	各グループで設定したテーマを発表し、全員でディスカッションします。
17	グループワーク：テーマ報告 (2)	各グループで設定したテーマを発表し、全員でディスカッションします。
18	グループワーク：文献・事例研究 (1)	各グループで設定したテーマに関連する文献や事例等について報告を行います。
19	グループワーク：文献・事例研究 (2)	各グループで設定したテーマに関連する文献や事例等について報告を行います。
20	グループワーク：文献・事例研究 (3)	各グループで設定したテーマに関連する文献や事例等について報告を行います。
21	グループワーク：最終報告会 (1)	各グループで設定したテーマの最終発表会を行います。

発行日：2019/5/1

22	グループワーク：最終報告会 (2)	各グループで設定したテーマの最終発表会を行います。
23	個人研究：中間報告 (1)	個人研究の進捗状況について中間報告を行い、ディスカッションします。
24	個人研究：中間報告 (2)	個人研究の進捗状況について中間報告を行い、ディスカッションします。
25	個人研究：文献・事例研究 (1)	個人研究のテーマに関連する文献や事例等について報告を行います。
26	個人研究：文献・事例研究 (2)	個人研究のテーマに関連する文献や事例等について報告を行います。
27	個人研究：最終報告会 (1)	個人研究についての最終報告会を行います。各自パワーポイントを用いて報告を行い、全員でディスカッションします。
28	個人研究：最終報告会 (2)	個人研究についての最終報告会を行います。各自パワーポイントを用いて報告を行い、全員でディスカッションします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【春学期】

- ・輪読では各章ごとに担当を決め、報告担当者が発表します（資料作成等の準備が必要となります）。
- ・演習では統計ソフト **R** を用いて実際に自分のパソコンで分析を実行します（資料作成等の準備が必要となります）。

【秋学期】

- ・個人／グループで設定したテーマについて取り組みます。

【テキスト（教科書）】

- ・水野誠 (2014)「マーケティングは進化する: クリエイティブな Market+ing の発想」 同文館出版。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・積極的な発言と議論 (30%)
- ・グループワークおよび個人での報告・最終報告 (40%)
- ・平常点 (30%)
- ・4 年生は卒業論文が必須

【学生の意見等からの気づき】

- ・春学期は基礎的な内容から学び、秋学期は発展的な内容も取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・データ分析およびプレゼンテーションを行うためのパソコンが必要です。

【その他の重要事項】

- ・基礎統計学 I/II の内容を理解していることを前提とします。忘れてしまった場合、初回授業までによく復習しておく必要があります。
- ・基本的なパソコンスキル（ワードやパワーポイントによる資料作成、エクセルによる計算等）を前提とします。
- ・統計学のスキルが必要なため、統計学 I/II と合わせて履修することを前提とします。
- ・実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

基礎統計学 I/II

統計学 I/II

マーケティング論 I/II

【Outline and objectives】

In recent years, the marketing / business data environment called "big data" has been improved, the word "data scientist" is born, and marketing and data analysis needs are growing even at the business site. The purchase history at the shop front of the consumer is accumulated as POS data and ID-POS data, and the Internet browsing history etc. by the PC, the smartphone, etc. are also recorded as the access log data. Each company uses such data to make marketing decisions such as deciding price, advertisement input amount, sales promotion at shop front, etc.

In this lesson, we aim to learn skills of marketing theory and data analysis, analyze actual marketing data, and acquire practical skills. It also aims to acquire the ability to set themselves and tackle themes through marketing and data analysis, and to develop presentation skills to present and share results.

MAN200FA-A4713

演習 1

MAN400FA-A5135

演習 5・6

MAN300FA-A5081

演習 3・4

MAN200FA-A5027

演習 1・2

MAN400FA-A4718

演習 6

MAN400FA-A4717

演習 5

MAN300FA-A4716

演習 4

MAN300FA-A4715

演習 3

MAN200FA-A4714

演習 2

池田 宏一郎

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般に〈数学〉を身につけるためには、下から積み上げていくような学習が必要な場合が多く、多くの学生が目標に達する前に力尽きてしまうのが現状です。そこで本ゼミでは、まずみなさんにそれぞれ興味をもっているテーマをひとつ決めてもらい、そしてそのテーマに最小限度必要な〈数学〉をグループ単位で学習し、最後に個々に自分のテーマを理解する、という「一点豪華主義」のスタイルをとります。どんなに狭い分野でも、その分野を深く掘り下げたという体験は、みなさんにとって貴重な経験になるはずです。

【到達目標】

〈数学〉は、自然現象のみならず、様々な社会現象を記述する上で非常に有効な道具です。本ゼミでは、みなさんがそれぞれ必要と考えている〈数学〉を身につけてもらうのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

個人あるいはグループで選んだテキストを使って、誰かが毎回発表を行います。また発表者がその場で考える問題を用意するなどして、全員で考えたり話し合う時間を作ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	テーマの選択①	進級および卒業論文のテーマを選択①
第 2 回	テーマの選択②	進級および卒業論文のテーマを選択②
第 3 回	テーマの選択③	進級および卒業論文のテーマを選択③
第 4 回	達成目標の設定①	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定①
第 5 回	達成目標の設定②	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定②
第 6 回	達成目標の設定③	選んだテーマに対して、その具体的な目標を中間目標を含めて設定③
第 7 回	基本事項の確認①	自分の目標に必要な知識としてなが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習①
第 8 回	基本事項の確認②	自分の目標に必要な知識としてなが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習②
第 9 回	基本事項の確認③	自分の目標に必要な知識としてなが必要かを話し合い、共通する事項があればグループを作って学習③
第 10 回	目標の達成①	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに検討①
第 11 回	目標の達成②	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに検討②
第 12 回	目標の達成③	設定した中間目標に必要な知識を各自学習し、お互いに検討③

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

第 13 回 中間発表①

各自、得られた結果を発表し、最初に設定した目標と比較①

第 14 回 中間発表②

各自、得られた結果を発表し、最初に設定した目標と比較②

II 秋学期

回 テーマ
第 15 回 中間発表③

内容
各自、得られた結果を発表し、最初に設定した目標と比較③

第 16 回 春学期の復習①

春学期に得られた結果をお互いに検討①

第 17 回 春学期の復習②

春学期に得られた結果をお互いに検討②

第 18 回 春学期の復習③

春学期に得られた結果をお互いに検討③

第 19 回 最終達成目標の設定①

春学期に設定した目標が達成された場合には新たな目標を設定し、そうでない場合には目標の修正なども含め各自検討①

第 20 回 最終達成目標の設定②

春学期に設定した目標が達成された場合には新たな目標を設定し、そうでない場合には目標の修正なども含め各自検討②

第 21 回 最終達成目標の設定③

春学期に設定した目標が達成された場合には新たな目標を設定し、そうでない場合には目標の修正なども含め各自検討③

第 22 回 レポート作成の経過発表①

進級および卒業論文の経過をレポートにまとめ、問題点などを確認①

第 23 回 レポート作成の経過発表②

進級および卒業論文の経過をレポートにまとめ、問題点などを確認②

第 24 回 レポート作成の経過発表③

進級および卒業論文の経過をレポートにまとめ、問題点などを確認③

第 25 回 最終目標の達成①

最終目標に達成するために、必要ならばグループを作り、お互いに問題点などを検討①

第 26 回 最終目標の達成②

最終目標に達成するために、必要ならばグループを作り、お互いに問題点などを検討②

第 27 回 最終目標の達成③

最終目標に達成するために、必要ならばグループを作り、お互いに問題点などを検討③

第 28 回 最終発表

最後に得られた結果を発表し、進級および卒業論文としてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の選んだテーマに関するテキスト・参考書を読み進め、自分がわからないところがどこかを明確にしておいてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は特にありません。毎回、プリントを配布するなどして授業を進めていきます。最初の授業で1年間て学びたいテーマをいくつか選んで、各テーマに応じてテキストを選びます。

【参考書】

特になし。

発行日：2019/5/1

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を進級および卒業レポート（40%）において、また、演習問題への取り組み具合を平常点（60%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がけます。

【その他の重要事項】

関連科目：「数学、情報を読むためにⅠ/Ⅱ」（あるいは「教養数学 A/B」）, 「確率の世界 A/B（確率・統計）」, 「基礎数学Ⅰ/Ⅱ」

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and methods in mathematics.

MAN200FA-A4719

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A5136

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4724

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A4723

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4722

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A5082

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A4721

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4720

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A5028

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

稲垣 京輔 (代講：落合 康裕)

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、日本企業の大半を占める中小企業（ファミリー企業）の事業存続と企業変革について学んでいきます。具体的には、実際の調査（フィールド調査や文献調査等）を行い、経営戦略、経営組織、企業統治の経営学の主要な概念（現象を整理するための武器）を用いて考察を行い理解を深めていきます。学生の皆様が、本演習を通じて、経営者や経営スタッフに必要な企業経営にかかわる総合的な思考力の養成ができるでしょう。

【到達目標】

本演習の到達目標は、学生の皆さんが、企業経営に関して問題意識を持ち、先人の知恵や知識を咀嚼しつつ、自ら調査して真実を突き詰めていこうとする姿勢や作法を習得することにあります。具体的には、学生の皆さんが、ゼミメンバーとの協働活動（グループ研究等）を通じて、発言の作法、問いの立て方、議論の起こし方や進め方、結論の導き方を学び、ビジネスでの実践に耐えうる強かな能力の養成を行います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は、テキスト（教科書）を中心とする文献の購読、個人の研究関心に基づいて研究課題（リサーチ・クエスチョン）の設定を行います。具体的には、文献購読によって実際の企業経営のシーンにおける問題意識を養い、独自の研究課題（研究の切り口）を見つけて頂きます。各グループの研究関心毎に、様々な先行研究（先人の知識）の探索を行い、どのような示唆があるのか、反対に何が明確にされていないのかを学んで頂きます。

秋学期は、グループ研究を計画的かつ論理的に進めていくことが演習活動の中心となります。具体的には、各々の研究課題にそって、研究方法（フィールド調査や文献調査の方法論）を学び、研究対象を定めて実際の調査を行っています。さらにその研究成果をゼミで報告し、論文として纏めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1 回	イントロダクション	・自己紹介 ・研究グループ分け ・3年生の各グループへの参加
2 回	文献購読（経営戦略）問題意識とは	・ポジショニング ・経営資源 ・見えざる資産
3 回	文献購読（競争戦略）問題意識の持ち方	・差別化 ・集中化 ・コストリーダーシップ ・バリューチェーン
4 回	文献購読（競争優位）問題意識と先行研究	・事業ドメイン ・事業システム
5 回	文献購読（成長戦略）先行研究からの知見	・多角化 ・事業ポートフォリオ ・国際化

6 回	文献購読（企業構造と経営戦略）先行研究の課題	・企業の境界線 ・M&A ・事業合理性と組織合理性
7 回	研究中間報告【第一回目】	各グループにおける問題意識と先行研究
8 回	文献購読（国際化戦略）見過ごされてきた課題	・経営と国境 ・経営資源の移転 ・国のポートフォリオ ・研究方法（文献調査）
9 回	文献購読（資本市場と経営戦略）研究課題の意味	・資本市場と企業 ・資本調達のマネジメント ・株主構成 ・研究方法（フィールド調査企業の発掘）
10 回	文献購読（労働市場と経営戦略）研究課題と問題意識	・企業と労働市場との関係 ・日本企業の雇用構造の特性 ・研究方法（フィールド調査企業への依頼）
11 回	文献購読（組織マネジメント）先行研究レビューと研究課題	・組織と個人 ・個人の自律性 ・組織の慣性 ・研究方法（フィールド調査の計画）
12 回	文献購読（組織構造）研究課題と研究対象	・分業化 ・階層化 ・責任と権限 ・コミュニケーション ・研究方法（フィールド調査の実施）
13 回	文献購読（仕事意欲）研究課題と研究方法	・欲求段階説 ・動機付け ・職務特性 ・研究方法（フィールド調査の結果と分析）
14 回	研究中間報告【第二回目】	各グループにおける研究課題設定と研究計画

II 秋学期

回	テーマ	内容
1 回	研究中間報告【第三回目】	フィールド調査の結果報告
2 回	文献購読（計画とコントロール）実証研究の方法	・計画システムの設計 ・コントロールシステムの設計
3 回	文献購読（経営理念と組織文化）実証研究の方法	・経営理念 ・組織文化
4 回	文献購読（リーダーシップ）実証研究の方法	・リーダーシップの源泉 ・リーダーシップの条件
5 回	文献購読（配置、育成、選抜）実証研究の方法	・人材の配置の意味 ・人材の選抜と育成
6 回	文献購読（ファミリー企業の特徴）実証研究の方法	・スリー・サークル・モデル ・同族、資本、経営のマネジメント
7 回	研究中間報告【第四回目】	フィールド調査の結果報告

発行日：2019/5/1

8 回	文献購読（事業承継） 研究の仕上げ作業	・経営と資産の承継 ・社内の事業承継 ・社外の事業承継
9 回	文献購読（後継経営者の 育成） 研究の仕上げ作業	・生得的地位 ・獲得的地位 ・後継者の制約と自律のジレンマ
10 回	文献購読（先代世代経営 者の役割） 研究の仕上げ作業	・エディフィスコンプレックス ・先代経営者の引退
11 回	文献購読（後継者による 企業変革） 研究の仕上げ作業	・先代世代への経営資源の依存 ・後継者独自の経営資源の獲得
12 回	文献購読（後継者へのガ バナンス） 研究の仕上げ作業	・経営者への牽制と規律づけ ・ファミリー企業におけるガバナンス
13 回	他大学ゼミとの交流	・ゼミ報告の対抗戦
14 回	研究最終報告	・研究の振り返り ・卒業研究に向けた取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生の皆さんは、毎回指定するテキスト（教科書）の該当箇所を読み、自分の意見を用意して講義に臨むようにして下さい。自律的な取り組みによって獲得された知識は、学生の皆さんの将来にわたる資産になるでしょう。

【テキスト（教科書）】

落合康裕（2016）『事業承継のジレンマ：後継者の制約と自律のマネジメント』白桃書房,3,456 円（税込み）

【参考書】

基本的に指定テキスト（教科書）や参考書については、第一回目の演習もしくは適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

・クラス発言（問題意識、着眼点、主体性、発言の品質など）30%
・課題レポート（前期・後期）40%
・ゼミへのコミットメント30%
（留意事項）3 回以上の欠席からは減点の対象

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

・テキスト（教科書）
・ノート

*上記の他、適宜指定する。

【その他の重要事項】

・春学期・秋学期合わせての履修の推奨

【関連科目】

特になし

【Outline and objectives】

In this class, we will learn business succession and innovation in small and medium companies (Japanese family business). Students can learn tough knowledge to withstand the severity of business.

MAN200FA-A4725

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A5083

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA-A5029

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A4727

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4726

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A4730

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5137

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4729

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4728

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

稲垣 保弘

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織活動とそのマネジメントについての知識を中心に経営学を身につけて、それを現実の場で活かせるようになること。

この過程で論理的思考力を養うとともに、クリエイティブな発想力を高める。経営関係の英語文献をある程度理解できるようにする（ゼミ生によるプレゼンや補足的な講義の余った時間を活用して、経営学に關係する英語文献の専門用語や、経営学に特徴的な英文について解説）

【到達目標】

概要と目的で示した内容について、できるだけ能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テキスト、論文等を分担して発表してもらい、必要な補足説明を講義形式で行う。

夏季合宿では、ケーススタディを発表してもらう。

英語文献に関しては、専門用語などを中心にこちらで解説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方などについての説明。
2	経営学についての重要な文献の検討 1	経営学についての知識、思考力を身につけるために、重要な文献の検討。
3	経営学についての重要な文献の検討 2	経営学の知識と思考方法を身につける。
4	経営学についての重要な文献の検討 3	経営学の知識と思考方法を身につける。
5	経営に関する重要な専門用語を含む英文の解説	経営関係の英文で使われる専門用語をマスターする。
6	経営学についての重要な文献の検討 4	経営学の知識と思考方法を身につける。
7	経営学についての重要な文献の検討 5	経営学の知識と思考方法を身につける。
8	経営に関する重要な専門用語を含む英文の解説	経営関係の英文で使われる専門用語をマスターする。
9	最新の経営学の論文で易しいものを検討 1	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
10	最新の経営学の論文で易しいものを検討 2	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
11	最新の経営学の論文で易しいものを検討 3	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
12	最新の経営学の論文で易しいものを検討 4	経営学について新しい知識と発想をマスターする。
13	最新の経営学の論文で易しいものを検討 5	経営学の新しい知識と発想をマスターする。

1 4 春学期まとめ

春学期に自分が担当したプレゼンの内容を、他の発表者の内容と関連づけて理解する。

II 秋学期

回	テーマ	内容
1	夏合宿でのケーススタディのプレゼンの内容の再検討 1	自分の担当したケースの内容の拡張と深化。
2	夏合宿でのケーススタディの再検討 2	ケーススタディの内容の拡張と深化。
3	夏合宿でのケーススタディの再検討	内容の拡張と深化。
4	実践的な（ハウツー的）論文の検討 1	現実的な有用性の観点から論文内容を理解する。
5	実践的な論文の検討 2	現実的な有用性の観点から論文内容を理解する。
6	実践的な論文の検討 3	現実的な有用性の観点から論文内容を理解する。
7	最新の重要なテーマに関する英語文献について解説 1	経営学的な雑誌記事、新聞などの英語に慣れる。
8	やや難しい経営関係の論文の検討 1	担当者によるプレゼンにもとづいて、ディスカッションを行う。
9	やや難しい経営関係の論文の検討 2	プレゼンとディスカッション。
10	やや難しい論文の検討 3	プレゼンとディスカッション。各自、自分の関心のあるテーマを固めていく。
11	最新の重要なテーマに関する英語文献について解説 2	新聞、雑誌記事などの経営英語に慣れる。
12	やや難しい論文の検討 4	各自、自分の関心のあるテーマを固めていく。
13	やや難しい論文の検討 5	各自、自分の関心のあるテーマを固めていく。
14	秋学期のまとめ	自分の卒論のテーマを意識しながら、秋学期の内容を各自、自分なりにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンの担当者はレジュメを作成し、その他のメンバーは、文献を前もって読んである程度理解しておく。英語文献については、ゼミでの解説の後、きちんと知識として定着させる。

【テキスト（教科書）】

昨年度は約 30 本の論文を検討。今年度も、マネジメントのほかに、リーダーシップ、モチベーション、戦略、組織などについての論文を検討することになる。どの論文を取り上げるかは、開講時に説明。論文と英語文献はコピーして配布。

【参考書】

テーマごとに必要に応じてゼミの時に紹介。

【成績評価の方法と基準】

3 年生はゼミでの発表などの平常点（50 %）、提出するレジュメ（50 %）などにもとづいて評価する予定。

発行日：2019/5/1

4 年生は卒業論文（100%）に基づいて行う予定。

【学生の意見等からの気づき】

まず個人の能力アップ、そのあとグループ活動なども取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミの開講時に指示。

【その他の重要事項】

ゼミの開講時に詳細は説明。

【関連科目】

経営管理論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営学総論Ⅰ/Ⅱ

MAN200FA-A4731

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A5138

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A5084

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA-A5030

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4736

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A4735

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4734

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A4733

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4732

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

大木 良子

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. ミクロ経済学のツールを用いて、企業や市場の分析を行い、産業組織論や経営の経済学と呼ばれる分野について専門的な知識を得る。
2. 関連する最近の事例を詳しく調べてまとめ、経済理論を用いて分析できるようにする。
3. 知識を身につけると同時に、問題意識を持つ訓練、またプレゼンテーションの技術、論理的に議論を構築する力をつける。

【到達目標】

ミクロ経済学の考え方を身につけ、自分の考え方との違いを明確にすることで、社会に対する複眼的な視点を得ることができるようになる。考える力、書く力、説明する力を身に付けることで、自分なりの考えを導き伝えるプロセスを確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テキストの輪読、要約レポートの読み比べ、3 年生はケーススタディの執筆、4 年生は卒業論文の執筆を行う。

輪読：受講者と相談した上で、ミクロ経済学に関連するテキストやテーマを選び、毎回、テキストの各章を担当者を決めて輪読する。担当者は、そのトピックについて講師として授業を行う。そのために必要なレジュメなど発表の準備をする。このとき、どのようにプレゼンテーションを行えばゼミの参加者が理解しやすいか、工夫することも重要になる。また、プレゼンテーションの最後に、練習問題・ディスカッションテーマを用意しゼミ生全員に出題する。担当者以外は、その章を事前に読み、討論に備える。グループディスカッションをして、代表者はグループの結論を発表する。

要約レポートの読み比べ：各自が選んだテキストの章について 500-1000 字程度の要約を提出し、全員でそのテーマについて議論する。加えて、要約として優れている点を指摘しあう。要約執筆を通して客観的で簡潔な文章を書くことに慣れる。

ケーススタディの執筆：産業組織論のトピックを応用できるような市場、企業、ビジネスモデルについてケーススタディを執筆する。分析ツールとして産業組織論やゲーム理論を用いる。ケーススタディの執筆を通じて卒業論文のテーマを決めることに役立てる。

卒業論文の執筆：論理的な文章の書き方、専門文献の探し方を学んだ上で、自分の関心を具体的な問題に落とし込み、研究する。中間・最終報告では、論文の内容についてプレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	候補の中から輪読するテキストを決定する。報告の具体的なひな形を説明し、報告の順番を決める。

2	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
3	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
4	ロジックツリーの理解	日本語論文を読み、そのロジックツリーを作成する
5	要約の批評	第 4 回で学んだ論文について、ロジックツリーを活かした要約を執筆し参加者で批評をする
6	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
7	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
8	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
9	学術論文のルール	学術論文執筆の際に必要な引用の考え方など基本ルールを学ぶ。新聞記事などと比較し違いを認識する。
10	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
11	テキスト 1 に関する復習	テキスト 1 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
12	ケーススタディ	見本となるケーススタディを読み、ケーススタディとはなにか、執筆にはどのような情報が必要かを学ぶ
13	卒業論文テーマ発表会	4 年生による卒業論文のテーマ発表会
14	秋学期ケーススタディテーマに関するディスカッション	3 年生が各自の関心に基づき、テーマを発表し、研究対象を絞り込む

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	ケーススタディ執筆計画の発表	ケーススタディ執筆にあたり、研究テーマの内容を確認し、重要な文献リストを作成する。
16	卒業論文中間報告会	4 年生による卒業論文の中間報告会
17	論文執筆方法	論文の基本的な成り立ち、論理構造、引用のしかたなど基本的な知識を学ぶ。
18	テキスト 3 の輪読	テキスト 3 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。

19	テキスト 3 の輪読	テキスト 3 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
20	卒業論文中間報告会	卒業論文の中間報告会。プレゼンテーションと質疑応答
21	ケーススタディ中間報告会	ケーススタディの中間報告会。プレゼンテーションと質疑応答
22	テキスト 3 の輪読	テキスト 3 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
23	テキスト 3 の輪読	テキスト 3 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
24	テキスト 3 の輪読	テキスト 3 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
25	テキスト 3 に関する復習	テキスト 3 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
26	ケーススタディ最終報告会	3 年生によるケーススタディの最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答
27	卒業論文最終報告会	4 年生による卒業論文の最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答
28	卒業論文最終報告会	4 年生による卒業論文の最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週テキストを予習し、具体的な質問を考え、授業中の議論への準備をすること。

運営はなるべく参加者に委ねます。何を勉強したいのか、何を明らかにしたいか、またそのためには何をすればよいのかについて、自主的に取り組み、問題が生じれば自分で解決すること。

事前準備にあたり、どうしても分からない箇所があってもかまわないが、分からない部分をはっきりさせて授業中に質問すること。

【テキスト（教科書）】

輪読用テキスト（テキスト 1、3）の現段階の候補として、以下を挙げる。主にこの中から受講生の関心に合わせて選択する。

『産業組織とビジネスの経済学』 花崗誠 有斐閣 2018 年

『入門 ゲーム理論と情報の経済学』 神戸伸輔著、日本評論社、2004 年

『イノベーション時代の競争政策』 小田切宏之著、有斐閣、2016 年

『競争政策論 第 2 版』 小田切宏之著、日本評論社、2017 年

『経営の経済学 第 3 版』 丸山雅祥著、有斐閣、2017 年

春学期要約用テキスト（テキスト 2）は受講生の関心に合わせて選択する。経済学の専門的な論文や専門書籍を想定している。

【参考書】

文章の書き方、ロジカルシンキング等に関する書籍を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への主体的な関わり 50 %

提出物 50 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生の状況に応じて、授業内容を調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学に関する基本的な知識を習得済みであることを望みます。

この授業は、ミクロ経済学入門 I/II、応用経済学 I/II、産業組織論 I/II と関連しています。

【実務経験のある教員による授業】

経営コンサルティング会社において勤務した経験があります。実際に見聞した企業の事例なども適宜紹介します。

【Outline and objectives】

1. We will learn theory Industrial Organization to understand how markets work in a logical way and to obtain new perspective on firms' behaviors.

2. Through writing a case study and a graduation thesis, students get ability to analyze the real-world examples by applying microeconomic theory.

3. In addition to knowledge acquisition, this course provides training of logical thinking, presentation and discussion skills.

MAN200FA-A4737

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A4742

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A4740

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5139

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4741

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A5085

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A4739

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4738

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A5031

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

大下 勇二

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計の理論的・実践的学習。財務会計の様々な問題を学習し、財務会計の基本的な考え方と具体的な会計処理を学習する。

【到達目標】

財務・会計情報がどのようなルールの下で作成されているのか、そのルールの基本的な考え方はどのようなものかといった財務会計理論の基礎の涵養を目指します。

さらに、二・三年生は財務会計の基礎を学習する中でプレゼンテーションおよび議論の仕方を学び、自分の考えを適切に表現する能力を養います。

四年生は財務会計の特定の問題を深く研究しこれを卒業論文の形にまとめることで、物事を深く考え・分析し、それをまとめる能力を養います。

二・三年生はレポート等の作成により、四年生は論文の作成により、問題の把握、問題へのアプローチの仕方、文献・資料の収集と分析の仕方、自分の考えのまとめ方・文章化など、レポート・論文を作成する能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

二・三年生は会計学の基礎とデータ分析の基礎を理解できるように努める。毎回報告者が財務会計テキストの担当部分をレポートし全員で議論する。報告者は事前に十分な準備をしておく必要があります。また、エクセルによるデータの分析方法を修得します。テキストに基づく基礎的学習の後、3グループに分かれて企業分析を行い、複数回報告（プレゼン）してもらい、最終的に報告書にまとめます。

四年生は卒業論文の作成に向けて論文のテーマを決め、関連する論文・文献の収集を始めて論文の作成作業に取りかかります。年数回の中間報告を行います。

三年生の企業分析報告書と四年生の卒業論文はゼミ論文集の形にまとめ印刷します。

授業は教室での学習が中心ですが、この他夏合宿と春合宿を実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	基本テキストの分担の決定、参考文献等の紹介など
第 2 回	財務会計の基礎	3 年生はテキスト第 1 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 3 回	財務諸表の仕組み	3 年生はテキスト第 2 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 4 回	棚卸資産の会計	3 年生はテキスト第 3 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 5 回	有形固定資産の会計	3 年生はテキスト第 4 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 6 回	無形固定資産および繰延資産の会計	3 年生はテキスト第 5 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告

第 7 回	金融資産の会計	3 年生はテキスト第 6 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 8 回	負債の会計	3 年生はテキスト第 7 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 9 回	純資産の会計	3 年生はテキスト第 8 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 10 回	収益と費用の会計	3 年生はテキスト第 9 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 11 回	税効果会計	3 年生はテキスト第 10 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 12 回	外貨換算会計	3 年生はテキスト第 11 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 13 回	企業結合会計	3 年生はテキスト第 12 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 14 回	連結財務諸表	3 年生はテキスト第 13 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	財務諸表の分析 (1)	3 年生はテキスト第 14 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第 16 回	財務諸表の分析 (2)	3 年生はエクセルを用いた企業財務データ分析の演習。4 年生は卒業論文の中間報告
第 17 回	財務諸表の分析 (3)	3 年生はエクセルを用いた企業財務データ分析の演習。4 年生は卒業論文の中間報告
第 18 回	財務諸表の分析 (4)	3 年生はエクセルを用いた企業財務データ分析の演習。4 年生は卒業論文の中間報告
第 19 回	グループワークによる企業分析 (1)	複数のグループに分れ、特定の業界・企業を選定する作業を行う。
第 20 回	グループワークによる企業分析 (2)	選定した業界・企業に関するデータの蒐集作業を行う。
第 21 回	グループワークによる企業分析 (3)	蒐集した業界・企業のデータに基づいて様々な観点から分析作業を行う。
第 22 回	グループワークによる企業分析 (4)	各グループごとにまとめた分析結果を中間報告し、議論する。
第 23 回	グループワークによる企業分析 (5)	中間報告での指摘に基づいて、分析の再検討を行う。
第 24 回	グループワークによる企業分析 (6)	分析の再検討を反映した最終報告書をまとめる。
第 25 回	グループワークによる企業分析 (7)	各グループごとに最終報告し、これを議論する。最終報告書はゼミ論文集に掲載する。
第 26 回	卒業論文の最終報告 (1)	4 年生の卒業論文を報告してもらう。各自の卒業論文はゼミ論文集にまとめる。
第 27 回	卒業論文の最終報告 (2)	4 年生の卒業論文を報告してもらう。各自の卒業論文はゼミ論文集にまとめる。
第 28 回	総括	1 年間のゼミ活動を総括する。

発行日：2019/5/1

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告担当者でなくても、テキストを事前に読んでおき、質問事項を考えておくことが必要です。

【テキスト（教科書）】

財務会計のスタンダードなテキストを用います。田中建二著『財務会計入門』（最新版）（中央経済社）を使用する予定です。データ分析に関するテキストは最初の授業で指示します。

【参考書】

最初の授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) およびグループワーク報告書・進級レポート (50%)(3 年生の場合) または卒業論文 (50%)(4 年生の場合) により評価します。なお、平常点の評価は春・夏の合宿への出席を含みます。

【学生の意見等からの気づき】

会計データの作成プロセスの面とこれに基づく分析の面をバランス良く学習できるよう工夫したいと思います。

【その他の重要事項】

本ゼミは財務会計の分野を中心に学習しますので、1 年次の簿記入門Ⅰ・Ⅱ、2 年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱの既習者であり、3・4 年次の財務会計論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳなどの会計関連の専門科目を履修することが望ましい。

ゼミでの報告は基本的に簿記 3 級程度以上の知識、パワーポイントの基礎およびエクセルの基礎を修得していることを前提としていますので、4 月の授業開始までに、これらを修得しておいてください。

【Outline and objectives】

The objective of this subject is to understand the bases of financial accounting and financial data analysis.

MAN200FA-A4743

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A4748

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5140

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4747

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4746

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A5086

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A4745

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4744

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A5032

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

小川 孔輔

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

輪読、事例研究を通してマーケティングを学ぶ。

【到達目標】

個人発表、グループ発表、フィールドワークの発表。プレゼンテーション力、リサーチ能力、グループでの作業を遂行する力などを鍛えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

演習は以下の 6 つの柱からなる。

1. テキストの輪読（ふだんは英文）、合宿では日本語テキストもあり。
2. マーケティング活動についての事例、および雑誌記事などを材料にしたグループ討論
3. フィールドワーク（市場調査と商品開発）と、インタビュー形式の企業ヒアリング。それらを素材にしたディスカッションとレポートの作成（隔月で課題図書感想文）：2011 年度は小田急ランドフローラ、松川弁当店（米沢牛の駅弁開発）、2013 年度はカインズ、ヤオコー、シーラック（バリ勝男くん わさびマヨ味開発）、ビレロイ&ボッホ、2017 年度はカインズ、ナチュラルローソン（140 店舗でヘルシースナッキング棚提案・林檎ビネガー酎ハイ開発）、アールピーズ（ランナース）、シェアードブルワリー（HOSEI CRAFT BEER 開発）を調査対象企業として、企業と協力しながら実施した。
4. 卒業論文（フィールドワークの報告書）。
5. 春・夏の合宿
6. 企業での実務研究（3 年次に、インターンシップに参加）、店舗・工場見学（過去、幸楽苑、カインズ、ロック・フィールド、日高屋工場見学）、食品スーパーヤオコーの「感動と笑顔の祭典」で特別プレゼンテーション（2014 年）、大学院生との共同調査（ユニクロ銀座店でバンドル販売の店頭実験、パンコク市内のファミリーマートで調査）など。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	1 年間の活動内容を計画、決定する
第 2 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（1）	第 2 回から第 14 回までは、共通（テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う）
第 3 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（2）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 4 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（3）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 5 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（4）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う

第 6 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（5）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 7 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（6）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 8 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（7）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 9 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（8）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 10 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（9）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 11 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（10）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 12 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（11）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 13 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（12）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 14 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（13）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	春学期のまとめ	春学期のまとめと夏期合宿について
第 16 回	課題図書の個人発表	春学期の課題図書の個人発表とディスカッション
第 17 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（14）	第 17 回から第 29 回までは、共通（テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う）
第 18 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（15）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 19 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（16）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 20 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（17）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 21 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（18）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 22 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告（19）	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う

発行日：2019/5/1

第 23 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告 (20)	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 24 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告 (21)	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 25 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告 (22)	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 26 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告 (23)	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 27 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告 (24)	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う
第 28 回	テキスト輪読、個人発表、フィールドワーク調査報告 (25)	テキストに関する個人発表とディスカッション、フィールドワークの報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや課題図書の購読、個人発表の準備、グループ発表の準備、フィールドワークに関する調査、準備等。

【テキスト（教科書）】

Barry Berman, Joel R. Evans, and Patrail Chatterjee (2017) 'Retail Management: A Strategic Approach,' Pearson (昨年度)。今年度も、ピアソンの教科書シリーズから選書の予定。

【参考書】

小川孔輔（2009）『マーケティング入門』日本経済新聞出版社、
小川孔輔（2011）『ブランド戦略の実際＜第2版＞』日経文庫、
岩崎達也・小川孔輔編著（2017）『メディアの循環』生産性出版。

【成績評価の方法と基準】

個人報告・グループ討議（1/2）、卒業論文（1/4）、隔月実施の「課題図書」（1/4）

【学生の意見等からの気づき】

テキストの選択時に学生の意見を参考にする。

【関連科目】

経営学総論Ⅰ／Ⅱ、基礎統計学Ⅰ／Ⅱ、マーケティング論Ⅰ／Ⅱ、流通論Ⅰ／Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ／Ⅱ、情報科学実習Ⅰ／Ⅱ。

【Outline and objectives】

Students who participate in this seminar class will learn about the basic theory of marketing. In addition, they can understand the marketing practices by experiencing application methods and case studies.

MAN200FA-A4749

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A5087

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4754

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5141

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4753

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4752

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A4751

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4750

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A5033

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

小川 憲彦

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織行動論（ミクロ組織論あるいは組織心理学）のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う（＝演習の）場、そのための訓練の場というのが本来的な意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。したがって卒論を書きたくないという方は応募・履修を勧めません。

【到達目標】

初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて学びます。

第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。

第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。

次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。

また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってもらいたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

3 年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連する議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってもらいます。各自が何らかの小委員会に所属し、相応の役割を担ってもらう予定です。

4 年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】
I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（シラバスの配布、各種委員の紹介など）	グループ等の決定
第 2 回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定
第 3 回	MBO 発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第 4 回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3 年生はグループごと、4 年生は数人程度で進捗報告を行う
第 5 回	Kotter(1982) の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック

第 6 回	Schein(1990) の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第 7 回	研究とは何か	研究活動の説明
第 8 回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第 9 回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第 10 回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第 11 回	先行研究の読み方（量的実証研究）	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第 12 回	先行研究の読み方（質的経験的研究）	具体的研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第 13 回	360 度フィードバック	評価と振り返り
第 14 回	MBO 中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

II 秋学期	テーマ	内容
第 1 回	合宿総括、夏季休暇の振り返り、秋学期 MBO など	全員、全班が実施
第 2 回	研究デザインについて	調査対象と分析枠組みの検討
第 3 回	調査項目の検討	聞き取り項目、質問票の設計
第 4 回	パイロット調査報告	調査項目に基づく事前調査の実施結果の報告とフィードバック
第 5 回	卒業研究進捗報告と共同研究計画の発表	3 年生はグループごと、4 年生は数人程度で進捗報告を行う
第 6 回	分析結果の報告①	3 年生はグループごと、4 年生は数人程度で進捗報告を行う
第 7 回	分析結果の報告②	3 年生はグループごと、4 年生は数人程度で進捗報告を行う
第 8 回	合同ゼミでの研究発表	他大学との合同ゼミでの研究発表
第 9 回	合同ゼミの振り返りと、結果の理論的含意の検討	結果の見直し、および結果と先行研究との関係
第 10 回	結果の実践的含意と限界	結果の実践上の意義と研究の限界および今後の課題の検討
第 11 回	卒業研究報告と入ゼミ総括	4 年生と入ゼミ委員会
第 12 回	卒業研究進捗報告と共同研究計画の発表	3 年生はグループごと、4 年生は数人程度で進捗報告を行う
第 13 回	卒業研究進捗報告と共同研究計画の発表	3 年生はグループごと、4 年生は数人程度で進捗報告を行う
第 14 回	360 度フィードバック	全員、全班の評価と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが文献を探しまとめ発表準備をする必要があります。
・必要に応じてサブゼミ等を行ってもらいます。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてこちらから指示しますので基本的に購入してください（図書館にないこともあります）。

【参考書】
Robbins, S. P. & Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

【成績評価の方法と基準】

・初年度（3 年時）は、平常点（社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等）とレポートなどの提出物を総合的に評価します。（平常点 70 %、提出物 30 %）
・次年度の評価は、上記に加え、卒論の評価が大きなウエイトを占めます。（後輩指導と卒論進捗報告他を含む平常点 50 %、卒論等の提出物 50 %）
・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります（その他参照）。

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ授業時間内での終了を目指しますが、必要に応じ、やるときはやる、という姿勢を貫徹します。

【学生が準備すべき機器他】

・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング
・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出

【その他の重要事項】

- ① 2 年間の登録を基本単位と考えてください。
- ② 私が担当するキャリア・マネジメント I / II の履修が前提です。未履修の場合は即座に履修し A 以上の成績で単位修得すること。
- ③ 多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってくること。
- ④ 年間のうち個人的事情による欠席 2 回でゼミを除籍とし D 評価とします。
- ⑤ 不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。
- ⑥ 飲み会などいかなる場面でも、私のいる場では禁煙です。
- ⑦ スケジュール等はあくまで暫定のものです。
- ⑧ このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。
履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to complete your diploma thesis on organizational behavior/organizational psychology.

MAN200FA-A4755

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A5088

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4760

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5142

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4759

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4758

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A4757

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4756

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A5034

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

奥西 好夫

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】

- ①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
- ②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
- ③学生は、②の結論を他人に伝えるときにも、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
- ・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
- ・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・2・3 年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として 2 人 1 組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
- ・4 年生は、それに加えゼミ論文を作成する。
- ・映画鑑賞、社会人とのディスカッションなども随時行う。
- ・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1.	イントロダクション	・ゼミの概要、年間計画、進め方等の確認
2.	発表・議論の仕方、説得の手法	・映画「12 人の怒れる男」
3.	英文ケースの報告と議論 (1)	・スティーブ・ジョブズのプレゼン
4.	英文ケースの報告と議論 (2)	・Nkomo et al.(2011) の Case 1
5.	英文ケースの報告と議論 (3)	・同 Case 2
6.	英文ケースの報告と議論 (4)	・同 Case 8
7.	英文ケースの報告と議論 (5)	・同 Case 11
8.	英文ケースの報告と議論 (6)	・同 Case 12
		・同 Case 13
		・同 Case 14
		・同 Case 15
		・同 Case 25
		・同 Case 26
		・同 Case 27
		・同 Case 34

9.	英文ケースの報告と議論 (7)	・同 Case 35
10.	英文ケースの報告と議論 (8)	・同 Case 36
11.	英文ケースの報告と議論 (9)	・同 Case 37
12.	英文ケースの報告と議論 (10)	・同 Case 38
13.	英文ケースの報告と議論 (11)	・同 Case 39
14.	英文ケースの報告と議論 (12)	・同 Case 51
		・同 Case 52
		・同 Case 53
		・同 Case 54
		・同 Case 59
		・同 Case 60
		・同 Case 65

II 秋学期

回	テーマ	内容
15.	4 年生卒論報告 (1)	・テーマ、研究計画の報告、
16.	英文ケースの報告と議論 (13)	・同 Case 66
17.	英文ケースの報告と議論 (14)	・同 Case 67
18.	英文ケースの報告と議論 (15)	・同 Case 76
19.	英文ケースの報告と議論 (16)	・同 Case 77
20.	英文ケースの報告と議論 (17)	・同 Case 78
21.	英文ケースの報告と議論 (18)	・同 Case 85
22.	英文ケースの報告と議論 (19)	・同 Case 88
23.	英文ケースの報告と議論 (20)	・同 Case 89
24.	組織と人間行動	・同 Case 90
25.	4 年生卒論報告 (2)	・同 Case 98
26.	4 年生卒論報告 (3)	・同 Case 99
27.	ゼミのまとめ (1)	・同 Case 103
		・同 Case 104
		・同 Case 105
		・同 Case 106
28.	ゼミのまとめ (2)	・映画「チャイナ・シンドローム」
		・研究経過報告（グループ 1）
		・研究経過報告（グループ 2）
		・日本の時事的テーマに関する議論（例：働き方改革）
		・「健全な懐疑精神」とは？（例：生産性に関する議論）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。

・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう、十分意識すること。担当者は、毎回の議論のテーマ、要点、反省点等をゼミのフェイブックにアップする。

【テキスト（教科書）】

・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011) を使う予定。その他、参考文献は適宜指示する。

【参考書】

・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト 人事管理入門（第2版）』（日本経済新聞社、2009）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。

・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】

・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは100%）。

・なお、4年生の場合は、ゼミ論文（卒論）の内容、質も重視する（平常点が70%、卒論が30%）。

【学生の意見等からの気づき】

・これまで、アンケートでの改善提案はほとんどなかったが、一点だけ「卒論に関する情報を明確にしてほしい」との指摘があった。毎年卒論に関するコメントを全員公開でフィードバックしているが、今後は事前の書き方指導にもより力を入れる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手がきわめて容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。

・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。

・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学Ⅰ、人的資源管理Ⅰ/Ⅱなど。

【Outline and objectives】

・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.

・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.

MAN200FA-A4761

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A5089

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4766

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5143

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4765

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4764

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A4763

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4762

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A5035

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

神谷 健司

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計を研究するゼミであり、わが国のディスクロージャー制度の現状と問題点について研究していきます。また実際の会計データを用いた企業分析についても研究したいと思います。また本年度は現在用いられている経営戦略の分析枠組みにおいて会計情報を実際にいかに活用するかの議論もしたいと思います。

【到達目標】

財務会計の中級レベルまでの知識の習得と財務データを使った企業の財務状況の分析がある程度できるようになってもらいたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

受講生による報告に基づいて、内容の確認、議論を行います。2 コマ 3 時間が正規の演習時間ですが、希望者による延長戦も予定しています。その時間では卒業論文の中間報告をしてもらったり、基本的な英語文献を読みたいと思います。

基本的に 2 年次からゼミに入って、3 年間継続してもらいたいと思います。募集の基本的方針もそれに基づきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	財務会計の基礎、財務諸表の仕組み	報告に基いてディスカッションを行う
第 2 回	棚卸資産の会計、有形固定資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 3 回	無形固定資産、繰延資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 4 回	金融資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 5 回	負債の会計、純資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 6 回	収益と費用の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 7 回	税効果会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 8 回	外貨換算会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 9 回	企業結合会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 10 回	連結財務諸表	報告に基いてディスカッションを行う
第 11 回	企業評価の方法	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 12 回	定性的な分析と財務データの関連付け	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 13 回	財務データの見方	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 14 回	財務比率分析	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	会計方針と企業分析	テキストの範囲の事例に基づいて、各自の選択した企業の分析報告
第 2 回	企業会計の本質とフレームワーク	報告に基いてディスカッションを行う
第 3 回	会計制度の論理と体系	報告に基いてディスカッションを行う
第 4 回	企業のディスクロージャー	報告に基いてディスカッションを行う
第 5 回	損益計算書のパラダイム	報告に基いてディスカッションを行う
第 6 回	経営パフォーマンスの測定と表示	報告に基いてディスカッションを行う
第 7 回	貸借対照表のパラダイム	報告に基いてディスカッションを行う
第 8 回	資産の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 9 回	持分の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 10 回	金融商品の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 11 回	従業員給付の会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 12 回	連結グループの会計	報告に基いてディスカッションを行う
第 13 回	武田薬品工業の分析	武田薬品の歴史、現状、経営戦略、製薬業界全体の現状について考える
第 14 回	カルビーの分析	カルビーの経営戦略、製薬業界全体の現状について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ翌週行う範囲の部分については十分予習を行い、疑問点等を整理しておく必要がある。

【テキスト（教科書）】

齋藤真哉他『財務会計』新世社（2014 年）を最初のテキストとして用いる。そのあとは伊藤邦雄『新・現代会計入門（第 3 版）』日本経済新聞出版社（2018 年）、伊藤邦雄『新・企業価値評価』日本経済新聞出版社（2014 年）などを予定している。

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点を中心に総合的な評価をします。進級論文、卒業論文の提出が求められます。各学年、平常点 7 割、論文 3 割で評価。

【学生の意見等からの気づき】

4 年生の卒論作成のための指導についてはゼミの時間外に別途行いたいと思います。またゼミの時間外にゼミの卒業生で企業の経理・財務部門やコンサルティング企業で活躍されている人達に来てもらって話を聞く機会を年 3、4 回設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

年 2 回の合宿があります。何事にも積極的に取り組む学生の参加を望みます。2 年次から参加する学生も歓迎です。また将来、企業の経理部門や財務部門で働きたい学生やコンサルティング業界に進もうと考えている学生の参加を歓迎します。

発行日：2019/5/1

本演習についての1・2年次の関連科目は「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」、「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」といえるが、企業分析を行う際には「経営戦略論Ⅰ/Ⅱ」の知識も有用である。3年次以降に開講されている会計科目のすべてが本演習の関連科目である。

【関連科目】

簿記入門、会計学入門、財務会計論、経営分析論、国際会計論など

【Outline and objectives】

This seminar is to study accounting standards, reporting systems in Japan, and the foundations of corporate analysis. The goal of this seminar is to understand how financial statements are prepared and to acquire the ability to analyze the performance of companies using actual data in consideration of economic movements. Finally, we will be able to get the skills to think various accounting problems logically.

MAN200FA-A4767

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A4772

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5144

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4771

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4770

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A5090

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A4769

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4768

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A5036

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

川島 健司

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計（財務報告）に関する学習と研究を行い、論文を執筆する。会計とは私たちの生活の営みの 1 つであり、経済的な活動の様子をカネの視点で描写して、計測して、評価して、報告する行いである。それは私たち個人のレベルも含めて様々なレベルで日々行われているが、本演習ではとくに企業のレベルで行われている会計について学習・研究する。

企業レベルの会計では、それぞれの企業が勝手に独自の方法で会計の営みをする社会的な非効率が生じるので、ある一定のルールが設けられている。そのルールを学ぶことは本演習での学びの 1 つである。そのルールとは具体的に会計法規や会計基準である。一通りのルールを知ると、それぞれのルールの合理性や論理性、あるいはルールの経済的な帰結などについて興味が湧いてくるかもしれない。本演習では、そのような興味を一般に認められている学術的な方法によって研究する。

また、多くの企業は、会計の営みによって財務諸表を作って一般に広く公表している。私たちはこの財務諸表を使って企業の実態を調べることができる。興味のある企業を選び、その企業の財務諸表を入手し、財務諸表の分析方法を学びながら、その企業の分析レポートを書く、ということも本演習の活動の 1 つである。

以上のうち具体的にどれをどのように学ぶかは履修生の関心に依存し、履修生と相談しながら計画して進める。

【到達目標】

- 1 社会人として通用する文章表現力をつける。
- 2 会計基準を読解し、基本的な会計処理の技術を理解する。
- 3 問題提起と仮説・検証の方法を理解し、これを実践する。
- 4 学術論文（日本語・英語）を身近なものとして読解できる力を得る。

以上のうち本演習が最重視することは、文章表現力をつけること、すなわち「文献を読んで、文章を書くこと」である。次いで、会計学の演習であるから会計処理・計算も正確に行えることを重視する。要するに「読み、書き、計算」である。プレゼンテーションやグループディスカッションよりも、「読み書き計算」がきちんと行えるようになることを目指す。プレゼンやディスカッションはその後である。

具体的には、専門書を読みながら、自分で調べたり考えたりしたことについて、各自 1 年間に A4 で合計 100 ～ 150 ページの量の文章を書く。文章を書いて、それを本演習で発表し、その都度、文章や論理の修正をして、最終的に社会人として通用する文章を書けるようにする。地味な修行である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

①会計・財務報告に関する文献の輪読：本年度は、ウィリアム・H・ビーヴァー著・伊藤邦雄訳『財務報告革命』（第 3 版）を 1 年間かけて輪読する予定である。本書を読むためには、会計学とファイナンスの基礎知識が必要であり、その必要に応じて適宜、追加的な文献を選定して知識を補足する。履修生の関心、知識量、理解度、理解の速さなどを考慮しながら、毎回の講義内容を柔軟に決定する。

②法政大学懸賞論文への応募：学習・研究の成果を発表する機会として、履修生は個人で法政大学・懸賞論文大会に論文を提出することを目指す。

③卒業論文の制作：4 年生は卒業論文の提出を義務づけている。毎年、卒業論文集を制作しており、当該卒業論文集は本演習の教材としても活用している。研究の遂行および論文の執筆にあたり、研究方法に関する文献を輪読する。本年度は、高根正昭『創造の方法学』を輪読する予定である。

④合宿：夏と春に日本国内で 1 泊 2 日のゼミ合宿を開催する。費用は 1 回につき 2 万円程度。

⑤インターゼミナール：研究成果を発表する機会の場として、インターゼミナールを年に 2 回開催する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
1	輪読『財務報告革命』：第 1 章「革命」	20 世紀に財務報告の分野で起きた「会計革命」を概観、主要論点を認識。主要なステークホルダーにとって会計の役割とは何かを考察する。
2	輪読『財務報告革命』：第 1 章「革命」（つづき）	望ましい「発生主義会計」とは何かを考察する。
3	輪読『財務報告革命』：第 2 章「情報」	会計の役割を、会計情報の利用者にとつての意思決定を支援する情報、という観点から捉えて考察。
4	輪読『財務報告革命』：第 2 章「情報」（つづき）	会計情報利用者の意思決定モデルとして、ファイナンス分野におけるポートフォリオ理論について学ぶ。
5	輪読『財務報告革命』：第 2 章「情報」（つづき）	ポートフォリオ理論を前提に、会計情報の機能やその兼ね備えるべき特性について考察。
6	輪読『財務報告革命』：第 3 章「確実性」	完全・完備市場を前提に、理想的な望ましい会計利益とは何かを考察。
7	輪読『財務報告革命』：第 3 章「確実性」（つづき）	資本利子としての経済（学）的利益、および Edwards and Bell の主観的のれんの概念を理解する。
8	輪読『財務報告革命』：第 3 章「確実性」（つづき）	経済学的利益をベンチマークとして、会計利益を評価する。
9	輪読『財務報告革命』：第 4 章「不確実性」	完全・完備市場という理想的条件を取り外した場合、経済的利益の性質はどのように変化するかを検討。
10	輪読『財務報告革命』：第 4 章「不確実性」（つづき）	より現実的な不完備・不完全市場という条件下での会計利益を評価する。
11	輪読『財務報告革命』：第 4 章「不確実性」（つづき）	会計利益に関する研究課題および論点を整理する。
12	輪読『財務報告革命』：第 5 章「証拠」	会計領域における実証的研究の概要とその論文の読み方を知る。
13	輪読『財務報告革命』：第 5 章「証拠」（つづき）	会計情報のイベントスタディーに関する研究の方法と主な結果を概観する。
14	輪読『財務報告革命』：第 5 章「証拠」（つづき）	会計利益の価値関連性、会計方針の選択に関する実証論文を概観。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	輪読『財務報告革命』：第6章「市場の効率性」	市場の効率性という概念について学ぶ。関連する実証論文を概観。
16	輪読『財務報告革命』：第6章「市場の効率性」(つづき)	市場の効率性と会計情報との関係について考察する。関連する実証論文を概観。
17	輪読『財務報告革命』：第7章「規制」	会計規制が存在する根拠を検討。会計規制に関する主要な論点を認識する。
18	輪読『財務報告革命』：第7章「規制」(つづき)	会計規制に関する実証研究を概観する。
19	輪読『財務報告革命』：「訳者あとがき」	輪読のまとめとして「訳者あとがき」を題材に、自由に議論する。
20	過去の卒業論文を読むⅠ	本演習の卒業生が執筆した卒業論文を読む。可能であれば、執筆者本人にゲストとして参加してもらう予定。会計処理の手続き、会計制度に関する研究。
21	過去の卒業論文を読むⅡ	企業の会計行動に関する研究を読む。
22	過去の卒業論文を読むⅢ	企業経営、業界に関する研究を読む。
23	輪読『創造の的方法学』	要約担当者による要約と質疑応答。知的創造とは何か。
24	輪読『創造の的方法学』(つづき)	要約担当者による要約と質疑応答。問題をどうたてるか。
25	輪読『創造の的方法学』(つづき)	要約担当者による要約と質疑応答。理論と経験とをつなぐ。
26	輪読『創造の的方法学』(つづき)	要約担当者による要約と質疑応答。数量的研究の方法／全体像をどうつかむか／方法論の一般理論へ
27	輪読『創造の的方法学』(つづき)	要約担当者による要約と質疑応答。科学的説明とは何か／数量的研究の方法
28	輪読『創造の的方法学』(つづき)	要約担当者による要約と質疑応答。まとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読に際し、全員が指定範囲を精読する。発表担当者は指定範囲を要約したレジュメを作成する。研究成果を発表する際にはレジュメを作成する。

【テキスト（教科書）】

①ウィリアム・H・ビーヴァー著・伊藤邦雄訳『財務報告革命』（第3版）、白桃書房、2010年。 ②高根正昭『創造の的方法学』講談社現代新書、1979年。

【参考書】

①ウィリアム・R・スコット著・太田康広他訳『財務会計の理論と実証』中央経済社、2008年。 ②刈谷剛彦『知的複眼思考法—誰でも持っている創造力のスイッチ』講談社+α文庫、2002年。 ③伊丹敬之『創造的論文の書き方』有斐閣、2001年。 ④Craig, D. Financial Accounting Theory, 3rd edition, McGraw-Hill, 2009. ⑤Kieso, D.E. et al. Intermediate Accounting, 15th edition, Wiley, 2013.

【成績評価の方法と基準】

C評価: 演習に原則的に毎回出席し、かつ、興味のある研究テーマをもち、論文執筆について意欲がある。B評価: C評価に加えて、演習で扱った学習内容を理解している。議論に用いる会計の語彙数*: 200～500のレベル。A評価: B評価に加えて、自ら文献を読解し、研究を遂行している。懸賞論文大会またはこれと同等の論文大会に、研究成果を提出していること。かつ、4年生は卒業論文を提出していること（またはその見込みがあること）。議論に用いる会計の語彙数*: 500～800のレベル。A+評価: A評価に加えて、演習の他の履修生に対して、自らの経験と知識を教える能力がある、またはその姿勢がある。議論に用いる会計の語彙数*: 800以上のレベル。*標準的な中級の財務会計の教科書における索引には約1,000の語彙が記載されている。

【学生の意見等からの気づき】

卒業生との交流の場を増やしてほしいという指摘がある。このため、例年開催しているOB・OG会に加えて、合宿および卒論発表会に卒業生を招待し、現役生と卒業生が交流する機会を増やす。

【関連科目】

簿記入門、会計学入門、財務会計論、経営分析

【Outline and objectives】

This lecture is to study corporate financial accounting and reporting. Accounting is one of the activities of our lives, depicting the state of economic activity from the viewpoint of money, measuring, evaluating and reporting. It is on a daily basis at various levels including our individual level. In this class, we learn and study the accounting, which is especially at the enterprise level.

In enterprise level accounting, certain rules are set up as society inefficiencies arise when each company arbitrarily manages accounting in its own way. Learning that rule is one of learning in this class. That rule is so called accounting laws and accounting standards. Knowing the rules in general, students might be interested in the rationality and logic of each rule, economic consequences of rules, and so on. In this class, we will study such interests using academic methods.

MAN200FA-A4773

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A5091

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4778

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5145

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4777

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4776

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A4775

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4774

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A5037

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

河内谷 幸子

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はゼミ形式で、情報化社会の諸現象や IT ビジネスの動向について調査して学ぶ。広い知識を習得し、問題点を整理し、考える姿勢を身につける。また、論文のまとめ方や発表の方法を学ぶ。

【到達目標】

IT ビジネスや IT 時事問題や情報化社会の諸問題について調査して情報を取捨選択できるように、自分なりの意見を持ち、その内容を効果的に発信できるように。ディスカッション能力や発表力を上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義、文献の輪読、文献検索を中心とした調査、ディスカッションを行う。学期に1～2回、個人発表会で各自の研究テーマの調査結果を発表する。学期に1回、グループ研究による発表会を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	調査と発表の方法	文献検索をはじめとする調査方法、レジュメ作成方法、発表方法などの基礎を学ぶ。
2	SNS	SNS（Social Networking Service）の動向について文献輪読や文献検索により調べて学びディスカッションする。
3	IT ビジネス	ネット広告、ネットショッピング、クラウドソーシング、ビッグデータ、オープンデータなどについて文献輪読や文献検索により調べて学びディスカッションする。
4	個別発表1	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表する。
5	小型情報端末機器	携帯電話、ノートPC、タブレット端末、電子書籍端末、ウェアラブルコンピュータなどについて文献輪読や文献検索により調べて学びディスカッションする。
6	高速コンピュータ	スーパーコンピュータや量子コンピュータについて文献輪読や文献検索により調べて学びディスカッションする。
7	レアメタル	情報端末の原料となるレアメタルの現状とリサイクルなどについて文献輪読や文献検索により調べて学びディスカッションする。

8	生体認証	顔認証や指紋認証などの生体認証について文献輪読や文献検索により調べて学びディスカッションする。
9	電子マネー	電子マネーや仮想通貨について文献輪読や文献検索により調べて学びディスカッションする。
10	IT と法	著作権法、プロバイダ責任法、特定電子商取引法など、IT に関連の深い法律や倫理について文献輪読や文献検索により調べて学びディスカッションする。
11	個別発表2	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表する。
12	コンピュータ犯罪	コンピュータ犯罪、コンピュータウイルス、サイバー攻撃などの現状と対策について文献輪読や文献検索により調べて学びディスカッションする。
13	グループ発表1（1）	グループ分けを行い、各グループでテーマや分担を決め調査をし、発表準備を行う。
14	グループ発表1（2）	前回決めたグループでテーマ内容の発表を行う。
II 秋学期		
回	テーマ	内容
15	秋学期ガイダンス	夏休み中に行ったゼミ合宿のまとめを行う。調査発表の方法が適切であったか検討する。
16	位置情報	地図情報システム、GPS を使った行動ターゲティング、ソーシャルゲーム、プライバシー問題、監視社会について文献輪読や文献検索により調べて学び、ディスカッションする。
17	音声	音声認識、声の合成、それらを利用したシステムについて文献輪読や文献検索により調べて学び、ディスカッションする。
18	セキュリティー	セキュリティー、暗号などについて文献輪読や文献検索により調べて学びディスカッションする。
19	個別発表3	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表する。
20	IT と他分野の融合	車と IT(自動運転)、医療と IT、政治と IT、教育と IT、など IT を利用した新しい技術とビジネスについて文献輪読や文献検索により調べて学び、ディスカッションする。
21	人工知能、IoT	人工知能を利用した IT、モノのインターネット (IoT) について調べて学びディスカッションする。
22	アンケート演習	各自でテーマを決め、それについてアンケートを作成してまとめる。
23	アンケート演習	前回から継続するアンケート集計作業を行う。

発行日：2019/5/1

24	個別発表 4	情報化社会の諸現象について各自でテーマを決めて調査し発表する。
25	IT とデザイン	3D プリンタ、デジタルアート (芸術)、ユーザインタフェース (使いやすさ)、ユビキタスコンピュータ (いつでもどこでも利用可)、ユニバーサルデザイン (文化や年齢性別などの個人差に関係なく利用できる設計) について文献輪読や文献検索により調べて学び、ディスカッションする。
26	見学会	デジタルアートに関する展示施設を見学して学ぶ。ゼミ時間内に学外の施設へ移動する。
27	グループ発表 2 (1)	グループ分けを行い、各グループでテーマや分担を決め調査をし、発表準備を行う。
28	グループ発表 2 (2)	前回決めたグループでテーマ内容の発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞記事のチェック、輪読の準備、個人発表の準備、グループ発表の準備等。

【テキスト（教科書）】

下記の【参考書】に挙げた本のそれぞれから、必要な部分をテキストとして用いる。

【参考書】

味岡美豊子『社会人・学生のための情報検索入門』ひつじ書房、2009 年。
土橋臣吾・南田勝也・辻泉『デジタルメディアの社会学』北樹出版、2013 年。
金井明人・土橋臣吾・津田正太郎『メディア環境の物語と公共圏』法政大学出版会、2013 年。

苗村憲司・小宮山宏之『現代社会と著作権法 デジタルネットワーク社会の知的財産権』慶応義塾大学出版会、2005 年。

藤垣裕子編『科学技術社会論の技法（第3版）』東京大学出版会、2013 年。
濱岡豊・里村卓也『消費者間の相互作用についての基礎研究 クチコミ、e クチコミを中心に』慶應義塾大学出版会、2009 年。

坂村健『ユビキタス・コンピュータ革命』角川、2004 年。

ドナルド・A. ノーマン (野島久雄訳)『誰のためのデザイン？ 認知科学者のデザイン原論』新曜社、1990 年。

EY アドバイザリー『世界トップ企業の AI 戦略』日経 BP 社、2016 年。

※この他にも授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、レポートおよび発表の内容 50%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

上級生が下級生を指導する機会を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

学生が自分で準備しなくてよい。パソコン教室で1人1台パソコンを使用する。

【その他の重要事項】

関連科目：情報処理演習Ⅰ／Ⅱ

入ゼミ直前には IT の知識が少なくてもパソコン操作が不得意でも問題ない。
4 年生は9月以後に卒業論文を作成し、12月に中間発表を行い、1月に提出する。卒業論文集を電子的に配布する。

希望者には IT 関連の資格試験・検定試験の学習計画を指導する。

【Outline and objectives】

This is a seminar-style course to study various phenomena of information society and trends of IT business through investigation. You will acquire broad knowledge, and the attitude to manage issues and think proactively. You will also learn skills for writing papers and presenting them.

MAN200FA-A4779

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A4784

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5146

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4783

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4782

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A5092

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A4781

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4780

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A5038

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

岸 眞理子

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営情報学の研究トピックは多岐にわたります。そこでは、人・組織等の意思決定主体に対する洞察、ICT（情報技術）に関する理解、これらを統合するシステミックな方法論の開発を進めることが求められます。

この様なトピックの一例として、ICTを活用した企業の組織能力の開発について、基礎となる理論を学び、これらの理論を応用して具体的な事例について分析することができる力を養うことを目的としています。

【到達目標】

「学生時代にこれだけは勉強した」と言えるものをつくるために以下の点を目指します。

- ・関連する理論や概念の全体像を学習します。
- ・実際に、特定のテーマについての理論や概念を検討し、理解する力を養います。
- ・理論に基づいて、実際に特定の事例を分析し、そこから示唆を得る力を養います。
- ・表現の技法として、発表の仕方、議論の仕方、レポートや論文の書き方について学びます。
- ・また、そのために、関連文献の検索の仕方、調査の技法についても学びます。
- ・卒業論文を作成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

演習は、原則として、2・3年生はグループごとに、4年生は個人で発表し、それに対して全員で議論するという形式で進めます。レポート及び卒業論文の提出は義務づけられています。

春学期には、2年生は経営情報論の基礎的な理論を学び、3年生は設定されたテーマに関連した文献を読み込むことで理論の理解を深めていきます。秋学期までには、実際の企業事例を用いて分析できる力を養ってもらいます。演習に社会人を招いて議論する場や企業訪問の機会も設定されています。

4年生は各自テーマを設定し、1年かけて卒業論文を作成していきます。この過程では、調査の仕方や、決められた時間で発表らしい発表を行う技法についても勉強します。

その他、発表や議論の方法、レポートや論文の書き方なども学習します。

具体的な授業計画は最初の時間に説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期イントロダクション	春学期の活動のガイダンス
第 2 回	発表の仕方	プレゼンテーションの仕方やレポートの書き方、文献検索の仕方を学ぶ
第 3 回	文献輪読（1）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション

第 4 回	文献輪読（2）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 5 回	文献輪読（3）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 6 回	ゲスト・スピーカー（1）	関連課題に関して社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション
第 7 回	文献輪読（4）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 8 回	文献輪読（5）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 9 回	文献輪読（6）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 10 回	ゲスト・スピーカー（2）	関連課題に関して社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション
第 11 回	文献輪読（7）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 12 回	文献輪読（8）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 13 回	文献輪読（9）	指定文献について報告者のプレゼンテーションとそれに基づくディスカッション
第 14 回	春学期総括	春学期のまとめ
II 秋学期	テーマ	内容
第 15 回	秋学期イントロダクション	秋学期の活動のガイダンス
第 16 回	4 年生の卒業論文計画報告	4 年生の卒業論文計画報告とディスカッション
第 17 回	2・3 年生の事例研究（1）	選択した事例についての研究報告とディスカッション
第 18 回	2・3 年生の事例研究（2）	選択した事例についての研究報告とディスカッション
第 19 回	ゲスト・スピーカー（3）	関連課題に関して社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション
第 20 回	4 年生の卒業論文経過報告（1）	4 年生の卒業論文中間報告とディスカッション
第 21 回	4 年生の卒業論文経過報告（2）	4 年生の卒業論文中間報告とディスカッション
第 22 回	4 年生の卒業論文経過報告（3）	4 年生の卒業論文中間報告とディスカッション
第 23 回	ゲスト・スピーカー（4）	関連課題に関して社会人ゲストのスピーチとそれに基づくディスカッション

発行日：2019/5/1

第 24 回	2・3 年生の事例研究 (3)	選択した事例についての研究報告と ディスカッション
第 25 回	4 年生の卒業論文経過報 告 (4)	4 年生の卒業論文の中間報告とディス カッション
第 26 回	4 年生の卒業論文経過報 告 (5)	4 年生の卒業論文の中間報告とディス カッション
第 27 回	2・3 年生の事例研究報 告会	2・3 年生の事例研究の最終報告
第 28 回	4 年生の卒業論文最終報 告会 秋学期総括	4 年生の卒業論文の最終報告 秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表や提出物などの準備が必要となります。

【テキスト（教科書）】

授業内で提示します。

【参考書】

授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

発表や議論への参加など、ゼミへの積極的貢献によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

サブゼミの実行方法や回数は、学生の要望に応じます。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用して発表してもらいます。

【その他の重要事項】

関連記事が以下に掲載されています。

<http://www.hosei.ac.jp/koho/zemi/keiei/080114.html>

http://www.houseikeieidousoukai.com/grad_prof/

【関連科目】

経営情報論Ⅰ・Ⅱ、経営組織論Ⅰ・Ⅱ、組織マネジメント論Ⅰ・Ⅱ、組織行動論Ⅰ・Ⅱ、人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ、経営戦略論Ⅰ・Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ・Ⅱなど。

【Outline and objectives】

In this seminar, you will learn the beginning of research yourself. In other words, you will learn about how to add some new findings to specific research area of Organizations and Information Management based on the appropriate method.

MAN200FA-A4785

演習 1

MAN300FA-A5093

演習 3・4

MAN400FA-A4790

演習 6

MAN400FA-A4789

演習 5

MAN400FA-A5147

演習 5・6

MAN300FA-A4788

演習 4

MAN300FA-A4787

演習 3

MAN200FA-A4786

演習 2

MAN200FA-A5039

演習 1・2

岸本 直樹（春学期代講：明田 雅昭）

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、ファンダメンタル分析と言って、投資家の観点から企業を分析し、その結果に基づいて株式や債券に対する投資を検討することにあります。一般に、企業活動は、その機能によって、狭義の経営学、経営戦略論、ファイナンス、会計学、マーケティング、オペレーションズ・マネジメントの観点から分析することができますが、企業活動のパフォーマンスは、それらすべての機能に依存します。したがって、本演習では、履修者に経営学部で学ぶ様々な科目の知識を総動員して企業分析に当たることを奨励しています。その観点から、春学期の前半に上記の専門分野の中のいずれかの分野の専門書を輪読します。また、時間が許せば、秋学期の後半に、企業、産業、経済等に関して履修者が選んだテーマについて調べ学習を行うことがあります。そして、それらの結果はゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションをした上、その成果を岸本ゼミのウェブサイトで公表するようにしています。

【到達目標】

演習での主要な到達目標は次の 3 点です。まず第 1 に、履修者が株式や債券等への投資家、あるいは、資金の貸手の立場から特定の企業を分析する手法を習得し、それを実際の企業に当てはめることができること。第 2 に、経営学の専門書をしっかりと読むことができること。第 3 に、履修者が分析したり読んだりした結果を演習で分かりやすく発表することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

必要に応じて関連文献を読みながら、特定の企業について分析を進めます。そして、分析した結果をレジュメにまとめ、それをゼミで発表して、他のゼミ生とディスカッションをします。さらに、発表の概要は、岸本ゼミのウェブページで公表します。また、経営学の専門書を履修者全員で分担してレジュメを作り、授業で発表し、ディスカッションをします。さらに、時間が許せば、企業分析とは別に、企業、産業、経済等に関して履修者が関心があるテーマについて調べ（当ゼミでは「自由研究」と呼んでいます）を行い、それをゼミで発表してゼミ生とディスカッションをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	企業分析に有用な輪読	4 年次のゼミ生のうち第 1 回の授業に割り当てられた学生 4 名が専門書の担当箇所についてレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
2	企業分析に有用な輪読	第 1 回と同様（1 を 2 と読み替え）
3	企業分析に有用な輪読	第 1 回と同様（1 を 3 と読み替え）
4	企業分析に関する実習のための講義	明田が企業分析のやり方について講義する。

5 企業分析に有用な輪読

6 企業分析に有用な輪読

7 企業分析に有用な輪読

8 企業分析に関する実習

9 企業分析に関する実習

10 企業分析に関する実習

11 企業分析に関する実習

12 企業分析に関する実習

13 企業分析に関する実習

14 企業分析に関する実習

II 秋学期

回 テーマ

15 企業分析に関する実習

16 企業分析に関する実習

17 企業分析に関する実習

18 企業分析に関する実習

19 企業分析に関する実習

20 自由研究の発表

21 自由研究の発表

22 自由研究の発表

23 自由研究の発表

24 自由研究の発表

25 自由研究の発表

26 自由研究の発表

27 自由研究の発表

28 自由研究の発表

3 年次のゼミ生のうち第 5 回の授業に割り当てられた学生 4 名が専門書の担当箇所についてレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。

第 5 回と同様（5 を 6 と読み替え）

第 5 回と同様（5 を 7 と読み替え）

4 年次のゼミ生のうち第 8 回の授業に割り当てられた学生 2 名が、担当企業の分析結果をまとめたレジュメをゼミで発表し、他のゼミ生とディスカッションする。

第 8 回と同様（8 を 9 と読み替え）

第 8 回と同様（8 を 10 と読み替え）

第 8 回と同様（8 を 11 と読み替え）

第 8 回と同様（8 を 12 と読み替え）

第 8 回と同様（8 を 13 と読み替え）

第 8 回と同様（8 を 14 と読み替え）

内容

第 8 回と同様（8 を 15 と読み替え）

3 年次のゼミ生のうち第 16 回の授業に割り当てられた学生 2 名が、担当企業の分析結果をまとめたレジュメをゼミで発表し、他のゼミ生とディスカッションする。

第 16 回と同様（16 を 17 と読み替え）

第 16 回と同様（16 を 18 と読み替え）

第 16 回と同様（16 を 19 と読み替え）

ゼミ生のうち、第 20 回の授業に割り当てられた 2 つのグループが、企業、産業、経済等に関して自主的にテーマを選び、それについて調べ学習を行う。そして、その結果をレジュメにまとめ、ゼミで発表する。

第 20 回と同様（20 を 21 と読み替え）

第 20 回と同様（20 を 22 と読み替え）

第 20 回と同様（20 を 23 と読み替え）

第 20 回と同様（20 を 24 と読み替え）

第 20 回と同様（20 を 25 と読み替え）

第 20 回と同様（20 を 26 と読み替え）

第 20 回と同様（20 を 27 と読み替え）

第 20 回と同様（20 を 28 と読み替え）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読する文献の事前学習、担当企業の分析、レジュメの作成等。

【テキスト（教科書）】

輪読する書籍は、春合宿で相談の上、指示します。

【参考書】

授業中に適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

〔3 年次生に対する評価方法〕

評価の対象は多岐にわたります。具体的には、レジュメの内容と発表、ディスカッションへの参加の頻度と内容、授業時間以外のゼミ活動への貢献等。目安としては、これらの点をおおよそクリアした学生に **A** 評価を与えます。他方、これらの点に関して全体的にパフォーマンスが芳しくない学生には、**B** 以下の評価をつけますし、さらに、パフォーマンスが芳しくない学生については、4 年次へ進級する際ゼミ参加を断ることがあります。即ち、本演習においては、進級時のゼミ継続を自動的に認めていません。

〔4 年次生に対する評価方法〕

4 年次生の評価は、3 年生の評価対象と同じ点で評価します。ただし、当然のことながら、4 年次生に対しては、3 年次生より高いパフォーマンスを要求します。

〔3、4 年次生の両方に対する注意事項〕

岸本ゼミでは、出席、遅刻、早退について厳格なルールを設けています。さらに、発表をタイムリーに行うことについても厳格なルールを適用します。したがって、万が一これらのルールに抵触すると、進級時にゼミの参加を遠慮してもらうことがありますし、場合によっては年度途中で退ゼミ勧告をすることもあります。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの活性化。

【学生が準備すべき機器他】

発表において 1 年度に少なくとも 1 回パワーポイント等のパソコンソフトを利用することを義務付けています。

【その他の重要事項】

本演習の参加者には、高い学習意欲を維持することと、努力を惜しまないことを奨励しています。また、本演習に参加する過程で、初歩的なコンピューターの基礎知識が身に付くよう指導します。さらに、社会人として生きていく上で重要なファクターである、責任感、積極性、協調性、コミュニケーション能力を養うことを心がけることを指導しています。

上で説明したように、本演習の活動は、輪読、投資家の観点からの企業分析の二つで構成されています。このうち、企業分析には、本学部で開講されている科目の大部分のものが何らかの意味で有用です。特に有用なのは、財務諸表を読む力を養う科目と証券の性質を学習する科目です。具体的には、前者の科目として簿記入門Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ、財務会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅲ/Ⅳがあります。また、後者の科目としてファイナンス論Ⅰ/Ⅱ、証券経済論Ⅰ/Ⅱ、企業財務論Ⅰ/Ⅱがあります。したがって、本演習の履修を希望する者は、これらの科目の履修を強く勧めます。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to get students acquainted with the fundamental method, which is a method for analyzing corporations from the point of view of investors in stocks and bonds. In general, corporations can be analyzed from each of functional areas, such as management, management strategy, finance, accounting, marketing, and operations management. But the performance of a corporation depends on all these functional areas. Therefore, students in this course are strongly encouraged to apply all the knowledge and skills they have learned in the courses they have taken so far at the Faculty of Business Administration. For this reason, we spend the first half of the Spring semester on reading textbooks in one of the above mentioned functional areas. In addition, if time allows, we spend the second half of the Fall semester on small research projects where a group of a few students choose a research topic that are related to business or economy and work on it as a group. Each group presents their analysis in class and upload it at the Web site for this course.

MAN200FA-A4791

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A4796

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A4795

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4794

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5148

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A5094

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A4793

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4792

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A5040

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

北田 皓嗣

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題や社会問題が多様化し、複雑化するなかで、また社会統治の仕組みが変化するなかで、問題解消のために企業に求められる責任が高まってきています。また先進的な企業では環境ビジネスやボトム・オブ・ピラミッド（BOP）ビジネスとして、経済成長の新たな軸を構築しようとしています。このような問題に対して解決方法をすぐに提示することはできませんが、どこに問題の所在があるのか、問題がどのような構造で起きているのかについて学び取る力を習得していきます。またアカウンタビリティやソーシャルビジネスなどの新しい社会統治の潮流の視点から経営現象をみていきます。

【到達目標】

当ゼミでは、このような問題を理解するために一助となりそうな書物を選び、その一般的な理解を身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

課題となるテキストの輪読を中心に進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的および進め方について説明します。
2	サステナビリティの基礎	社会課題、環境問題について考察します。
3	サステナビリティと企業	世界の経営者が企業と社会の関係についてどのように議論を展開しているのかについて学びます。
4	日本企業とサステナビリティ	各自で企業のサステナビリティ経営について調べてもらいます。
5	サステナビリティ戦略	企業のサステナビリティ戦略について考察します。
6	論文の読み方	研究論文の構成について学びます。
7	レポートのまとめ方	アウトラインの設定、論理的な考察の方法について考えます。
8	CSR	企業の社会的な責任のあり方について考えます。
9	アカウンタビリティ	情報開示の基礎理論として、アカウンタビリティについて学びます。
10	CSV	企業戦略への社会的責任の反映の方法を学びます。
11	環境コスト	会計システムのなかに環境配慮を取り入れる方法を考えます。
12	GRI	情報開示の理論的バックグラウンドを整理します。
13	統合報告	通常の財務報告と CSR 報告書の関係について考えます。

14	CDP	温室効果ガスの問題と、その開示の制度について考えます。
II 秋学期		
回	テーマ	内容
15	オリエンテーション	講義の目的および進め方について説明します。
16	事例調査	環境経営・CSR 経営の実践について担当の人に発表してもらいます。
17	事例調査	環境経営・CSR 経営の実践について担当の人に発表してもらいます。
18	グループワークの進め方	グループで調査する際のマナーについて考えます。
19	公共性	各グループの研究と公共性の概念から比較、検討します。
20	リハーサル 1	合同ゼミに向けて、第一回目のリハーサルを行います。
21	リハーサル 2	合同ゼミに向けて、第二回目のリハーサルを行います。
22	合同ゼミ	他大学との研究交流を行います。
23	合同ゼミ	他大学との研究交流を行います。
24	合同ゼミの振り返り 1	合同ゼミの反省点を検討します。
25	合同ゼミの振り返り 2	合同ゼミの反省点を検討します。
26	卒業論文に向けて	論文作成の基礎的な考え方を学びます。
27	先行研究一覧の作成	論文作成の基礎となる先行研究リストを作成します。
28	まとめ	1 年間の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心を持った問題に対して、個別に文献を調べてもらいます。

【テキスト（教科書）】

講義の中で適宜紹介します。

【参考書】

講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の報告（50%）、レポート（50%）
4 年生には卒業論文を作成してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

企業を訪問したり、企業の方からコメントをいただける機会を設けたいと思います。

【その他の重要事項】

他の専門科目で学習した知識を基礎に、CSR や公共性、アカウンタビリティの領域に応用します。
経営学部多くの科目の応用科目となりますが、特に経営戦略論 I/II、経営管理論 I/II、会計学入門 I/II と関連があります。

【Outline and objectives】

Corporate Social Responsibility (CSR) is an essential idea that enhances a company to integrate environmental and social concerns into the operations. This course teaches students how to interpret companies activities in order to evaluate them from stakeholder perspectives.

MAN200FA-A4797

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A4802

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5149

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4801

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4800

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A5095

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A4799

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4798

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A5041

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

木原 章

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①現代社会の動向を新聞を通じて探索し、②その中から何らかの形で自分と関わる問題を見だし、③その問題意識を発展する形で研究テーマを絞り込み、④テーマを勉強する中で自分としての意見を確立し、⑤卒業研究として発表する、までの段階を勉強します。

【到達目標】

自ら発見したテーマについて、世の中の動向を調べ、それらに対する自分なりの評価を行った上で、自分の意見を形成することを目指しています。その為に必要な、文章読解能力、データ解析能力、プレゼン能力、文章作成力等の能力を修得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ゼミでは、以下のトレーニングを行います。

- ①自分のテーマに関係する新聞記事を適切に抽出する能力
 - ②その記事を 200 字程度に要約する能力
 - ③自分の調べたことを要約して発表するプレゼン能力
 - ④そのテーマに基づいてグループディスカッションを行い、他人の意見を取り入れながら自分なりの見解を構築する能力
 - ⑤輪読を通じて、本を読破する能力
 - ⑥最終的に、卒業論文として自分の意見を文章でまとめ上げる能力
- これらのトレーニングを通じて、社会で通用する人材形成を行います。ゼミ内の情報交換は、全てゼミのサーバーを用い、基本的にペーパーレスで行います。必要に応じて、ノートパソコンを持参してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	新聞記事抽出・要約入門	新聞記事を 200 字程度で要約するためのトレーニングを行います。
2	記事要約・グループ学習	グループ学習のテーマ決定
3	記事要約・グループ学習	(過去の例) 全国民のDNA採取の義務化は受け入れられるか？
4	記事要約・グループ学習	(過去の例) 日本のゴミ問題
5	記事要約・グループ学習	(過去の例) クローン技術は是か非か
6	記事要約・グループ学習	(過去の例) 捕鯨問題について
7	記事要約・グループ学習	(過去の例) 臓器移植について
8	記事要約・グループ学習	(過去の例) 脳死は死か？
9	記事要約・グループ学習	(過去の例) 原発を無くすには？
10	記事要約・グループ学習	(過去の例) 生物多様性
11	記事要約・グループ学習	(過去の例) ホットなバイオ市場
12	記事要約・グループ学習	(過去の例) 有用動物
13	記事要約・グループ学習	(過去の例) 遺伝子組み換え表示規制
14	夏ゼミ合宿テーマ選定	(過去の例) バイオ燃料

II 秋学期

回	テーマ	内容
1	夏ゼミ合宿テーマ決定	(過去の例) 築地移転問題
2	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 風力発電の可能性
3	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 原発を支えたエネルギー政策
4	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) ブラック企業
5	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) マクドナルド研究
6	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 再生医療（実状と未来）
7	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 日本のバイオベンチャー研究
8	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 地方再生
9	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) バイオミメティクス
10	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) プロスポーツビジネス
11	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) インバウンド消費
12	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) バイオエタノールの行方
13	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) クローン人間の悲劇性についての考察
14	4 年卒論指導・3 年研究 テーマ周辺研究	(過去の例) 遺伝子組み換えの安全性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・テレビ・インターネットを通じて、社会で今起こっている事に注意を傾けて下さい。特に、新聞は毎日必ず目を通して下さい。

【テキスト（教科書）】

輪読のテキストは、ゼミ生の意見を聴きながら決めます。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100 %）で成績をつけます。欠席届（事前または事後）を出さずに欠席した場合は、不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

学生のテーマ設定をできるだけ早い時期に行う事とします。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミ専用の Web を使って連絡・発表を行います。必ずインターネットにアクセスできる環境を用意して下さい。

【その他の重要事項】

ゼミの基本は、自発的な活動です。何の下調べも無しに、手ぶらで参加される方は辞めていただきます。

ゼミのサイトは
<http://bionews.i.hosei.ac.jp/>
経営学の専門基礎科目の修得が、経営学勉強会に必要となります。

【関連科目】

情報と倫理、情報と職業

【Outline and objectives】

In this class, you will learn the most basic skills for the general business person. Those are reading, writing, and speaking. The final goal is to find the most relevant phenomenon to your own interest as your theme of your graduation research and to summarize your opinion to the theme as an article. On the way to your goal, you will start from summarizing new paper article and book and will make presentation for the summaries in each session, which will improve the three basic skills.

MAN200FA-A4803

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A4808

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5150

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4807

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4806

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A5096

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A4805

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4804

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A5042

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

金 瑤 晋

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、主にファイナンスの基礎を学びます。ファイナンスは、投資論（インベストメント論）と企業財務論に大きく分けることができます。投資論は、投資家が行う最適な金融資産投資意思決定問題を、企業財務論は、企業の経営者が直面する様々な財務意思決定問題を扱う分野です。この授業では、ファイナンスに関する知識を深めると共に、学生自ら問題意識を持ち出し、その解決策を試みることを強く促します。

【到達目標】

- ・金融資産価値の一般評価原理が理解できます。
- ・株式会社の仕組みが分かるようになります。
- ・株式、債券、デリバティブに関する理解が深まります。
- ・資金調達のプロセスが分かるようになります。
- ・企業価値を求めることが出来ます。
- ・どのような基準で企業の財務意思決定を行うべきかについて理解が深まります。
- ・プレゼン能力が培われます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- 授業は、次の要領で行われます。
- ①グループディスカッション（春学期）
- ・ゼミ生は、次回の学習内容について予習を行う。
 - ・グループ毎に、予習内容を確認し、互いの理解を深める。
 - ・講師から与えられる課題についてグループディスカッションを行い、その解決策を模索する。
 - ・グループ毎に課題の解決策を発表する。
 - ・他のグループからフィードバックを受ける。
 - ・講師から補足を行う。
 - ・内容によっては、講師からの講義が先行する場合がある。
 - ・課題によっては表計算ソフトを利用することを推奨する。
- ②プロジェクトの発表（秋学期）
- ・個人、またはチーム毎に、ファイナンスや経済学に関連したテーマをひとつ選び、その分析を試みる。
- ③出欠管理
- ・単位取得のためには 2/3 以上の出席が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	企業の資金調達手段	日本企業の資金調達手段の構成
2	マネーの時間価値	キャッシュフローの現在価値、将来価値、割引率
3	資本構成理論：基礎 1	完全資本市場、財務レバレッジと財務リスク、MM の命題
4	資本構成理論：基礎 2	負債利用の節税効果、修正 MM 命題、倒産コスト、個人税と MM 命題

5	資本構成理論：発展	逆選択問題とベッキングオーダー理論、エージェンシー問題と資本構成
6	株主資本による資金調達 1	株式発行の方法と特徴、新規株式公開のプロセス、新規株式公開の費用
7	株主資本による資金調達 2	公募増資の現状と費用
8	負債による資金調達 1	負債による資金調達と情報、社債と借入の選択
9	負債による資金調達 2	担保と借入、担保と企業再生
10	内部資金と内部資本市場	内部資金と投資水準、内部資本市場
11	配当政策 1	配当政策における MM の命題、税制と顧客効果
12	配当政策 2	情報の非対称性と配当、フリーキャッシュフロー仮説
13	自社株買い	ペイアウト政策、配当と自社株買い、自社株買いの動機付け
14	総括および秋学期個人プロジェクトに向けての準備	企業の財務意思決定の総括、秋学期個人プロジェクト報告に関するガイダンス

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	プロジェクトの発表	報告 1, 報告 2
16	プロジェクトの発表	報告 3, 報告 4
17	プロジェクトの発表	報告 5, 報告 6
18	プロジェクトの発表	報告 7, 報告 8
19	入ゼミの面接と選考	入ゼミ希望者の面接と選考
20	プロジェクトの発表	報告 9, 報告 10
21	プロジェクトの発表	報告 11, 報告 12
22	プロジェクトの発表	報告 13, 報告 14
23	プロジェクトの発表	報告 15, 報告 16
24	プロジェクトの発表	報告 17, 報告 18
25	東京証券取引所見学及びセミナー受講	証券取引の仕組み、上場基準などの学習、セミナーの受講、模擬投資の体験
26	プロジェクト発表	報告 19, 報告 20
27	プロジェクト発表	報告 21, 報告 22
28	総括	プロジェクト報告における改善点、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

表計算ソフトを使いこなせるようになってください。
日頃、経済・経営関連ニュースに関心を持ってください。

【テキスト（教科書）】

テキストは追って決めます。適宜配布資料を配ります。

【参考書】

授業中、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

担当箇所の報告 30 %、平常点（質問、コメントなど）40 %、プロジェクトの発表 30 %に基づき総合的に評価します。特に、出席率が低い場合、またはプロジェクトの報告を怠る場合は、評価が極めて厳しくなります。

【学生の意見等からの気づき】

初心者にも分かりやすい解説を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

テーマによっては、表計算ソフトを用いて解説を行いますので、ノートパソコンを持参してください。また、授業支援システムを利用しますので、チェックしてください。

【その他の重要事項】

関連科目：ファイナンス論Ⅰ/Ⅱ、証券経済論Ⅰ/Ⅱ、企業財務論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】

This seminar covers the basics of finance. Topics include corporate finance, portfolio theory, derivatives pricing and its applications. Students will be responsible for participating in an individual or group presentation. Active class participation is highly encouraged.

MAN200FA-A4809

演習 1

2 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4812

演習 4

3 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A4811

演習 3

3 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4810

演習 2

2 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A4814

演習 6

4 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5151

演習 5・6

4 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4813

演習 5

4 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A5097

演習 3・4

3 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA-A5043

演習 1・2

2 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

金 容 度

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本と海外の企業及び産業の事例についてのディスカッション、また、複数の企業間の比較分析及びグループ発表によって、企業成長のダイナミズム、経営戦略の多面性、企業家・経営者の活動の本質についての理解を深める。

【到達目標】

企業事例の分析とディスカッションによって、企業成長とビジネスモデルの多様性及び共通点を分析する能力を高める。また、授業中及び合宿時の報告やその準備、レポートの作成、卒業論文の準備・作成・発表（4 年生）を通じて、論理的な思考とその表現のスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本演習授業では、毎週、企業事例及び産業事例を取上げ、企業成長のダイナミズム、戦略、ビジネスモデル、企業家について多面的にディスカッションする。事例は主に日本の企業及び産業であるが、海外の企業、産業も多数取り上げられる。なお、ゲスト・スピーカーをお招きしてディスカッションする授業も設ける。

授業は報告者及び報告グループの報告と全員による論点提出とグループディスカッションという形で進められる。なお、合宿では、企業比較を内容とするグループ報告とディスカッションが行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	今年度の授業内容、授業の進め方について案内する。
2	カルビー	スナック市場でトップシェアを誇るカルビーの経営戦略と組織について考察する。
3	丸亀製麺	讃岐うどんチェーンを展開して急成長している丸亀製麺の成長要因について議論する。
4	ゲスト・スピーカーによる講演	ゲスト・スピーカーをお招きして、講演を頂いた上で質疑応答する。
5	大塚家具	家具業界の老舗である大塚家具のマーケティング戦略について分析、考察する。
6	ポーラ・オルビス HD	化粧品会社のポーラ・オルビスの戦略転換（販売戦略と開発戦略）について議論する。
7	三菱電機	PPM 分析に基づき、三菱電機の全社戦略をフィリップスと比較分析する。
8	ツムラ	漢方薬企業のツムラのポジショニング戦略を検討する。
9	日本電産	モーター製造企業の成長戦略と企業家について議論する。

10	家電量販店業界の構造分析	家電量販店業界の変化と企業間競争について議論する。
11	イケアとユニクロ	イケアとユニクロのビジネスモデルを比較分析する。
12	エア・ウォーター	産業ガス企業のエア・ウォーターの事業構造戦略について議論する。
13	大和ハウス	大和ハウスの賃貸住宅事業の展開とその戦略を検討する。
14	ブライダル産業	ブライダル市場の構造分析を行う。
II 秋学期		
回	テーマ	内容
15	コマツ	建設機械メーカーのコマツの戦略と国際化を検討する。
16	ドトールとスターバックス	セルフサービスコーヒーショップ業界における競争について議論する。
17	パーク 24	駐車場企業であるパーク 24 のビジネスモデルを検討する。
18	富士フィルム	富士フィルムの多角化と経営資源について議論する。
19	卒業論文の中間報告	4 年生による卒業論文の中間報告会を行う。
20	8 番らーめん	8 番らーめんの海外展開戦略について議論する。
21	富士重工	自動車メーカーの「スバル」の競争戦略を検討する。
22	演習入試の面接試験	演習入試の面接試験を行う。
23	竹中工務店	建設大手の竹中工務店の戦略について議論する。
24	公文	公文の成長過程と戦略について分析する。
25	シニアレジデンス産業	シニアレジデンス産業における企業間競争と各社の戦略を分析する。
26	LED 照明産業	LED 照明産業の構造分析を行う。
27	卒業論文の最終報告	4 年生による卒業論文の最終報告会を行う。
28	サントリー	サントリーのマーケティング戦略と成功要因について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に、毎週の事例テキストを必ず読んでディスカッションのための論点を考えたうえで、授業に参加すること。

【テキスト（教科書）】

毎回の企業事例のテキストは予め授業支援システムにアップロードする。

【参考書】

- (1) 沼上幹 (2018) 『一橋 MBA ケースブック【戦略転換編】』東洋経済新報社
- (2) 沼上幹 (2016) 『ゼロからの経営戦略』ミネルヴァ書房
- (3) 沼上幹・一橋 MBA 戦略ワークショップ (2017) 『一橋 MBA 戦略ケースブック Vol.2 市場戦略の読み解き方』東洋経済新報社
- (4) 橋川武郎・久保文克・佐々木聡・平井岳哉 (2015) 『アジアの企業間競争』文真堂
- (5) 沼上幹・一橋 MBA 戦略ワークショップ (2015) 『一橋 MBA 戦略ケースブック』東洋経済新報社
- (6) 加藤健太・大石直樹 (2013) 『ケースに学ぶ日本の企業』有斐閣

- (7) 伊丹敬之編 (2013)『日本型ビジネスモデルの中国展開』有斐閣
- (8) 沼上幹・一橋 MBA 戦略ワークショップ (2013)『戦略分析ケースブック Vol.3』東洋経済新報社
- (9) 武石彰・青島矢一・軽部大 (2012)『イノベーションの理由』有斐閣
- (10) 沼上幹・一橋 MBA 戦略ワークショップ (2012)『戦略分析ケースブック Vol.2』東洋経済新報社
- (11) 伊丹敬之・西野和美編 (2012)『ケースブック 経営戦略の論理 (全面改訂版)』日本経済新聞出版社
- (12) 沼上幹・一橋 MBA 戦略ワークショップ (2011)『戦略分析ケースブック』東洋経済新報社
- (13) ハーバードビジネススクール (2010)『ケーススタディ 日本企業事例集』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

授業での報告 (20 %)、毎週のレポート (30 %)、授業中の議論への貢献度 (30 %)、合宿時の報告内容および参加度 (20 %) 等で評価する。なお、4 年生は、授業での報告や毎週のレポートがない代わりに、卒業論文 (発表会での報告内容、論文内容) を成績評価基準 (50 %) に含む。

【学生の意見等からの気づき】

今年の授業では、産業分析の内容をより多く取り入れる。

【その他の重要事項】

新 2 年生も本演習授業を受講できる。

【関連科目】

本演習に参加する学生は、日本経営論Ⅰ/Ⅱ、日本経営史Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、技術管理論Ⅰ/Ⅱを履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

The objective of this seminar is to understand business management in Japanese and foreign companies by case methods. You will learn logical thinking and basic knowledge on business management, strategy and organization structure by discussion, presentation, and writing every week paper.

MAN200FA-A4815

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A5152

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4820

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A4819

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4818

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A5098

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A4817

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4816

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A5044

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

木村 純子

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、地理的表示保護制度を活用した地域活性化に関わる理論と概念を身につけます。

マーケティングの関連科目を通じて得た理論を体系的に整理し構成しながら、与えられたプロジェクト課題にチームで取り組みます。プロジェクト課題は架空のものではなく、自治体や観光地や企業が直面している実際の問題や悩みを産学連携で解決していきますので、実践的で実務的な視点が必要となります。

【到達目標】

活動を通じて 4 つの力を習得することを本演習の達成目標とします。

- 1) 自分で問題意識（リサーチ・クエスション）を設定する力
- 2) 具体的な事例からデータを収集する力
- 3) データを用いて自身の仮説を検証する力
- 4) 自分の主張を他の人たちに説得的に説明し理解させる力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

農産物を利用した地域活性化に取り組みます。EU にならない日本でも「特定農林水産物等の名称の保護に関する法律（地理的表示法）」が成立・公布されました。農産物と農産加工品を用いて地域経済を活性化するメカニズムを具体的な GI 登録産品を用いて明らかにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の紹介
第 2 回	グループ活動	問題意識の設定、プロジェクトの進捗状況の発表
第 3 回	グループ活動	既存文献の整理：プロジェクトの進捗状況の発表
第 4 回	グループ活動	理論枠組みの構築、プロジェクトの進捗状況の発表
第 5 回	グループ活動	仮説の導出、プロジェクトの進捗状況の発表
第 6 回	グループ活動	方法論の検討、プロジェクトの進捗状況の発表
第 7 回	グループ活動	調査実施、プロジェクトの進捗状況の発表
第 8 回	グループ活動	データ収集、プロジェクトの進捗状況の発表
第 9 回	グループ活動	データの分析、プロジェクトの進捗状況の発表
第 10 回	グループ活動	仮説の検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第 11 回	グループ活動	枠組みの修正、プロジェクトの進捗状況の発表

第 12 回	グループ活動	仮説の再検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第 13 回	グループ活動	報告書作成、プロジェクトの進捗状況の発表
第 14 回	最終報告会	グループ・プロジェクトの最終報告会
II 秋学期		
回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の紹介
第 2 回	グループ活動	問題意識の設定、プロジェクトの進捗状況の発表
第 3 回	グループ活動	既存文献の整理：プロジェクトの進捗状況の発表
第 4 回	グループ活動	理論枠組みの構築、プロジェクトの進捗状況の発表
第 5 回	グループ活動	仮説の導出、プロジェクトの進捗状況の発表
第 6 回	グループ活動	方法論の検討、プロジェクトの進捗状況の発表
第 7 回	グループ活動	調査実施、プロジェクトの進捗状況の発表
第 8 回	グループ活動	データ収集、プロジェクトの進捗状況の発表
第 9 回	グループ活動	データの分析、プロジェクトの進捗状況の発表
第 10 回	グループ活動	仮説の検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第 11 回	グループ活動	枠組みの修正、プロジェクトの進捗状況の発表
第 12 回	グループ活動	仮説の再検証、プロジェクトの進捗状況の発表
第 13 回	グループ活動	報告書作成、プロジェクトの進捗状況の発表
第 14 回	最終報告会	グループ・プロジェクトの最終報告会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各セッションのテーマに合わせたフィールドワークをしていただきます。授業時間以外の時間とお金を費やすことになりますが、「コスト」とは思わず「(自分への) 投資」だととらえてください。

【テキスト（教科書）】

石井淳蔵・廣田章光編『1 からのマーケティング第 3 版』中央経済社

【参考書】

適宜、指定します。

【成績評価の方法と基準】

- 春学期、秋学期ともに、
- 1) 平常点 20 %
 - 2) グループ活動 80 %
- 以上を総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果がまだ出ていないため、コメントできませんでした。結果が分かり次第、アンケートの回答に基づいた改善に取り組みます。

【その他の重要事項】

マーケティングに関連する科目の履修を必須とします。「マーケティング論Ⅰ/Ⅱ」「サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ」「消費者行動論Ⅰ/Ⅱ」「マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ」「製品開発論Ⅰ/Ⅱ」「流通論Ⅰ/Ⅱ」「国際マーケティング論Ⅰ/Ⅱ」

MAN200FA-A4821

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A4825

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A4826

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5153

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A4824

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A5099

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A4823

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4822

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A5045

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

倉田 俊彦

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

参加者の興味・能力に応じて「数学やプログラミングの基礎」に関連するテーマを定め、グループ単位の学習・検討を重ねていく予定です。扱う内容を大きく分類すると以下のようになります。

- (1) 今まで数学を殆どやらなかったが、この機会に少しでも数学を経験してみたいという方や、SPI や公務員試験などの問題を解く際に必要とされる数学的力量を身につけたいという方のために、様々な数学的思考に現れる基本的な型を習得する。
- (2) 数学が得意な方に対しては、オペレーションズリサーチ・経営・経済に関係する実用的な話題を数学的視点から調査・考察する。
- (3) 上の話題の中には興味深いアルゴリズムが沢山存在するので、それらを題材にプログラミングの練習を行う。

【到達目標】

各分類毎の具体的な到達目標は以下のようになります。

- (1) 数学における基本的な問題の解法を習得しながら、最終的には多変数関数の極値の計算ができるようになる。
- (2) 微積分や数値計画法などの知識を、経営・経済の様々な問題に適用した事例を理解できるようにする。
- (3) 計算内容の説明からアルゴリズムの構造を理解して、その流れをプログラムとして表現できるようにする。（線形計画法で標準的に使われる計算などを想定しています。）

いずれのテーマについても内容を理解することが重要な目標となります。「理解する」ということの定義は難しいのですが、少なくとも「単に話を聞いて公式や知識を記憶すること」や「漠然と予想・想像すること」を繰り返すのではなく、「できる限り芯から考えて問題を解決する工夫を重ねること」が必要になります。その過程において、必然的に「知識を活用すること」や「考えて理解した内容を論理的に整理して、聞き手に考慮した形で伝えること」も出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

様々な形式を考えていますが、基本的には以下の 2 つがあります。

- (1) グループ毎に、数学の様々な問題を協力しながら検討・解決する練習をする。（数学検定などを利用して実力を試す機会も設けたいと考えています。）
- (2) グループ毎に予備知識・興味に合ったテキストを輪講する。これらと並行して、余裕のある人には、より具体的な課題に対して考察を行い、論文などの形で成果を纏める機会を持ちたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 01 回	微分の定義	関数の極限値と導関数の意味を理解する。
第 02 回	微分の計算法	和差積商、合成関数、逆関数に関する微分の計算法を習得する。

第 03 回	様々な関数の微分	指数関数、対数関数に関する微分の計算法を習得する。
第 04 回	微分的应用	経済学に関連する微分的应用について学習する。
第 05 回	積分の定義	不定積分・定積分の意味、微分との関係を理解する。
第 06 回	積分の計算法	部分積分、置換積分の計算法を習得する。
第 07 回	積分的应用	具体的な例題を通して積分的应用について学習する。
第 08 回	多変数関数の微分	多変数関数に関する偏微分の定義と計算方法を理解する。
第 09 回	多変数関数の極値	多変数関数の極値の計算方法を習得する。
第 10 回	多変数関数の微分的应用	経済学に関連する偏微分的应用について学習する。
第 11 回	ゲーム理論の導入	非協力ゲームに関する基本的な概念を理解する。
第 12 回	戦略型ゲームの純粋戦略	戦略型ゲームにおけるナッシュ均衡の意味を理解する。
第 13 回	混合戦略における均衡	混合戦略においてナッシュ均衡の存在する仕組みを理解する。
第 14 回	展開型ゲームの理論	意思決定が交互に行われる状況の部分ゲーム完全均衡について理解する。

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	プログラミングの準備	コンパイルの方法など、Java を使用する際に必要な知識を纏める。
第 16 回	Java の型と入出力文	基本的なデータ型と入出力の方法を習得する。
第 17 回	Java の式	フェラーの公式を通して、演算子や式を利用したプログラミングを学習する。
第 18 回	Java の制御文	微積分の問題を通して、制御文を利用したプログラミングを学習する。
第 19 回	Java の配列	線形代数の問題を通して、配列を利用したプログラミングを学習する。
第 20 回	Java のクラス	簡単な例題を通して、クラスの基本的な利用方法を学ぶ。
第 21 回	アプリケーションの作成	Application クラスを利用することによって GUI プログラムを作成する。
第 22 回	プログラミングの応用	各自が興味を持った問題に対して、プログラムに基づく分析を行う。
第 23 回	線形計画法の導入	線形計画問題の背景とその幾何学的な解法について理解する。
第 24 回	線形計画法の基本定理	線形計画問題の基底解の概念や基本定理を理解する。
第 25 回	線形代数の基礎	行列の基本変形による連立方程式の解法を学習する。
第 26 回	シンプレックス法	シンプレックス法の計算方法を理解し、プログラムを利用できるようにする。
第 27 回	包絡分析法	包絡分析法による効率評価の考え方と計算方法の基礎を理解する。

第 28 回 包絡分析法の応用 包絡分析法に基づき、各自が興味を持つ事業体の効率分析を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪講を行う上で、自分が担当する箇所について内容を理解し、自分の言葉で分かり易く説明できるように整理しておく必要があります。また、他の参加者が担当している部分に対しても、事前に内容を予習して質問や議論が出来るように備えておく必要があります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

経営効率性の測定と改善（刀根薫著、日科技連、1993 年）
 経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める（尾山大輔、安田洋祐著、日本評論社、2013 年）
 など多数使用します。学習を進めていく過程で必要となったものを随時取り入れていく予定です。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (100%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや普段のコミュニケーションから、数学の力量が高い学生や数学を重要と考えている学生が想像以上に沢山いることが分かり問題設定や難易度の参考にしています。引き続き「学生の傾向や希望」などを把握しながら、参考にできる意見は柔軟に取り入れていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

PC 上でプログラミングに基づく分析を行う機会は多くなると思います。

【その他の重要事項】

数学の知識・経験は特に必要としません。理解が遅くても構わないので、考えることが苦にならないという方の参加を歓迎いたします。質問・相談等に対しては、可能な限り個別に対応できるようにしたいと考えています。

〔関連科目〕

基礎数学Ⅰ/Ⅱ

発展数学Ⅰ/Ⅱ

教養数学A/B

計算と言語のしくみ

コンピュータと数理の活用

【Outline and objectives】

In this course, we develop a method to evaluate the efficiency of various operations observed in our society mainly from a standpoint of mathematics and computer science. To this end, the basics of calculus, linear algebra and programming technique are studied intensively, which enable us to understand some important algorithms for linear and nonlinear optimization, data envelopment analysis and so on. We actually encode such algorithms in Java and Python, and apply them to analyze the efficiency of a specific sort of business operations.

MAN200FA-A4827

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A4832

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5154

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4831

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4830

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A5100

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A4829

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4828

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A5046

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

児玉 靖司

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に経営戦略に必要な情報学に関するテーマを選択し、自身の研究として考察を行う。ゼミの中で協調し役割をもって研究活動を行い、卒業論文としてレポート、論文として結果を残すことを目標とする。経営情報学やマーケティングをテーマとして、疑問に思った点をまとめ文献を調査、フィールドワーク等を実施し議論を行う。

【到達目標】

文献を調査しプレゼンテーションとして発表していく方法を学ぶ。主に経営情報学について疑問に思った点を解決するために、文献を調査したりインターネット上で情報検索したりし問題解決する方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】**【概要】**

経営戦略に必要な情報、知識について調査、研究をする。最近では、SNS (Social Networking Service)、CMS (Contents Management System)、LMS (Learning Management System) などさまざまな情報システムが存在し、経営戦略に利用されている。これら情報システムを中心としたビジネスプラン策定、情報システムの基本的な仕組みについて、戦略活動に応用する手段について考察する。さらに、マーケティング手法についても学び、経営戦略に役立てることを考える。例えば、1. ビジネスモデル策定、2. 集合知の経営戦略への応用、3. 経営情報システムビジネスモデル、4. アンケート調査による経営分析など様々なアプローチが考えられる。

【方法】

ゼミのメンバを（原則として）3 人までからなるグループに分け、2・3 年次には、目標とする分野の専門書（教員が指定）を読破し、論文またはレポートとしてまとめ発表してもらう。4 年次には、さらに調査、実現を行い卒業論文としてまとめ発表することを目標とする。

現在のところ、1. 情報システムと経営戦略、2. 携帯端末アプリの設計、3. 新しい経営情報システムビジネスモデルなどさまざまなテーマについて自由に研究活動を行っている。特に最近では海外（米国・ヨーロッパ）に訪問し企業調査も行っている。2018 年には、ゼミ生と共にシリコンバレーに訪問し研修を行った。ただし、新たな目標に向かって研究するグループを作って活動することも歓迎するので、積極的な提案ができることが望ましい。原則として、毎週、グループ毎に調査してきたことを発表してもらう。さらに、説得力のある方法でプレゼンテーションし、互いに議論しながら授業を進める。2、3 年次の初期の段階では、コンピュータの基本操作、英語文献（専門書）の輪読を行い、その中で互いに教えあう雰囲気をつくる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介、役割分担など
第 2 回	グループ分け、テーマ設定（1）	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。

第 3 回	グループ分け、テーマ設定（2）	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第 4 回	輪読本の選定等	テーマに基づいた本の選定、輪読のスケジュール等を決定する。
第 5 回	輪読本の選定、輪読開始	選定した本の輪読を行う。
第 6 回	輪読（1）	選定した本の輪読を行う。
第 7 回	輪読（2）	選定した本の輪読を行う。
第 8 回	輪読（3）	選定した本の輪読を行う。
第 9 回	輪読（4）	選定した本の輪読を行う。
第 10 回	グループテーマ議論	グループ毎にテーマについて議論を行う。
第 11 回	テーマ発表	グループ毎にテーマについて発表する。
第 12 回	輪読（5）	選定した本の輪読を行う。
第 13 回	輪読まとめ	選定した本の輪読についてまとめを行う。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期演習のまとめを行う。
II 秋学期		
第 15 回	グループ確認（1）	グループ毎のミーティングを行う。
第 16 回	グループ確認（2）	グループ毎のミーティングを行う。
第 17 回	グループ別議論（1）	グループ毎に分かれて議論を行う。
第 18 回	グループ別議論（2）	グループ毎に分かれて議論を行う。
第 19 回	グループ別議論（3）	グループ毎に分かれて議論を行う。
第 20 回	グループ別発表	グループ毎に分かれて行った議論の中間発表を行う。
第 21 回	グループ別調査研究（1）	グループ別に仕上げる研究を行う。
第 22 回	グループ別調査研究（2）	グループ別に仕上げる研究を行う。
第 23 回	グループ別調査研究（3）	グループ別に仕上げる研究を行う。
第 24 回	グループ別調査研究（4）	グループ別に仕上げる研究を行う。
第 25 回	グループ別調査研究結果発表	グループ別に行った調査研究結果について発表を行う。
第 26 回	グループ別研究（1）	グループ別に仕上げる研究を行う。
第 27 回	グループ別研究（2）	グループ別に仕上げる研究を行う。
第 28 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

設定したテーマについて予習、復習を行う。演習で発表するための調査、考察を行う。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、研究課題により異なる。英語の文献については開講後提示する。

【参考書】

特に定めず、研究課題により異なる。

【成績評価の方法と基準】

【春学期評価】夏休みの合宿で発表できるように、中間発表を行うこと。取り組み姿勢を評価する。以上の点について平常点（50%）、発表内容について（50%）で評価する。

【秋学期評価】① 演習への取り組み姿勢（原則としてすべてに参加すること）、② 2、3 年次は、調査結果の発表、成果の提出、③ 4 年次には、卒業論文の提出（発表）を義務とする。以上の点について平常点（50%）、発表、論文の内容について（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーション機器を使って発表する。学習管理システム Classroom を用いて効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

積極的に人前でプレゼンテーションができ好奇心をもってゼミに参加することができる学生が望ましい。ゼミとしてグループ活動する以上、合宿、サブゼミなど積極的に行い、協調性をもって望むこと。

知識については、教員とゼミ生間で教えあう雰囲気を作っていきたい。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline and objectives】

We mainly select the theme related to informatics necessary for management strategy and consider it as our research. You can research in collaboration with each other and report as graduation thesis.

MAN200FA-A4833

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A4838

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5155

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4837

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4836

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A5101

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A4835

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4834

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A5047

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

近能 善範

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

イノベーションとは、「顧客に価値をもたらすような、新しい製品やサービス、新しい生産手段、新しいビジネスの仕組みなど。及び、そうしたものを創出し、経済的利益を獲得していくプロセスのこと」を意味しています。もっと単純には、「顧客に新しい価値をもたらすようなモノやサービス、仕組みを実現し、新規需要を創出すること」と考えて差し支えありません。例えば、携帯電話やパソコン、インターネットや宅配サービスの登場などは、身近なイノベーションの事例です。

当演習がテーマとする「イノベーション・マネジメント」とは、こうしたイノベーションを『てこ』にした経営戦略－すなわち、単に「規模の経済性」を利用したり他社製品を模倣したりといった、新規性やオリジナリティを伴わない戦略ではなく、新たな顧客価値を生み出した上でそれをビジネスとして成立・成長させていくといった点を重視した戦略－について議論を行う、経営学の比較的新しい研究分野です。

当演習では、こうしたイノベーション・マネジメントを考えていく上で不可欠となる基礎的な知識や能力を、通常のゼミナール（教室）のほか、合宿や他大学ゼミとの交流会、企業へのプレゼンテーション、卒業論文作成などを通じて、実践的に身につけていきます。

【到達目標】

当演習では、イノベーション・マネジメントに関わる基本的な考え方や概念などを身につけて、実践できるようになっていただくことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

当演習は、二つのステップから構成される予定です。

まず第一のステップでは、テキストを読んで全員で討論するという作業を行い、イノベーション・マネジメントに関する基礎的な知識を身につけていただきます。本年度は、イノベーション・マネジメントの数あるトピックの中でも特に、新製品開発マネジメントに関する文献及びケースを読み進めていく予定です。ここでは、「優れた製品コンセプトを作り上げていくためにはどうしたらよいのか」という問題意識に立ち、発想に至るまでの分析手法や方法論、目の付け所といったものを身につけ、訓練を積んでいく予定です。

第二のステップでは、現実の経営現象を分析し、自らの考えをまとめ上げ、それを分かりやすく表現するトレーニングを積み重ねていくことが目標となります。

ここでは、3 年生は幾つかのグループに分かれて、学んだ知識をベースとして現実の企業事例を分析・発表し、それを全員で討論するという作業を行います。

一方、4 年生には、幾つかのグループに分かれてテーマを設定し、中間報告／卒業論文作成を行っていただきます。

スケジュール進行については、夏合宿までを第一のステップ、それ以降を第二のステップに当てる予定です。

また夏合宿では、ケースをもとにディベートを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イノベーション・マネジメント (1)	ガイダンス
第 2 回	イノベーション・マネジメント (2)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(1)
第 3 回	イノベーション・マネジメント (3)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(2)
第 4 回	イノベーション・マネジメント (4)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(3)
第 5 回	イノベーション・マネジメント (5)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(4)
第 6 回	イノベーション・マネジメント (6)	戦略論の基礎的な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(5)
第 7 回	イノベーション・マネジメント (7)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(1)
第 8 回	イノベーション・マネジメント (8)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(2)
第 9 回	イノベーション・マネジメント (9)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(3)
第 10 回	イノベーション・マネジメント (10)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(4)
第 11 回	イノベーション・マネジメント (11)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(5)
第 12 回	イノベーション・マネジメント (12)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(6)
第 13 回	イノベーション・マネジメント (13)	新製品開発マネジメントの基礎的な内容を学ぶ (ただし内容は毎回異なる)(7)
第 14 回	イノベーション・マネジメント (14)	ケース企業についてのグループ発表

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イノベーション・マネジメント (15)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(1)
第 2 回	イノベーション・マネジメント (16)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(2)
第 3 回	イノベーション・マネジメント (17)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(3)
第 4 回	イノベーション・マネジメント (18)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(4)
第 5 回	イノベーション・マネジメント (19)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(5)
第 6 回	イノベーション・マネジメント (20)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(6)
第 7 回	イノベーション・マネジメント (21)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(7)
第 8 回	イノベーション・マネジメント (22)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(8)
第 9 回	イノベーション・マネジメント (23)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(9)
第 10 回	イノベーション・マネジメント (24)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(10)

第 11 回	イノベーション・マネジメント (25)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(11)
第 12 回	イノベーション・マネジメント (26)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(12)
第 13 回	イノベーション・マネジメント (27)	グループワーク (ただし内容は毎回異なる)(13)
第 14 回	イノベーション・マネジメント (28)	グループワーク最終報告会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に際し、テキストの該当箇所や配布資料を事前に読み込み、課題のレポートを作成しておくことが求められます。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しませんが、重要な事項については適宜プリントを配布します。

【参考書】

近能善範・高井文子 著『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』, 新世社, 2010 年。

【成績評価の方法と基準】

①平常点 (35 %)、②発表 (20 %)、③グループ研究／卒業論文 (20 %)、④議論への参加 (15 %)、⑤ゼミ活動全般への寄与 (10 %)、で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークへの要望が強いので、本年度も秋学期はグループワーク中心で授業を行いたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード、エクセル、パワーポイント）を使用します。

【その他の重要事項】

合宿等、通常のゼミナール（教室）以外のゼミの行事にも、基本的に参加義務があります。

また、ゼミでの議論に積極的に貢献する、意欲ある学生の参加を望みます。

なお、関連科目は技術管理論Ⅰ/Ⅱになりますので、できるだけ 3 年次に履修するようにしてください。

MAN200FA-A4839

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A5048

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4843

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4842

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A4841

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A4844

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5156

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A5102

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA-A4840

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

坂上 学

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミでは、広く財務会計領域のトピックを扱うが、とりわけ財務情報を使った企業評価や意思決定の問題を取り上げる。また秋学期には、通常のゼミと平行して日経ストックリーグに参加し、ゼミで学んだ内容を実際の投資意思決定に応用する。

【到達目標】

本ゼミでは、財務報告が果たす役割について、会計学のほか、経済学、行動科学といった諸分野の成果を取り入れながら会計理論を概観し、会計専門家をとり巻く複雑な経済的・政治的環境を理解することを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は指定したテキストを使い、輪読形式で進める。秋学期は2年生および3年生は日経ストックリーグの取り組み、4年生は卒論に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
初回	演習の進め方と、担当箇所の割り当て	テキストの紹介、担当箇所の割り当てをおこなう。
第2回	証券投資における財務諸表の役立ち（1）	担当者による発表とディスカッション。
第3回	証券投資における財務諸表の役立ち（2）	担当者による発表とディスカッション。
第4回	業績変化と株価動向（1）	担当者による発表とディスカッション。
第5回	業績変化と株価動向（2）	担当者による発表とディスカッション。
第6回	決算発表に対する株価動向（1）	担当者による発表とディスカッション。
第7回	決算発表に対する株価動向（2）	担当者による発表とディスカッション。
第8回	不確実性リスクの評価（1）	担当者による発表とディスカッション。
第9回	不確実性リスクの評価（2）	担当者による発表とディスカッション。
第10回	資本資産評価モデルの基礎（1）	担当者による発表とディスカッション。
第11回	資本資産評価モデルの基礎（2）	担当者による発表とディスカッション。
第12回	割引配当モデルの基礎（1）	担当者による発表とディスカッション。
第13回	割引配当モデルの基礎（2）	担当者による発表とディスカッション。
第14回	割引キャッシュ・フロー・モデルの基礎（1）	担当者による発表とディスカッション。

II 秋学期

回	テーマ	内容
第15回	割引キャッシュ・フロー・モデルの基礎（2）	担当者による発表とディスカッション。
第16回	残余利益モデルの基礎（1）	担当者による発表とディスカッション。
第17回	残余利益モデルの基礎（2）	担当者による発表とディスカッション。
第18回	資本コストの推定（1）	担当者による発表とディスカッション。
第19回	資本コストの推定（2）	担当者による発表とディスカッション。
第20回	株式評価モデルの実践（1）	担当者による発表とディスカッション。
第21回	株式評価モデルの実践（2）	担当者による発表とディスカッション。
第22回	債権の格付け制度（1）	担当者による発表とディスカッション。
第23回	債権の格付け制度（2）	担当者による担当箇所の発表と、それに基づいてディスカッション担当者による発表とディスカッション。ションをおこなう。
第24回	債権の格付けモデル（1）	担当者による発表とディスカッション。
第25回	債権の格付けモデル（2）	担当者による発表とディスカッション。
第26回	倒産予測モデルのための財務指標の有効性（1）	担当者による発表とディスカッション。
第27回	倒産予測モデルのための財務指標の有効性（2）	担当者による発表とディスカッション。
第28回	卒論発表（1）	4 年生による卒論内容の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを熟読しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは最初の講義でゼミ生と相談して決める予定である。ちなみに、昨年度は以下のテキストを使った。

桜井久勝（著）『財務諸表分析（第6版）』（中央経済社、税込定価 3,570 円）

【参考書】

ウィリアム・R・スコット（著）、太田康広・椎葉淳・西谷順平（訳）『財務会計の理論と実証』（中央経済社、税込定価 6,300 円）

W・H・ビーバー（著）、伊藤邦雄（訳）『財務報告革命（第3版）』（白桃書房、税込定価 3,465 円）

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（60%）
担当箇所の報告（40%）
最初に割り当てた担当箇所について、各自ハンドアウトをまとめた報告を行う。報告内容と質疑応答などを総合的に判断し、最終的な評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

多摩キャンパスでの勉強合宿、ストックリーグへの参加など、ゼミ以外での課外活動が良かったという意見が多かったので、今年度も積極的にそのような活動に参加するようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

発表担当者は、必ずプレゼンテーションツール（パワーポイント等）でプロジェクトを使い発表すること。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

会計学全般の知識を前提として演習を進めるので、「簿記入門」「会計学入門」を履修していることはもとより、「財務会計論」「経営分析」「監査論」を履修しているか、もしくは平行履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

This is a seminar type class. You will be required to turn in, discuss or present your findings. The objective of this class is for you to develop an understanding of financial accounting theory and practice by learning how to critically analyze and apply methods commonly used in business analysis.

MAN200FA-A4845

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A5049

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4850

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5157

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4849

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4848

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A5103

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A4847

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4846

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

佐野 哲

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「経営学を改めて広く学び直し、その知識をもって、“継続的に社会と調和し生き残っていく企業”のあり方について考える」

これが、本演習の基本テーマです。学部カリキュラム上の科目名称で言い換えると、①**経営学総論**（企業経営に関する諸知識の総合的な学び直し）と、②**経営社会学**（企業の社会的責任論、企業と社会の持続的な共存のあり方に関する検討）の融合、になります。この二つの学問領域を軸に、「現存する企業」をサンプルとして分析しつつ、「アクションとディスカッション」を繰り返し進めていく活動です。

【到達目標】

最終的な到達目標は、「**企業と社会の関係構造を学際的に理解すること**」です。

企業経営の総合的理解には、経営学のみならず、企業経営を取り巻く時事問題や社会学などの隣接学問分野（学際）を広く学んでおく必要があります。まず本演習では、経営学の教科書を軸に、多様なメディアからのニュース報道を積極的に織り交ぜて学び、これから知り得た企業経営及び社会問題との関わりについて「自らの言葉で語れる」レベルを目指します。

他方、企業と社会の共存関係に関する構造的な理解には、個別企業による**社会貢献活動（CSR：Corporate Social Responsibility）**の動きや変化を追っていくだけでなく、社会及び市場が「その企業（その本業＝事業）の存在価値をどう評価しているのか」について、しっかりと見定めていく必要があります。本演習では、社会貢献型企業及び同関係者とのコミュニケーション機会を可能な限り企画・創造し、それら関係者と「“これからの企業のあり方”について意見交換ができる」レベルを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本演習のゼミ活動は、①教科書の輪読（経営学の学び直し）と、②企業関係者との学外交流活動、の二本立てになっています。

①の輪読では、主に経営大学院で採用されている経営学の教科書（以下テキスト参照）を使用します。参加者各自による発表、教員を中心としたディスカッションを通じ、参加学生の興味関心を考慮しながら、バランス良く経営学の知識が身に付くよう進めていきます。

②の学外交流は、**社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）**を実践する投資ファンド（投資信託運用会社）との産学連携コラボレーション活動を中心に行います。同ファンド内で開催されている勉強会への継続的な参加、投資対象企業の経営分析、ファンドマネージャー（運用担当者）との対話などを通じ、参加学生が「**CSR 及び SRI の重要性**」について、自らの肌身で感じる機会を設けます。また、投資信託の制度と市場を深く吟味しつつ各自が少額投資口座を開設するなど、リスク担保が可能な範囲で社会的責任投資信託を実践する計画を進めていきます。なお、本年度における実際の分析・投資対象としては、三菱商事、旭化成、本田技研工業、味の素、資生堂、ユーザイ、ユニチャームなどを予定しています（まずは、社会貢献活動が充実した安定的な大企業から取り上げ、徐々に小規模のソーシャルビジネスへと対象を移していく予定です）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習（学外交流コラボレーション）の概要・年間計画の策定
2	グルーピング	作業グループの編成
3	コラボレーションの準備	提携先投資信託会社に関する情報収集
4	企業情報の経営分析	分析手法の解説及びグループワークの実施
5	コラボレーションの企画検討	問題関心の整理とゴール設定
6	企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び評価
7	企業情報の分析（人事）	「見える企業価値」の分析：人事制度など経営学的領域での企業分析及び評価
8	企業情報の分析（営業）	「見える企業価値」の分析：営業実績など経営学的領域での企業分析及び評価
9	コラボレーションのあり方検討	設定ゴールの再検討
10	専門用語の理解	投資信託活動に最低限必要な専門用語の学習
11	文献サーベイ	専門用語に関する学術的資料の収集・整理
12	コラボレーションのあり方検討	問題の整理と設定ゴールの明確化
13	初回プレゼン資料の作成	パワーポイント資料の作成・検討
14	キックオフミーティング	提携先投資信託会社への表敬訪問及びプレゼンテーション

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	オリエンテーション	春学期の振り返り
16	活動計画の再検討	ゴールの再設定
17	学外交流活動（大学）	大学間で開催する勉強会への参加
18	セミナーへの参加	提携先投資信託会社が実施するセミナーへの参加
19	投資活動のレディネス	提携先企業が実施するセミナーへの参加
20	学外交流活動（企業）	投資先企業が開催する勉強会への参加
21	学外交流活動（投資信託）	その他投資信託会社が開催する勉強会への参加
22	投資活動のスタートアップ	投資信託の実施
23	投資活動の進捗確認	投資情報の相互共有
24	投資先企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び再評価
25	知見の整理	ゼミでの投資活動から得られた諸知見のとりまとめ
26	課題の整理	ゼミでの投資活動から得られた諸課題のとりまとめ
27	年度活動報告書の作成	パワーポイント資料の作成・検討

28 最終プレゼンテーション 提携先投資信託会社への表敬訪問及び
プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループもしくは個人による「サブゼミ」の実施（授業内で処理出来なかった作業や教員による指導・指示への対応など、授業外に行う自主的なゼミ活動）と、その進捗に関する報告を求めます。

【テキスト（教科書）】

輪読に使用する教科書として、『MBA マネジメントブック [改訂3版]』（グロービス・マネジメントインスティテュート編著／ダイヤモンド社／3,000円）を使用します。

【参考書】

講義（演習）の進捗に合わせて、その都度講義内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）と試験（50％）を基本としますが、各活動に関わった「社会人からの評価」を加味して評定します。

【学生の意見等からの気づき】

個々人別の到達目標を設定し、テーマ別プロジェクト（左記「授業計画」参照）ごとに個別評価及び設定目標の変更を随時施していけるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード・エクセル・パワーポイントのソフトがインストールされたもの）は必須です。大学ではノートパソコンの時間貸与サービスがあります（個人所有機器があると便利です）。

【その他の重要事項】

1. 参加学生に望むこと

新聞や経済専門誌など経済メディアからの情報（企業を取り巻く時事問題）に、日頃から広く積極的に触れている学生の参加を望みます。SRIには、地球温暖化や少子高齢化など、企業が深く関わっていくべき社会問題の構造把握並びに論点整理が絶対的に不可欠だからです。

なお、当授業の関連科目は「経営学総論Ⅰ/Ⅱ」及び「経営社会学Ⅰ/Ⅱ」です。

2. 担当教員の実務経験について

担当教員（佐野哲）は本学着任前、政府機関のシンクタンク（独立行政法人）で10年間、産業・労働分野の政策研究を行ってきました。講義では可能な限り、様々な経験に基づくエピソード等を盛り込んで行きたいと考えています。

【Outline and objectives】

This is a course designed to study the transformation of corporate governance and corporate social responsibility practiced in firms, organizations and networks. This course provides an overview of corporate social responsibility(CSR), specially focused on the role of the socially responsible investment fund. The main objectives of the course are:

- ・ understand concepts of corporate social responsibility;
- ・ understand corporate ESG(Environmental, Social and Governance)policies and actions and investors' preferences;
- ・ enable the development of a sound understanding of corporate governance practice in Japan.

MAN200FA-A4851

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A5050

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4856

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5158

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4855

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4854

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A5104

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A4853

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4852

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

佐野 嘉秀

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

変化の中の人材マネジメントをテーマにします。少子高齢化やグローバル化、AI の進展など、社会・経済環境の変化の中で、日本の雇用・労働・人事管理は変化の中にあります。例えば「成果主義」の導入など、正社員の働き方が変わるとともに、パート・アルバイト・契約社員など非正社員や、派遣スタッフ・個人請負など、正社員以外の働き方で働く人も増えてきています。女性活躍推進や仕事と生活の調査（ワーク・ライフ・バランス）など、人材マネジメントに課せられた課題の比重も変わりつつあります。この演習では、参加者の関心を踏まえつつ、上記のような変化にかかわる具体的なトピックスに焦点を当てつつ、人事担当者や職場のマネジャー等が担う人材マネジメントの現状や課題について勉強します。

【到達目標】

本演習の到達目標は以下の 3 点です。

①文献購読により、人材マネジメントに関する基本的な考え方を理解することができる、②ディスカッションを通して、参加者の意見を取り入れながら自分やグループの考えをまとめることができる、③研究報告を行う中で、自分やグループの関心に基づき研究課題を設定し、文献調査やインタビュー調査等を行い、分析し、発表することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

参加者の報告と議論、教員からの講義を組み合わせることで進めていきます。実務の人を招いて話を聞くこともあります。ゼミ形式ですから、授業計画を基本としつつも、参加者の希望や関心、学習状況に合わせて柔軟に対応していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミのテーマや進め方について情報共有およびゼミ内での役割分担の決定
2	文献研究①	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
3	文献研究②	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
4	グループ研究①	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
5	文献研究③	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
6	文献研究④	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
7	総合研究①	春学期前半の学習の振り返り、および春学期グループ発表のグループ分けとテーマ設定

8	グループ研究②	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
9	グループ研究③	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
10	グループ研究④	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
11	実態調査①	実務家（人事担当者、職場管理者等）からの話題提供・質疑応答（インタビュー）
12	グループ発表①	グループ研究の成果発表とディスカッション
13	グループ発表②	グループ研究の成果発表とディスカッション
14	総合研究②	春学期における学習内容の振り返りとまとめ
II 秋学期		
回	テーマ	内容
15	総合研究③	春学期および夏合宿での学習内容の振り返り、および秋学期の学習テーマ等の確認
16	グループ研究⑤	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
17	グループ研究⑥	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
18	グループ研究⑦	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
19	総合研究④	秋学期グループ発表のグループ分けとテーマ設定
20	文献研究⑤	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
21	グループ研究⑧	人材マネジメントの論点（課題例）に関するグループディスカッション（PBL:Problem Based Learning）
22	実態調査②	実務家（人事担当者、職場管理者等）からの話題提供・質疑応答（インタビュー）
23	文献研究⑥	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
24	文献研究⑦	人材マネジメント関連の文献購読およびディスカッション
25	実態調査③	実務家（人事担当者、職場管理者等）からの話題提供・質疑応答（インタビュー）
26	グループ発表③	グループ研究の成果発表とディスカッション
27	グループ発表④	グループ研究の成果発表とディスカッション

28 総合研究⑤ 1 年間の学習の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外では以下のことに取り組んでもらいます。

- 1) 演習で扱う課題文献を読み、コメントを考えまとめる
 - 2) 演習での報告の準備（文献データの収集や調査・報告書用資料の作成等）
- このほか、授業期間外のイベントとして、夏に合宿形式のゼミを開催します。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜提示します。

【参考書】

授業内で紹介します。そのほか、重要な文献を自分で探すことも参加者にとって重要な課題です。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%

授業内での活動・議論等への積極的貢献：50%

研究・発表への積極的貢献：30%

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、参加者の意見を積極的に取り入れ、考える力を養える演習を心がけたいと思います。

【その他の重要事項】

マスコミなどにあふれる雇用・労働・人事管理にかかわる主張には、ステレオタイプや根拠のないものが少なくありません。そうした中であって、自分で調べ、考え、判断する力を参加者に習得してもらいたいと考えます。

【関連科目】

人的資源管理Ⅰ／Ⅱ

【Outline and objectives】

Our objective of this seminar is to understand personnel management practices which are changing dynamically affected by the trends of aging society, globalization and technology advancement. We study topics such as performance management of core employee, portfolio of different employment forms, career formation of female employee and international feature of Japanese employment practises. Students are required to participate actively in discussion, making presentation and preparation for those activities.

MAN200FA-A4857

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A5051

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4862

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5159

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4861

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4860

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A5105

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A4859

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4858

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

高橋 慎

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データを収集・整理し、データの背後にある構造を捉えることは、分野を問わず重要なスキルです。この授業では、データの正しい見方、取り扱い方を学び、さまざまなデータを用いた「統計分析」を行います。

【到達目標】

- ・実際のデータを用いて「統計分析」ができる。
- ・理解した内容を分かりやすく人に伝えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・春学期は、テキストの内容をまとめて授業内で発表してもらいます。
- ・秋学期は、テーマ毎にデータ分析を行い、結果を授業内で発表してもらいます。
- ・発表後、全員による質疑応答とディスカッションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	春学期ガイダンス	授業の進め方を説明します。また、発表の担当箇所を決定します。
2	データの全体像をつかむ 1	度数分布とヒストグラム、一次代表値（平均、中央値、最頻値）
3	データの全体像をつかむ 2	二次代表値（分散、標準偏差）、データの標準化
4	データ同士の関係をつかむ 1	散布図、相関係数
5	データ同士の関係をつかむ 2	回帰分析
6	全数データと一部データの関係をつかむ 1	母集団と標本
7	全数データと一部データの関係をつかむ 2	母集団分布と標本分布
8	データの形を知る 1	データ分布と確率分布
9	データの形を知る 2	さまざまな確率分布
10	少ない情報で全体を推定する 1	信頼区間
11	少ない情報で全体を推定する 2	推定
12	偶然と必然の分かれ道 1	仮説検定
13	偶然と必然の分かれ道 2	t 検定、F 検定
14	春学期まとめ	春学期の内容を振り返り、「統計分析」で用いられる手法を整理します。また、秋学期に行うデータ分析のテーマについて議論します。

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	秋学期ガイダンス	授業の進め方を説明します。また、データ分析のテーマについて議論します。
16	演習 1	データ分析
17	演習 2	データ分析
18	演習 3	データ分析
19	演習 4	データ分析
20	演習 5	データ分析
21	演習 6	データ分析
22	演習 7	データ分析
23	演習 8	データ分析
24	演習 9	データ分析
25	発表 1	データ分析結果の発表、ディスカッション
26	発表 2	データ分析結果の発表、ディスカッション
27	発表 3	データ分析結果の発表、ディスカッション
28	秋学期まとめ	秋学期の内容を振り返り、実際の「統計分析」で得られた知見を共有します。また、今後の展望について議論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストの該当箇所を事前に読み、日常生活との関わりなど気付いたことや意見をまとめてディスカッションの準備をします。
- ・エクセルなどのソフトウェアを使って実際に統計分析を行うことで理解を深めます。

【テキスト（教科書）】

日花弘子（2016）『できるビジネスパーソンのための Excel 統計解析入門』SBクリエイティブ

【参考書】

- ・中室牧子・津川友介（2016）『「原因と結果」の経済学——データから真実を見抜く思考法』ダイヤモンド社
- ・田中隆一（2015）『計量経済学の第一歩——実証分析のススメ』有斐閣
- ・授業内でも適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点：40%
- ・発表：60%

【学生の意見等からの気づき】

グループワークやグループディスカッションなどのアクティブラーニングを多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

データ分析を行うには、エクセルなどのソフトウェアを使える端末（スマートフォン、タブレット、パソコンなど）が必要です。

【その他の重要事項】

実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

基礎統計学 I / II

【Outline and objectives】

Collecting/summarizing data and capturing the structure behind the data are important skills irrespective of fields. In this course, we learn how to see and handle data properly and do “statistical analysis” using various datasets.

MAN200FA-A4863

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A4868

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A4867

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4866

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A4865

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4864

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5160

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A5106

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA-A5052

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

高橋 美穂子

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、経営分析と企業評価のスキルを習得することを目指します。経営分析、さらに企業評価を行うためには、企業の経営戦略を理解した上で財務諸表を読み解く能力が求められます。そのため、本演習では企業評価のスキルを習得することに加え、企業の経営活動がいかに会計数値に反映されるのか、つまり経営活動と会計数値の関係についても理解することを目指します。

【到達目標】

- ・経営分析と企業評価のスキルを習得し、実践できること
- ・経営活動と会計数値の繋がりが理解できること
- ・論理的に考える力を養うこと
- ・コミュニケーション（プレゼンテーション・ディスカッション・文章作成）能力を養うこと

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

2・3年次の春学期は担当者によるテキストの報告とディスカッション、夏休み以降は経営分析および企業評価をグループワークにより実践します。4年次は上記活動と並行して、各自の問題意識に基づき卒業論文を作成します。春学期に中間発表、秋学期には最終発表を行い、論文を提出します。他大学とのインゼミを実施し、2・3年生はグループワーク、4年生は卒業論文の最終発表を行う予定です。なお授業計画および内容はゼミ生と相談の上、適宜調整を行う可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	役割およびテキストの報告担当章の決定、授業の進め方の確認
2	文献の輪読	テキスト1章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
3	文献の輪読	テキスト2章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
4	文献の輪読	テキスト3章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
5	文献の輪読	テキスト3章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
6	文献の輪読	テキスト4章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
7	文献の輪読	テキスト4章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
8	文献の輪読	テキスト5章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
9	文献の輪読	テキスト6章：担当者によるテキストの報告とディスカッション

10	文献の輪読	テキスト7・8章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
11	文献の輪読	テキスト8章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
12	文献の輪読	テキスト9章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
13	文献の輪読	テキスト10章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
14	論文・レポートとは何か	問題の設定方法、本文の組み立て方
II 秋学期		
回	テーマ	内容
15	データベースの活用	企業財務データベースの使い方
16	経営分析・企業評価の実践	グループワーク進捗状況の報告とディスカッション
17	経営分析・企業評価の実践	グループワーク進捗状況の報告とディスカッション
18	文献の輪読	テキスト11章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
19	経営分析・企業評価の実践	グループワーク進捗状況の報告とディスカッション
20	文献の輪読	テキスト12章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
21	経営分析・企業評価の実践	グループワーク進捗状況の報告とディスカッション
22	文献の輪読	テキスト13章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
23	経営分析・企業評価の実践	グループワーク進捗状況の報告とディスカッション
24	文献の輪読	テキスト14章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
25	経営分析・企業評価の実践	グループワーク進捗状況の報告とディスカッション
26	文献の輪読	テキスト15章：担当者によるテキストの報告とディスカッション
27	経営分析・企業評価の実践	グループワーク進捗状況の報告とディスカッション
28	経営分析・企業評価の実践	グループワークレポート、卒業論文の提出内容確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当者は報告資料を作成してください。それ以外のゼミ生は事前にテキストの該当箇所を熟読し、内容を理解した上で授業に参加してください。また、グループワークの内容を授業で報告する際にも事前準備が必要です。

【テキスト（教科書）】

桜井久勝著、『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

【参考書】

ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マグローヒル・エデュケーション、2015年。

【成績評価の方法と基準】

2・3年生は、テキストの報告（30%）、議論への参加度合いと発言内容（30%）、グループワークの報告内容とレポート提出（40%）に基づき評価します。

4年生は、議論への参加度合いと発言内容（40%）、卒業論文の中間発表・最終発表・提出（60%）に基づき評価します。卒業論文の中間発表・最終発表・提出がない場合は単位は認めません。無断欠席や遅刻は成績評価に大きく影響します。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションやグループワーク（日経ストックリーグ）、インゼミなどの経験を通して、論理的に考える力が身についた、人間的にも成長できた等の意見が寄せられました。今年度も、テキストの内容を正しく理解することを基礎としつつ、グループワークや他大学の学生と交流する機会を設ける予定です。

【学生が準備すべき機器他】

報告資料の作成および報告を行う際は、PC（Word、PowerPoint など）を使用してください。

【その他の重要事項】

・経営分析・企業評価に関する理解を深めるため、3年次に経営分析Ⅰ/Ⅱを履修してください。

・ゼミでの一連の活動を通して「大学では経営分析、企業評価を学びました」と自信をもって言えるようになってもらいたいと考えています。そのためにも、ゼミ活動全般に主体的かつ積極的に取り組んでください。

【関連科目】

経営分析Ⅰ/Ⅱ、財務会計論Ⅰ/Ⅱ

経営分析・企業評価は、会計、ファイナンス、経営戦略、マーケティングなどの知識を必要とする応用分野のため、これらの科目についても積極的に履修してください。

【Outline and objectives】

This seminar is designed to prepare students to analyze and value business firms. Students learn how to analyze firm's business environment, business strategy, and financial statements. Students who completed this seminar will develop a deep understanding of how the results of firm's business transactions and strategies would be shown in financial information.

MAN200FA-A4869

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A4874

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5161

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4873

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4872

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A5107

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A4871

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4870

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A5053

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

高橋 理香

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学を通じて、論理的思考の方法を学びます。経済学の理論と現状について理解を深め、経済学の分析手法や考え方を学びます。また、現実経済に対するより深い理解と英語のスキルアップを目指して、英字新聞、雑誌記事に関する考察を報告してもらいます。さらに、英語での簡単なスピーチにも挑戦していただきます。2・3 年生は、インターゼミナールでのグループ発表に取り組んでもらいます。4 年生は、3 年次までの学習を踏まえて卒業論文に取り組んでもらいます。

【到達目標】

- ①経済学を理論的・実証的に理解します
- ②経済学的思考方法を身につけます
- ③英語を実践的に用いることで、英語によるコミュニケーション力を高めます
- ④通常のゼミやインターゼミナールなどでの発表により、発表のスキル、論文作成のスキルを高めます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ①テキストを用いた発表と議論（グループ報告）
 - ②英字新聞記事を用いた発表と議論（グループ報告）
 - ③インターゼミナールでの発表論文作成（グループ報告）
 - ④卒業論文の報告
- 文章の書き方・発表の仕方・コンピュータツールの使い方・図書館やデータベースの使い方などの技術についても学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ガイダンスを行います。
2	発表のコツについて	レジュメの作成方法や効果的な発表の仕方について学びます。
3	図書館ツアー	図書館やデータベースの使い方などを学びます。
4	経済理論および現実の経済に関する学習 1	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
5	テーマの決め方	卒業論文やインゼミのテーマの決め方を学びます。
6	経済理論および現実の経済に関する学習 2	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
7	卒論中間報告会 1	卒業論文のテーマを報告します。
8	経済理論および現実の経済に関する学習 3	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
9	文献収集の方法	論文を書く際の文献収集の仕方を学びます。
10	経済理論および現実の経済に関する学習 4	テキスト輪読・英語文献の要約と考察

11	アウトラインのつくり方	論文を書く際の構成のつくり方を学びます。
12	文献の読み方	論文や書籍を読むときのコツを学びます。
13	卒論中間報告会 2	卒業論文のプロポーザルを作成し、発表します。
14	まとめ	春学期の授業の総括を行います。
II 秋学期		
回	テーマ	内容
15	イントロダクション	春学期の復習と秋学期の概要を説明します。
16	インゼミの準備 1	インターゼミナールで発表するテーマと今後の計画を発表します。
17	日常生活に対する経済学的分析 1	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
18	卒業論文中間報告会 3	卒業論文の進捗状況を報告し、アドバイスを受けます。
19	日常生活に対する経済学的分析 2	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
20	文献の整理の仕方	これまで読んだ文献のまとめ方を学びます。
21	日常生活に対する経済学的分析 3	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
22	インゼミの準備 2	インゼミに関する進捗状況を報告し、アドバイスを受けます。
23	卒業論文中間報告会 4	卒業論文の進捗状況を報告し、アドバイスを受けます。
24	日常生活に対する経済学的分析 4	テキスト輪読・英語文献の要約と考察
25	論文の書き方	論文を書く際に気を付けるべきことを学びます。
26	インゼミの準備 3	インターゼミナールの発表リハーサルを行います。
27	卒業論文最終報告会	卒業論文の最終発表会を行います。
28	まとめ	秋学期の授業の総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学生による報告を行いますので、担当者は事前に発表の準備をする必要があります。レジュメの作成は必須です。また、夏休みのゼミ合宿・他大学とのインターゼミナール・OB 会を行っています。4 年生には、卒業論文の作成を義務付けています。

【テキスト（教科書）】

例年、春学期は理論経済学または国際経済学のテキストを輪読し、秋学期は経済読み物を輪読しています。2019 年度のテキストは初回の講義の際に説明します。

また、論文の作成に関し、下記の文献を使用します。
佐藤望編『アカデミック・スキルズ 第2版—大學生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会、2016 年。

【参考書】

近年のゼミで使用したテキストは以下の通りです。
【ミクロ経済学・経営経済学・法と経済学・その他】
伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』有斐閣、2012 年。

丸山雅洋『経営の経済学 新版』有斐閣、2011 年。
 矢野誠・中澤正彦『なぜ科学が豊かさにつながらないか?』慶應義塾大学出版会、2015 年。
 Levitt, S. and S. Dubner, *Freakonomics*, Harper Collins Publishers, 2005.
 【国際経済学・都市経済学・その他】
 石川城太・椋寛・菊池徹『国際経済学をつかむ 第 2 版』有斐閣、2013 年。
 伊藤元重『どうなる世界経済 入門国際経済学-』光文社新書、2016 年。
 佐藤泰裕『都市・地域経済学への招待状』有斐閣ストゥディア、2014 年。
 藤井英次『コア・テキスト国際金融論第 2 版』サイエンス社、2013 年。
 Acemoglu, D. and J. A. Robinson, *Why Nations Fail: The Origins of Power, Prosperity, and Poverty*, Profile Books Ltd, 2013.

【成績評価の方法と基準】

【2・3 年生】

平常点・ゼミへの貢献度：5 0 %

発表内容・インターゼミでの発表論文作成への貢献度：5 0 %

【4 年生】

卒業論文：5 0 %

平常点・ゼミへの貢献度：2 5 %

発表内容：2 5 %

なお、4 年生で卒業論文を提出しない場合は、不合格 (D) となります。

【学生の意見等からの気づき】

効果的なプレゼンテーションやディスカッションを行うためには、どのような工夫が必要かをゼミ生自身に考えてもらいたいと思います。2018 年度に行ったインターゼミナールに関するアンケートでは、他者に自分の話を聞いてもらうには、ただ調べて話すだけでは不十分である、とのコメントがありました。2019 年度は、他者に自分の発表を聞いてもらうためにはどのような工夫が必要か、自分が他者の話を聞くにはどのような姿勢で臨むべきかについて履修者全員で議論を行い、そのための取り組みをゼミの中で実践したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミでの発表を通じて、パワーポイントを使った効果的な報告の仕方を学びます。また、毎回の授業では、パソコン（自分のパソコンでも貸与パソコンでも可）を用意して発表します。

また、対外的な情報発信を目的として設けた SNS 上のゼミのページの運営・管理をゼミ生自身で行ってもらいます。

【その他の重要事項】

①国際経済論 I/II を併せて履修してください。また、これまでミクロ経済学入門 I/II を履修していない場合は、今年度履修することを強くすすめます。

②主体性のある学生の参加を希望します。

③授業開始時刻になってもゼミが始まらない、ということが無いように、時間の管理を徹底してください。

④本ゼミは 4 年次に卒業論文が必須です。提出しない場合は D となります。注意：出席をとります。無断欠席は論外、到底納得できない理由による欠席も評価に強く反映されます。

例年、通常の学習の他、ゼミ合宿（夏）、他大学とのインターゼミナール、本ゼミ卒業生との交流会（OB 会、卒業生による仕事と勉強に関するパネルディスカッション）なども行っています。履修者は、これらへの参加も求められます。

【Outline and objectives】

This class aims to develop logical and strategical thinking. In order to deepen our understanding of logical thinking, we will study analytical methods and concepts of economics. Students will report on textbooks and English newspaper articles with the aim of developing communication and presentation skills in English. The second and the third year students will work on group presentations at an event with other universities. The fourth year students will work on their graduation thesis based on learning up to the third year.

MAN200FA-A4875

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A5108

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4880

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5162

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4879

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4878

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A4877

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4876

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A5054

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

竹内 淑恵 (代講：石田 実)

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期には、基本的な文献やテキストの輪読、実務における事例および新聞・雑誌記事等を材料にしたグループ討論を中心に学ぶ。あわせて、秋学期から分析ツールとして用いる SPSS を実習する。
秋学期には、実践としてのマーケットリサーチ、それに対するディスカッションとレポートの作成を行う。これらを通してマーケティング (特に広告、コミュニケーション、ブランディング関連) を学ぶ。

【到達目標】

・マーケティング関連のテーマに関して、①論文を読んで理解する、②関連情報を調べる、③自分の意見・考えを持つ、④それらを取りまとめて、プレゼンする。
・文章作成力、情報収集・分析・発信力、状況判断・行動力など就業力に関わる総合力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

・グループに分かれて文献やテキスト、リサーチの内容を報告し、それをもとに全員で議論する。
・サブゼミや合宿も実施する。
・大教室での授業と異なり、ゼミへは受け身ではなく毎回積極的な参加が必須である。それに見合うだけの指導を実施する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方を説明するとともに、テキスト輪読担当とグループワークのメンバーを決定する。
2	テキスト輪読と統計解析の実習 (1)	①マーケティング専門書を担当者が報告する。②統計分析の入門書の第 1 章を参照し、SPSS を用いた実習を行う。
3	テキスト輪読と統計解析の実習 (2)	①マーケティング専門書を担当者が報告する。②統計分析の入門書の第 2 章を参照し、SPSS を用いた実習を行う。
4	テキスト輪読と統計解析の実習 (3)	①マーケティング専門書を担当者が報告する。②統計分析の入門書の第 3 章を参照し、SPSS を用いた実習を行う。
5	テキスト輪読と統計解析の実習 (4)	①マーケティング専門書を担当者が報告する。②統計分析の入門書の第 4 章を参照し、SPSS を用いた実習を行う。
6	関東学生マーケティング大会の研究テーマと卒論テーマ (1)	研究テーマについて 2、3 年生の各班、卒論班がそれぞれ発表し、全員で内容を検討する。
7	テキスト輪読と統計解析の実習 (5)	①マーケティング専門書を担当者が報告する。②統計分析の入門書の第 5 章を参照し、SPSS を用いた実習を行う。

8	テキスト輪読と統計解析の実習 (6)	①マーケティング専門書を担当者が報告する。②統計分析の入門書の第 6 章を参照し、SPSS を用いた実習を行う。
9	テキスト輪読と統計解析の実習 (7)	①マーケティング専門書を担当者が報告する。②統計分析の入門書の第 7 章を参照し、SPSS を用いた実習を行う。前回発表した研究テーマを各班が精査した上で、2 回目の発表を行い、全員で内容を検討する。
10	関東学生マーケティング大会の研究テーマと卒論テーマ (2)	①マーケティング専門書を担当者が報告する。②統計分析の入門書の第 8 章を参照し、SPSS を用いた実習を行う。
11	テキスト輪読と統計解析の実習 (8)	①マーケティング専門書を担当者が報告する。②統計分析の入門書の第 9 章を参照し、SPSS を用いた実習を行う。
12	テキスト輪読と統計解析の実習 (9)	①マーケティング専門書を担当者が報告する。②統計分析の入門書の第 10 章を参照し、SPSS を用いた実習を行う。
13	テキスト輪読と統計解析の実習 (10)	①マーケティング専門書を担当者が報告する。②統計分析の入門書の第 10 章を参照し、SPSS を用いた実習を行う。
14	関東学生マーケティング大会の研究テーマと卒論テーマ (3)	これまでの発表に基づき、研究テーマを決定し、仮説を設定する。

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	グループ研究の進捗報告 (1)	2、3 年生の各班はアンケート調査票を作成し、報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
16	グループ研究の進捗報告 (2)	2、3 年生の各班は前週の指摘を踏まえて、修正した調査票を報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
17	グループ研究の進捗報告 (3)	2、3 年生の各班とも調査票を確定し、実査を行う。
18	グループ研究の進捗報告 (4)	2、3 年生の各班は収集したデータの分析を始め、その一部を報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
19	次年度入ゼミ試験	次年度入ゼミ生の面接試験を行う。一緒に勉強するゼミ生を担当教員とともに責任をもって選考する。
20	グループ研究の進捗報告 (5)	2、3 年生の各班は引き続きデータ分析の結果を報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
21	グループ研究の進捗報告 (6)	2、3 年生の各班は仮説検証の結果を報告する。
22	グループ研究の進捗報告 (7)	2、3 年生の各班は分析結果に基づいて、インプリケーションを含め、研究の全体について報告する。
23	関東学生マーケティング大会の発表準備 (1)	関東学生マーケティング大会の発表に向け、練習を行う。
24	関東学生マーケティング大会の発表準備 (2)	前回発表で指摘のあった点を修正し、再度発表練習を行う。
25	関東学生マーケティング大会の振り返り	発表について振り返り、成果と反省点を報告する。

- | | | |
|----|-----------------------|--|
| 26 | 卒論グループによる研究
発表 (1) | 分析結果を報告する。 |
| 27 | 卒論グループによる研究
発表 (2) | 再分析の結果、結論、考察等、卒論全体について報告する。 |
| 28 | 1 年間のゼミ総まとめ | 自分が興味を持ったマーケティング事例を分析し、その事例のマーケティング戦略について報告する。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①サブゼミや関東学生マーケティング大会への積極的な参加と貢献を行う。4 年生ゼミ生は、関東学生マーケティング大会に向け、各グループのメンターとしてサポートする。
- ②論文の書き方を学び、実際にテーマを決め、文章化する。論文の事前チェックを担当する 4 年生とコミュニケーションを密に取り、論文の完成度を高める。
- ③毎年学内懸賞論文に応募し、成果を上げているので、今年度も応募する。

【テキスト（教科書）】

- ①マーケティング関連の専門書については、ゼミ生と相談の上、春学期開講までに決定する。
- ②統計分析の入門書：小塩真司 (2004)『SPSS と Amos による心理・調査データ解析—因子分析・共分散構造分析まで』東京図書。
- 上記 2 冊を春学期テキストとして使用する。

【参考書】

マーケティング論 I/II のテキスト『マーケティングの基礎と潮流』（八千代出版）

その他については、ゼミ開講時あるいは適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

2、3 年生は進級レポート、4 年生は卒論を提出する。これらを完成するためには、各回における個人報告、グループ討議、取り組み姿勢（4 年生に対しては、2、3 年生へのメンターとしての支援も加算する）が重要になる。

上記の平常点を加味して、成績評価は進級レポート（100 %）、卒論（100 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・例年スケジュール管理が甘くなり、せっかく進めた研究が仕上げる段階で時間不足になるので、今年度は関東学生マーケティング大会のスケジュールを厳格に守り、余裕をもって研究を進める。
- ・4 年生の卒論も同様にスケジュール管理を徹底する。
- ・4 年生は前年度の経験を踏まえ、2、3 年生のグループワークのメンターとしてアドバイスをを行い、全面的に支援する。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミでの報告・プレゼンは PC を用い、パワーポイントで行う。レポートや卒論の作成には、ワードとエクセルが必要となる。また、統計分析においては SPSS を用いることになる。

【その他の重要事項】

- ・報告・連絡・相談（報・連・相＝ハウレンソウ）をキチンとできることがすべての基本。これを忘れずに実践してほしい。
- ・欠席の場合は事前に連絡する必要がある。欠席が多い場合は単位取得ができないので注意すること。
- ・2 年生はマーケティング論 I/II、3 年生以上は消費者行動論 I/II、マーケティング・リサーチ I/II、サービス・マネジメント論 I/II、流通論 I/II などマーケティング関連の専門科目を履修し、マーケティング関連の知識を得た上で、ゼミで積極的に発言できるようにしてほしい。

【Outline and objectives】

In the spring semester, students read basic references and texts. We mainly discuss in groups with practical cases, newspapers and magazine articles etc. From the fall semester, we learn the practical market research using SPSS as an analysis tool, and create reports. In this way, we learn marketing, especially advertising, communication, and branding.

MAN200FA-A4881

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A4886

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A4883

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4882

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5163

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4885

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4884

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A5109

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA-A5055

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

筒井 知彦

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計のルールとディスクリージャーについて学び、企業分析を行う。

①経営戦略分析（定性分析）と②有価証券報告書にもとづく財務分析（定量分析）をもとに企業分析を行う。

①について

通常、企業分析ではまず、定性分析が行われる。すなわち、競争優位を獲得するための経営戦略分析を通じて、事業の成功要因や事業リスクが明らかにされる。2 年次に履修した「経営戦略論」の知識をもとに、新聞、雑誌、文献、有価証券報告書などの検討をつうじて、選択した業界および各社の経営戦略について調べる。

②について

企業会計のルールと考え方については 2 年次に履修した「会計学入門」および 3 年次に履修する会計関係科目の知識を前提に、不足する部分を学習する。また、有価証券報告書を読むための基本的な分析手法を身に付ける。次に、①で分析した戦略が実際の成果となっているかどうか、有価証券報告書をもとに財務分析を行う。この作業により、有価証券報告書を読みこなせるよう指導したい。

以上の分析では、業界及び企業の選択はゼミ生諸君と相談のうえで決定することにした。

【到達目標】

- ①実際の企業の経営戦略の知識を得ることができる
- ②有価証券報告書などの財務諸表を読解できる
- ③さまざまな会計ルールを理解できる
- ④企業分析ができる
- ⑤チームで力を発揮できる
- ⑥プレゼンテーション能力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

〔授業の概要〕

進め方としては、グループ制を採用し、学生の発表を中心に進める。同一業界から各自 1 社（合計 3、4 社）を選択し、グループごとに財務分析及び経営戦略分析に関する報告を重ね、その結果をレポートにまとめる。それにより、選択した業界について認識を深めてもらいたい。

〔授業の方法〕

- ① チーム制による報告及び議論、② レジュメ作成

〔授業計画〕

2019 年度は鉄道、住宅、トイレタリーの 3 業界を分析する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	鉄道業界の分析①（経営戦略分析）	鉄道業界の仕組み、特徴、経営戦略、問題点の報告とディスカッション

第 2 回	鉄道業界の分析②	東急の特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第 3 回	鉄道業界の分析③	小田急の特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第 4 回	鉄道業界の分析④	京王の特徴、経営戦略、課題の報告とディスカッション
第 5 回	鉄道業界の分析⑤、住宅業界の分析①	鉄道業界のまとめ、住宅業界の仕組み、特徴
第 6 回	住宅業界の分析②	住宅業界の経営戦略、問題点の報告とディスカッション、積水ハウスの特徴、経営戦略
第 7 回	住宅業界の分析③	積水ハウスの課題の報告とディスカッション、住友林業の特徴、経営戦略
第 8 回	住宅業界の分析④	住友林業の課題の報告とディスカッション、大和ハウスの特徴、経営戦略
第 9 回	住宅業界の分析⑤	大和ハウスの課題の報告とディスカッション、飯田 HD の特徴、経営戦略
第 10 回	住宅業界の分析⑥、トイレタリー業界の分析①	飯田 HD の課題の報告とディスカッション、住宅業界のまとめ、トイレタリー業界の仕組み、特徴
第 11 回	トイレタリー業界の分析②	トイレタリー業界の経営戦略、問題点の報告とディスカッション、花王の特徴、経営戦略
第 12 回	トイレタリー業界の分析③	花王の課題の報告とディスカッション、ユニチャームの特徴、経営戦略
第 13 回	トイレタリー業界の分析④	ユニチャームの課題の報告とディスカッション、ライオンの特徴、経営戦略
第 14 回	トイレタリー業界の分析⑤、まとめ	ライオンの課題の報告とディスカッション、トイレタリー業界のまとめおよび、春学期の振り返りと秋学期に向けての P D C A プラン策定

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	鉄道業界の財務分析①（定量分析）	収益性の分析：売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率の報告とディスカッション
第 2 回	鉄道業界の財務分析②	効率性の分析：総資本回転率、売上債権回転率、支払債務回転率、棚卸資産回転率、有形固定資産回転率の報告とディスカッション
第 3 回	鉄道業界の財務分析③	安全性の分析：流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率、インタレストカバレッジレシオの報告とディスカッション
第 4 回	鉄道業界の財務分析④	成長性の分析：売上高成長率、総資産成長率、セグメント分析の報告とディスカッション、その他指標の分析：R O E、R O A、R O E の 3 分解、C V P 分析の報告とディスカッション
第 5 回	住宅業界の財務分析①	収益性の分析：売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率の報告とディスカッション

第 6 回	住宅業界の財務分析②	効率性の分析：総資本回転率、売上債権回転率、支払債務回転率、棚卸資産回転率、有形固定資産回転率の報告とディスカッション
第 7 回	オープンゼミ	次年度入ゼミ希望者へのオープンゼミ
第 8 回	住宅業界の財務分析③	安全性の分析：流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率、インタレストカバレッジレシオ、成長性の分析：売上高成長率、総資産成長率、セグメント分析の報告とディスカッション
第 9 回	住宅業界の財務分析④	その他指標の分析：ROE、ROA、ROEの3分解、CVP分析の報告とディスカッション
第 10 回	入ゼミ試験	次年度入ゼミ希望者への面接試験
第 11 回	トイレットリー業界の財務分析①	収益性の分析：売上総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上純利益率の報告とディスカッション
第 12 回	トイレットリー業界の財務分析②	効率性の分析：総資本回転率、売上債権回転率、支払債務回転率、棚卸資産回転率、有形固定資産回転率の報告とディスカッション
第 13 回	トイレットリー業界の財務分析③	安全性の分析：流動比率、固定比率、固定長期適合率、株主資本比率、インタレストカバレッジレシオ、成長性の分析：売上高成長率、総資産成長率、セグメント分析の報告とディスカッション
第 14 回	トイレットリー業界の財務分析④	その他指標の分析：ROE、ROA、ROEの3分解、CVP分析の報告とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3 年生はグループ報告に向けて各自が報告準備を整えるとともに、グループで集まり、報告内容について議論すること。4 年生は 3 年生の各グループをサポートするとともに卒業論文報告会に向けて準備を行うこと。

【テキスト（教科書）】

開講時に説明する。

【参考書】

桜井久勝『財務諸表分析第 4 版』中央経済社
バレー他『企業分析入門第 2 版』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

取り組み姿勢 (20%) とグループワーク (80%) をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループ研究、ディスカッションの進め方について参加者と相談することにした。

【その他の重要事項】

関連科目：財務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ

【Outline and objectives】

This seminar aims to provide a foundation on which you develop the essential skills of academic life: conducting research, thinking critically, reading and writing academic texts, making presentations, participating in discussions. These will be pursued through close interaction with seminar members and your supervisor.

MAN200FA-A4887

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A5164

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA-A5056

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4892

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A4891

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4890

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A4889

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4888

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A5110

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

長岡 健

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「創造的なコラボレーションのデザイン」というテーマに関連した幅広い活動を行い、体験的な学習に取り組みます。具体的には、ワークショップ、フィールドワーク、ソーシャル・デザインの実践を通じて、「古い価値観や慣習に囚われず、自由闊達に個性を発揮しながら、一人ひとりの多様性を受け入れる、“未来の常識”を先取りした創造的な活動、場、コミュニティ、働き方、ライフスタイル」を探り、描き、つくる、“未来志向”の実践活動に取り組みます。

以下に挙げた5つの領域を中心に「越境活動」を進め、「ソーシャル・デザイン」をめぐる各自の関心テーマを探っていくと同時に、アンラーニング、サードプレイス、ワークショップ、エスノグラフィーといった概念を手掛かりとして、「創造的なコラボレーション」の新たな姿と意味、ローコンテキストなコラボレーションによるソーシャル&ビジネス・イノベーションの可能性を探るプロジェクトを展開していきます。

1) ダイバーシティ

多様性を受け入れる社会を実現する [マイノリティ支援 (障害者、子供、高齢者、外国人、LGBT) ; パラレルキャリア ; ワークスタイル ; ライフスタイル ; ソーシャルビジネス]

2) コミュニティ

自由闊達な空間・場・地域をつくる [まちづくり ; サードプレイス ; コミュニティビジネス ; カフェ]

3) サステナブル

環境にやさしい暮らしを楽しむ [フードロス ; アップサイクル ; シェアリング・エコノミー]

4) ウェルネス

心と体を大切に暮らす [障害者スポーツ ; 市民参加型スポーツ ; がんサバイバー支援]

5) ラーニング

学びを楽しむ未来型の授業・学校・社会をつくる [ワークショップ ; フィールドワーク ; カフェゼミ]

【到達目標】

- 1) ワークショップ型の活動スタイルを身につける
- 2) 多様な背景の人々とのネットワークを構築する
- 3) 社会にメッセージを発信するスキルを身につける
- 4) ローコンテキストなコラボレーションを実践する
- 5) 問題解決より問題意識を重視する姿勢を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「経験する」「表現する」「振り返る」という活動を中心とした参加体験型で進めます。具体的には、以下の1)～6)のような多様な活動に取り組んでいきます。

- 1) ワークショップ (参加・企画運営・開発)
- 2) ゲストや他大学ゼミとの合同セッション
- 3) 読書会
- 4) フィールドワーク
- 5) 実験的学習イベント (カフェゼミ) の企画・運営
- 6) ブログ記事・フリーペーパーの制作

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ワークショップ	春学期オリエン
第 2 回	フィールドワーク	路上観察&記録の体験
第 3 回	ワールドカフェ	読書会
第 4 回	アトリエタイム	オープンゼミの準備
第 5 回	「カフェゼミ」	オープンゼミの開催
第 6 回	ワールドカフェ	オープンゼミの振り返り
第 7 回	フィールドワーク	路上観察&記録の体験
第 8 回	アトリエタイム	オープンゼミの準備
第 9 回	アトリエタイム	オープンゼミの準備
第 10 回	「カフェゼミ」	オープンゼミの開催
第 11 回	ワールドカフェ	オープンゼミの振り返り
第 12 回	ワークショップ	インタビューの体験
第 13 回	アトリエタイム	フリーペーパー制作
第 14 回	ワークショップ	春学期の振り返り

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	ワークショップ	秋学期オリエン
第 16 回	ワールドカフェ	読書会
第 17 回	アトリエタイム	オープンゼミの準備
第 18 回	「カフェゼミ」	オープンゼミの開催
第 19 回	ワールドカフェ	オープンゼミの振り返り
第 20 回	フィールドワーク	路上観察&記録の体験
第 21 回	アトリエタイム	オープンゼミの準備
第 22 回	アトリエタイム	オープンゼミの準備
第 23 回	「カフェゼミ」	オープンゼミの開催
第 24 回	ワールドカフェ	オープンゼミの振り返り
第 25 回	フィールドワーク	路上観察&記録の体験
第 26 回	ワールドカフェ	読書会
第 27 回	アトリエタイム	フリーペーパーの制作
第 28 回	ワークショップ	秋学期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミ参加メンバーは「授業時間外」に、以下の3つの活動に主体的に取り組んでいきます。

1) 越境活動：

自分の直感と好奇心を手掛かりに、参加体験型フィールドワークを実施し、大学以外に交流を広げて、自分の世界を広げていく。

2) マイプロジェクト：

自分の関心あるテーマについてプロジェクトを立ち上げ、取り組んでいくことを通じて、問題意識を深めていく。

3) 実験的学習イベント：

大学の垣根を越えたオープンな「対話の場（サードプレイス）」を企画・運営するプロジェクト（通称「カフェゼミ」）に、ゼミ全体で取り組む。

【テキスト（教科書）】

- 1) 『プレイフルシンキング』（上田信行・著）
- 2) 『ソーシャルデザイン』（グリーンズ編）
- 3) 『社会を変えるを仕事にする』（駒崎弘樹・著）
- 4) 『ワークシフト』（リンダ・グラットン・著）

【参考書】

- 1) 『キャンブ論』（加藤文俊・著）
- 2) 『プレゼンテーション・パターン』（井庭崇・著）
- 3) 『ワークショップ』（中野民夫・著）
- 4) 『ダイアログ 対話する組織』（中原淳&長岡健・著）
- 5) 『ゆっくり、いそげ』（影山知明・著）
- 6) 『コミュニティ・デザイン』（山崎亮・著）

【成績評価の方法と基準】

- 1) 活動への参画度：60 %
〔評価基準〕ゼミ活動に全て参加（出席）することが前提
- 2) フリーペーパー制作：20 %
〔評価基準〕個人で制作するフリーペーパーの内容を総合的に評価
- 3) ブログ記事執筆：20 %
〔評価基準〕個人で執筆するブログ記事の内容を総合的に評価

【学生の意見等からの気づき】

今年度は「フィールドワーク」と「メディア活用」に積極的に取り組みます。

【学生が準備すべき機器他】

facebook, twitter, note, tumblr などネットワークを活用したコミュニケーション活動を積極的に展開していきます。また、フィールドワークでは、画像／映像で活動を記録していきます。

【その他の重要事項】

「創造的なコラボレーションのデザイン」にチャレンジする第一歩は、私たち自身が活動する場（＝ゼミ）を、活動的で対話的な“アトリエ”のような場にしていくことだと思います。既存概念にとらわれることなく、様々な関係性と活動の可能性を探索する姿勢をもつメンバーの参加を望みます。

【関連科目】

『経営組織論Ⅰ／Ⅱ』を履修することが望ましい。

【長岡研究室ウェブサイト】

<http://www.tnlab.net>
<https://www.facebook.com/nagaoka.lab>
<https://www.facebook.com/cafe.seminar/>

【Outline and objectives】

The theme of Nagaoka Lab is Design of Creative Collaboration. Particularly the focus of the lab's activity is mainly upon creative collaboration in the field of Social Design, which includes the following five sub-themes: 1) Diversity in society, 2) Local community and areal management, 3) Sustainable life styles, 4) Sports in society and healthy life styles, 5) Participatory informal learning out of school-forged settings.

In order to deepen understanding of the meanings of creative collaboration in the social design activities, and to inquire into the future creative society, in which we will hopefully value diversity and individuality, without being fettered by old conventions or old values of the 20th century, the participants of this seminar are supposed to commit to various learning activities, such as doing workshops and fieldworks, making presentations, writing essays, and so on.

In addition to committing to those learning activities, the participants are expected to individually do their own social design projects in relation to some of the above five sub-themes, and to make a theoretical and/or practical contribution to designing the future creative society, by using the following key conceptual tools of “unlearning”, “third place”, “workshop”, “ethnography”, and “boundary crossing”.

MAN200FA-A4893

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A5165

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A4896

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A4895

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4894

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A4898

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A4897

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A5111

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA-A5057

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

永山 晋

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「どのような経験が個人やチームのクリエイティビティに結びつくのか？」
「どのような仕組みを整えれば組織のクリエイティビティを高めることができるのか？」本演習ではこのような「クリエイティビティのマネジメント」をテーマに研究を行う。クリエイティビティとは、新規かつ有用なアイデアの創出を意味し、問題解決や新規事業の創造、イノベーションの創出などに深く関係する。本演習は最終的に卒業論文を個人あるいはチームで作成し、クリエイティビティに関する知見とともに、学術研究の一連のプロセスを体得することを目標とする。そのステップとして、春学期にクリエイティビティの諸理論と、それに関する経営学の基本理論について日本語の文献、英語の文献を輪読を通じて学習していく。秋学期は、各グループがこれまで収集したデータ、知見を材料とし、リサーチデザイン、統計的分析方法、文章作成方法について学習していく。

【到達目標】

- (1) クリエイティビティの基礎理論について理解する
- (2) 学術研究の一連のプロセスを体得する
- (3) 研究を実行するために必要な統計的知識、プログラミング(主に Python/R)の知識を体得する
- (4) 世の中の注目を集める興味深い問い、重要な問いを考案する「構想力」を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期)主に輪読を通じて基礎的な理論の知識を身につけ、各チームが夏から開始する自身の研究テーマを提示することを目標とする。基本的には毎回、割り当てられた文献のサマリーを担当チームが事前に作成していく。毎回の授業では、担当チームが内容を発表し、教員による解説を交えながら、文献の内容を深く理解していく
秋学期)データ分析といった研究方法の学習と論文作成方法の学習、チームで行う研究の進捗報告が中心となる

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の目的、進め方について説明する。お互いの自己紹介、輪読のチーム編成を行う
2	経営理論、クリエイティビティの日本語文献の輪読（1）	担当チームが文献のサマリーを発表
3	経営理論、クリエイティビティの日本語文献の輪読（2）	担当チームが文献のサマリーを発表
4	経営理論、クリエイティビティの日本語文献の輪読（3）	担当チームが文献のサマリーを発表

5	経営理論、クリエイティビティの日本語文献の輪読（4）	担当チームが文献のサマリーを発表
6	経営理論、クリエイティビティの日本語文献の輪読（5）	担当チームが文献のサマリーを発表
7	研究論文とは何か	研究論文の概要と形式について解説する
8	クリエイティビティに関わる英語論文の輪読（1）	イントロダクションと理論のパートを輪読
9	クリエイティビティに関わる英語論文の輪読（2）	方法論のパートを輪読
10	クリエイティビティに関わる英語論文の輪読（3）	結果と考察のパートを輪読
11	クリエイティビティに関わる英語論文の輪読（4）	イントロダクションと理論のパートを輪読
12	クリエイティビティに関わる英語論文の輪読（5）	方法論のパートを輪読
13	クリエイティビティに関わる英語論文の輪読（6）	結果と考察のパートを輪読
14	研究テーマ発表	各自が今後行いたい研究テーマについてプレゼンテーションを行う

II 秋学期

回	テーマ	内容
1	研究の経過報告	担当チームの研究途中経過を報告する
2	リサーチデザインの学習（1）	リサーチデザインに関わる書籍を輪読する
3	リサーチデザインの学習（2）	リサーチデザインに関わる書籍を輪読する
4	リサーチデザインの学習（3）	リサーチデザインに関わる書籍を輪読する
5	統計分析の学習と分析結果の報告（1）	収集したデータをもとに記述統計、相関分析を行う
6	統計分析の学習と分析結果の報告（2）	記述統計のビジュアライゼーション
7	統計分析の学習と分析結果の報告（3）	連続変数に対する統計
8	統計分析の学習と分析結果の報告（4）	連続変数に対する統計
9	統計分析の学習と分析結果の報告（5）	離散変数に対する統計
10	統計分析の学習と分析結果の報告（6）	離散変数に対する統計
11	アウトラインの作成	執筆手順について解説し、ターゲットとする読者の設定（ビジネスマン、学生向け、学術向けなど）と文章のアウトラインを作成する
12	文章の執筆方法の学習（1）	パラグラフ・ライティング
13	文章の執筆方法の学習（2）	一文一義と接続表現
14	文章の執筆方法の学習（3）	引用、参考文献、脚注、文章フォーマットの整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・チームメンバーとのグループワークを行い、資料作成や発表準備などを行う
 ・春学期は自分の興味のある研究テーマを個々が考える。適宜、どのようなことをやりたいかを教員がヒアリングしていく

【テキスト（教科書）】

適宜案内する

【参考書】

日本語書籍については以下を予定している。英語文献は適宜案内する。

■経営理論

・入山章栄「世界標準の経営理論」『DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー』ダイヤモンド社。

■クリエイティビティ

・グラント, アダム (2016) 『ORIGINALS』三笠書房（楠木建監訳）.
 ・バーカス, デビット (2014) 『どうしてあの人はクリエイティブなのか?』PNN 新社（ブレン南日子、高崎拓哉訳）.
 ・ペントランド, アレックス (2015) 『ソーシャル物理学』草思社（小林啓倫訳）.

■リサーチデザイン

・田村正紀 (2006) 『リサーチ・デザイン』白桃書房。

■実証分析

・森田果 (2014) 『実証分析入門』日本評論社。
 ・星野匡郎・田中久稔 (2016) 『R による実証分析』オーム社。

【成績評価の方法と基準】

(1) 演習への参加 (50%)

・質問や発言などの授業への貢献度によって評価する

(2) 研究内容 (50%)

・授業で学習した内容が発表などの研究成果に反映されているかどうかで評価する

【学生の意見等からの気づき】

プログラミングの知識の欠損から秋からの研究が遅れることが多い。この問題を解決するため、Python あるいは R の学習を夏休みの合宿で行う。

【学生が準備すべき機器他】

各自ノート PC を所持すること（メモリ 16GB 以上のノートが望ましい）

【その他の重要事項】

研究の課程でプログラミング言語（R や Python など）、統計分析を用いる。そのため、プログラミング、回帰分析について統計学関連の授業を履修していることが望ましい。

【関連科目】

経営学総論Ⅰ／Ⅱ、経営戦略論Ⅰ／Ⅱ、経営管理論Ⅰ／Ⅱ、組織マネジメント論Ⅰ／Ⅱ、基礎統計学Ⅰ／Ⅱなど

【Outline and objectives】

In this seminar, we study creativity as our main research theme. Creativity refers to the production of novel and useful ideas. While higher creativity gives us a chance to generate breakthrough innovations or solve complex problems, we know little about how to improve and manage our creativity. The goal of this seminar is to learn creativity itself and how to conduct a scientific study by doing your own original research on creativity. To do so, first, we study basic theories of creativity in the spring, then we study the basics of research design and statistical analysis (and programming) in the autumn.

MAN200FA-A4899

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A5166

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4904

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A4903

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4902

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A4901

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4900

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A5112

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA-A5058

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

新倉 貴士

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目のテーマは、消費者視点のブランドマーケティング研究です。履修生は、積極的に研究プロジェクトに参加して、ゼミメンバーとグループメンバーとの共同作業を通じて、独自のマーケティング知識を創造することに努めなくてはなりません。他の人と共に働くことによる達成感、それによる独創的な知識の創造ができるようになることを目的とします。

【到達目標】

当演習における到達目標は、以下の3つです。履修生は、以下の目標に向けた積極的な活動を行います。

- ①消費者行動とブランドマーケティングに関する基礎知識の獲得とこれを基にした現代企業のマーケティング行動を探索します。
 - ②マーケティングリサーチの基礎的知識の獲得を目指します。
 - ③個人研究・グループ研究によるオリジナリティのある知識を創造します。
- ①については、参考書①②③に基づく精緻な知識を獲得します。②については、参考書④に基づいて、体系立てた調査設計と分析手法を獲得します。③については、研究プロジェクトの推進により、独自の創造的な知識を生み出します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

グループワークを通じて、各事例のケース分析とデータ分析により、独自の仮説や命題を導き出して検証していきます。また、事前に行った調査を各グループごとに報告してもらうために、プレゼンテーションが必須となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	春学期イントロダクション	授業概要と年間計画の説明。ゼミ活動の理念、グループワークや独自の考え方の重要性などを理解します。
2	グループ活動①-1	テーマ設定：グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
3	グループ活動①-2	課題の明確化：グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。
4	グループ活動①-3	既存研究サーベイ：グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。
5	グループ活動①-4	仮説の設定：グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。
6	グループ活動①-5	仮説の検証：グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。

7	グループ活動①-6	結論とインプリケーションの導出：グループテーマに関する検証を基にして、結論を導き出して、マーケティングインプリケーションを導出します。
8	春学期中間報告会	グループワークの中間経過報告と今後の課題を整理。
9	グループ活動②-1	テーマ設定：前半の課題を受けて、グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
10	グループ活動②-2	課題の明確化：前半の課題を受けて、グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。
11	グループ活動②-3	既存研究サーベイ：前半の課題を受けて、グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。
12	グループ活動②-4	仮説の設定：前半の課題を受けて、グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。
13	グループ活動②-5	仮説の検証：前半の課題を受けて、グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。
14	春学期最終報告会	グループワークの最終報告と秋学期への課題を整理します。

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	秋学期イントロダクション	春学期の成果確認。夏課題の報告。秋学期の課題確認。
16	グループ活動③-1	新テーマ設定：グループテーマについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
17	グループ活動③-2	課題の明確化：新グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。
18	グループ活動③-3	既存研究サーベイ：新グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。
19	グループ活動③-4	仮説の設定：新グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。
20	グループ活動③-5	仮説の検証：新グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。
21	グループ活動③-6	結論とインプリケーションの導出：新グループテーマに関する検証を基にして、結論を導き出して、マーケティングインプリケーションを導出します。
22	秋学期中間報告会	グループワークの中間経過報告と今後の課題を整理。

23	グループ活動④-1	テーマ設定：前半の課題を受けて、新グループテーマのについて、グループで取り組むべきテーマを慎重に検討し、決定します。
24	グループ活動④-2	課題の明確化：前半の課題を受けて、新グループテーマの課題の明確化。テーマに沿って問題点となる課題を明確にしていきます。
25	グループ活動④-3	既存研究サーベイ：前半の課題を受けて、新グループテーマの既存研究を探索します。これまでに取り組まれた研究に関する網羅的なサーベイをします。
26	グループ活動④-4	仮説の設定：前半の課題を受けて、新グループテーマに関するサーベイを基にして、独自の仮説を導出します。
27	グループ活動④-5	仮説の検証：前半の課題を受けて、新グループテーマに基づく仮説を基にして、データや事例の検証をします。
28	秋学期最終報告会	グループワークの最終報告と一年間の成果を整理します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループワークを推進するために、毎週サブゼミを行います。各回で課題となったテーマに沿って、文献探索やヒアリング調査、質問紙調査などの設計と実施を行います。

【テキスト（教科書）】

授業中に案内します。

【参考書】

- ①青木幸弘他、『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』、有斐閣アルマ、2012 年
- ②竹内淑恵編著、『リレーションシップのマネジメント』、文真堂、2014 年
- ③青木幸弘編著、『ケースに学ぶマーケティング』、有斐閣、2016 年
- ④土田昭司・山川栄樹、『新・社会調査のためのデータ分析入門』、有斐閣、2011 年

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度、グループ内協調性、課題遂行能力などをもとにして総合的に評価します。具体的には、ゼミ貢献度（40 %）、グループ貢献度（30 %）、プレゼンテーション能力（30 %）とします。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークの時間効率性を意識して進める予定です。
協調性を育成しながら、独自性を十分に発揮できるよう進める予定です。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

履修生は全員、「マーケティング論Ⅰ/Ⅱ」を事前に履修、もしくは履修中としておくべき科目とします。
3 年生以上の履修生は、「マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ」と「消費者行動論Ⅰ/Ⅱ」を履修すべき科目とします。
「マーケティング関連科目」を履修すべき科目とします。

【Outline and objectives】

This class provides the skills required to manage marketing projects. Students will gain a methodology for better marketing practices.

Major course objectives are;

- To introduce students to knowledge about consumer behavior and marketing strategy.
- To learn marketing research method.
- To create original hypothesis.
- To get presentation skills required to communicate marketing plans.

MAN200FA-A4905

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A5167

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA-A5059

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA-A4906

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A4910

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A4909

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4908

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A5113

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A4907

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

二階堂 行宣

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・経済史・経営史専攻の担当教員による、卒業論文の指導・執筆を目標とした演習です。
・各参加者は担当教員の指導のもと、経営学・経済学に関連した実証的な調査・研究を自主的に行い、その成果を授業中に随時報告します。
・以上の反復を通じ、社会科学的な調査スキルを徹底的に磨くとともに、論理的な思考を展開し、その過程を体系的な文章としてまとめ上げる力を向上させます。
・あわせて、社会人として身に付けておくべき教養・知識（特に日本の近現代史に関するもの）を習得します。

【到達目標】

・さまざまな対象（企業・組織・人物・事象など）の歴史の変遷について調査し、その過程や要因を分析するスキルと意義を学ぶ。
・経営史学の専門的知識と方法論を身に付け、その立場から建設的な議論を展開することができる。
・経営学研究における歴史的アプローチのメリットとデメリットを理解し、自らの主体的な議論・研究に反映させることができる。
・現在や未来におけるさまざまな社会的課題を長期的な視点から分析し、理解する能力を養う。
・活動の集大成として、卒業論文を執筆・完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

I 春学期

・春学期は、担当教員が選択したテキストに基づき、論理的・学問的な文章を「読み、理解し、批判する」ことを身に付けていきます。
・テキストは、日本経営史・経済史分野のほか、現状の経済・経営に関連した文献のなかから幅広く選択します。
・参加者は事前に配布されたテキストに基づき、指示された作業・課題（事前調査／要約／文章作成など）を行います。
・各回の報告者（グループ）を決める場合は、該当者はレジュメまたはパワーポイントを使って、報告の準備を行います。
・授業へ臨む際には自らの意見を明確化するとともに、積極的に発言し、その場の議論が深まるように心がけます。

II 秋学期

・秋学期は、各参加者が興味・関心を持つテーマを選び、卒業論文執筆に向けた作業を行います。
・各参加者は、経営学・経済学について関心のあるテーマを設定し、自ら定めたスケジュールに基づいて、主体的に調査を行っていきます。
・テーマの設定は各自の自由ですが、調査・分析を行う際には、長期的な視点から対象を分析するように心がけてください。
・各参加者は、各回の末尾に調査・研究活動の進捗状況を定期的に報告します。
・また、中間報告の時間を複数回設けます。担当報告者（グループ）は、①卒業論文で取り上げたいテーマとその理由、②論文執筆に向けて必要な調査活動・資料、③卒業論文の目次と分析視点、などについて、随時プレゼンテーションを行います。
・担当報告者（グループ）によるプレゼンテーションのあと、参加者全員によるディスカッションを行います。
・以上の活動に加え、現実のビジネスの現場を見学し、社会人・経営者と接する機会も複数回設け、自らのキャリアを考える際の一助とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	前期の授業の説明とスケジュールの決定を行う。 参加者の自己紹介を行う。 発表資料の作成とディスカッションの方法について理解する。
2	導入①	
3	導入②	
4	導入③	経営史・経済史学の方法と特徴について理解する。
5	実践①	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
6	実践②	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
7	実践③	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
8	実践④	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
9	実践⑤	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
10	実践⑥	テキストに基づき、事前に定められた作業・報告等を行う。
11	調査報告①	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。
12	調査報告②	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。
13	調査報告③	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。
14	調査報告④	後期の活動準備として、自らの興味関心に基づいた調査・報告を行う。

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	イントロダクション	後期の授業の説明とスケジュールの決定を行う。 各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。
16	調査報告①	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。
17	調査報告②	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。
18	調査報告③	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。
19	調査報告④	各参加者が、卒業論文に取り上げたいテーマについて報告を行う。
20	中間報告①	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査活動・資料について報告を行う。
21	中間報告②	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査活動・資料について報告を行う。

22	中間報告③	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査活動・資料について報告を行う。
23	中間報告④	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査活動・資料について報告を行う。
24	中間報告⑤	各参加者が、卒業論文の執筆に向けて必要な調査活動・資料について報告を行う。
25	最終報告①	各参加者が、卒業論文の分析視角・内容・結論について報告を行う。
26	最終報告②	各参加者が、卒業論文の分析視角・内容・結論について報告を行う。
27	最終報告③	各参加者が、卒業論文の分析視角・内容・結論について報告を行う。
28	最終報告④	各参加者が、卒業論文の分析視角・内容・結論について報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・この演習は、2 年間で卒業論文を仕上げることを最終目標に、参加者自らが主体的に学習を行う場です。
 ・担当教員は、参加者個々の関心に応じて主体的な学習・研究をサポートする役割に徹し、それぞれのペースに介入することはできる限り慎みます。
 ・したがって、参加者は必要に応じ、授業時間以外の調査活動（他大学・自治体図書館への訪問／企業への調査／インタビュー実施など）を行うことも重要になります。
 ・参加者の活動をサポートするためであれば、担当教員はあらゆる支援を惜しみません。教員と密にコミュニケーションをとり、積極的に指導・助言を仰いでください。

【テキスト（教科書）】

・必要に応じ、授業中にコピーを配布する。

【参考書】

・個々の興味に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・報告（40 %）＋平常点（30 %）＋質問・議論への参加（30 %）。
 ・出席する際には、積極的に議論に参加してください。
 ・ただ出席するのみの場合、欠席とみなすことがあります。
 ・欠席する場合は、評価に大きく関わりますので、必ず事前に連絡してください。
 ・卒業論文を提出しない場合は、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

・主体的な学習を希望する声が多く寄せられたため、テキストの輪読等は最小限にとどめる授業計画へと変更しました。

【学生が準備すべき機器他】

・発表資料の作成の際は、パソコン（ワードやパワーポイント）を使用してください。
 ・その環境が整わない人は、事前に相談してください。

【関連科目】

・日本経営史Ⅰ／Ⅱ
 ・演習は、大学における主体的学習の総合としての性格を持つため、上記の他にも全ての科目に関連します。

【Outline and objectives】

・ This course is an exercise aiming at teaching and writing graduation thesis.
 ・ Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
 ・ Through the above iteration, we will thoroughly refine the social science research skills, develop logical thinking, and improve the ability to organize the process as systematic sentences.

MAN200FA-A4911

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4914

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A4915

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4912

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A4913

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A5114

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4916

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A5060

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A5168

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

西川 英彦

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、「『楽しい』をカタチにする実践的マーケティング」である。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

【到達目標】

到達目標としては、以下の 3 点に整理できる。

- ①マーケティングの基礎理論を説明できる。
- ②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
- ③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

演習では、主には 5 つのことを実施する。

- ①商品企画、マーケティング・リサーチ、消費者行動に関する基礎理論や手法の相互学習のための輪読。
- ②ゼミ内コンペ（ゼミコン）。
- ③無印良品への企画提案（MUJI プロジェクト）。
- ④ S カレでの企画提案。「S カレ」（Student Innovation College）は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次の URL を参照のこと。<http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/>
- ⑤卒業論文の作成。なお、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生が条件となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習概要 輪読（以下、原則毎回）
第 2 回	定性的調査の相互学習①	インタビュー法についての基礎理論や手法の説明
第 3 回	定性的調査の相互学習②	観察法についての基礎理論や手法の説明
第 4 回	定性的調査の相互学習③ ゼミコン・キックオフ	リード・ユーザー法についての基礎理論や手法の説明
第 5 回	定量的調査の相互学習①	ゼミコンの課題説明 記述統計・相関分析の基礎理論や手法の説明
第 6 回	ゼミコン第 1 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 7 回	定量的調査の相互学習②	χ^2 検定、差の検定の基礎理論や手法の説明
第 8 回	ゼミコン第 2 回報告 S カレのテーマ設定	ゼミコン報告、相互にフィードバック S カレのテーマおよびプロトタイプ案の報告

第 9 回	定量的調査の相互学習③	因子分析・回帰分析の基礎理論や手法の説明
第 10 回	S カレ第 1 回報告	S カレのラフ調査・プロトタイプの場合、相互にフィードバック
第 11 回	ゼミコン第 3 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 12 回	S カレ第 2 回報告	フィードバックをもとに修正した S カレのプロトタイプの場合、デザイナーにプレゼン、講評をうける
第 13 回	ゼミコン最終発表 S カレ中間（第 3 回）報告	ゼミコン最終発表
第 14 回	卒論第 1 回報告	先行研究レビューの報告
II 秋学期	テーマ	内容
第 15 回	S カレ第 4 回報告	S カレのコンセプト案の報告、相互にフィードバック
第 16 回	MUJI プロジェクトキックオフ	良品計画の開発者による課題の説明および質疑
第 17 回	S カレ第 5 回報告（秋カンに参加）	S カレのコンセプト案の報告、相互にフィードバック
第 18 回	MUJI プロジェクト第 1 回報告	プロトタイプの場合、相互にフィードバック
第 19 回	S カレ第 6 回報告	S カレの調査および企画の報告、相互にフィードバック
第 20 回	MUJI プロジェクト第 2 回報告	プロトタイプの場合、相互にフィードバック
第 21 回	S カレ第 7 回報告 卒論第 2 回報告①	S カレの調査および企画の報告、相互にフィードバック 卒論調査データの報告
第 22 回	MUJI プロジェクト第 3 回報告 卒論第 2 回報告②	調査および企画の報告、相互にフィードバック 卒論調査データの報告
第 23 回	S カレ第 8 回報告 卒論第 2 回報告③	本番どおりのプレゼン、相互にフィードバック 卒論調査データの報告
第 24 回	MUJI プロジェクト第 4 回報告	調査および企画の報告、相互にフィードバック
第 25 回	S カレ第 9 回報告（冬カン）	フィードバックをもとに修正したプレゼン
第 26 回	MUJI プロジェクト最終報告	良品計画の開発者にプレゼン、講評をうける
第 27 回	卒論第 3 回報告①	調査結果および結論の報告、相互にフィードバック
第 28 回	卒論第 3 回報告②	調査結果および結論の報告、相互にフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自またはグループの研究&企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。

【テキスト（教科書）】

西川英彦・澁谷覚『1 からのデジタル・マーケティング』碩学舎、2019 年。
大学生協の電子教科書（西川英彦・廣田章光『1 からの商品企画』碩学舎、2012 年）

【参考書】

- ①トム ケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! ― 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002 年.
- ②山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年.
- ③ラッセル ベルク・アイリーン フィッシャー・ロバート V コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年.
- ④マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015 年.

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ報告 50%
演習活動への貢献 50%

【学生の意見等からの気づき】

計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

【学生が準備すべき機器他】

適宜利用する。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング論 I/II、消費者行動論 I/II、流通論 I/II、サービス・マネジメント論 I/II、製品開発論 I/II、広告論である。
授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

【Outline and objectives】

The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

MAN200FA-A4917

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A5169

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA-A5061

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4922

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A4921

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4920

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A5115

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A4919

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4918

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

西川 真規子

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不安定化する現代社会において、近視眼的ではなく長期的視点に立ち、多様な他者と協力関係を築きつつ、協働的に問題を解決していくことが益々重要になってきています。このゼミでは社会学、社会心理学の文献を中心とした先行研究の考察によりひとの態度や行動傾向についての理解を深めるとともに、身近な社会現象を取り上げディスカッションを行い、グループワークを通じて協業のためのスキルを養っていきます。法政大学の学生を対象に様々なアプローチの社会調査を実施することで、法大生が直面する社会的課題の発生メカニズムの解明も目指していきます。

【到達目標】

第一に、専門文献の読解を通じて、社会科学的視点から人間の行動および相互依存関係の理解を目指します。第二に、社会調査を設計・実施し、収集したデータを分析、解釈するスキルを身につけます。第三に、ゼミ活動を通じて自己理解や他者への理解を深め、集団活動に必要な自己管理や共感力、コミュニケーションスキルを身につけ、メンバーの一員として信頼される力を高めていきます。第四に、各自が独自の個性を発揮しつつ、グローバル社会でも通用する思考力、発言（表現）力を身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ゼミ初年度は、テキストをベースとしたプレゼンテーションや、社会問題に関するディスカッション、グループプロジェクトを実施します。ゼミ最終年度は、卒業論文作成を進めます。初年度から文献調査や社会調査の方法、データ解析に必要な統計手法についても学習を進めます。さらに、ディベートや簡単な英語によるコミュニケーション等も取り入れ、情報収集と発信力、自己表現や管理力、コミュニケーションスキルを鍛えます。ゼミ生の自主・自律性を重んじるため、グループプロジェクトや卒業論文のテーマはゼミ生の関心に基づいて決定します。課外授業や合宿も実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミ目標の共有/授業の進め方/教科書紹介/委員引継ぎ/昨年度収集したデータの確認
2	テキスト講読	社会科学とは何か/今後の授業の進め方の確認
3	3 分スピーチ紹介 テキスト発表 1 3 分スピーチ 1 卒論研究 1	3 年はテキスト発表/3 分スピーチ議論/4 年は卒論テーマの確定
4	テキスト発表 2 3 分スピーチ 2 文献調査の方法	テキストに関する社会問題のディスカッションを全員で実施/先行文献の探索方法を学習
5	テキスト発表 3 3 分スピーチ 3 卒論研究 2	3 年はテキスト発表/3 分スピーチ議論/4 年はテーマを確定後先行研究を開始

6	テキスト発表 4 3 分スピーチ 4 卒論研究 3	テキストに関する社会問題のディスカッションを全員で実施/3 分スピーチ議論/4 年は先行研究を実施
7	テキスト発表 5 3 分スピーチ 5 グループワーク 1	3 年はテキスト発表/3 分スピーチ議論/3 年のグループワーク開始、テーマ構想
8	テキスト発表 6 3 分スピーチ 6 卒論研究 4	テキストに関する社会問題のディスカッションを全員で実施/3 分スピーチ議論/4 年は先行研究から仮説の設定へ全員でディベートテーマを決め、ディベートを実施
9	ディベート	3 年はテキスト発表/4 年は先行研究から仮説の設定へ/3 年はグループワークのテーマ確定
10	テキスト発表 7 3 分スピーチ 7 卒論研究 5 グループワーク 2	テキストに関する社会問題のディスカッションを全員で実施/3 分スピーチ議論/4 年は先行研究から仮説の設定へ/3 年はグループ分け
11	テキスト発表 8 3 分スピーチ 8 卒論研究 6 グループワーク 3	4 年は先行研究から仮説の設定へ/3 年はグループ毎に研究を開始
12	卒論研究 7 グループワーク 4	4 年は仮説の設定へ/3 年はグループ毎に文献調査を実施
13	卒論研究 8 グループワーク 5	4 年は仮説の設定へ/3 年はグループ毎に文献調査を実施
14	卒論研究 9 グループワーク 6	
II 秋学期		
回	テーマ	内容
15	中間発表（夏合宿）	3 年はグループプロジェクト発表/4 年は卒論中間発表
16	オリエンテーション	秋期活動内容・スケジュールの確認/委員引継ぎ
17	テキスト発表 9 3 分スピーチ 9 卒論研究 10 グループワーク 7	3 年はテキスト発表/3 分スピーチ議論/4 年は調査方法の検討/3 年はグループワーク実施
18	テキスト発表 10 3 分スピーチ 10 卒論研究 11 グループワーク 8	3 年はテキスト発表/3 分スピーチ議論/4 年は調査方法の決定/3 年はグループワーク実施
19	テキスト発表 11 3 分スピーチ 11 卒論研究 12 グループワーク 9	テキストに関する社会問題のディスカッションを全員で実施/3 分スピーチ議論/4 年は調査実施/3 年はグループワーク実施
20	社会調査の方法 1 卒論研究 13 グループワーク 10	質的調査手法について/4 年は調査実施/3 年はグループワーク実施
21	社会調査の方法 2 卒論研究 14 グループワーク 11	量的調査手法について/4 年は調査を実施/3 年はグループワーク実施
22	社会調査の方法 3 卒論研究 15 グループワーク 12	調査項目の検討/4 年は調査実施状況を報告/3 年はグループワーク実施

23	社会調査の方法 4 卒論研究 1 6 グループワーク 1 3	調査票の設計/データ分析手法/4 年は 調査実施状況を報告/3 年はグループ ワーク実施
24	社会調査の方法 5 卒論研究 1 7 グループワーク 1 4	調査票の設計/データ分析手法/4 年は 調査実分析結果を報告/3 年はグループ ワーク実施
25	課外活動	課外活動を実施
26	社会調査の方法 6 卒論研究 1 8 グループワーク 1 5	データ分析手法/4 年は調査分析結果を 報告/3 年はグループワーク実施
27	社会調査の方法 7 卒論研究 1 9 グループワーク 1 6	データ分析手法/4 年は論文最終調整/ 3 年はグループワークの完成
28	卒論発表会 プロポーザル発表会	4 年は卒論の最終成果を発表/3 年は来 年度の卒論プロポーザルを発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当箇所について全員が予習を行う。3 年:テキスト発表、3 分スピーチについて、授業の前に準備を進める。グループワーク開始後はグループ毎に次回までに必要な準備を進める。4 年:卒論研究発表のための準備を上記スケジュールに従い各自責任を持って進める。

【テキスト（教科書）】

ジグムント・バウマン、ティム・メイ『社会学の考え方 第 2 版』、ちくま学芸文庫、2017 年（原著 Zygmunt Bauman & Tim May, *Thinking Sociologically 2nd edition*）を使用します。

【参考書】

参考文献は必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

3 年:ディスカッションへの参加等平常点 30 % 個人・グループ発表 30 %、ゼミ活動への貢献度 40 %

4 年:ディスカッションへの参加等平常点 20 %、ゼミ活動への貢献度 30 %、卒業論文の報告・提出 50%

尚、ゼミ活動への貢献度とは、3 年の場合は、グループワークや割り当てられた委員活動を通じての貢献を含みます。4 年の場合は、先輩としてのリーダーシップの発揮を意味します。

【学生の意見等からの気づき】

学生一人ひとりが自主性や個性を十分に発揮し、お互いを高めあうことができるようなゼミを目指します。学生からの提案や企画をできるだけゼミの運営に反映していきます。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミ活動に必要な資料の配布や共有を授業支援システムを通じて行います。

【その他の重要事項】

3 回以上の欠席を持って除籍となることがあります。あたり前のことをあたり前とせず、常に「なぜ」と問うような探究心の強い学生の参加を希望します。

【関連科目】

組織行動論 I・II

【Outline and objectives】

Key words in this course are diversity, cooperation, and confidence. Students will learn sociological and social psychological approaches to understand and analyze social phenomena. They will collect data from Hosei Univ. students, focusing on typical problems found among them. They will then analyse students' data, and write their thesis at the end of the course.

MAN200FA-A4923

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A4928

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5170

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4927

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4926

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A5116

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A4925

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4924

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A5062

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

入戸野 健

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報技術の活用とビジネスシステムへの展開および Web 情報の分析をテーマとする。

【到達目標】

文献・事例研究を通じて、情報技術について幅広く理解し、情報社会におけるそれらの役割を考えながら自分の直面する問題を含め、様々な場面で適切な情報活用を行えるようになることを目標とする。同時に報告書作成に必要な基礎データの統計的な分析手法を身につけ、コンピュータを利用したプレゼンテーションや報告文書作成の技能の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

情報システムの基盤技術となる通信ネットワークやプログラミング言語などに関する知識を身につけながら、それらの新たなビジネスやサービスへの展開の可能性について、実際の Web に関するデータの分析をまじえて考察する。

授業では最近の話題から文献を選び担当者を決めて輪読を行う。毎回担当者が発表を行いそれに対して全員で議論する。発表とディスカッションを基本とするが、その準備段階として、コンピュータを活用した効果的なプレゼンテーション資料の作成や報告文書の作成に関する演習も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミ参加にあたっての心構えや進め方について確認する。
2	報告文書の作成法	レジュメや報告書の作成に必要な基礎技能を身につける。
3	プレゼンテーション作成法	効果的なプレゼンテーションを行うための技法やスライド作成方法について学習する。
4	文献輪読	文献を選定し分担して読み理解して発表する輪読を行う。
5	インターネットビジネスモデル	インターネットの特性を活かしたビジネスモデルを外観する。
6	インターネット広告	Google の検索連動型広告を中心にインターネット上での各種の広告の仕組みについて考察する。
7	ロングテールとフリーミアム	インターネットサービス上でのロングテールとフリーミアムについて考察する。
8	レコメンデーションシステム	ショッピングサイト等で用いられるいわゆるオススメ商品の提示方法を理解する。
9	人工知能 (AI)	人工知能の考え方を理解し今後の展開を考察する。

10	知識に関連する技術	ディープラーニング、集合知などの知識に関連する技術を概観する。
11	電子マネーと仮想通貨	各々の特性とそれを構成するブロックチェーンの仕組みなどを理解する。
12	事例研究	Google, Amazon 等の代表的なインターネット企業やサービスを取り上げ考察する。
13	春学期の総括	まとめとして春学期の内容を整理し総括する。
14	ゼミ合宿	夏季ゼミ合宿を実施する。
II 秋学期		
15	テーマ活動方針の検討と確認	内容 秋学期の進め方の確認と中期的なゼミ活動の方針（サブゼミ等）の検討を行う。
16	研究テーマの検討	4 年生は各自あるいはグループ毎に卒業研究のテーマを選定する。
17	研究報告・論文の書法	研究報告・論文の構成や記法・書式を身につける。
18	文献調査	各テーマの領域について文献などをあたりながら基礎的な事実等を把握する。
19	データの集計	研究テーマ毎に関連する必要なデータを収集し統計的な集計処理などを行う。
20	中間報告	各テーマの進捗状況を報告するプレゼンテーションを行う。
21	各種ディスカッション	より活発なまたはフォーマルな発言や議論の進め方に慣れるため、各種のディスカッションを行う。
22	ディベート	身近なテーマを設定してディベートを行う。
23	プログラム開発環境	主に 3 年生はプログラム開発に必要なプラットフォームアプリケーションなどを整備しその操作に慣れる。
24	プログラミング技法	データ分析計算やテーマに沿った制作物の作成に必要なプログラミング技法を学習する。
25	HTML とコンテンツ表現	Web サイトのコンテンツの表現方法を身につける。
26	Web サーバ構築	Web サーバを構築し研究成果等を情報発信する方法を学ぶ。
27	秋学期の総括	まとめとして秋学期の内容を整理し総括する。
28	卒業研究発表	4 年生は卒業研究の最終成果を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表の担当者は事前にスライド・配布資料の作成を含む発表準備を十分に行う。毎回のゼミ授業後にはその回の要点を各自で整理し、疑問点があれば文献やネット等で確認したり次回の質問として準備しておく。

【テキスト（教科書）】

授業の冒頭にゼミ生の要望を考慮しながら選定する。また、ゼミの進捗状況に応じて各種の教材を適宜追加指定することがある。

【参考書】

ゼミの中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発言頻度やその内容などの平常点・参加意欲を重視 (70%) する。進捗状況に応じて各時点で取り上げているテーマに沿ったレポートを提出 (30%) してもらい、それらから総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ内外におけるディスカッションやコミュニケーションの時間をさらに増やして行きたい。

【学生が準備すべき機器他】

状況に応じてノート PC などの情報機器を利用する (詳細は授業内で説明する)。

【その他の重要事項】

問題意識を持ち自分の考えを積極的に発言する姿勢を身につけて欲しい。自主的なサブゼミ運営にも期待します。

【関連科目】

情報技術論 I / II

プログラミング言語 I / II

ネットワーク論 I / II

情報学発展 I / II

【Outline and objectives】

This seminar focuses on utilization of information technologies and their application to business systems, and also aims at analyzing information collected from web based systems.

MAN200FA-A4929

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A4934

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5171

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4933

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4932

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A5117

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A4931

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4930

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A5063

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

長谷川 翔平

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業のテーマは「統計モデルによるマーケティング・データの分析」である。企業はマーケティング活動を行う際に、様々なデータを収集し、活用している。例えば、新製品開発では消費者ニーズの調査データ、テレビ広告配信では年齢層別テレビ視聴率データなどが使われる。TSUTAYA の T カードに代表される FSP (Frequent Shoppers Program) と呼ばれるポイントカードによるマーケティング手法を用いれば、個人の長期間にわたる購買履歴データを収集することができる。また、Amazon や楽天などのインターネットショッピングサイトでは、「購入に至る前にどんなサイトを何分見ていたか」まで収集している。これらのデータは多数の消費者から収集されるため、その中で商品 A を買った人は次に商品 B を買う傾向が多いと分かれば、商品 A を買った人に商品 B を推薦する、などしてプロモーションの最適化に用いられている。近年、ビッグデータという単語に注目が集まっているが、マーケティングにおいても企業が持つ大規模なマーケティング・データの活用が求められている。また、統計学や機械学習のモデルを応用して様々なデータの分析を行うデータサイエンティストという専門的な職業にも注目が集まっている。データを分析することで企業経営上の有用な知見を取り出す能力は、今後の社会で重要なスキルとなる。

本授業では、様々なマーケティング・データから経営意思決定に必要な知見を取り出すための分析モデルを学び、実際にデータを収集・分析することによって応用力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・マーケティング・サイエンスの基礎的知識を身につける。
- ・課題を発見し、解決のため必要となるデータの収集方法が説明できる。
- ・データ分析モデルの説明と実行ができる。
- ・分析結果を分かりやすく報告できる。
- ・課題解決能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【春学期】

マーケティング・データの分析モデルについて書かれたテキストを輪読し、データ分析に必要な知識を学ぶ。また、統計解析ソフト R (フリーソフト) を使い、データ分析の実習を行う。

【秋学期】

前半①：データ分析に関して発展的な内容を含むテキストの輪読を行う。

前半②：外部のデータ分析コンテストに参加する。昨年度は株式会社野村総合研究所の「マーケティング分析コンテスト」に参加した。

後半：4 年生を中心に卒業研究を行う。4 年生と 2・3 年生のグループを作り、設定したテーマについてデータを収集し、実証的な分析を行い、発表する。テーマ例として昨年度のゼミ生が分析を行ったものを記載する。

- ・電子コミック市場でのシェア獲得戦略
- ・横浜市の魅力向上
- ・デジタル一眼カメラの売上げ向上に繋がる施策提案
- ・スマートスピーカー普及のためのマーケティング戦略

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	テキスト 1・2 章：マーケティング意思決定とリサーチ・デザイン、データの取得と整理	マーケティング・サイエンスの役割とマーケティング・データの調査・収集方法
3	テキスト 3 章：サンプリング	サンプリング（標本）調査の方法
4	テキスト 4 章：質問紙の作成と測定尺度	アンケート調査票の作り方
5	テキスト 5 章：市場反応分析 (I)	回帰モデルによる価格弾力性の推定
6	テキスト 6 章：市場の発見と知覚マップ	因子分析による市場の理解とチャンスの発見
7	テキスト 7 章：市場セグメンテーション	クラスター分析による市場分類
8	テキスト 8 章：製品開発	コンジョイント分析による新製品開発
9	テキスト 9 章：新製品の普及	バスモデルによる新製品普及構造の理解
10	テキスト 10 章：顧客の管理	RMF 分析による顧客管理
11	テキスト 11 章：市場反応分析 (II)	離散選択モデルによる購買予測
12	テキスト 12 章：ブランドの属性と同時マップ	コレスポンデンス分析による市場ニーズの理解
13	テキスト 13 章：マーケットバスケットとクロスセリング	アソシエーション分析による同時に購買されやすい商品の分析
14	テキスト 14 章：定性調査データの分析	構造方程式モデルによる顧客満足度の測定

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	データ分析コンテスト：研究計画発表	分析テーマ、研究計画の発表
16	データ分析コンテスト：中間報告①	利用データや分析手法の報告
17	データ分析コンテスト：中間報告②	利用データや分析手法の報告
18	データ分析コンテスト：中間報告③	データ分析の途中報告
19	データ分析コンテスト：中間報告④	データ分析の途中報告
20	データ分析コンテスト：最終報告①	分析結果の最終報告
21	データ分析コンテスト：最終報告②	分析結果の最終報告
22	卒業研究：研究計画発表	卒業研究テーマの研究背景や目的、研究計画の発表
23	卒業研究：中間報告①	データ収集方法や利用データの報告
24	卒業研究：中間報告②	データ収集方法や利用データの報告
25	卒業研究：中間報告③	データ分析の途中報告

26	卒業研究：中間報告④	データ分析の途中報告
27	卒業研究：最終報告①	分析結果の最終報告
28	卒業研究：最終報告②	分析結果の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【春学期】

- ・テキストを読み、分析例を自分のパソコンで実行する。
- ・報告担当者は発表資料を作成する。

【秋学期】

- ・各グループでデータ収集から分析、結果考察を行い、発表資料を作成する。

【テキスト（教科書）】

春学期：照井伸彦・佐藤忠彦『現代マーケティング・リサーチ』有斐閣（2013）
 秋学期（予定）：大村平『実験計画と分散分析のはなし（改訂版）』日科技研（2013）

【参考書】

- ・古川一郎・守口剛・阿部誠『マーケティング・サイエンス入門（新版）』有斐閣（2011）
 - ・星野崇宏・上田雅夫『マーケティング・リサーチ入門』有斐閣（2018）
 - ・平岡和幸・堀玄『プログラミングのための確率統計』オーム社（2009）
- その他必要に応じて紹介

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への参加（60 %）

平常点（40 %）

4 年生は卒業論文の執筆が必須

【学生の意見等からの気づき】

- ・基礎だけでなく発展的な内容も取り入れる
- ・統計解析ソフト R の利用方法を詳しく学ぶ

【学生が準備すべき機器他】

データ分析と報告資料作成にパソコンが必要である。

【その他の重要事項】

- ・テキストは数式によるモデルの説明が多いため、初歩的な数学（高校レベルの微分積分）と統計学の知識があることが望ましい。
- ・統計解析ソフト R で簡単なプログラミングを組んでデータ分析を行うため、ある程度のパソコンスキル（エクセルの関数が利用できる等）があることが望ましい。
- ・受講希望者は、事前に必ず図書館等で上記テキストを一読し、内容が理解できそうか判断してからゼミへ応募して欲しい。
- ・SA 帰国生および転編入学生の募集は 4 月に行う。
- ・積極性を持った学生の参加を希望する。

【関連科目】

- ・基礎統計学 I/II
- ・計量経営分析 I/II
- ・マーケティング論 I/II
- ・マーケティング・リサーチ I/II

【Outline and objectives】

Many firms collect various data from consumers and analyze the data for marketing activities. This course's objective is to study the methods of marketing data analysis. Students will learn methods of data collection and analysis, finally write a graduation thesis.

MAN200FA-A4935

演習 1

2 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A4940

演習 6

4 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5172

演習 5・6

4 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4939

演習 5

4 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4938

演習 4

3 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A5118

演習 3・4

3 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A4937

演習 3

3 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4936

演習 2

2 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A5064

演習 1・2

2 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

林 直嗣

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融・財務と経済について、理論と実際を勉強し、コンピューターを活用した計量分析も行う。また金融政策や経済政策など政策問題も幅広く勉強する。全員がコンピューターを使いこなし、レジュメをパワーポイントで上手に表現し、ネットのデータベースを検索し、そのデータを使って計量分析や情報処理を行う技法を指導する。本年度は「世界経済の回復に対応した日本経済の安定成長」を主な研究テーマとする。そのためマクロ経済学や金融論、日本経済論の理論的・実証的な学習をしつつ、アベノミクスやトランポノミクスなど経済政策や金融界や産業界の在り方について政策的な分析を行う。

【到達目標】

この演習では、知識の教育=知育だけでなく、情報機器を使いこなす**技育**も行い、また少人数の人間のふれあいの中で精神面での**徳育**も目標とする。また合宿ではテニスやサイクリングで身体を鍛える**体育**を行う。本ゼミの徳育の指導理念は、**協調性（チームワーク）**と**独創性（オリジナリティ）**である。実社会に出てから、組織の中で協調して仕事ができるとともに、学んだこと全てを総合的に踏まえ、独創的なアイデアで組織をリードできる人間を養成することを目標とする。こうした①**知育**、②**技育**、③**体育**、④**徳育**、⑤**総合的**の**判断力**、が文科省の「**学士力**」の目指すところである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

演習（独語＝ゼミナール、英語＝セミナー）では、教授の指導のもとに、少人数の学生が特定のテーマについて研究し、報告・討論することが主たる授業形態である。テキストの輪読・報告・討論を行い、指導教授による講義・解説も行う。2・3 年生は、日本語や英語の文献をテキストとして輪読や討論を行うとともに、チームで共同論文を作成して夏期休暇に対抗ゼミを行い、**協調性**を養う。また 3 年生は学年末までに各自が興味あるテーマを選定し、進級論文を作成する。4 年生は、各自が進路に合わせて興味あるテーマを決め、**独創性**のある卒業論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	年間授業計画の解説と報告者の決定、マクロ経済学の概説
第 2 回	国民所得と国民経済計算	国民所得の基礎概念、国民経済計算の基礎概念
第 3 回	春期合宿	卒業論文の第一次報告と指導
第 4 回	消費支出と消費関数	消費支出の基礎概念、消費関数の理論
第 5 回	投資支出と投資関数	投資支出の基礎概念、投資関数の基礎理論
第 6 回	国民所得の決定と乗数効果	国民所得の決定、乗数効果の理論
第 7 回	貨幣需給、貨幣数量説、流動性選好説	貨幣需給、貨幣数量説、流動性選好説

第 8 回	I S = L M 分析、雇用の理論	I S = L M 分析の理論、雇用の理論
第 9 回	物価、賃金、インフレーション、合理的期待	物価、賃金、インフレーション、合理的期待
第 10 回	金融政策と財政政策：裁量政策かルールか	金融政策と財政政策の基礎理論
第 11 回	景気循環	景気循環の基礎概念と理論
第 12 回	経済成長	経済成長の基礎概念と理論
第 13 回	国際マクロ、経済発展、経済体制	国際マクロ、経済発展、経済体制の基礎概念と理論
第 14 回	論文作成方法の指導	合宿で発表する論文の作成方法
II 秋学期		
第 15 回	テーマ	内容
第 16 回	夏期合宿	2 つのパートで論文作成と対抗討論会
第 17 回	日本経済の長期デフレ不況	長期のデフレ不況、ゼロ金利とマネタリーベースの制御、機動的な財政政策、活力ある成長政策、
第 18 回	景気と株価・地価・商品相場の動向	景気の見方、株価動向、地価動向、商品相場
第 19 回	ゼロ金利やマイナス金利と金融の動向	ゼロ金利政策、量的金融緩和、マイナス金利
第 20 回	為替相場の動向	円安・ドル高、為替相場動向と為替介入
第 21 回	財政と税制	財政赤字と行財政改革、消費税増税、所得税・相続税増税
第 22 回	少子高齢化と年金・医療改革	少子高齢化、年金・医療・介護改革
第 23 回	生活保護、教育問題	生活保護の実態、教育問題
第 24 回	金融業界の動向	金融業界や証券業界などの業界動向
第 25 回	卒業論文・進級論文の中間報告	卒業論文・進級論文の中間報告と指導
第 26 回	産業界・企業の動向	各産業界の動向、企業再編、企業と情報化、企業改革とコーポレート・ガバナンス、内部統制、CSR、会計制度改革
第 27 回	個人消費と流通	個人消費の動向、流通業界、外食産業、ネット通販
第 28 回	新エネルギー源と環境政策	新エネルギー源と環境問題、原発事故の処理と原発政策
第 29 回	卒業論文・進級論文の最終報告	卒業論文・進級論文の最終報告と指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は最も効果的な勉強法である。先ず自分で教科書を読み、プレゼンテーション用に要約したレジュメをパワーポイントで作ってみよう。何が理解できているかがわからないか明確になるので、授業に臨む態度やモチベーションが高まり、理解を効果的に高めることができる。

【テキスト（教科書）】

林 直嗣著『経済学入門』新世社、2013 年
日本経済新聞社編『Q & A 日本経済』2019 年版、日本経済新聞社

【参考書】

適宜指摘する。

【成績評価の方法と基準】

授業や合宿での参加度（出席等）と発表、さらに卒業論文などを総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の要望にできるだけ応えられるように配慮して、授業を進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

教室では、教科書やノートを必ず持参し、ノートを適切に取る訓練をし、情報検索のためスマホや PC も活用する。

【その他の重要事項】

【関連科目の履修】

ゼミ生は金融論と応用プログラミング（計量分析コース）を必ず履修されたい。他にマクロ経済学、ミクロ経済学、国際金融論、企業財務論、証券経済論、ファイナンス論、日本経済論などを受講することが望ましい。

【Outline and objectives】

This seminar studies theory and practice about finance and economy, and also carries out quantitative analysis using computers. We also studies policy issues such as monetary and economic policies widely. Everyone can master how to use computers, skillfully express resume with PowerPoint, retrieves databases on the internet, and instructs techniques of quantitative analyses and information processing using the data. The main theme of this year is "Stable Growth of the Japanese Economy in Response to the Recovery of the World Economy". Therefore, while conducting theoretical and empirical learning of macroeconomics, monetary and financial theory, and the Japanese economy, we study policy analysis on economic policy such as Abenomics and Trumponomics, and the states of financial world and other industries.

MAN200FA-A4941

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A4946

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A5065

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A5173

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA-A4942

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A4943

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4944

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A4945

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A5119

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

平田 英明

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ（把握する）」能力を身につけることを教育するように心がけています。

【到達目標】

経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

また、ゼミ生の英語の理解力の低下が気になりますので、TED 等の英語教材も活用する予定です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

3－4つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに **poor performing** なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる金融の基礎分析やマクロ経済分析の教科書をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	ゼミの進め方	ゼミ運営について話します
2	テキスト	教科書 1 9 章 教科書 2 1 章
3	テキスト	教科書 1 10 章 教科書 2 2 章
4	テキスト	教科書 1 11 章 教科書 2 3 章
5	テキスト	教科書 1 12 章 教科書 2 コンピュータ演習 1
6	テキスト	教科書 1 13 章 教科書 2 コンピュータ演習 2
7	テキスト	教科書 1 14 章 教科書 2 4 章
8	テキスト	教科書 1 15 章 教科書 2 コンピュータ演習 3
9	懸賞論文キックオフ会議	懸賞論文のテーマについてのプレゼン
10	テキスト	教科書 1 16 章 教科書 2 5 章
11	テキスト	教科書 1 17 章 教科書 2 コンピュータ演習 4
12	テキスト	教科書 1 18 章 教科書 2 6 章
13	懸賞論文会議	懸賞論文に関する進捗状況の報告

14	テキスト	教科書 1 19 章 教科書 2 7 章
II 秋学期		
回	テーマ	内容
15	懸賞論文会議	懸賞論文テーマの確定と進捗状況の報告
16	テキスト（教科書 2 と 4）	教科書 1 20 章 教科書 2 コンピュータ演習 5
17	テキスト	教科書 1 21 章 教科書 2 8 章
18	テキスト	教科書 1 22 章 教科書 2 9 章
19	卒論中間発表	卒論に関する進捗状況の報告
20	インゼミ	インゼミ 1（神奈川大学）
21	テキスト	教科書 1 23 章 教科書 2 10 章
22	テキスト	教科書 1 24 章 教科書 2 コンピュータ演習 6
23	テキスト	教科書 1 25 章 教科書 2 コンピュータ演習 7
24	卒論中間発表	卒論に関する進捗状況の報告
25	卒論中間発表	卒論に関する進捗状況の報告
26	インゼミ	インゼミ 2（明治大学）
27	テキスト	教科書 1 26 章 教科書 2 11 章
28	卒論発表	卒論発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしていただくことが大前提です。受け身では、何も身につけません。主体性を持って学習しましょう。

【テキスト（教科書）】

- 山本 勲 (2015)『実証分析のための計量経済学』（中央経済社）
- 藤本 裕 (2016)『金融の基礎』（東洋経済出版社）

【参考書】

伊藤元重『ゼミナール 国際経済学入門』（日本経済新聞出版）
福田 慎一・照山 博司『マクロ経済学・入門』（有斐閣）
蓑谷千風彦『計量経済学』（東洋経済）

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの報告（75%）、日頃の学習態度（25%）で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

各種のコメントを考慮してゼミ運営をします。

【その他の重要事項】

ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」であると考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。2－3年生に関しては、各学期で合計で3回以上、通年で4回以上欠席した場合、特別な理由を除き、自動的にD評価となります。

ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。ゼミ生は、3年生以上は日本経済論、国際金融論、国際経済論、計量経営分析の履修を原則とします。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to encourage students to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.

MAN200FA-A4947

演習 1

MAN400FA-A5174

演習 5・6

MAN400FA-A4952

演習 6

MAN400FA-A4951

演習 5

MAN300FA-A4950

演習 4

MAN300FA-A4949

演習 3

MAN200FA-A4948

演習 2

MAN300FA-A5120

演習 3・4

MAN200FA-A5066

演習 1・2

福島 英史

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、企業組織が行う経営戦略の意思決定について、論理的に考え、理解を深め、自分なりの意見をまとめることです。経営戦略の基本的な考え方を習得するとともに、戦略の意思決定を理解する助けとして組織論や社会学、経済学等の基礎的なアイデアにも触れます。

【到達目標】

経営事象を織りなす様々な意思決定とその合成過程について、論理的に理解し、説明できるようになることが達成目標です。世の中で観察・報じられる経営事象について自分なりの関心を持ち、問題を立て、自分なりの説明ができるようになることを目標とします。経営学部生として、自分なりに、経営学に関する発表を行い、ゼミ内で話し合い、経営学の論文を書いて卒業していきます。卒業時に経営・経営学のどんな問題に取り組んだか自分なりに説明できることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

2つの学習活動に取り組みます。1つは文献の輪読です。用意したレジュメをもとに、疑問点や議論の論理展開などについて議論します。もう1つは、グループで行う調査研究です。3～4人のグループがテーマを自由に決めて調査し、月1回報告をします。また他大学とインターゼミを行い、研究成果を発表し、意見交換を行います。3年生後半から卒業論文制作に入り、卒業までにこれを完成させます。夏期にはケース討論や研究発表のための合宿を行います。その際、会社・工場見学に行くことがあります。またゼミ中にミニ・ケース討論を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義概要と問題意識の共有
2	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
3	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
4	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
5	研究テーマ報告	調査研究テーマを報告する 問いをたてる
6	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
7	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
8	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
9	調査研究報告	調査研究の報告を行い、議論から改善策の提案を行う
10	卒論報告	卒業論文研究の中間報告を行い、議論から改善策の提案を行う
11	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
12	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
13	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
14	調査研究報告	調査研究の報告を行い、議論から改善策の提案を行う

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	卒論報告	卒業論文研究の中間報告を行い、議論から改善策の提案を行う
16	工場見学	企業を訪問し生産の現場を知る
17	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
18	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
19	卒論報告	卒業論文研究の中間報告を行い、議論から改善策の提案を行う
20	卒論テーマ報告 1	卒論テーマの報告（3 年生） 問いをたてる
21	次年度ゼミ生面接	次年度ゼミ生候補の面接
22	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
23	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
24	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
25	インターゼミ 1	他大学経営学系ゼミと交流し、意見交換を行う
26	文献講読と議論	論理的思考と説明について考える
27	文献講読と議論	課題文献を読み、意見を交換する
28	卒論テーマ報告 2	卒論テーマの報告（3 年生） 改善策の提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

問題意識を持って身近な事例を眺め、考えてみる。ゼミ生同士で調査研究と話し合いを行う。ゼミ及びインターゼミ後には、コメントについて反芻し整理を試みる。

【テキスト（教科書）】

課題文献は演習初回に指示します。過年度には、D. ペサンコ他『戦略の経済学』（ダイヤモンド社、2002）、荻谷剛彦『知的複眼思考法』（講談社+α、2002）、M. ヒット他『戦略経営論』（センゲージ、2010）などを読みました。

【参考書】

演習中に適宜案内します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミに対する準備（30%）、ディスカッションへの貢献度（35%）、卒業論文・グループワークおよび各種課題等の評点（35%）に基づいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

皆の努力をより評価に反映させます。引き続きしっかり議論を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、プレゼンテーションソフト。

【その他の重要事項】

ゼミ参加者全員が報告者であるという姿勢をとり、十分な準備と報告に関するディスカッションへの積極的な参加が強く望まれます。調査研究および卒業研究の成果に関する経過報告では自分なりの説得力とオリジナリティを心がけることが必要です。無断欠席は認めません。関連科目は戦略的意思決定論、経営学総論、経営組織論、経営戦略論、マーケティング論、経営管理論、日本経営論、流通論、技術管理論、製品開発論、国際経営戦略論、中小企業論、組織経済学等ですが、これに限らず様々な学びを歓迎します。

【Outline and objectives】

The outline and objective of this seminar are as follows. We study strategic management and decision making of firms, understand their logic, interaction, mechanism, and dynamism. We make and present our own view on these points. We may talk about basic organizational theory, economics, and sociological view to help our understanding about strategic management.

MAN200FA-A4953

演習 1

MAN400FA-A4958

演習 6

MAN400FA-A5175

演習 5・6

MAN400FA-A4957

演習 5

MAN300FA-A4956

演習 4

MAN300FA-A5121

演習 3・4

MAN300FA-A4955

演習 3

MAN200FA-A4954

演習 2

MAN200FA-A5067

演習 1・2

福田 淳児（春学期代講：長谷川 恵一）

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習 1 では、企業の経営者や部門管理者が組織内で行う意思決定および企業組織及び下位の組織単位およびその管理者の業績測定・評価に役立つ会計情報を提供する管理会計システムの設計に関わる基本的な概念、および理論を理解することを目的とする。演習 2 では、インゼミに向け 2 つのグループを編成し、グループごとに報告テーマを設定する。各テーマについて文献レビューを行い、データを収集し分析を行うことを目的とする。そのプロセスで、統計的な分析技法やケース研究の方法を習得することを目的とする。

【到達目標】

演習 1 では、管理会計の基礎的な概念および重要なテーマについて学習することで、管理会計を学習・研究していく上で必要な基礎知識と考え方を身につけることを目標とします。さらに、全社および下位の組織単位の業績測定と評価に役立つ財務的・非財務的指標の意味を理解することを目標とします。

演習 2 では、ゼミ参加学生を 2 つのグループに分け、それぞれのグループでテーマを選択し、毎年 12 月に他大学との間で行われるインターゼミの報告会に向けて文献レビュー、データの収集・分析および議論を行います。演習 2 では、統計的な分析技法の習得およびプレゼンテーションの仕方などについても習得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ゼミナールはゼミ生の報告およびディスカッションを中心に授業を進めます。演習 1 では指定のテキストについて輪読を行います。毎週、各テーマについて、個人またはグループで報告をしてもらい、それについて議論並びに補足を行う形でゼミを進めていきます。テキストはあくまで基礎的な資料ですので、興味のある内容についてはさまざまな資料また経済誌などの記事を当たってみてください。

演習 2 では例年 12 月に開催される他大学との報告会に向けてテーマを選択し、そのテーマについて文献レビュー、仮説の設定、さらにデータの収集・分析を行ってもらいます。毎回、各グループに報告を行ってもらい、議論するとともに、それぞれのテーマにあわせた参考文献を紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 管理会計の目的	講義のスケジュールを紹介するとともに、管理会計と財務会計の相違点、戦略の策定と実行に役立つ管理会計の役割を説明する。
2	財務情報分析	財務情報分析のいくつかの技法について説明するとともに、例題を解く。
3	短期利益計画と管理会計	短期利益計画の設定と CVP 分析について議論する。
4	予算管理	組織における予算管理のプロセスおよび実務上の問題点について議論する。また、数値例についても検討する。

5	資金管理とキャッシュフロー分析	資金管理の必要性またキャッシュフローの管理について議論する。
6	事業部制における業績管理 会計	分権的な組織、特に事業部制を前提とした業績管理の問題について説明する。
7	グループ経営	グループ経営における意思決定および業績管理のための管理会計について議論する。
8	差額原価・収益分析	製造間接費の配賦についての意思決定およびそこで必要とされる差額原価情報について学習する。
9	設備投資計画	設備投資の経済性計算の方法を紹介しそれぞれの手法について説明するとともに、それぞれの経済性計算方法の長所、短所を解説する。
10	戦略的事業計画ならびに EVA	経営戦略の概念、および戦略の策定と実行に役立つ管理会計手法について学習する。さらに、EVA についても学習する。
11	バランス・スコアカード	BSC の概念とその機能について実例を交えながら議論する。
12	原価維持	原価維持・原価改善および原価企画の諸技法の関連性を明確にしたのち、原価維持を中心に議論する。
13	ABC	伝統的な製造間接費の配賦方法との比較で ABC の特徴を明らかにする。また、原価管理への ABC 情報の役立ちについて検討する。
14	原価企画	製品の開発・設計段階でのコスト・マネジメントの方法である原価企画についてそのプロセス並びに実務の状況を説明する。

II 秋学期

1	テーマ インターゼミ（12 月開催 予定）に向けてのテーマ 選定	内容 ゼミを 2 つのグループに分け、それぞれのグループでインゼミでの報告テーマについて検討する。約 3 ヶ月の期間での実現可能性も勘案し、テーマを選定する。
2	具体的な問題の設定	選択したテーマについて、どのような点を今回の報告で取り上げる問題として設定するかをある程度明確にする。
3	文献のレビュー	選択したテーマに関連した文献レビューを行い、これまでに何がわかったのか、何が残された問題なのかを明らかにする。
4	追加的な文献のレビュー	追加的に紹介した文献もレビューした上で、選択テーマについて過去の研究を整理する。
5	問題の明確化	選択したテーマについて、文献レビューをふまえた上で、何をどこまで、今回の研究で明らかにするかを明確にする。

6	仮説設定	文献レビューなどに基づいて、研究テーマに関わる仮説の設定を行う。
7	仮説の修正	議論に基づいて仮説の修正を行う。
8	必要な情報の入手可能性	これまでの文献レビューまた仮説をふまえ収集すべきデータは何か、またそれがどこで入手可能であるかについて議論する。
9	データの加工について	仮説の検証に必要なデータの加工方法を考える。
10	データの収集	実際に財務的なデータなどの収集を行う。
11	データの分析	入手した情報に基づいて分析を行う。
12	分析結果の検討	データの分析をふまえ、仮説に照らして議論を行う。
13	分析結果の検討と解釈	実際のデータを分析または解釈することで、仮説に対してどのようなことがいえるのかを検討する。
14	まとめ	一連の研究活動についてのまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミで取り上げられるテーマについては、毎回テキストの該当箇所および紹介した論文を読んでくること。報告担当者はパワーポイントを利用して、報告の準備をすること。また、報告担当者はそれぞれのテーマに近い内容が扱われている企業の記事を収集しておくこと。報告担当でない学生は質問内容を考えておくこと。管理会計の基本的なテクニカルタームについては事前に調べておくこと。秋学期では各グループの選択したテーマについて教員が紹介する文献を必ず読み、それについて考察を行っておくこと。

【テキスト（教科書）】

谷武幸『エッセンシャル管理会計』中央経済社, 2013 年. (2,800 円＋税)

【参考書】

必要に応じて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミで割り当てられた担当テーマの報告内容 (60%) とゼミの議論への積極的な参加の程度 (40%) に基づいて評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミの学生からは実務での管理会計技法の利用についてもっと知りたいという要望を受けています。できるだけ実際の企業の実例を取り入れてゼミでの議論を進めていきたいと思います。

【関連科目】

原価計算論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱおよび経営分析Ⅰ/Ⅱ、この他に経営学関連の科目があります。積極的にこれらの科目を履修してください。

【Outline and objectives】

We discuss about management accounting in this seminar. Management accounting is a framework that can be used to manage many organizations, though they are profitable or non-profitable. The framework provides CEOs, managers and employees with both financial and non-financial information to make decisions and manage performance in the organizations.

MAN200FA-A4959

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A4964

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5176

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4963

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4962

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A5122

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A4961

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4960

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A5068

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

福多 裕志

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【財務データに基づく企業の意思決定】

当ゼミの目的は、企業における長・短期の経済的意思決定行動を考察するにあたり、必要かつ重要な諸概念や意思決定モデルを、日・英両言語を駆使して理解することである。

【到達目標】

財務諸表分析、資本予算（設備投資決定）において利用される諸概念と計算式の理解およびその実践的活用を目指す。PC を常時使用し、財務データの処理方法を同時に学ぶことができる。こうした情報処理技法は世界共通であり、情報の交換は国内に限定されないことを念頭に置き、日・英両言語で議論する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

初めに日・英語の標準的教科書を参照し、管理会計のフレームワークを学習した後、財務諸表分析や設備投資決定に関する諸問題を考察し、現実のデータを用いて解を模索する。授業では、主として英語を用いて議論することを心掛けたい。関連配布資料は、すべて授業支援システム（CMS）を通して配布するので、常に注意を払うこと。4 年生にはゼミ論文の提出が義務付けられている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	学習事項の年間計画	学習項目の具体的説明
第 2 回	管理会計の目的	管理会計の目的について確認
第 3 回	管理会計の枠組み：財務会計との関連	管理会計の属性について、財務会計と比較しながら検討
第 4 回	管理会計の機能	企業組織における管理会計情報の機能を理解
第 5 回	発表：その 1	第 4 回までの学習事項に基づき事例発表とディスカッション
第 6 回	原価の諸概念	財務諸表分析と関連する各原価の諸概念、分類、原価態様等について議論
第 7 回	損益分岐点（BEP）分析：その 1	BEP 分析の諸概念の確認：原価、営業量、利益。
第 8 回	損益分岐点（BEP）分析：その 2	BEP 分析とオペレーティング・レバレッジ
第 9 回	損益分岐点（BEP）分析：その 3	BEP 分析と CVP 分析の比較・検討
第 10 回	財務諸表分析：その 1	企業の安全性、効率性に関する事例研究
第 11 回	財務諸表分析：その 2	企業の収益性、成長性に関する事例研究
第 12 回	財務データの統計処理：記述統計その 1	財務データの基本統計解析
第 13 回	財務データの統計処理：記述統計その 2	財務データ処理に関する基本的な統計手法の応用可能性を検討

第 14 回 春学期総括

春学期学習事項の確認とまとめ。問題演習

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	財務諸表分析への統計学の応用：その 1	推測統計学と財務諸表分析
第 16 回	財務諸表分析への統計学の応用：その 2	業界平均値の推定、正規分布
第 17 回	財務諸表分析への統計学の応用：その 3	業界平均値の推定、t 分布
第 18 回	財務諸表分析への統計学の応用：その 4	平均値の仮説検定、帰無仮説、対立仮説
第 19 回	財務諸表分析への統計学の応用：その 5	平均値の仮説検定、両側検定、片側検定、t 検定
第 20 回	発表：その 2	推定・検定を応用した事例発表（企業レベル）
第 21 回	発表：その 3	推定・検定を応用した事例発表（業界レベル）
第 22 回	資本予算：その 1	設備投資決定計算の基本枠組み
第 23 回	資本予算：その 2	設備投資決定に用いられる諸概念の理解
第 24 回	資本予算：その 3	資金の時間的価値、複利計算、割引計算、DCF
第 25 回	資本予算：その 4	現価係数、終価係数、年金現価係数、年金終価係数
第 26 回	資本予算：その 5	回収期間法、内部利益率法、収益性指数法
第 27 回	資本予算：その 6	設備投資決定問題における税金の考慮
第 28 回	資本予算：その 7	設備投資決定問題におけるインフレーションの影響

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英語で関連話題を議論できるよう、各参加者が自ら適切な学習方法を選択し英語運用力の向上に努めることが要請される。幾つかの学習方法上のヒントは、CMS に掲載される。

【テキスト（教科書）】

米国あるいは英国における管理会計の標準的な教科書に基づいてスライドを作成する。授業支援システムを参照のこと。

【参考書】

- 1) 青木茂男『要説 経営分析 五訂版』森山書店、2016 年。
- 2) 岡本清『原価計算 六訂版』国元書房、2000 年。
- 3) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社、2010 年。（より詳細な参考文献リストを CMS に掲載するので参照のこと。）

【成績評価の方法と基準】

3 年生は、授業内貢献度（80 %）、小テスト（20 %）をもって評価する。4 年生は、授業内貢献度（30 %）、ゼミ論文（70 %）をもって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

IT 機器を利用し、ゼミの予習・準備を充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC を利用し現実の財務データを処理・解導出を行うので Excel の操作技術が必要となる。1、2 年次に電算関連科目を受講するか、もしくは Excel の基本操作事項を独習し各自慣れておくことが必要である。

【その他の重要事項】

①日・英両語を駆使し的確に議論する能力、②情報処理能力は今後如何なる職業に就いても必要不可欠となるであろう。各参加者が有する当初の素晴らしい動機を維持し頑張って欲しい。

【関連科目】

計量経営分析Ⅰ/Ⅱ、統計学Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】

The purpose of this seminar is to understand important concepts and decision models related to corporate behaviors and their rational decision making processes both in Japanese and English.

MAN200FA-A4965

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A5123

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA-A5069

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4970

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A4969

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4968

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A4966

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5177

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A4967

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

藤澤 利治

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第2次世界大戦後、西欧諸国は地域経済統合を進め、欧州の平和と経済的繁栄を実現してきた。しかし、今日様々な困難に直面して、EU 危機が叫ばれている。このゼミナールでは、欧州単一通貨ユーロの危機とイギリスの EU 離脱、難民問題について学ぶ。

【到達目標】

- ①ヨーロッパの 28 カ国が加盟する、複雑多様な組織である EU を正確に理解する。
- ② EU を理解することによって、日本やアメリカの政治・経済・社会を考える際の判断基準を身に付ける。
- ③現在 EU が直面しているユーロ危機の現状とイギリスの EU からの離脱、そして難民危機について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

進め方：演習形式で進める。1999 年から非現金分野で導入された EU の単一通貨ユーロは、2002 年初めから 12 カ国で紙幣やコインとして流通し、誕生から 20 年を迎えた 2019 年現在 19 カ国で導入されていて、今や第 2 の国際通貨となっている。また EU も、加盟国が 28 カ国に拡大している。このような統合の深化と拡大を実現した EU であるが、今日ユーロは深刻な危機に直面している。EU とユーロがどのような問題に直面し、解決を求められているかについて分析する。また、イギリスが EU からの離脱を進めている。これらの問題を順次分析していく。
方法：ゼミ生のヨーロッパ経済についての基礎知識や理解度に従って文献を輪読する方法をとる。予定では、後に示すテキストを取り上げ、検討するつもりである。それと並行して、ゼミナール大会参加の準備も行う。
また、夏休みにはゼミ合宿を行う。さらに、例年 11 月に開催される関東ブロック学生ゼミナール大会に参加する予定があるので、その準備のためのサブゼミを随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと基礎知識の確認	授業の概要と進め方に関する説明のほか、EU に関する基本的な知識の確認を行う。
第 2 回	欧州の特徴	欧州の歴史的、社会的、地理的そして政治的特徴を概観する。
第 3 回	第 2 次世界大戦後の欧州	第 2 次世界大戦後の欧州各国の経済実態について概観する。
第 4 回	ECSC の設立とその成功	欧州において紛争の原因となってきた独仏間の対立を解決するための試みであった欧州石炭鉄鋼共同体について見る。
第 5 回	EEC と Euratom のスタート	欧州経済共同体と欧州原子力共同体の創設過程を見る。

第 6 回	EC の創設	これまでの 3 つの共同体を再編成して EC が創設される過程を見る。
第 7 回	石油危機下の EC	二度にわたる石油危機によって混乱した EC 経済の立て直し策を検討する。
第 8 回	欧州通貨システムの創設	欧州通貨統合の試みについて見る。
第 9 回	欧州市場統合の完成	欧州における非関税障壁の撤廃と市場統合の完成のプロセスを見る。
第 10 回	マーストリヒト条約の概要	欧州における経済通貨統合への歩みを見る。
第 11 回	マーストリヒト条約の発効	1993 年に発効したマーストリヒト条約の内容を見る。
第 12 回	単一通貨ユーロの創出	単一通貨としてユーロが創設されるプロセスを見る。
第 13 回	ユーロ導入と通貨統合の完成	1999 年のユーロ導入とその後の順調な推移を見る。
第 14 回	PIIGS と財政危機	2009 年以降ユーロ圏を襲った財政経済危機について概観する。

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	ギリシャ危機	ギリシャの財政危機について見る。
第 16 回	アイルランドのバブル経済	アイルランドにおけるバブル発生とその崩壊を見る。
第 17 回	ポルトガルの経済危機	ポルトガルにおける財政危機の発生について見る。
第 18 回	スペインのバブル崩壊	スペインにおけるバブル形成とその崩壊のプロセスを見る。
第 19 回	イタリアの財政危機	イタリアにおける経済と財政について検討する。
第 20 回	ユーロ危機の現状	ユーロ危機がどのような問題であるかを見ていく。
第 21 回	ユーロ危機の克服策	ユーロ危機の克服策を分析する。
第 22 回	イギリスの EU 離脱	2016 年 6 月の国民投票での EU 離脱賛成とその後の対応について見る。
第 23 回	EU と移民・難民問題	EU 域内での移民増加と域外からの難民流入問題について見る。
第 24 回	ゼミナール大会のレジュメ完成	ゼミナール大会に提出するレジュメを完成させる。
第 25 回	ゼミナール大会への準備	討論相手ゼミからのレジュメを検討し、質問票を作成する。
第 26 回	ゼミナール大会用のレジュメの点検	討論相手ゼミからの質問票への回答を作成し、レジュメを点検する。
第 27 回	ゼミナール大会の参加報告とまとめ	ゼミナール大会への参加報告と各自の反省を行う。
第 28 回	ゼミの修了論文の指導	4 年次生のゼミ修了論文についての経過報告と作成指導。3 年次生の関心テーマの発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回 EU の概要をあらかじめ予習しておく。
第 2～21 回 報告者はテキストの担当部分を熟読し、報告用レジュメを作成する。他の履修者もテキストを熟読し、質問点をまとめておく。その際、下の参考文献を利用し、予習しておく。
第 22～23 回 報告者は新聞や雑誌論文で、イギリスの EU 離脱の具体的な方針や EU の移民と難民の動向を調べておく。

第 24～25 回 自分の担当するテーマについて情報を集め、分析し、ゼミナール大会用のレジュメの原稿を作成する。その際、自主的にサブゼミを開催し、自分の担当するテーマについて作成したレジュメの原稿を持ち寄って相互に調整し、全体を完成させる。

第 26 回 ゼミナール大会での討論相手ゼミのレジュメを検討して質問票を作成する。

第 27 回 ゼミナール大会の反省とレジュメの修正を行う。

第 28 回 4 年次生はゼミ論文について経過報告の準備を行う。3 年次生は自分のゼミ論文のテーマを考えておく。

【テキスト（教科書）】

①須網隆夫＋21 世紀政策研究所『英国の EU 離脱と EU の未来』日本評論社、2018 年

②遠藤乾『欧州複合危機』中公新書、2016 年

③星野真三雄『欧州危機と反グローバリズム』講談社＋a 新書、2017 年

【参考書】

①遠藤乾『【原典】ヨーロッパ統合史—史料と解説】名古屋大学出版会、2008 年

②伊藤さゆり『EU 分裂と世界経済危機の知識』NHK 出版新書、2016 年

③田中素香・長部重康・久保広正・岩田健治『現代ヨーロッパ経済【第 5 版】有斐閣アルマ、2018 年

④ブレイディみかこ『労働者階級の反乱—地べたから見た英国 EU 離脱』光文社新書、2017 年

⑤SGCIME 編『グローバル資本主義の変容と中心部経済』日本経済評論社、2015 年

【成績評価の方法と基準】

平常の学習態度、特にゼミでの発言と報告内容を重視する。さらに、3 年次生はゼミ大会レジュメで、4 年次生は学年末に提出をするゼミ修了論文で、最終的な成績の評価を行う。

評価配分：ゼミでの報告内容（50 %）、ゼミ大会レジュメ（3 年次生のみ：50 %）、ゼミ修了論文（4 年次生のみ：50 %）

【学生の意見等からの気づき】

就職活動でゼミへの貢献度が低下する 4 年生について、ゼミでの学習を活性化するために、報告等の分担を多くする。

【その他の重要事項】

・ゼミは自分の問題意識に従って学習することを前提にしているので、自発的に資料や文献を見つけて調べ、報告や議論に積極的に参加することを求める。さらに、ヨーロッパについての日々の新聞報道や雑誌論文をフォローすることも必要となる。

・関連科目として、産業史Ⅰ/Ⅱ、国際経済論Ⅰ/Ⅱ、国際金融論Ⅰ/Ⅱを並行してでも良いから、履修することを求める。

【Outline and objectives】

This course is designed for students to understand key issues of the European Union (EU).

Today, the EU faces multiple crises: the problem of Euro, Greek state debt, Brexit etc. In this course students will analyze and discuss these problems, and prepare final reports.

MAN200FA-A4971

演習 1

MAN300FA-A5124

演習 3・4

MAN200FA-A5070

演習 1・2

MAN400FA-A4976

演習 6

MAN400FA-A5178

演習 5・6

MAN400FA-A4975

演習 5

MAN300FA-A4974

演習 4

MAN300FA-A4973

演習 3

MAN200FA-A4972

演習 2

藤村 博之

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒトの側面から企業経営を考えることがこのゼミの目的ですが、その問題だけにとどまらず、広く日本社会のあり方についても議論したいと思います。それは、企業が社会という大きな枠組みの中で活動しているからです。企業経営の本当の姿を知るには、社会に対する理解が不可欠です。私たちが暮らしている日本という社会の姿を考えながら、企業の人事管理を見ていきたいと思っています。

その際、国際比較という視点も大事にします。日本社会の本当の姿を知るには、他の国との比較が有効だと考えられます。日本独自の問題だと思われることが、案外、どの国にも共通して発生していたり、日本は遅れていると言われていることが実は他の国でも同じような実態であったりするからです。企業のヒトの問題を通して、日本社会についての理解を深めてほしいと思います。

【到達目標】

日本社会のあり方、日本企業のあり方、そして学生一人一人の職業人としての生き方を考えられるようになることが到達目標です。そのために、①情報を収集し、整理して、再構成する力、②自分の主張を文章で表現する力、③自分の意見を発表し議論する力の3つを身につけることが必要です。できるだけ客観的な情報を収集し、事実を理解した上で、これからのあり方を自分の頭で考えられるようになってほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

インターゼミナール大会に出席するための論文作成を中心として、ゼミを運営します。春学期は、議論に必要な共通の基盤を作るために、人事管理関係の教科書を指定して輪読します。夏休みから秋学期の初めにかけては、インゼミ大会参加論文執筆のための共同作業になります。秋学期のゼミは、時事問題の議論や社会人として必要な知識を身につけるための勉強をします。2、3年生には進級論文の提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第1回	日本企業のヒトの問題	経営資源の一つであるヒトの特徴について学びます。
第2回	雇用管理	採用、配置、雇用調整、退職管理
第3回	能力開発	OJT と Off-JT の組合せ方
第4回	人事制度	従業員が組織の目標達成に向かって力を結集する仕組みの理解
第5回	評価制度	評価と目標管理の関係について
第6回	報酬管理	賃金制度の組み方
第7回	労働時間管理	長時間労働の現状とその解決策
第8回	非典型雇用	有期雇用社員の現状と課題
第9回	高齢者雇用	日本社会の高齢化と雇用問題
第10回	女性労働	女性が出産・育児を経ても働き続けられるようにするにはどうすればいいか

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

第11回	外国人労働者	日本の少子化と人口減少の中で、外国人労働者をどう受け入れていくのか 法定福利と法定外福利の関係 労使コミュニケーションの現状と課題 立正大学戎野ゼミと討論会を行う
------	--------	--

II 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	A I と人の労働の関係	A I 導入によって人の労働が必要なくなると言われるが、本当にそうだろうか 12月に行われるインターゼミナール大会の論文完成に向けて作業する インゼミ大会の論文を完成させる 『先生はえらい』を読んでコミュニケーションのあり方を考える 有期雇用契約の現状と問題点を政府文書を使って議論する 世界で活躍する経営者を育てるにはどうすればいいかを考える 少子化がなぜ起こっているのか、少子化はどうすればとまるのかを考える 男性の長時間労働を解消するには何が必要かを考える 高学歴の外国人を日本企業が雇用して、活用するには何が必要かを考える 働く意欲と能力のある人が何歳になっても働けるようにするにはどうすればいいかを考える 目標管理制度の正しい使い方 日本社会や企業の中で、これから労働組合はどのような役割を担う必要があるかを考える 日本は他の国々からどう見られているのか 他国と比べたとき、日本は何を強みとして競争していけるのかを考える
第2回	インゼミ大会論文執筆 I	
第3回	インゼミ大会論文執筆 II	
第4回	コミュニケーションを学ぶ	
第5回	有期雇用契約	
第6回	グローバル経営人材の育成	
第7回	少子化の現状と対策	
第8回	ワークライフバランス	
第9回	高度外国人材の採用	
第10回	生涯現役社会のあり方	
第11回	目標管理制度	
第12回	労働組合の役割	
第13回	世界の中の日本	
第14回	日本の強み	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、討論の題材となる文献が決まっています。それを読み込んでおくことが大切な事前学習です。単に読むだけではなく、書かれていることから自分の問題意識を見つけることも重要です。

社会人との交流の場を年に10 数回設けています。これにできるだけ多く出席することを求めます。

【テキスト（教科書）】

佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理【第5 版】有斐閣、2015 年

【参考書】

文献については、講義中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミには毎回出席し、合宿や論文作成にも積極的に取り組むことが必要です。インターゼミナール大会参加論文の作成に積極的に参加したか、ゼミ運営にどれだけ貢献したか、進級論文の水準はどの程度かといった点を中心に評価します。

評価は、通常のゼミにおける議論への貢献 60 %、課外活動への参加・貢献 30 %、進級論文 10 %で行います。

【学生の意見等からの気づき】

それぞれの特徴と役割を尊重します。その上で、ゼミが活発になる自発的な行動を支持します。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用した報告を課します。

【その他の重要事項】

大学での勉強で大切なのは、課題を与えられてそれを処理するのではなく、自らテーマを見つけてそれを解明していくことです。何事にも主体的に取り組む姿勢を求めます。

社会人との交流の場を年に 10 数回設けています。一つには、小泉産業、ワールド、コクヨ、アシックス、三菱 UFJ 信託銀行、上新電機、ビックカメラなどの労働組合役員と若手組合員が出席し、「働くってどういうことだろう」、「キャリア形成というけれど本当は何?」、「会社の選び方は?」といったテーマでグループ討論を行うものがあります。

また、立正大学戎野ゼミとの討論会や工場見学等の課外活動も予定しています。

さらに、NPO 人材育成ネットワーク推進機構が主催する学生支援セミナーへの任意の参加を求めています。学生支援セミナーは、毎月産業別に労働組合の方々に集まっておき開催されているものです。医薬品産業・自動車産業・流通業・金融業・電機産業などの企業が参加します。現場をよく知る労働組合の方々に現実を伝えていただき、社会に出たときに迷わないための準備をしてもらうのが目的です。

上記のようにゼミでは複数の活動を伴います。アルバイトなど私的な都合よりも学業を優先することが必要になります。これは、学生として当然のことですが、あえて付け加えておきたいと思います。

関連科目：人的資源管理Ⅰ、人的資源管理Ⅱ、組織行動論Ⅰ、組織行動論Ⅱ

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【担当教員の専門分野と主要業績】

＜専門領域＞人材育成論、労使関係論

＜研究テーマ＞産学連携による若年層の育成、管理職の育成、高齢者雇用、労働組合の役割再構築

＜主要研究業績＞

- ①『新しい人事労務管理 [第 5 版]』(佐藤、八代と共著)2015 年 10 月、有斐閣
- ②「優秀な人材は内部養成している企業に集まる『産業訓練』2019 年 1 月号
- ③「大学教育と就職活動の関係を考える」『人事実務』2018 年 12 月号
- ④「企業の競争力を高める外国人材の活用を」『商工ジャーナル』2018 年 12 月号
- ⑤「考える集団の醸成が競争力を高める」『中央労働時報』2018 年 9 月、pp.14-18.
- ⑥ “The challenge of keeping Japanese older people economically active” Australian Journal of Social Issues, Vol. 51 No. 2, 2016, pp.167-185.

【Outline and objectives】

The purpose of the seminar is to understand characteristics of human resource management in Japanese firms. It is said that seniority-based wage system, lifetime employment and enterprise union are three main characteristics of Japanese HRM. However, when we carefully investigate statistics and practices of HRM in other countries, we can observe many similarities of HRM. We have to know real situations of HRM in Japanese companies.

MAN200FA-A4977

演習 1

2 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A5125

演習 3・4

3 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA-A5071

演習 1・2

2 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4982

演習 6

4 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A4981

演習 5

4 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4980

演習 4

3 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A4979

演習 3

3 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4978

演習 2

2 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5179

演習 5・6

4 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

洞口 治夫

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この国際ビジネスのゼミでは、企業戦略と企業の組織能力に焦点を当てながら、国際ビジネスの基本的な考え方を理解するように設計されています。学習内容は、学生が国際的に活動する会社で働くために必要とされる技能を伸ばすことを目指します。その中心となるスキルには、国際化戦略によって多国籍企業がグローバル経済における競争力と業績を向上させる方法を理解することが含まれます。このゼミでは、グローバル市場、生産拠点、為替レート、通貨切り下げのための競争、国境を越えた意思決定のプロセスに関するさまざまな選択肢に直面する多国籍企業に焦点を当てています。

【到達目標】

ゼミナールでは英文のテキストを輪読し、国際経営の専門用語を含んだ英語で討論できる実力を養成します。そのために、基本的な英語の発音練習、英文を日本語に訳す力の養成、英文法の復習を行うとともに、専門用語を含んだリスニングや英会話を楽しむことができるようになることを到達目標とします。ゼミでの学習によって経営学に関する専門的知識の獲得、英会話能力、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語文章力、コミュニケーション能力を磨きます。スポーツや音楽（楽器演奏）などに打ち込んだことがあり、毎日の訓練に自主的に取り組んだことのある学生諸君の参加を歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業時間には英文のテキストを輪読します。英文テキストの内容について日本語ないし英語で議論し、理解を深めます。必要な箇所については、参加学生が担当箇所の訳文をつくり、その訳文の意味が正しいかをゼミ生全員で確かめて、本文を理解します。春合宿、夏合宿では日本国内あるいは海外の工場を見学します。過去には、ソウル、釜山、上海、バンコクの工場を見学しました。2 年生には進級レポート、3 年生にはグループ研究による論文作成、4 年生には卒業論文の提出を義務づけています。学生 3～5 人程度のグループで企業や個人に調査を行い懸賞論文に応募します。そうした活動の成果を慶應義塾大学、東京大学とのインターゼミナールで発表し、パワー・ポイントを使ったプレゼンテーション技法を学びます。新ゼミ生歓迎会や OB・OG 会等も行います。洞口ゼミで学び、社会で活躍している OB や OG と話をすることで、優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学びます。それが学生諸君の就職選択にも役立ちます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方についての説明。年間予定の確認。	テキストについての説明を行います。慶應義塾大学とのインターゼミのためのグループ分け。
第 2 回	テキスト輪読、発音矯正	テキスト 1 ページ目の音読と発音チェック。
第 3 回	テキスト輪読。OB 会の企画立案。	テキスト 1～2 ページ目の英語理解。
第 4 回	夏合宿の企画立案。	夏合宿の企画。英会話。

第 5 回	テキスト輪読と英文和訳	テキスト 2～3 ページ目の英語理解。
第 6 回	テキスト輪読と英文和訳。マーケティング論講義。	テキスト 3～4 ページ目の英語理解。英語ディスカッション。
第 7 回	テキスト輪読と英文和訳	テキスト 4～5 ページ目の英語理解。
第 8 回	夏合宿の企画立案。3 年生インターゼミの準備作業。	夏合宿企画、アポイントメントの進捗報告。インターゼミの準備進捗報告。
第 9 回	テキスト輪読と英文和訳	テキスト 5～6 ページ目の英語理解。
第 10 回	テキスト輪読と英文和訳	テキスト 6～7 ページ目の英語理解。
第 11 回	テキスト輪読と英文和訳	テキスト 7～8 ページ目の英語理解。
第 12 回	インターゼミの準備作業プレゼン。英語の発音矯正とリスニング。	三年生の研究プレゼンテーション。四年生による英語プレゼンテーション。
第 13 回	テキスト輪読と和文英訳	テキスト 8～9 ページ目の英語理解。
第 14 回	グループ研究の中間報告、ビジネス英会話	インターゼミ準備、英会話。

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	三年生グループ研究の中間報告	慶応とのインターゼミ準備。
第 16 回	テキスト輪読と英文和訳	テキスト 10～11 ページ目の英語理解。
第 17 回	テキスト輪読と英文和訳	テキスト 12～13 ページ目の英語理解。
第 18 回	テキスト輪読と英文和訳	テキスト 14～15 ページ目の英語理解。
第 19 回	四年生の卒論、二年生の進級レポート中間報告	東京大学インゼミに向けた論文の書き直し作業。
第 20 回	テキスト輪読と英文和訳	テキスト 16～17 ページ目の英語理解。
第 21 回	テキストの輪読とディスカッション	テキスト 18～19 ページ目の英語理解。
第 22 回	四年生卒業論文中間報告	インターゼミ準備。研究経過のプレゼンテーション。
第 23 回	四年生卒業論文中間報告	インターゼミ準備。研究経過のプレゼンテーション。
第 24 回	東大インターゼミ準備のための四年生プレゼン	パワーポイント・プレゼンの準備と相互批評。
第 25 回	テキストに関する英語ディスカッション	ゼミ生の作成したテキストの翻訳を参照。
第 26 回	テキスト内容に関する英語討論	英文テキストを参照した例題についての議論。
第 27 回	年間の英単語ボキャブラリー増加確認	この一年間に学んだ新たな英単語の一覧作成とその確認。
第 28 回	二年生進級レポート発表	論文作成の技法について講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

合宿やインターゼミなど授業時間外の活動には、欠席せずに参加する必要があります。三年生は TOEFL ないし TOEIC の受験結果を提出します。英会話、英語の発音、英語のリスニングなどについては、TOEFL や TOEIC の学習を通じて各自行う必要があります。

【テキスト（教科書）】

① Kotler, P. and Armstrong, G. Principles of Marketing, 17th edition, Pearson, 2017. Chapter 8: Products, Services, and Brands: Building Customer Value, pp.242-277.

< 2019 年度は p.258-p.277 を読みます。>

②石黒昭博監修『総合英語 Forest』桐原書店、第 7 版。

<マーケティング・テキストの英文和訳がわからなくなる場合がありますが、そのような場合には、文法事項にさかのぼって説明します。>

【参考書】

ゼミに参加する諸君は以下を購入して下さい。

① REBRANDING GODIVA: THE YILDIZ STRATEGY

2013 年 4 月 3 日に公表されたハーバード・ビジネススクールのケースです。著者 Rohit Deshpande and Esel Cekin 製品番号: 515059-PDF-ENG

このケースを購入するためには、<http://hbr.org/store>

のサイトから case を選択し、タイトルを記入して検索します。14 ドル程度 (1700 円前後) で PDF を購入できます。ダウンロードしたファイルから自分で印刷します。購入にはクレジットカードが必要です。

② 洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメントーゼミナール編ー』白桃書房、2008 年。<ゼミナールでの活動の様子や先輩の作成した卒業論文、グループで作成した論文などが収められています。>

③ 洞口治夫・行本勢基 (2012)『入門 経営学ーはじめて学ぶ人のためにー』同友館。

④ 洞口治夫 (2018)『MBA のナレッジ・マネジメントー集合知創造の現場としての社会人大学院ー』文真堂。

【成績評価の方法と基準】

授業・合宿への参加 (40 %)、宿題の提出と工場見学レポートの提出 (20 %)、進級レポート (2 年次)、グループでの進級論文と卒業論文構想 (3 年次)、卒業論文 (4 年次) (40 %) によって判定します。

【学生の意見等からの気づき】

「洞口ゼミナールの学生は英語の発音がきれいだ」と外部の教授に言われたことを、ゼミ生諸君が報告してくれたときは嬉しく思いました。発音のコツは授業で教えます。一年間ゼミに参加し続けた学生諸君の達成感が高いように思います。大学という場を通じて先輩・後輩・同期とのつながりができることを喜ぶ声があります。ゼミ生諸君は、多数の会社から内定をもらい、有名・優良企業に就職を決めています。

【学生が準備すべき機器他】

音声発音つき電子辞書。イーメールでファイルを送ることのできるアドレスを確保し、パソコンで毎日チェックして下さい。授業連絡用のメールアドレスは、漢字で氏名を記載したものを利用して下さい。授業内ではスマホで情報検索をします。

【その他の重要事項】

①ゼミの学生諸君には、「国際経営論Ⅰ/Ⅱ」の履修を強く勧めます。

②ゼミからは過去 16 名の法政大学派遣留学生を輩出しており、2 年に 1 名以上の比率になります。過去の派遣先はアメリカ、イギリス、台湾、韓国、ロシア、オーストラリアであり、留学経験者が OB・OG となっています。この成果は偶然ではないでしょう。

③ SA プログラム経験者、私費留学経験者も多数います。留学についてゼミの先輩からもアドバイスを受けることができます。

④英語の基準に到達したら、GBP 科目の International Business を履修しましょう。

⑤商工総合研究所主催の中小企業懸賞論文でも、本賞、準賞を受賞した学年がありました。

【Outline and objectives】

This seminar of International Business is designed to understand the basic ideas of international business, focusing on the corporate strategy and the organizational capability of the firm. It aims to help students develop the skills required to join these types of companies. The core skills involve understanding the ways in which internationalization strategies enable multinational corporations to enhance their competitiveness and performance in the global economy. This seminar focuses on multinational corporations confronting an array of choices regarding global markets, locations for production, foreign exchange rates, competition for devaluing the currencies, and processes for decision making across borders.

MAN200FA-A4983

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A5180

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA-A5072

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4988

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A4987

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4986

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A5126

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A4985

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4984

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

宮澤 信二郎

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ニュース等で触れられる具体的なトピックスについて、経済学の考え方をを用いて検討し、参加者で議論します。履修者が経済学の考え方を身につけ、主に、企業の戦略、組織、財務に関する具体的な問題について、理論的に分析し、発表できるようになることがこの授業の目的です。

【到達目標】

- 1) 人々の直面するさまざまな問題を経済学の分析枠組みで捉えることができる
- 2) 論理的に検討して、その結果を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

開講後に参加者の意見や実態を踏まえて変更される可能性があります。現時点では以下の内容を考えています。

- 1) 日本経済新聞の記事について、参加者のうち数名が報告し、参加者全員が議論する。
- 2) 設定した共同研究のテーマに関して、グループ・ワークを行うとともに、数回に分けて、関連する経済理論の学習を行う。
- 3) 夏合宿において春学期に進めた共同研究の成果報告を行い、秋学期の最後に、共同研究の成果報告書を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習の進め方について確認する。
第 2 回	時事トピックス (1) / 経済の仕組み	直近の時事問題について報告・議論する。また、経済の仕組みに関する理解を確認する。
第 3 回	時事トピックス (2) / ミクロ経済学の基礎 (1)	直近の時事問題について報告・議論する。また、ミクロ経済学の基礎について理解を確認する。
第 4 回	時事トピックス (3) / ミクロ経済学の基礎 (2)	直近の時事問題について報告・議論する。また、ミクロ経済学の基礎について理解を確認する。
第 5 回	共同研究のテーマ設定	共同研究のテーマについて、検討・決定する。
第 6 回	時事トピックス (4) / グループ・ワーク (1)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。
第 7 回	時事トピックス (5) / グループ・ワーク (2)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。
第 8 回	時事トピックス (6) / 経済理論の学習 (1)	直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマに関連する経済理論について学ぶ。

第 9 回 時事トピックス (7) / グループ・ワーク (3) 直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、中間報告の準備を行う。

第 10 回 共同研究の春学期 (中間) 共同研究に関する中間報告を行い、残された課題について検討する。

第 11 回 時事トピックス (8) / グループ・ワーク (4) 直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。

第 12 回 時事トピックス (9) / グループ・ワーク (5) 直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。

第 13 回 時事トピックス (10) / 経済理論の学習 (2) 直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマに関連する経済理論について学ぶ。

第 14 回 グループ・ワーク (6) / まとめ 共同研究のテーマについて、グループごとで、成果報告 (夏合宿) の準備を行う。また、春学期のまとめと、夏合宿に向けた準備について話し合う。

II 秋学期

回 テーマ 内容
第 15 回 秋学期のイントロダクション / 共同研究に関する再検討 春学期 (および夏合宿) の内容に関して復習・確認した上で、共同研究に関する再検討を行う。

第 16 回 時事トピックス (11) / グループ・ワーク (7) 直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。

第 17 回 時事トピックス (12) / グループ・ワーク (8) 直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。

第 18 回 時事トピックス (13) / 経済理論の学習 (3) 直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマに関連する経済理論について学ぶ。

第 19 回 時事トピックス (14) / グループ・ワーク (9) 直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、中間報告の準備を行う。

第 20 回 共同研究の秋学期 (中間) 共同研究に関する中間報告を行い、残された課題について検討する。

第 21 回 共同研究の秋学期 (中間) 報告 (2) 前回の続きを行う。

第 22 回 時事トピックス (15) / グループ・ワーク (10) 直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。

第 23 回 時事トピックス (16) / グループ・ワーク (11) 直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマについて、グループごとで、情報収集・議論する。

第 24 回 時事トピックス (17) / 経済理論の学習 (4) 直近の時事問題について報告・議論する。また、共同研究のテーマに関連する経済理論について学ぶ。

- 第 25 回 時事トピックス (18) / 直近の時事問題に関して、新聞記事を
グループ・ワーク (12) 参考に直近の時事問題について報告・
議論する。また、共同研究のテーマに
ついて、グループごとで、成果報告書
の作成を行う。
- 第 26 回 時事トピックス (19) / 直近の時事問題について報告・議論す
る。また、共同研究のテーマについ
て、グループごとで、成果報告書の作
成を行う。
- 第 27 回 時事トピックス (20) / 直近の時事問題について報告・議論す
る。また、共同研究のテーマに関連す
る経済理論について学ぶ。
- 第 28 回 グループ・ワーク (14) 共同研究のテーマについて、グループ
／まとめに分かれて、成果報告書の作成を行
う。また、全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 毎日、日本経済新聞を読む
- 2) 分担に従い、共同研究を進める。
- 3) 夏合宿に参加する。
- 4) 日経 TEST を受験する。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、開講後に指定します。

【参考書】

伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』（有斐閣、2012 年）

【成績評価の方法と基準】

春学期は平常点（100 %）で評価します。秋学期は平常点（70 %）と最終報告書（30 %）で評価します。平常点はグループ・ワークへの参加度、中間報告の内容などで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「グループ・ワークをしたい」という意見が多いので、グループ・ワークの時間を多めに設定し、理論を学習する時間は、必要に応じて調整するようにしています。引き続き、学生の意見を参考にしながら修正していきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメやスライドを作成する必要がありますので、パソコンが必要です。グループごとで確実に準備するようにしてください。

【その他の重要事項】

- 1) 日本経済新聞社が実施している公開試験である日経 TEST を受験してもらう予定です。その対策も兼ねて、なるべく毎日、日本経済新聞を読むようにしてください。
- 2) 3 年生は、ミクロ経済学（特にゲーム理論）の分析手法を学ぶため、「応用経済学Ⅰ/Ⅱ」を同時履修する（必ず出席する）ようにしてください。
- 3) 毎回出席することを前提として授業を進めます。
- 4) 夏合宿を開催する予定です。予定通り開催された場合には、必ず参加するようにしてください。

【Outline and objectives】

In this class, you will examine various current topics and discuss with each other based on the economic thinking. The topics currently assumed are related to the strategy, organization, and finance of the corporation, but depending on participants' interests, topics in other fields may be subject. The goal of this class is to allow you to learn the skill of economic thinking and the way to apply it on various specific problems. You can also exercise the way of effective presentation based on theoretical analysis.

MAN200FA-A4989

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A4994

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5181

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A4993

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4992

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A5127

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A4991

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4990

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A5073

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

山 崎 輝

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、ファイナンスに関する輪読・討論・問題演習等を通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを身に付けることを目指します。ファイナンス理論の進歩は著しく、その広範な研究成果は、経済学などの学界はもとより、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えました。高度に発展したファイナンス理論には難解な部分もあることは確かですが、本演習では理論の持つ本質的なメッセージを極力シンプルに、かつ正確に理解することを重視します。将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務の経験も踏まえながら様々な後押しをしていきます。また、年 1～2 回、金融ビジネスの世界で活躍する現役のプロフェッショナルによる実務家講演会を開催しています。過去、三菱 UFJ 銀行、みずほ銀行、大和証券、メリルリンチ日本証券、みずほ投信投資顧問、有力ヘッジファンド等のアナリストやトレーダー、ファンドマネージャー、経営コンサルタントが講演しています。

【到達目標】

以下の 4 つを到達目標に掲げます。

- ①ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
- ②自分自身の考察や分析結果に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション）ができる。
- ③表計算ソフトを利用してファイナンスに関する初歩的な計量分析や数値実験（シミュレーション）ができる。
- ④金融実務で活躍するビジネスパーソンに対しても自身の意見を述べる等、金融の専門的な内容に関するディスカッションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本演習は 4 つの課題に取り組みます。1 つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタル分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2 つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3 つ目は問題演習です。輪読と並行して「証券アナリスト第 1・2 次レベル試験」の問題をたくさん解くことで、ファイナンスのスキルを確固たるものにします。また、PC（Excel）による証券価格の計算や金融市場の分析も行います。4 つ目は実務家講演会の開催です。金融ビジネスの第一線で活躍する社会人を招聘して講演会を開催し、ゼミ生と活発なディスカッションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の進め方、到達目標、成績評価などの説明

第 2 回	テキストの輪読（債券投資分析）	債券の種類とそのキャッシュフロー、債券評価の基本、債券価格と最終利回り
第 3 回	テキストの輪読（債券投資分析）	様々な利回り尺度、デュレーション
第 4 回	テキストの輪読（債券投資分析）	コンベキシティ、利回り曲線と金利の期間構造
第 5 回	テキストの輪読（債券投資分析）	利回り曲線の変動要因、様々な利回り曲線
第 6 回	テキストの輪読（債券投資分析）	金利期間構造の理論、信用リスクと格付け、信用リスクと利回り格差
第 7 回	テキストの輪読（債券投資分析）	信用リスクの推定、社債評価と投資戦略、コーラブル債とプットブル債
第 8 回	テキストの輪読（債券投資分析）	変動利付債、インフレ連動債、モーゲージ・バックト証券（MBS）
第 9 回	テキストの輪読（債券投資分析）	投資目的とベンチマーク、債券ポートフォリオのリスク、パッシブ戦略、アクティブ戦略
第 10 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場の効率性に対する考え方、小型株効果、割安株効果
第 11 回	テキストの輪読（株式投資分析）	リターン・リバーサルとモーメンタム、それ以外の市場アノマリー
第 12 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 1
第 13 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 2
第 14 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 3

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場アノマリーの原因、市場の効率性と株式投資、企業・株式価値評価モデルの分類
第 16 回	テキストの輪読（株式投資分析）	配当割引モデル
第 17 回	テキストの輪読（株式投資分析）	残余利益モデル、割引キャッシュフロー法（DCF）、企業価値の残余利益モデル（EVA）
第 18 回	テキストの輪読（株式投資分析）	資本コスト
第 19 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株式評価尺度、株式収益率（PER）、配当利回り
第 20 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株価純資産倍率（PBR）EV/EBITDA、株価キャッシュフロー倍率（PCFR）、株価売上高倍率（PSR）、相対価値評価の注意点
第 21 回	テキストの輪読（株式投資分析）	インデックス運用
第 22 回	テキストの輪読（株式投資分析）	アクティブ運用、アクティブ運用の基本法則、アクティブ運用の種類
第 23 回	テキストの輪読（株式投資分析）	国際証券投資の意義

第 24 回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際パリティ関係、購買力平価、国際フィッシャー関係、フォワード・パリティ
第 25 回	テキストの輪読（国際証券投資）	カバー付き金利パリティ、カバーなし金利パリティ、国際パリティ関係の現実
第 26 回	実務家講演会	現役の金融ビジネスパーソンによる実務家講演会の開催
第 27 回	卒業レポートおよび卒業レポートの発表	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 1
第 28 回	卒業レポートおよび卒業レポートの発表	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報を要約すること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のための資料（レジュメやプレゼン資料）の準備が必須です。さらに問題演習や宿題に取り組む必要があります。

【テキスト（教科書）】

- ①伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論 II 実務篇』、2009 年、日本経済新聞出版社
- ②小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論 I 理論篇』、2009 年、日本経済新聞出版社

【参考書】

- ①佐野三郎、『証券アナリスト第 1 次レベル合格最短テキスト 証券分析とポートフォリオ・マネジメント』、2016 年、ビジネス教育出版社
- ②佐野三郎、『証券アナリスト第 2 次レベル合格最短テキスト < 上巻 > 証券分析とポートフォリオ・マネジメント』、2016 年、ビジネス教育出版社
- ③佐野三郎、『証券アナリスト第 2 次レベル合格最短テキスト < 下巻 > コーポレート・ファイナンスと企業分析、市場と経済の分析、職業倫理・行為基準』、2016 年、ビジネス教育出版社
- ④ジョン・ハル、『フィナンシャル・エンジニアリング 第 7 版』、2009 年、金融財政事情研究会
- ⑤木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012 年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

発表（50 %）、問題演習・宿題（30 %）、平常点（20 %）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4 年生は卒業レポートもしくは卒業論文の提出及び発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。実務家講演会の講演者の選定はゼミ生の要望がかなうように尽力します。また、Excel 演習の時間が十分にとれるように配慮します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】

問題演習や宿題では Excel を使います。発表用のレジュメやプレゼン資料は Word や PowerPoint などを利用して作成して下さい。

【関連科目】

ファイナンス論 I/II、証券経済論 I/II、企業財務論 I/II、基礎統計学 I/II

【前提知識】

関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【Outline and objectives】

This course provides students with a wide variety of skills to understand financial markets and modern finance business. The four major sections of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) reading a textbook about principles of modern finance theory; (3) exercises with Microsoft Excel in introductory quantitative analysis of asset pricing and investment decisions; and (4) holding a workshop by an invited business person and discussion with students.

MAN200FA-A4995

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A5182

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A5000

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A4996

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A4999

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A4998

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A5128

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A4997

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A5074

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

横内 正雄 (代講：二階堂 有子)

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代の国際金融問題について学ぶ。現代は外国為替相場や国際通貨の問題がその国の経済全体に大きな影響を及ぼすようになっており、そうした国際金融に関する知識は現代の経済を理解する上で必要不可欠となっている。しかし、国際金融の問題は複雑で理解が難しいと見なされている。そのため、ここではいさなり具体的な現実の問題を取り上げるのではなく、まずは国際金融入門として基礎的な知識の習得を目指す。その上で現実の国際金融の問題にアプローチする。

【到達目標】

以下の4点を到達目標とする。

- ①国際金融に関する基礎的な知識を習得する。
- ②グローバル化の問題に関する正確な知識を身につける。
- ③国際金融に関する基本的な英文の読解力を養う。
- ④論理的な思考方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

グローバル化という言葉が盛んに使われるようになって久しい。とりわけ金融現象のグローバル化ははなばなしが、この金融グローバル化の帰結が最近の金融危機であるといってもよい。金融グローバル化の問題が金融危機にいかんして行き着いたのかということを理解するために、国際金融に関する基本的な理論と具体的な事例について学ぶことが不可欠である。

本年度の演習は、基本的なテキストを読み、国際金融の基礎理論を理解する。その上で外国為替相場等の分析・予想に関して具体的な考察を行い金融のグローバル化の過程について理解を深める。

本演習は、テキストの輪読・グループによる報告とディスカッション・進級レポートおよび卒業レポートの中間報告・校外施設見学等で構成される。合宿は夏(9月)と冬(2月)に行う。ゼミ参加者は、2～3年生は進級レポート、4年生は卒業レポートの提出義務がある。

また、毎週1人が日経ヴェリタス等の新聞から興味深い記事を取り上げ、報告してもらい、それについてディスカッションを行う。

このゼミは、国際金融に関する基礎知識とその応用を修得することにより、文章把握力、資料批判力、共同行動力などに関する就業力を育成する効果がある。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	春学期の活動計画を決定する。
第2回	国際収支の意味を理解する	テキスト①第1章「国際収支と基礎理論」の輪読とディスカッション
第3回	為替相場の決定理論を理解する	テキスト①第2章「為替レート決定理論」の輪読とディスカッション
第4回	国際通貨の機能を理解する	テキスト①第3章「国際通貨」の輪読とディスカッション

第5回	固定相場制と変動相場制の機能を理解する	テキスト①第4章「為替相場制度」の輪読とディスカッション
第6回	国際金融市場の機能とデリバティブの役割について理解する	テキスト①第5章「国際金融市場とデリバティブ」の輪読とディスカッション
第7回	外国為替市場の機能を理解する	テキスト①第6章「外国為替と外国為替市場」の輪読とディスカッション
第8回	校外施設見学	東京証券取引所の見学(予定)
第9回	企業のリスク管理の手法について理解する	テキスト①第7章「国際財務活動」の輪読とディスカッション
第10回	通貨危機と金融危機について理解する	テキスト①第8章「アジア通貨危機と世界金融危機」の輪読とディスカッション
第11回	欧州通貨統合の過程と現状を理解する	テキスト①第9章「欧州通貨統合とユーロ危機」の輪読とディスカッション
第12回	世界の経常収支不均衡の意味について理解する	テキスト①第10章「グローバルインバランス」の輪読とディスカッション
第13回	アジアの国際金融問題の現状について理解する	テキスト①第11章「アジア通貨システムの改革と人民元の国際化」の輪読とディスカッション
第14回	まとめ	春学期に講読した文献のまとめと総括的ディスカッション

II 秋学期

回	テーマ	内容
第15回	秋学期イントロダクション	秋学期の活動計画を策定する。
第16回	金融システムの構造について理解する	テキスト② Unit 1 の学習
第17回	中央銀行の機能を理解する	テキスト② Unit 9 の学習
第18回	外国為替の機能について理解する	テキスト② Unit13 の学習
第19回	株式市場について理解する	テキスト② Unit15 の学習
第20回	買収・合併について理解する	テキスト② Unit17 の学習
第21回	校外施設見学	日本銀行見学(予定)
第22回	進級レポート中間報告(1)	2 年次生および 3 年次生の進級レポートの中間報告に関するプレゼンテーション
第23回	進級レポート中間報告(2)	2 年次生および 3 年次生の進級レポートの中間報告に関するプレゼンテーション
第24回	進級レポート中間報告(3)	2 年次生および 3 年次生の進級レポートの中間報告に関するプレゼンテーション
第25回	卒業レポート中間報告(1)	4 年次生の卒業レポートの中間報告に関するプレゼンテーション
第26回	卒業レポート中間報告(2)	4 年次生の卒業レポートの中間報告に関するプレゼンテーション
第27回	卒業レポート中間報告(3)	4 年次生の卒業レポートの中間報告に関するプレゼンテーション

第 28 回 秋学期のまとめ 1 年間のゼミ活動のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全員によるテキストの事前の購読、報告者によるプレゼンテーション資料の作成、グループによる研究報告の準備、進級レポートと卒業レポートの準備

【テキスト（教科書）】

- ①中條誠一『現代の国際金融を学ぶ〔新版〕』勁草書房、2016 年.
 - ② I.MacKenzie, *English for Financial Sector*, Cambridge University Press, 2008.
 - ③ J.Ravenhill(ed.), *Global Political Economy*, 5th Edition, OUP, 2017.
- ※テキスト③は予定。

【参考書】

- ①秦忠夫・本田敬吉・西村陽造『国際金融のしくみ〔第 4 版〕』有斐閣、2012 年.
- ②岩本武和『国際経済学：国際金融編』ミネルヴァ書房、2012 年.
- ③深尾光洋『国際金融論講義』日本経済新聞社、2010 年.
- ④上川孝夫・藤田誠一『現代国際金融論〔第 4 版〕』有斐閣、2012 年.

【成績評価の方法と基準】

報告内容と討論への参加（50 %）、進級レポート（2 年次生と 3 年次生）あるいは卒業レポート（4 年次生）の内容（50 %）で評価する。国際金融に関する基本的な理論・知識とその簡単な応用ができること、客観的で論理的な思考や記述ができることを評価の基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

個人によるプレゼンテーションだけではなく、グループワークとその報告を取り入れることを考えている。

【関連科目】

専門基礎科目 B 群の「金融論Ⅰ/Ⅱ」を履修していることが望ましい。また、専門科目の「国際金融論Ⅰ/Ⅱ」を並行して履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

This class covers contemporary issues in international finance. Globalization is the process through which an increasingly free flow of goods, services, people, ideas and capital, leads to the integration of economies across the world. It is well known that globalization provides us with benefits, by making markets more efficient, increasing competition and offering better economic opportunities. On the other hand, interdependence among economies could cause regional or global instabilities if local economic fluctuations such as currency and financial crises end up impacting a large number of countries.

Considering the fact above, the objectives of this class are to:

- ・ Learn the fundamental knowledge of how financial markets work, how companies make investment, financing and acquisition decisions and how banks operate.
- ・ Understand the international financial linkages and how monetary policies affect exchange rates and international capital flows.

MAN200FA-A5001

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A5006

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5183

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A5005

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A5004

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA-A5129

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A5003

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A5002

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A5075

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

横山 斉理

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習の目的は、さまざまな実践を通じて、流通・マーケティングについて深く学ぶことです。

【到達目標】

到達目標は、①身近な現象を流通・マーケティング論の視点から洞察・分析そして他人に解説できるようになること、②専門知識を活かして調査・企画・プレゼンテーション・論文（報告書）作成を行うことができるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ほとんどすべて演習形式で進めます。

①輪読

流通・マーケティング関連の文献を自主的に輪読してもらいます。その目的は、実践を助けてくれる理論、枠組み、概念、分析ツールなどを学ぶことです。理論なき実践は遊びと大差ありません。理論武装をして実践に臨むことを求めます。

②マーケティング・ゲーム

1 グループ（3～5 人）を 1 社と見立てて、企業のマーケティング競争についてのシミュレーション・ゲームを実施します。その目的は、輪読等で学んだ流通・マーケティングの主要概念（STP やマーケティング・ミックスなど）が実践の中でどのように活用できるかを身をもって体験することです。学習効果高めるために合宿等で集中的に実施する予定です。

③フィールドワーク

グループごとに任意の研究テーマを設定し、実際に街に出て観察・インタビュー・アンケートなどの調査を行い、プレゼンした上で報告書を作成。その目的は、課題の設定、さまざまなデータの取得方法、わかりやすいプレゼン方法、報告書の作成プロセスなどを学ぶことです。筋の良い課題を自分たちで見つけることがどれだけ難しいかを実感できるはずです。

④マーケティング・コンペへの応募

学外の流通・マーケティング関連のコンペに応募する予定です。その目的は、自分たちの能力の現在地を知ることです。コンペ応募時には、これまでの活動で培ってきたはずの専門知識・スキルを経動員します。

⑤企業コラボワークショップ

企業の方をお招きして現実のビジネスにおける課題をいただき、それについてマーケティング・プランを立案し、担当者の前でプレゼンします。その目的は、机上の空論となりがちなプランの実現可能性について理解することです。

⑥卒業論文

流通・マーケティングに関わっていればテーマは自由。「立論 → 方法 → 検証」（← 現時点では「?!」という人が多いでしょうが、演習を通じて学びます。）というプロセスがしっかりしていれば、興味があるテーマで論文を作成することを推奨しています。その目的は、思い出迷子にならないことです。みなさんが所属することになる組織の周りの人々のほとんどは卒業論文を書いているはずでしょうから。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習概要の説明
2	マーケティング・コンペの企画の課題吟味・決定	マーケティング・コンペに参加するグループを決定し、取り組む課題を慎重に吟味・決定する
3	マーケティングの基本概念の確認	マーケティングの基本概念を改めて学ぶ
4	マーケティング・コンペの課題検討①	コンペに向けたグループディスカッション①
5	マーケティング・リサーチの諸手法の確認①	定性的マーケティング・リサーチの諸手法を学ぶ
6	マーケティング・コンペの課題検討②	コンペに向けたグループディスカッション②
7	マーケティング・リサーチの諸手法の確認②	定量的マーケティング・リサーチの諸手法を学ぶ
8	マーケティング・コンペの課題検討③	コンペに向けたグループディスカッション③
9	マーケティング・コンペの中間報告①：前半	マーケティング・コンペで提案する内容の中間報告を行いディスカッションする
10	マーケティング・コンペの中間報告①：後半	マーケティング・コンペで提案する内容の中間報告を行いディスカッションする
11	マーケティング・コンペの最終発表	コンペに向け、提案する内容の最終発表を行い、プランを改善する
12	マーケティング・コンペの振り返り	マーケティング・コンペへの参加からの学びを内省する
13	ワークショップ①	企業の方にお越しいただき、課題とそれを取り巻く状況をプレゼンしてもらう
14	ワークショップ②	グループに別れて課題の解題を行い、プラン完成までのスケジュールを確認する
15	ワークショップ③	各自でグループワーク
16	ワークショップ④	企業の担当者前でマーケティング・プランをプレゼンし、講評してもらう
17	春学期総括	春学期の学びからの発見を振り返る

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	オリエンテーション	演習概要の説明
16	卒業論文テーマ発表	卒業論文のテーマについて発表しディスカッションを行う
17	マーケティング・ゲーム①	マーケティング・ゲームの概要説明およびチーム分け
18	マーケティング・ゲーム②	マーケティング・ゲームの戦略決定および実施
19	マーケティング・ゲーム③	マーケティング・ゲームの実施
20	マーケティング・ゲーム④	マーケティング・ゲームの実施および学びの振り返り

20	卒業論文中間発表	卒業論文の中間発表についてディスカッションする
21	フィールドワーク①	フィールドワークの概要説明およびチーム分け
22	フィールドワーク②	フィールドワークのテーマについてディスカッションし、予備調査を実施する
23	フィールドワーク③	フィールドワークを実施する
24	フィールドワーク④	フィールドワークを実施する
25	フィールドワーク⑤	フィールドワークの成果をまとめプレゼン内容を吟味する
26	フィールドワークの最終発表	フィールドワークの成果についてプレゼンを行い、学びを振り返る
27	卒業論文の最終発表	卒業論文の内容についてプレゼンを行い、学びを振り返る
28	秋学期総括	秋学期の学びからの発見を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習の学習効果を高めるためには、授業時間外にも輪読やグループ討論などが必要です。適宜、合宿や合同ゼミを実施することがあります。

【テキスト（教科書）】

適宜、紹介します。

【参考書】

適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

調査・企画・プレゼンの結果とそこに至るまでのプロセスにより総合的に評価します（＝100%）。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進み具合に応じて、適宜、スケジュールを柔軟に運用します。
ゼミのイベント（合宿など）への積極的な関与が求められます。

【学生が準備すべき機器他】

適宜、パソコン等の情報機器を利用します。

【関連科目】

マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱなど、マーケティング関連科目を積極的に履修してください。

流通・マーケティングは身近な現象です。我々は消費者として流通・マーケティングの当事者です。日々の生活の中で新製品の動向や新店舗の展開などに注意を向けておくことで、自分なりの問題意識をもつことができます。

【Outline and objectives】

The purpose of this seminar is to understand marketing and distribution.

MAN200FA-A5007

演習 1

MAN400FA-A5184

演習 5・6

MAN300FA-A5130

演習 3・4

MAN400FA-A5012

演習 6

MAN400FA-A5011

演習 5

MAN300FA-A5010

演習 4

MAN300FA-A5009

演習 3

MAN200FA-A5008

演習 2

MAN200FA-A5076

演習 1・2

吉田 健二

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、経営戦略についての様々な概念や理論を理解するとともに、企業が実際にとっている経営戦略を学ぶ。

【到達目標】

経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。また、本の要約や自分の考えなどをパワーポイントを使って発表することなどによって、コミュニケーション力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は、広い意味での経営戦略の本を積極的に読む予定です。昨年は、『経営戦略の論理（第4版）』（伊丹敬之、日本経済新聞出版社、2012年）と『ブルー・オーシャン戦略』（W・チャン・キム/レネ・モボルニュ、ランダムハウス講談社、2005年）、『ブルー・オーシャン・シフト』（W・チャン・キム/レネ・モボルニュ、ダイヤモンド社、2018年）の3冊の本を読みました。また、NHKテレビテキストの『仕事学のすすめ』を使って、ニトリとコマツの2社の経営について勉強しました。

担当者がパワーポイントを使って発表し、その後皆でディスカッションを行います。また、関連したビデオを見ることによって、理解を深めていきます。できれば、企業の方をお招きして話を伺ったり、企業を訪問したいとも考えています。昨年は、フランチャイズチェーンによるハンバーガー専門店「モスバーガー」を全国展開しているモスフードサービスを訪問して、モスグループの概要やフランチャイズの仕組み、マーケティング戦略などについて説明して頂き、その後本社内を見学しました。

夏休み中には、『トヨタ物語』（野地秩嘉、日経BP社、2018年）や『SHOE DOG 靴にすべてを。』（フィル・ナイト、東洋経済新報社、2017年）、『LIFE SHIFT（ライフ・シフト）』（リンダ・グラットン、アンドリュース・スコット、東洋経済新報社、2016年）の中からゼミ生各人が1冊を選んで、感想文を800字で書きました。

秋学期は、モスフードサービスから今後の経営戦略の策定、時間帯売上向上に向けた新施策の提案、MOSにこんなサービスがあったらという3つの研究課題を頂き、グループごとに研究を行い、12月に本場でそれぞれパワーポイントで発表しました。今年はまだ決めていませんが、ゼミ生と相談して、何らかのグループ研究を行いたいと考えています。

合宿については、ゼミ生と話し合っている予定ですが、毎年夏に行っています。昨年は、8月下旬に那須塩原に行き、2泊3日で勉強とレクリエーションの両方を楽しみました。また、4年生が後輩のために就職活動についてのアドバイスをを行いました。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	春学期のゼミの説明	ゼミの概要や進め方等の説明とテキストの決定

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

2	テキストの輪読（1）	担当者の発表と全員によるディスカッション
3	テキストの輪読（2）	担当者の発表と全員によるディスカッション
4	テキストの輪読（3）	担当者の発表と全員によるディスカッション
5	テキストの輪読（4）	担当者の発表と全員によるディスカッション
6	テキストの輪読（5）	担当者の発表と全員によるディスカッション
7	テキストの輪読（6）	担当者の発表と全員によるディスカッション
8	テキストの輪読（7）	担当者の発表と全員によるディスカッション
9	テキストの輪読（8）	担当者の発表と全員によるディスカッション
10	テキストの輪読（9）	担当者の発表と全員によるディスカッション
11	企業訪問	企業を訪問して、経営戦略等の説明を聞き、社内を見学する
12	テキストの輪読（10）	担当者の発表と全員によるディスカッション
13	テキストの輪読（11）	担当者の発表と全員によるディスカッション
14	春学期のまとめ	春学期のまとめと夏合宿の準備

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	秋学期のゼミの説明	グループ研究の発表会とその準備等の説明
16	グループ研究の発表会の準備と中間発表（1）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
17	グループ研究の発表会の準備と中間発表（2）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
18	グループ研究の発表会の準備と中間発表（3）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
19	グループ研究の発表会の準備と中間発表（4）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
20	グループ研究の発表会の準備と中間発表（5）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
21	グループ研究の発表会の準備と中間発表（6）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
22	グループ研究の中間発表会	グループ研究の中間発表会に参加し、グループごとに発表を行う
23	グループ研究の発表会の準備と中間発表（7）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
24	グループ研究の発表会の準備と中間発表（8）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
25	グループ研究の発表会の準備と中間発表（9）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
26	グループ研究の発表会の準備と中間発表（10）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う
27	グループ研究の発表会の準備と中間発表（11）	グループごとにグループ研究の発表会の準備と中間発表を行う

28 グループ研究の発表会 グループ研究の発表会に参加し、グループごとに発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は、テキストを事前に読み、疑問点や自分の意見等を整理してくること。また、発表者は、発表の準備を行うこと。

秋学期は、グループごとにグループ研究の発表会の中間発表の準備をしてくること。

【テキスト（教科書）】

ゼミ生と話し合って決める予定です。

【参考書】

- ① 網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011 年。
 - ② 清水勝彦『戦略の原点』日経 BP 社、2007 年。
 - ③ 三谷宏治『経営戦略全史』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2013 年。
 - ④ デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済新報社、2002 年。
 - ⑤ M.E. ポーター『競争の戦略（新訂版）』ダイヤモンド社、1995 年。
 - ⑥ M.E. ポーター『競争優位の戦略』ダイヤモンド社、1985 年。
 - ⑦ ジェイ・バーニー『企業戦略論（上・中・下）』ダイヤモンド社、2003 年。
 - ①②④⑦は経営戦略論のテキストで、③は経営戦略論の 100 年の流れを描いた本で、⑤と⑥は経営戦略論の古典といわれる本です。
- 他は、授業時にその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内での発表やコメント、質問などの平常点（45 %）、グループ研究への参加（45 %）、レポート（10 %）

【学生の意見等からの気づき】

経営戦略論の基礎を身につけるために、分かりやすいゼミにするつもりです。また、皆でディスカッションしやすい環境にします。

【その他の重要事項】

少なくとも、1 年生で経営学総論Ⅰ・Ⅱを、2 年生で経営戦略論Ⅰ/Ⅱとマーケティング論Ⅰ/Ⅱを受講することをお勧めします。

「がっちりマンデー!!」（TBS テレビ、日曜日）、「カンブリア宮殿」（テレビ東京、水曜日）、「ガイアの夜明け」（テレビ東京、火曜日）、「未来世紀ジパング」（テレビ東京、月曜日）、「プロフェッショナル 仕事の流儀」（NHK テレビ、月曜日）のテレビ番組は、企業や経営者などを理解するのに役立ちますので、それらの番組を見ることをお勧めします。

【関連科目】

経営戦略論Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to learn concepts and theories of strategic management and their applications in order to gain insight into the ways in which organizations develop and implement strategies.

MAN200FA-A5013

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA-A5185

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A5131

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A5015

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A5014

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5018

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5017

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A5016

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A5077

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

吉田 康伸

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康のマネジメント、スポーツにおけるリーダーシップという 2 つのテーマについて学び、理解を深める。

【到達目標】

①健康のマネジメント：自身の日常生活に役立てることができるよう、健康に関する様々な問題について調べ、その理解を深める。

②スポーツにおけるリーダーシップ：関心のあるスポーツ界のリーダーを取り上げて、その人物について詳細に調べ、自分なりの理想的リーダー像を確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ストレス社会と称される現代において、ストレスに起因する生活習慣病が深刻な社会問題となっている。そこで、われわれが心身の健康を保持・増進するに当たり、運動や食事（栄養）、休息（睡眠）、あるいは喫煙が身体に及ぼす影響といった身近な問題を取り上げ、生涯健康でいるためにはどうしたら良いかを考え、興味のある問題について調べ上げて各自に発表してもらい、皆で検討する。

また、スポーツ界で活躍する監督やコーチ、キャプテン等のリーダーに焦点を当て、彼らがどのようにしてリーダーシップを発揮しているのかについても考える。

以上の内容を論文や書籍等、多様な媒体から知識を獲得した後に、ゼミ内で発表、ディスカッションすることを通して、健康・スポーツについての理解をより一層深めていく。最終的に、理想のリーダー像（3 年生）および健康の維持（4 年生）に関するレポートを作成し、提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、役員決定	ガイダンスとゼミ長等の役員を決定する。
第 2 回	時事トピックス、教員による健康講義①	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員による健康に関する講義を行う。
第 3 回	時事トピックス、教員による健康講義②	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員による健康に関する講義を行う。
第 4 回	時事トピックス、教員による健康講義③	各自が気になった健康やスポーツの情報を発表した後、教員による健康に関する講義を行う。
第 5 回	発表（健康）・ディスカッション①	4 年生の健康に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 6 回	発表（健康）・ディスカッション②	4 年生の健康に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 7 回	発表（健康）・ディスカッション③	4 年生の健康に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。

第 8 回	発表（健康）・ディスカッション④	4 年生の健康に関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 9 回	発表（スポーツ団体）・ディスカッション①	3 年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 10 回	発表（スポーツ団体）・ディスカッション②	3 年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 11 回	発表（スポーツ団体）・ディスカッション③	3 年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 12 回	発表（スポーツ団体）・ディスカッション④	3 年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 13 回	発表（スポーツ団体）・ディスカッション⑤	3 年生の各自関心のあるスポーツ種目又はスポーツ団体の個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 14 回	春学期総括、秋学期課題設定	春学期の総括と秋学期の課題設定を行う。

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	秋学期授業ガイダンス	秋学期授業のガイダンスを行う中で、レポートの概要を発表する。
第 16 回	スポーツ界における問題提議・ディスカッション①	教員よりスポーツに関する問題提議をした後、全体でディスカッションをする。
第 17 回	スポーツ界における問題提議・ディスカッション②	教員よりスポーツに関する問題提議をした後、全体でディスカッションをする。
第 18 回	スポーツ界における問題提議・ディスカッション③	教員よりスポーツに関する問題提議をした後、全体でディスカッションをする。
第 19 回	発表（フリーテマ）・ディスカッション①	4 年生のフリーテマでの個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 20 回	発表（フリーテマ）・ディスカッション②	4 年生のフリーテマでの個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 21 回	発表（フリーテマ）・ディスカッション③	4 年生のフリーテマでの個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 22 回	発表（フリーテマ）・ディスカッション④	4 年生のフリーテマでの個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 23 回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション①	3 年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 24 回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション②	3 年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 25 回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション③	3 年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。
第 26 回	発表（スポーツリーダー）・ディスカッション④	3 年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッションをする。

- 第 27 回 発表（スポーツリーダー）・ディスカッション 3 年生のスポーツリーダーに関する個人発表の後、全体でディスカッション⑤をする。
- 第 28 回 レポート提出、授業総括 レポートの提出と授業総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から健康・スポーツに興味を持って、知識の収集と習得に努め、春学期と秋学期にそれぞれ発表ができるよう資料の準備を進めておくこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 50 %、個人発表 20 %、レポート 30 % の配分として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションでは、各自が積極的かつ具体的な意見を述べるができるような体制づくりに努める。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

・学生自身が自主的に取り組むことがゼミの本分である。ついては、受身でなく、積極的な姿勢で学習活動に望むこと。
・バレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてスポーツリーダーシップの授業を行う。

【オフィス・アワー】

授業後に質問等を受け付ける。

【関連科目】

特になし。

【Outline and objectives】

Learn about two themes of health management and leadership in sports and deepen their understanding.

MAN200FA-A5019

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A5132

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA-A5024

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5023

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA-A5022

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA-A5186

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA-A5021

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A5020

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A5078

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

李 瑞雪

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業のロジスティクス戦略、ロジスティクス・マネジメント、サプライチェーン・マネジメント（SCM）の基礎的な理論と管理手法、分析手法を学びます。

【到達目標】

1. 文献輪読と討論を通じて企業のロジスティクス戦略、ロジスティクス・マネジメント、サプライチェーン・マネジメント（SCM）に関する基礎知識を習得します。
2. ロジスティクスのマネジメントとオペレーションの現場に対する観察と実地調査を通じて、理論・概念の理解を深めるとともに、実態に対する把握力と分析力を養います。
3. 「真理の探究」に努めると同時に、ゼミ仲間の友情を涵養し、将来にわたるネットワークを築きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期においては、ロジスティクス戦略、ロジスティクス・マネジメント、サプライチェーン・マネジメント（SCM）の専門書と事例集をステップ・バイ・ステップで輪読し、討論します。また、フィールド調査の基本技法を学び、また調査企画を行います。秋学期では、企業のロジスティクス組織、ロジスティクス施設を対象とするフィールド調査を実施します。そして、中間報告、追加調査、最終報告というプロセスを踏んで調査レポートを仕上げていきます。なお、この一連の活動はグループ研究の形をとります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方を説明し、輪読の担当割り当て、スケジュールの策定、グループ編成を行い、資料（教科書・専門書など）を準備します。
2	図書館ガイダンス	文献検索方法、データベース利用などを学び、文献引用のルールを理解します。
3	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	ビジネス・ロジスティクス・マネジメントの基本理論を学びます。
4	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	輸送管理の基礎知識を学びます。
5	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	保管と在庫管理の基礎知識を学びます。

6	教科書・専門書を輪読し、物流管理（ロジスティクス・マネジメント）の基礎知識の学習	ロジスティクス・ネットワーク設計の基礎知識を学びます。
7	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーン戦略論を学びます。
8	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーンマネジメントの組織と人材に関する理論を学びます。
9	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーンマネジメントの統合的オペレーション計画（integrated operations planning）の基礎知識を学びます。
10	教科書・専門書を輪読し、サプライチェーンマネジメントの基礎知識の学習	サプライチェーンマネジメントの業績測定（performance measurement）の基礎知識を学びます。
11	企業見学	企業のロジスティクス・センターを見学し、物流・ロジスティクスの現場を観察することを通じて、物流管理・サプライチェーンマネジメントについての理解を深めます。
12	フィールドリサーチ方法の習得	フィールドリサーチ手法の基本を学びます。とりわけ調査計画の策定、調査対象の選定、聞き取りの作法について学習します。
13	フィールドリサーチ方法の習得	フィールドリサーチで得た情報の整理・分析の手法を学びます。
14	企業調査の計画作り	秋学期に実施する企業調査の具体的な計画を設計・検討し、グループごとに企画書をまとめます。

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	企業調査の進捗状況確認	各班のフィールド・ノーツをゼミで発表・確認・ディスカッションし、分析方法を検討します。
16	企業調査の進捗状況確認	各班のフィールド・ノーツをゼミで発表・確認・ディスカッションし、分析方法を検討します。
17	企業調査の進捗状況確認	各班のフィールド・ノーツをゼミで発表・確認・ディスカッションし、分析方法を検討します。
18	先行研究のレビュー	フィールドで発見し事実に関連する先行研究のレビューを発表し、分析の内容を検討します。
19	先行研究のレビュー	フィールドで発見し事実に関連する先行研究のレビューを発表し、分析の内容を検討します。
20	中間報告	フィールドノーツと関連文献に基づいて報告資料を作成して、各班はゼミで中間報告を行います。

21	中間報告	フィールドノーツと関連文献に基づいて報告資料を作成して、各班はゼミで中間報告を行います。
22	中間報告	フィールドノーツと関連文献に基づいて報告資料を作成して、各班はゼミで中間報告を行います。
23	国内で合同ゼミ実施	国内の他大学のゼミと合同ゼミを実施し、研究発表を行います。
24	追加の調査	各班は中間報告及び合同ゼミでのディスカッションを踏まえて、追加調査を行い、レポートの完成度を高めていきます。
25	追加の調査	各班は中間報告及び合同ゼミでのディスカッションを踏まえて、追加調査を行い、レポートの完成度を高めていきます。
26	最終レポートの完成	各班は追加調査の内容と追加の文献サーベイを踏まえてレポートを仕上げ、ゼミで修正と確認を行います。
27	最終レポートの完成	各班は追加調査の内容と追加の文献サーベイを踏まえてレポートを仕上げ、ゼミで修正と確認を行います。
28	海外で合同ゼミ実施	海外の大学のゼミと合同ゼミを実施し、研究発表を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 指定された文献内容は必ず事前に読んでおいてください。
2. 割り当てられる部分は必ず発表レジュメを作成しておいてください。
3. 企業調査の実施と並行して、調査対象に関連する既存文献を積極的に収集しレビューしてください。

【テキスト（教科書）】

輪読文献はゼミの1回目で提示します。

【参考書】

Supply Chain Logistics Management, 3rd edition, by D. J. Bowersox, D. J. Closs, and M. B. Cooper, McGraw-Hill Irwin

Supply Chain Strategy, by E. H. Frazelle, The McGraw-Hill Companies, Inc.

『ロジスティクス概論：基礎から学ぶシステムと経営』 苦瀬博仁編著、白桃書房
『ケース・スタディの方法』（第2版）Robert K. Yin 著、千倉書房

『月刊 ロジスティクス・ビジネス』 各号

【成績評価の方法と基準】

輪読の発表とディスカッション参加（30％）、企業調査の参加・貢献（30％）、調査レポートの水準（40％）を総合して評価します。3回以上の無断欠席者には成績をつけません。

【学生の意見等からの気づき】

就活繁忙期に柔軟かつ効果的なゼミ運営を行います。

【学生が準備すべき機器他】

輪読の発表資料と企業調査の発表資料はPPT（パワーポイント）にしたうえで、プロジェクターを使用してプレゼンを行います。

【その他の重要事項】

各グループの企業調査とは別途に、ゼミ全体の企業見学を実施します。
ゼミ合宿や国内のインカレ、海外の大学と合同ゼミなどの機会を利用して、論文を発表することを予定しています。

主な関連科目として、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営学総論Ⅰ/Ⅱ、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ、日本経営論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱなどが挙げられます。

【合宿】

国内合宿と海外合宿を1回ずつ行います。

【合同論文発表会】

海外大学のゼミと合同論文発表会を行います。

【Outline and objectives】

In this class, we will learn the fundamental theories, management method, and analytical method related with business logistics strategy, business logistics management, and supply chain management (SCM).

PRI100FA-A5201	プログラミング言語 I（C 言語）（2019 年度以降入学者）	1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]
PRI100FA-A5238	プログラミング言語 I・II（2015 年度以前入学者）	1～4 年次／4 単位[年間授業/Yearly]
PRI100FA-A5237	プログラミング言語 I・II（2015 年度以前入学者）	1～4 年次／4 単位[年間授業/Yearly]
PRI100FA-A5227	プログラミング言語 I（2016～2017 年度入学者）	1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]
PRI100FA-A5225	プログラミング言語 I（2016～2017 年度入学者）	1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]
PRI100FA-A5216	プログラミング言語 II（C 言語）（2018 年度入学者）	1～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]
PRI100FA-A5214	プログラミング言語 II（C 言語）（2018 年度入学者）	1～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]
PRI100FA-A5204	プログラミング言語 II（C 言語）（2019 年度以降入学者）	1～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]
PRI100FA-A5202	プログラミング言語 II（C 言語）（2019 年度以降入学者）	1～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]
PRI100FA-A5228	プログラミング言語 II（2016～2017 年度入学者）	1～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]
PRI100FA-A5226	プログラミング言語 II（2016～2017 年度入学者）	1～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]
PRI100FA-A5203	プログラミング言語 I（C 言語）（2019 年度以降入学者）	1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]
PRI100FA-A5215	プログラミング言語 I（C 言語）（2018 年度入学者）	1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]
PRI100FA-A5213	プログラミング言語 I（C 言語）（2018 年度入学者）	1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

寺脇 由紀

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

C 言語を通して、ソフトウェアをつくる技術であるプログラミングについて学びます。またプログラミングを学習することを通じて、コンピュータという機械の正体、プログラムの正体といった、コンピュータの本質的な側面を理解していきます。

【到達目標】

C 言語を使って、自ら考えプログラムが作成できるようになる。
C 言語による学習を通じて、コンピュータの本質的な側面を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

C 言語を習得し、プログラミングの基礎概念である変数、関数、制御構造、基礎的なデータ構造を理解します。
講義と実習によって進めます。一つの要素をゆっくり確実に解説します。その後、教員とともに、プログラムを作成することを通じて理解を深め、最終的には自分でプログラムを作成し、PC 上で挙動を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基礎知識	コンピュータの特徴、プログラミングの考え方などコンピュータ独自の考え方を説明します。
第 2 回	プログラミングの基礎知識	プログラミングの基礎知識と、プログラムの実行までの流れを学習します。
第 3 回	プログラムの書き方	多くのプログラマーが利用している慣習を紹介しながら、好ましいプログラムの書き方を学びます。
第 4 回	画面への出力	画面に情報を表示する処理の書き方を学びます。

第 5 回	数値の表示と計算	整数や小数を使った計算を習得します。また、C 言語での小数と整数を扱う際の注意点も学習します。
第 6 回	数値の記憶と計算	計算結果を保存したり、他の計算に利用したりする方法を学びます。
第 7 回	ユーザの入力の読み込み	ユーザからの入力を読み込む方法を学びます。
第 8 回	変数	変数を扱う方法を学びます。
第 9 回	条件分岐	if 文による条件分岐の書き方を学びます。
第 10 回	複雑な条件分岐	switch 文による条件分岐の書き方や、複雑な条件分岐の書き方を学びます。
第 11 回	回数が決まっている繰り返し	for 文による指定回数の繰り返し処理を書く方法を学びます。
第 12 回	回数がわからない繰り返し	while 文による繰り返し処理を書く方法を学びます。
第 13 回	関数の呼び出し	関数とその呼び出し方を学びます。C 言語の標準関数を使ってみましょう。関数を自身で定義する方法を学びます。
第 14 回	関数の作成	
II 秋学期		
第 15 回	テーマ 変数の寿命	内容 関数を習得すると、変数の扱いに注意が必要です。プログラムを部品にするために重要な概念を解説します。
第 16 回	複数の変数を一括して扱う	たくさんの変数をまとめて計算に使う方法を解説します。
第 17 回	配列の基礎	より複雑なデータを扱うことができるようになることを目指します。第一歩として、配列の扱い方の基礎を学びます。
第 18 回	配列の活用	配列を活用したプログラムの作り方を学びます。
第 19 回	文字列の基礎	文字列の扱い方の基礎を学びます。
第 20 回	文字列の活用	より複雑な文字列処理をする方法を学びます。
第 21 回	構造体の基礎	構造体の定義の仕方とその使い方の基礎を学びます。
第 22 回	構造体の活用	構造体を使ったより複雑なプログラミングについて学びます。

第 23 回	ポインタの基礎	ポインタについて学びます。ポインタは、C 言語において難しいといわれる項目ですので着実に理解していきましょう。
第 24 回	ポインタの活用	ポインタの活用法を学びます。
第 25 回	複数の型の扱い	種類の異なる変数をまとめて計算に使う方法を解説します。
第 26 回	ファイルからの入力	ファイルの内容を読み込む方法を学びます。
27	ファイルへの出力	データをファイルに書き込む方法を学びます。
28	まとめ	総括をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラミングの知識や経験は不要です。
しかしコンピュータの扱い、特にキーボードでの文字入力に慣れていることは必須となります。キーボードでの入力に不慣れな人は、タイピングソフトでの練習を事前に行っておくことが望ましいです。
授業中に完成できなかったことは、授業終了後に配布される教材を見直して復習しましょう。

【テキスト（教科書）】

教員の作成する教材で進めます。教材は、授業終了後に電子的に配布します。

【参考書】

1) 株式会社アंक著,C の絵本 第 2 版 C 言語が好きになる新しい 9 つの扉, 翔泳社,2016,ISBN-10: 479815038X.

2) David Griffiths,Dawn Griffiths 著, 中田秀基監訳, 木下哲也訳: Head First C -頭とからだで覚える C の基本, オライリージャパン,2013,ISBN-10: 4873116090.

次に挙げるのは定番の教科書です。少し難しいので、余裕のある人向けです。

3) B.W. カーニハン,D.M. リッチー著, 石田 晴久訳: プログラミング言語 C 第 2 版, 共立出版,1989,ISBN-10: 4320026926.

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題やレポート、授業内に作成するプログラムへの取り組み態度で総合的に評価します (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

毎年度、多くの学生から好評いただいたように、今年度も一つの要素をゆっくり確実に解説します。これは便利なツールやソフトウェアを作成できるようなプログラミングができるようになるための最初の一步を確実に踏み出すために大切なことです。このため場合によっては、授業の進行が前後することがあります。

【学生が準備すべき機器他】

実習と講義を併用します。実習教室の PC を使います。
授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

授業内容についてわからない点は、質問をする、自ら調べるといった主体的な学習態度を心がけてください。

私語等を含め、授業に参加していない学生は退席させる場合があります。他の学生が作成したプログラムをコピー&ペーストする、あるいは、自己努力をしていない学生は評価できない場合があります。

【関連科目】

特になし

【実務経験のある教員による授業】

特になし

【オフィスアワー】

授業に関する相談は、授業時間の終了後に受け付けています。また、授業支援システムを活用して質問を受け付けます。

【Outline and objectives】

We will learn about programming which is a technology for making software using the C language.

Through learning programming, we will understand the essential aspects of computer and program.

PRI100FA-A5205

プログラミング言語Ⅰ（JAVA）（2019年度以降入学者）

1～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

PRI100FA-A5239

プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）

1～4年次／4単位[年間授業/Yearly]

PRI100FA-A5218

プログラミング言語Ⅱ（JAVA）（2018年度入学者）

1～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

PRI100FA-A5217

プログラミング言語Ⅰ（JAVA）（2018年度入学者）

1～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

PRI100FA-A5206

プログラミング言語Ⅱ（JAVA）（2019年度以降入学者）

1～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

PRI100FA-A5230

プログラミング言語Ⅱ（2016～2017年度入学者）

1～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

PRI100FA-A5229

プログラミング言語Ⅰ（2016～2017年度入学者）

1～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

飯塚 康至

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主要なオブジェクト指向言語である **Java** 言語を文法を中心に学ぶ。自力にて簡単なプログラムを作成できることを目標とし、**Java** 言語を利用してオブジェクト指向とはどのようなものか説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通り。

- (1) 基本的な **Java** 言語の機能と文法を理解し説明できる。
- (2) クラスを定義し利用できる。
- (3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
- (4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は、実習室において講義と実習を行う。講義にて、例題や基本的なプログラム例を理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成する。実際に PC を使用してプログラミングを行い、動作を確認する。この学習によって **Java** の基礎を身につける。

なお、受講にあたってはプログラミングに関するの予備知識は必要としませんが、**Windows** の一般的な利用スキルは必要とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	Java 言語の特徴と実行までの流れ	Java 言語の特徴とプログラムを作成し実行するまでの流れを理解する。またエラーの見方についても理解する。
2	四則演算と変数、文字列の扱い	Java を用いて計算を行う方法と文字列の表示や連結について理解する。
3	変数の有効範囲と配列、コマンドライン引数	変数の有効範囲について理解する。また配列の定義と初期化について理解する。
4	演算子と条件分岐 (if 文と Switch 文)	演算子と条件分岐を用いることで処理を分岐する方法について理解する。
5	while 文の作成と使用	while 文を利用して処理を繰り返す方法について理解する。
6	for 文および拡張 for 文の作成と使用	for 文を利用して処理を繰り返す方法について理解する。
7	クラス定義とオブジェクトの生成、使用	クラスを定義し別のクラスから生成、使用する方法について理解する。
8	オーバーロードメソッドの作成と使用	メソッドのオーバーロードを実装し、利用し理解する。
9	コンストラクタの定義	コンストラクタとは何かを理解し、定義し利用する。
10	アクセス修飾子の適用とカプセル化	アクセス修飾子について理解し、カプセル化を実装する。
11	static 変数および static メソッドの定義と使用	static とは何かを理解し、定義し利用する。
12	API の利用	API(Application Programming Interface) を利用してプログラミングする方法について理解する。
13	アプレットでのプログラム作成	アプレットを利用して GUI (グラフィカルユーザーインターフェース) のプログラミングを行う。

14 まとめ

前期のまとめを行う。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	オブジェクト指向コンセプト	オブジェクト指向とはどのようなものか概念について理解する。
2	クラスと継承	クラスの定義とクラスを継承する方法について理解する。
3	インターフェースと抽象クラス	インターフェースや抽象クラスがどのようなものか理解し、実装する。
4	ポリモフィズムについて説明と適用	ポリモフィズム（多態性）がどのようなものか理解し、実装する。
5	サブクラスの定義と使用	サブクラスの役割について理解し、実装する。
6	メソッドのオーバーライド	メソッドのオーバーライドの役割について理解し、実装する。
7	入出力と例外処理	ストリームを利用した入出力について理解する。実行時のエラーである例外と例外処理について理解する。
8	ガベージコレクション	メモリ管理機能であるガベージコレクションについて理解する。
9	パッケージ宣言とインポート	パッケージとは何か理解し、インポート部分の実装について理解する。
10	スレッドの定義と利用	並列処理であるスレッドについて理解し、利用する。
11	設計と UML	UML (統一モデリング言語) を利用した設計について理解する。
12	オリジナルアプリケーションの設計	UML を利用しオリジナルなアプリケーションの設計をする。
13	オリジナルアプリケーションの作成	作成した UML を元にオリジナルアプリケーションの作成を行う。
14	まとめ	後期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常的にパソコンに触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。

【テキスト（教科書）】

特に教科書は使用しません。参考となるスライド資料は授業後公開します。

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 点満点とし、授業内課題 50 点、期末課題 50 点の課題での評価に平常点を加味し決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニターを利用します。課題のやりとり等は Google クラウドを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格：OCJP:Oracle Certified Java Programmer (オラクル認定 Java プログラマー)

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。授業終了前にミニツッパーパー（振り返りシート）を作成します。

【関連科目】

データ処理論Ⅰ（コンピュータグラフィックス）

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模 Java システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline and objectives】

Learn the grammar of the Java language. Java language is the main object-oriented. The goal is to create a simple program on its own. And purpose is you can to be able to explain what is object-oriented.

PRI100FA-A5207

プログラミング言語Ⅰ（JAVA）（2019年度以降入学者）

1～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

PRI100FA-A5208

プログラミング言語Ⅱ（JAVA）（2019年度以降入学者）

1～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

PRI100FA-A5220

プログラミング言語Ⅱ（JAVA）（2018年度入学者）

1～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

PRI100FA-A5232

プログラミング言語Ⅱ（2016～2017年度入学者）

1～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

PRI100FA-A5240

プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）

1～4年次／4単位[年間授業/Yearly]

PRI100FA-A5219

プログラミング言語Ⅰ（JAVA）（2018年度入学者）

1～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

PRI100FA-A5231

プログラミング言語Ⅰ（2016～2017年度入学者）

1～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

神林 靖

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業概要:プログラミングに取り組むのが初めてという人を対象にして、**Java** 言語を使ったプログラミングを初歩から学びます。春学期には **Java** 言語の基本文法を学び、プログラミングの基本構造を使ってプログラムを構築します。秋学期には、オブジェクト指向プログラムの概念を学び、並行処理を実行するプログラムの構築までを丁寧に学習します。

授業の目的：この科目を履修することによって学生は、**Java** 言語を使用したオブジェクト指向プログラムの構築ができるようになるにとどまらず並行処理プログラムも構築できるようになる。

【到達目標】

例題や練習問題で基本的な **Java** 言語の機能を理解し、それらを組み合わせで多少複雑なプログラムを作成することができます。そして“オブジェクト指向”とは何かについても理解し、説明することができます。オブジェクト指向プログラムを作成できる。更に並行処理プログラムの概念を理解し、マルチスレッドを用いた単純なプログラムを作成することができます。プログラムからファイルを扱うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

(講義の概要)

オブジェクト指向という概念にもとづいたプログラミング言語 **Java** について、簡単な例題を理解して練習問題のプログラムを作成することによって、**Java** の基礎について学習します。後半では、現代のプログラミングでは避けることのできない“オブジェクト指向”についても学びます。

本講義を受講するには、一般的なコンピュータの知識があれば十分で、プログラミングに関しての予備知識は必要としません。

(授業方法)

授業は、実習室において講義と実習を行います。教科書の例題や基本的なプログラム例を説明した後、それを応用した練習問題について考え、実際にプログラミングを行うことによってコンピュータ上で動作を確認します。春学期で **Java** プログラミングに慣れて、秋学期はオブジェクト指向を用いた **Java** 言語らしいプログラミングを中心に学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	Java プログラムとコンピュータの関係	コンピュータシステムを構成するハードウェアとソフトウェアの関係を学びましょう。
2	コンパイルと実行	人間が記述する文字列としてのプログラムをハードウェアが理解するプログラムへと変換することを学びます。併せてプログラミング環境の使い方も学びます。
3	計算してみよう	コンピュータは“電子計算機”です。コンピュータに計算をさせてみましょう。
4	変数と代入	プログラムにおける変数と、それへの値の設定について学びます。
5	入出力（1）	記述するプログラムが、どのようにして外部と情報のやり取りをするかについて学びます。

6	四則演算と型変換	プログラム上で四則演算ができるようにします。また整数と実数ではコンピュータ内部でのデータ表現が異なることを学びます。
7	プログラム構造（条件の表現）	プログラムで作業を行う際に必要となる制御（プログラムの流れ）を変化させる条件の表現方法を学びます。
8	プログラム構造（もっと細かい条件の表現）	多くの選択肢の中から1つを選んで実行するプログラムの構造について学びます。
9	プログラム構造（繰り返し）	コンピュータに一定の作業を繰り返し行わせるためのプログラム制御構造を学びます。
10	文字列と繰り返し	文字列を用いて繰り返しの構造について理解を深めます。
11	クラスとメソッド（ちょっとだけオブジェクト指向）	Java 言語の基本概念であるクラスとメソッドについて学びます。
12	1次元配列	多くのデータを保存し利用するための配列と呼ばれる構造を使えるようになります。
13	2次元配列	行列のようなデータ表現をプログラムでどのように実現するかを学びます。
14	クラスとコンストラクタ（もうちょっとだけオブジェクト指向）	Java プログラムでは、クラスを実体化することでプログラムが生成されます。実体化のためにコンストラクタと呼ばれるメソッドが実行されることを学びます。
Ⅱ 秋学期		内容
15	テーマ これまでの復習	Java 後半は、オブジェクト指向プログラミングについて学びます。春学期に学んだことを思い出しましょう。
16	クラスとインスタンス	オブジェクト指向プログラミング特有の用語があります。慣れましょう。インスタンスはクラスから精製されます。クラスフィールドとクラスメソッドを学ぶことで、クラスとインスタンスの違いをはっきりさせます。
17	クラスフィールドとクラスメソッド	クラスは“拡張”することができます。拡張されたクラスがサブクラスです。拡張するクラス（サブクラス）では、元のクラス（スーパークラス）のフィールドとメソッドが使えます。継承の方法を学びます。
18	スーパークラスとサブクラス	プログラムが外部と自由度の高い情報のやり取りを行う方法を学びます。また期待したデータと異なる入力に対処する方法（例外処理）を学びます。
19	継承と抽象クラス	例外には様々なものがあります。例外の“階層”を学び、全体像を理解しましょう。
20	入出力と例外処理	インタフェースを実装することで、クラス構造に柔軟性をもたせることができます。インタフェースとは何かを学びます。
21	様々な例外処理	クラスとインタフェースを比較することによって、それぞれをどのような場面で使用することが効率的かを学びます。
22	インタフェース	
23	クラスとインタフェース	

24	スレッド	スレッドとは、プログラムを実行している主体です。スレッドの概念を学びます。
25	スレッドを作る方法 (1)	スレッドを作る方法には 2 通りあります。 Thread クラスを拡張してスレッドを生成してみましょう。
26	スレッドを作る方法 (2)	Runnable インタフェースを実装してスレッドを生成してみましょう。
27	生産者／消費者問題 (1)	これまで学んだことの総仕上げとして複数のスレッドを使用した生産者／消費者問題のシステムを構築します。待ち行列の管理には排他制御が必要です。
28	生産者／消費者問題 (2)	生産者／消費者問題を完成させます。プログラムはオブジェクト指向で設計し実装します。クラス変数を使って複数の生産者と消費者を管理します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習は確実に各自が時間外に行ってください。授業では、毎時間新しいことを学びます。出席は厳格に要求しませんが、休んだ箇所は、各自で独習しておいてください。「授業を休んでわかりません」というのは許されません。独習した上でわからなければ質問してください。

【テキスト（教科書）】

結城浩, **Java 言語プログラミングレッスン第 3 版** 上, 下, ソフトバンククリエイティブ, 2012.

【参考書】

柴田望洋, 明解 **Java** 入門編, ソフトバンククリエイティブ, 2007.

【成績評価の方法と基準】

主として課題提出により評価します。課題はすべて提出してください。すべて提出してはじめて評価されます。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に質問してください。わからないことをわからないままに先に進まないでください。具体的にどこがわからないかを指摘してください。授業を休んだのでわからない場合は、まずは自習してその上でわからないという質問は歓迎します。迷ったら質問してください。

【学生が準備すべき機器他】

PC を用いて実習しつつ講義を行います。

【その他の重要事項】

コンピュータリテラシーを身につけていることが望ましい。無償で入手できる統合開発環境 **Eclipse** を用いて実習するので、自宅学習（予習・復習）可能です。学習内容を復習して、より理解を深めてください。授業中にできなかった課題は、完成しておいてください。

【オフィス・アワー】

・授業後に質問を受け付ける。
・質問がある場合は **E-mail** で受け付ける。
メールアドレスは経営学部掲示板でお知らせします。

【関連科目】

特になし

【Outline and objectives】

This class provides student how to program in Java language. Students are not expected any programming background, even though they are expected the minimum knowledge of computers. In the spring semester, student learn the grammar of Java language as well as the basic structure of computer programs. In the fall semester, students learn how to practice the object-oriented programming, and how to construct concurrent programs. After completion of this class, the students can be members of any kind of large scale software development projects.

PRI100FA-A5209

プログラミング言語Ⅰ（VBA）（2019年度以降入学者）

1～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

PRI100FA-A5210

プログラミング言語Ⅱ（VBA）（2019年度以降入学者）

1～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

PRI100FA-A5222

プログラミング言語Ⅱ（BASIC）（2018年度入学者）

1～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

PRI100FA-A5234

プログラミング言語Ⅱ（2016～2017年度入学者）

1～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

PRI100FA-A5241

プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）

1～4年次／4単位[年間授業/Yearly]

PRI100FA-A5221

プログラミング言語Ⅰ（BASIC）（2018年度入学者）

1～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

PRI100FA-A5233

プログラミング言語Ⅰ（2016～2017年度入学者）

1～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

高田 美樹

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

表計算ソフトウェア Excel のマクロ言語としての Visual Basic Applications（以下、VBA という）を用いて、プログラミングの基礎とデータ処理について学ぶ。Excel の特徴を生かしたプログラミングを行う。

【到達目標】

表計算ソフトウェア Excel について理解し、マクロ言語を使いこなして応用となる処理を記述できることが目標である。問題解決のためにモデル化し、適宜プログラミングできることが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

コンピュータ上で様々な処理を実行することができる表計算ソフトウェア Excel の使い方を解説し、そのマクロ言語としての VBA を解説する。Excel マクロ VBA の文法とアルゴリズムを理解し、プログラミングの基本を実習を通して学ぶ。春学期にはシート上でのプログラムを展開し、秋学期には、ユーザフォームを使ったアプリケーションを記述できるように繰り返し実習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	1年を通した計画を把握し、マクロとは、プログラミングとは、という概念を学ぶ。
第 2 回	コンピュータの仕組み	簡単にコンピュータの仕組みを学ぶ。
第 3 回	自動マクロ記憶とサブルーチン	細かい処理は自動マクロで行い、サブルーチンの呼び出しと実行順序について学ぶ。
第 4 回	値と式、および書式の設定	マクロで値や式、書式を自動的に設定する方法を学ぶ
第 5 回	繰り返し処理（1）	Excel シートの全行に同じ処理を行う構文を学ぶ
第 6 回	分岐（1）	状況に応じて二者から選択する構文を学ぶ
第 7 回	分岐（2）	状況に応じて多肢選択する構文を学ぶ
第 8 回	アルゴリズム（1）	合計と平均を求めるアルゴリズムを学ぶ
第 9 回	変数	値を一時記憶しておく変数の使い方を学ぶ。
第 10 回	アルゴリズム（2）	配列的考え方を学ぶ。
第 11 回	繰り返し構文（2）	回数がわかっているときの繰り返しの構文を学ぶ
第 12 回	アルゴリズム（3）	最大値・最小値を求めるアルゴリズムを学ぶ
第 13 回	アルゴリズム（4）	順位を求めるアルゴリズムを学ぶ
第 14 回	春学期のまとめと総合演習	春学期のまとめと総合演習を行う。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	文字列処理	文字列を対象としたプログラムを実装する。
第 16 回	時刻処理	時刻や日付を対象としたプログラムを実装する

第 17 回	検索処理	指定の値を検索するアルゴリズムを学ぶ
第 18 回	並べ替え処理	データを並べ替えるアルゴリズムを学ぶ
第 19 回	Function の戻り値	サブルーチンから呼び出し側に戻り値を返すプログラムを学ぶ
第 20 回	引数	サブルーチンにパラメータを渡す方法を学ぶ
第 21 回	サブルーチンの組み合わせ	副プログラムを組み合わせたプログラムを学ぶ
第 22 回	配列処理（1）	配列を利用した処理
第 23 回	配列処理（2）	配列を利用した処理
第 24 回	ダイアログの利用	Excel マクロ VBA にあらかじめ用意されているダイアログを利用する
第 25 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームを作成する
第 26 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームを用いた GUI プログラミングを学ぶ
第 27 回	ユーザフォーム（3）	ユーザフォームを用いた GUI プログラミングを学ぶ
第 28 回	1年のまとめと総合演習	1年のまとめと総合演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラミングは積み上げ科目であり、今日わからなければ来週は「ない」。その日に学んだことを復習し、次週までにプログラムを完成させる。

【テキスト（教科書）】

Google Classroom 上に講義資料を提示する

【参考書】

適宜、講義の中で提示する。

【成績評価の方法と基準】

複数回の課題の提出を求める。課題の得点が成績となる。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートからの情報に基づき難易度を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

実習室においてコンピュータを利用して実習を行う

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養う。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline and objectives】

Learn the basic of programming and Data processing with Visual Basic Applications(VBA) for Excel Macro optimizing.

PRI100FA-A5211	プログラミング言語 I (スクリプト言語) (2019 年度以降入学者)	1～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]
PRI100FA-A5212	プログラミング言語 II (スクリプト言語) (2019 年度以降入学者)	1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]
入戸野 健		

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースではスクリプト言語として Python を学習する。プログラミングの初歩から基本文法を学んで行き、授業の後半ではいくつかの応用事例を学習する。

【到達目標】

プログラミングの考え方を身につける。解決したい問題に対して、簡単なプログラムを自分で作成し、直接あるいは間接的に解決に役立てられるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に毎回 PC を使って実習形式で進める。まずテキストの解説などで基本的な考え方や文法を理解した上で、例題の入力と実行確認を行う。さらに関連した練習問題のプログラミングに取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	Python の特徴を概観し、エディタなどのプログラミング環境の準備を行う。
2	簡単な計算	簡単な四則演算の計算を行い、インタープリタの操作に慣れる。
3	数値と変数	整数と実数の計算、変数への代入と計算式について学習する。
4	文字列の操作	文字の結合、文字列からの一部分の取り出しなどを学ぶ。
5	関数を使う	関数の形式、モジュールの読み込み、標準ライブラリについて理解する。
6	条件分岐	if 文による基本的な条件分岐の書き方について学習する。
7	繰り返し	for 文を使って処理を繰り返し実行する方法を学ぶ。
8	例外処理	実行中に発生するエラーをプログラム内で処理する方法について理解する。
9	関数の作成	ユーザー関数の定義の仕方、標準ライブラリの使用法について学ぶ。
10	リストとタプル	複数のデータをまとめて扱うためのリストとタプルについて学習する。
11	セットと辞書	データの集まりを集合や辞書のように扱う方法を学ぶ。
12	イテレータと内包表記	データの集まりから次々に要素を取り出したり、繰り返しデータを作成する方法を学習する。
13	ソート・検索・抽出	データを並べ換えたり、条件を指定して特定のデータを探し出す方法を学ぶ。
14	基礎プログラム作成演習	各自で基礎的なオリジナルプログラムを作成する演習を行う。

II 秋学期

回	テーマ	内容
1	オブジェクトとクラス	オブジェクト指向プログラミングの考え方について理解する。
2	クラスの定義	オブジェクトを定義するクラスの作成方法について学習する。
3	メソッドの作成	オブジェクトを操作するメソッドの書き方について学ぶ。
4	プロパティの利用	オブジェクト内にあるデータの扱いについて理解する。
5	クラスの継承	既存のクラスを基にして新たなクラスを作成する方法を学習する。
6	ファイル処理	ファイルからのデータ読み込みと、処理したデータの書き出し方法を学ぶ。
7	配列の計算	配列 (NumPy) を利用して 2 次元以上の数の並びを計算する方法を学習する。
8	データの可視化	基本的なグラフ作成と各種データをグラフィカルに表現 (可視化) する方法を学ぶ。
9	グラフ編集	様々なグラフの編集方法について学習する。

10	事例 1: Web データ処理	Web サイトからデータを収集 (スクレイピング) して集計処理を実行する。
11	事例 2: データサイエンス入門	Python による基礎的な統計的データ分析を行う。
12	事例 3: 機械学習入門	機械学習によって手書き文字を認識する方法について初歩的な処理を実行する。
13	応用プログラム作成演習	幾つかのテーマの中から各自で問題を選び、プログラムを作成する演習を行う。
14	プログラムの効率について	作成したプログラムの実行速度を計測し、処理の効率について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で授業内の目標まで終わらなかった場合は、次の回までに各自で完了させておくなどの授業外での学習が必要になる場合がある。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示する。

【参考書】

「Python チュートリアル 第 3 版」 Guido van Rossum、2016、オライリージャパン

「Python 言語によるプログラミング イントロダクション 第 2 版」 John V. Guttag、2017、近代科学社

【成績評価の方法と基準】

平常点 (25%) : 実習が中心のため、毎回授業に参加してスキルをきちんと蓄積して行くことが重要になる。
課題レポート (15%) : 授業内容に沿った課題を 2 回程度出題する。
課題演習 (60%) : 終盤に授業内で行う課題演習で作成した成果物を提出してもらう。

【学生の意見等からの気づき】

授業内での実習の時間を十分確保できるよう留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

実習は情報実習室の PC で行う。
作成したプログラムやデータを保存するための USB メモリーを必要に応じて各自持参する (詳細は授業内で説明する)。

【関連科目】

ネットワーク論 (通信ネットワーク) I / II
情報学発展 (通信ネットワーク) I / II

【Outline and objectives】

This course focuses on Python as a scripting language. The course aims to provide understanding of elementary programming techniques. In the latter part of the course, it also focuses on some application cases.

COT300FA-A5246

応用プログラミング I（2016～2017 年度入学者）

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT300FA-A5250

応用プログラミング I・II（2015 年度以前入学者）

3～4 年次／4 単位[年間授業/Yearly]

COT300FA-A5247

応用プログラミング II（2016～2017 年度入学者）

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT300FA-A5243

応用プログラミング II（計量分析）

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT300FA-A5242

応用プログラミング I（計量分析）

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

長原 徹

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の日々の生活は数字に囲まれている。例えば、アルバイトで得られた給料を何にいくらつかうかなど、われわれは生活の必要性に迫られて数字（データ）の把握と分析を無意識に行っているのである。この授業は、受講生がこの定量的分析手法すなわち、統計的手法ないし計量経済学的手法を習得し、それを活用して現実経済を分析する能力を身につけることを目標とする。

【到達目標】

第一の到達目標は、統計学や計量経済学の基本概念と分析手法を習得し、それらを現実の経済分析に応用できるようになることである。第二の到達目標は、R による基本的なプログラミングを習得しデータ分析ができるようになることである。第三の到達目標は、仮説を設定しそれを定量的に検証するという分析手法を、主体的に用いられるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

受講生は統計学や計量経済学に関する理論を講義形式で学んだ後、統計分析用フリーソフトの R をつかった演習に取り組む。最終的には、受講生自身でテーマを決め、実証分析を駆使したレポートを書いてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の目的／経済学の分析方法と限界について	経済学における分析の方法やその限界を、具体例を交えながら紹介
第 2 回	R の基礎 (1)	算術演算の仕方等を実践
第 3 回	R の基礎 (2)	関数の使用、データファイルの使用
第 4 回	R の基礎 (3)	課題への取り組み
第 5 回	仮説検定 (1)	仮説検定の考え方を紹介、仮説の設定とその検定
第 6 回	仮説検定 (2)	母平均の検定、母比率の検定
第 7 回	計量経済学の基礎 (1)	相関と因果、統計学の復習
第 8 回	計量経済学の基礎 (2)	相関分析と回帰分析
第 9 回	計量経済学の基礎 (3)	最小二乗法の考え方
第 10 回	計量経済学の基礎 (4)	回帰分析によるさまざまな分析例の紹介
第 11 回	R による単回帰分析 (1)	R を用いて散布図を導出、誤差の性質について検討
第 12 回	R による単回帰分析 (2)	回帰係数の仮説検定
第 13 回	R による単回帰分析 (3)	決定係数の導出とその検討
第 14 回	R の実践	データを提供し、受講生各自に R を用いた単回帰分析に取り組んでもらう

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	R による重回帰分析 (1)	重回帰分析の考え方
第 16 回	R による重回帰分析 (2)	回帰係数の仮説検定と決定係数の導出
第 17 回	R による重回帰分析 (3)	F 検定、多重共線性の検討
第 18 回	R による重回帰分析 (4)	ダミー変数法、構造変化の検定
第 19 回	R の実践	データを提供し、受講生各自に R を用いた重回帰分析に取り組んでもらう
第 20 回	最終レポートについて (1)	最終レポートの到達目標を説明
第 21 回	最終レポートについて (2)	レポートの書き方、先行研究の調べ方について解説
第 22 回	R を用いた応用分析 (1)	R によるヒストグラムの描写
第 23 回	R を用いた応用分析 (2)	政治的分極化の測定
第 24 回	R を用いた応用分析 (3)	クラスター化
第 25 回	R を用いた応用分析 (4)	同時方程式モデルとは、識別問題
第 26 回	R を用いた応用分析 (5)	2 段階最小二乗法の紹介

第 27 回 R の実践

データを提供し、受講生各自に R を用いた応用分析に取り組んでもらう
各自が研究テーマを自由に選び、データ収集、プログラムの作成と実行を行う。その結果をレポートとして提出する

第 28 回 最終レポートの提出**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

配布した資料をもとに授業が終わってから復習を行う。また、授業内で出した応用問題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布するため、特定の教科書の指定はなし。

【参考書】

地道正行『R による統計学独習』裳華房、2018 年
秋山裕『R による計量経済学 (第 2 版)』オーム社、2018 年
今井耕介『社会科学のためのデータ分析入門 (上、下)』岩波書店、2018 年（柏谷祐子・原田勝孝・久保浩樹訳）

【成績評価の方法と基準】

問題演習 4 回実施 (40 %)、最終レポート (60 %)

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートは未実施

【その他の重要事項】

応用プログラミング I、II（統計コース）を並行して履修していくと、より理解が深まることが期待される。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students master a quantitative analytical method and analyze the economic phenomenon that students feel involved in. Students are expected to acquire statistical and econometric methods, and analyze various kinds of economic phenomena.

COT300FA-A5248

応用プログラミングⅠ（2016～2017 年度入学者）

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT300FA-A5245

応用プログラミングⅡ（統計）

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT300FA-A5249

応用プログラミングⅡ（2016～2017 年度入学者）

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT300FA-A5251

応用プログラミングⅠ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）

3～4 年次／4 単位[年間授業/Yearly]

COT300FA-A5244

応用プログラミングⅠ（統計）

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

中平 千彦

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、経営学部、文学部、法学部の学生を対象としています。講義内容と進行については、受講生と相談の上、柔軟に調整することもあります。要望がある場合は、申し出てください。

昨年度より講義内容が大きく変わり、1・2 年次に統計学の基礎を必ずしも習得していない受講生にも配慮した講義運営を行うことになりました。

受講生のみなさんは、統計学やデータ分析について、どのような印象を持っているでしょうか？ 統計学は人文科学、社会科学、自然科学の幅広い分野に応用されている、データ分析の科学です。この講義を履修して、統計学とデータ分析の基礎を学び、また、R によるデータ分析とプログラミングの基礎を習得し、自ら統計解析を行うことができるようになります。

【到達目標】

- ・統計学の基礎理論を理解し、それをデータ分析に応用できるようになる。
- ・社会科学における各種のデータを用い、自らデータ分析ができるようになる。
- ・R による基本的なプログラミングを習得し、データ分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この講義を受講し、データ分析や統計解析にアプローチするきっかけをつかみましょう。

本講義では、データ分析の基礎を、テキストの学習と R を用いた演習によって習得します。まずは統計学の基礎的手法を学び、次に、R の基本的なコマンドとプログラムを理解しながらデータ分析を行います。適宜、Excel も併用しますが、Excel については、単にそれを表計算ソフトとして利用するに留まらず、統計解析のツールとして利用するための手法を学びます。

オープンソースの統計解析システム・環境「R」の機能は国際的に評価されており、また、フリーソフトであるため、自由にダウンロードして利用することができます。従って、本講義で R の基本的なプログラミングを習得すれば、自宅のコンピューターでも、高度なデータ分析を行うことが可能になります。

以上のように、まずは統計学の基礎を学び、次に、R の基本的なプログラミングを理解しながらデータ分析の基本的手法を習得すれば、自ら統計的な実証分析を行うことができるようになります。

テキストは、データの特性、確率分布、推定と検定、相関と回帰など、データ分析の基本と、R の基本的コマンドおよびプログラムを丁寧に解説したものをを用います。

ぜひ、この機会に統計学の基礎、そして R によるデータ分析とプログラミングの基礎を学び、それらを将来の発展的な学習や研究へと繋げてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 01 回	R の導入と基本操作 (1)	R の導入・起動・終了、データと変数、データとプログラムの入力と編集
第 02 回	R の導入と基本操作 (2)	データ編集、行列における演算と関数、プログラミング
第 03 回	データ整理 (1)	統計学と情報、データ整理
第 04 回	データ整理 (2)	データの性質を探る
第 05 回	データ整理 (3)	データ処理のプロセス
第 06 回	確率と確率分布 (1)	事象と確率
第 07 回	確率と確率分布 (2)	確率変数、確率分布と期待値
第 08 回	確率と確率分布 (3)	連続型分布、離散型分布
第 09 回	確率と確率分布 (4)	統計量の分布、分布間の関係 (1)
第 10 回	確率と確率分布 (5)	統計量の分布、分布間の関係 (2)
第 11 回	推定と検定 (1)	点推定と区間推定 (1)
第 12 回	推定と検定 (2)	点推定と区間推定 (2)
第 13 回	推定と検定 (3)	検定における仮説と有意水準 (1)
第 14 回	推定と検定 (4)	検定における仮説と有意水準 (2)

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	統計的仮説検定	検定における仮説と有意水準
第 16 回	1 標本の場合における推定と検定 (1)	連続型・離散型分布に関する 1 標本の場合における推定と検定 (1)
第 17 回	1 標本の場合における推定と検定 (2)	連続型・離散型分布に関する 1 標本の場合における推定と検定 (2)
第 18 回	2 標本の場合における推定と検定 (1)	連続型・離散型分布に関する 2 標本の場合における推定と検定 (1)
第 19 回	2 標本の場合における推定と検定 (2)	連続型・離散型分布に関する 2 標本の場合における推定と検定 (2)
第 20 回	多標本の場合における推定と検定 (1)	連続型・離散型分布に関する多標本の場合における推定と検定 (1)
第 21 回	多標本の場合における推定と検定 (2)	連続型・離散型分布に関する多標本の場合における推定と検定 (2)
第 22 回	多標本の場合における推定と検定 (3)	連続型・離散型分布に関する多標本の場合における推定と検定 (3)
第 23 回	プログラミング演習	プログラミング演習
第 24 回	相関分析	2 次元正規分布における相関
第 25 回	回帰分析 (1)	単回帰分析の理論
第 26 回	回帰分析 (2)	単回帰分析の応用
第 27 回	回帰分析 (3)	重回帰分析の理論
第 28 回	回帰分析 (4)	重回帰分析の応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・受講後に、テキストやノートによって講義内容を復習してください。また、余裕があれば予習を行ってください。

【テキスト（教科書）】

(テキスト)

・長畑秀和 (著)『R で学ぶ統計学』共立出版、2009 年。

【参考書】

- ・青木繁伸 (著)『R による統計解析』オーム社、2009 年。
- ・秋山裕 (著)『統計学基礎講義』慶應義塾大学出版会、2009 年。
- ・ウィックハム、H.(著)、石田基広 / 市川太祐 / 高柳慎一 / 福島真太郎 (訳)『R 言語徹底解説』共立出版、2016 年。
- ・大森崇 / 飯田真己子 / 宿久洋 (著)『R Commander によるデータ解析 (第 2 版)』共立出版、2014 年。
- ・白石修二 (著)『例題で学ぶ Excel 統計入門 (第 2 版)』森北出版、2012 年。
- ・ジュール、A. / イエノウ、E. / ミースター、E.(著)、石田基広 / 石田和枝 (訳)『R 初心者のための ABC』丸善出版、2012 年。
- ・竹内淳 (著)『高校数学でわかる統計学』講談社、2012 年。
- ・辻谷将明 / 和田武夫 (著)『R で学ぶ確率・統計』共立出版、2012 年。
- ・長畑秀和 / 中川豊隆 / 國米充之 (著)『R コマンダーで学ぶ統計学』共立出版、2013 年。
- ・野間口謙太郎 / 菊池泰樹 (著)『統計学: R を用いた入門書 (改定第 2 版)』共立出版、2016 年。
- ・福地純一郎 / 伊藤有希 (著)『R による計量経済分析』朝倉書店、2011 年。
- ・蓑谷千風彦 (著)『これからはじめる統計学』東京図書、2009 年。
- ・宮川公男 (著)『基本統計学 (第 4 版)』有斐閣、2015 年。
- ・村井潤一郎 (著)『はじめての R:ごく初歩の操作から統計解析の導入まで』北大路書房、2013 年。
- ・山田剛史 / 杉澤武俊 / 村井潤一郎 (著)『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年。
- ・ランダー、J. P.(著)、高柳慎一 / 津田真樹 / 牧山幸史 / 松村杏子 / 蓑田高志 (訳)『みんなの R(第 2 版)』マイナビ出版、2018 年。
- ・リグズ、U.(著)、石田基広 (訳)『R の基礎とプログラミング技法』丸善出版、2012 年。
- ・Alvaro, Felix, R: *Easy R Programming for Beginners, Your Step-by-step Guide to Learning R Programming*(pap), CreateSpace Independent Publishing, 2016.
- ・Bolar, Kartikeya, *Rapid Statistics using R*(pap), Independently Published, 2017.
- ・Crawley, Michael J., *Statistics: An Introduction Using R*(2nd ed.)(pap), Wiley, 2014.
- ・Dalggaard, Peter, *Introductory Statistics with R (Statistics and Computing)*(2nd ed.)(pap), Springer, 2008.

- ・Field, Andy, Miles, Jeremy, and Zoe Field, *Discovering Statistics Using R*, SAGE Publications, 2012.
- ・Prashant, Joshi, *Introduction to Statistics Using R*(pap.), LAP Lambert Academic Publishing, 2014.
- ・Schumacker, Randall E., *Learning Statistics Using R*(pap), SAGE Publications Inc., 2014.
- ・Schumacker, Randall E., and Sara Tomek, *Understanding Statistics Using R*, Springer, 2015.
- ・Verzani, John, *Using R for Introductory Statistics*(2nd ed.), Chapman & Hall / CRC, 2014.
- ・Zeitlin, Wendy. and Charles Auerbach, *Basic Statistics for the Behavioral and Social Sciences Using R*(pap), Oxford Univ Press, 2019.

【成績評価の方法と基準】

・[課題点 (90 %) + 平常点 (10 %) = 総合点 (100 %)] の評点配分で成績が決定されます。

・単位認定には規定数以上の出席が必要ですが、各種行事の出席や疾病などによる止むを得ない欠席は、出席扱いとすることがあります。

【学生の意見等からの気づき】

・講義アンケートの結果は、講義内容を改善するための参考資料とします。

【その他の重要事項】

テキストは必ず購入し、参考文献の購入は、各自の必要性に応じて判断してください。

【オフィス・アワー】

講義日の 12:30～12:45:講義教室、または個別に時間を相談して対応

【関連科目】

経営学部、文学部、法学部、あるいはその他の学部で開講された、統計学やデータ分析を用いる科目とします。

【Outline and objectives】

The aim of the course is to provide students with an opportunity to gain and enhance the knowledge of statistics and data analysis for humanities, social sciences, and natural sciences. In addition, we learn how to program in R and how to use R for data analysis. R is a free software environment for statistical analysis. This course is a comprehensive guide on how to get started with R programming and how you can learn it.

COT200FA-A5252	データ処理論Ⅰ（データベース）（2018 年度入学者）	2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]
COT200FA-A5285	データ処理論Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）	2～4 年次／4 単位[年間授業/Yearly]
COT200FA-A5284	データ処理論Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）	2～4 年次／4 単位[年間授業/Yearly]
COT200FA-A5270	データ処理論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）	2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]
COT200FA-A5269	データ処理論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）	2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]
COT200FA-A5268	データ処理論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）	2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]
COT200FA-A5254	データ処理論Ⅰ（データベース）（2018 年度入学者）	2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]
COT200FA-A5255	データ処理論Ⅱ（データベース）（2018 年度入学者）	2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]
COT200FA-A5253	データ処理論Ⅱ（データベース）（2018 年度入学者）	2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]
COT200FA-A5271	データ処理論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）	2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]
木村 昌史		

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究活動、社会で必要となる様々な情報やデータを処理・分析するためのデータベース技術の修得

【到達目標】
データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
PC、ネットワーク、Excel、Access、MySQL の活用法を学びながら、次の4つの技術を実習を通じて修得する。
1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法
授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。
課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
Ⅰ 春学期		
回	テーマ	内容
1	序論と情報通信技術 本授業の目標の理解	ネットワーク社会における情報通信技術およびデータベースの重要性について
2	ネットワークの仕組み 各種 Web サービスの理解	ネットワークの仕組み、Web サービスの活用について
3	情報の検索・収集方法 Web による情報収集	情報検索の方法と情報検索サービスの例について
4	情報の蓄積と管理 ファイルやフォルダ、ストレージ	ファイルとフォルダ、Google サービスの利用について
5	表計算ソフトとは Excel の基本操作	ワークシートの編集・加工について
6	表計算ソフトの活用 Excel の関数	Excel の基本関数やグラフの活用などについて
7	データベースの基本概念 データベースの考え方と位置づけ	データベースの基本的な仕組みと Excel との関係について
8	Excel によるデータベース的処理 (1) 検索やフィルタ	検索や並べ替え、フィルタによるデータの抽出について

9	Excel によるデータベース的処理 (2) データベース関数	データベース関数の活用と条件設定について
10	Excel によるデータベース的処理 (3) ピボットテーブル	クロス集計とピボットテーブルの活用について
11	Excel によるデータ分析 分析ツール R との連携	Excel の分析ツールの活用と R との連携によるデータ分析への応用
12	データベースソフトとは Access の位置づけ Excel との関係	Access の起動・データ読み込みとテーブルの作成 Excel ファイルのエクスポート
13	Access の基本操作 (1) データの検索方法 クエリの作成	データの検索方法と検索条件の指定について クエリとは何か
14	Access の基本操作 (2) フォームの作成 春学期のまとめ	入力フォームと出力フォームについて レポートとは
Ⅱ 秋学期		
回	テーマ	内容
15	リレーショナルデータベースとは データベースソフト データベースの操作言語とは	データベースのしくみ データベース管理システムについて データベースの基本操作の射影、選択、結合について
16	SQL の基本 データベースのスキーマとは テーブルの作成	SQL による操作 データベースの基本設計について Access のテーブルの作成と編集
17	Access のデータ編集 (1) レコードとフィールドの編集	レコードとフィールドの追加、型の変更について
18	Access のデータ編集 (2) 画像データの扱い	画像データの扱いとフォームの作成について
19	テーブルの操作 (1) 各種クエリの理解	選択クエリ、クエリ、アクションクエリの作成について
20	テーブルの操作 (2) 各種クエリの作成と実行	テーブル作成クエリの利用と SQL による操作について
21	データベースの設計 (1) データベースの設計の考え方	データベースの設計とデータの正規化について
22	データベースの設計 (2) リレーションシップと高度なクエリの活用について	リレーションシップと高度なクエリの活用について
23	外部データベースへの接続 Web 上のデータベース	Web 上のデータベースと Access の関係および MySQL の理解
24	外部データベースの操作 インポートとエクスポート	MySQL との間のテーブルのインポートとエクスポートの実行
25		

発行日：2019/5/1

26	Access のマクロとは マクロの活用	Access VBA とデータベース操作の自 動化について
27	総合演習 (1) Web フォームの設計	フォームの設計とデータ検索処理の対 応について
28	総合演習 (2) フォームとレポートのデ ザイン・総まとめ	フォームとレポートのデザインについ て

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 学内 PC 環境、自宅のネットワーク環境、の確認
2. ネットワークの仕組みについて調べる
3. 検索エンジン、Web サービス活用の練習
- 4.～14. 教科書各章の予習・復習、配布資料の復習
- 15.～28. 配布資料の予習・復習

【テキスト（教科書）】

タイトル：実習データベース ～Excel と Access で学ぶ基本と活用～

著者：内田治 編著 藤原文史・吉澤康介・三宅修平 著

発行：サイエンス社

発行日：2016 年 1 月 10 日

【参考書】

タイトル：30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2016

タイトル：30 時間でマスター パーフェクト演習 Excel2016

タイトル：30 時間でマスター Access 2016

著者：実教出版編集部

発行：実教出版株式会社

毎回 Web の資料を提示する。他の参考書については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 60 %、演習課題 40 %とする。

期末レポートはこの授業を通じて得られたデータ処理技術およびデータベース技術を利用して、自らテーマを設定し関係するデータを収集、加工、分析、データベース化、検索を行い、考察を加えた上でレポートをまとめるものとする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回 PC を利用する。学内 PC での自習とできれば自宅での PC と Office の利用にも期待する。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

【関連科目】

情報関係科目全般に関連する。

【Outline and objectives】

Mastering of database technology including data processing and data analysis required for researches in university and for business in society

COT200FA-A5256	データ処理論Ⅰ（データベース）（2018 年度入学者）	2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]
COT200FA-A5286	データ処理論Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）	2～4 年次／4 単位[年間授業/Yearly]
COT200FA-A5275	データ処理論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）	2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]
COT200FA-A5273	データ処理論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）	2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]
COT200FA-A5272	データ処理論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）	2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]
COT200FA-A5259	データ処理論Ⅱ（データベース）（2018 年度入学者）	2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]
COT200FA-A5258	データ処理論Ⅰ（データベース）（2018 年度入学者）	2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]
COT200FA-A5257	データ処理論Ⅱ（データベース）（2018 年度入学者）	2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]
COT200FA-A5287	データ処理論Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）	2～4 年次／4 単位[年間授業/Yearly]
COT200FA-A5274	データ処理論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）	2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]
三宅 修平		

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究活動、社会で必要となる様々な情報やデータを処理・分析するためのデータベース技術の修得

【到達目標】

データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

PC、ネットワーク、Excel、Access、MySQL の活用法を学びながら、次の4つの技術を実習を通じて修得する。

1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法

授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。

課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	序論と情報通信技術 本授業の目標の理解	ネットワーク社会における情報通信技術およびデータベースの重要性について
2	ネットワークの仕組み 各種 Web サービスの理解	ネットワークの仕組み、Web サービスの活用について
3	情報の検索・収集方法 Web による情報収集	情報検索の方法と情報検索サービスの例について
4	情報の蓄積と管理 ファイルやフォルダ、ストレージ	ファイルとフォルダ、Google サービスの利用について
5	表計算ソフトとは Excel の基本操作	ワークシートの編集・加工について
6	表計算ソフトの活用 Excel の関数	Excel の基本関数やグラフの活用などについて
7	データベースの基本概念 データベースの考え方と位置づけ	データベースの基本的な仕組みと Excel との関係について
8	Excel によるデータベース的処理 (1) 検索やフィルタ	検索や並べ替え、フィルタによるデータの抽出について

9	Excel によるデータベース的処理 (2) データベース関数	データベース関数の活用と条件設定について
10	Excel によるデータベース的処理 (3) ピボットテーブル	クロス集計とピボットテーブルの活用について
11	Excel によるデータ分析 統計ソフト R との連携	Excel の分析ツールの活用と統計ソフト R との連携によるデータ分析について
12	統計ソフト R の応用 (1) 判別分析	統計ソフト R による判別分析とその例題について
13	統計ソフト R の応用 (2) 各種の分析	統計ソフト R によるクラスター分析、主成分分析の例題について
14	総合演習 春学期のまとめ	春学期中の講義・実習内容について
II 秋学期		
15	テーマ リレーショナルデータベースとは データベースソフト	内容 データベースのしくみ データベース管理システムについて
16	データベースソフトとは Access の位置づけ Excel との関係	Access の起動・データ読み込みとテーブルの作成 Excel ファイルのエクスポートについて
17	Access の基本操作 データの検索方法 クエリの作成	データの検索方法と検索、条件の指定、クエリ、入力フォームと出力フォームについて
18	データベースの操作言語とは SQL の基本	データベースの基本操作の射影、選択、結合について SQL による操作
19	データベースのスキーマとは テーブルの作成	データベースの基本設計について Access のテーブルの作成と編集
20	Access のデータ編集 (1) レコードとフィールドの編集	レコードとフィールドの追加、型の変更について
21	Access のデータ編集 (2) 画像データの扱い	画像データの扱いとフォームの作成について
22	テーブルの操作 (1) 各種クエリの理解	選択クエリ、クエリ、アクションクエリの作成について
23	テーブルの操作 (2) 各種クエリの作成と実行	テーブル作成クエリの利用と SQL による操作について
24	データベースの設計 (1) データベースの設計の考え方	データベースの設計とデータの正規化について
25	データベースの設計 (2) リレーションシップの考え方	リレーションシップと高度なクエリの活用について
26	Access のマクロとは マクロの活用	Access VBA とデータベース操作の自動化について

発行日：2019/5/1

- | | | |
|----|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 27 | 総合演習 (1)
基本テーブルの作成と
フォームの設計 | 基本テーブルとフォームの設計、
フォーム上での計算式について |
| 28 | 総合演習 (2)
フォームとレポートのデ
ザイン・総まとめ | フォームとレポートのデザインについ
て |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 学内 PC 環境、自宅のネットワーク環境、の確認
2. ネットワークの仕組みについて調べる
3. 検索エンジン、Web サービス活用の練習
4. ～14. 教科書各章の予習・復習、配布資料の復習
15. ～28. 配布資料の予習・復習

【テキスト（教科書）】

タイトル：実習データベース ～Excel と Access で学ぶ基本と活用～

著者：内田治 編著 藤原丈史・吉澤康介・三宅修平 著

発行：サイエンス社

発行日：2016 年 1 月 10 日

タイトル：30 時間でマスター Access2013

著者：実教出版編集部

発行：実教出版株式会社

発行日：2014 年 09 月 20 日

【参考書】

タイトル：30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2016

タイトル：30 時間でマスター パーフェクト演習 Excel2016

著者：実教出版編集部

発行：実教出版株式会社

他の参考書については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 60 %、演習課題 40 %とする。

期末レポートはこの授業を通じて得られたデータ処理技術およびデータベース技術を利用して、自らテーマを設定し関係するデータを収集、加工、分析、データベース化、検索を行い、考察を加えた上でレポートをまとめるものとする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回 PC を利用する。学内 PC での自習とできれば自宅での PC と Office の利用にも期待する。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

【関連科目】

情報関係科目全般に関連する。

【Outline and objectives】

Mastering of database technology including data processing and data analysis required for researches in university and for business in society

COT200FA-A5260	データ処理論Ⅰ（CG）（2018 年度入学者）	2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]
COT200FA-A5277	データ処理論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）	2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]
COT200FA-A5276	データ処理論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）	2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]
COT200FA-A5288	データ処理論Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）	2～4 年次／4 単位[年間授業/Yearly]
COT200FA-A5261	データ処理論Ⅱ（CG）（2018 年度入学者）	2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]
飯塚 康至		

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広く普及している **Java** 言語を利用してコンピューターグラフィックスの基礎を身につけます。グラフィックの描画からアニメーション作成などを行います。後半 **Java** 言語を利用したスマートフォン向けのグラフィック描画に挑戦します。

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. **Java** を利用しグラフィックを描画する方法を身につける
2. **Java** のオブジェクト指向を理解し現在のプログラミング手法を身につける
3. スマートフォン向けのグラフィック描画方法を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

Java 言語は広く社会で使われており、**IT** やシステム系の企業に就職する場合、必須の基本スキルとなっています。最近ではスマートフォンのアプリケーション開発でも **Java** 言語が利用されています。

そのため本授業では **Java** 言語を利用し、コンピューター・グラフィックを表現するスキルを身につけていきます。その過程でオブジェクト指向プログラミング手法を身につけ、**Java** 言語以外の言語にも対応できるようなスキルを身につけていきます。

【授業の方法】

演習形式で授業を行なっていきます。説明から演習の繰り返しで授業を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
(1)	Java の基礎知識	基本的なプログラムの記述方法や変数の利用について学びます。
(2)	図形の描画	図形を描画する方法について学びます。
(3)	繰り返しと条件判断	処理の繰り返しと条件を判断し処理を分岐する方法について学びます。
(4)	アニメーション	繰り返し処理を利用してアニメーションを作成する方法について学びます。
(5)	クラス・オブジェクト	効率良くアニメーションを作成する方法について学びます。
(6)	配列・Vector	効率良くたくさんの図形をアニメーションする方法について学びます。
(7)	継承	似たような図形を効率良く描画する方法について学びます。
(8)	イベント	キーボードからのイベント処理について学びます。
(9)	ゲームを作ろう（プレイヤーの作成 1）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。ここでは自機であるプレイヤーを作成していきます。
(10)	ゲームを作ろう（プレイヤーの作成 2）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。ここでは自機であるプレイヤーを作成していきます。
(11)	ゲームを作ろう（敵の作成 1）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。ここでは敵を作成していきます。
(12)	ゲームを作ろう（敵の作成 2）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。ここでは敵を作成していきます。
(13)	ゲームを作ろう（衝突判定）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。ここでは弾丸や自機と敵の衝突判定を行います。

(14)	春学期復習	春学期の復習を行います。
Ⅱ 秋学期		
回	テーマ	内容
(1)	ゲームを作ろう（進行管理）	ゲームのクリアやゲームオーバーの表示などゲームの進行を管理できるようにします。
(2)	スマートフォンアプリの構造	ひな形のアプリケーションを元にスマートフォンアプリの構造について学びます。
(3)	記述の方法	スマートフォンのアプリケーションを作成するときの 2 つの記述の方法について学びます。
(4)	イベントの利用	ユーザーの操作に応じてプログラムを駆動する方法について学びます。
(5)	音楽プレイヤーの作成	Android で音楽プレイヤーを作成する方法について学びます。
(6)	Intent の利用	アプリケーション間連携を行う方法について学びます。
(7)	Log の確認	Log を利用してプログラムの状態を確認する方法について学びます。
(8)	独自の View の作成 1	グラフィックを描画する手法について学びます。
(9)	独自の View の作成 2	グラフィックを描画する手法について学びます。
(10)	SurfaceView の利用 1	SurfaceView を利用してアニメーションを行う方法について学びます。
(11)	SurfaceView の利用 2	SurfaceView を利用してアニメーションを行う方法について学びます。
(12)	ライブ壁紙の作成 1	SurfaceView を利用しライブ壁紙を作成します。
(13)	ライブ壁紙の作成 2	SurfaceView を利用しライブ壁紙を作成します。
(14)	秋学期復習	秋学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スマートフォンを利用するだけでなく、自分だったらどのようなアプリケーションやサービスを作成するのか、考えながら授業に望んでください。

【テキスト（教科書）】

初級 **Java**: やさしい **Java** 寛 捷彦 (監修) 実教出版 ISBN-10: 4407325860
※授業時に話しながら **PowerPoint** ファイルを作成していきます。希望者には授業終了後ファイルを配布します。

【参考書】

挫折しないための **Android** プログラミング 128 のキホン 飯塚 康至 秀和システム ISBN-10: 4798032921
Android アプリ開発実践ノウハウ 128 飯塚 康至 秀和システム ISBN-10: 4798035807

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 点満点とし、授業内課題 50 点、期末課題 50 点の課題での評価に平常点を加味し決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

受講される皆さんがスマートフォンを持っている場合、作成したアプリケーションはそのスマートフォンで動きます。作って楽しい、動いて楽しい授業を行いたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等は **Google** クラウドスルームを利用します。

【その他の重要事項】

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。
授業終了前にミニッツペーパー（振り返りシート）を作成します。

【関連科目】

プログラミング言語Ⅰ／Ⅱ [**Java** コース]

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

発行日：2019/5/1

【Outline and objectives】

Learn the computer graphics using Java language. You can to able to draw animation. The goal is to challenge graphic drawing for smartphones.

COT200FA-A5262

データ処理論Ⅰ（プレゼンテーション）（2018年度入学者）

2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA-A5279

データ処理論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）

2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA-A5278

データ処理論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）

2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA-A5289

データ処理論Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）

2～4 年次／4 単位[年間授業/Yearly]

COT200FA-A5263

データ処理論Ⅱ（プレゼンテーション）（2018 年度入学者）

2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

江島 夏実

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

PC 等を活用したプレゼンテーション能力（表現能力）を高めるための科目である。本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
・実践的なプレゼンテーションを行える
ことをより具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】**■春学期**

- (1) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PC を利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。
- (2) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。

■秋学期

- (3) ストーリーの組み立てが必要な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションの設計の重要性を認識し、論理的なプレゼンテーションを行えるようにする。
- (4) 実際にありそうな状況・テーマを設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、実践的で自然な印象を与えるプレゼンテーションを行えるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	プレゼンテーションの要素	文字、写真、チャート、映像等の取扱い方法
第 2 回	プレゼンテーションの要素	文字、写真、チャート、映像等の取扱い方法
第 3 回	プレゼンテーションソフトの機能	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作、応用操作（テンプレート、画面切り替え効果、アニメーション効果など）
第 4 回	プレゼンテーションソフトの機能	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作、応用操作（テンプレート、画面切り替え効果、アニメーション効果など）
第 5 回	プレゼンテーションソフトの機能	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作、応用操作（テンプレート、画面切り替え効果、アニメーション効果など）
第 6 回	プレゼンテーションの技術	手順・流れ、時間、色使い、レイアウト
第 7 回	プレゼンテーションの技術	手順・流れ、時間、色使い、レイアウト
第 8 回	比較的簡単なプレゼンテーション演習 1	①プレゼンの計画
第 9 回	比較的簡単なプレゼンテーション演習 1	②プレゼンの要素作成
第 10 回	比較的簡単なプレゼンテーション演習 1	③プレゼンの実施
第 11 回	比較的簡単なプレゼンテーション演習 2	①プレゼンの計画

第 12 回	比較的簡単なプレゼンテーション演習 2	②プレゼンの要素作成
第 13 回	比較的簡単なプレゼンテーション演習 2	③プレゼンの実施
第 14 回	比較的簡単なプレゼンテーション演習 2	総括

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	まとめ	春学期に学習したことの総復習
第 16 回	論理的なプレゼンテーション演習 1	①プレゼンの計画
第 17 回	論理的なプレゼンテーション演習 1	②プレゼンの要素作成
第 18 回	論理的なプレゼンテーション演習 1	③プレゼンの実施
第 19 回	論理的なプレゼンテーション演習 2	①プレゼンの計画
第 20 回	論理的なプレゼンテーション演習 2	②プレゼンの要素作成
第 21 回	論理的なプレゼンテーション演習 2	③プレゼンの実施
第 22 回	実践的なプレゼンテーション演習 1	①プレゼンの計画
第 23 回	実践的なプレゼンテーション演習 1	②プレゼンの要素作成
第 24 回	実践的なプレゼンテーション演習 1	③プレゼンの要素作成
第 25 回	実践的なプレゼンテーション演習 1	④プレゼンの実施
第 26 回	実践的なプレゼンテーション演習 2	①プレゼンの計画
第 27 回	実践的なプレゼンテーション演習 2	②プレゼンの要素作成
第 28 回	実践的なプレゼンテーション演習 2	③プレゼンの要素作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

PowerPoint を使ったことがあるという程度を前提に授業をスタートするので、そのレベルまで至っていない場合は、あらかじめ参考書等を利用して、また、学校の PC 等を活用して予習をしたり、授業についていけるように課外学習などを心掛けてほしい。

【テキスト（教科書）】

オリジナル資料を Google Classroom で提供。
Google Classroom の使い方は授業の中で指導。

【参考書】

「マッキンゼー流 プレゼンテーションの技術」東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、授業中での演習 50%を基本とする。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

PC を使用した実習形式の授業を行う。
一部、スマートフォンの活用も行う。

【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用することも検討する。

【関連科目】

情報科学実習各科目

【オフィス・アワー】

- (1) 授業後に質問を受け付ける。
- (2) 質問がある場合は E-mail で受け付ける。

発行日：2019/5/1

【Outline and objectives】

It is a subject to raise the presentation skill (expression ability) utilizing PC etc. In this subject, in particular, we will cover the expressive ability in on-screen presentation using presentation software.

COT200FA-A5264	データ処理論Ⅰ（プレゼンテーション）（2018年度入学者）	2～4年次／2単位[春学期授業/Spring]
COT200FA-A5308	ネットワーク論Ⅰ（2016～2017年度入学者）	2～4年次／2単位[春学期授業/Spring]
COT200FA-A5265	データ処理論Ⅱ（プレゼンテーション）（2018年度入学者）	2～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]
COT200FA-A5281	データ処理論Ⅱ（2016～2017年度入学者）	2～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]
COT200FA-A5290	データ処理論Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）	2～4年次／4単位[年間授業/Yearly]
COT200FA-A5280	データ処理論Ⅰ（2016～2017年度入学者）	2～4年次／2単位[春学期授業/Spring]
上野 京子		

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

PC等を活用したプレゼンテーション能力（表現能力）を高めるための科目である。
本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】

聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
・実践的なプレゼンテーションを行える
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

■春学期

- (1) 静止画から動画を作成、音声や楽曲などを加え、発表形式ではないプレゼンテーションを作成する
 - (2) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する
 - (3) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得する
 - (3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PCを利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。
- 秋学期
- (1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
 - (2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
 - (3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
 - (4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
 - (5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第1回	動画のプレゼンテーション	動画編集ソフトを使用したプレゼンテーションの紹介
第2回	動画編集ソフトの機能	動画編集ソフトの概要、基本操作、応用操作（ビデオおよび写真の追加、音楽の追加、オートムービーの設定、タイトル、キャプション、クレジットなど）
第3回	動画作成演習1	計画・要素作成
第4回	動画作成演習2	動画作成（ビデオおよび写真の追加、音楽の追加、オートムービーの設定、タイトル、キャプション、クレジット追加）
第5回	動画鑑賞と相互評価1	各人の動画を鑑賞し、様々な観点から評価
第6回	動画鑑賞と相互評価2	各人の動画を鑑賞し、様々な観点から評価

第7回	自己評価	自身の動画の評価を集計し、レポート作成、提出
第8回	コンテンツ作成の技術（数値データの加工編）	表計算ソフトを利用した数値データの集計、加工
第9回	コンテンツ作成の技術（数値データの可視化編）	表計算ソフトを利用したグラフ作成とグラフ化の意思の明確な可視化
第10回	コンテンツ作成の技術（データ分析編）	表計算ソフトを利用した集データ分析
第11回	配布資料の作成方法	日本語文書処理ソフトを利用した資料作成（目次、索引、引用、脚注など）
第12回	プレゼンテーションソフトの機能	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作
第13回	プレゼンテーションソフトの機能	プレゼンテーションソフトの応用操作（テンプレート、画面切り替え効果、アニメーション効果など）
第14回	春学期まとめ	春学期に学習したことの総復習
Ⅱ 秋学期		
第1回	テーマ 失敗しないプレゼンテーション1 －導入－	内容 聞き手をつかむ 結論から見せる 目標を示す 序論で動機づけ
第2回	失敗しないプレゼンテーション2 －可視化－	百聞は一見に如かず 見える形に具現化する 喩えてみせる 表現の段階化
第3回	失敗しないプレゼンテーション3 －内容に適した表現素材－	スライドデザイン
第4回	失敗しないプレゼンテーション4 －構造や関係－	分類と包含 階層構造 流れの構造 連続的な関係 合流・複合の関係
第5回	失敗しないプレゼンテーション5 －伝え方－	感動を与えることば 印象に残るコンテンツのコツ
第6回	比較的簡単な演習（グループ演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第7回	比較的簡単な演習（個人演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第8回	プレゼンテーション作成演習1	プレゼン用スライドの鑑賞
第9回	プレゼンテーション作成演習2	計画・要素収集
第10回	プレゼンテーション作成演習3	プレゼンテーション作成
第11回	プレゼンテーション作成演習4	プレゼンテーション作成、提出
第12回	プレゼンテーション聴講と相互評価1	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第13回	プレゼンテーション聴講と相互評価2	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第14回	秋学期まとめ	レポート作成、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Office系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身についていることが前提である。
資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。

【テキスト（教科書）】

オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】

「心をつかみ人を動かす 説明の技術」 木田知廣（日本実業出版）
「伝え方が9割」佐々木圭一（ダイヤモンド社）
「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール 藤沢浩司（ブルーバックス）

発行日：2019/5/1

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、授業の中で行う演習 50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

PC を使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】

演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline and objectives】

The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).

COT200FA-A5266

データ処理論Ⅰ（空間情報システム）（2018年度入学者）

2～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

COT200FA-A5267

データ処理論Ⅱ（空間情報システム）（2018年度入学者）

2～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA-A5291

データ処理論Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）

2～4年次／4単位[年間授業/Yearly]

COT200FA-A5283

データ処理論Ⅱ（2016～2017年度入学者）

2～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA-A5282

データ処理論Ⅰ（2016～2017年度入学者）

2～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

沼尻 治樹

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、G 空間と呼ばれるような空間情報の基礎的な知識と空間情報の処理法およびその分析法を習得することを目的とする。

空間情報システムの発達とともに、商圏分析や立地分析、災害情報管理や自然環境分析などで空間情報の高度利用が行われてきただけでなく、地図アプリケーションなども web を通して日常生活に普及してきた。一方、地理空間情報活用推進基本法の制定により、行政機関などによる空間情報の整備が進められることになった。それに伴って、空間情報に関わる知識を備えた人材の育成がさらに望まれるようになってきている。また、東日本大震災後、行政機関だけでなく一般市民も自ら集めた情報を空間情報として集積し利用していることから、「既存の空間情報を利用する」から「空間情報を自作する」ことが一般的になり始めている。

【到達目標】

社会的・学術的な課題に対して空間情報を選択・利用、また空間情報を自作し問題解決に向けた基礎的な空間情報の処理ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業では、初めて空間情報システムに触れる受講生に合わせ、まず空間情報システムの構造や考え方、空間情報（デジタルデータ）の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーション、データを使用して授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】**Ⅰ 春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	空間情報システムとは何か？	空間情報システムについて具体的な事例を交えながら紹介する
第 2 回	空間情報システムの歴史と応用事例	空間情報システムの歴史を簡単に述べ事例とともに解説する
第 3 回	空間情報（デジタルデータ）について	空間情報システムで取り扱うデジタルデータについて解説する
第 4 回	空間情報のマッピング 1	国土数値情報を利用しながらアプリケーションの操作を学ぶ
第 5 回	空間情報のマッピング 2	基盤地図情報を利用しながらアプリケーションでのレイアウトを変更・編集する
第 6 回	空間情報と統計データ 1	統計データに合致したレイアウトの考え方を学ぶ
第 7 回	空間情報と統計データ 2	レイアウトの応用と主題図作成を学ぶ
第 8 回	空間情報の統計演算 1	統計データの新規追加を学ぶ
第 9 回	空間情報の統計演算 2	統計データの変換を学ぶ
第 10 回	空間情報の統計演算 3	統計データの演算を学ぶ
第 11 回	空間情報の保存・変換	空間情報の保存と投影（座標系）変換
第 12 回	ジオプロセッシングと空間解析	簡単な空間解析法（バッファリング・空間結合・属性結合・距離と面積の測定）を学ぶ
第 13 回	空間情報の分析と考察 1	課題に対して空間情報を選択する
第 14 回	空間情報の分析と考察 2	空間情報の処理を行う

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	アドレスマッチングの利用	ジオコーディングを学びポイントデータを自作する
第 16 回	GNSS (GPS) を用いた位置情報の取得と表示	GNSS で取得した座標からポイントデータを自作する
第 17 回	ベクトルデータとラスターデータの作成 1	オルソ化空中写真の表示を学びラインデータを自作する

第 18 回	ベクトルデータとラスターデータの作成 2	ポリゴンデータを自作しさらにラインデータおよびポリゴンデータの形状を編集する
第 19 回	ベクトルデータとラスターデータの作成 3	地理院地図を使いながらベクトルデータを作成しラスターデータへ変換する
第 20 回	ジオリファレンス（幾何補正）の行い方	位置情報を持たない画像データに位置情報を与え、空間情報を取得する
第 21 回	数値標高モデル（DEM）による空間分析 1	DEM について解説し簡単な地形解析を行う
第 22 回	数値標高モデル（DEM）による空間分析 2	地形解析を行い空間情報を取得する
第 23 回	数値標高モデル（DEM）による空間分析 3	任意の演算式によって空間情報を取得する
第 24 回	空間解析の実践 1	空間補間（内挿）を行い空間情報の推定を行う
第 25 回	空間解析の実践 2	リモートセンシングデータを利用する
第 26 回	空間情報の作成・分析と考察 1	課題とデータ処理の方法を設定する
第 27 回	空間情報の作成・分析と考察 2	データ処理を実践する
第 28 回	空間情報の作成・分析と考察 3	データ処理の結果を分析する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は空間情報の取得などの宿題を行う。また、使用するアプリケーションソフトウェアはオープンソースであることから、受講生は自宅での復習・自習を必要に応じて行う。

【テキスト（教科書）】

自作テキストを利用する。

【参考書】

「地理情報学入門」（野上道男ほか、東京大学出版会、2001 年）
「国土を測る技術の基礎 ―地理空間情報技術者を目指す人のために―」（高木方隆、（公社）日本測量協会、2014 年）
その他、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

本授業は実習科目であることから、平常点を重視する。その他、学期末に実施するレポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に空間情報を処理しているか評価する。
成績評価の配分は、平常点を 60 %、レポート課題を 40 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

質問しやすい環境作りを心がけている。また空間情報システムの知識と処理法を同時に身につけることを目指している。さらに、空間情報システムの実社会での最新の動向を紹介し、授業と社会の乖離が起こらないようにしている。

【学生が準備すべき機器他】

本授業では、授業支援システムを積極的に使用する。主に資料配布、課題提出、受講生向けの連絡、掲示板での質問対応である。

【その他の重要事項】

本授業では、講義・実習を通して空間情報の理解を深めつつ、コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する実践的な知識を学ぶ。無料のアプリケーションソフトウェア、無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

【Outline and objectives】

The purpose of this lesson is to understand the spatial information system and to learn the spatial analysis method. We use the space information system for site analysis and natural environment analysis. Spatial information systems are becoming part of our daily life.

COT200FA-A5292

ネットワーク論Ⅰ（通信ネットワーク）（2018年度入学者）

2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA-A5293

ネットワーク論Ⅱ（通信ネットワーク）（2018年度入学者）

2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA-A5303

ネットワーク論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）

2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA-A5312

ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）

2～4 年次／4 単位[年間授業/Yearly]

COT200FA-A5302

ネットワーク論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）

2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

飯塚 康至

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みと HTML や PHP を利用した Web アプリケーションの作成手法についても学びます。また情報セキュリティについても理解し適切な対応がとれるスキルを身につけることを目標とします。

インターネットのサービスである Monaca を利用してスマートフォン (iPhone/Android) 向けのアプリケーション開発手法も学びます。

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. インターネットの仕組みを理解する。
2. インターネットを支える主要技術を理解する。
3. 情報セキュリティについて理解する。
4. 現在の最新 ICT 技術について理解する。
5. 基本的な Web 技術について理解する。
6. クライアント側の動的な技術について理解する。
7. サーバー側の動的な技術について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークはすでにインフラとなりわれわれの生活に深く浸透しています。

講義前半では主にコンピュータネットワークの基本的な知識と技術と情報セキュリティについて学びます。後半では Web ページの作成技術を中心に Web サイトの構築方法について学習します。

授業は演習形式で実際に作成や確認を行いながら進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	通信技術の発展と現在	情報通信技術の変遷と現在の姿について理解します。
2	コンピュータの構成	ネットワークの理解に入る前にネットワークに利用するコンピュータの構成について理解します。
3	IP ネットワークの理解	インターネットを支えるインターネットプロトコルについて理解します。
4	LAN の仕組みと構成	LAN の仕組みと構成を理解します。
5	ドメインの理解	名前解決であるドメインの仕組みについて理解します。
6	TCP とパケットの理解	インターネット上のサービスを実現するための TCP とパケットについて理解します。
7	インターネットサービスとアプリケーション	主要なインターネットのサービスとアプリケーションについて理解します。
8	情報セキュリティ 1	インターネットを利用した情報セキュリティについて学びます。
9	情報セキュリティ 2	インターネットを利用した情報セキュリティについて学びます。
10	HTML の基礎知識	Web ページを作成するための HTML の歴史や現在の基礎知識について理解します。
11	HTML の基本文法	HTML の基本的な文法について理解します。
12	ホームページ作成の基礎 ①	見出を作成したり文字装飾を行う方法を理解します。
13	ホームページ作成の基礎 ②	リスト、テーブル、リンク等を作成する方法を理解します。
14	春学期復習	春学期の復習を行います。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	フォームと画像の貼付け	フォームや画像を扱う方法について理解します。
16	CSS とデザイン	CSS を利用したデザインについて学びます。
17	サーバーサイド技術の概念	サーバーサイド技術である PHP を利用しサーバーサイド技術の概念を学びます。
18	PHP の基本文法（変数、関数）	PHP の基本的な文法について学びます。
19	PHP の基本文法（条件分岐、繰り返し）	PHP の基本的な文法について学びます。
20	練習用フォームの作成	練習用フォームを作成し POST や GET データを送信します。
21	メールフォームの作成	メールフォームを作成し Session でデータを保持します。
22	メールフォームからのメールの送信	メールフォームからメールを送信する方法について学びます。
23	画像アップローダーの作成 1	画像をサーバーにアップロードするフォームを作成します。
24	画像アップローダーの作成 2	画像をサーバーにアップロードするロジックを作成します。
25	画像アップローダーの作成 3	アップロードした画像を表示する方法について学びます。
26	スマートフォンアプリの作成 1	Monaca を利用してスマートフォンアプリケーションの開発手法を学びます。
27	スマートフォンアプリの作成 2	Monaca を利用してスマートフォンアプリケーションの開発手法を学びます。
28	秋学期復習	秋学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現在の個人活動や企業活動ではコンピュータネットワークの利用は欠かせません。実際に就職した後に自分が担当者になった場合をイメージしながら授業に望んでください。

【テキスト（教科書）】

PowerPoint 等で資料を作成しながら授業を行います。特にテキストを購入しなくても済むように進めます。

【参考書】

授業中に適時お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 点満点とし、授業内課題 50 点、期末課題 50 点の課題での評価に平常点を加味し決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

極力演習を行い実際に動かしてみるを重視していきたいと思います。座学であるインプットと演習であるアウトプットをバランスよく講義を組み立てていきます。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピュータおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等は Google クラウドを利用します。

【その他の重要事項】

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

授業終了前にミニッツペーパー（振り返りシート）を作成します。

【関連科目】

情報科学実習Ⅰ／Ⅱ（f コース）

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline and objectives】

The theme of this lesson is to understand the computer network system and web applications and information security. You will also learn how to develop applications for smartphone (iPhone / Android) using Monaca.

COT200FA-A5294	ネットワーク論Ⅰ（通信ネットワーク）（2018年度入学者）	2～4年次／2単位[春学期授業/Spring]
COT200FA-A5307	ネットワーク論Ⅱ（2016～2017年度入学者）	2～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]
COT200FA-A5306	ネットワーク論Ⅰ（2016～2017年度入学者）	2～4年次／2単位[春学期授業/Spring]
COT200FA-A5305	ネットワーク論Ⅱ（2016～2017年度入学者）	2～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]
COT200FA-A5297	ネットワーク論Ⅱ（通信ネットワーク）（2018年度入学者）	2～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]
COT200FA-A5295	ネットワーク論Ⅱ（通信ネットワーク）（2018年度入学者）	2～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]
COT200FA-A5314	ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）	2～4年次／4単位[年間授業/Yearly]
COT200FA-A5313	ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）	2～4年次／4単位[年間授業/Yearly]
COT200FA-A5296	ネットワーク論Ⅰ（通信ネットワーク）（2018年度入学者）	2～4年次／2単位[春学期授業/Spring]
COT200FA-A5304	ネットワーク論Ⅰ（2016～2017年度入学者）	2～4年次／2単位[春学期授業/Spring]
入戸野 健		

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットや LAN などのコンピュータネットワークに関する基礎知識を身につけながら、Web サイトを構築して情報発信する方法を学ぶ。

【到達目標】

インターネットを中心とする現在のコンピュータネットワークの仕組みを理解すると同時に、HTML と CSS を記述してホームページを作成する方法を習得し、自ら Web ページで情報発信できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

インターネットなどの通信ネットワークの基礎については、スライド等を使って部分的に講義形式で解説を行うが、Web サイトの構築に関しては基本的に毎回実習形式で授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	通信ネットワークの発展	これまでの通信技術の変遷について学ぶ。
2	LAN の仕組みと構成	ローカルエリアネットワーク (LAN) と Wi-Fi 通信について学習する。
3	インターネットの仕組み	インターネットのプロトコルとその動作について学ぶ。
4	Web サイトの構成要素	Web サイトの構築に必要なハードウェアとソフトウェアについて習得する。
5	HTML の基礎知識	タグを入力してページを構成する考え方を理解する。
6	Web ページ作成環境	エディタでのコード入力、ブラウザでの表示確認などの操作に慣れる。
7	HTML の要素とプロパティ	HTML の各部分を表現するタグとプロパティの基本的な書き方を学ぶ。
8	HTML 文書の基本編集	文書の見出し、段落、文書内での画像表示などの基本的な表現方法を学習する。
9	表とフォーム	Web ページでの表の作り方、データ入力のための仕組みの作り方を学ぶ。
10	リンクの作成	ページを結びつけるリンクの作成方法を学習する。
11	CSS の基礎知識	Cascading Style Sheets (CSS) によるページの装飾の考え方と基本文法を学ぶ。
12	CSS による基本装飾	文字色や背景色などの基本的なデザインの設定方法を習得する。

13	レイアウト作成	文字等の中央揃えや、段組みなどのレイアウトの作成方法を学ぶ。
14	Web ページ作成演習	基礎的な HTML 文法と CSS による装飾を利用したホームページを作成する。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	発展的な開発環境	文法チェック機能を持つエディタなどの環境を整え、より効率的にページ作成ができるようにする。
2	サイトの構築とページの設計	Web サイトの各々のページをコーディングする際に検討すべき点などを理解する。
3	文書のアウトラインの作成	章・節・項のようなきちんとした文書構造を作成する方法を学習する。
4	タイトルやロゴのレイアウト	ページ冒頭のタイトルやロゴ画像の作成とそれらのレイアウト方法について学習する。
5	メニュー項目の作成	各ページ共通でデザインされたメニュー（グローバルナビゲーション）の作成方法を習得する。
6	CSS による応用的なデザイン	背景のグラデーションや文字・ボックスの影などの応用的なデザインの作り方を学ぶ。
7	CSS による移動や変形	CSS の設定で画像などを移動・変形する方法を学習する。
8	CSS によるアニメーション	CSS の機能で動きのある画像やボタンなどを作成する方法を学ぶ。
9	各種のフォントや数式の利用	デザインされた多様な Web フォントや見やすい数式の表示方法について学習する。
10	レスポンス Web デザイン	Web ページを様々な端末で見やすいようにするための方法を学ぶ。
11	スマートフォンへの対応	特にスマートフォンによる表示を優先的に考えたページのデザイン方法を学習する。
12	各種の関連技法	JavaScript や CGI などの関連する技術について概観する。
13	Web サイトの構築演習	授業内で取り上げた各種の技法を使用して、各自の Web サイトを構築する。
14	Web サイトの設置と確認	完成させたサイトを Web サーバーへ設置して動作確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の実習で目標まで完了させることができなかった場合は、各自で次の回までに進めておくなどの時間外学習が必要になる場合がある。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示する。必要に応じて補助プリントを適宜配付する。

【参考書】

講義の中で随時紹介する。

発行日：2019/5/1

【成績評価の方法と基準】

平常点 (25%) ：実習を伴うので、毎回授業に参加してスキルをきちんと蓄積して行くことが重要になる。

課題レポート (15%) ：授業内容に沿った課題を 2 回程度出題する。

課題演習 (60%) ：後半に授業内で実施する演習で作成した成果物を提出してもらう。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題に関する実習の時間をより長く取り、丁寧な解説を試みたい。

【学生が準備すべき機器他】

実習は情報実習室の PC で行う。

作成したファイルやデータを保存するための USB メモリーを必要に応じて各自持参する (詳細は授業内で説明する)。

【関連科目】

プログラミング言語 (スクリプト言語) I / II

【Outline and objectives】

This course is designed to provide a fundamental understanding of the Internet and LAN, and also provide skills concerning to construction and utilization of web sites.

COT200FA-A5298

ネットワーク論Ⅰ（ホームページ）（2018年度入学者）

2～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

COT200FA-A5299

ネットワーク論Ⅱ（ホームページ）（2018年度入学者）

2～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA-A5309

ネットワーク論Ⅱ（2016～2017年度入学者）

2～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA-A5315

ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）

2～4年次／4単位[年間授業/Yearly]

上野 京子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしての Web サイト作成に関する知識や技能を習得する。さらに、実際に作成した Web サイトをインターネットにアップし、動作させる。

【到達目標】

インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単な Web システムの作成ができることを目標とする。

- (1) インターネットの基本的な仕組みを理解する。
- (2) Web を支える技術を理解する。
- (3) ホームページの作成を行う。
- (4) Web システムの設計・作成を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web 関連では、ホームページ・Web システムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Web システムを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	インターネットと情報セキュリティ	インターネットを支える技術、情報セキュリティ対策について学習する
2	ホームページと HTML の仕組み	Web ページが見える仕組み、HTML の基本構造、公開時に必要な事柄など基本的な知識を習得する
3	基本のテキストの入力と様々な文字表現	日記や読書メモを作成する強調、略語・定義語、ルビ・下付き・上付き文字などの知識を学習する
4	画像の表示	画像ファイルを利用するための知識を学習する
5	リンクの指定	基本的なリンクの指定方法を学習する
6	相対パスと絶対パス	相対パス、絶対パスを理解してリンクを張る技術を習得する
7	CSS の役割	CSS の必要性を学び、基本的な記述方法を習得する
8	背景・文字の装飾	背景色・文字色の変更、位置の変更、文字のサイズ変更、罫線、余白の調整などの知識を習得する
9	リストを作る	箇条書きリスト、順番のついたリスト、定義リストを作成する
10	ファイルの埋め込み	HTML ファイルや PDF ファイルの埋め込み、動画や音声の取り扱いの知識を習得する
11	テーブルの作成 (1)	テーブルの基本構造を理解する
12	テーブルの作成 (2)	表のヘッダーとフッター、見出しセルの方向と列のグループ化などの知識を習得する
13	テーブルの作成 (3)	表に罫線や色をつけ、見やすく整える
14	春学期のまとめと、課題 A	HTML と CSS を使って、課題 A で示されたホームページを作成する

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	フォームの作成	form の基本構造を理解する
16	便利なフォーム機能	ふりがな入力欄、パスワード入力欄、検索ワード入力欄、日付入力欄を作成する
17	課題 B	HTML と CSS、フォームを使って、課題 B で示されたホームページを作成する

18	カテゴリとコンテンツモデル	カテゴリとコンテンツモデルを理解する
19	アウトラインとセクション	文章を内容で分割する
20	ナビゲーション	ナビゲーションを追加する
21	課題 C	HTML と CSS、フォーム、セクション、ナビゲーションを使って、課題 C で示されたホームページを作成する
22	ページの設計	要素を上下や左右に並べたり、位置を調整する方法を習得する
23	ページを飾る	CSS を利用して、動きのある表現の方法を習得する
24	課題 D(1)	課題 D では、与えられた要件を満たす Web サイトを設計・作成する
25	課題 D(2)	課題 D の Web サイトを完成する
26	スマートフォンや SNS の対応	スマートフォン向けの CSS を設定する方法を習得する
27	課題 E(1)	各自、自由なテーマで Web サイトを作成する
28	課題 E(2)	課題 E の Web サイトを授業内で発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。

【テキスト（教科書）】

開講時に示す。

【参考書】

必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点を 40 %、授業中の課題の結果を 60 % として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TA の力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】

Web システムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】

「情報科学実習Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。

【Outline and objectives】

This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.
A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.

COT200FA-A5300

ネットワーク論Ⅰ（ホームページ）（2018年度入学者）

2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

COT200FA-A5311

ネットワーク論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）

2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA-A5301

ネットワーク論Ⅱ（ホームページ）（2018 年度入学者）

2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

COT200FA-A5316

ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ（2015 年度以前入学者）

2～4 年次／4 単位[年間授業/Yearly]

COT200FA-A5310

ネットワーク論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）

2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

高田 美樹

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットを中心としたコンピューターネットワークの仕組みを理解し、情報発信手段としての Web サイト制作の技術と知識を習得することを目的とします。

【到達目標】

到達目標は、以下のとおりです。

- 1) インターネットの仕組みを理解する。
- 2) Web ページを企画し、制作する。
- 3) Web データベースシステムの仕組みを理解し、制作する。
- 4) インターネットの脅威とその対策を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

実習室で行う実習授業です。

春学期には、主にクライアント側で動作するカタログを表示するホームページの制作を行います。

秋学期には、春学期に制作したページをベースに、サーバ側で動作する本格的な web データベースシステムによりショッピングサイトを構築します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第1回	ホームページの全体像	ホームページが社会にもたらしている影響から全体像を学習します。
第2回	ネットワークの仕組みとプロトコル	TCP/IP と IP アドレスについて学習し、ホームページを実現する技術を理解します。
第3回	HTML と CSS による静的なページ	ホームページがどのように表示されるのかについて、実際にページを制作して学習します。
第4回	HTML・CSS 各論（1）	HTML と CSS を使ったページの記述を具体的に学習します。
第5回	HTML・CSS 各論（2）	HTML と CSS を使ったページの記述を具体的に学習します。
第6回	class と ID	ページの中の一部だけに設定を行う方法を学びます。
第7回	画面レイアウトの設計	HTML と CSS を組み合わせたページを企画、制作します。
第8回	フォームの作成	入力することのできるページを制作します。
第9回	画像の加工	ホームページで利用できるように画像を加工します。
第10回	JavaScript による動的なページの作成（1）	マウス操作などで変化するページを制作します。
第11回	JavaScript による動的なページの作成（2）	入力データをチェックしてエラーを表示するページを制作します。
第12回	jQuery の利用	jQuery を利用した変化のあるページを制作します。

第13回 サイト制作1（1）

第14回 サイト制作1（2）

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第15回	web データベースシステムの全体像	ショッピングサイトを例に、ホームページ技術の全体像をイメージします。
第16回	フォームデータのチェックとエラーバック	入力情報をサーバ側で処理する技術を学習します。
第17回	PHP による動的なページの作成（1）	データを入れ替えるだけで内容が変化するページを制作します。

第18回	PHP による動的なページの作成（2）	データを入れ替えるだけで内容が変化するページを制作します。
第19回	データベースの構築	データを管理するためのデータベース技術を学習します。
第20回	データベースと PHP の連携	PHP からデータベースの呼び出し方を学びます。
第21回	データベースから読み出したデータの表示	データベースの保管されたデータを取り出してページに反映する技術を学びます。
第22回	ログインの実装	ユーザ ID とパスワードをチェックするページを制作します。
第23回	ユーザ登録の実装	ユーザ登録を行うページを制作します。
第24回	セッションによる情報の引き継ぎ	ログインした情報を次のページに引き継ぐ技術を学習します。
第25回	セッション管理	ペログアウトし、情報へのアクセスを拒否する技術を学習します。
第26回	サイトの設計	オリジナルサイト制作の企画書を作成します。
第27回	サイト制作2（1）	オリジナルサイトを制作します。
第28回	サイト制作2（2）	オリジナルサイトを制作します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ホームページは多くの技術の集大成ですが、一つひとつの技術にはたくさんの項目があり、授業だけではそのすべてを網羅することはできません。参考文献などを調べ、「やってみる」ことを心がけてください。

【テキスト（教科書）】

講義資料を提供します。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期は、カタログサイトを制作します。
 トップページ制作 (20%)
 写真を配した複数のページの制作 (60%)
 ページの切り替え (10%)
 入力フォームの制作 (10%)

秋学期は、ショッピングサイトを制作します。
 データベースの構築 (20%)
 データベースからの読み出し (40%)
 「かご」に入れる機能 (30%)
 金額を計算する機能 (10%)

【学生の意見等からの気づき】

前年度は、データベースの構築に手間取り、PHP からの呼び出しに時間がかかった。

Step by Step で確認しながら進めていけるように、講義資料を工夫しています。

1 年を通して、秋学期での最終ゴールを意識した制作を行っていきます。講義で学習しながらオリジナルページが制作できるよう教材を工夫しています。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピュータを使います。

【その他の重要事項】

前提知識は必要ありません。
 自らのオリジナルサイトを制作したいという意欲を持って参加してください。積み上げ科目なので、今日の講義は今日理解するように努め、わからないことがあれば些細なことでも臆せずに質問してください。

【関連科目】

情報科学実習Ⅰ/Ⅱ

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付けます。メールでも受け付けます。

【Outline and objectives】

Understand Computer Network and Create Website with Database.

LAW200FA-A5351

民法

2～4 年次／4 単位[年間授業/Yearly]

松田 佳久

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法は市民生活に関連する法律の中で最も基本的かつ重要な法律である。民法は取引を中心とする財産法と家族の生活を中心とする家族法に大別されるが、本講義は経営学部を学生を対象とすることから、前者の財産法を中心に扱うことにしたい。

【到達目標】

取引を中心とする生活関係についての基本的な法制度を十分に理解し、経営学部の専門的知識がより一層効果を発揮するような背景を築くことである。具体的には、①契約の有効な成立のための要件、②契約によって成立する債権の内容、③債権の効力、④物権変動と対抗要件、⑤債権担保の手段、とりわけ抵当権と保証債務について十分な法的知識を修得することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

最も代表的な契約関係にある売買契約を基礎に置きながら、財産法の基本的な仕組みを概観する。

講義は主に板書で行う。

講義資料や復習問題は授業中に配布します。また、講義日の夜に授業支援システムに解答とともにアップする。復習に活用すること。

なお、講義に際しては六法を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義を始めるに際しての諸注意
第 1 回	第 1 章 民法典とその構成	パンデクテン方式 財産関係と家族関係
第 2 回	第 3 節 物権と債権	物権の種類と典型契約
第 3 回	第 2 章 売買契約の有効な成立	契約の成立要件 権利能力 法人 意思の合致
第 4 回	第 2 節 契約の有効要件	取消原因（制限行為能力者） 瑕疵ある意思表示 契約の無効原因（詐欺・強迫） 無効原因
第 5 回	3 意思の不存在 Ⅲ 取消しと無効	心裡留保 虚偽表示 錯誤 取消し
第 6 回	第 3 節 契約の効果帰属要件	代理 代理権の範囲の行為 代理行為
第 7 回	Ⅱ 無権代理	無権代理 表見代理
	第 4 節 条件と期限	
第 8 回	第 3 章 売主の義務と買主の義務	物（特定物・不特定物の引渡し） 瑕疵担保責任
第 9 回	第 2 節 金銭の支払い	金銭債権 同時履行の抗弁権 消費貸借契約
第 10 回	Ⅱ 購入資金の借入れ	利息契約 利息制限法
第 11 回	第 3 節 債権関係の終了①	債権の消滅原因
第 12 回	第 3 節 債権関係の終了②	債権の消滅原因 その他の消滅原因
第 13 回	第 4 節 債務不履行と債権者の救済手段	現実的履行の強制
第 14 回	Ⅱ 損害賠償の請求	債務不履行の類型と要件 給付請求権との関係 損害賠償の範囲

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	Ⅲ 契約の解除	意義 解除権の要件 効果
第 16 回	第 4 章 売買契約による所有権の移転	物権変動の基本原則

第 17 回	Ⅱ 物権変動の要件	物権変動の要件 所有権の移転時期
第 2 回	第 2 節 不動産取引と登記	物権の消滅 対抗関係・対抗要件 二重譲渡は概念しうるか 民法 177 条にいう第三者
第 18 回	4 民法 177 条が適用される物権変動 Ⅱ 不動産登記	取消しと登記 解除と登記 時効取得と登記 遺産分割と登記 不動産登記とは 登記の申請について 不動産登記の種類
第 19 回	第 3 節 動産取引における公示の原則と公信の原則	動産取引の対抗要件 即時取得 物権法の基本原則
第 20 回	第 5 章 所有権と占有権 第 2 節 所有権	所有権の性質と効力 相隣関係 所有権の特別な取得原因 占有権
第 21 回	第 6 章 債権の回収と債権の担保	債権の回収の基本原則 責任財産の保全（債権者代位権）
第 22 回	Ⅱ 詐害行為取消権	意義 法的性質 要件 行使 効果 連帯債務
第 23 回	第 3 節 責任財産の拡大による債権の担保	
第 24 回	Ⅱ 保証債務	意義と成立 法的性質 効力 特殊な保証（根保証）
第 25 回	責任財産の保全	債権者代位権 債権者取消権
第 26 回	第 4 節 優先弁済権の確保による債権の担保	担保物権の基本原則 抵当権 根抵当権 仮登記担保 譲渡担保 所有権留保
第 27 回	第 7 章 法律の規定に基づいて生ずる債権	総説 事務管理 不当利得
第 28 回	不法行為	一般的不法行為 特殊的不法行為

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記の授業計画に基づき、テキストの該当箇所を事前に読んで上で講義に出席すること。

【テキスト（教科書）】

宮本健蔵編著『コンダクト 民法』2017 年 4 月 嵯峨野書院

【参考書】

民法判例百選 I、II（第 8 版） 有斐閣
法律学小辞典 第 5 版 有斐閣
基本法コンメンタール 日本評論社

【成績評価の方法と基準】

原則として定期試験（中間試験：7 月、期末試験：1 月）の成績による。

【学生の意見等からの気づき】

毎回出席して、講義をしっかりと聞くようにすること。

【その他の重要事項】

【関連科目】

特になし。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline and objectives】

Civil Code is the most fundamental and important law in the law related to civic life. The civil law is roughly divided into property law centered on transactions and family law centered on the family life, but since this lecture covers the students of the undergraduate school of business, it deals with the former property law mainly. Want to.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、会社、特に株式会社の活動に関連する法律問題のうち会社法に関わる条文や制度について、具体的な事例を参照しつつ学習する。具体的には、株式会社のガバナンスに関する問題、ファイナンスに関する問題及び M&A に関する問題について学習する。

【到達目標】

この授業では、実社会で問題となっている会社（特に株式会社）の活動に関連する法律問題のうち会社法に関わる事象について、関連する条文や制度など基礎的な事項を説明できるようにすることを目標としている。
また、会社法が関係する具体的な事例について、関連する条文や制度を参照しながら、当該事例における事実関係を踏まえて、一定の結論を導き出せることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

初めて法律を勉強する人でも理解できるように配慮して、法律用語の解説をしながら、講義形式で授業を行う。
適宜、質疑を取り入れたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1 回	会社の種類、会社の能力と会社の法人格	会社の意義及び各種類の会社の異同点について説明する。 会社の権利能力や法人格の意義について説明し、関連する判例を検討する。
2 回	株主有限責任と株主平等原則	株主有限責任、株主平等原則及び種類株について説明し、関連判例を検討する。
3 回	株式の準共有と利益供与	株式の準共有と利益供与について説明し、関連する判例を検討する。
4 回	譲渡制限株式と株主名簿	株式譲渡自由の原則とその例外、株主名簿について説明し、関連判例を検討する。
5 回	株券と振替株式	株券と振替株式について比較しつつ説明し、関連する判例を検討する。
6 回	株式分割・株式併合と自己株式の取得	株式分割・株式併合と自己株式の取得について説明する。
7 回	募集株式の発行等	募集株式の発行等の意義、問題点及び手続につき説明し、関連判例を検討する。
8 回	募集株式の発行等における救済手段	募集株式の発行等の差止め、無効及び不存在について説明し、関連する判例を検討する。
9 回	新株予約権・社債	新株予約権及び社債について、株式と比較しつつ説明し、関連する判例を検討する。
10 回	株式会社の機関と機関設計の選択	株式会社の機関の権限について説明し、機関設計の違いについて説明する。
11 回	株主総会の権限と招集手続	株主総会の権限について説明した後、その招集手続について関連する判例に言及しながら、説明する。
12 回	株主総会の運営と計算書類の確定・剰余金の分配	株主総会の運営について関連判例に言及しつつ説明し、計算書類の確定の手続と剰余金の分配手続について説明する。
13 回	株主総会の瑕疵	株主総会の瑕疵の問題について説明し、関連する判例を検討する。
14 回	春学期授業のまとめ	春学期授業のまとめ

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15 回	役員の資格・選解任手続と取締役会	役員の資格・選解任手続について説明し、取締役会の意義と手続について説明した上で、関連する判例を検討する。
16 回	取締役の義務（１）	取締役の善管注意義務と忠実義務の関係、経営判断原則及び内部統制システムについて説明し、関連する判例を検討する。
17 回	取締役の義務（２）	取締役の競業取引、利益相反取引に関する規制について説明し、関連する判例を検討する。

18 回	取締役の不正行為に対する監視・監督	監査役・監査役会、会計監査人及び会計参与による監視・監督について説明する。
19 回	指名委員会等設置会社と監査等委員会設置会社	指名委員会等設置会社と監査等委員会設置会社について、監査役会設置会社と比較しつつ説明する。
20 回	役員の報酬	取締役の報酬規制を中心に説明し、関連判例を検討する。
21 回	役員の対会社責任	取締役の違法行為の差止め、取締役の責任免除及び株主代表訴訟について説明し、関連する判例を検討する。
22 回	役員の対第三者責任	役員の対第三者責任について説明し、関連判例を検討する。
23 回	組織再編・キャッシュアウト総論	組織再編やキャッシュアウトの方法としてどのようなものがあるかについて、違いを踏まえつつ説明する。
24 回	組織再編・キャッシュアウトの手続	組織再編・キャッシュアウトの手続について、比較しながら説明し、関連する判例を検討する。
25 回	組織再編・キャッシュアウトにおける救済手段	組織再編・キャッシュアウトの手続に違法な点があった場合の株主・債権者等の救済手段について説明し、関連する判例を検討する。
26 回	事業譲渡	事業譲渡について説明するとともに、関連する判例を検討する。
27 回	株式会社の設立と持分会社の法制	株式会社の設立手続と持分会社について説明し、関連する判例を検討する。
28 回	秋学期授業のまとめ	秋学期授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を授業支援システムを通じてアップするので、授業の開始前までにダウンロードし、テキストの該当箇所を読む。

【テキスト（教科書）】

『会社法講義 30 講』松嶋隆弘編（中央経済社、2015 年）
六法（会社法及び民法、並びに会社法施行規則及び会社計算規則が掲載されているもの、ただし、平成 31 年版のものが好ましい）

【参考書】

『会社法判例百選第 3 版』岩原伸作ほか編（有斐閣、2016）

【成績評価の方法と基準】

平常点（20 %）、試験（80 %）で評価する。
試験は春学期末に実施する中間試験（20 %）と秋学期末に実施する期末試験（60 %）により評価する。
合計が 60 点以上の場合を合格とし、60 点未満の場合を不合格とする。なお、合格者の評価については相対基準を導入する。

【学生の意見等からの気づき】

授業が難しいとの意見があるので、より基本的な事項に限定して講義をすることによって、対応することとする。

【その他の重要事項】

六法は授業に必ず持参すること。

【関連科目】

民法

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline and objectives】

This course aims at providing students with knowledge of Companies Act.

MAN200FA-A5401

広告論

小林 健一

2～4 年次／2 単位[オータムセッション/Autumn Session]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「マーケティングと広告」

「広告」は、「経営」「マーケティング」「マーケティングコミュニケーション」等と密接な関連を持ちながら、企業活動を支えています。この講座では、「広告」の役割を明らかにした上で、特に「マーケティングコミュニケーション」の一手段としての「広告」に焦点を絞り、その理論や実務上の知識を学ぶ事を目的とします。

【到達目標】

- ① 「経営」「マーケティング」と「広告」の関係を理解し、説明できる。
- ② 広告の機能/役割について理解し、説明できる。
- ③ 広告戦略/広告計画の立案手順を理解し、説明できる。
- ④ 広告ビジネスの構造や、関連企業の役割について理解し、説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- 講義は、電通出身の教員が勤めます。
- 講義を中心に進めますが、理解を深めるために授業内課題を併用します。
- 将来広告の仕事に携わる受講生ばかりではないことを考え、授業内に「今週の広告」「今週の言葉」「仕事の力裏表」等のミニコーナーを設け、幅広い知識見識が身につくようにします。
- また、広告ビジネスの現状に関する理解を深めるために、事業会社、広告会社等からのゲストを招いてお話をうかがいます。
- ゲストは今後の交渉によって決定します。そのため、授業計画とスケジュールは変更になる可能性が大きく、詳細は第 1 回目の授業時に説明します。（授業計画には、参考までに、昨年度のゲスト講師を記載してあります。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	教員自己紹介 授業計画の説明 受講動機等に関するアンケート
第 2 回	広告の定義 経営における広告の機能と役割	広告の定義 経営に果たす広告の機能と役割 社会・経済に果たす広告の機能と役割
第 3 回	マーケティングにおける 広告の機能と役割	マーケティングにおける 広告の機能と役割とは？ マーケティングコミュニケーションとは？
第 4 回	広告ビジネス	広告業務の流れ 広告主、広告会社、媒体社、 その他の広告関連企業の機能と役割 広告会社の組織と機能
第 5 回	広告戦略/広告計画 1	広告計画立案の流れ 広告計画の意味と重要性 状況分析と広告目標の設定
第 6 回	（ゲスト講師）事業会社	事業会社における広告業務 （昨年度は 資生堂ジャパン株式会社 コミュニケーション統括部部長 小出 誠氏）
第 7 回	広告戦略/広告計画 2	戦略とは？ 広告戦略の基本
第 8 回	媒体計画	媒体計画とは？ 媒体計画の作成手順
第 9 回	（ゲスト講師）広告会社	実体験を核としたマーケティング・コミュニケーション （昨年度は（株）電通ライブ シニア・クリエイティブディレクター 原田 和明氏）
第 10 回	表現計画	広告表現とは？ 広告表現の類型化
第 11 回	（ゲスト講師）広告会社	広告表現制作の実際 （昨年度は （株）電通 エグゼクティブクリエイティブディレクター 佐藤 義浩氏）

第 12 回	広告効果過程	消費者の購買意思決定過程 広告効果過程のモデル
第 13 回	広告効果測定	広告調査の種類と方法 広告効果測定の新しい流れ
第 14 回	ブランドと広告	ブランドとは？ ブランドと広告の関係 授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、日常的に、新聞/テレビ/雑誌/ラジオ/インターネット等の広告に積極的な関心を持って接しながら、その背景にある企業の意図や戦略を読み取る習慣を身につけるよう努めること。

【テキスト（教科書）】

特に指定しませんが、適宜以下の参考書に基づいて講義を行います。

【参考書】

「現代広告論 第3版」岸志津恵/田中洋/嶋村和恵、有斐閣、2017。
「消費者・コミュニケーション戦略」田中洋/清水聡（編）有斐閣、2006。

【成績評価の方法と基準】

出席はとりません。
授業内課題 30 % 学期末試験 70 % の比率で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・教員の実務経験についてもっと聞きたいという声があったので、適宜広告会社での経験についてもお話ししたいと思います。
- ・質問コーナーを設けてほしいという声があったので、できる限り学生の皆さんの質問に答える時間を作りたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

講義のアジェンダは授業開始前、講義に使用したスライドは、授業終了後授業支援システムで共有します。

【その他の重要事項】

教員は、（株）電通 IMC プランニングセンター長、（株）電通マーケティングインサイト代表取締役社長等を勤めた実務家出身です。過去の経験も交えながら、皆さんが将来社会に出た時に役に立つよう、実践的な授業を進めたいと思います。

【関連科目】

なし

【Outline and objectives】

Marketing and advertising
This course aims to clarify the role of "advertisement" at first and then focus on "advertisement" as a means of "marketing communication", to learn the theory and practical knowledge.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今、多くの日本企業が問題解決能力に優れたリーダーの不足に頭を悩ましています。IT化、グローバル化の流れの中で、将来を見越したイノベーションを起こし、世界的な視野をもって決断し、俊敏に実行できるようなリーダー人材が社内で育っていないのです。そんな中でも、トヨタ自動車はリーダー人材を次々に輩出し、業界トップの座を守り続けています。のみならず、トヨタのリーダーたちが身につけた問題解決手法は、他業界にも移植され、成果を挙げています。そんなトヨタが、リーダーたちに何を伝え、どのような経験を積ませてきたのかを知ることは、いまの日本企業にとってとても重要なヒントを与えてくれるはずです。本授業は、トヨタ社内で実際に活用されている問題解決手法を習得し、さらに、それを応用した新しい経営知識を事例学習で身につけることが目的です。

【到達目標】

本授業で採りあげる「問題解決手法」は次の8つのステップから成ります。①問題を明確にする②問題をブレイクダウンする③達成目標を決める④真因を考え抜く⑤対策を立てる⑥対策をやりぬく⑦結果とプロセスを評価する⑧成果を定着させる。この問題解決手法は、すでに日本企業の中で広く普及していて、サービス業、製造業、金融業など業界を問わず、成果を上げています。本授業を受講することで、受講生は、日常の様々な問題を経営の視点でうまく解決することができるようになります。また、将来、リーダーとなる人材が押さえておくべき経営手法も習得することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式を主体としますが、適時、リアクションペーパー（①授業で興味をもった点、②疑問に思った点、③その他の感想や意見、などを記入し、授業後に提出）を活用し、担当教員と受講生との間の効率的、継続的な双方向コミュニケーションを図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	問題の解決の仕方を知らないとし「残念な」結果になる理由 トヨタが考えた正しい問題解決の方法と心構え
2	問題を明確にする	問題がないことが最大の問題 隠れた問題を見つける方法 目的の目的を考える 現状とあるべき姿のギャップを明確にする
3	問題をブレイクダウンする	取り組むべき問題がどこにあるのかを決める あいまいな問題を具体化していく方法 取り組むべき問題の優先順位を決める
4	達成目標を決める	挑戦的で具体性のある目標を設定する 正しい目標の立て方、間違いやすい目標の立て方 かつての優良企業のジレットが凋落した理由
5	真因を考え抜く	先入観を持たずにより多くの要因を考える 事実に基づいて「なぜ」を繰り返す（5回のなぜ） もれなくダブリなく、論理的にチェックして、真因を特定する
6	授業内演習（1）	第2回から第5回の授業内容に関する演習
7	対策を立てる	固定観念にとらわれずに考える できるだけ多くの対策案を洗い出す 付加価値の高い対策に絞り込む PDCAが確実に回る実行計画を立てる
8	対策をやりぬく	スピード重視でチーム一丸となって実行する モータースポーツの事例 報連相（報告・連絡・相談）で進捗を共有する 決してあきらめず、すばやく次の策をうつ

9	結果とプロセスを評価する	目標に対する結果とプロセスを評価し、関係者と共有する お客様、自社、自分の視点で振り返る 成功・失敗要因を学ぶ
10	成果を定着させる	良い標準化と悪い標準化 標準を皆で広く活用する 次の改善をスタートする 日常的に5Sを徹底させる
11	授業内演習（2）	第7回から第10回の授業内容に関する演習
12	ゲスト講師による講義	起業家もしくは企業人による本授業の内容に関する講義
13	問題解決手法のF A Q（よくある質問）と回答	F A Qの一般例 あるべき姿を描くときのヒントは？ 目標は数値化すべきか？ バックアッププランは必ず必要か？ 結果とプロセスの評価はどちらが重要か？ 標準化はどこまですべきか？ 本授業で学んだ内容をベースに、気づいたことや、今後、自分なりに応用したいことなどを考察と私見を含めて、できるだけ具体的にレポートしてください。
14	授業内レポート	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

トヨタは日本で最大かつ最強の「ベンチャー企業」です。いまから80年以上前に、創業者の豊田喜一郎は、自動織機の工場の片隅にある板張りの囲いの中で、本業とはまったく関係のない小さなガソリンエンジンをこっそり作り始めました。その「起業家精神」は、かたちを変えていまも受け継がれています。本授業で学習するトヨタで受け継がれる問題解決手法を体得するのは簡単ではありませんが、意識して日々の問題解決に応用する場面を増やすことで、次第に、いかなる問題の解決にも役立つ物事の進め方、すなわち「仕事の型」が身に付きます。

【テキスト（教科書）】

三澤一文『トヨタ式リーダー育成法』日本経済新聞出版社（2014年）,1400円＋税

また、毎回の講義資料を授業支援システムを通じて事前配布します。

【参考書】

バーバラ ミント（著）、山崎 康司（翻訳）『考える技術・書く技術―問題解決力を伸ばすピラミッド原則』ダイヤモンド社（1999年）,2800円＋税

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内演習、リアクションペーパーの提出含む）75点
授業内レポート課題 25点

【学生の意見等からの気づき】

さまざまな問題解決に役立てるように、身近な問題をとりあげての授業内演習を行います。

【学生が準備すべき機器他】

授業はパワーポイントと板書を併用して行います。また、授業に必要な資料の配布や課題提出等には授業支援システム等を利用します。

【その他の重要事項】

担当教員はアクセンチュアやベイン・アンド・カンパニーでのコンサルタント経験、外資系ソフトウェア会社でのマネジメント経験などを有していますので、実社会での多くの事例を講義で紹介いたします。毎回の授業中、授業後の質問を歓迎します。

【関連科目】

本授業の英語授業での関連科目は Introduction to Organizational Management（G B P 科目）です。また、日本語授業での関連科目は「ものづくり経営論」です。

MAN200FA-A5403

戦略的マーケティング

2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

岡本 慶子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

あなたが洋服や靴を購入する店のバックヤードに「商品が到着するまで」に「どんな人が、どうやって商品を作り、どうやって運ばれてきたか。費用はどのくらいかかっているのか。」その活動は経営学とどのようにかかわっているのか。日本のファッション業界を例にとり、企業がどのような戦略を立てているかを観察し、分析します。ショッピングをする時、新たな目線で商品を観察し、マーケティング戦略について思考できるようになることが目的です。

【到達目標】

日本のファッション業界はどのように始まり、今、どんな状況に置かれているか。ファッション業界を切り口として「商品の企画、見積、生産、貿易、流通、販売促進、法令、社会的責任、採用、業界の構図、歴史」など経営学とどんなつながりがあるかを学びます。その上で、今後の業界や企業の戦略について、学生自ら事実や情報を集め、グループワークを通して考えられるようになることが目標です。考えたことは理論的にまとめてレポートとして記載できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

トピックを分けて、講義、グループワーク、ディスカッション、個人ワークを行います。リアクションペーパー、プレゼンテーション、小レポートなどテーマに合わせて取り入れます。都合がつけば、実務家を招いて講演をお願いしたいと思います。各回の内容は前後する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	コース概要 業界の構図
2	ファッションビジネス	日本のファッション業界。ユニクロ、しまむら、グローバルワーク、百貨店等
3	ファッション企業比較	店舗観察から商品の品揃えを比較する
4	繊維アパレル業界からファッション業界へ	昭和から平成へ、その後
5	変化した商社、問屋の役割	伊藤忠商事、三菱商事他 レポート1
6	紡績、繊維工場と縫製工場	日本と海外とのかかわり
7	商品の企画と生産	商品の企画と生産スケジュール ゲストの企業研究
8	ゲスト講演	実務家の講演
9	生産、流通、見積りと小売価格	生産地、流通経路の確定と見積
10	貿易、法律	貿易協定、関税、関税割当、独占禁止
	グループプロジェクト	法、景品表示法
	レポートについて	グループプロジェクト計画
11	生産管理、品質管理と品質基準	品質をどのように保持するか。 グループプロジェクト活動
	グループプロジェクト	
	参考文献について	
12	オンラインビジネス	E-コマース、アプリ
	グループプロジェクト	グループプロジェクト活動
13	行動規範	企業の社会的責任
	レポート2	レポート記載
14	グループプロジェクトまとめ	まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：文献を読む、ウェブサイト参照する。グループワークに関する準備等、宿題としてまとめを提出、等。
復習：プレゼンの準備、パワーポイント資料作成等。レポート準備、等。

【テキスト（教科書）】

必要な文献は前もって授業支援システムで配布します。ホームページ閲覧の企業も事前に連絡します。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加とリアクションペーパー（ノート作成と授業のまとめ） - 40%
宿題（グループワークの準備、協力含む） - 35%
個人ワーク（授業内レポートなど） - 25%

全て記述式となります。

遅刻、欠席、宿題の未提出の多い方、及び提出物の要求基準に未達の方は点数が下がります。

評価基準について初回に詳しく説明します。履修を考えている方は初回の授業に必ず出席してください。

特別な理由なく初回欠席の方は、履修できなくなる場合がありますのでご了解ください。

【学生の意見等からの気づき】

「ファッションのマーケットリサーチのやり方、販売戦略の立て方など、小売り現場の戦略の授業かと思ったら違った。」この授業は、店舗や営業の次のステップとして本部商品部等で働く時に必要となる経営学やマーケティングに関連することをファッション業界を例にとり取扱います。

あなたの仕事にどんな戦略が必要か、答えはネットには書かれていません。自分で自分の仕事の戦略を立てるにはどうすれば良いか、授業を通して学んでほしいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

授業中にスマホまたはパソコンで情報収集することがあります。

グループプロジェクト時にパワーポイント。予習復習にパソコン。

授業支援システム使用 - 2 回目までに登録、及びメールアドレスのアップデートを行ってください。

授業の連絡事項は授業支援システム及びメールで行います。

【その他の重要事項】

履修人数によりグループプロジェクトの発表方法（プレゼン、レポート、または他の方法）を決定いたします。

【関連科目】

秋学期のグローバル・ファッションビジネス

【実務経験のある教員による授業】

国内外の繊維、アパレル、流通業界で専門職、総合職として勤務経験を持つ教員の授業です。

商品の開発からお客様の手に届くまで、日々様々な困難に直面します。問題点を明確にし、戦略を練り、解決し、売上につなげるためにはどうすればよいか。それを考える授業を行います。

【Outline and objectives】

Students will learn about current fashion businesses and textile/apparel companies in Japan by observing historical and geographical development of these industries. Students will also discuss strategies of these businesses. Moreover, by observing recent business trends, students will analyze the strategies of an individual company as a group project.

岡本 慶子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ファッションデザイナーが主役の時代は終わりました。誰もが毎日着ている衣服を扱うファッションビジネスは、どのような経緯で現在のファストファッションに代表される大きな1つのグローバルマーケットになったのでしょうか。日本でよく見かける海外ファッションブランドは、海外でどのようなビジネスを行っているのか。ヨーロッパのクチュールから、アメリカのカジュアルチェーン店まで、様々な業態とそのビジネスモデルがどのように発展し現在に至ったかを学びます。業界を問わず、バイヤー、マーチャンダイザー、マーケティングマネジャーなどを指す、「これからの時代を担う学生に必要な力とは何か」をファッションビジネスを通して学び、考えます。

【到達目標】

ヨーロッパ、アメリカ、日本やその周辺国がどのようにかわりあって現在のファッションビジネスが成り立っているのか。各国の現状やサプライチェーンの仕組み、貿易に影響を与える国の方針を理解し、今後、世界のビジネスを牽引していく企業戦略について学生自ら事実や情報を集め、グループワークを通して考えられるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

トピックを分けて、講義、グループワーク、ディスカッション、個人ワークを行います。リアクションペーパー、プレゼンテーション、小レポートなどテーマに合わせて取り入れます。都合がつけば、実務家を招いて講演をお願いしたいと考えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	コース概要。 春学期の復習
2	アメリカのファッション業界	Levi's, Macy's, GAP
3	アメリカ繊維アパレル業界の脅威としての日本、憧れのヨーロッパ	アメリカの市場拡大
4	アメリカのファッション企業のマーケティング戦略	ドレス、カジュアル、スポーツ レポート記載
5	ヨーロッパファッション業界の歴史、戦略	高級ブランドの戦略 LVMH, Gucci & Prada 他
6	ヨーロッパブランドとのライセンス契約	ライセンス契約。特許。トレードマーク、知的財産権
7	ヨーロッパ、アメリカ、日本の比較	業界としての戦略の違い
8	グローバルビジネスの拡大 グローバルソーシングと販売	環境問題、企業の社会的責任 Abercrombie & Fitch, Victoria's Secret, 他
9	イスラムファッション 生産国としての中国、東南アジア、東欧、アフリカ、南アメリカ他	なぜ海外調達するのか 各国指数比較
10	ファストファッション グループプロジェクト レポートについて	H&M, Inditex グループプロジェクト計画
11	Inditex グループプロジェクト	採用情報から見る職場、職種、 グループプロジェクト活動
12	ファッションテック グループプロジェクト	スタートアップ企業 グループプロジェクト活動
13	参考文献について グループプロジェクト レポート 2	グループプロジェクト活動 レポート記載
14	グループプロジェクトまとめ	まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：文献を読む、ウェブサイトを参照する。グループワークに関する準備等、宿題としてまとめを提出。
復習：プレゼンの準備、パワーポイント資料作成等。レポート準備。

【テキスト（教科書）】

必要な文献は前もって授業支援システムで配布します。ホームページ閲覧の企業も事前に連絡します。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加とリアクションペーパー（ノート作成と授業のまとめ） - 40%
宿題（グループワークの準備、協力含む） - 35%
個人ワーク（授業内レポートなど） - 25%

全て記述式となります。

遅刻、欠席、宿題の未提出の多い方、及び提出物の要求基準に未達の方は点数が下がります。

評価基準について初回に詳しく説明します。履修を考えている方は初回の授業に必ず出席してください。

特別な理由なく初回欠席の方は、履修できなくなる場合がありますのでご了解ください。

【学生の意見等からの気づき】

「ファッションのマーケットリサーチのやり方、販売戦略の立て方など、小売り現場の戦略の授業かと思ったら違った。」この授業は、春学期に学んだ日本のファッションビジネスの次のステップとして世界に向けて働く時に必要となる経営学やマーケティングに関連することをファッション業界を例にとり取扱います。

あなたの仕事にどんな戦略が必要か、答えはネットには書かれていません。自分で自分の仕事の戦略を立てるにはどうすれば良いか、授業を通して学んでほしいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

授業中にスマホまたはパソコンで情報収集することがあります。（英語サイトも使用）

グループプロジェクト時にパワーポイント。予習復習にパソコン。

授業支援システム使用 - 2 回目までに登録、及びメールアドレスのアップデイトを行ってください。

授業の連絡事項は授業支援システム及びメールで行います。

【その他の重要事項】

履修人数によりグループプロジェクトの発表方法（プレゼン、レポート、またはほかの方法）を決定いたします。

【関連科目】

春学期の戦略的マーケティング

【実務経験のある教員による授業】

国内外の繊維、アパレル、流通業界で専門職、総合職として勤務経験を持つ教員の授業です。

商品の開発からお客様の手に届くまで、日々様々な困難に直面します。問題点を明確にし、戦略を練り、解決し、売上につなげるためにはどうすればよいか。それを考える授業を行います。

【Outline and objectives】

Fashion designers are not leading the industry any longer. Students will learn about current global fashion businesses and textile/apparel companies by observing historical and geographical development of these industries. Students will also discuss future possibilities of these businesses. Moreover, by observing recent business trends, students will analyze the strategies of an individual company as a group project.

MAN200FA-A5405

ものづくり経営論

2～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

三澤 一文

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

トヨタが考える理想の車は、孫悟空の「きんと雲」です。今日のトヨタ自動車を築いた豊田英二氏が、理想の車のイメージとして挙げた「きんと雲」は、ものすごいスピードで目的地に着きながら、環境を汚さない、究極の省エネ、そして安全な理想的な乗り物です。このような一般人の想像を絶する理想をめざすことが、日本の「ものづくり」の社会的使命のひとつです。一方、日々のビジネスの競争は、ますます、厳しくなっています。いずれの業界も、コスト競争、スピード競争は激烈です。とくに、日本企業にとって、かつての欧米企業へのキャッチアップ一辺倒の時代は終わり、新興国からの追い上げに負けないようにしなければいけないのが実情です。

本授業は、「きんと雲」のような「理想主義」と、企業の現場での「現実主義」の間での「ものづくり」の葛藤を適切にマネジメントする考え方と方法を得ることが目的です。

【到達目標】

企業の現場にとって、「価格競争に陥らないような独創的な製品を開発したい」「製品開発のスピードで他社より勝りたい」「コスト競争力をもっと上げたい」「高い品質で顧客に満足してもらいたい」といった現実の要望に応えられる考え方や方法論がたいへん重要です。しかし、無理に「ものづくり」のスピードを上げると品質が落ちてしまったり、また、製品の訴求力にこだわり過ぎるとコスト競争に勝てなくなったりします。現実「ものづくり」を成功させるには、相反、矛盾するこれら複数の要望のあいだでの微妙なバランスが欠かせません。本授業を受講することで、以上のような、企業のものづくりの現場で実際に起きている典型的な問題とその原因を理解し、さらにそれらの問題の解決方法を得られ、他の様々な問題解決に応用できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式を主体としますが、適時、リアクションペーパー（①授業で興味をもった点、②疑問に思った点、③その他の感想や意見、などを記入し、授業後に提出）を活用し、担当教員と受講生との間の効率的、継続的な双方向コミュニケーションを図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	なぜ、あの有名企業は「ものづくり」に失敗したのか？
2	なぜ「ものづくり」にマネジメントが必要なのか？	グローバルな経営潮流と新デジタル技術への取り組みの重要性
3	問題解決型「ものづくり」の重要性	独創性、スピード、コスト、品質のバランス追求
4	なぜ企業は不毛な値引き競争に陥るのか？	コモディティ化のわな、事例紹介、グループ演習
5	脱コモディティの戦略	ブラックボックス戦略、ニッチ戦略、などの事例紹介
6	なぜ企業は商品開発に失敗するのか？	スニーカーゲームの負け組企業の事例紹介など
7	ヒットする「ものづくり」の方法	商品・技術・製品の三つの開発プロセスの連携管理
8	なぜコストダウンは思うようにできないのか？	見えるコストと見えないコスト
9	コストは改善・改革・革新の三位一体で削減	企業事例紹介
10	日本企業はこれからも品質競争で勝てるのか？	そもそも品質の考え方や定義が従来と変わった
11	予期せぬ問題や不具合の発生を防ぐ方法	人間系とIT系の連携、事例紹介
12	「ものづくり」の二律背反問題とは？	企業事例紹介
13	これからの新しい「ものづくり」とは？	AI、IoT、3Dプリンティング、ロボット、拡張現実（AR）などの新技術の活用
14	授業内レポート	本授業で学んだ内容をベースに、気づいたことや、今後、自分なりに応用したいことなどを考察と私見を含めて、できるだけ具体的にレポートしてください。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

トヨタでは「ものづくり」の根本は「人づくり」にある、と言われていました。単なる技術的な「モノづくり」は単発で一過性のヒット商品に終わる可能性が大ですが、トヨタのように、事務系、技術系を問わず、すべての人が共通の心がけと心構えで、日々の問題解決に努めることができるようになれば、その仕事の進め方やスキルは将来のいかなる業界、業種でも活かされるはずで、本授業でも、「ものづくり」と「人づくり」の両方の視点から講義をします。

【テキスト（教科書）】

毎回の講義資料を授業支援システムを通じて事前配布します。

【参考書】

三澤一文 『技術マネジメント入門』日本経済新聞出版社（2007年）、830円＋税

本書の巻末189頁の「より深く理解するためのブックガイド」も参考書として利用してください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーの提出含む）75点

授業内レポート 25点

【学生の意見等からの気づき】

AIやロボット、IoT、3Dプリンティングなどを活用する最新のものづくりの考え方をさらに講義内容に追加します。

【学生が準備すべき機器他】

授業はパワーポイントと板書を併用して行います。また、授業に必要な資料の配布や課題提出等には授業支援システム等を利用します。

【その他の重要事項】

担当教員はアクセンチュアやベイン・アンド・カンパニーでのコンサルタント経験、外資系ソフトウェア会社でのマネジメント経験などを有していますので、実社会での多くの事例を講義で紹介いたします。毎回の授業中、授業後の質問を歓迎します。

【関連科目】

「問題解決技法入門」です。また、AIやロボット、IoTなど新技術の経営への応用に関する英語授業での関連科目は Workshop II（GBP科目）です。

Allyson MacKenzie

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The aim of this course is to help students to prepare for Study Abroad at the University of Nevada (Reno) and the University of Monash (Australia). Students will use English as a means of communication and learn useful intercultural and social skills necessary to gain confidence for success in a foreign country.

【到達目標】

「D2-1」と「D5」に関連が かなりある

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Students participate in a variety of activities utilizing the four skills of reading, writing, listening, and speaking. Class activities include mostly pair and group work along with presentations and task based activities. Homework will be assigned each class and completion is required in order to be able to actively participate during lessons. Students are expected to speak in English throughout the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Course introduction Unit 1: Identity	Explanation of course guidelines. Introduction to culture brainstorming and discussion
Lesson 2	Unit 1: Identity	Defining culture, levels of culture, cultural differences
Lesson 3	Unit 1: Identity	Values and Culture shock
Lesson 4	Unit 2: Communication	Culture in Language (verbal and non-verbal)
Lesson 5	Unit 2: Communication	Developing Inter-cultural communication skills
Lesson 6	Unit 3: Conflict and negotiating	Challenges in cross-cultural communications
Lesson 7	Unit 3: Conflict and negotiating	Understanding how and why conflict happens and learn ways to avoid conflict
Lesson 8	Mid-term assessment	Presentations of fieldwork
Lesson 9	Unit 4: Individualism and levels of politeness	Power differences
Lesson 10	Unit 4: Individualism and levels of politeness	High and low context cultures
Lesson 11	Unit 4: Individualism and levels of politeness	Tone and register; feedback and response to feedback
Lesson 12	Unit 5: Diversity and Change	Building connections, problem solving
Lesson 13	Unit 5: Diversity & Change	Social change and problems facing society
Lesson 14	Final Assessment	Student final presentations and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to come prepared to class each week by doing the readings and homework in advance, looking up unfamiliar vocabulary, writing the assigned essays, etc. Students are also required to do listening (online videos/audio files) activities BEFORE class each week. There will be one major fieldwork assignment whereby students need to interview an exchange student. Start looking for someone ASAP. Finally, late work will not be accepted unless there is a good reason (illness, emergency).

【テキスト（教科書）】

Handouts and listening assignments will be given in class.

【参考書】

Bring a dictionary with you to class.

【成績評価の方法と基準】

Homework & in-class quizzes and assignments 50%

Mid-term assessment 20%

Final assessment 30%

If you are absent it is YOUR responsibility to submit work and find out what you need to do for the following lesson. Missing more than two classes will severely impact your final grade in this course.

【学生の意見等からの気づき】

Students will be required to interview an exchange student or other non-Japanese person who is new to Japan as fieldwork and write a report as one of the assignments.

【学生が準備すべき機器他】

A notebook, pen, pencil

【その他の重要事項】

The better prepared you are BEFORE you leave to go abroad the more enriching and rewarding your experience will be. This is the time to take chances and push yourself! Go for it.

【Outline and objectives】

A variety of topics connected to identity, communication (verbal and non-verbal), conflict and negotiation, levels of politeness and diversity in connection to culture and language will be explored as a means of preparing students for their journey abroad.

ECN200FA-A5408

Social Responsibility in the Digital Economy

2～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces students to key concepts of social responsibility at the business, personal, and public policy levels. In recent years, we have seen many new social media and digital platform businesses become very successful as well as important economically and socially. Leaders of these businesses often note they are doing very well for their investors while doing good things for humanity. We explore multiple perspectives on that notion of social good and implications for the future of business and public policy.

【到達目標】

1. To learn about the role of social responsibility and sustainability in modern business.
2. To gain a new lens for understanding business models, ranging from Line to Airbnb.
3. To exercise critical thinking skills related to current business events.
4. To practice and improve written and oral communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

This course is designed to be highly interactive in a relaxed atmosphere. Class sessions will include more class/group discussions than lectures by the instructor. Students will come to class prepared by assigned reading as well as by preparation to share observations and perspectives that may not have a right or wrong answer. Students will write at least one assigned individual memo and participate in a group that will produce one paper and a presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course Overview and Introductions to Each Other
2	Readings Background	(Prologue) Introduction to Text and Other Source Materials
3	Changing World (Chapt. 1)	Challenges of the New Economy
4	Win-Win (Chapt. 2)	The Notion of Doing Well by Doing Good
5	Ethical Action	Ethics in Business Game
6	Disruptors; (Chapt 3)	What are disrupters disrupting?
7	Thought Leaders	Why They May do More Good
8	Third Party Certification	The growing business of certifying responsibility
9	Change Makers; (Chapter 5)	Why Change Sometimes Doesn't Happen
10	Justice; (Chapters 6 & 7)	The Role of Justice in Responsibility
11	Meetings	Day dedicated to structured group work to prepare final deliverables
12	Individual Responsibility (Epilogue)	The challenge of navigating dependencies
13	Team Presentations	Each team gives a presentation as agreed with instructor
14	Meetings with Professor - Feedback and Review	Course summary activity while each group meets with instructor

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete weekly reading assignments and will be responsible for writing one one-page memo-style paper outside class. Also, the group paper/presentation with several other group members (to be assigned) will require some work outside class.

【テキスト（教科書）】

Giridharadas, Anand. *Winners Take All: The Elite Charade of Changing the World*. 2018. New York: Alfred A. Knopf (available as hard copy or e-book).

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Class participation: 40%
Individual writing assignment: 20%
Group Project: 40%

【学生の意見等からの気づき】

This course is being held for the first time.

【学生が準備すべき機器他】

None.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces students to key concepts of social responsibility with respect to environmental sustainability. From the mid 1900s to the present there have numerous and increasingly compelling studies warning of catastrophic change to the global environment. The book, Tomorrow, explores the responses to one such study that gained considerable attention in 2012. We will focus on initiatives, small and large, for taking direction action to address these concerns.

【到達目標】

- 1.To learn about the scope of the environmental sustainability movement.
- 2.To gain new perspectives for imaging and acting out sustainability initiatives.
- 3.To exercise critical thinking skills related to the role of social responsibility with respect to the environment.
- 4.To practice and improve written and oral communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

This course is designed to be highly interactive in a relaxed atmosphere. Class sessions will include more class/group discussions than lectures by the instructor. Students will come to class prepared by assigned reading as well as by preparation to share observations and perspectives that may not have a right or wrong answer. Students will write at least one assigned individual memo and participate in a group that will produce one paper and a presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course Overview and Introductions to Each Other
2	Readings Background	(Introduction;) Introduction to Text and Other Source Materials
3	Japanese Programs	Programs of Environmental Sustainability in Japan
4	Agriculture (Chapt. 1)	The Role of Agriculture and Alternatives
5	Energy; (Chapt. 2)	Business and Policy Initiatives for Energy Change
6	Corporate Action	Review Corporate Initiatives
7	Economy (Chapt. 3)	The Role of Different Economic Models
8	Democracy (Chapt. 4)	The Role of Governance Systems in Sustainability
9	Education (Chapt. 5)	The Role of Educational Systems in Sustainability
10	(Chapt 6 and Conclusion)	Small Starts to Big Ends
11	Meetings	Day Dedicated to Structured Group Work to Prepare Final Deliverables
12	International Initiatives	The challenge of multilateral sustainability programs
13	Team Presentations	Each Team Gives a Presentation as Agreed with Instructor
14	Meetings with Professor - Feedback and Review	Course Summary Activity While Each Group Meets with Instructor

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete weekly reading assignments and will be responsible for writing one one-page memo-style paper outside class. Also, the group paper/presentation with several other group members (to be assigned) will require some work outside class.

【テキスト（教科書）】

Dion, Cyril. Tomorrow: All Over the Globe Solutions Already Exist. 2017. Actes Sud.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Class participation: 40%

Individual writing assignment: 20%

Group Project: 40%

【学生の意見等からの気づき】

This course is being held for the first time.

【学生が準備すべき機器他】

None.

MAN200FA-A5410

Case Studies in International Marketing

2～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a totally case-based course on international marketing. Topics include the strategic decision to enter foreign markets, the selection of markets, and the development of markets in foreign countries. In addition to having internationally marketing concepts reinforced by cases, students will gain a greater depth of internationally marketing by writing a case. A side benefit will be development of research, critical thinking, and communication skills.

【到達目標】

1. To solidify an understanding of the basics of international marketing concepts.
2. To develop an eye for seeing these concepts in reality through the use of case studies.
3. To exercise critical thinking skills to craft a coherent case story.
4. To practice and improve written and oral communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

This course is designed to be highly interactive in a relaxed atmosphere. Class sessions will include more class/group discussions than lectures by the instructor. Students will come to class prepared by assigned reading as well as by preparation to share observations and perspectives that may not have a right or wrong answer. Students will write at least one assigned individual memo and participate in a group that will produce one paper and a presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

I 春学期		
回	テーマ	内容
1	Introduction	Course Overview and Introductions to Each Other
2	Ben and Jerry's - Japan	This is a market entry case
3	Ben and Jerry's Update	Developing the plan for crafting a new case
4	Group Reports	Each group reports on an international marketing news story
5	India Tire Case	How to compete with Chinese Imports
6	Uniqlo Canada Case	How to launch in a new market
7	Google China Case	How to navigate censorship
8	Group Meetings	Groups will work with instructor to plan the writing of a case
9	Emerging Markets	Focus on food retail in Vietnam
10	Negotiation Case	Hotel Management Contract
11	Market withdrawal	Cases of making the decision to exit a market
12	Meetings	Day Dedicated to Structured Group Work to Prepare Final Deliverables
13	Team Presentations	Each Team Gives a Presentation as Agreed with instructor
14	Meetings with Professor - Feedback and Review	Course summary activity while each group meets with instructor

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete weekly reading assignments and will be responsible for writing one one-page memo-style paper outside class. Also, the group paper/presentation with several other group members (to be assigned) will require some work outside class.

【テキスト（教科書）】

Readings for this course will be case studies, such as Hagen, James M., Ben and Jerry's Japan, 2010. Ivey Business School. We will also rely on access to the internet for corporate, market, and other data to be used for creating new cases.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Class participation: 40%
Individual writing assignment: 20%
Group Project: 40%

【学生の意見等からの気づき】

This course is being held for the first time.

【学生が準備すべき機器他】

None.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is a critical examination of international trade regime changes of the last several years. We begin with a review of basic concepts of regional economic integration, including motivations to trade and barriers to trade. After a review of international trade initiatives (e.g., the World Trade Organization) up through the early 21st century, we focus on the reversal from the trend toward deeper multilateral alliances (e.g., as represented by the BREXIT and the US withdrawal from the Trans-Pacific Partnership).

【到達目標】

1. To be familiar with post World War II global trade initiatives.
2. To understand key changes in trade relations of the past few years.
3. To develop the tools and knowledge to critically discuss the motivations and consequences of recent trade relation changes.
4. To practice and improve written and oral communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

This course is designed to be highly interactive in a relaxed atmosphere. Class sessions will include more class/group discussions than lectures by the instructor. Students will come to class prepared by assigned reading as well as by preparation to share observations and perspectives that may not have a right or wrong answer. Students will write at least one assigned individual memo and participate in a group that will produce one paper and a presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

I 春学期		
回	テーマ	内容
1	Introduction	Course Overview and Introductions to Each Other
2	Motivations	Motivations for Trade and Historical Context
3	Obstacles	Obstacles to Trade and Post War Trade Agreements
4	Integration	Types and Examples of Regional Economic Integration
5	Multilateralism	Movements in the US Away from Multilateral Trade Agreements
6	Brexit	The Causes and Consequences of Internal Threats to the EU
7	Tariffs	Who are the Winners and Losers?
8	CPTPP	Evolution of the Comprehensive and Progressive Agreement for Trans-Pacific Partnership
9	Japan	How do the Changing Regimes Affect Japan?
10	Corporate Response	Cases of Responses to Trade Regime Changes
11	Meetings	Day Dedicated to Structured Group Work to Prepare Final Deliverables
12	Boycotts and Embargoes	Cases of the Effect of these Policies
13	Team Presentations	Each Team Gives a Presentation as Agreed with instructor
14	Meetings with Professor - Feedback and Review	Course summary activity while each group meets with instructor

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete weekly reading assignments and will be responsible for writing one one-page memo-style paper outside class. Also, the group paper/presentation with several other group members (to be assigned) will require some work outside class.

【テキスト（教科書）】

Czinkota, Michael R. In Search for the Soul of International Business. 2018. Business Expert Press. We will refer to the text throughout the course, but most of our reading will be assignments of recent case studies and recent news articles to be retrieved online.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Class participation: 40%
Individual writing assignment: 20%
Group Project: 40%

【学生の意見等からの気づき】

This course is being held for the first time.

【学生が準備すべき機器他】

None.

ECN200FA-A5412

寄附講座・資本主義の役割と証券投資

2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

山口 しのぶ

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】金融資本市場の役割及び証券投資における重要なテーマについて、野村証券社員として豊富な実務経験を重ねた講師陣が 14 回の講義を通じてリレー形式で解説を行う。

【授業の目的・意義】生きた経済や実践的な金融知識について学び、実生活において金融リテラシーを活用した行動がとれるようになる。

【到達目標】

- ・金融資本市場の役割や経済との関りを理解・習得できる。
- ・「株式」「債券」「投資信託」「外国為替」などの証券市場・投資における各特徴や、分散投資の効用などが理解できる。
- ・自身のライフプランニングや資産形成に必要な金融リテラシーが習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

野村グループの各講師による講義を主軸に進めていきます。適宜授業中に質問を行ったり、計算問題を解いて頂くなど双方向でのやりとりが発生することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	金融市場と私たちの生活がどのように密接に結びついているかを理解し、金融リテラシーを身に着けることの重要性、本講義で学習する意義を理解する。
第 2 回	経済情報の捉え方	我々の周りにある様々な経済情報を通じて、どのように経済というものが成り立っているかを理解する。企業・家計・国・海外と各項目に分け、関連性を確認する。
第 3 回	金融資本市場の役割とその変化	重要性が高まっている金融市場への理解を深める為、金融の仕組み、我が国の資金循環の状況、経済と関連した最近の構造的変化などを解説し、今後の展望を交えながら金融市場の役割を理解する。
第 4 回	証券投資のリスク・リターン	「投資とは」「リスクとは」「リターンとは」という基礎知識と、「リスク・リターン」の関係について学習した後、リスクコントロールの基本的な考え方である「長期投資」の考え方とその具体的手法を学ぶ。
第 5 回	ポートフォリオ・マネジメント	ポートフォリオ構築の際の重要な要因である「分散投資」の考え方と、その元となる「リスク・リターン」の関係について学習する。
第 6 回	外国為替相場とその変動要因について	「外国為替」の基本的な事柄を紹介し、外国為替レートの変動要因について確認する。また世界の外国為替の状況を知る。
第 7 回	債券市場の役割と投資の考え方	債券と預貯金の違い、利回りと単価の関係などの基礎知識を踏まえた上で、債券価格（＝金利）の変動と景気・政策・需給などとの関連について理解を深める。また、債券投資に伴う投資リスクについても学習する。
第 8 回	株式市場の役割と投資の考え方	株式の誕生からその意義、原則などの基礎知識と、株式投資の魅力や株式市場について解説した後、株価の分析、評価方法を踏まえた銘柄選択の考え方などについて理解を深める。
第 9 回	投資信託の役割とその仕組み	「貯蓄から投資へ」と資産の流れが強まる中、その先導役として期待される投資信託の理解を深める。投資信託という言葉の意味から、特徴、仕組みなどについて学習する。また、投資信託の選び方や最近注目されている投資信託についても、具体的に学ぶ。

第 10 回	グローバル化する世界と資本主義の果たす役割	野村ホールディングス名物講師である池上シニア・コミュニケーションズ・オフィサーより、「グローバル化とフラット化の進展による世界の変化と、この新たな時代に何が求められるのか」について学ぶ。
第 11 回	資本市場における投資家心理	証券投資を行なう際の心構えとして、私たちの投資判断に影響を与える様々な心理的バイアスについて理解するとともに、その具体例を通して対処法と投資行動への応用法を学習する。
第 12 回	産業展望と投資の考え方	成長産業とこれからの日本に期待される成長戦略について考える。具体的にどの産業がどのように変貌するのかを可能な限り具体的解りやすく解説する。
第 13 回	ライフプランニングと資産形成	なぜライフプランが必要なのか、ライフプランを踏まえた資産管理の重要性、そしてその方法を具体的に紹介する。特に、資産形成制度を詳しく取り上げ、いま話題の少額投資非課税制度（NISA、ニーサ）についても紹介する。
第 14 回	資産形成と非課税制度	ライフプランニングの実践にあたり、資産形成の基礎となる NISA 等の非課税制度に関して学ぶ。また、近年、制度の充実により加入者が拡大中の確定拠出年金に加え、国民年金や財形制度に関してもその概要を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義用資料による事後学習が望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しないが、各回の講義資料を授業支援システムにて事前に配信予定。

【参考書】

「証券投資の基礎」野村証券投資情報部 編/丸善株式会社

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80%、小レポート提出 20%（14 回の講義のいずれかで 2 回実施。当日の講義内容のポイントを箇条書きで 3 点まとめて提出）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

講義の 1 週間前を目途に、授業支援システムにて講義資料を配布予定です。

【実務経験のある教員による授業】

全講義の講師が証券業界・あるいはアセットマネジメント業界において勤務しています。証券投資提案、ライフプランニング、トレーディング、M&A、アセットマネジメントなど各分野で活躍中の人材が最前線で起きている経済事象についての実例を交えながら講義を行います。

【Outline and objectives】

Role of the Capital Markets and the Securities Investment

武貞 稔彦

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進化する世界において、国と国の間に所得だけではなく様々な格差が広がっている。経済協力は、そういった格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。人々がより善く生きることができる社会の構築に受講生が関わるために、この講義では国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

【到達目標】

本講義を通じて獲得を目指す基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取り組みを含む。これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなす得ることについて、受講生が自分なりの意見や考えを持ち、人に伝えられるようになることが期待される。加えて「持続可能な開発目標（SDGs）」におけるパートナーシップの意義についても説明できるようにすることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

国際経済協力論 I においては、講師の経済協力の実務経験の紹介も交えながら、日本の取り組みを中心に、経済協力の歴史や背景、その仕組みについての理解を深めるための講義を進める。必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。またリアクションペーパー（教員からの簡単な質問への回答と、学生からの質問やコメントを記入するもの）を配布、時間内に記入のうえ回収することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：国際経済協力とは？	国際経済協力とはどのような取り組みか、またなぜそのような取り組みが必要とされているのかについて理解する。
第 2 回	開発途上国とは？	開発途上国と呼ばれる国や地域はどのようなところで、どのように生まれたのかを理解し、われわれが途上国をみる際の視点を再考する。
第 3 回	国際社会と経済協力の歴史（1）（1945 年～1960 年代）：戦後世界と南北問題	第二次世界大戦後の国際秩序形成の過程と南北問題の登場、初期の経済協力の取り組みについて概観する。
第 4 回	国際社会と経済協力の歴史（2）（1970 年～1980 年代）：経済協力への失望と変化の兆し	経済協力の初期の取り組みへの反省と幻滅、その後の変化につながる新たな考え方の登場を概観する。
第 5 回	国際社会と経済協力の歴史（3）（1990 年代～現在）：冷戦後の世界とグローバル化	冷戦終結後の国際秩序と、グローバル化における経済協力の位置づけを概観する。
第 6 回	日本の経済協力の歩み（1）：被援助国から援助国へ	第二次世界大戦後の日本は援助を受ける国であったこと、その経験がその後の日本の経済協力に与えた影響について理解する。
第 7 回	日本の経済協力の歩み（2）：援助国としてのスタート	日本の援助国としての取り組みについて、1950 年代～1970 年代までの社会経済の変化とあわせ概観する。
第 8 回	日本の経済協力の歩み（3）：援助大国と日本の責任	日本の援助国としての取り組みについて 1980 年代～2000 年以降の社会経済の変化とあわせ概観する。
第 9 回	経済協力の仕組みと方法	日本の経済協力の仕組みと現状（特徴）につき、統計資料などをともに理解する。
第 10 回	経済協力の現場に関わる人々：政府、援助機関、企業、NGO(NPO)	日本の経済協力はどのような人々に担われているのかを理解する。特に政府（「官」）ではなく、「民」の果たしている役割の大きさについて理解する。
第 11 回	経済協力をめぐる議論の大きな流れ（1）：経済成長と人間開発	経済協力の基本的な目標の変遷について大きな流れとして理解する。「経済」重視から「人間」重視に移り変わる様を、具体的な戦略（アプローチ）の変遷を通じて理解する。

第 12 回 経済協力をめぐる議論の大きな流れ（2）：持続可能な開発と環境

第 13 回 経済協力の評価と効果をめぐる議論

第 14 回 日本が経済協力を行う理由

環境をめぐる問題が経済協力の分野でとりあげられてきた経緯を知り、時代ごとに異なる環境問題の様相について理解する。
これまでの経済協力には効果はあったのか、という問いに対する答えを概観する。そのうえでこれからの経済協力について考えるための材料を得る。
日本は途上国への経済協力を続けるべきか、そうだとすればその理由は何か、日本国民がそれらの問いをどう考えているかを知る。そのうえで自分なりの答えを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。受講生は各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を、講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

斎藤文彦（2005 年）『国際開発論』（日本評論社）
勝間靖編著（2012 年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）
牧田東一編著（2013 年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力入門』（学陽書房）
外務省（毎年発行）『日本の国際協力』（ODA 白書）

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（20%）と期末試験（80%）による。リアクションペーパーは加点要素とする場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

提供される情報が多いため、理解しやすい形でメリハリをつけることが求められているところ授業運営に留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline and objectives】

This is a first part of the course on economic cooperation for developing countries putting emphasis on Japanese Official Development Assistance (ODA). Students will be able to understand basic knowledge and background of economic cooperation for developing countries.

国際経済協力論Ⅱ

2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

武貞 稔彦

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進展する世界において、国と国の間に所得だけではなく様々な格差が広がっている。経済協力は、そういった格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。人々がより善く生きることができる社会の構築に受講生が関わるために、この講義では国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

【到達目標】

本講義を通じて獲得する基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取り組みを含む。これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなす得ることについて、受講生は自分なりの意見や考えを持てるようになることが期待される。加えて「持続可能な開発目標（SDGs）」におけるパートナーシップの意義についても説明できるようにすることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

国際経済協力論Ⅱにおいては、国際経済協力の取り組みにおいて近年注目を浴びているテーマについてより深く解説する。特に、誰が、なぜ経済協力をを行うのか、経済協力の目的とされている「開発」とは一体何を意味するのか、という点を中心に各テーマにアプローチする。

必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。

またリアクションペーパー（教員からの簡単な質問への回答と、学生からの質問やコメントを記入するもの）を配布、時間内に記入のうえ回収することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：国際経済協力論Ⅰの復習と国際経済協力をめぐる課題の俯瞰	春学期講義の簡単な概括とあわせ、秋学期にとりあげるテーマについて「持続可能な開発目標（SDGs）」とあわせて全体像を紹介する。
第 2 回	開発と文化：経済協力の目的を問直す視点	開発の目標がいかに歴史的に形作られてきたかを知り、多様な文化／社会と開発の関係を概観する。
第 3 回	新たな主体による経済協力（1）NGO(NPO)と市民社会	近年、経済協力において主たるアクターとなっている NGO(NPO) の活動について概観する。
第 4 回	新たな主体による経済協力（2）民間企業	一般に営利を追求すると思われる民間企業が、経済協力の分野で行っている活動を紹介し、その背景を概観する。
第 5 回	開発とジェンダー／マイクロクレジットという試み	ノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行（バングラデシュ）を事例に、開発とジェンダーの関係について概観する。
第 6 回	人間の安全保障と経済協力	近年注目される「人間の安全保障」という考え方を知り、国際社会による「人間の安全保障」実現に向けた行動を概観する。
第 7 回	紛争と平和構築：テロとの戦いと脆弱国家の復興支援	経済協力と紛争／平和の関係について、近年の新たな取り組みをもとに考える。
第 8 回	アフリカ（1）：アフリカの苦悩 激しい貧困と機能しない国家	アフリカ諸国とそこに暮らす人々がおかれている厳しい状況について概観する。
第 9 回	アフリカ（2）：アフリカに対して何ができるのか	これまでのアフリカ支援の評価と今後の課題について概観する。
第 10 回	フェア・トレード（1）：なぜ今、フェア・トレードが重要か？	フェア・トレードとよばれる取り組みがなぜ必要とされているのかについて理解する。
第 11 回	フェア・トレード（2）：フェア・トレードの試みとその評価	具体的なフェア・トレードの取り組みを紹介し、その課題や現状について概観する。
第 12 回	国際経済協力や開発による自然・社会環境への影響	開発による環境への影響はどのようなものか概観し、環境への影響を回避／最小限にするためにとられる対策について理解する。

- 第 13 回 地球環境問題と経済協力：気候変動（地球温暖化）を事例に、国際社会における環境と開発のバランスを中心に
第 14 回 まとめ：持続可能な開発目標（SDGs）と支援、パートナーシップ

気候変動（地球温暖化）を事例に、国際社会における環境と開発のバランスの議論を概観する。
さまざまな国際協力の課題や現状を踏まえて、これからの支援やパートナーシップのあり方について概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。受講生は各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を、講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する

【参考書】

斎藤文彦（2005 年）『国際開発論』（日本評論社）
勝間靖編著（2012 年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）
牧田東一編著（2013 年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力論入門』（学陽書房）
外務省（毎年発行）『日本の国際協力』（ODA 白書）

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（20%）と期末試験（80%）による。リアクションペーパーは加要素とする場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

提供される情報が多いため、講義が単調なものとならないように、学生の理解をすすめるようメリハリをつけることを考えていく。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline and objectives】

This is a second part of the course on economic cooperation for developing countries putting emphasis on Japanese Official Development Assistance (ODA). Students will be able to understand basic knowledge and background of economic cooperation for developing countries including contemporary topics in the international society regarding Sustainable Development Goals (SDGs).

MAN100FA-A5573

入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

MAN100FA-A4564

入門外国語経営学 I（2018 年度以前入学者）

MAN100FA-A4563

入門外国語経営学 I（2018 年度以前入学者）

MAN100FA-A5574

入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

大木 良子

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学の基本的な英文テキストを読むことにより、英語の読解力をつけながら、経済学的思考を身につける。具体的には、何をどれくらい買い、どれくらい作り、それらをどのように取引するののかについて、人々の合理的な意思決定を学ぶ。

また、ミクロ経済学を応用して最近の企業の戦略や市場を分析している英語論文を読み、経営の分野に経済学を応用し分析している例を学ぶ。

【到達目標】

1. 経済学に関する英文テキストや専門的な英語論文を読みこなせるようになる。
2. 基本的な専門用語の定義を英語で身につける。
3. 経済学的な考え方を身につけ、それを企業の意思決定の分析に応用できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ミクロ経済学の英文テキスト輪読と英語論文輪読の 2 部構成とする。いずれも、担当者を事前に決めず、参加者全員が指定の箇所を読んでくることを前提とする。毎回、テキストと論文の内容について日本語での報告、質疑応答、ディスカッション等を行う。

第一部：ミクロ経済学に関する英文のテキストを輪読する。各章の経済理論については、教員が英語スライドを用いて、日本語で解説を行う。

第二部：主にハーバードビジネスレビューに掲載されている経済学者が執筆した英語論文を輪読する。背後にある経済学理論については、教員が日本語で解説を行う。

これらに加えて、経済学に関連する重要な英語表現の習熟度確認に重点を置いた中間、期末試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】**春学期および秋学期**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、ミクロ経済学とは？	授業の進め方を詳しく説明した後、ミクロ経済学について簡単な紹介をします。（売り手・買い手の意思決定がどのように行われているか、市場がどのように働き、政府はどのような役割を果たしているか？）
2	経済学的考え方 1 英語論文輪読 1	合理性、インセンティブ、機会費用、モデルを用いた分析の意義などについて学びます。
3	経済学的考え方 2 英語論文輪読 2	最適化、均衡など経済学で用いる概念について学びます。
4	経済学的考え方 3 英語論文輪読 3	第 3 回までに学んだ内容を実際の事例に応用します。
5	需要と供給 1 英語論文輪読 4	需要と供給の定義とグラフを用いた分析について学びます。
6	需要と供給 2 英語論文輪読 5	市場における需要と供給の関係について学びます。
7	需要と供給 3 英語論文輪読 6	需要と供給についてこれまで学んだ内容を実際の事例に応用します。
8	中間試験	専門用語の英語訳、これまでに輪読で用いた英語文章の正確な和訳、英語による経済理論の理解を測る問題を出題します。終了後解説を行います。
9	消費者、生産者の余剰、市場の効率性 英語論文輪読 7	消費者余剰、生産者余剰について学び、完全競争市場の効率性について説明します。
10	完全競争市場における企業 英語論文輪読 8	完全競争企業における企業の利潤最大化行動について学びます。
11	独占 英語論文輪読 9	独占はなぜ起きるのかを説明し、独占企業の利潤最大化行動を学びます。

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

12	寡占 英語論文輪読 10	寡占市場における企業の戦略的な意思決定について学びます。
13	企業の行動 英語論文輪読 11	競争の市場、独占市場、寡占市場それぞれについてこれまで学んだ概念を実際の事例に応用します。
14	期末試験	専門用語の英語訳、これまでに輪読で用いた英語文章の正確な和訳、英語による経済理論の理解を測る問題を出題します。終了後解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、英文テキストおよび論文の指定された章を予習する。また、中間・期末試験を念頭に復習する。

【テキスト（教科書）】

以下のテキストのいくつかの章を選択して用います。開講時に詳しく説明します。また、受講生の関心や経済学・英語のレベルにより、テキストを変更する可能性もあります。

・ Principles of Microeconomics, G. Mankiw, Cengage Learning, 2017.

・ Microeconomics, Daron Acemoglu, David Laibson, John List, 2017.

また、英語論文はハーバードビジネスレビュー（Harvard Business Review）に掲載されている 2010 年以降の経済学者による論文をこちらで選択します。3 回～4 回で 1 本読み進めることを想定しています。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業での報告・質疑とディスカッションへの主体的な関わり 50 %、

中間・期末試験 40 %

宿題 10 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は、経済学入門と関連しています。

【実務経験のある教員による授業】

経営コンサルティング会社において勤務した経験があります。実際に見聞きした企業の事例なども適宜紹介します。

【Outline and objectives】

In this course, students will challenge to learn introductory microeconomics with textbooks written in English. After learning the basic economics concepts like supply and demand and an equilibrium in a market, students will learn a framework for thinking about behavior of consumers and producers and for analyzing decisions of consumers and producers.

In the meantime, students will read through papers written by economists on Harvard Business Review. These papers use micro economic concepts to analyze specific situations in the markets.

By the end of the course, students will be able to understand introductory micro economic theory and use the frameworks to think about behavior of firms and individuals in the real world economy.

MAN100FA-A5576

入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN100FA-A5577

入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA-A4573

入門外国語経営学 I（2018 年度以前入学者）

1～4 年次／2 単位[春学期授業]

MAN100FA-A5583

入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA-A4567

入門外国語経営学 I（2018 年度以前入学者）

1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA-A4566

入門外国語経営学 I（2018 年度以前入学者）

1～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

岡本 慶子

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

予備情報をどのくらい持っているかによって、英語の理解度が変わってきます。日本語で予備知識が足りない場合は、それを学んだ後、英語で課題文を読み学びます。この授業では、リーディングに加えて、リスニング、ライティングにも取り組み、自分に合った英語学習スタイルを見つけることも目的とします。授業で扱う題材はアメリカの学生が使っているマーケティングの教科書、ケーススタディや、企業のウェブサイト、雑誌記事、映画、ビデオなどから選びます。

【到達目標】

日本語と同じように英語でも情報を集めることができれば、集められる情報は倍以上になります。この授業では、英語で学び、英語に慣れ、英語で情報を集められるようになることを目指します。英語に対する抵抗感をなくし、「教科書だから読む」「課題だから書く」のではなく、「自分に必要かどうか確認するために」、「必要であれば利用するために」英語を活用できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

課題文と宿題を事前に授業支援システムで配布するので、予習して授業に臨む。授業：リーディング、リスニング、ライティング：個人ワーク、グループワーク、および教員によるフィードバックまたはサポート

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course overview
	Video Watching I	Video Watching I
2	Marketing Success I	“The Weather Channel Expands Its Social Reach”
3	The Art and Science of Satisfying Customers	“Vineyard Vines Markets the Good Life”
4	Career Readiness	“Tips for Applying for Jobs Online”
5	Market Segmentation, Targeting, and Positioning	“PepsiCo Brands Target Different Market”
6	Review	Review
	Script Writing I	“Let the Magic Begin!”
7	Quiz（小テスト）	Quiz
	Script Writing I (cont'd)	Script Writing
8	Marketing Success II	“Square Captures Mobile Payment”
9	Global Marketing	“Walmart Extends Its Global Reach”
10	Marketing Success III	“Febreze: From Revolutionary Failure to Best-Selling Success”
11	Solving an Ethical Controversy	“Banning Sugary Drinks”
12	“Briefly Speaking”	Briefly Speaking
	Cultural Appropriation	Kimono Wednesdays
	Script Writing II	“Art Festival”
13	Quiz（小テスト）	Quiz
	Video Watching II	Video Watching
14	Review	Review
	Video Watching II (cont'd)	Video Watching

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題の予習：単語帳の作成、課題文の理解できないところは事前に授業支援システムで提出し授業に持参する
宿題：授業支援システムで提出。宿題の理解できないところは授業支援システムで提出し授業へ持参
復習：小テストに向けて復習

【テキスト（教科書）】

特にありません。毎回課題文献は授業支援システムで配布します。参照ウェブサイトも事前にお知らせします。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加、単語帳、宿題の提出 55 %
小テスト (quizzes) 45 %
評価については初回授業で詳細に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目

【学生が準備すべき機器他】

課題、宿題、資料配布等は授業支援システムを利用します。
二回目までにメールアドレスを登録してください。
辞書または電子辞書は毎回授業に持参してください。

【その他の重要事項】

Web 抽選（エントリー期間：4/4～4/6 15:00）を行います。
詳細は、経営学部 Web 掲示板に掲載されている案内を確認し、エントリーしてください。
初回授業に出席してください。
授業の内容は受講人数によって変更になる場合があります。

【関連科目】

なし

【実務経験のある教員による授業】

アメリカ留学中にボランティアや NPO での活動経験があり、国内外のファッション業界で勤務経験を持つ教員の授業です。
英語が上手でも言いたいことが相手に通じるとは限りません。理論的思考力と交渉力、それと伝える力があれば、仕事はできます。それをどうやって身につけるか。いろいろ実践してみる授業を行います。

【Outline and objectives】

This class is designed for Japanese students to learn English as a second language. Students will learn about marketing, middle school mathematics, and watch movies in English. Students will experience various ways to study English in class and hopefully will find their own studying method.

MAN100FA-A5579

入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA-A4569

入門外国語経営学 I（2018 年度以前入学者）

1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA-A4572

入門外国語経営学 I（2018 年度以前入学者）

1～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN100FA-A4571

入門外国語経営学 I（2018 年度以前入学者）

1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA-A4570

入門外国語経営学 I（2018 年度以前入学者）

1～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN100FA-A5582

入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN100FA-A5581

入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA-A5580

入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

岡本 利光

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、簡単な英語を使って学習者の実力に合わせて、無理なくステップアップできるように開発された英文リーダーのシリーズです。リーディング力をつけるためには繰り返したくさん読むこと、すなわち多読が最も効果的学習方法とされています。たとえば TOEIC テストの音声スピードはおおよそ 1 分間に 150 語とされています。多読では、できるだけ早く、訳さず英語のまま、なるべく辞書を使わずに読むことが大切です。これが本書を使って英語を学ぶ理由です。

【到達目標】

本書のレベルは、レベル 1～5 のうちのレベル 5 です。CD が付属している版もありますから、これを利用してテキストを見ずに内容が理解できるまで試してみよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

最初のうちは、CD を流し慣れるところから始めます。そのうち耳が慣れてくることでしょう。とにかく習うより慣れろです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1 回	テキストの内容について	本書は戦後日本の経済史の概略を簡単な英語で理解することにある。
2 回	戦後復興の日本経済の要約	戦後復興から経済成長までの要約。56 年年度経済白書。「もはや戦後ではない」
3 回	日本の高度成長	神武景気、後の戦後復興から高度成長期まで
4 回	神武・岩戸景気	高度経済成長と所得倍増計画
5 回	景気拡大と消費・投資	三種の神器、白黒テレビ、電気洗濯機、電気冷蔵庫
6 回	71 年のニクソン・ショック	金ドル兌換停止と
7 回	第一次石油危機	日本経済は安定成長期へ移った
8 回	プラザ合意（1985）	円高の進行
9 回	平成バブル崩壊	失われた 10 年
10 回	不良債権	金融システムの破綻
11 回	直接金融・間接金融	メインバンクシステムの崩壊
12 回	日本的経営の三種の神器	終身雇用制度・年功賃金制度・企業組合
13 回	日本経済の構造変化	メインバンクシステムと経営システム
14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予定の範囲の予習・復習を確認することがあるので、その準備のための学習。全体において、適時、日本語訳の小テストを実施するので、その準備学習。

【テキスト（教科書）】

小林佳代（Kayo Kobayashi） The Japanese Economy（日本の経済）

ISBN978-4-89684-1473 ￥740（定価（本体 700 円＋税）IBC パブリッシング

【参考書】

講義中に指摘する。

【成績評価の方法と基準】

授業時間外の学習の項に述べた通り、確認テストを実施します。最終日の本試験の結果が 50 %、授業中の小テスト 50 %、その他、準備にかけた努力も加味します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目のため、授業改善アンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【関連科目】

入門科目全般とします。

【Outline and objectives】

This course is a series of English leaders developed to facilitate step-up according to the ability of learners with simple English. In order to put on reading power, reading many times, that is, extensive reading is regarded as the most effective learning method. For example, the TOEIC test speech speed is about 150 words per minute. In extensive reading, it is important to read as much as possible, without translating, leaving English, preferably without using a dictionary. This is the reason to learn English using this book.

MAN100FA-A5569

入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

MAN100FA-A5572

入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

MAN100FA-A5571

入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

MAN100FA-A4562

入門外国語経営学 I（2018 年度以前入学者）

MAN100FA-A4561

入門外国語経営学 I（2018 年度以前入学者）

MAN100FA-A4560

入門外国語経営学 I（2018 年度以前入学者）

MAN100FA-A4559

入門外国語経営学 I（2018 年度以前入学者）

MAN100FA-A5570

入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

佐々木 博之

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

米国を中心に海外で利用されている戦略的経営論の教科書を用いて、戦略的経営論における基本的な概念やフレームワークを学習します。戦略的経営論（いわゆる経営戦略論）では、企業が持続的な競争優位を築き、長期にわたって高い業績を挙げるため、企業をどのように戦略的にマネジメントするかを議論します。本授業の目的は、受講者が経営戦略の策定と実施における国際的な共通言語を身に付け、グローバルなビジネス環境で活躍する基礎体力を養うことです。使用する教科書は非英語圏からの学生の利用も想定しているため、英文自体は平易で説明も充実しています。他方、抽象的な概念や身近でない企業事例なども多く登場するため、受講者は多くの時間をかけて忍耐強く大量の英文を読み解く必要があります。従い、経営戦略を英語で学ぶ、意欲的な受講者を歓迎します。

【到達目標】

1. 戦略経営論において鍵となる概念について腹落ちし、他者に自分の言葉で説明できること。
2. これらの概念間の関係性（因果関係や対称性など）について腹落ちし、他者に自分の言葉で説明できること。
3. 戦略経営論で用いられるフレームワークについて腹落ちし、現実の企業経営の解釈に応用できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業では特に、初学者にとって理解が難しいであろう鍵概念やフレームワークの解説に重点を置きます。受講者は各回が対象とする範囲を事前に読んで上で授業へ参加し、授業では講師がレジュメに基づいて解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の目的と進め方について学習する。
2	戦略と戦略経営プロセス	戦略という概念および戦略経営プロセスについて学習する。 Chapter 1 What Is Strategy and the Strategic Management Process? 企業の外部環境の評価方法を学習する。 Chapter 2 Evaluating a Firm's External Environment 企業の内部能力の評価方法を学習する。 Chapter 3 Evaluating a Firm's Internal Capabilities
3	企業の外部環境	コスト・リーダーシップ戦略について学習する。 Chapter 4 Cost Leadership
4	企業の内部能力	製品差別化戦略について学習する。 Chapter 5 Product Differentiation
5	コスト・リーダーシップ	第 2 回から第 6 回までの学習内容について確認テストを行う。
6	製品差別化	
7	中間テスト	

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

8	垂直統合	垂直統合の戦略について学習する。 Chapter 6 Vertical Integration
9	多角化戦略	多角化戦略について学習する。 Chapter 7 Corporate Diversification
10	多角化戦略の組織体制	多角化戦略の組織体制について学習する。 Chapter 8 Organizing to Implement Corporate Diversification
11	戦略的提携	戦略的提携について学習する。 Chapter 9 Strategic Alliances
12	合併と買収の戦略	合併と買収の戦略について学習する。 Chapter 10 Mergers and Acquisitions
13	国際戦略	国際戦略について学習する。 Chapter 11 International Strategies
14	期末テスト	第 8 回から第 13 回までの学習内容について確認テストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

和文で書かれたテキストとレジュメで同一の内容を学ぶ場合に比べて、内容の理解や定着により多くの時間がかかります。各回の準備学習として、辞書等を駆使しながらテキストの該当範囲を読む必要があります。個々人の英語力にもよりますが、その準備学習に各回 150 分程度かかる想定されます。また、各回の授業後は、学習した内容を定着させるためにレジュメとテキストを併用しながら復習を行う必要があります。

【テキスト（教科書）】

Barney, J. B., & Hesterly, W. S. Strategic management and competitive advantage concepts and cases. Upper Saddle River, NJ: Pearson Education.（使用するエディションおよび入手方法は初回の授業で説明します。）

【参考書】

特になし。レジュメは Web または授業内で配布する。

【成績評価の方法と基準】

中間テストおよび期末テストで学習内容の理解を評価します。専門的な内容を英語で理解する力が高い意欲を持ち、多くの学習時間をかけることが重要です。そのため、受講者の参加姿勢を平常点として成績評価に加味します。従い、授業への参加度が乏しい場合は成績評価が低くなる、あるいは単位の取得が困難になります。履修登録においてはこの点に留意してください。

1. 平常点（小テストや小レポートなどを含む）： 30 %
2. 中間テスト： 35 %
3. 期末テスト： 35 %

ただし、受講者の人数によって、成績評価の方法と基準を変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書や PC、タブレット、スマートフォンなど、英単語や英語表現を即座に調べられる機器を用意してください。

【その他の重要事項】

担当講師は非常勤のため、質問等は授業の前後の時間またはメールを利用してください。

【関連科目】

特になし。

【Outline and objectives】

This course focuses on basic concepts and frameworks in Strategic Management by the textbook used in the U.S. Strategic management is the management of firms to sustain their competitive advantage and to achieve their goals. The course is designed to help non-native English students to develop their capabilities to formulate and implement strategies in the global business environment.

MAN100FA-A5575
入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA-A4565
入門外国語経営学 I（2018 年度以前入学者）

1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

高橋 理香

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、経済・経営に関する時事的なトピックを中心にとりあげて英語のリーディングやリスニングのスキルアップを目指すとともに、トピックの背景にある経済学・経営学の概念・知識・考え方を学びます。

【到達目標】

英語「を」学ぶことから、英語「で」学ぶことが出来るようになるまでのきっかけをつかむことを到達目標とします。この授業では、英語で読む・聞くことを中心に学びます。読むことについては、時事的なトピックを辞書無しで読み、逐次訳することなく英語のまま概要をつかめることを目標とします。聞くことについては、英語に慣れて聞き取りのポイントをつかめるようになることを目標とします。また、英語のスキルだけでなく、現実の経済・経営に対する理解と関心を深めることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・リーディング：隔週で英字新聞のレポートを提出してもらいます。これは、各自が記事を選び、その記事を読んで理解した上で、記事に関連する内容の調査と分析を行うものです。授業時には、ランダムであてて提出されたレポートの内容を発表してもらいます。レポートは日本語または英語で作成してください。また、隔週で教員の選んだ英字新聞の記事や英語の文献をその場で読んで理解し、履修者全員で記事に関するディスカッションを行います。
・リスニング：隔週で、リスニング教材を使って、英語のニュースの聞き取り訓練を行います。聞き取り後に関連するクイズを行うこともあります。場合によっては、トピックに関する議論を行うこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業の概要を説明し、今後のスケジュールを決めます。
2	Listening and Speed Reading 1	リスニング：スピードを落としてニュースの聞き取りを行います。 リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。長い記事を短い時間で読む方法について議論します。
3	Careful Reading and Presentation 1	リーディング：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。記事の選び方について議論します。
4	Listening and Speed Reading 2	リスニング：キーワードの聞き取りを訓練します。 リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。辞書無しで読んで大意をつかむ方法を学びます。
5	Careful Reading and Presentation 2	リーディング：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。レポートの書き方について学びます。
6	Listening and Speed Reading 3	リスニング：聞き取りにくい音を見つけ、音読して確認します。 リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。文章の全体的な構成について学びます。
7	Careful Reading and Presentation 3	リーディング：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。発表の仕方について学びます。
8	Listening and Speed Reading 4	リスニング：少しだけスピードアップしてニュースの聞き取り訓練を行います。 リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。パラグラフの構成について学びます。
9	Careful Reading and Presentation 4	リーディング：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。前回の授業で学んだ文章構成やパラグラフの構成について、自分で選んだ記事において確認します。

10	Listening and Speed Reading 5	リスニング：ニュースの聞き取りをした後に仲間と何を理解したか確認します。 リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。キーワードの見つけ方を学びます。
11	Careful Reading and Presentation 5	リーディング：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。内容に関する議論を履修者全員で行います。
12	Listening and Speed Reading 6	リスニング：ニュースの聞き取りをした後に内容に関するディスカッションを履修者全員で行います。 リーディング：教員の選んだ英字新聞記事の読解を行います。これまで学んだスキルを使って読むだけでなく、内容に関する議論を行います。
13	Careful Reading and Presentation 6	リーディング：履修者の作成した英字新聞のレポートを発表してもらいます。内容に関する議論を履修者全員で行い、ディスカッショントピックの設定について学びます。
14	Conclusion	授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は隔週（偶数回）で提出する英字新聞のレポート作成です。復習はリスニングや教員の用意したリーディング教材に注力してください。

【テキスト（教科書）】

とくに教科書は使用しません。適宜プリントを配布します。

【参考書】

参考文献については、初回の授業時に説明をします。授業で用いる英字新聞についても、初回の授業時に説明します。また、毎回、辞書を持参してください（電子辞書可。英英辞典や類義語辞典がある方が望ましい）。

【成績評価の方法と基準】

英字新聞のレポートと発表： 40 %
授業への積極的な参加： 30 %
授業時のグループワーク： 30 %
授業に対する姿勢や上記の項目を総合的に判断して評価します。
欠席は成績評価を大きく下げます。

【学生の意見等からの気づき】

履修者の皆さんの理解度や希望をなるべく反映して授業を進めたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

授業時に持参する必要は必ずしもありませんが、履修者はできるだけ自分のパソコンを用意してください。本授業では、授業支援システムを使います。また、ワード・エクセル・パワーポイントや、インターネットを使ったデータ収集を行うことがあります。これらの使い方は授業で説明します。

【その他の重要事項】

初回の授業時に、授業の概要や 2 回目以降のスケジュールと課題についてお話しますので、興味のある方は、初回の授業に必ず出席して下さい。この授業に関連する科目は、英語の授業全般、経営学部の専門科目全般です。また、受講者多数の場合は、Web 抽選（エントリー期間： 4/4～4/6 15:00）を行います。詳細は、経営学部 Web 掲示板に掲載されている案内を確認し、エントリーしてください。

【Outline and objectives】

This class aims to brush up reading and listening skills in English and understand the concepts, knowledge and thinking of economics and business administration, focusing on world news related to economics and business.

MAN100FA-A5567

入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA-A4557

入門外国語経営学 I（2018 年度以前入学者）

1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA-A4554

入門外国語経営学 I（2018 年度以前入学者）

1～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN100FA-A4553

入門外国語経営学 I（2018 年度以前入学者）

1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA-A5564

入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN100FA-A5563

入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

永山 晋

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では英語動画教材を用いて経営学の基本トピック、とりわけリーダーシップとチームについて学ぶ。毎回の授業では、動画を視聴しながら、トピックの全体の概要と、トピックを構成するサブトピックの内容をつかんでいき、学習トピックについて「結局こういうこと」と説明できることを目指す。この方法を通じて、経営学の内容だけでなく、英語を聞きながら論点を構造化する方法を学ぶとともに、経営学の専門用語も学んでいく。

【到達目標】

- (1) 英語で論点を構造化することができる。
- (2) 学習した内容を「自分の言葉」で分かりやすく他人に説明できる
- (3) 経営学における重要概念の英単語を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・毎回の授業は次のように行う。まず、10 分程度の動画を視聴し、トピックの全体像を把握する。その後、サブトピックごとに動画を止めながら、詳細内容を理解していく。毎回の授業では2つのトピック（2つの動画）を学習する。
 ・一定量のトピックを学習後、小テストを行い、理解を確認する（回答は英語）。このセットを2回行う（小テストを計2回行う）。
 ・授業の後半2回を使ってプレゼンテーションのタスクを行う。準備として各自が自分の学習したいトピックをオンライン教材から探索する。その教材についてのレポートを英語で作成するとともに、授業内でプレゼンテーションを行う（英語）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】**春学期および秋学期**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の概要、進め方の説明
2	Leadership (1)	Leadership mindset
3	Leadership (2)	Leadership style, Motivation
4	Leadership (3)	Happiness, Decision making
5	Leadership (4)	Emotional intelligence, Cultural intelligence
6	Leadership (5), Quiz (1)	Organizational intelligence, Quiz (1)
7	Team (1)	Goal setting, Team composition
8	Team (2)	Team design, Evidenced based management
9	Team (3)	Conflict management, Team building
10	Team (4)	Creativity, Group creativity
11	Team (5), Quiz (2)	Creative process, Quiz (2)
12	Preparation	Preparation for the final presentation
13	Presentation	Presentation in English
14	総括	本授業で学習したトピックを総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・小テストに向けて学習した内容を復習しておく。
- ・発表、最終レポートを作成する。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

・ Daft, R., Murphy, J., & Willmott, H. (2014). Organization Theory and Design: An International Perspective (2th ed.), Cengage Learning

・ Hitt, M. A., Black, J. S., & Porter, L. W. (2012). Management (3rd ed.), Prentice Hall.

・ Thompson, L. (2014). Making the Team, Global Edition, Pearson Education.

・ Thompson, L. Organizational Leadership Specialization in Coursera (<https://www.coursera.org/specializations/organizational-leadership>)

【成績評価の方法と基準】

- (1) Class contribution (20%)
- (2) Quiz (30%×2=60%)
- (3) Final report (20%)

【学生の意見等からの気づき】

前回は一回の授業で3つのトピックを学習したが、時間が限られているため、浅い理解になりがちだった。そこで今回からは一回の授業で学習するトピックを3つから2つに変更する。

【学生が準備すべき機器他】

英単語を即座に調べられるデバイス（スマホ、ノート PC、タブレットなど）。

【その他の重要事項】

Web 抽選（エントリー期間：4/4～4/6 15:00）を行う。

詳細は、経営学部 Web 掲示板に掲載されている案内を確認し、エントリーすること。

【関連科目】

経営学総論Ⅰ／Ⅱ、経営管理論Ⅰ／Ⅱ、経営戦略論Ⅰ／Ⅱ

【Outline and objectives】

This course offers basic management theories/frameworks regarding leadership and teams. Students will learn each topic mainly via watching videos and reading texts. In each class, students are required to explain the content of the focal topic in your own words. During class, students will learn not only the content of each topic but also how to grasp the structure of the focal topic.

MAN100FA-A5565

入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA-A5566

入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN100FA-A4556

入門外国語経営学 I（2018 年度以前入学者）

1～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN100FA-A4555

入門外国語経営学 I（2018 年度以前入学者）

1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

檜野 智子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使用しミクロ経済学の基礎を学びます。担当箇所のプレゼンテーションを行うことにより、より深く内容を理解することができ、さらにプレゼンテーションの技術も習得できます。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の基礎を身に付ける。
- ・テーマを与えられたときに、そのテーマの背景や問題点を要約でき、その内容を他者に伝えられる。
- ・求められたときに、いつでも自分の考えを述べることができる。
- ・英語で書かれた「初級レベルの経済学の教科書」を読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・教科書の担当箇所についてパワーポイントを使用したプレゼンテーションをしてもらいます。
- ・プレゼンテーションの内容についてディスカッションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】**春学期および秋学期**

回	テーマ	内容
1	個人の最適化戦略	ディシジョンツリー
2	個人の最適化戦略	現在価値
3	個人の最適化戦略	リスク
4	個人の最適化戦略	交換の利益
5	相互関係における最適化戦略	ゲーム理論
6	相互関係における最適化戦略	パレート効率性
7	相互関係における最適化戦略	囚人のジレンマ
8	相互関係における最適化戦略	オークション
9	相互関係における最適化戦略	競争市場
10	市場における最適化戦略	需要と供給
11	市場における最適化戦略	税金
12	市場における最適化戦略	限界効用
13	市場における最適化戦略	弾力性
14	市場における最適化戦略	競争のルール

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の内容を理解した上で要約し、パワーポイントのスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をする。

【テキスト（教科書）】

『The Cartoon Introduction to Economics: Volume One: Microeconomics』
著者:Grady Klein,Yoram Bauman 出版社:Hill & Wang Pub 出版年:2010
*電子書籍版有 (Amazon.com 参照)

【参考書】

『この世で一番おもしろいミクロ経済学』ヨラム・バウマン、グレディ・クライン、ダイヤモンド社、2011 年
『マンキュー経済学 I ミクロ編【第3版】』N・グレゴリー・マンキュー、東洋経済新報社、2013 年

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション及び自発的な発言 100 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

- ・この授業では、パワーポイントを使用します。講義開始までにパワーポイントを使用できる環境を整え、使えるようにしておいてください。
- ・この授業では「授業支援システム」を使用します。授業開始までに、本科目の自己登録及びメールアドレスの登録を済ませておいてください。

【その他の重要事項】

- ・履修登録の際に、Web 抽選 (エントリー期間:4 月 4 日から 4 月 6 日 15 時まで)を行います。経営学部 Web 掲示板の詳細を確認した上でエントリーしてください。
- ・「授業支援システム」で連絡した内容は、全ての受講者に伝わったものとして取り扱います。

【関連科目】

経済学入門

【Outline and objectives】

This lecture deals with the basics of microeconomics with a textbook written in English. Through presentations, you can learn deeply about the content and develop your presentation skills.

MAN100FA-A5568

入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

MAN100FA-A4558

入門外国語経営学 I（2018 年度以前入学者）

平田 英明

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、経営/経済の英語読解力や英語での表現力を養いたい皆さん、留学に参加したいと考えている皆さん、英語圏への留学などに興味のある皆さん、を念頭におき、TOEIC 等の問題などを活用して授業を進めたいと思います。

英語そのものを学ぶことよりも、英語による経営学/経済学に関して慣れた基礎理解していくことを第一の目的とします。

第二の目的は、難しい言い回しなどをせずに、シンプルにいたいことを伝える能力を向上させることです。そのために、ビジネス・ライティングの基礎とビジネスに関連する用語について、毎週、学んでいきます。

第三の目的は、耳を英語に慣らすことです。中身も面白いリスニング教材を使って学びます。

【到達目標】

一コマの授業でやれることには限界はありますが、読む、書く、聞くの3つをバランスよく学ぶことが目標です。

より具体的に言えば、読むという点については、逐語訳の世界から離れ、英語を英語として理解していけるようになること、ビジネス関係の英語に慣れるということが目標です。

書くという点については、ブレインに文章を書けるようにすることが目標です。特に、経営学部生の関心の高いビジネス・ライティングについて時間を取ります。

聞くという点については、慣れるのみだと思いますので、聞く癖を付けて、ポイントを聞き逃さない耳を作るための導入を行うことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・授業は原則として日本語で行います。
- ・授業の告知や資料配付は、全て授業支援システムを使って行います。
- ・内容の詳細は履修者数と履修者の意向を踏まえて柔軟に対応したいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1	概要説明	授業の進め方について説明するとともに、実例を使って、どんな内容かを紹介します
2	ビジネス単語 1 リーディング 1	前半 30 分：単語表現のクラス内クイズとその解説を行います（第一回） 後半 60 分：リーディング教材について、教員が補足説明をしつつ、クラスでディスカッションを行います（第一回）
3	リスニング 1 リーディング 2	前半 30 分：リスニングのクラス内クイズとその解説を行います（第一回） 後半 60 分：リーディング教材について、教員が補足説明をしつつ、クラスでディスカッションを行います（第二回）
4	ビジネス単語 2 リーディング 3	前半 30 分：単語表現のクラス内クイズとその解説を行います（第二回） 後半 60 分：リーディング教材について、教員が補足説明をしつつ、クラスでディスカッションを行います（第三回）
5	リスニング 2 リーディング 4	前半 30 分：リスニングのクラス内クイズとその解説を行います（第二回） 後半 60 分：リーディング教材について、教員が補足説明をしつつ、クラスでディスカッションを行います（第四回）
6	ビジネス単語 3 リーディング 5	前半 30 分：単語表現のクラス内クイズとその解説を行います（第三回） 後半 60 分：リーディング教材について、教員が補足説明をしつつ、クラスでディスカッションを行います（第五回）

グローバル・ビジネス/GBP 科目 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

7	リスニング 3 リーディング 6	前半 30 分：リスニングのクラス内クイズとその解説を行います（第三回） 後半 60 分：リーディング教材について、教員が補足説明をしつつ、クラスでディスカッションを行います（第六回）
8	ビジネス単語 4 リーディング 7	前半 30 分：単語表現のクラス内クイズとその解説を行います（第四回） 後半 60 分：リーディング教材について、教員が補足説明をしつつ、クラスでディスカッションを行います（第七回）
9	リスニング 4 リーディング 8	前半 30 分：リスニングのクラス内クイズとその解説を行います（第四回） 後半 60 分：リーディング教材について、教員が補足説明をしつつ、クラスでディスカッションを行います（第八回）
10	ビジネス単語 5 リーディング 9	前半 30 分：単語表現のクラス内クイズとその解説を行います（第五回） 後半 60 分：リーディング教材について、教員が補足説明をしつつ、クラスでディスカッションを行います（第九回）
11	リスニング 5 リーディング 10	前半 30 分：リスニングのクラス内クイズとその解説を行います（第五回） 後半 60 分：リーディング教材について、教員が補足説明をしつつ、クラスでディスカッションを行います（第十回）
12	ビジネス単語 6 リーディング 11	前半 30 分：単語表現のクラス内クイズとその解説を行います（第六回） 後半 60 分：リーディング教材について、教員が補足説明をしつつ、クラスでディスカッションを行います（第十一回）
13	リスニング 6 リーディング 12	前半 30 分：リスニングのクラス内クイズとその解説を行います（第六回） 後半 60 分：リーディング教材について、教員が補足説明をしつつ、クラスでディスカッションを行います（第十二回）
14	期末試験	授業内で期末試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リーディング教材は授業前に解いてくるのが前提です（オンラインで掲載します）。
ライティング、ビジネス単語、リスニングは予習は不要です（が復習は必須です）。

【テキスト（教科書）】

教材は PDF 形式で授業支援システムに掲載するか、印刷したものを授業内で配布します。なくさないように、きちんとファイリングして下さい。

【参考書】

参考書というわけではありませんが、英英辞典は必ず準備してください。たとえば、今から揃えるならば、**Oxford Advanced Learner's Dictionary** がよいでしょう。また、基本的な文法（大学受験レベル）は備わっていることを前提として授業を行います。

【成績評価の方法と基準】

1. 単位の評価は 2つの方法で行います（期末試験時に学生が選択）。詳細は授業にて説明します。

【1】期末試験 100% + X%（授業への参加（発言、質問等））の 2要素で成績評価を行います。

【2】問題数を絞った期末試験のみで成績評価を行います。

2. 出席は取りません。

3. 私語と睡眠学習は減点対象とし、場合によっては授業への参加をご辞退いただく可能性があります。

4. 初回の授業で履修者選考を行う場合、選考されていないにも関わらず履修登録をしても、成績は付きません（後述参照）。

【学生の意見等からの気づき】

1 限の開講が不評でしたので、3 限の開講にしました。

【その他の重要事項】

このクラスは秋学期開講だが、履修希望者多数の場合は、4 月に Web 抽選（エントリー期間：4/4～4/6 15:00）を行う。詳細は、経営学部 Web 掲示板に掲載されている案内を確認し、エントリーすること。

関連する科目としては、ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ、語学（英語）のクラスが挙げられますが、特に意識する必要はありません。

このクラスは1年生向けを想定していますが、2年生以上の履修も歓迎します。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline and objectives】

This class is designed for the 1st year students, but 2nd and higher year students are also welcome.

By using TOEIC and equivalent materials, we will learn business/economics keywords, listening to business/economics topics, and reading articles on business/economics.

MAN100FA-A5578

入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

MAN100FA-A4568

入門外国語経営学 I（2018 年度以前入学者）

福島 英史

グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、英字新聞・雑誌・ニュースなどから経営・経済関連の題材を取り上げ、英文での経営・経済関連の用語や考え方に関する基本的な理解を深めることを目的とします。国内外の記事・ニュースから、企業、産業、経済にまつわる題材をピックアップし、現実と英語文献の読み方を習得することを目指します。受講者は忍耐強く題材を読み解き、理解を自分のものにしていきます。このため、経営・経済のトピックスを英語で学ぶ、意欲的な受講者を歓迎します。

【到達目標】

英語で書かれた経営・経済のトピックスを読んで理解できるようになる。経営経済用語の基礎。英語表現を身につけられる。英文やグローバルな英語ニュースに触れる習慣ができる。求められたときに自分の考えを述べディスカッションに積極的に参加できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

企業や産業、経済に関する英文記事を教材として配布します。配布プリントを使用し、日本語訳出を行います。聞き取り訓練と関連クイズを行うことがあります。授業参加者は、ランダムに指名されて訳出等に答えることを求められます。講師は、必要に応じて用語や語彙、概念に関する補足説明を行います。しばしば関連するテーマでディスカッションを行います。授業参加者による積極的な発言・議論が促されます。授業は基本的に日本語で行われます。受講者の数や理解水準によって、取り扱う文献ベースなどを調整します。以下の授業計画に参考として、文献に登場しうるテーマを記載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の目的と進め方について学習する。授業計画の説明を行う。
2	Job Market in Japan	最近の日本の雇用状況と企業の求人対策について、有効求人倍率の推移、少子高齢化に伴う新卒者の企業選択動向など。
3	Boeing edges Airbus	巨大航空機メーカー二社による、航空運輸市場の変化への適合行動の違いと帰結。
4	How Fujifilm survived	写真フィルムを主力事業とする同社がデジタル化に対応すべくとった多角化戦略とその経営資源。
5	The Huawei challenge	中国の巨大 IT 企業 Huawei が米日をお手本にこれまで歩んできた軌跡と、現在直面している経営課題
6	Apple's new plan	パソコンから音楽、携帯電話プラットフォームへの事業モデルの転換とサービスによる収益の拡大。
7	Recent economic growth in Japan	戦後最長とも言われる近年の継続的な景気拡張について、企業の収益及び投資と、賃金や消費の観点から論説。
8	中間テスト	第 2 回から第 7 回までの学習内容について確認（授業内試験）を行います。これまで学んだ、語彙の意味や英訳と、英文の正確な和訳を問います。
9	BREXIT and foreign direct investment	英国の EU 離脱が、海外企業による現地生産など同国への直接投資に、どのような影響を及ぼしつつあるか、通商政策と国際経営の関係。
10	Nintendo: Changing mobile market	グローバルにゲームビジネスを展開してきた同社が、モバイルゲーム等の市場変化へどのように適応しようとしているか。
11	Samsung Electronics	半導体や携帯電話を中心とする同社の成長戦略と市場の成熟化、中国企業の台頭。
12	Cola Wars	炭酸飲料市場の成熟化と、コカコーラとペプシの競争戦略。
13	TOTO heading for global markets	温水洗浄便座で国内市場をリードする同社が、海外市場へどのように進出しようとしてきたのか。

14 期末テスト

第 9 回から第 13 回までの学習内容について確認（授業内試験）を行います。これまで学んだ、語彙の意味や英訳と、英文の正確な和訳を問います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業内容を復習して語彙や概念の意味をおさえ、経営・経済に関わる類似的英文記事が理解できるよう努めてください。学習した内容を定着させるためです。
・日頃、新聞・雑誌・TV などの経営・経済関連の記事・ニュースに目を配ったり、耳を傾けることで、経営・経済関連の問題意識を身に付けて下さい。

【テキスト（教科書）】

経営・経済を扱う新聞雑誌等の英語文献資料を適宜配布します。

【参考書】

必要に応じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業での発言・参加度 30 %、中間試験・期末試験各 35 %をもって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書、ノート PC などを持参し、授業中に活用して下さい。

【その他の重要事項】

本年度開講の入門外国語経営学と入門演習は、Web 抽選（エントリー期間：4/4～4/6 15:00）を行うため、その詳細について経営学部 Web 掲示板のご案内を確認してくださいとのことです。

【関連科目】

経営学総論
外国語経営学
経営学部専門科目

【Outline and objectives】

This class aims to develop basic understanding of english terms and notion related to business administration and economy. We will focus on world news articles about business and economy, read, summarize, somtimes listen, and discuss those topics.

MAN100FA-A5561

入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA-A5562

入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

グローバル・ビジネス/GBP 科目1～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN100FA-A4552

入門外国語経営学 I（2018 年度以前入学者）

1～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

MAN100FA-A4551

入門外国語経営学 I（2018 年度以前入学者）

1～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

福多 裕志

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

[Challenges of Global Enterprises]

当授業では、いくつかの世界的企業を取り上げ、海外メディアの記事を通してビジネスへの取り組み方や動向を学習する。

【到達目標】

現在、どのような領域（職場、職種、地域等）で活躍するにせよ、英語の総合的運用力を求められることが多い。本授業が、受講者の英語による運用能力を向上させ、結果として長、短期の留学や各種検定試験の成功へと結びつくこと（英検準1 級程度）を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指定教科書および配布プリントを使用し、日本語訳出、英語による発表・討論等を通し授業を進める。教科書の1 章分をおよそ3 回の授業で終了する。授業では日本語へ訳出する場合を除き、英語、日本語両言語を用いて行う予定である。We will try to use English during class except for the translation time. Students will be expected not only to acquire business vocabulary and expressions, but to discuss business topics from a variety of kinds of English media as well. Special emphasis will be given to communicative English skills necessary for active discussion.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1	Class Orientation	年間授業計画の説明および英文記事の訳出を行う（日・英両言語）。
2	Zara in Spain(1)	Zara - Business vocabulary and reading
3	Zara in Spain(2)	Zara - Reading comprehension
4	Zara in Spain(3)	Zara - Discussion
5	Presentation on Job Trends in the world(1)	Participants are expected to make an effective presentation.
6	Airbnb in the USA(1)	Airbnb - Business vocabulary and reading
7	Airbnb in the USA(2)	Airbnb in the USA -Reading comprehension
8	Airbnb in the USA(3)	Airbnb - Discussion
9	Presentation on Job Trends in the world(2)	Participants are expected to make an effective presentation.
10	Facebook in the USA(1)	Facebook - Business vocabulary and reading
11	Facebook in the USA(2)	Facebook - Reading comprehension
12	Facebook in the USA(3)	Facebook- Discussion
13	Presentation on Job Trends in the world(3)	Participants are expected to make an effective presentation.
14	In-class term exam	60-minute written test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各英文記事の日本語訳出、グループディスカッションのための準備を毎回確実に行うこと。授業支援システムに、随時、必要情報を掲載するので参照すること。Students are expected to make elaborate preparations for vocabulary, listening practice and discussion for each class at home to enhance their participation in classroom discussions.

【テキスト（教科書）】

Kayoko Shiomi, Kazumi Tsutada and Angus McGregor. *Challenges of Global Enterprises*. Kinseido(金星堂). ¥2,100+tax

【参考書】

ビジネスおよび経済を扱う新聞、雑誌等の英語参考文獻は数多い。必要に応じて授業支援システムに文獻リストを掲載する。Pay attention, on a frequent basis, to the Course Management System(CMS) that includes a reference list.

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、学期末筆記試験 70 %（原則的に最終授業）をもって評価する。Contributions to class activities(30%), in-class exam(70%)

【学生の意見等からの気づき】

The instructor encourages participants to express themselves clearly.

【学生が準備すべき機器他】

Feel free to use your PC in class.

【その他の重要事項】

授業支援システムを利用して授業関連情報を提供するので、同システムを積極的に活用すること。Class-related information is provided on the CMS. Feel relaxed, have fun and do your best while using English.

受講者多数の場合は、Web 抽選（エントリー期間：4/4～4/6 15:00）を行う。詳細は、経営学部 Web 掲示板に掲載されている案内を確認し、エントリーすること。

【関連科目】

経営学総論 I / II

【Outline and objectives】

Participants in this class will learn how to approach business and trends covering several global enterprises in articles of foreign media.

In this day and age having an adequate command of English would be essential for anyone. The goal of the course is to develop students' abilities to interact more successfully in daily business scenes and pass various qualification exams.

